

# 経済学 1

Economics 1

社会経済学入門

森本 壮亮 (MORIMOTO SOUSUKE)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX001  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX1110  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： 2023 年度以前入学 2 年次以上経済学科クラス 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

学生が社会経済学の基礎的な知識を習得することで学位授与方針の学修成果に掲げる「経済現象を歴史的・理論的に考察する」能力を身につけることができる。

Students acquire a fundamental knowledge of political economy to gain the ability to historically and theoretically examine the economic phenomena necessary to achieve the learning required for the degree.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、社会経済学の基礎を扱います。経済学には、いろいろな考え方があります。この講義は、マルクス経済学の立場から資本主義とは何かについて考察します。はじめに重商主義や古典派経済学などの社会経済学の歴史的発展について概観した後、商品あるいは貨幣とは何かといったことから解き明かし、次に労働力なぜ商品になるのか、資本とは何か、剰余価値はどのようにして生まれるかなど社会経済学の初歩的な理論について学びます。さらに、具体的なトピックを取り上げ、社会経済学によって現実の経済問題をどのようにみることができるかについて学びます。

This lecture covers the fundamentals of political economy. There are various theories about economics. In this lecture students consider what capitalism is from the perspective of Marxian economics. After an overview of the historical development of political economy, including mercantilism and classical economics, what a commodity or a currency is will be explained followed by a study of the elementary theories of political economy, such as why labor power becomes a commodity, what capital is, and how a surplus value is produced. Further, specific topics will be taken up to learn how actual economic problems can be viewed using political economy.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：社会経済学の源流①
- 3 回：社会経済学の源流②
- 4 回：社会経済学の基礎概念①
- 5 回：社会経済学の基礎概念②
- 6 回：社会経済学の基礎概念③
- 7 回：社会経済学の基礎概念④
- 8 回：社会経済学の基礎概念⑤
- 9 回：社会経済学と現代経済①
- 10 回：社会経済学と現代経済②
- 11 回：社会経済学と現代経済③
- 12 回：社会経済学と現代経済④
- 13 回：社会経済学と現代経済⑤
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献を参照して授業に臨んでください。また新聞をよく読み、現実の経済問題に対する関心をもつように心がけてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 課題、小テスト、リアクションペーパーなど複数回実施:20%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

森本壮亮ほか 『変容する日本経済：真に豊かな経済・社会への課題と展望』 鉾脈社 2022年  
9784860618179

佐々木隆治 『カール・マルクス』 筑摩書房 2016年 9784480068897

上記以外の文献については、授業時に指示します。

## 経済学 2

Economics 2

ミクロ経済学・マクロ経済学への入門コース

池田 毅 (IKEDA TAKESHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX002

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 対面

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2023 年度以前入学 2 年次以上経済学科クラス 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

この授業の目的は、ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な考え方に対する入門的な知識を提供することである。経済学の基本的な考え方を理解してもらうとともに、2年生で履修する初級ミクロ経済学・マクロ経済学への橋渡しとなることを目的としている。

The purpose of this course is to provide an introduction to the basic concepts of microeconomics and macroeconomics. The purpose of this course is to help students understand the basic concept of economics, and to serve as a bridge to basic microeconomics and macroeconomics that students take in their second year.

### 授業の内容 / Course Contents

この授業では、現実の日本経済の事例をできる限り用いながら、市場メカニズムなどのミクロ経済学と GDP の決定などのマクロ経済学の入門的な内容を扱う。それと同時に、財政、金融、雇用、など、さまざまな応用的なトピックスにも触れる。

In this class, microeconomics, such as market mechanisms, and macroeconomics, such as determination of GDP,

are dealt with using actual examples of the Japanese economy as much as possible. At the same time, we will touch on a variety of applied topics, including public finance, finance, employment.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：経済学とはなにか？
- 2 回：ミクロ経済学の基礎（1）  
市場における需要と供給
- 3 回：ミクロ経済学の基礎（2）  
需要と供給ならびに政府の政策
- 4 回：ミクロ経済学の基礎（3）  
消費者、生産者、市場の効率性
- 5 回：ミクロ経済学の基礎（4）  
税と効率、公平
- 6 回：ミクロ経済学の基礎（5）  
外部性
- 7 回：ミクロ経済学の基礎（6）  
相互依存と貿易からの利益
- 8 回：マクロ経済学の基礎（1）  
国民所得統計
- 9 回：マクロ経済学の基礎（2）  
GDP の決定
- 10 回：マクロ経済学の基礎（3）  
資産市場
- 11 回：マクロ経済学の基礎（4）  
ISLM モデル
- 12 回：マクロ経済学の基礎（5）  
ISLM モデル
- 13 回：マクロ経済学の基礎（6）  
失業とインフレーション
- 14 回：まとめと復習

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業に臨むに当たり、該当分野の予習復習を必ず行うこと

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパー・小テスト:20%

### テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

マンキュー 『入門経済学第3版』 東洋経済新報社 2019

吉川洋 『マクロ経済学第4版』 岩波書店 2017

# 経済学 1

Economics 1

社会経済学入門

柏崎 正憲 (KASHIWAZAKI MASANORI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX003  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX1110  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： 2023 年度以前入学 2 年次以上経済学科クラス 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

学生が社会経済学の基礎的な知識を習得することで学位授与方針の学修成果に掲げる「経済現象を歴史的・理論的に考察する」能力を身につけることができる。

Students acquire a fundamental knowledge of political economy to gain the ability to historically and theoretically examine the economic phenomena necessary to achieve the learning required for the degree.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、社会経済学の基礎を扱います。経済学には、いろいろな考え方があります。この講義は、マルクス経済学の立場から資本主義とは何かについて考察します。はじめに重商主義や古典派経済学などの社会経済学の歴史的発展について概観した後、商品あるいは貨幣とは何かといったことから解き明かし、次に労働力なぜ商品になるのか、資本とは何か、剰余価値はどのようにして生まれるかなど社会経済学の初歩的な理論について学びます。さらに、具体的なトピックを取り上げ、社会経済学によって現実の経済問題をどのようにみることができるかについて学びます。

This lecture covers the fundamentals of political economy. There are various theories about economics. In this lecture students consider what capitalism is from the perspective of Marxian economics. After an overview of the historical development of political economy, including mercantilism and classical economics, what a commodity or a currency is will be explained followed by a study of the elementary theories of political economy, such as why labor power becomes a commodity, what capital is, and how a surplus value is produced. Further, specific topics will be taken up to learn how actual economic problems can be viewed using political economy.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：社会経済学の源流①
- 3 回：社会経済学の源流②
- 4 回：社会経済学の基礎概念①
- 5 回：社会経済学の基礎概念②
- 6 回：社会経済学の基礎概念③
- 7 回：社会経済学の基礎概念④
- 8 回：社会経済学の基礎概念⑤
- 9 回：社会経済学と現代経済①
- 10 回：社会経済学と現代経済②
- 11 回：社会経済学と現代経済③
- 12 回：社会経済学と現代経済④
- 13 回：社会経済学と現代経済⑤
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献を参照して授業に臨んでください。また新聞をよく読み、現実の経済問題に対する関心をもつように心がけてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 課題、小テスト、リアクションペーパーなど複数回実施:20%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

森本壮亮ほか 『変容する日本経済：真に豊かな経済・社会への課題と展望』 鉾脈社 2022年  
9784860618179

佐々木隆治 『カール・マルクス』 筑摩書房 2016年 9784480068897

上記以外の文献については、授業時に指示します。

# 経済学 2

Economics 2

ミクロ経済学・マクロ経済学への入門コース

高橋 衛 (TAKAHASHI MAMORU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX004

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 対面

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2023 年度以前入学 2 年次以上経済学科クラス 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業の目的は、ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な考え方に対する入門的な知識を提供することである。経済学の基本的な考え方を理解してもらうとともに、2年生で履修する初級ミクロ経済学・マクロ経済学への橋渡しとなることを目的としている。

The purpose of this course is to provide an introduction to the basic concepts of microeconomics and macroeconomics. The purpose of this course is to help students understand the basic concept of economics, and to serve as a bridge to basic microeconomics and macroeconomics that students take in their second year.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では、現実の日本経済の事例をできる限り用いながら、市場メカニズムなどのミクロ経済学と GDP の決定などのマクロ経済学の入門的な内容を扱う。それと同時に、財政、金融、雇用、など、さまざまな応用的なトピックスにも触れる。

In this class, microeconomics, such as market mechanisms, and macroeconomics, such as determination of GDP,



are dealt with using actual examples of the Japanese economy as much as possible. At the same time, we will touch on a variety of applied topics, including public finance, finance, employment.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：経済学とはなにか？  
 2 回：ミクロ経済学の基礎（1）  
 市場における需要と供給  
 3 回：ミクロ経済学の基礎（2）  
 需要と供給ならびに政府の政策  
 4 回：ミクロ経済学の基礎（3）  
 消費者、生産者、市場の効率性  
 5 回：ミクロ経済学の基礎（4）  
 税と効率、公平  
 6 回：ミクロ経済学の基礎（5）  
 外部性  
 7 回：ミクロ経済学の基礎（6）  
 相互依存と貿易からの利益  
 8 回：マクロ経済学の基礎（1）  
 国民所得統計  
 9 回：マクロ経済学の基礎（2）  
 GDP の決定  
 10 回：マクロ経済学の基礎（3）  
 資産市場  
 11 回：マクロ経済学の基礎（4）  
 ISLM モデル  
 12 回：マクロ経済学の基礎（5）  
 ISLM モデル  
 13 回：マクロ経済学の基礎（6）  
 失業とインフレーション  
 14 回：まとめと復習

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業に臨むに当たり、該当分野の予習復習を必ず行うこと

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパー・小テスト:20%

### テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

マンキュー 『入門経済学第3版』 東洋経済新報社 2019

吉川洋 『マクロ経済学第4版』 岩波書店 2017

# 経済学 1

Economics 1

社会経済学入門

佐々木 隆治 (SASAKI RYUJI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX005  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX1110  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： 2023 年度以前入学 2 年次以上経済政策学科クラス 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

学生が社会経済学の基礎的な知識を習得することで学位授与方針の学修成果に掲げる「経済現象を歴史的・理論的に考察する」能力を身につけることができる。

Students acquire a fundamental knowledge of political economy to gain the ability to historically and theoretically examine the economic phenomena necessary to achieve the learning required for the degree.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、社会経済学の基礎を扱います。経済学には、いろいろな考え方があります。この講義は、マルクス経済学の立場から資本主義とは何かについて考察します。はじめに重商主義や古典派経済学などの社会経済学の歴史的発展について概観した後、商品あるいは貨幣とは何かといったことから解き明かし、次に労働力なぜ商品になるのか、資本とは何か、剰余価値はどのようにして生まれるかなど社会経済学の初歩的な理論について学びます。さらに、具体的なトピックを取り上げ、社会経済学によって現実の経済問題をどのようにみることができるかについて学びます。

This lecture covers the fundamentals of political economy. There are various theories about economics. In this lecture students consider what capitalism is from the perspective of Marxian economics. After an overview of the historical development of political economy, including mercantilism and classical economics, what a commodity or a currency is will be explained followed by a study of the elementary theories of political economy, such as why labor power becomes a commodity, what capital is, and how a surplus value is produced. Further, specific topics will be taken up to learn how actual economic problems can be viewed using political economy.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：社会経済学の源流①
- 3 回：社会経済学の源流②
- 4 回：社会経済学の基礎概念①
- 5 回：社会経済学の基礎概念②
- 6 回：社会経済学の基礎概念③
- 7 回：社会経済学の基礎概念④
- 8 回：社会経済学の基礎概念⑤
- 9 回：社会経済学と現代経済①
- 10 回：社会経済学と現代経済②
- 11 回：社会経済学と現代経済③
- 12 回：社会経済学と現代経済④
- 13 回：社会経済学と現代経済⑤
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献を参照して授業に臨んでください。また新聞をよく読み、現実の経済問題に対する関心をもつように心がけてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 課題、小テスト、リアクションペーパーなど複数回実施:20%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

森本壮亮ほか 『変容する日本経済：真に豊かな経済・社会への課題と展望』 鉾脈社 2022年  
9784860618179

佐々木隆治 『カール・マルクス』 筑摩書房 2016年 9784480068897

上記以外の文献については、授業時に指示します。

# 経済学 2

Economics 2

ミクロ経済学・マクロ経済学への入門コース

小平 武史 (KOHIRA TAKESHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX006
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1110
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2023 年度以前入学 2 年次以上経済政策学科クラス 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業の目的は、ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な考え方に対する入門的な知識を提供することである。経済学の基本的な考え方を理解してもらうとともに、2年生で履修する初級ミクロ経済学・マクロ経済学への橋渡しとなることを目的としている。

The purpose of this course is to provide an introduction to the basic concepts of microeconomics and macroeconomics. The purpose of this course is to help students understand the basic concept of economics, and to serve as a bridge to basic microeconomics and macroeconomics that students take in their second year.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では、現実の日本経済の事例をできる限り用いながら、市場メカニズムなどのミクロ経済学と GDP の決定などのマクロ経済学の入門的な内容を扱う。それと同時に、財政、金融、雇用、など、さまざまな応用的なトピックスにも触れる。

In this class, microeconomics, such as market mechanisms, and macroeconomics, such as determination of GDP,

are dealt with using actual examples of the Japanese economy as much as possible. At the same time, we will touch on a variety of applied topics, including public finance, finance, employment.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：経済学とはなにか？  
 2 回：ミクロ経済学の基礎（1）  
 市場における需要と供給  
 3 回：ミクロ経済学の基礎（2）  
 需要と供給ならびに政府の政策  
 4 回：ミクロ経済学の基礎（3）  
 消費者、生産者、市場の効率性  
 5 回：ミクロ経済学の基礎（4）  
 税と効率、公平  
 6 回：ミクロ経済学の基礎（5）  
 外部性  
 7 回：ミクロ経済学の基礎（6）  
 相互依存と貿易からの利益  
 8 回：マクロ経済学の基礎（1）  
 国民所得統計  
 9 回：マクロ経済学の基礎（2）  
 GDP の決定  
 10 回：マクロ経済学の基礎（3）  
 資産市場  
 11 回：マクロ経済学の基礎（4）  
 ISLM モデル  
 12 回：マクロ経済学の基礎（5）  
 ISLM モデル  
 13 回：マクロ経済学の基礎（6）  
 失業とインフレーション  
 14 回：まとめと復習

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業に臨むに当たり、該当分野の予習復習を必ず行うこと

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパー・小テスト:20%

### テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

---

マンキュー 『入門経済学第3版』 東洋経済新報社 2019

吉川洋 『マクロ経済学第4版』 岩波書店 2017

# 政策分析概論

Introduction to Policy Studies

櫻井 公人／池上 岳彦／菅沼 隆／田島 夏与／遠山 恭司／一ノ瀬 大輔／デウィット, A (SAKURAI KIMIHIITO/ IKEGAMI TAKEHIKO/ SUGANUMA TAKASHI/ TAJIMA KAYO/ TOYAMA KYOJI/ ICHINOSE DAISUKE/ DEWIT ANDREW)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX008  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： EPS1510  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

政策分析の学び方にふれつつ、基本的な視点と現在の課題を把握する。経済政策学科における科目構成の全体像をつかみ、各自の研究テーマに沿う科目履修に役立てる。

Students learn how to study policy analysis while gaining an understanding of the basic perspectives and current issues. This course gives you an overview of the course structure of the Department of Economic Policy Studies so that you can register for courses that align with your research theme.

## 授業の内容 / Course Contents

本科目は、経済政策学科の導入科目である。経済政策関連科目を担当する専任教員が、それぞれの専門とする政策分野について、主要講義科目で学ぶべき内容を概説する。これにより、経済政策の体系や、経済学を応用した政策分析の方法を紹介し、世界と日本が直面する現在の政策課題を明らかにする。

This is the introductory course for the Department of Economic Policy Studies. The instructors who supervise the courses related to economic policy are experts in their respective policy fields and briefly introduce the



contents of the main lectures. The systematized knowledge of economic policy and methods for applying economics to policy analysis are introduced in this course to reveal the current issues that Japan and the world are confronted with.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション (田島)
- 2 回：経済政策 (櫻井)
- 3 回：経済政策 (櫻井)
- 4 回：財政政策 (池上)
- 5 回：財政政策 (池上)
- 6 回：労働・社会政策 (菅沼)
- 7 回：労働・社会政策 (菅沼)
- 8 回：産業と政策 (遠山)
- 9 回：産業と政策 (遠山)
- 10 回：環境・都市政策 (一ノ瀬)
- 11 回：環境・都市政策 (一ノ瀬)
- 12 回：グローバル化と政策 (DeWit)
- 13 回：グローバル化と政策 (DeWit)
- 14 回：まとめ (田島)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

主要な使用教材を教育支援システム (Canvas LMS) にアップするので、予習・復習に役立てること。また、授業内で指示される課題について準備・対応を行うこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 複数回の小テスト (リアクションペーパー) :50%

### テキスト / Textbooks

特定のテキストは使用しない。講義資料は Canvas LMS にアップする。

### 参考文献 / Readings

それぞれの担当者が Canvas LMS にて、講義時に指示する。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

さまざまな領域にわたる経済政策の基本的な概念・理論と現状を理解する能力。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Canvas LMS からの提出物は情報機器端末を使用する。

### その他 / Others

原則として授業資料等は、Canvas LMS にアップする。

リアクションペーパーの提出を課し、平常点として評価するので、各講義のなかで、記入内容と提出先の指示

に従うこと。

# 経済数学入門

Introduction to Economic Mathematics

古川 徹也 (FURUKAWA TETSUYA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX009  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX1110  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ミクロあるいはマクロ経済学を理解するには、数学の知識が欠かせない。この講義では、その中でもとくに、初・中級レベルの経済学において用いられる基本的な数学について、学生が理解することを目標とする。 Knowledge of mathematics is indispensable for understanding micro- and macroeconomics. The objective of this course is for students to understand the basic mathematics used in particular in the introductory and intermediate levels of economics.

## 授業の内容 / Course Contents

- 行列について学び、それがミクロ・マクロ経済学、計量経済学においてどのように用いられているかについて講義する。
  - 微分、偏微分が経済学においてどのように利用されるかを理解し、それが受講生の「武器」となることを目指す。
- We study matrix and how this method is used in micro- and macroeconomics, and econometrics.
  - We study how differential calculus and partial differentiation are used in economics and for this to become an important tool for the course attendees.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：ガイダンス：経済学と数学の関係へのイントロダクション
- 2回：ベクトルと経済学への応用
- 3回：行列と計算ルール
- 4回：行列と連立方程式の関係
- 5回：行列の経済学への応用
- 6回：固有値と固有ベクトル
- 7回：微分とは何か
- 8回：微分の計算ルール
- 9回：偏微分とラグランジュの未定乗数法
- 10回：ラグランジュの未定乗数法の応用
- 11回：2階の条件と行列
- 12回：確率とその応用：条件付き確率の考え方
- 13回：確率とその応用：期待値と期待効用
- 14回：講義の復習

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

予習：事前に資料に目を通しておくこと。

復習：練習問題（評価とは別）を出す予定なので、それらに取り組むこと。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験：80%

平常点割合：20% 前半の講義内容に関する Canvas LMS を利用した宿題:10% 後半の講義内容に関する Canvas LMS を利用した宿題:10%

**テキスト / Textbooks**

テキストは指定しない。講義資料を Web(Canvas LMS を利用する予定)にアップする。

**参考文献 / Readings**

尾山大輔・安田洋祐 『経済学で出る数学（改訂版）』 日本評論社 2013 9784535556591

講義中随時紹介する。

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

高校で学んだはずの数学 I/A 程度の知識は必須。数学 II/B, 数学 III はあれば望ましいが、必須ではない。

**その他 / Others**

・講義資料をもとに、板書を利用して講義内容を詳しく説明する。講義資料は本当に必要な内容しか書かれていないので、講義に出席することなしに講義内容を十分に理解することは困難である。

・講義資料以外の練習問題、課題も Web(Canvas LMS)にアップするので、こまめにチェックすること。

# 経済数学入門

Introduction to Economic Mathematics

古川 徹也 (FURUKAWA TETSUYA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX010  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX1110  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ミクロあるいはマクロ経済学を理解するには、数学の知識が欠かせない。この講義では、その中でもとくに、初・中級レベルの経済学において用いられる基本的な数学について、学生が理解することを目標とする。 Knowledge of mathematics is indispensable for understanding micro- and macroeconomics. The objective of this course is for students to understand the basic mathematics used in particular in the introductory and intermediate levels of economics.

## 授業の内容 / Course Contents

- 行列について学び、それがミクロ・マクロ経済学、計量経済学においてどのように用いられているかについて講義する。
  - 微分、偏微分が経済学においてどのように利用されるかを理解し、それが受講生の「武器」となることを目指す。
- We study matrix and how this method is used in micro- and macroeconomics, and econometrics.
  - We study how differential calculus and partial differentiation are used in economics and for this to become an important tool for the course attendees.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：ガイダンス：経済学と数学の関係へのイントロダクション
- 2 回：ベクトルと経済学への応用
- 3 回：行列と計算ルール
- 4 回：行列と連立方程式の関係
- 5 回：行列の経済学への応用
- 6 回：固有値と固有ベクトル
- 7 回：微分とは何か
- 8 回：微分の計算ルール
- 9 回：偏微分とラグランジュの未定乗数法
- 10 回：ラグランジュの未定乗数法の応用
- 11 回：2 階の条件と行列
- 12 回：確率とその応用：条件付き確率の考え方
- 13 回：確率とその応用：期待値と期待効用
- 14 回：講義の復習

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

予習：事前に資料に目を通しておくこと。

復習：練習問題（評価とは別）を出す予定なので、それらに取り組むこと。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 前半の講義内容に関する Canvas LMS を利用した宿題:10% 後半の講義内容に関する Canvas LMS を利用した宿題:10%

**テキスト / Textbooks**

テキストは指定しない。講義資料を Web(Canvas LMS を利用する予定)にアップする。

**参考文献 / Readings**

尾山大輔・安田洋祐 『経済学で出る数学（改訂版）』 日本評論社 2013 9784535556591

講義中随時紹介する。

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

高校で学んだはずの数学 I/A 程度の知識は必須。数学 II/B, 数学 III はあれば望ましいが、必須ではない。

**その他 / Others**

・講義資料をもとに、板書を利用して講義内容を詳しく説明する。講義資料は本当に必要な内容しか書かれていないので、講義に出席することなしに講義内容を十分に理解することは困難である。

・講義資料以外の練習問題、課題も Web(Canvas LMS)にアップするので、こまめにチェックすること。

# 経営学 1

Business Administration 1

株式会社を理解する

関 智一 (SEKI TOMOKAZU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX013

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1810

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

株式会社の仕組みや機能を理解することで、企業経営に関する基礎知識の修得と、日本の企業社会に対する分析視角を養う。

Understand the framework and functions of corporations to acquire fundamental knowledge regarding company management and develop an analytical perspective of Japanese business society.

## 授業の内容 / Course Contents

「財・サービスの提供機関」、「株式会社」、「大企業」、「家」、「組織」の5つの視点から、企業の多面性について理解を深める。株式会社の仕組みや機能について知識を深めつつ、今日の日本の株式会社をめぐる諸問題について検討を行う。

Deepen understanding of the multidimensional aspect of companies from the 5 viewpoints of institutions that provide goods and services, corporations, large companies, Kaisha, and organizations. By understanding these aspects, students also deepen understanding of the framework and function of corporations and study the issues facing Japanese corporations today.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：問題の所在
- 2 回：経営学とは何か
- 3 回：企業の特徴・企業の種類・株式会社の特徴と仕組み
- 4 回：「財・サービスの提供機関」としての企業（上）
- 5 回：「財・サービスの提供機関」としての企業（下）
- 6 回：「株式会社」としての企業（上）
- 7 回：「株式会社」としての企業（中）
- 8 回：「株式会社」としての企業（下）
- 9 回：「大企業」としての企業（上）
- 10 回：「大企業」としての企業（下）
- 11 回：「家」としての日本企業
- 12 回：「組織」としての企業（上）
- 13 回：「組織」としての企業（下）
- 14 回：結論と課題

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

準備学習の指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。各自確認して予習すること。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

**テキスト / Textbooks**

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫 『企業論 第4版』 有斐閣 2018 4641221197 ○

**参考文献 / Readings**

榊原清則 『経営学入門 第2版 上』 日本経済新聞社出版 2013 4532112826

榊原清則 『経営学入門 第2版 下』 日本経済新聞社出版 2013 4532112834



## 経営学 2

Business Administration 2

企業成長を理解する

関 智一 (SEKI TOMOKAZU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX014

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1810

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

成長を志向しつづけてやまない企業とその経営の実態について、日本のみならず欧米やアジアの企業ケースを事例に理解を深める。本講義では、企業成長の源泉をグローバル化とイノベーションに求め、さらには開かれた市場取引を謳うオープン化の流れについても言及することで、21世紀の企業経営のあり方についても知識を深めることを目指している。

Case studies of companies from Europe, the US, and Asia as well as Japan will be used to deepen understanding of companies that intend to continue growing and their actual management conditions. This lecture will also discuss the globalization and innovation sought as a source of company growth as well as touch on the openness trend that promotes open market transactions to deepen the student's knowledge of how businesses are managed in the 21st century.

### 授業の内容 / Course Contents

企業成長に向けた具体的な取り組みとして、グローバル化の進展とイノベーションの追求に着目し、それぞれについて基礎理論、歴史的背景、そして現状把握の3点から検討を行う。競争戦略、多角化、PPM、M&A、

戦略的提携，そして内部留保など、現代企業経営の必須キーワードへの理解とともに、オープンイノベーションなどの最新トピックスを加え、現代における企業成長の実態を明らかにしていく。

The course focuses on the expansion of globalization and the pursuit of innovation as specific means for achieving company growth and both of these will be studied from the three perspectives of fundamental theory, historical background, and assessment of the current situation. The state of company growth today will be looked at by gaining an understanding of mandatory topics for modern company management, including competitive strategy, diversification, PPM, M&A, strategic alliances, and retained earnings, in addition to the latest topics, such as open innovation.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：問題の所在
- 2 回：企業のマネジメントとは
- 3 回：競争のための差別化
- 4 回：競争しない競争戦略
- 5 回：競争優位とビジネスシステム
- 6 回：多角化と事業ポートフォリオ（上）
- 7 回：多角化と事業ポートフォリオ（下）
- 8 回：企業構造の再編成
- 9 回：国際化の戦略（上）
- 10 回：国際化の戦略（下）
- 11 回：資本構造のマネジメント
- 12 回：企業成長とイノベーション（上）
- 13 回：企業成長とイノベーション（下）
- 14 回：結論と課題

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。各自確認して予習すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

### テキスト / Textbooks

伊丹敬之・加護野忠男 『ゼミナール経営学入門（新装版）』 日本経済新聞社出版 2022 9784532135263  
○

秋野晶二・關智一・坂本義和・山中伸彦・井口知栄・荒井将志 『グローバル化とイノベーションの経営学』  
税務経理協会 2018 4419065621 ○

### 参考文献 / Readings

伊藤元重 『はじめての経済学（下）』 日本経済新聞社出版 2004 4532110157

入山章栄 『世界標準の経営理論』 ダイヤモンド社 2019 4478109575

# 経済史 1

Economic History 1

鉄道から見た東アジア社会経済史

林 采成 (LIM CHAISUNG)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX019

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1710

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

経済史を通じてグローバル経済社会の展開プロセスを理解し、長いスパンをもって現在に至るグローバル経済社会に対するパースペクティブを持たせる。

In this course, students will learn about the development process of the global economic history. They will gain a sense of perspective on how the global economic history has arrived at its current state over a long span of time.

## 授業の内容 / Course Contents

鉄道史から東アジア経済社会の様々な問題を取上げ、それを長いスパンをもって理解し、日本だけに止まらず、広い視野からグローバル経済社会史の全体像を捉える。また、時間を取って受講者が作成したレポートをプレゼンしたり、特定の論点について議論したりする機会を設ける。

This course will deal with various issues facing the global economic history focusing on the railway history. Students will gain an understanding by looking at a long span of time. The course will not be limited to Japan, but rather will have a broad perspective, obtaining a bird's-eye view of the global economic history. In addition, the students will be given time to present reports they have created and an opportunity will be provided for them to

discuss specific issues.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス： グローバル史における鉄道業の始まり
- 2回：日本： 鉄道業の導入と展開
- 3回：日本： 戦時下の鉄道業の変容
- 4回：日本： 国鉄の復興と戦後再編
- 5回：台湾： 鉄道業の移植と鉄道業の展開
- 6回：朝鮮： 鉄道業の移植と植民化
- 7回：朝鮮： 鉄道業の展開
- 8回：満洲： 鉄道業の移植
- 9回：鉄道と観光： 植民地鉄道としての山東鉄道
- 10回：満洲： 満鉄の生産性と収益性
- 11回：華北と華中： 戦時下の占領と鉄道の運営
- 12回：戦時下の東アジア鉄道
- 13回：東アジアの戦後再編
- 14回：まとめ： 東アジアとブリティッシュ・インディアの鉄道業の比較

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義を受講して質問がある場合やより詳しい学習内容が求められる場合はそれに関連する議論や資料紹介の機会を設ける。普段から社会経済史に関する疑問や問題意識を持ち、それを理解しようとする姿勢が望まれる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% ディスカッション技術など:10%

最終レポート割合 :20%

### テキスト / Textbooks

老川慶喜 『日本鉄道史』 中央公論新社 2016 9784121023582 ○

林采成 『戦時経済と鉄道運営 「植民地」朝鮮から「分断」韓国への歴史的経路を探る』 東京大学出版会 2005 9784130460842 -

林采成 『東アジアのなかの満鉄—鉄道帝国のフロンティア』 名古屋大学出版会 2021 9784815810139 ○

林采成 『華北交通の日中戦争史』 日本経済評論社 2016 9784818824317 ○

林采成 『鉄道員と身体: 帝国の労働衛生』 京都大学学術出版会 2019 9784814001842 ○

講義資料・ノートを配布する。

### 参考文献 / Readings

授業時に提示する。

## 経済史 2

Economic History 2

イノベーションと革新的企業家の系譜

須永 徳武 (SUNAGA NORITAKE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX020

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1710

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

経済の発展を生じさせる要因に関して理論的な知識を習得しつつ、各分野の研究の最前線はどのようなものなのかに触れる。高校までの学習では扱われない、経済や経営の歴史の多様な考え方、アプローチの仕方を理解する。

In this course, while acquiring the theoretical knowledge of the factors that give rise to economic development, you will come in touch with the forefront studies of each field and various approaches of economic and business history.

### 授業の内容 / Course Contents

経済を学ぶうえで歴史は非常に重要です。なぜなら、歴史を知ることによって、今日の経済社会の成り立ちがはじめて理解できるからです。この授業では、単に過去の出来事を暗記するのではなく、経済や企業がどのように動いてきたのかをとらえようとしています。特に、経営史研究の最前線ではどのようなテーマが扱われ、議論されているのかを、入門的に学びます。

History is an essential component of economics: Learning history, you can well understand the background of the

current economic structure. Rather merely memorizing the events in the past days, this course will help you to comprehend how the economy and company has evolved until today. Especially, you will get the picture of what topics are discussed on the frontiers of business history.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：経済の発展過程をどう考えるか？
- 2 回：シュンペーターのイノベーション論と企業家の革新性 ①
- 3 回：シュンペーターのイノベーション論と企業家の革新性 ②
- 4 回：イノベーションとチャンドラー・モデル ①
- 5 回：イノベーションとチャンドラー・モデル ②
- 6 回：イノベーションのジレンマ ①
- 7 回：イノベーションのジレンマ ②
- 8 回：渋沢栄一：日本資本主義のグランドデザイナー ①
- 9 回：渋沢栄一：日本資本主義のグランドデザイナー ②
- 10 回：中内功：闘う流通革命家 ①
- 11 回：中内功：闘う流通革命家 ②
- 12 回：伊藤雅俊と鈴木敏文：流通イノベーター
- 13 回：井深大と盛田昭夫：ブランド・イノベーター ①
- 14 回：井深大と盛田昭夫：ブランド・イノベーター ②

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

基礎知識の確認・整理のために高校時代に使用した歴史科目や公民科目の教科書に目を通すと授業の理解が深まり効果的な学習ができる。復習では授業レジュメやノートのほか、シラバスや授業で紹介する文献が参考になる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

- M.ヴェーバー 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 岩波文庫 1989 4003420934  
 J.A.シュムペーター 『経済発展の理論』 上 岩波文庫 1977 4003414713  
 J.A.シュムペーター 『経済発展の理論』 下 岩波文庫 1977 4003414721  
 C.クリステンセン 『イノベーションのジレンマ』 翔泳社 2001 4798100234  
 C.クリステンセン 『イノベーション・オブ・ライフ』 翔泳社 2012 4798124095  
 中内功 『わが安売り哲学』 千倉書房 2007 4805108886  
 盛田昭夫 『MADE IN JAPAN』 PHP 研究所 2012 4569801919

# 経済学 1

Economics 1

社会経済学入門

飯島 寛之 (IIJIMA HIROYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX021
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1110
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2023 年度以前入学 2 年次以上会計ファイナンス学科クラス 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

学生が社会経済学の基礎的な知識を習得することで学位授与方針の学修成果に掲げる「経済現象を歴史的・理論的に考察する」能力を身につけることができる。

Students acquire a fundamental knowledge of political economy to gain the ability to historically and theoretically examine the economic phenomena necessary to achieve the learning required for the degree.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、社会経済学の基礎を扱います。経済学には、いろいろな考え方があります。この講義は、マルクス経済学の立場から資本主義とは何かについて考察します。はじめに重商主義や古典派経済学などの社会経済学の歴史的発展について概観した後、商品あるいは貨幣とは何かといったことから解き明かし、次に労働力はなぜ商品になるのか、資本とは何か、剰余価値はどのようにして生まれるかなど社会経済学の初歩的な理論について学びます。さらに、具体的なトピックを取り上げ、社会経済学によって現実の経済問題をどのようにみることができるかについて学びます。



This lecture covers the fundamentals of political economy. There are various theories about economics. In this lecture students consider what capitalism is from the perspective of Marxian economics. After an overview of the historical development of political economy, including mercantilism and classical economics, what a commodity or a currency is will be explained followed by a study of the elementary theories of political economy, such as why labor power becomes a commodity, what capital is, and how a surplus value is produced. Further, specific topics will be taken up to learn how actual economic problems can be viewed using political economy.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：社会経済学の源流①
- 3回：社会経済学の源流②
- 4回：社会経済学の基礎概念①
- 5回：社会経済学の基礎概念②
- 6回：社会経済学の基礎概念③
- 7回：社会経済学の基礎概念④
- 8回：社会経済学の基礎概念⑤
- 9回：社会経済学と現代経済①
- 10回：社会経済学と現代経済②
- 11回：社会経済学と現代経済③
- 12回：社会経済学と現代経済④
- 13回：社会経済学と現代経済⑤
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献を参照して授業に臨んでください。また新聞をよく読み、現実の経済問題に対する関心をもつように心がけてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 課題、小テスト、リアクションペーパーなど複数回実施:20%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

森本壮亮ほか 『変容する日本経済：真に豊かな経済・社会への課題と展望』 鉾脈社 2022年  
9784860618179

佐々木隆治 『カール・マルクス』 筑摩書房 2016年 9784480068897

上記以外の文献については、授業時に指示します。

# 経済学 2

Economics 2

ミクロ経済学・マクロ経済学への入門コース

塚田 裕昭 (TSUKADA HIROAKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX022  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項） 対面  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX1110  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： 2023 年度以前入学 2 年次以上会計ファイナンス学科クラス 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業の目的は、ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な考え方に対する入門的な知識を提供することである。経済学の基本的な考え方を理解してもらうとともに、2年生で履修する初級ミクロ経済学・マクロ経済学への橋渡しとなることを目的としている。

The purpose of this course is to provide an introduction to the basic concepts of microeconomics and macroeconomics. The purpose of this course is to help students understand the basic concept of economics, and to serve as a bridge to basic microeconomics and macroeconomics that students take in their second year.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では、現実の日本経済の事例をできる限り用いながら、市場メカニズムなどのミクロ経済学と GDP の決定などのマクロ経済学の入門的な内容を扱う。それと同時に、財政、金融、雇用、など、さまざまな応用的なトピックスにも触れる。

In this class, microeconomics, such as market mechanisms, and macroeconomics, such as determination of GDP,

are dealt with using actual examples of the Japanese economy as much as possible. At the same time, we will touch on a variety of applied topics, including public finance, finance, employment.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：経済学とはなにか？
- 2 回：ミクロ経済学の基礎（1）  
市場における需要と供給
- 3 回：ミクロ経済学の基礎（2）  
需要と供給ならびに政府の政策
- 4 回：ミクロ経済学の基礎（3）  
消費者、生産者、市場の効率性
- 5 回：ミクロ経済学の基礎（4）  
税と効率、公平
- 6 回：ミクロ経済学の基礎（5）  
外部性
- 7 回：ミクロ経済学の基礎（6）  
相互依存と貿易からの利益
- 8 回：マクロ経済学の基礎（1）  
国民所得統計
- 9 回：マクロ経済学の基礎（2）  
GDP の決定
- 10 回：マクロ経済学の基礎（3）  
資産市場
- 11 回：マクロ経済学の基礎（4）  
ISLM モデル
- 12 回：マクロ経済学の基礎（5）  
ISLM モデル
- 13 回：マクロ経済学の基礎（6）  
失業とインフレーション
- 14 回：まとめと復習

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業に臨むに当たり、該当分野の予習復習を必ず行うこと

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパー・小テスト:20%

### テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

---

マンキュー 『入門経済学第3版』 東洋経済新報社 2019

吉川洋 『マクロ経済学第4版』 岩波書店 2017

# 外書講読・英A

Reading Foreign Economic Texts/English A  
Strategic Reading

東風谷 太一 (KOCHIYA TAICHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX024  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項） 対面  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2033  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 抽選登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本授業では、経済史に関する基礎的な英語文献を購読する。基本的な学術用語に慣れるとともに、読みの方針を立てることで英語で書かれた研究書の論理構成を読み解けるようになることを目標とする。

The goal of this class is to learn the basic academic terminologies and be able to understand the logical structure of research papers written in English. For that purpose, we will read basic English texts on economic history.

## 授業の内容 / Course Contents

本授業では、近現代欧米のビールの生産・消費をテーマとする文献を輪読する。予習として各回の授業前日までに指示された範囲の日本語訳を提出してもらう。授業内では原文の音読と日本語訳の確認を行い、不明な点の検討や要約の作成についてグループワークを通じて理解を深めてもらう。

In this class, we read English monographs on the production and consumption of beer in modern Europe and the United States. For preparation, students make a Japanese translation of the text by the day before each class. In class, we read aloud the original texts and check the Japanese translations. In order to deepen understanding and also prepare summaries, students discuss the unclear points in groups.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：オリエンテーション
- 2回：語彙に注意して読む①
- 3回：語彙に注意して読む②
- 4回：文脈に注意して読む①
- 5回：文脈に注意して読む②
- 6回：パラグラフを意識して読む①
- 7回：パラグラフを意識して読む②
- 8回：キーワードを押さえて大意をつかむ①
- 9回：キーワードを押さえて大意をつかむ②
- 10回：問題の立て方と結論に向けた論理展開を意識して読む①
- 11回：問題の立て方と結論に向けた論理展開を意識して読む②
- 12回：精読①
- 13回：精読②
- 14回：最終テスト

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

授業前日までに指示した範囲の日本語訳を提出してもらおう。提出方法や提出物の評価基準についてはオリエンテーションで説明する。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 日本語訳の作成（事前準備）：30% グループワークへの貢献：30% 最終テスト  
割合：40%

3回以上欠席した場合には単位は出せません。

**テキスト / Textbooks**

Ignazio Cabris/david Higgins The History of the Beer and Brewing Industry Routledge 2017 -

授業で扱うテキストについては教員が用意するので、文献を購入する必要はない、

**参考文献 / Readings****履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

グループワークとディスカッションに積極的に参加することができる。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

PC かタブレットを持参すること。

## 外書講読・英A

Reading Foreign Economic Texts/English A

21世紀経済入門

太田 愛之 (OOTA YOSHIYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX025  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項） 対面  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2033  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 抽選登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

学生が、最新の世界経済論入門書の訳読を通じて経済英語の基礎語彙を習得し、翻訳のスキルを高めるとともに、最新の世界経済事情に関する理解を深める。国際金融の技術的側面に精通する。

Oral translation of the latest world economic theory introductory texts will be used to help students gain the basic vocabulary of economic English, improve their translation skill, and deepen their understanding of the latest world economic situation. Students become thoroughly versed in the technical aspects of international finance.

### 授業の内容 / Course Contents

テキストは 2019 年の諸事態までをカバーしているが、講義ではそれを単に訳読するだけでなく、周辺事情や最新事情も含めてアップデートすることに努める。今回はテキストの § 17 Barbarians at the Gate? Private Equity Investors, Venture Capitalists, and High-Frequency Traders, § 18 The Twenty-First-Century Company および § 19 How is the Digital Economy Transforming the World? の前半を訳読する。

The text covers up to the events in 2019, but during the lecture students will not only orally translate these but will also strive to update the information with surrounding circumstances and latest information. There will be a

final exam at the end of the course. This time students will give oral translations of § 17 Barbarians at the Gate? Private Equity Investors, Venture Capitalists, and High-Frequency Traders, § 18 The Twenty-First-Century Company and the first half of § 19 How is the Digital Economy Transforming the World? from the text.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：financial tycoons, The Wolf of Wall Street, leveraged buyout, hedge funds, venture capital firms, and high-frequency traders
- 3 回：speculators, arbitrageurs, hedgers, high-frequency trading
- 4 回：small discrepancies in the market, unfair advantage of market movement, private equity ventures
- 5 回：venture capital investors, angel, AngelList Syndicates
- 6 回：growth capital investors, extensive fees, public entities
- 7 回：bailout, the worldwide recession of 2008, too big to fail, the size of companies, public limited companies, S corporations
- 8 回：limited liability, incorporated, ownership shift, private equity, pesky shareholders, new way of doing business
- 9 回：inflated CEO pay packages, say no pay, full disclosure of all executives' pay packages, stock options, golden parachutes
- 10 回：management by referendum, bring jobs home, localizing supply chains, umbrella organizations
- 11 回：a truly digital age, behemoth tech firms, intangible assets, bankable commodities
- 12 回：e-commerce, long-tail consumers, customizing, business-to-business commerce
- 13 回：mobile devices, mobile technology, literacy rates
- 14 回：最終テストを行なう

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキスト中の不明な語句と事項を予め調べ、各自で訳文を作成してから講義に臨むこと。予習はインターネットが使える環境で行うことが望ましい。ネット上の情報は選別する必要があるが、本講義の予習は英和辞典だけでは到底無理である。また、JapanKnowledge や新聞社の DB など、大学のアカウントで利用可能な有料 DB を積極的に利用すること。授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて各回の授業中に指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 訳読の累積評価および授業内に指示した提出物：70% 最終テスト割合：30%

### テキスト / Textbooks

Randy Charles Epping The New World Economy A Beginner's Guide Vintage Books 2020 9780525563204

○

Amazon.co.jp に国内在庫がある場合、短時日で入手できる。なお、電子書籍版も出されているが、ページの指示ができないので薦められない。



**参考文献 / Readings**

一般紙でよいので新聞の経済記事には毎日目を通すこと。リサーチには JapanKnowledge や新聞社の DB など有料の DB を大学図書館経由で積極的に利用すること。そのほかは授業中に随時紹介する。

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

経済問題一般に対する関心、英文読解のための基礎語学力

**その他/ Others**

欠席の場合は立教メールで理由を記して連絡すること。メールアドレスは Canvas LMS で公開する。

## 外書講読・英A

Reading Foreign Economic Texts/English A

英語で学ぶ経済学史—アメリカ制度学派の研究

内川 隆文 (UCHIKAWA TAKAFUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX026

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2033

使用言語： その他

授業形式： その他

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

この授業は、経済学を中心としたアカデミック英語を講読することで、現代のグローバル経済を理解するための基礎リテラシーの獲得を目指す。

This class aims to acquire basic literacy for understanding the current global economy through lectures in academic English focusing on economics.

### 授業の内容 / Course Contents

情報が氾濫する現代社会においてじっくりと物事を考えることは容易ではありません。そのようなとき、古典と呼ばれるような著作は Anchor として機能し、複雑に入り組んだ現象を見通すための有効な視座を我々に与えます。この授業では経済に限らず、現代の様々な問題を確固とした学問的営為から捉え直すことを目指します。

前期ではアメリカ制度学派に属する経済学者であるジョン・ケネス・ガルブレイスの論文および著作を取り上げます。毎回の授業ごとに各学生は、文献を読んで獲得した知識や考察、疑問をレジュメにて報告します。

In today's society, in which information is produced and consumed at a rapid pace, it is not easy to think

carefully about things. At such times, works such as the classics serve as anchors, providing us with effective perspectives on complex and intricate phenomena. In this class, we aim to rethink various contemporary issues, not limited to economics, from the perspective of solid academic endeavors.

In this class, we will read articles and books by John Kenneth Galbraith, an economist belonging to the American Institutional School. In each class, each student will report on the knowledge, insights, and questions he or she has gained from reading the literature in a resume.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：輪読＋レジュメ報告
- 3回：輪読＋レジュメ報告
- 4回：輪読＋レジュメ報告
- 5回：輪読＋レジュメ報告
- 6回：輪読＋レジュメ報告
- 7回：輪読＋レジュメ報告
- 8回：輪読＋レジュメ報告
- 9回：輪読＋レジュメ報告
- 10回：輪読＋レジュメ報告
- 11回：輪読＋レジュメ報告
- 12回：輪読＋レジュメ報告
- 13回：輪読＋レジュメ報告
- 14回：輪読＋レジュメ報告

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

配布されたテキストを熟読し、分からない経済英語や概念については事前に調べる。また、報告担当者は授業の前日までに教員および他の学生にレジュメを提出すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 中間レポート:20% プレゼンテーション:30% 出席および授業参加度:30% 最終レポート割合：:20%最終テスト割合：:0%

### テキスト / Textbooks

テキストについては初回授業で詳しく案内しますが、授業内で配布するので購入は不要です。

### 参考文献 / Readings

## 外書講読・英B

Reading Foreign Economic Texts/English B  
Strategic Reading

東風谷 太一 (KOCHIYA TAICHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX032  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項） 対面  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2033  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 抽選登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本授業では、経済史に関する基礎的な英語文献を購読する。基本的な学術用語に慣れるとともに、読みの方針を立てることで英語で書かれた研究書の論理構成を読み解けるようになることを目標とする。

The goal of this class is to learn the basic academic terminologies and be able to understand the logical structure of research papers written in English. For that purpose, we will read basic English texts on economic history.

### 授業の内容 / Course Contents

本授業では、近現代欧米のビールの生産・消費をテーマとする文献を輪読する。予習として各回の授業前日までに指示された範囲の日本語訳を提出してもらう。授業内では原文の音読と日本語訳の確認を行い、不明な点の検討や要約の作成についてグループワークを通じて理解を深めてもらう。

In this class, we read English monographs on the production and consumption of beer in modern Europe and the United States. For preparation, students make a Japanese translation of the text by the day before each class. In class, we read aloud the original texts and check the Japanese translations. In order to deepen understanding and also prepare summaries, students discuss the unclear points in groups.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：オリエンテーション
- 2回：語彙に注意して読む①
- 3回：語彙に注意して読む②
- 4回：文脈に注意して読む①
- 5回：文脈に注意して読む②
- 6回：パラグラフを意識して読む①
- 7回：パラグラフを意識して読む②
- 8回：キーワードを押さえて大意をつかむ①
- 9回：キーワードを押さえて大意をつかむ②
- 10回：問題の立て方と結論に向けた論理展開を意識して読む①
- 11回：問題の立て方と結論に向けた論理展開を意識して読む②
- 12回：精読①
- 13回：精読②
- 14回：最終テスト

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

授業前日までに指示した範囲の日本語訳を提出してもらおう。提出方法や提出物の評価基準についてはオリエンテーションで説明する。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 日本語訳の作成（事前準備）：30% グループワークへの貢献：30% 最終テスト  
割合：40%

3回以上欠席した場合には単位は出せません。

**テキスト / Textbooks**

Ignazio Cabras/david Higgins The History of the Beer and Brewing Industry Routledge 2017 -

授業で扱うテキストについては教員が用意するので、文献を購入する必要はない、

**参考文献 / Readings****履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

グループワークとディスカッションに積極的に参加することができる。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

PC かタブレットを持参すること。

## 外書講読・英B

Reading Foreign Economic Texts/English B

21 世紀経済入門

太田 愛之 (OOTA YOSHIYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX033

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2033

使用言語： その他

授業形式： その他

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

学生が、最新の世界経済論入門書の訳読を通じて経済英語の基礎語彙を習得し、翻訳のスキルを高めるとともに、最新の世界経済事情に関する理解を深める。国際金融の技術的側面に精通する。

Oral translation of the latest world economic theory introductory texts will be used to help students gain the basic vocabulary of economic English, improve their translation skill, and deepen their understanding of the latest world economic situation. Students become thoroughly versed in the technical aspects of international finance.

### 授業の内容 / Course Contents

テキストは 2019 年の諸事態までをカバーしているが、講義ではそれを単に訳読するだけでなく、周辺事情や最新事情も含めてアップデートすることに努める。今回はテキストの § 19 How is the Digital Economy Transforming the World? の後半および § 20 What is the Internet of Things?, § 21 Is Data the New Gold?, § 22 How Are Robots and Artificial Intelligence Transforming the Economy? を訳読する。

The text covers up to the events in 2019, but during the lecture students will not only orally translate these but will also strive to update the information with surrounding circumstances and latest information. There will be a

final exam at the end of the course. This time students will give oral translations of the latter half of § 19 How is the Digital Economy Transforming the World?, § 20 What is the Internet of Things? and § 21 Is Data the New Gold?, § 22 How Are Robots and Artificial Intelligence Transforming the Economy? from the text.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：e-commerce in the developing world, e-banking, online advertising
- 3 回：user-specific advertising in cyberspace, the increase in inequality, cyberwarfare, ever-expanding Internet
- 4 回：fourth industrial revolution, Internet of Things, cloud computing, Industry 4.0
- 5 回：just-in-time manufacturing, Moore's law, access to the cloud, Metcalfe's law
- 6 回：new cyber-physical relationships, security risks, an increasing threat
- 7 回：data leaks, the new gold of the twenty-first-century economy, data harvesters
- 8 回：metadata analysts of people's behavior, political campaigns, an invasion of privacy
- 9 回：a model for monetizing data, the information used by companies to earn money, an entirely new currency — data, a new barter economy
- 10 回：the data-for-services economy, the ability to control entire segment of our daily lives, the power of biotechnology
- 11 回：the power to influence thoughts and behavior, General Data Protection Regulation, our consent
- 12 回：fears of robots taking over the world, robots and artificial intelligence, half-dragon and half-human, entirely new frontiers
- 13 回：access to unlimited information through the Internet, singularity, djobs: dull, dirty, dangerous, and delicate, the factory of the future
- 14 回：最終テストを行なう

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキスト中の不明な語句と事項を予め調べ、各自で訳文を作成してから講義に臨むこと。予習はインターネットが使える環境で行うことが望ましい。ネット上の情報は選別する必要があるが、本講義の予習は英和辞典だけでは到底無理である。また、JapanKnowledge や新聞社の DB など、大学のアカウントで利用可能な有料 DB を積極的に利用すること。授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて各回の授業中に指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 訳読の累積評価および授業内に指示した提出物:70% 最終テスト割合：30%

### テキスト / Textbooks

Randy Charles Epping The New World Economy A Beginner's Guide Vintage Books 2020 9780525563204

○

Amazon.co.jp に国内在庫がある場合短時日で入手できる。なお、電子書籍版も出されているが、ページの指示ができないので薦められない。

**参考文献 / Readings**

一般紙でよいので新聞の経済記事には毎日目を通すこと。そのほかは授業中に随時紹介する。

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

経済問題一般への関心、訳読のための基礎的英語力

**その他/ Others**

欠席の場合は立教メールで理由を記して連絡すること。メールアドレスは Canvas LMS で公開する。



## 外書講読・英B

Reading Foreign Economic Texts/English B

英語で学ぶ経済学史—アメリカ制度学派経済学の研究

内川 隆文 (UCHIKAWA TAKAFUMI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX034  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2033  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 抽選登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

この授業は、経済学を中心としたアカデミック英語を講読することで、現代のグローバル経済を理解するための基礎リテラシーの獲得を目指す。

This class aims to acquire basic literacy for understanding the current global economy through lectures in academic English focusing on economics.

### 授業の内容 / Course Contents

情報が氾濫する現代社会においてじっくりと物事を考えることは容易ではありません。そのようなとき、古典と呼ばれるような著作は Anchor として機能し、複雑に入り組んだ現象を見通すための有効な視座を我々に与えます。この授業では経済に限らず、現代の様々な問題を確固とした学問的営為から捉え直すことを目指します。後期では、20 世紀初頭の株式会社における「所有と経営の分離」を解き明かしたバーリ・ミーネズの The modern corporation & Private Property（邦題『近代株式会社と私有財産』）を輪読します。毎回の授業ごとに各学生は、文献を読んで獲得した知識や考察、疑問をレジュメにて報告します。

This class aims to acquire basic literacy for understanding the current global economy through lectures in

academic English focusing on economics.

In the second semester, we will read Adolf A. Berle, Gardiner Means "The Modern Corporation & Private Property", which had revealed the "separation of ownership and management" in early 20th-century corporations. In each class session, students will report on the knowledge, insights, and questions gained from the reading of the literature in a resume.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：輪読＋レジュメ報告
- 3回：輪読＋レジュメ報告
- 4回：輪読＋レジュメ報告
- 5回：輪読＋レジュメ報告
- 6回：輪読＋レジュメ報告
- 7回：輪読＋レジュメ報告
- 8回：輪読＋レジュメ報告
- 9回：輪読＋レジュメ報告
- 10回：輪読＋レジュメ報告
- 11回：輪読＋レジュメ報告
- 12回：輪読＋レジュメ報告
- 13回：輪読＋レジュメ報告
- 14回：輪読＋レジュメ報告

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

配布されたテキストを熟読し、分からない経済英語や概念については事前に調べる。また、報告担当者は授業の前日までに教員および他の学生にレジュメを提出すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業参加度:30% プレゼンテーション:30% 中間レポート:20% 最終レポート割合：:20%最終テスト割合：:0%

### テキスト / Textbooks

テキストについては初回授業で詳しく案内しますが、授業内で配布するので購入は不要です。

### 参考文献 / Readings

# 社会経済学入門

Introduction to Political Economy

社会経済学入門

森本 壮亮 (MORIMOTO SOUSUKE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX051
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1110
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2024 年度以降入学経済学科クラス 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

学生が社会経済学の基礎的な知識を習得することで学位授与方針の学修成果に掲げる「経済現象を歴史的・理論的に考察する」能力を身につけることができる。

Students acquire a fundamental knowledge of political economy to gain the ability to historically and theoretically examine the economic phenomena necessary to achieve the learning required for the degree.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、社会経済学の基礎を扱います。経済学には、いろいろな考え方があります。この講義は、マルクス経済学の立場から資本主義とは何かについて考察します。はじめに重商主義や古典派経済学などの社会経済学の歴史的発展について概観した後、商品あるいは貨幣とは何かといったことから解き明かし、次に労働力はなぜ商品になるのか、資本とは何か、剰余価値はどのようにして生まれるかなど社会経済学の初歩的な理論について学びます。さらに、具体的なトピックを取り上げ、社会経済学によって現実の経済問題をどのようにみることができるかについて学びます。

This lecture covers the fundamentals of political economy. There are various theories about economics. In this

lecture students consider what capitalism is from the perspective of Marxian economics. After an overview of the historical development of political economy, including mercantilism and classical economics, what a commodity or a currency is will be explained followed by a study of the elementary theories of political economy, such as why labor power becomes a commodity, what capital is, and how a surplus value is produced. Further, specific topics will be taken up to learn how actual economic problems can be viewed using political economy.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：社会経済学の源流①
- 3 回：社会経済学の源流②
- 4 回：社会経済学の基礎概念①
- 5 回：社会経済学の基礎概念②
- 6 回：社会経済学の基礎概念③
- 7 回：社会経済学の基礎概念④
- 8 回：社会経済学の基礎概念⑤
- 9 回：社会経済学と現代経済①
- 10 回：社会経済学と現代経済②
- 11 回：社会経済学と現代経済③
- 12 回：社会経済学と現代経済④
- 13 回：社会経済学と現代経済⑤
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献を参照して授業に臨んでください。また新聞をよく読み、現実の経済問題に対する関心をもつように心がけてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 課題、小テスト、リアクションペーパーなど複数回実施:20%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

森本壮亮ほか 『変容する日本経済：真に豊かな経済・社会への課題と展望』 鉾脈社 2022年  
9784860618179

佐々木隆治 『カール・マルクス』 筑摩書房 2016年 9784480068897

上記以外の文献については、授業時に指示します。

# ミクロ・マクロ経済学入門

Introduction to Microeconomics and Macroeconomics

ミクロ経済学・マクロ経済学への入門コース

池田 毅 (IKEDA TAKESHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX052
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1110
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2024 年度以降入学経済学科クラス 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業の目的は、ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な考え方に対する入門的な知識を提供することである。経済学の基本的な考え方を理解してもらうとともに、2年生で履修する初級ミクロ経済学・マクロ経済学への橋渡しとなることを目的としている。

The purpose of this course is to provide an introduction to the basic concepts of microeconomics and macroeconomics. The purpose of this course is to help students understand the basic concept of economics, and to serve as a bridge to basic microeconomics and macroeconomics that students take in their second year.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では、現実の日本経済の事例をできる限り用いながら、市場メカニズムなどのミクロ経済学と GDP の決定などのマクロ経済学の入門的な内容を扱う。それと同時に、財政、金融、雇用、など、さまざまな応用的なトピックスにも触れる。

In this class, microeconomics, such as market mechanisms, and macroeconomics, such as determination of GDP, are dealt with using actual examples of the Japanese economy as much as possible. At the same time, we will

touch on a variety of applied topics, including public finance, finance, employment.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：経済学とはなにか？
- 2 回：ミクロ経済学の基礎（1）  
市場における需要と供給
- 3 回：ミクロ経済学の基礎（2）  
需要と供給ならびに政府の政策
- 4 回：ミクロ経済学の基礎（3）  
消費者、生産者、市場の効率性
- 5 回：ミクロ経済学の基礎（4）  
税と効率、公平
- 6 回：ミクロ経済学の基礎（5）  
外部性
- 7 回：ミクロ経済学の基礎（6）  
相互依存と貿易からの利益
- 8 回：マクロ経済学の基礎（1）  
国民所得統計
- 9 回：マクロ経済学の基礎（2）  
GDP の決定
- 10 回：マクロ経済学の基礎（3）  
資産市場
- 11 回：マクロ経済学の基礎（4）  
ISLM モデル
- 12 回：マクロ経済学の基礎（5）  
ISLM モデル
- 13 回：マクロ経済学の基礎（6）  
失業とインフレーション
- 14 回：まとめと復習

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業に臨むに当たり、該当分野の予習復習を必ず行うこと

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%  
平常点割合 :20% リアクションペーパー・小テスト:20%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

マンキュー 『入門経済学第3版』 東洋経済新報社 2019

吉川洋 『マクロ経済学第4版』 岩波書店 2017

# 社会経済学入門

Introduction to Political Economy

社会経済学入門

柏崎 正憲 (KASHIWAZAKI MASANORI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX053
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1110
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2024 年度以降入学経済学科クラス 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

学生が社会経済学の基礎的な知識を習得することで学位授与方針の学修成果に掲げる「経済現象を歴史的・理論的に考察する」能力を身につけることができる。

Students acquire a fundamental knowledge of political economy to gain the ability to historically and theoretically examine the economic phenomena necessary to achieve the learning required for the degree.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、社会経済学の基礎を扱います。経済学には、いろいろな考え方があります。この講義は、マルクス経済学の立場から資本主義とは何かについて考察します。はじめに重商主義や古典派経済学などの社会経済学の歴史的発展について概観した後、商品あるいは貨幣とは何かといったことから解き明かし、次に労働力はなぜ商品になるのか、資本とは何か、剰余価値はどのようにして生まれるかなど社会経済学の初歩的な理論について学びます。さらに、具体的なトピックを取り上げ、社会経済学によって現実の経済問題をどのようにみることができるかについて学びます。

This lecture covers the fundamentals of political economy. There are various theories about economics. In this



lecture students consider what capitalism is from the perspective of Marxian economics. After an overview of the historical development of political economy, including mercantilism and classical economics, what a commodity or a currency is will be explained followed by a study of the elementary theories of political economy, such as why labor power becomes a commodity, what capital is, and how a surplus value is produced. Further, specific topics will be taken up to learn how actual economic problems can be viewed using political economy.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：社会経済学の源流①
- 3 回：社会経済学の源流②
- 4 回：社会経済学の基礎概念①
- 5 回：社会経済学の基礎概念②
- 6 回：社会経済学の基礎概念③
- 7 回：社会経済学の基礎概念④
- 8 回：社会経済学の基礎概念⑤
- 9 回：社会経済学と現代経済①
- 10 回：社会経済学と現代経済②
- 11 回：社会経済学と現代経済③
- 12 回：社会経済学と現代経済④
- 13 回：社会経済学と現代経済⑤
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献を参照して授業に臨んでください。また新聞をよく読み、現実の経済問題に対する関心をもつように心がけてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 課題、小テスト、リアクションペーパーなど複数回実施:20%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

森本壮亮ほか 『変容する日本経済：真に豊かな経済・社会への課題と展望』 鉾脈社 2022年  
9784860618179

佐々木隆治 『カール・マルクス』 筑摩書房 2016年 9784480068897

上記以外の文献については、授業時に指示します。

# ミクロ・マクロ経済学入門

Introduction to Microeconomics and Macroeconomics

ミクロ経済学・マクロ経済学への入門コース

高橋 衛 (TAKAHASHI MAMORU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX054
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1110
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2024 年度以降入学経済学科クラス 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業の目的は、ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な考え方に対する入門的な知識を提供することである。経済学の基本的な考え方を理解してもらうとともに、2年生で履修する初級ミクロ経済学・マクロ経済学への橋渡しとなることを目的としている。

The purpose of this course is to provide an introduction to the basic concepts of microeconomics and macroeconomics. The purpose of this course is to help students understand the basic concept of economics, and to serve as a bridge to basic microeconomics and macroeconomics that students take in their second year.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では、現実の日本経済の事例をできる限り用いながら、市場メカニズムなどのミクロ経済学と GDP の決定などのマクロ経済学の入門的な内容を扱う。それと同時に、財政、金融、雇用、など、さまざまな応用的なトピックスにも触れる。

In this class, microeconomics, such as market mechanisms, and macroeconomics, such as determination of GDP, are dealt with using actual examples of the Japanese economy as much as possible. At the same time, we will

touch on a variety of applied topics, including public finance, finance, employment.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：経済学とはなにか？
- 2 回：ミクロ経済学の基礎（1）  
市場における需要と供給
- 3 回：ミクロ経済学の基礎（2）  
需要と供給ならびに政府の政策
- 4 回：ミクロ経済学の基礎（3）  
消費者、生産者、市場の効率性
- 5 回：ミクロ経済学の基礎（4）  
税と効率、公平
- 6 回：ミクロ経済学の基礎（5）  
外部性
- 7 回：ミクロ経済学の基礎（6）  
相互依存と貿易からの利益
- 8 回：マクロ経済学の基礎（1）  
国民所得統計
- 9 回：マクロ経済学の基礎（2）  
GDP の決定
- 10 回：マクロ経済学の基礎（3）  
資産市場
- 11 回：マクロ経済学の基礎（4）  
ISLM モデル
- 12 回：マクロ経済学の基礎（5）  
ISLM モデル
- 13 回：マクロ経済学の基礎（6）  
失業とインフレーション
- 14 回：まとめと復習

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業に臨むに当たり、該当分野の予習復習を必ず行うこと

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパー・小テスト:20%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

マンキュー 『入門経済学第3版』 東洋経済新報社 2019

吉川洋 『マクロ経済学第4版』 岩波書店 2017

# 社会経済学入門

Introduction to Political Economy

社会経済学入門

佐々木 隆治 (SASAKI RYUJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX055

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2024 年度以降入学経済政策学科クラス 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

学生が社会経済学の基礎的な知識を習得することで学位授与方針の学修成果に掲げる「経済現象を歴史的・理論的に考察する」能力を身につけることができる。

Students acquire a fundamental knowledge of political economy to gain the ability to historically and theoretically examine the economic phenomena necessary to achieve the learning required for the degree.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、社会経済学の基礎を扱います。経済学には、いろいろな考え方があります。この講義は、マルクス経済学の立場から資本主義とは何かについて考察します。はじめに重商主義や古典派経済学などの社会経済学の歴史的発展について概観した後、商品あるいは貨幣とは何かといったことから解き明かし、次に労働力なぜ商品になるのか、資本とは何か、剰余価値はどのようにして生まれるかなど社会経済学の初歩的な理論について学びます。さらに、具体的なトピックを取り上げ、社会経済学によって現実の経済問題をどのようにみることができるかについて学びます。

This lecture covers the fundamentals of political economy. There are various theories about economics. In this lecture students consider what capitalism is from the perspective of Marxian economics. After an overview of the historical development of political economy, including mercantilism and classical economics, what a commodity or a currency is will be explained followed by a study of the elementary theories of political economy, such as why labor power becomes a commodity, what capital is, and how a surplus value is produced. Further, specific topics will be taken up to learn how actual economic problems can be viewed using political economy.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：社会経済学の源流①
- 3 回：社会経済学の源流②
- 4 回：社会経済学の基礎概念①
- 5 回：社会経済学の基礎概念②
- 6 回：社会経済学の基礎概念③
- 7 回：社会経済学の基礎概念④
- 8 回：社会経済学の基礎概念⑤
- 9 回：社会経済学と現代経済①
- 10 回：社会経済学と現代経済②
- 11 回：社会経済学と現代経済③
- 12 回：社会経済学と現代経済④
- 13 回：社会経済学と現代経済⑤
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献を参照して授業に臨んでください。また新聞をよく読み、現実の経済問題に対する関心をもつように心がけてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 課題、小テスト、リアクションペーパーなど複数回実施:20%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

森本壮亮ほか 『変容する日本経済：真に豊かな経済・社会への課題と展望』 鉦脈社 2022年  
9784860618179

佐々木隆治 『カール・マルクス』 筑摩書房 2016年 9784480068897

上記以外の文献については、授業時に指示します。

# ミクロ・マクロ経済学入門

Introduction to Microeconomics and Macroeconomics

ミクロ経済学・マクロ経済学への入門コース

小平 武史 (KOHIRA TAKESHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX056
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1110
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2024 年度以降入学経済政策学科クラス 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業の目的は、ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な考え方に対する入門的な知識を提供することである。経済学の基本的な考え方を理解してもらうとともに、2年生で履修する初級ミクロ経済学・マクロ経済学への橋渡しとなることを目的としている。

The purpose of this course is to provide an introduction to the basic concepts of microeconomics and macroeconomics. The purpose of this course is to help students understand the basic concept of economics, and to serve as a bridge to basic microeconomics and macroeconomics that students take in their second year.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では、現実の日本経済の事例をできる限り用いながら、市場メカニズムなどのミクロ経済学と GDP の決定などのマクロ経済学の入門的な内容を扱う。それと同時に、財政、金融、雇用、など、さまざまな応用的なトピックスにも触れる。

In this class, microeconomics, such as market mechanisms, and macroeconomics, such as determination of GDP,

are dealt with using actual examples of the Japanese economy as much as possible. At the same time, we will touch on a variety of applied topics, including public finance, finance, employment.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：経済学とはなにか？
- 2 回：ミクロ経済学の基礎（1）  
市場における需要と供給
- 3 回：ミクロ経済学の基礎（2）  
需要と供給ならびに政府の政策
- 4 回：ミクロ経済学の基礎（3）  
消費者、生産者、市場の効率性
- 5 回：ミクロ経済学の基礎（4）  
税と効率、公平
- 6 回：ミクロ経済学の基礎（5）  
外部性
- 7 回：ミクロ経済学の基礎（6）  
相互依存と貿易からの利益
- 8 回：マクロ経済学の基礎（1）  
国民所得統計
- 9 回：マクロ経済学の基礎（2）  
GDP の決定
- 10 回：マクロ経済学の基礎（3）  
資産市場
- 11 回：マクロ経済学の基礎（4）  
ISLM モデル
- 12 回：マクロ経済学の基礎（5）  
ISLM モデル
- 13 回：マクロ経済学の基礎（6）  
失業とインフレーション
- 14 回：まとめと復習

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業に臨むに当たり、該当分野の予習復習を必ず行うこと

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパー・小テスト:20%

### テキスト / Textbooks



参考文献 / Readings

---

マンキュー 『入門経済学第3版』 東洋経済新報社 2019

吉川洋 『マクロ経済学第4版』 岩波書店 2017

# 社会経済学入門

Introduction to Political Economy

社会経済学入門

飯島 寛之 (IIJIMA HIROYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX057

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2024 年度以降入学会計ファイナンス学科クラス 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

学生が社会経済学の基礎的な知識を習得することで学位授与方針の学修成果に掲げる「経済現象を歴史的・理論的に考察する」能力を身につけることができる。

Students acquire a fundamental knowledge of political economy to gain the ability to historically and theoretically examine the economic phenomena necessary to achieve the learning required for the degree.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、社会経済学の基礎を扱います。経済学には、いろいろな考え方があります。この講義は、マルクス経済学の立場から資本主義とは何かについて考察します。はじめに重商主義や古典派経済学などの社会経済学の歴史的発展について概観した後、商品あるいは貨幣とは何かといったことから解き明かし、次に労働力なぜ商品になるのか、資本とは何か、剰余価値はどのようにして生まれるかなど社会経済学の初歩的な理論について学びます。さらに、具体的なトピックを取り上げ、社会経済学によって現実の経済問題をどのようにみることができるかについて学びます。

This lecture covers the fundamentals of political economy. There are various theories about economics. In this lecture students consider what capitalism is from the perspective of Marxian economics. After an overview of the historical development of political economy, including mercantilism and classical economics, what a commodity or a currency is will be explained followed by a study of the elementary theories of political economy, such as why labor power becomes a commodity, what capital is, and how a surplus value is produced. Further, specific topics will be taken up to learn how actual economic problems can be viewed using political economy.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：社会経済学の源流①
- 3回：社会経済学の源流②
- 4回：社会経済学の基礎概念①
- 5回：社会経済学の基礎概念②
- 6回：社会経済学の基礎概念③
- 7回：社会経済学の基礎概念④
- 8回：社会経済学の基礎概念⑤
- 9回：社会経済学と現代経済①
- 10回：社会経済学と現代経済②
- 11回：社会経済学と現代経済③
- 12回：社会経済学と現代経済④
- 13回：社会経済学と現代経済⑤
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献を参照して授業に臨んでください。また新聞をよく読み、現実の経済問題に対する関心をもつように心がけてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 課題、小テスト、リアクションペーパーなど複数回実施:20%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

森本壮亮ほか 『変容する日本経済：真に豊かな経済・社会への課題と展望』 鉾脈社 2022年  
9784860618179

佐々木隆治 『カール・マルクス』 筑摩書房 2016年 9784480068897

上記以外の文献については、授業時に指示します。

# ミクロ・マクロ経済学入門

Introduction to Microeconomics and Macroeconomics

ミクロ経済学・マクロ経済学への入門コース

塚田 裕昭 (TSUKADA HIROAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX058

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 対面

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2024 年度以降入学会計ファイナンス学科クラス 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業の目的は、ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な考え方に対する入門的な知識を提供することである。経済学の基本的な考え方を理解してもらうとともに、2年生で履修する初級ミクロ経済学・マクロ経済学への橋渡しとなることを目的としている。

The purpose of this course is to provide an introduction to the basic concepts of microeconomics and macroeconomics. The purpose of this course is to help students understand the basic concept of economics, and to serve as a bridge to basic microeconomics and macroeconomics that students take in their second year.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では、現実の日本経済の事例をできる限り用いながら、市場メカニズムなどのミクロ経済学と GDP の決定などのマクロ経済学の入門的な内容を扱う。それと同時に、財政、金融、雇用、など、さまざまな応用的なトピックスにも触れる。

In this class, microeconomics, such as market mechanisms, and macroeconomics, such as determination of GDP,

are dealt with using actual examples of the Japanese economy as much as possible. At the same time, we will touch on a variety of applied topics, including public finance, finance, employment.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：経済学とはなにか？
- 2 回：ミクロ経済学の基礎（1）  
市場における需要と供給
- 3 回：ミクロ経済学の基礎（2）  
需要と供給ならびに政府の政策
- 4 回：ミクロ経済学の基礎（3）  
消費者、生産者、市場の効率性
- 5 回：ミクロ経済学の基礎（4）  
税と効率、公平
- 6 回：ミクロ経済学の基礎（5）  
外部性
- 7 回：ミクロ経済学の基礎（6）  
相互依存と貿易からの利益
- 8 回：マクロ経済学の基礎（1）  
国民所得統計
- 9 回：マクロ経済学の基礎（2）  
GDP の決定
- 10 回：マクロ経済学の基礎（3）  
資産市場
- 11 回：マクロ経済学の基礎（4）  
ISLM モデル
- 12 回：マクロ経済学の基礎（5）  
ISLM モデル
- 13 回：マクロ経済学の基礎（6）  
失業とインフレーション
- 14 回：まとめと復習

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業に臨むに当たり、該当分野の予習復習を必ず行うこと

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパー・小テスト:20%

### テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

---

マンキュー 『入門経済学第3版』 東洋経済新報社 2019

吉川洋 『マクロ経済学第4版』 岩波書店 2017

# 会計学 1

Accounting 1

山田 康裕 (YAMADA YASUHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX063  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2910  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定： 簿記 1・2  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義では、会計学の入門として、公表されている財務情報を読み解くことができるようになることを目標とする。まず会計学 1 では、財務諸表の見方を中心に学んでいくこととする。

In this lecture, as an introduction to accounting, the goal is for students to be able to read and understand published financial information. First, Accounting 1 will focus on how to read financial statements.

## 授業の内容 / Course Contents

この会計学 1 では、まず財務諸表の見方として、貸借対照表の見方、損益計算書の見方、キャッシュ・フロー計算書の見方、注記の見方を順に学び、次いで、財務諸表分析の基礎として、収益性の分析について学ぶ。

In this Accounting 1 course, students first learn how to read financial statements, such as the balance sheet, income statement, cash flow statement, and notes, in order, and then learn profitability analysis as the basis of financial statement analysis.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション

財務諸表の見方（財務諸表の役割と仕組み）①

- 2回：財務諸表の見方（財務諸表の役割と仕組み）②  
 3回：財務諸表の入手方法  
 4回：貸借対照表の見方①  
 5回：貸借対照表の見方②  
 6回：損益計算書の見方①  
 7回：損益計算書の見方②  
 8回：キャッシュ・フロー計算書の見方①  
 9回：キャッシュ・フロー計算書の見方②  
 10回：会計方針の注記①  
 11回：会計方針の注記②  
 12回：財務諸表分析の基礎（分析の視点と方法）  
 13回：収益性の分析①  
 14回：収益性の分析②

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、テキストの該当箇所を読んでおく。また、興味のある企業の財務諸表を実際に入手して読んでみて、自分で財務指標を計算してみる。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 小テスト:40%

#### テキスト / Textbooks

桜井久勝 『財務諸表分析 第8版』 中央経済社 2020 9784502342417 ○

#### 参考文献 / Readings

乙政正太 『財務諸表分析 第3版』 同文館出版 2019 9784495193034

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

電卓

#### その他 / Others

- ・ 授業に毎回出席する。
- ・ 提示される提出課題に取り組む。
- ・ 小テストは必ず受ける。



# 会計学 2

Accounting 2

山田 康裕 (YAMADA YASUHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX064  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2910  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定： 会計学 1  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義では、会計学の入門として、公表されている財務情報を読み解くことができるようになることを目標とする。会計学 2 では、財務諸表分析の基礎および証券投資への応用を学んでいくこととする。

The goal of this course is to provide students with an introduction to accounting so that they will be able to read and understand published financial information. In Accounting 2, students will learn the basics of financial statement analysis and its application to securities investment.

## 授業の内容 / Course Contents

会計学 2 では、生産性の分析、安全性の分析、不確実性によるリスクの分析、成長性の分析、証券投資への応用（投資意思決定有用性）、株式価値評価モデル、債券の格付けと倒産予測への利用といったトピックについて学んでいく。

In Accounting 2, students will study topics such as productivity analysis, safety analysis, risk analysis due to uncertainty, growth analysis, applications to securities investment (investment decision usefulness), equity valuation models, and bond ratings and their use in bankruptcy prediction.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション  
生産性の分析①  
2回：生産性の分析②  
3回：安全性の分析①  
4回：安全性の分析②  
5回：安全性の分析③  
6回：不確実性によるリスクの分析  
7回：成長性の分析①  
8回：成長性の分析②  
9回：証券投資への応用（投資意思決定有用性）①  
10回：証券投資への応用（投資意思決定有用性）②  
11回：株式価値評価モデル①  
12回：株式価値評価モデル②  
13回：株式価値評価モデル③  
14回：債券の格付けと倒産予測への利用

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、テキストの該当箇所を読んでおく。また、興味のある企業の財務諸表を実際に入手して読んでみて、自分で財務指標を計算してみる。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%  
平常点割合 :40% 小テスト:40%

#### テキスト / Textbooks

桜井久勝 財務諸表分析 第8版 中央経済社 2020 9784502342417 ○

#### 参考文献 / Readings

乙政正太 財務諸表分析 第3版 同文館出版 2019 9784495193034

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

電卓

#### その他 / Others

- ・授業に毎回出席する。
- ・提示される提出課題に取り組む。
- ・小テストは必ず受ける。

# 会計学 1

Accounting 1

山田 康裕 (YAMADA YASUHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX065  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2910  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定： 簿記 1・2  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義では、会計学の入門として、公表されている財務情報を読み解くことができるようになることを目標とする。まず会計学 1 では、財務諸表の見方を中心に学んでいくこととする。

In this lecture, as an introduction to accounting, the goal is for students to be able to read and understand published financial information. First, Accounting 1 will focus on how to read financial statements.

## 授業の内容 / Course Contents

この会計学 1 では、まず財務諸表の見方として、貸借対照表の見方、損益計算書の見方、キャッシュ・フロー計算書の見方、注記の見方を順に学び、次いで、財務諸表分析の基礎として、収益性の分析について学ぶ。

In this Accounting 1 course, students first learn how to read financial statements, such as the balance sheet, income statement, cash flow statement, and notes, in order, and then learn profitability analysis as the basis of financial statement analysis.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション

財務諸表の見方（財務諸表の役割と仕組み）①

- 2回：財務諸表の見方（財務諸表の役割と仕組み）②  
 3回：財務諸表の入手方法  
 4回：貸借対照表の見方①  
 5回：貸借対照表の見方②  
 6回：損益計算書の見方①  
 7回：損益計算書の見方②  
 8回：キャッシュ・フロー計算書の見方①  
 9回：キャッシュ・フロー計算書の見方②  
 10回：会計方針の注記①  
 11回：会計方針の注記②  
 12回：財務諸表分析の基礎（分析の視点と方法）  
 13回：収益性の分析①  
 14回：収益性の分析②

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、テキストの該当箇所を読んでおく。また、興味のある企業の財務諸表を実際に入手して読んでみて、自分で財務指標を計算してみる。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 小テスト:40%

#### テキスト / Textbooks

桜井久勝 『財務諸表分析 第8版』 中央経済社 2020 9784502342417 ○

#### 参考文献 / Readings

乙政正太 『財務諸表分析 第3版』 同文館出版 2019 9784495193034

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

電卓

#### その他 / Others

- ・授業に毎回出席する。
- ・提示される提出課題に取り組む。
- ・小テストは必ず受ける。

# 会計学 2

Accounting 2

山田 康裕 (YAMADA YASUHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX066  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2910  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定： 会計学 1  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義では、会計学の入門として、公表されている財務情報を読み解くことができるようになることを目標とする。会計学 2 では、財務諸表分析の基礎および証券投資への応用を学んでいくこととする。

The goal of this course is to provide students with an introduction to accounting so that they will be able to read and understand published financial information. In Accounting 2, students will learn the basics of financial statement analysis and its application to securities investment.

## 授業の内容 / Course Contents

会計学 2 では、生産性の分析、安全性の分析、不確実性によるリスクの分析、成長性の分析、証券投資への応用（投資意思決定有用性）、株式価値評価モデル、債券の格付けと倒産予測への利用といったトピックについて学んでいく。

In Accounting 2, students will study topics such as productivity analysis, safety analysis, risk analysis due to uncertainty, growth analysis, applications to securities investment (investment decision usefulness), equity valuation models, and bond ratings and their use in bankruptcy prediction.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション  
生産性の分析①
- 2回：生産性の分析②
- 3回：安全性の分析①
- 4回：安全性の分析②
- 5回：安全性の分析③
- 6回：不確実性によるリスクの分析
- 7回：成長性の分析①
- 8回：成長性の分析②
- 9回：証券投資への応用（投資意思決定有用性）①
- 10回：証券投資への応用（投資意思決定有用性）②
- 11回：株式価値評価モデル①
- 12回：株式価値評価モデル②
- 13回：株式価値評価モデル③
- 14回：債券の格付けと倒産予測への利用

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、テキストの該当箇所を読んでおく。また、興味のある企業の財務諸表を実際に入手して読んでみて、自分で財務指標を計算してみる。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 小テスト:40%

#### テキスト / Textbooks

桜井久勝 財務諸表分析 第8版 中央経済社 2020 9784502342417 ○

#### 参考文献 / Readings

乙政正太 財務諸表分析 第3版 同文館出版 2019 9784495193034

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

電卓

#### その他 / Others

- ・授業に毎回出席する。
- ・提示される提出課題に取り組む。
- ・小テストは必ず受ける。

# 簿記 1

## Bookkeeping 1

松田 真由美 (MATSUDA MAYUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX068
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1810
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	会計ファイナンス学科 2 年次以上

### 授業の目標 / Course Objectives

基本的な複式簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The goal of this course is to understand the mechanism and role of basic double-entry bookkeeping.

### 授業の内容 / Course Contents

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表の有用性、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that makes it possible to provide useful accounting information to parties inside and outside a company by classifying, organizing, and recording complex corporate transactions based on a small number of transaction elements. In this course, students will learn the basic mechanism of double-entry bookkeeping. The lectures on the usefulness of financial statements and recent topics are given. Opportunities will be provided for students to work on problem exercises in class.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：簿記の意義と仕組み(1)
- 2回：簿記の意義と仕組み(2)
- 3回：仕訳と転記
- 4回：仕訳帳と元帳
- 5回：決算の意義と手続き(1)
- 6回：決算の意義と手続き(2)
- 7回：決算の意義と手続き(3)
- 8回：予備日(期中の取引、決算の手続きの復習など)
- 9回：現金と預金
- 10回：繰越商品・仕入・売上(1)
- 11回：繰越商品・仕入・売上(2)
- 12回：売掛金と買掛金(1)
- 13回：売掛金と買掛金(2)
- 14回：振り返り

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への出席ならびに積極的参加、ミニテスト、課題の提出:30%

・筆記試験は、すべての簿記1のクラスに共通の問題を使って実施される。・筆記試験は、テキスト欄に掲載した「渡部裕巨・片山覚・北村敬子『検定簿記ワークブック3級商業簿記』中央経済社（最新版）」の内容に基づいて出題されるが、詳細は別途掲示を行う。・平常点の評価項目等の詳細は担当者によって異なるため、開講時（4月）に担当教員からのアナウンスを確認すること。

#### テキスト / Textbooks

渡部裕巨・片山覚・北村敬子 『検定簿記ワークブック3級商業簿記』 中央経済社 2024 9784502489518

○

- ・当該ワークブックは簿記1（及び簿記2）のすべてのクラスに共通の教材である。
- ・筆記試験は当該ワークブックの内容に基づいて出題されるため、各自購入して取り組むこと。
- ・各回の授業で使用するテキストは担当者によって異なるため、開講時(4月)に各担当者の指示に従って購入すること。

#### 参考文献 / Readings

各担当教員から適宜紹介する。

#### その他 / Others

- ・上記授業計画は一例である。開講時に各担当教員が説明する。



- ・本講義は、会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
- ・簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

## 簿記 2

### Bookkeeping 2

松田 真由美 (MATSUDA MAYUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX069
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1810
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	簿記 1
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	会計ファイナンス学科 2 年次以上

#### 授業の目標 / Course Objectives

基本的な複式簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The goal of this course is to understand the mechanism and role of basic double-entry bookkeeping.

#### 授業の内容 / Course Contents

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表はどのように有用か、近年のトピック等について、適宜講義を行う。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that makes it possible to provide useful accounting information to parties inside and outside a company by classifying, organizing, and recording complex corporate transactions based on a small number of transaction elements. In this course, students will learn the basic mechanism of double-entry bookkeeping. The lectures on the usefulness of financial statements and recent topics are given. Opportunities will be provided for students to work on problem exercises in class.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：その他の債権と債務
- 2 回：受取手形と支払手形
- 3 回：有形固定資産(1)
- 4 回：有形固定資産(2)
- 5 回：貸倒損失と貸倒引当金
- 6 回：資本
- 7 回：収益と費用(1)
- 8 回：収益と費用(2)
- 9 回：税金、伝票(1)
- 10 回：伝票 (2)
- 11 回：財務諸表(1)決算と決算手続
- 12 回：財務諸表(2)試算表の作成、棚卸表の作成と決算整理事項
- 13 回：財務諸表(3)精算表の作成、財務諸表の作成
- 14 回：振り返り

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前に以下に示されているテキストの「学習のポイント」等を読み、授業後は問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への出席ならびに積極的参加、ミニテスト、課題の提出:30%

・筆記試験は、すべての簿記2のクラスに共通の問題を使って実施される。・筆記試験は、テキスト欄に掲載した「渡部裕巨・片山覚・北村敬子『検定簿記ワークブック3級商業簿記』中央経済社(最新版)」の内容に基づいて出題されるが、詳細は別途掲示を行う。・平常点の評価項目等の詳細は担当者によって異なるため、開講時(9月)に担当教員からのアナウンスを確認すること。

### テキスト/ Textbooks

渡部裕巨・片山覚・北村敬子 『検定簿記ワークブック3級商業簿記検定版第10版』 中央経済社 2024

○

- ・当該ワークブックは(簿記1及び)簿記2のすべてのクラスに共通の教材である。
- ・筆記試験は当該ワークブックの内容に基づいて出題されるため、各自購入して取り組むこと。
- ・各回の授業で使用するテキストは担当者によって異なるため、開講時(9月)に各担当者の指示に従って購入すること。

### 参考文献 / Readings

各担当教員から適宜紹介する。

### その他/ Others

- ・上記授業計画は一例である。開講時に各担当教員が説明する。

- ・本講義は、会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
- ・簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

# 簿記 1

## Bookkeeping 1

鈴木 和哉 (SUZUKI KAZUYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX071
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1810
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	会計ファイナンス学科 1 年次 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

基本的な複式簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The goal of this course is to understand the mechanism and role of basic double-entry bookkeeping.

### 授業の内容 / Course Contents

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表の有用性、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that makes it possible to provide useful accounting information to parties inside and outside a company by classifying, organizing, and recording complex corporate transactions based on a small number of transaction elements. In this course, students will learn the basic mechanism of double-entry bookkeeping. The lectures on the usefulness of financial statements and recent topics are given. Opportunities will be provided for students to work on problem exercises in class.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：簿記の意義と仕組み(1)
- 2回：簿記の意義と仕組み(2)
- 3回：仕訳と転記
- 4回：仕訳帳と元帳
- 5回：決算の意義と手続き(1)
- 6回：決算の意義と手続き(2)
- 7回：決算の意義と手続き(3)
- 8回：予備日(期中の取引、決算の手続きの復習など)
- 9回：現金と預金
- 10回：繰越商品・仕入・売上(1)
- 11回：繰越商品・仕入・売上(2)
- 12回：売掛金と買掛金(1)
- 13回：売掛金と買掛金(2)
- 14回：振り返り

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への出席ならびに積極的参加、ミニテスト、課題の提出:30%

・筆記試験は、すべての簿記1のクラスに共通の問題を使って実施される。・筆記試験は、テキスト欄に掲載した「渡部裕巨・片山覚・北村敬子『検定簿記ワークブック3級商業簿記』中央経済社（最新版）」の内容に基づいて出題されるが、詳細は別途掲示を行う。・平常点の評価項目等の詳細は担当者によって異なるため、開講時（4月）に担当教員からのアナウンスを確認すること。

#### テキスト / Textbooks

渡部裕巨・片山覚・北村敬子 『検定簿記ワークブック3級商業簿記』 中央経済社 2024 9784502489518

○

- ・当該ワークブックは簿記1（及び簿記2）のすべてのクラスに共通の教材である。
- ・筆記試験は当該ワークブックの内容に基づいて出題されるため、各自購入して取り組むこと。
- ・各回の授業で使用するテキストは担当者によって異なるため、開講時(4月)に各担当者の指示に従って購入すること。

#### 参考文献 / Readings

各担当教員から適宜紹介する。

#### その他 / Others

- ・上記授業計画は一例である。開講時に各担当教員が説明する。

- ・本講義は、会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
- ・簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

## 簿記 2

### Bookkeeping 2

鈴木 和哉 (SUZUKI KAZUYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX072
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1810
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	簿記 1
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	会計ファイナンス学科 1 年次 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

#### 授業の目標 / Course Objectives

基本的な複式簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The goal of this course is to understand the mechanism and role of basic double-entry bookkeeping.

#### 授業の内容 / Course Contents

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表はどのように有用か、近年のトピック等について、適宜講義を行う。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that makes it possible to provide useful accounting information to parties inside and outside a company by classifying, organizing, and recording complex corporate transactions based on a small number of transaction elements. In this course, students will learn the basic mechanism of double-entry bookkeeping. The lectures on the usefulness of financial statements and recent topics are given. Opportunities will be provided for students to work on problem exercises in class.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule



- 1回：その他の債権と債務
- 2回：受取手形と支払手形
- 3回：有形固定資産(1)
- 4回：有形固定資産(2)
- 5回：貸倒損失と貸倒引当金
- 6回：資本
- 7回：収益と費用(1)
- 8回：収益と費用(2)
- 9回：税金、伝票(1)
- 10回：伝票(2)
- 11回：財務諸表(1)決算と決算手続
- 12回：財務諸表(2)試算表の作成、棚卸表の作成と決算整理事項
- 13回：財務諸表(3)精算表の作成、財務諸表の作成
- 14回：振り返り

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前に以下に示されているテキストの「学習のポイント」等を読み、授業後は問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への出席ならびに積極的参加、ミニテスト、課題の提出:30%

・筆記試験は、すべての簿記2のクラスに共通の問題を使って実施される。・筆記試験は、テキスト欄に掲載した「渡部裕巨・片山覚・北村敬子『検定簿記ワークブック3級商業簿記』中央経済社（最新版）」の内容に基づいて出題されるが、詳細は別途掲示を行う。・平常点の評価項目等の詳細は担当者によって異なるため、開講時（9月）に担当教員からのアナウンスを確認すること。

### テキスト / Textbooks

渡部裕巨・片山覚・北村敬子 『検定簿記ワークブック3級商業簿記検定版第10版』 中央経済社 2024

○

- ・当該ワークブックは(簿記1及び)簿記2のすべてのクラスに共通の教材である。
- ・筆記試験は当該ワークブックの内容に基づいて出題されるため、各自購入して取り組むこと。
- ・各回の授業で使用するテキストは担当者によって異なるため、開講時(9月)に各担当者の指示に従って購入すること。

### 参考文献 / Readings

各担当教員から適宜紹介する。

### その他 / Others

- ・上記授業計画は一例である。開講時に各担当教員が説明する。

- ・本講義は、会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
- ・簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

# 簿記 1

## Bookkeeping 1

諸藤 裕美 (MOROFUJI YUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX073
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1810
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	会計ファイナンス学科 1 年次 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

基本的な複式簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The goal of this course is to understand the mechanism and role of basic double-entry bookkeeping.

### 授業の内容 / Course Contents

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表の有用性、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that makes it possible to provide useful accounting information to parties inside and outside a company by classifying, organizing, and recording complex corporate transactions based on a small number of transaction elements. In this course, students will learn the basic mechanism of double-entry bookkeeping. The lectures on the usefulness of financial statements and recent topics are given. Opportunities will be provided for students to work on problem exercises in class.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：簿記の意義と仕組み(1)
- 2回：簿記の意義と仕組み(2)
- 3回：仕訳と転記
- 4回：仕訳帳と元帳
- 5回：決算の意義と手続き(1)
- 6回：決算の意義と手続き(2)
- 7回：決算の意義と手続き(3)
- 8回：予備日(期中の取引、決算の手続きの復習など)
- 9回：現金と預金
- 10回：繰越商品・仕入・売上(1)
- 11回：繰越商品・仕入・売上(2)
- 12回：売掛金と買掛金(1)
- 13回：売掛金と買掛金(2)
- 14回：振り返り

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への出席ならびに積極的参加、ミニテスト、課題の提出:30%

・筆記試験は、すべての簿記1のクラスに共通の問題を使って実施される。・筆記試験は、テキスト欄に掲載した「渡部裕巨・片山覚・北村敬子『検定簿記ワークブック3級商業簿記』中央経済社（最新版）」の内容に基づいて出題されるが、詳細は別途掲示を行う。・平常点の評価項目等の詳細は担当者によって異なるため、開講時（4月）に担当教員からのアナウンスを確認すること。

#### テキスト / Textbooks

渡部裕巨・片山覚・北村敬子 『検定簿記ワークブック3級商業簿記』 中央経済社 2024 9784502489518

○

- ・当該ワークブックは簿記1（及び簿記2）のすべてのクラスに共通の教材である。
- ・筆記試験は当該ワークブックの内容に基づいて出題されるため、各自購入して取り組むこと。
- ・各回の授業で使用するテキストは担当者によって異なるため、開講時(4月)に各担当者の指示に従って購入すること。

#### 参考文献 / Readings

各担当教員から適宜紹介する。

#### その他 / Others

- ・上記授業計画は一例である。開講時に各担当教員が説明する。

- ・本講義は、会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
- ・簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

## 簿記 2

### Bookkeeping 2

諸藤 裕美 (MOROFUJI YUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX074
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1810
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	簿記 1
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	会計ファイナンス学科 1 年次 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

#### 授業の目標 / Course Objectives

基本的な複式簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The goal of this course is to understand the mechanism and role of basic double-entry bookkeeping.

#### 授業の内容 / Course Contents

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表はどのように有用か、近年のトピック等について、適宜講義を行う。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that makes it possible to provide useful accounting information to parties inside and outside a company by classifying, organizing, and recording complex corporate transactions based on a small number of transaction elements. In this course, students will learn the basic mechanism of double-entry bookkeeping. The lectures on the usefulness of financial statements and recent topics are given. Opportunities will be provided for students to work on problem exercises in class.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：その他の債権と債務
- 2 回：受取手形と支払手形
- 3 回：有形固定資産(1)
- 4 回：有形固定資産(2)
- 5 回：貸倒損失と貸倒引当金
- 6 回：資本
- 7 回：収益と費用(1)
- 8 回：収益と費用(2)
- 9 回：税金、伝票(1)
- 10 回：伝票 (2)
- 11 回：財務諸表(1)決算と決算手続
- 12 回：財務諸表(2)試算表の作成、棚卸表の作成と決算整理事項
- 13 回：財務諸表(3)精算表の作成、財務諸表の作成
- 14 回：振り返り

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前に以下に示されているテキストの「学習のポイント」等を読み、授業後は問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への出席ならびに積極的参加、ミニテスト、課題の提出:30%

・筆記試験は、すべての簿記2のクラスに共通の問題を使って実施される。・筆記試験は、テキスト欄に掲載した「渡部裕巨・片山覚・北村敬子『検定簿記ワークブック3級商業簿記』中央経済社(最新版)」の内容に基づいて出題されるが、詳細は別途掲示を行う。・平常点の評価項目等の詳細は担当者によって異なるため、開講時(9月)に担当教員からのアナウンスを確認すること。

### テキスト/ Textbooks

渡部裕巨・片山覚・北村敬子 『検定簿記ワークブック3級商業簿記検定版第10版』 中央経済社 2024

○

- ・当該ワークブックは(簿記1及び)簿記2のすべてのクラスに共通の教材である。
- ・筆記試験は当該ワークブックの内容に基づいて出題されるため、各自購入して取り組むこと。
- ・各回の授業で使用するテキストは担当者によって異なるため、開講時(9月)に各担当者の指示に従って購入すること。

### 参考文献 / Readings

各担当教員から適宜紹介する。

### その他/ Others

- ・上記授業計画は一例である。開講時に各担当教員が説明する。

- ・本講義は、会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
- ・簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。



# 簿記 1

## Bookkeeping 1

米谷 健司 (KOMETANI KENJI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX076
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1810
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	会計ファイナンス学科 1 年次 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

基本的な複式簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The goal of this course is to understand the mechanism and role of basic double-entry bookkeeping.

### 授業の内容 / Course Contents

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表の有用性、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that makes it possible to provide useful accounting information to parties inside and outside a company by classifying, organizing, and recording complex corporate transactions based on a small number of transaction elements. In this course, students will learn the basic mechanism of double-entry bookkeeping. The lectures on the usefulness of financial statements and recent topics are given. Opportunities will be provided for students to work on problem exercises in class.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：簿記の意義と仕組み(1)
- 2回：簿記の意義と仕組み(2)
- 3回：仕訳と転記
- 4回：仕訳帳と元帳
- 5回：決算の意義と手続き(1)
- 6回：決算の意義と手続き(2)
- 7回：決算の意義と手続き(3)
- 8回：予備日(期中の取引、決算の手続きの復習など)
- 9回：現金と預金
- 10回：繰越商品・仕入・売上(1)
- 11回：繰越商品・仕入・売上(2)
- 12回：売掛金と買掛金(1)
- 13回：売掛金と買掛金(2)
- 14回：振り返り

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への出席ならびに積極的参加、ミニテスト、課題の提出:30%

・筆記試験は、すべての簿記1のクラスに共通の問題を使って実施される。・筆記試験は、テキスト欄に掲載した「渡部裕巨・片山覚・北村敬子『検定簿記ワークブック3級商業簿記』中央経済社（最新版）」の内容に基づいて出題されるが、詳細は別途掲示を行う。・平常点の評価項目等の詳細は担当者によって異なるため、開講時（4月）に担当教員からのアナウンスを確認すること。

#### テキスト / Textbooks

渡部裕巨・片山覚・北村敬子 『検定簿記ワークブック3級商業簿記』 中央経済社 2024 9784502489518

○

- ・当該ワークブックは簿記1（及び簿記2）のすべてのクラスに共通の教材である。
- ・筆記試験は当該ワークブックの内容に基づいて出題されるため、各自購入して取り組むこと。
- ・各回の授業で使用するテキストは担当者によって異なるため、開講時(4月)に各担当者の指示に従って購入すること。

#### 参考文献 / Readings

各担当教員から適宜紹介する。

#### その他 / Others

- ・上記授業計画は一例である。開講時に各担当教員が説明する。

- ・本講義は、会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
- ・簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

## 簿記 2

### Bookkeeping 2

米谷 健司 (KOMETANI KENJI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX077
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1810
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	簿記 1
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	会計ファイナンス学科 1 年次 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

#### 授業の目標 / Course Objectives

基本的な複式簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The goal of this course is to understand the mechanism and role of basic double-entry bookkeeping.

#### 授業の内容 / Course Contents

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表はどのように有用か、近年のトピック等について、適宜講義を行う。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that makes it possible to provide useful accounting information to parties inside and outside a company by classifying, organizing, and recording complex corporate transactions based on a small number of transaction elements. In this course, students will learn the basic mechanism of double-entry bookkeeping. The lectures on the usefulness of financial statements and recent topics are given. Opportunities will be provided for students to work on problem exercises in class.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：その他の債権と債務
- 2回：受取手形と支払手形
- 3回：有形固定資産(1)
- 4回：有形固定資産(2)
- 5回：貸倒損失と貸倒引当金
- 6回：資本
- 7回：収益と費用(1)
- 8回：収益と費用(2)
- 9回：税金、伝票(1)
- 10回：伝票(2)
- 11回：財務諸表(1)決算と決算手続
- 12回：財務諸表(2)試算表の作成、棚卸表の作成と決算整理事項
- 13回：財務諸表(3)精算表の作成、財務諸表の作成
- 14回：振り返り

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前に以下に示されているテキストの「学習のポイント」等を読み、授業後は問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への出席ならびに積極的参加、ミニテスト、課題の提出:30%

・筆記試験は、すべての簿記2のクラスに共通の問題を使って実施される。・筆記試験は、テキスト欄に掲載した「渡部裕巨・片山覚・北村敬子『検定簿記ワークブック3級商業簿記』中央経済社（最新版）」の内容に基づいて出題されるが、詳細は別途掲示を行う。・平常点の評価項目等の詳細は担当者によって異なるため、開講時（9月）に担当教員からのアナウンスを確認すること。

#### テキスト / Textbooks

渡部裕巨・片山覚・北村敬子 『検定簿記ワークブック3級商業簿記検定版第10版』 中央経済社 2024

○

- ・当該ワークブックは(簿記1及び)簿記2のすべてのクラスに共通の教材である。
- ・筆記試験は当該ワークブックの内容に基づいて出題されるため、各自購入して取り組むこと。
- ・各回の授業で使用するテキストは担当者によって異なるため、開講時(9月)に各担当者の指示に従って購入すること。

#### 参考文献 / Readings

各担当教員から適宜紹介する。

#### その他 / Others

- ・上記授業計画は一例である。開講時に各担当教員が説明する。

- ・本講義は、会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
- ・簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

# 簿記 1

## Bookkeeping 1

佐藤 亨 (SATO TORU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX078
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1810
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	会計ファイナンス学科 1 年次 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

基本的な複式簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The goal of this course is to understand the mechanism and role of basic double-entry bookkeeping.

### 授業の内容 / Course Contents

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表の有用性、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that makes it possible to provide useful accounting information to parties inside and outside a company by classifying, organizing, and recording complex corporate transactions based on a small number of transaction elements. In this course, students will learn the basic mechanism of double-entry bookkeeping. The lectures on the usefulness of financial statements and recent topics are given. Opportunities will be provided for students to work on problem exercises in class.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：簿記の意義と仕組み(1)
- 2 回：簿記の意義と仕組み(2)
- 3 回：仕訳と転記
- 4 回：仕訳帳と元帳
- 5 回：決算の意義と手続き(1)
- 6 回：決算の意義と手続き(2)
- 7 回：決算の意義と手続き(3)
- 8 回：予備日(期中の取引、決算の手続きの復習など)
- 9 回：現金と預金
- 10 回：繰越商品・仕入・売上(1)
- 11 回：繰越商品・仕入・売上(2)
- 12 回：売掛金と買掛金(1)
- 13 回：売掛金と買掛金(2)
- 14 回：振り返り

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への出席ならびに積極的参加、ミニテスト、課題の提出:30%

・筆記試験は、すべての簿記1のクラスに共通の問題を使って実施される。・筆記試験は、テキスト欄に掲載した「渡部裕巨・片山覚・北村敬子『検定簿記ワークブック3級商業簿記』中央経済社（最新版）」の内容に基づいて出題されるが、詳細は別途掲示を行う。・平常点の評価項目等の詳細は担当者によって異なるため、開講時（4月）に担当教員からのアナウンスを確認すること。

#### テキスト / Textbooks

渡部裕巨・片山覚・北村敬子 『検定簿記ワークブック3級商業簿記』 中央経済社 2024 9784502489518

○

- ・当該ワークブックは簿記1（及び簿記2）のすべてのクラスに共通の教材である。
- ・筆記試験は当該ワークブックの内容に基づいて出題されるため、各自購入して取り組むこと。
- ・各回の授業で使用するテキストは担当者によって異なるため、開講時(4月)に各担当者の指示に従って購入すること。

#### 参考文献 / Readings

各担当教員から適宜紹介する。

#### その他 / Others

- ・上記授業計画は一例である。開講時に各担当教員が説明する。



- ・本講義は、会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
- ・簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

## 簿記 2

### Bookkeeping 2

佐藤 亨 (SATO TORU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX079
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1810
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	簿記 1
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	会計ファイナンス学科 1 年次 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

#### 授業の目標 / Course Objectives

基本的な複式簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The goal of this course is to understand the mechanism and role of basic double-entry bookkeeping.

#### 授業の内容 / Course Contents

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表はどのように有用か、近年のトピック等について、適宜講義を行う。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that makes it possible to provide useful accounting information to parties inside and outside a company by classifying, organizing, and recording complex corporate transactions based on a small number of transaction elements. In this course, students will learn the basic mechanism of double-entry bookkeeping. The lectures on the usefulness of financial statements and recent topics are given. Opportunities will be provided for students to work on problem exercises in class.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：その他の債権と債務
- 2回：受取手形と支払手形
- 3回：有形固定資産(1)
- 4回：有形固定資産(2)
- 5回：貸倒損失と貸倒引当金
- 6回：資本
- 7回：収益と費用(1)
- 8回：収益と費用(2)
- 9回：税金、伝票(1)
- 10回：伝票(2)
- 11回：財務諸表(1)決算と決算手続
- 12回：財務諸表(2)試算表の作成、棚卸表の作成と決算整理事項
- 13回：財務諸表(3)精算表の作成、財務諸表の作成
- 14回：振り返り

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前に以下に示されているテキストの「学習のポイント」等を読み、授業後は問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への出席ならびに積極的参加、ミニテスト、課題の提出:30%

・筆記試験は、すべての簿記2のクラスに共通の問題を使って実施される。・筆記試験は、テキスト欄に掲載した「渡部裕巨・片山覚・北村敬子『検定簿記ワークブック3級商業簿記』中央経済社（最新版）」の内容に基づいて出題されるが、詳細は別途掲示を行う。・平常点の評価項目等の詳細は担当者によって異なるため、開講時（9月）に担当教員からのアナウンスを確認すること。

#### テキスト / Textbooks

渡部裕巨・片山覚・北村敬子 『検定簿記ワークブック3級商業簿記検定版第10版』 中央経済社 2024

○

- ・当該ワークブックは(簿記1及び)簿記2のすべてのクラスに共通の教材である。
- ・筆記試験は当該ワークブックの内容に基づいて出題されるため、各自購入して取り組むこと。
- ・各回の授業で使用するテキストは担当者によって異なるため、開講時(9月)に各担当者の指示に従って購入すること。

#### 参考文献 / Readings

各担当教員から適宜紹介する。

#### その他 / Others

- ・上記授業計画は一例である。開講時に各担当教員が説明する。

- ・本講義は、会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
- ・簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

# ファイナンス基礎

Business and Finance

長原 徹 (NAGAHARA TORU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX080  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項） 完全対面で実施する。ミックス型対応は実施しないので要注意。  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX1610  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

現在価値の概念を理解し、その計算ができるようになる。また、企業経営において現在価値の考え方がどのように活用されているか理解する。

Understand the concept of present value and how to calculate it. Also understand how the concept of present value is utilized in business management.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、ファイナンスにおける基本的な考え方（リターンとリスク、現在価値等）を数値例を交えて紹介するとともに、個人の資産選択行動や企業金融についての代表的な理論を解説する。また、数学や統計学の簡単な知識を復習し、ファイナンスにおいてそうした知識がどのように活用されるか等を紹介する。

This lecture introduces the fundamental concepts of finance (return, risk, present value, etc.) with some numerical examples to understand the representative theory behind individual investor choice behavior and corporate finance. Further, there will be a simple review of mathematics and statistics and how this knowledge is used in finance and other fields will be introduced.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：この授業の目的、ファイナンスの知識が経済や企業の分析にどのように活用されるかを紹介
- 2回：投資のリターン
- 3回：投資のリスク
- 4回：現在価値と将来価値
- 5回：正味現在価値ルールによる投資判断（1）概念の理解
- 6回：正味現在価値ルールによる投資判断（2）応用
- 7回：正味現在価値ルールによる投資判断（3）計算演習
- 8回：企業金融（1）MM命題
- 9回：企業金融（2）ペッキングオーダー理論
- 10回：企業価値評価（1）資本コスト
- 11回：企業価値評価（2）加重平均資本コスト
- 12回：デリバティブ（1）先物、オプション
- 13回：デリバティブ（2）計算演習
- 14回：総まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の資料および小テストを復習すること

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 小テスト（3回）:30%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

# 社会経済学 1

Political Economy 1

資本主義の基礎理論

佐々木 隆治 (SASAKI RYUJI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX081
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX2110
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済学科 A～G， P 組 経済政策学科

## 授業の目標 / Course Objectives

学生が資本主義を分析するための理論的な基礎を学習することで学位授与方針の学修成果に掲げる「経済現象を歴史的・理論的に考察する」能力を身につけることができる。

Students will learn the theoretical fundamentals for analyzing capitalism to acquire the ability to historically and theoretically examine the economic phenomena necessary to achieve the learning required for the degree.

## 授業の内容 / Course Contents

この講義は、資本主義の成り立ちやその構造をわかりやすく説明します。経済学にはいろいろな考え方があります。この講義はマルクス経済学の立場から資本主義とは何かについて接近します。春学期では、商品あるいは貨幣とは何かといったことから解き明かし、次に労働力はなぜ商品となるのか、資本とは何か、剰余価値はどうして生まれるかなど資本主義という社会を理解するうえで必要な基礎的な用語を順序立てて講義します。こうした学びをつうじて、現代社会がかかえる諸問題、たとえば長時間労働、不安定就労、賃金の決定、技術革新が労働者に及ぼす影響といった諸問題を考えることができます。現実には複雑です。その現実を分析する道具（理論）を身につけ、その道具を使って現実を考えることが重要なのです。この講義はそのための考える手

立てを与えます。

This lecture explains in an easy-to-understand manner the origins of capitalism and its structure. There are various concepts regarding economics. Students consider what capitalism is from the perspective of Marxian economics in this lecture. During the spring semester what a commodity and currency are is explained, and then the basic terminology necessary for understanding why labor is a commodity, what is capital, what creates surplus value, and the society called capitalism are discussed in order. Learning this allows students to consider the problems faced by modern society, such as the effect on labor of long working hours, unstable employment, the setting of pay, and technological innovation. Reality is complex. It is important to acquire the tools (theory) to analyze that reality and then use those tools to consider the reality. This lecture gives students a way to do that.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：商品論 1
- 3回：商品論 2
- 4回：商品論 3
- 5回：貨幣論 1
- 6回：貨幣論 2
- 7回：貨幣論 3
- 8回：剰余価値論 1
- 9回：剰余価値論 2
- 10回：剰余価値論 3
- 11回：賃金論
- 12回：資本蓄積論 1
- 13回：資本蓄積論 2
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に指示される参考書等で不明の用語を調べ確認してください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 課題、小テスト、リアクションペーパー:20%

### テキスト / Textbooks

- 佐々木隆治 『カール・マルクス』 ちくま新書 2016 ○
- 大谷禎之介 『図解 社会経済学』 桜井書店 2001 ○

### 参考文献 / Readings

- 斎藤幸平 『ゼロからの『資本論』』 NHK出版 2023 9784140886908
- 佐々木隆治 『世界の思想シリーズ マルクス 資本論』 角川選書 2018 9784047036284



## 社会経済学 2

Political Economy 2

資本主義の基礎理論

佐々木 隆治 (SASAKI RYUJI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX082
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX2110
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済学科 A～G， P 組 経済政策学科

### 授業の目標 / Course Objectives

学生が資本主義を分析するための理論的な基礎を学習することで学位授与方針の学修成果に掲げる「経済現象を歴史的・理論的に考察する」能力を身につけることができる。

Students will learn the theoretical fundamentals for analyzing capitalism to acquire the ability to historically and theoretically examine the economic phenomena necessary to achieve the learning required for the degree.

### 授業の内容 / Course Contents

この講義は、資本主義の成り立ちやその構造をわかりやすく説明します。経済学にはいろいろな考え方があります。この講義は、マルクス経済学の立場から資本主義とは何かについて接近します。秋学期では、資本主義を社会全体の視点から分析し、資本の再生産とは何か、利潤率の動向、銀行・信用制度の形成、そして中央銀行の金融政策などより現実に近い資本主義の仕組みや再生産と信用制度との関係を講義します。資本主義は巨大な生産力の発展をもたらしましたが、他方では周期的に恐慌をひきおこしてきました。こうした資本主義の様相を現代の経済問題と絡めながら考察していきます。現実には複雑です。その現実を分析する道具（理論）を身につけ、その道具を使って現実を考えることが重要なのです。この講義はそのための考える手立てを与えます。

す。

This lecture explains in an easy-to-understand manner the origins of capitalism and its structure. There are various concepts regarding economics. In this lecture students consider what capitalism is from the perspective of Marxian economics. During the fall semester, in this lecture capitalism is analyzed from an overall social perspective so that the subject of what is capitalistic reproduction, the profit rate trends, formation of the banking and credit system, and the central bank financial policies, etc., can be discussed looking at the relationships among a near realistic capitalism framework, reproduction, and the credit system. Capitalism has brought the development of a huge production capacity, but it has also caused periodic economic panics. These aspects of capitalism are considered in conjunction with modern economic problems. Reality is complex. It is important to acquire the tools (theory) to analyze that reality and then use those tools to consider the reality. This lecture gives students a way to do that.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：資本循環
- 3 回：資本回転
- 4 回：社会的総資本の再生産 1
- 5 回：社会的総資本の再生産 2
- 6 回：社会的総資本の再生産 3
- 7 回：利潤 1
- 8 回：利潤 2
- 9 回：商業資本
- 10 回：利子生み資本 1
- 11 回：利子生み資本 2
- 12 回：地代 1
- 13 回：地代 2
- 14 回：収入源泉と階級

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に指示される参考書等で不明の用語を調べ確認してください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 複数回の確認テストなど:20%

### テキスト / Textbooks

- 佐々木隆治 『世界の思想シリーズ マルクス 資本論第3巻』 角川選書 2024年 ○
- 大谷禎之介 『社会経済学』 桜井書店 2001年 ○

### 参考文献 / Readings

# 社会経済学 1

Political Economy 1

資本主義の基礎理論

川崎 志帆 (KAWASAKI SHIHO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX083
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX2110
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済学科H～O組 会計ファイナンス学科

## 授業の目標 / Course Objectives

学生が資本主義を分析するための理論的な基礎を学習することで学位授与方針の学修成果に掲げる「経済現象を歴史的・理論的に考察する」能力を身につけることができる。

Students will learn the theoretical fundamentals for analyzing capitalism to acquire the ability to historically and theoretically examine the economic phenomena necessary to achieve the learning required for the degree.

## 授業の内容 / Course Contents

この講義は、資本主義の成り立ちやその構造をわかりやすく説明します。経済学にはいろいろな考え方があります。この講義はマルクス経済学の立場から資本主義とは何かについて接近します。春学期では、商品あるいは貨幣とは何かといったことから解き明かし、次に労働力はなぜ商品となるのか、資本とは何か、剰余価値はどうして生まれるかなど資本主義という社会を理解するうえで必要な基礎的な用語を順序立てて講義します。こうした学びをつうじて、現代社会がかかえる諸問題、たとえば長時間労働、不安定就労、賃金の決定、技術革新が労働者に及ぼす影響といった諸問題を考えることができます。現実には複雑です。その現実を分析する道具（理論）を身につけ、その道具を使って現実を考えることが重要なのです。この講義はそのための考える手

立てを与えます。

This lecture explains in an easy-to-understand manner the origins of capitalism and its structure. There are various concepts regarding economics. Students consider what capitalism is from the perspective of Marxian economics in this lecture. During the spring semester what a commodity and currency are is explained, and then the basic terminology necessary for understanding why labor is a commodity, what is capital, what creates surplus value, and the society called capitalism are discussed in order. Learning this allows students to consider the problems faced by modern society, such as the effect on labor of long working hours, unstable employment, the setting of pay, and technological innovation. Reality is complex. It is important to acquire the tools (theory) to analyze that reality and then use those tools to consider the reality. This lecture gives students a way to do that.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：商品論 1
- 3回：商品論 2
- 4回：商品論 3
- 5回：貨幣論 1
- 6回：貨幣論 2
- 7回：貨幣論 3
- 8回：剰余価値論 1
- 9回：剰余価値論 2
- 10回：剰余価値論 3
- 11回：賃金論
- 12回：資本蓄積論 1
- 13回：資本蓄積論 2
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に指示される参考書等で不明の用語を調べ確認してください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 課題、小テスト、リアクションペーパー:20%

### テキスト / Textbooks

- 佐々木隆治 『カール・マルクス』 ちくま新書 2016 ○
- 大谷禎之介 『図解 社会経済学』 桜井書店 2001 ○

### 参考文献 / Readings

- 斎藤幸平 『ゼロからの『資本論』』 NHK出版 2023 9784140886908
- 佐々木隆治 『世界の思想シリーズ マルクス 資本論』 角川選書 2018 9784047036284

## 社会経済学 2

Political Economy 2

資本主義の基礎理論

川崎 志帆 (KAWASAKI SHIHO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX084
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX2110
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済学科H～O組 会計ファイナンス学科

### 授業の目標 / Course Objectives

学生が資本主義を分析するための理論的な基礎を学習することで学位授与方針の学修成果に掲げる「経済現象を歴史的・理論的に考察する」能力を身につけることができる。

Students will learn the theoretical fundamentals for analyzing capitalism to acquire the ability to historically and theoretically examine the economic phenomena necessary to achieve the learning required for the degree.

### 授業の内容 / Course Contents

この講義は、資本主義の成り立ちやその構造をわかりやすく説明します。経済学にはいろいろな考え方があります。この講義は、マルクス経済学の立場から資本主義とは何かについて接近します。秋学期では、資本主義を社会全体の視点から分析し、資本の再生産とは何か、利潤率の動向、銀行・信用制度の形成、そして中央銀行の金融政策などより現実に近い資本主義の仕組みや再生産と信用制度との関係を講義します。資本主義は巨大な生産力の発展をもたらしましたが、他方では周期的に恐慌をひきおこしてきました。こうした資本主義の様相を現代の経済問題と絡めながら考察していきます。現実には複雑です。その現実を分析する道具（理論）を身につけ、その道具を使って現実を考えることが重要なのです。この講義はそのための考える手立てを与えます。

す。

This lecture explains in an easy-to-understand manner the origins of capitalism and its structure. There are various concepts regarding economics. In this lecture students consider what capitalism is from the perspective of Marxian economics. During the fall semester, in this lecture capitalism is analyzed from an overall social perspective so that the subject of what is capitalistic reproduction, the profit rate trends, formation of the banking and credit system, and the central bank financial policies, etc., can be discussed looking at the relationships among a near realistic capitalism framework, reproduction, and the credit system. Capitalism has brought the development of a huge production capacity, but it has also caused periodic economic panics. These aspects of capitalism are considered in conjunction with modern economic problems. Reality is complex. It is important to acquire the tools (theory) to analyze that reality and then use those tools to consider the reality. This lecture gives students a way to do that.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：資本循環
- 3 回：資本回転
- 4 回：社会的総資本の再生産 1
- 5 回：社会的総資本の再生産 2
- 6 回：社会的総資本の再生産 3
- 7 回：利潤 1
- 8 回：利潤 2
- 9 回：商業資本
- 10 回：利子生み資本 1
- 11 回：利子生み資本 2
- 12 回：地代 1
- 13 回：地代 2
- 14 回：収入源泉と階級

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に指示される参考書等で不明の用語を調べ確認してください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 複数回の確認テストなど:20%

### テキスト / Textbooks

- 佐々木隆治 『世界の思想シリーズ マルクス 資本論第3巻』 角川選書 2024年 ○
- 大谷禎之介 『社会経済学』 桜井書店 2001年 ○

### 参考文献 / Readings

# 初級ミクロ経済学 1

## Introductory Microeconomics 1

ミクロ経済学の基本的な考え方とその基礎を学ぶ

長原 徹 (NAGAHARA TORU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX087

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 経済学科 A～G， P 組 経済政策学科

### 授業の目標 / Course Objectives

ミクロ経済学の基本的な考え方を理解すること、そのミクロ経済学の基本的な考え方を使って、経済の具体的な問題にアプローチし、分析できるようになること

The objective of this course is to understand the basic concepts of microeconomics and use those basic concepts to be able to approach and analyze specific economic problems.

### 授業の内容 / Course Contents

ミクロ経済学の入門的な内容を講義する。ミクロ経済学とは、個々の消費者や生産者がどのような経済的な意思決定を行っているのか、その結果として市場において商品の価格や取引量がどのように決まっているのかなどを分析する学問である。この授業では、市場における需要と供給の作用がどのように商品の価格や取引数量を決定しているのかや、その時に消費者や生産者の厚生がどうなるのか、また政府の様々な規制や税などは経済にどのような影響を与えているのか、などの問題を考える。

The lecture covers the introductory contents for microeconomics. Microeconomics is the field of study that examines how individual consumers and producers make their economic decisions and how the product price and

transaction volumes are decided in the resulting market. In this class students consider such problems as how the supply and demand actions in the market determine the product price and transaction volume, how that affects the formation of consumers and producers, and what impact the various regulations and taxes, etc., of the government have on the economy.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：市場における需要と供給の作用
- 3回：弾力性とその応用
- 4回：需要、供給、および政府の政策
- 5回：消費者、生産者と市場の効率性
- 6回：課税の費用
- 7回：国際貿易 1
- 8回：国際貿易 2
- 9回：外部性
- 10回：公共財と共有資源
- 11回：税制の設計
- 12回：生産の費用
- 13回：競争市場における企業
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

講義はパワーポイントを用いて行う。パワーポイントは授業前あるいは授業後に Canvas LMS にアップする。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :80%  
 平常点割合 :20% リアクションペーパー・小テスト:20%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

グレゴリー・マンキュー 『マンキュー経済学ミクロ編』 東洋経済新報社 2013  
 神取道宏 『ミクロ経済学の力』 日本評論社 2014



# 初級ミクロ経済学 2

## Introductory Microeconomics 2

ミクロ経済学の基本的な考え方とその内容を学ぶ

長原 徹 (NAGAHARA TORU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX088
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX2110
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済学科 A～G， P 組 経済政策学科

### 授業の目標 / Course Objectives

ミクロ経済学の基本的な考え方を理解すること、そのミクロ経済学の基本的な考え方を使って、経済の具体的な問題にアプローチし、分析できるようになること

The objective of this course is to understand the basic concepts of microeconomics and use those basic concepts to be able to approach and analyze specific economic problems.

### 授業の内容 / Course Contents

ミクロ経済学の入門的な内容を講義する。ミクロ経済学とは、個々の消費者や生産者がどのような経済的な意思決定を行っているのか、その結果として市場において商品の価格や取引量がどのように決まっているのか、などを分析する学問である。この授業では、独占や寡占の際に商品の価格や取引数量がどのように決定されているのかや、生産要素市場で価格や取引数量がどのように決定されるのか、などの問題を考える。その後少し進んだ話題、消費者の最適意思決定や不確実性と情報の経済学などの問題を考える。

The lecture covers the introductory contents for microeconomics. Microeconomics is the field of study that examines how individual consumers and producers make their economic decisions and how the product price and

transaction volumes are decided in the resulting market. In this class students consider such problems as how monopoly and oligopoly determine the product price and transaction volume and how prices and transaction volumes are determined in

the production factors market. After that, slightly more advanced topics will be considered, such as consumer optimum decision making, uncertainty, and the economics of information.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション

2回：独占

3回：独占的競争

4回：寡占

5回：生産要素市場

6回：勤労所得と差別

7回：所得不平等と貧困

8回：消費者選択の理論1

9回：消費者選択の理論2

10回：ゲーム理論入門

11回：不確実性と情報の経済学1

12回：不確実性と情報の経済学2

13回：社会的選択の理論入門

14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

講義はパワーポイントを用いて行う。パワーポイントは授業前あるいは授業後に CanvasLMS にアップする。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパー・小テスト[クイズ]:20%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

グレゴリー・マンキュー 『マンキュー経済学ミクロ編』 東洋経済新報社 2013

神取道宏 『ミクロ経済学の力』 日本評論社 2014

# 初級ミクロ経済学 1

## Introductory Microeconomics 1

ミクロ経済学の基本的な考え方とその基礎を学ぶ

高橋 衛 (TAKAHASHI MAMORU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX089
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX2110
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済学科H～O組 会計ファイナンス学科

### 授業の目標 / Course Objectives

ミクロ経済学の基本的な考え方を理解すること、そのミクロ経済学の基本的な考え方を使って、経済の具体的な問題にアプローチし、分析できるようになること

The objective of this course is to understand the basic concepts of microeconomics and use those basic concepts to be able to approach and analyze specific economic problems.

### 授業の内容 / Course Contents

ミクロ経済学の入門的な内容を講義する。ミクロ経済学とは、個々の消費者や生産者がどのような経済的な意思決定を行っているのか、その結果として市場において商品の価格や取引量がどのように決まっているのかなどを分析する学問である。この授業では、市場における需要と供給の作用がどのように商品の価格や取引数量を決定しているのかや、その時に消費者や生産者の厚生がどうなるのか、また政府の様々な規制や税などは経済にどのような影響を与えているのか、などの問題を考える。

The lecture covers the introductory contents for microeconomics. Microeconomics is the field of study that examines how individual consumers and producers make their economic decisions and how the product price and

transaction volumes are decided in the resulting market. In this class students consider such problems as how the supply and demand actions in the market determine the product price and transaction volume, how that affects the formation of consumers and producers, and what impact the various regulations and taxes, etc., of the government have on the economy.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：市場における需要と供給の作用
- 3回：弾力性とその応用
- 4回：需要、供給、および政府の政策
- 5回：消費者、生産者と市場の効率性
- 6回：課税の費用
- 7回：国際貿易 1
- 8回：国際貿易 2
- 9回：外部性
- 10回：公共財と共有資源
- 11回：税制の設計
- 12回：生産の費用
- 13回：競争市場における企業
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

講義はパワーポイントを用いて行う。パワーポイントは授業前あるいは授業後に Canvas LMS にアップする。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :80%  
平常点割合 :20% リアクションペーパー・小テスト:20%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

グレゴリー・マンキュー 『マンキュー経済学ミクロ編』 東洋経済新報社 2013  
神取道宏 『ミクロ経済学の力』 日本評論社 2014

# 初級ミクロ経済学 2

## Introductory Microeconomics 2

ミクロ経済学の基本的な考え方とその内容を学ぶ

高橋 衛 (TAKAHASHI MAMORU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX090
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX2110
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済学科H～O組 会計ファイナンス学科

### 授業の目標 / Course Objectives

ミクロ経済学の基本的な考え方を理解すること、そのミクロ経済学の基本的な考え方を使って、経済の具体的な問題にアプローチし、分析できるようになること

The objective of this course is to understand the basic concepts of microeconomics and use those basic concepts to be able to approach and analyze specific economic problems.

### 授業の内容 / Course Contents

ミクロ経済学の入門的な内容を講義する。ミクロ経済学とは、個々の消費者や生産者がどのような経済的な意思決定を行っているのか、その結果として市場において商品の価格や取引量がどのように決まっているのか、などを分析する学問である。この授業では、独占や寡占の際に商品の価格や取引数量がどのように決定されているのかや、生産要素市場で価格や取引数量がどのように決定されるのか、などの問題を考える。その後少し進んだ話題、消費者の最適な意思決定や不確実性と情報の経済学などの問題を考える。

The lecture covers the introductory contents for microeconomics. Microeconomics is the field of study that examines how individual consumers and producers make their economic decisions and how the product price and

transaction volumes are decided in the resulting market. In this class students consider such problems as how monopoly and oligopoly determine the product price and transaction volume and how prices and transaction volumes are determined in

the production factors market. After that, slightly more advanced topics will be considered, such as consumer optimum decision making, uncertainty, and the economics of information.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション

2 回：独占

3 回：独占的競争

4 回：寡占

5 回：生産要素市場

6 回：勤労所得と差別

7 回：所得不平等と貧困

8 回：消費者選択の理論 1

9 回：消費者選択の理論 2

10 回：ゲーム理論入門

11 回：不確実性と情報の経済学 1

12 回：不確実性と情報の経済学 2

13 回：社会的選択の理論入門

14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

講義はパワーポイントを用いて行う。パワーポイントは授業前あるいは授業後に CanvasLMS にアップする。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパー・小テスト[クイズ]:20%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

グレゴリー・マンキュー 『マンキュー経済学ミクロ編』 東洋経済新報社 2013

神取道宏 『ミクロ経済学の力』 日本評論社 2014

# 初級マクロ経済学 1

Introductory Macroeconomics 1

二宮 健史郎 (NINOMIYA KENSHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX093  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2110  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： 経済学科 A～G， P 組 経済政策学科

## 授業の目標 / Course Objectives

現代社会を取り巻くさまざまな経済問題とかがかわらせながら、マクロ経済学の基礎を学ぶ。経済をマクロの視点で見ることの意義を理解し、ケインズ的なマクロ経済学の理論に基づいて、所得や雇用がどのように決まるのかを理解できるようになることを目標とする。

This course aims to understand the significance of looking at the modern economy from a macroeconomic perspective and how income and employment are determined based on Keynesian macroeconomic theory.

## 授業の内容 / Course Contents

初級マクロ経済学 1 では、ケインズ的なマクロ経済学理論の基礎を学ぶ。マクロ経済指標の意味と内容を理解するとともに、GDP などがどのように決まるのか、失業はなぜ生じるのか、金融・財政政策の理論的基礎はどのようなものかなどといった問題を体系的に扱う。

Introductory Macroeconomics 1 provides a basic introduction to Keynesian macroeconomic theory. In addition to understanding the meaning and content of macroeconomic indicators, the course systematically addresses issues such as how GDP and other factors are determined, why unemployment occurs, and the theoretical basis for monetary and fiscal policy.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：ガイダンスとイントロダクション
- 2回：経済学の歴史とマクロ経済学
- 3回：GDPを理解する1
- 4回：GDPを理解する2
- 5回：消費や投資などの決まり方1
- 6回：消費や投資などの決まり方2
- 7回：消費や投資などの決まり方3
- 8回：所得水準の決まり方1
- 9回：所得水準の決まり方2
- 10回：利子率の決まり方1
- 11回：利子率の決まり方2
- 12回：利子率の決まり方3
- 13回：IS-LM分析1
- 14回：IS-LM分析2

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

マクロ経済学は理論を扱うため、理論的思考の積み重ねが重要である。毎回の講義の内容を十分な時間をかけて復習し理解していなければ、次回以降の講義が理解できなくなる。予習は、テキストの該当箇所を何度も読んでおくこと。授業内で示す参考文献・資料等も積極的に活用すること。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 授業内のリアクション課題:20%

**テキスト / Textbooks**

中谷巖 『マクロ経済学入門 第2版（日経文庫）』 日本経済新聞社 2007 9784532110307 ○

**参考文献 / Readings****学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

授業内のリアクション課題はLMSを通じて出題の予定なので、LMSにアクセスできる情報機器（PCやスマートフォン等）の持参が望ましい。



# 初級マクロ経済学 2

Introductory Macroeconomics 2

二宮 健史郎 (NINOMIYA KENSHIRO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX094
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX2110
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済学科 A～G, P 組 経済政策学科

## 授業の目標 / Course Objectives

現代社会を取り巻くさまざまな経済問題とのかかわらせながら、現代マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学 1 を基礎に、現代的なマクロ経済学の展開と論争を追い、現代のさまざまな課題にたいしてマクロ経済学がどのように応えていこうとしているのかを理解することが目標である。

Based on Introductory Macroeconomics 1, this course aims to understand the developments in macroeconomics and how macroeconomics tries to respond to various modern macroeconomic problems.

## 授業の内容 / Course Contents

マクロ経済学 1 の理解の上に乗って、マクロ経済学 2 では、為替、貿易、資金の国際移動などといったオープンマクロ経済学、インフレ・デフレと失業、景気変動など現代的課題への対処、マクロ経済学の最近の展開等を扱う。また、いわゆるソローの成長モデルと技術進歩についても解説する。

Building on the understanding of the course Introductory Macroeconomics 1, Introductory Macroeconomics 2 will cover open macroeconomics, such as currency exchange rates, trade, and the international flow of funds. Students also learn about modern macroeconomic problems such as inflation/deflation, unemployment, and economic fluctuations. In addition, this course explains Solow's growth model and technological progress

analysis.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：ガイダンスとイントロダクション
- 2回：IS-LM 分析 1
- 3回：IS-LM 分析 2
- 4回：オープンエコノミーのマクロ経済学 1
- 5回：オープンエコノミーのマクロ経済学 2
- 6回：所得と物価水準の決まり方 1
- 7回：所得と物価水準の決まり方 2
- 8回：インフレとデフレ 1
- 9回：インフレとデフレ 2
- 10回：より進んだ消費と投資の理論 1
- 11回：より進んだ消費と投資の理論 2
- 12回：景気変動と経済成長
- 13回：ソローの成長モデルと技術進歩 1
- 14回：ソローの成長モデルと技術進歩 2

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

マクロ経済学は理論を扱うため、理論的思考の積み重ねが重要である。毎回の講義の内容を十分な時間をかけて復習し理解していなければ、次回以降の講義が理解できなくなる。予習は、テキストの該当箇所を何度も読んでおくこと。また授業内で示される参考文献や資料も積極的に活用すること。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 授業内のリアクション課題:20%

**テキスト / Textbooks**

中谷巖 『マクロ経済学入門 第2版（日経文庫）』 日本経済新聞社 2007 9784532110307 ○

**参考文献 / Readings****履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

初級マクロ経済学 1 の基本的内容を理解していることが望ましい。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

授業内のリアクション課題は LMS を通じて出題の予定なので、LMS にアクセスできる情報機器（PC やスマートフォン）の持参が望ましい。

# 初級マクロ経済学 1

Introductory Macroeconomics 1

池田 毅 (IKEDA TAKESHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX095
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX2110
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済学科H～O組 会計ファイナンス学科

## 授業の目標 / Course Objectives

現代社会を取り巻くさまざまな経済問題とかわらせながら、マクロ経済学の基礎を学ぶ。経済をマクロの視点で見ることの意義を理解し、ケインズ的なマクロ経済学の理論に基づいて、所得や雇用がどのように決まるのかを理解できるようになることを目標とする。

This course aims to understand the significance of looking at the modern economy from a macroeconomic perspective and how income and employment are determined based on Keynesian macroeconomic theory.

## 授業の内容 / Course Contents

初級マクロ経済学 1 では、ケインズ的なマクロ経済学理論の基礎を学ぶ。マクロ経済指標の意味と内容を理解するとともに、GDP などがどのように決まるのか、失業はなぜ生じるのか、金融・財政政策の理論的基礎はどのようなものかなどといった問題を体系的に扱う。

Introductory Macroeconomics 1 provides a basic introduction to Keynesian macroeconomic theory. In addition to understanding the meaning and content of macroeconomic indicators, the course systematically addresses issues such as how GDP and other factors are determined, why unemployment occurs, and the theoretical basis for monetary and fiscal policy.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：ガイダンスとイントロダクション
- 2回：経済学の歴史とマクロ経済学
- 3回：GDP を理解する 1
- 4回：GDP を理解する 2
- 5回：消費や投資などの決まり方 1
- 6回：消費や投資などの決まり方 2
- 7回：消費や投資などの決まり方 3
- 8回：所得水準の決まり方 1
- 9回：所得水準の決まり方 2
- 10回：利子率の決まり方 1
- 11回：利子率の決まり方 2
- 12回：利子率の決まり方 3
- 13回：IS-LM 分析 1
- 14回：IS-LM 分析 2

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

マクロ経済学は理論を扱うため、理論的思考の積み重ねが重要である。毎回の講義の内容を十分な時間をかけて復習し理解していなければ、次回以降の講義が理解できなくなる。予習は、テキストの該当箇所を何度も読んでおくこと。授業内で示す参考文献・資料等も積極的に活用すること。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 授業内のリアクション課題:20%

**テキスト / Textbooks**

中谷巖 『マクロ経済学入門 第2版（日経文庫）』 日本経済新聞社 2007 9784532110307 ○

**参考文献 / Readings****学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

授業内のリアクション課題は LMS を通じて出題の予定なので、LMS にアクセスできる情報機器（PC やスマートフォン等）の持参が望ましい。

# 初級マクロ経済学 2

Introductory Macroeconomics 2

池田 毅 (IKEDA TAKESHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX096  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2110  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： 経済学科H～O組 会計ファイナンス学科

## 授業の目標 / Course Objectives

現代社会を取り巻くさまざまな経済問題とのかかわらせながら、現代マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学 1 を基礎に、現代的なマクロ経済学の展開と論争を追い、現代のさまざまな課題にたいしてマクロ経済学がどのように応えていこうとしているのかを理解することが目標である。

Based on Introductory Macroeconomics 1, this course aims to understand the developments in macroeconomics and how macroeconomics tries to respond to various modern macroeconomic problems.

## 授業の内容 / Course Contents

マクロ経済学 1 の理解の上で、マクロ経済学 2 では、為替、貿易、資金の国際移動などといったオープンマクロ経済学、インフレ・デフレと失業、景気変動など現代的課題への対処、マクロ経済学の最近の展開等を扱う。また、いわゆるソローの成長モデルと技術進歩についても解説する。

Building on the understanding of the course Introductory Macroeconomics 1, Introductory Macroeconomics 2 will cover open macroeconomics, such as currency exchange rates, trade, and the international flow of funds. Students also learn about modern macroeconomic problems such as inflation/deflation, unemployment, and economic fluctuations. In addition, this course explains Solow's growth model and technological progress

analysis.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：ガイダンスとイントロダクション
- 2回：IS-LM 分析 1
- 3回：IS-LM 分析 2
- 4回：オープンエコノミーのマクロ経済学 1
- 5回：オープンエコノミーのマクロ経済学 2
- 6回：所得と物価水準の決まり方 1
- 7回：所得と物価水準の決まり方 2
- 8回：インフレとデフレ 1
- 9回：インフレとデフレ 2
- 10回：より進んだ消費と投資の理論 1
- 11回：より進んだ消費と投資の理論 2
- 12回：景気変動と経済成長
- 13回：ソローの成長モデルと技術進歩 1
- 14回：ソローの成長モデルと技術進歩 2

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

マクロ経済学は理論を扱うため、理論的思考の積み重ねが重要である。毎回の講義の内容を十分な時間をかけて復習し理解していなければ、次回以降の講義が理解できなくなる。予習は、テキストの該当箇所を何度も読んでおくこと。また授業内で示される参考文献や資料も積極的に活用すること。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 授業内のリアクション課題:20%

**テキスト / Textbooks**

中谷巖 『マクロ経済学入門 第2版（日経文庫）』 日本経済新聞社 2007 9784532110307 ○

**参考文献 / Readings****履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

初級マクロ経済学 1 の基本的内容を理解していることが望ましい。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

授業内のリアクション課題は LMS を通じて出題の予定なので、LMS にアクセスできる情報機器（PC やスマートフォン）の持参が望ましい。

# 中級マクロ経済学

Intermediate Macroeconomics

西林 勝吾 (NISHIBAYASHI SHOGO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX098  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX3110  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

戦後のマクロ経済学の展開は、ケインズ経済学の受容、拡張、否定という過程をたどったが、それによって現代の経済学が得たもの、失ったものについて総括する。

The post-war development of macroeconomics followed the process of accepting, expanding, and then rejecting Keynesian economics, and what has been gained and lost by modern economics from this is summarized.

## 授業の内容 / Course Contents

主にケインズ以後のマクロ経済学の各種モデルを解説する。これらの枠組みを用いて、財政政策や金融政策の効果および有効性について考える。

なお、基本的なケインジアン・モデル（45度線モデルと IS-LM モデル）は学習済みという前提で講義を進めるため、受講にあたっては留意されたい。

Mainly a variety of post-Keynesian macroeconomic models will be explained. These frameworks will be used to consider the effects and effectiveness of monetary policy and fiscal policy.

This lecture proceeds with the assumption that the basic Keynesian models (45-degree line model, IS-LM model) have been studied, so please take note of that when attending this course.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：ガイダンス
- 2回：開放経済（1）
- 3回：開放経済（2）
- 4回：マンデル＝フレミング・モデル（1）
- 5回：マンデル＝フレミング・モデル（2）
- 6回：総需要-総供給モデル（1）
- 7回：総需要-総供給モデル（2）
- 8回：総需要-総供給モデル（3）
- 9回：経済成長（1）ソロー・モデル
- 10回：経済成長（2）ハロッド＝ドーマー・モデル
- 11回：フィリップス曲線と自然失業率仮説
- 12回：ルーカス批判と合理的期待形成仮説、リカード＝バローの等価定理
- 13回：ニュー・ケインジアン
- 14回：まとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

基礎知識の積み重ねが重要となるため、毎回、スライドの内容を復習すること。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :80%  
 平常点割合 :20% リアクションペーパー:20%

**テキスト / Textbooks**

使用しない。

**参考文献 / Readings**

講義中に適宜、紹介する。



# 初級ミクロ経済学 1

## Introductory Microeconomics 1

ミクロ経済学の基本的な考え方とその基礎を学ぶ

高橋 衛 (TAKAHASHI MAMORU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX099
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX2110
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2015 年度以前入学者対象

### 授業の目標 / Course Objectives

ミクロ経済学の基本的な考え方を理解すること、そのミクロ経済学の基本的な考え方を使って、経済の具体的な問題にアプローチし、分析できるようになること

The objective of this course is to understand the basic concepts of microeconomics and use those basic concepts to be able to approach and analyze specific economic problems.

### 授業の内容 / Course Contents

ミクロ経済学の入門的な内容を講義する。ミクロ経済学とは、個々の消費者や生産者がどのような経済的な意思決定を行っているのか、その結果として市場において商品の価格や取引量がどのように決まっているのかなどを分析する学問である。この授業では、市場における需要と供給の作用がどのように商品の価格や取引数量を決定しているのかや、その時に消費者や生産者の厚生がどうなるのか、また政府の様々な規制や税などは経済にどのような影響を与えているのか、などの問題を考える。

The lecture covers the introductory contents for microeconomics. Microeconomics is the field of study that examines how individual consumers and producers make their economic decisions and how the product price and

transaction volumes are decided in the resulting market. In this class students consider such problems as how the supply and demand actions in the market determine the product price and transaction volume, how that affects the formation of consumers and producers, and what impact the various regulations and taxes, etc., of the government have on the economy.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：市場における需要と供給の作用
- 3回：弾力性とその応用
- 4回：需要、供給、および政府の政策
- 5回：消費者、生産者と市場の効率性
- 6回：課税の費用
- 7回：国際貿易 1
- 8回：国際貿易 2
- 9回：外部性
- 10回：公共財と共有資源
- 11回：税制の設計
- 12回：生産の費用
- 13回：競争市場における企業
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

講義はパワーポイントを用いて行う。パワーポイントは授業前あるいは授業後に Canvas LMS にアップする。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :80%  
 平常点割合 :20% リアクションペーパー・小テスト:20%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

グレゴリー・マンキュー 『マンキュー経済学ミクロ編』 東洋経済新報社 2013  
 神取道宏 『ミクロ経済学の力』 日本評論社 2014

# 初級マクロ経済学 1

Introductory Macroeconomics 1

池田 毅 (IKEDA TAKESHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX100
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX2110
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2015 年度以前入学者

## 授業の目標 / Course Objectives

現代社会を取り巻くさまざまな経済問題とかわらせながら、マクロ経済学の基礎を学ぶ。経済をマクロの視点で見ることの意義を理解し、ケインズ的なマクロ経済学の理論に基づいて、所得や雇用がどのように決まるのかを理解できるようになることを目標とする。

This course aims to understand the significance of looking at the modern economy from a macroeconomic perspective and how income and employment are determined based on Keynesian macroeconomic theory.

## 授業の内容 / Course Contents

初級マクロ経済学 1 では、ケインズ的なマクロ経済学理論の基礎を学ぶ。マクロ経済指標の意味と内容を理解するとともに、GDP などがどのように決まるのか、失業はなぜ生じるのか、金融・財政政策の理論的基礎はどのようなものかなどといった問題を体系的に扱う。

Introductory Macroeconomics 1 provides a basic introduction to Keynesian macroeconomic theory. In addition to understanding the meaning and content of macroeconomic indicators, the course systematically addresses issues such as how GDP and other factors are determined, why unemployment occurs, and the theoretical basis for monetary and fiscal policy.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：ガイダンスとイントロダクション
- 2回：経済学の歴史とマクロ経済学
- 3回：GDP を理解する 1
- 4回：GDP を理解する 2
- 5回：消費や投資などの決まり方 1
- 6回：消費や投資などの決まり方 2
- 7回：消費や投資などの決まり方 3
- 8回：所得水準の決まり方 1
- 9回：所得水準の決まり方 2
- 10回：利子率の決まり方 1
- 11回：利子率の決まり方 2
- 12回：利子率の決まり方 3
- 13回：IS-LM 分析 1
- 14回：IS-LM 分析 2

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

マクロ経済学は理論を扱うため、理論的思考の積み重ねが重要である。毎回の講義の内容を十分な時間をかけて復習し理解していなければ、次回以降の講義が理解できなくなる。予習は、テキストの該当箇所を何度も読んでおくこと。授業内で示す参考文献・資料等も積極的に活用すること。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 授業内のリアクション課題:20%

**テキスト / Textbooks**

中谷巖 『マクロ経済学入門 第2版（日経文庫）』 日本経済新聞社 2007 9784532110307 ○

**参考文献 / Readings****学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

授業内のリアクション課題は LMS を通じて出題の予定なので、LMS にアクセスできる情報機器（PC やスマートフォン等）の持参が望ましい。

# 中級ミクロ経済学

Intermediate Microeconomics

ゲーム理論と契約理論の入門

古川 徹也 (FURUKAWA TETSUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX102

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX3110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この講義では、「初級ミクロ経済学」等の科目である程度（講義 1 回分程度）ゲーム理論について学んだことのある学生を対象に、ゲーム理論の基本的な部分と、ゲーム理論の応用の 1 つである契約理論について学び、様々な経済問題等についてゲーム理論的な見方ができるようになることを目標とする。

In this course, students who have studied game theory to some extent (about one lecture) in subjects such as "Elementary Microeconomics" will learn the basics of game theory and contract theory. The goal of the course is to enable students to take a game-theoretic view of various economic and other issues.

## 授業の内容 / Course Contents

ナッシュ均衡や部分ゲーム完全均衡といった基本的な概念を復習した後、複占モデルへの応用、繰り返しゲームなど発展的な内容を学ぶ。とくにこの講義では、情報の非対称性をゲーム理論で分析するための概念であるベイジアンナッシュ均衡や完全ベイジアン均衡について学び、契約理論を理解する上での助けとする。

After reviewing basic concepts such as Nash equilibrium and subgame perfect equilibrium, students will learn more advanced topics such as applications to the model of oligopoly, repeated games, etc. In particular, in this

lecture, students will learn about Bayesian Nash equilibrium and Perfect Bayesian equilibrium, which are concepts for analyzing asymmetric information in game theory, It will help them understand contract theory.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：ゲーム理論とは
- 2回：静学ゲーム(1)：ゲームの基礎と同時手番ゲーム
- 3回：静学ゲーム(2)：クールノーゲーム
- 4回：静学ゲーム(3)：マックスミニ戦略，混合戦略のナッシュ均衡
- 5回：逐次手番ゲーム(1)：時間を通じたゲーム
- 6回：逐次手番ゲーム(2)：シュタッケルベルクゲーム
- 7回：繰り返しゲーム：有限回，無限回繰り返しゲーム
- 8回：不完備情報ゲーム(1)：ベイジアンゲームとベイジアンナッシュ均衡
- 9回：不完備情報ゲーム(2)：展開形ベイジアンゲームと完全ベイジアン均衡
- 10回：不確実性と情報の経済学
- 11回：契約理論(1)：モラルハザード
- 12回：契約理論(2)：アドバースセレクション
- 13回：契約理論(3)：不完備契約理論
- 14回：講義のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：指定された教科書の当該部分を事前に読んでくる。

復習：講義ノートの見直し。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 期末課題:20% 最終レポート割合：:0%最終テスト割合：:0%

### テキスト / Textbooks

鈴木豊 『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』 勁草書房 2021 9784326504862 ○

### 参考文献 / Readings

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

「初級ミクロ経済学」で学ぶ程度のミクロ経済学・ゲーム理論の知識は前提とするので，不足する人は自分で補うこと（相談には乗る）。なお，簡単な確率，微分の知識を利用することがある。

# 簿記 1

## Bookkeeping 1

坂内 慧 (SAKAUCHI KEI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX105
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1810
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済政策学科 1 年次 A～E 組、経済政策学科 2 年次以上

### 授業の目標 / Course Objectives

基本的な複式簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The goal of this course is to understand the mechanism and role of basic double-entry bookkeeping.

### 授業の内容 / Course Contents

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表の有用性、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that makes it possible to provide useful accounting information to parties inside and outside a company by classifying, organizing, and recording complex corporate transactions based on a small number of transaction elements. In this course, students will learn the basic mechanism of double-entry bookkeeping. The lectures on the usefulness of financial statements and recent topics are given. Opportunities will be provided for students to work on problem exercises in class.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：簿記の意義と仕組み(1)
- 2回：簿記の意義と仕組み(2)
- 3回：仕訳と転記
- 4回：仕訳帳と元帳
- 5回：決算の意義と手続き(1)
- 6回：決算の意義と手続き(2)
- 7回：決算の意義と手続き(3)
- 8回：予備日(期中の取引、決算の手続きの復習など)
- 9回：現金と預金
- 10回：繰越商品・仕入・売上(1)
- 11回：繰越商品・仕入・売上(2)
- 12回：売掛金と買掛金(1)
- 13回：売掛金と買掛金(2)
- 14回：振り返り

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への出席ならびに積極的参加、ミニテスト、課題の提出:30%

・筆記試験は、すべての簿記1のクラスに共通の問題を使って実施される。・筆記試験は、テキスト欄に掲載した「渡部裕巨・片山覚・北村敬子『検定簿記ワークブック3級商業簿記』中央経済社（最新版）」の内容に基づいて出題されるが、詳細は別途掲示を行う。・平常点の評価項目等の詳細は担当者によって異なるため、開講時（4月）に担当教員からのアナウンスを確認すること。

#### テキスト / Textbooks

渡部裕巨・片山覚・北村敬子 『検定簿記ワークブック3級商業簿記』 中央経済社 2024 9784502489518

○

- ・当該ワークブックは簿記1（及び簿記2）のすべてのクラスに共通の教材である。
- ・筆記試験は当該ワークブックの内容に基づいて出題されるため、各自購入して取り組むこと。
- ・各回の授業で使用するテキストは担当者によって異なるため、開講時(4月)に各担当者の指示に従って購入すること。

#### 参考文献 / Readings

各担当教員から適宜紹介する。

#### その他 / Others

- ・上記授業計画は一例である。開講時に各担当教員が説明する。



- ・本講義は、会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
- ・簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

## 簿記 2

### Bookkeeping 2

坂内 慧 (SAKAUCHI KEI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX106  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項） 対面  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX1810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定： 簿記 1  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： 経済政策学科 1 年次 A～E 組、経済政策学科 2 年次以上

#### 授業の目標 / Course Objectives

基本的な複式簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The goal of this course is to understand the mechanism and role of basic double-entry bookkeeping.

#### 授業の内容 / Course Contents

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表はどのように有用か、近年のトピック等について、適宜講義を行う。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that makes it possible to provide useful accounting information to parties inside and outside a company by classifying, organizing, and recording complex corporate transactions based on a small number of transaction elements. In this course, students will learn the basic mechanism of double-entry bookkeeping. The lectures on the usefulness of financial statements and recent topics are given. Opportunities will be provided for students to work on problem exercises in class.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：その他の債権と債務
- 2 回：受取手形と支払手形
- 3 回：有形固定資産(1)
- 4 回：有形固定資産(2)
- 5 回：貸倒損失と貸倒引当金
- 6 回：資本
- 7 回：収益と費用(1)
- 8 回：収益と費用(2)
- 9 回：税金、伝票(1)
- 10 回：伝票 (2)
- 11 回：財務諸表(1)決算と決算手続
- 12 回：財務諸表(2)試算表の作成、棚卸表の作成と決算整理事項
- 13 回：財務諸表(3)精算表の作成、財務諸表の作成
- 14 回：振り返り

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前に以下に示されているテキストの「学習のポイント」等を読み、授業後は問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への出席ならびに積極的参加、ミニテスト、課題の提出:30%

・筆記試験は、すべての簿記2のクラスに共通の問題を使って実施される。・筆記試験は、テキスト欄に掲載した「渡部裕巨・片山覚・北村敬子『検定簿記ワークブック3級商業簿記』中央経済社（最新版）」の内容に基づいて出題されるが、詳細は別途掲示を行う。・平常点の評価項目等の詳細は担当者によって異なるため、開講時（9月）に担当教員からのアナウンスを確認すること。

#### テキスト / Textbooks

渡部裕巨・片山覚・北村敬子 『検定簿記ワークブック3級商業簿記検定版第10版』 中央経済社 2024

○

- ・当該ワークブックは(簿記1及び)簿記2のすべてのクラスに共通の教材である。
- ・筆記試験は当該ワークブックの内容に基づいて出題されるため、各自購入して取り組むこと。
- ・各回の授業で使用するテキストは担当者によって異なるため、開講時(9月)に各担当者の指示に従って購入すること。

#### 参考文献 / Readings

各担当教員から適宜紹介する。

#### その他 / Others

- ・上記授業計画は一例である。開講時に各担当教員が説明する。

- ・本講義は、会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
- ・簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

# 簿記 1

## Bookkeeping 1

坂内 慧 (SAKAUCHI KEI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX107  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項） 対面  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX1810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： 経済政策学科 1 年次 F~I,Y 組、経済政策学科 2 年次以上

### 授業の目標 / Course Objectives

基本的な複式簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The goal of this course is to understand the mechanism and role of basic double-entry bookkeeping.

### 授業の内容 / Course Contents

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表の有用性、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that makes it possible to provide useful accounting information to parties inside and outside a company by classifying, organizing, and recording complex corporate transactions based on a small number of transaction elements. In this course, students will learn the basic mechanism of double-entry bookkeeping. The lectures on the usefulness of financial statements and recent topics are given. Opportunities will be provided for students to work on problem exercises in class.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：簿記の意義と仕組み(1)
- 2回：簿記の意義と仕組み(2)
- 3回：仕訳と転記
- 4回：仕訳帳と元帳
- 5回：決算の意義と手続き(1)
- 6回：決算の意義と手続き(2)
- 7回：決算の意義と手続き(3)
- 8回：予備日(期中の取引、決算の手続きの復習など)
- 9回：現金と預金
- 10回：繰越商品・仕入・売上(1)
- 11回：繰越商品・仕入・売上(2)
- 12回：売掛金と買掛金(1)
- 13回：売掛金と買掛金(2)
- 14回：振り返り

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への出席ならびに積極的参加、ミニテスト、課題の提出:30%

・筆記試験は、すべての簿記1のクラスに共通の問題を使って実施される。・筆記試験は、テキスト欄に掲載した「渡部裕巨・片山覚・北村敬子『検定簿記ワークブック3級商業簿記』中央経済社（最新版）」の内容に基づいて出題されるが、詳細は別途掲示を行う。・平常点の評価項目等の詳細は担当者によって異なるため、開講時（4月）に担当教員からのアナウンスを確認すること。

#### テキスト / Textbooks

渡部裕巨・片山覚・北村敬子 『検定簿記ワークブック3級商業簿記』 中央経済社 2024 9784502489518

○

- ・当該ワークブックは簿記1（及び簿記2）のすべてのクラスに共通の教材である。
- ・筆記試験は当該ワークブックの内容に基づいて出題されるため、各自購入して取り組むこと。
- ・各回の授業で使用するテキストは担当者によって異なるため、開講時(4月)に各担当者の指示に従って購入すること。

#### 参考文献 / Readings

各担当教員から適宜紹介する。

#### その他 / Others

- ・上記授業計画は一例である。開講時に各担当教員が説明する。

- ・本講義は、会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
- ・簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

## 簿記 2

### Bookkeeping 2

坂内 慧 (SAKAUCHI KEI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX108
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1810
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	簿記 1
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済政策学科 1 年次 F~I,Y 組、経済政策学科 2 年次以上

#### 授業の目標 / Course Objectives

基本的な複式簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The goal of this course is to understand the mechanism and role of basic double-entry bookkeeping.

#### 授業の内容 / Course Contents

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表はどのように有用か、近年のトピック等について、適宜講義を行う。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that makes it possible to provide useful accounting information to parties inside and outside a company by classifying, organizing, and recording complex corporate transactions based on a small number of transaction elements. In this course, students will learn the basic mechanism of double-entry bookkeeping. The lectures on the usefulness of financial statements and recent topics are given. Opportunities will be provided for students to work on problem exercises in class.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule



- 1 回：その他の債権と債務
- 2 回：受取手形と支払手形
- 3 回：有形固定資産(1)
- 4 回：有形固定資産(2)
- 5 回：貸倒損失と貸倒引当金
- 6 回：資本
- 7 回：収益と費用(1)
- 8 回：収益と費用(2)
- 9 回：税金、伝票(1)
- 10 回：伝票 (2)
- 11 回：財務諸表(1)決算と決算手続
- 12 回：財務諸表(2)試算表の作成、棚卸表の作成と決算整理事項
- 13 回：財務諸表(3)精算表の作成、財務諸表の作成
- 14 回：振り返り

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前に以下に示されているテキストの「学習のポイント」等を読み、授業後は問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への出席ならびに積極的参加、ミニテスト、課題の提出:30%

・筆記試験は、すべての簿記2のクラスに共通の問題を使って実施される。・筆記試験は、テキスト欄に掲載した「渡部裕巨・片山覚・北村敬子『検定簿記ワークブック3級商業簿記』中央経済社（最新版）」の内容に基づいて出題されるが、詳細は別途掲示を行う。・平常点の評価項目等の詳細は担当者によって異なるため、開講時（9月）に担当教員からのアナウンスを確認すること。

### テキスト / Textbooks

渡部裕巨・片山覚・北村敬子 『検定簿記ワークブック3級商業簿記検定版第10版』 中央経済社 2024

○

- ・当該ワークブックは(簿記1及び)簿記2のすべてのクラスに共通の教材である。
- ・筆記試験は当該ワークブックの内容に基づいて出題されるため、各自購入して取り組むこと。
- ・各回の授業で使用するテキストは担当者によって異なるため、開講時(9月)に各担当者の指示に従って購入すること。

### 参考文献 / Readings

各担当教員から適宜紹介する。

### その他 / Others

- ・上記授業計画は一例である。開講時に各担当教員が説明する。

- ・本講義は、会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
- ・簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

# 経済学史 1

History of Economic Doctrines 1

古典派経済学の形成と発展

佐藤 有史 (SATO YUJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX109

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

古典派経済学の形成と発展を通じて、(1) 経済学的思考の特質、(2) 価値と分配の理論をめぐる論争を理解し、(3) 経済学の現在を相対化するための視座を養うことを目的とする。

The purposes of this lecture are to nurture the following perspective through the formation and development of classical economics: (1) characteristics of economic thought, (2) understanding the debate regarding the theory of value and distribution, and (3) relativizing the current state of economics.

## 授業の内容 / Course Contents

経済学が生まれ出た文脈としての近代自然法や重商主義などから、いかにして経済学が学として自立したか、その過程の考察から始まり、アダム・スミスにおける経済学の生誕の講義で授業の最初のポイントが終了する。次いで、フランス革命論争を経たのちのデイヴィッド・リカードウによる古典派体系の完成と、リカードウ後の種々の経済学の発展を講義する中で、経済学の現在を相対化し、整理するための視座の基礎を提供する。

As the context for the birth of the science of political economy, the lecture begins with tracing the process of how

political economy arose as a field of the science from modern natural law and mercantilism to the birth of the science of political economy by Adam Smith. Next will be discussed the completion of the classical economics by David Ricardo after commenting the Malthusian controversy, etc. And then, I will lecture the various developments of economics after Ricardo to provide the fundamental perspective for comparison and organization of the current state of economics.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：世界市場の幕開けと重商主義
- 2 回：近代自然法：グロティウス、ホッブズ、ロック
- 3 回：経済的理性の誕生：ペティとカンティロン
- 4 回：重農主義：経済的「剰余」の思想
- 5 回：『国富論』の経済思想(1)：アダム・スミスの思想と生涯
- 6 回：『国富論』の経済思想(2)：価値と分配の理論
- 7 回：『国富論』の経済思想(3)：スミスと経済的自由主義
- 8 回：トマス・R・マルサスの経済思想(1)：フランス革命と『人口論』の衝撃
- 9 回：トマス・R・マルサスの経済思想(2)：需給分析と価値と分配の理論
- 10 回：デイヴィッド・リカードウの経済思想(1)：価値と分配の古典派理論の完成
- 11 回：デイヴィッド・リカードウの経済思想(2)：経済成長，国際分業，貨幣と金融
- 12 回：リカードウ後(1)：ジョン・S・ミルの経済思想
- 13 回：リカードウ後(2)：カール・マルクスの経済思想
- 14 回：古典派経済学と限界主義：「古典派」と「新古典派」の違い

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

教科書に指定した文献は、授業で取り上げる主要な人物についてのたくさんの記述がある。あらかじめ読んでから授業に臨むこと。また、事前に配布する資料も熟読し、さらに指示された参考文献の関連箇所の読解を通じて理解を深めておこう。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%  
 平常点割合 :20% リアクションペーパーおよび小テスト:20%

### テキスト / Textbooks

教科書は使用しません。授業用の教材はあらかじめ Canvas LMS 上にアップしておきます。

### 参考文献 / Readings

- モーリス・ドブブ 『価値と分配の理論』 新評論 1976年 30333301083177  
 小畑二郎 『経済学の歴史』 慶應義塾大学出版会 2014年 9784766421750  
 カンティロン 『商業試論』 名古屋大学出版会 1992年 4815801797  
 ケネー 『経済表』 岩波文庫 2013年 9784003410219  
 アダム・スミス 『国富論』 1, 2, 3 中公文庫 1978年 4122005337

リカードウ 『経済学および課税の原理』上・下 岩波文庫 1987年 4003410912

マルサス 『人口論』 中公文庫 1973年 4122000335

その他、一次文献（原典）を含む必要な参考文献は、その都度授業中に指示します。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

授業で用いる教材は、すべて Canvas LMS 上にアップされる。ダウンロードするのに必要な機器、環境を整えておく必要がある。

# 経済学史 2

History of Economic Doctrines 2

金融思想の歴史 (An Introduction to the History of Monetary Thought)

佐藤 有史 (SATO YUJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX110

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

18 世紀以来の金融思想の歴史を通じて、貨幣や金融についての私たちのとらえ方が、この 3 世紀の間、真正手形学説・貨幣数量説・古典派貨幣理論という 3 つの枠組みを軸として主に発展してきたことを理解する。

Through the history of monetary thought from the 18th century to today, students will gain an understanding of the three major frameworks of the real-bills doctrine, the quantity theory of money, and classical monetary theory that have developed over the last three centuries, and will also understand how our views on money and finance have continued to be influenced by their frameworks.

## 授業の内容 / Course Contents

経済の中でとりわけ重要な位置を占める貨幣と金融についての思想の歴史を概観する。金融上の技術や制度の洗練にもかかわらず、金融思想の歴史においては、同じ思考の枠組みが幾度となく再現し、またバブルや金融危機といった似たような災厄が幾度となく繰り返されてきた。こうした金融思想の歴史を概観することで、経済学を作り上げてきた主要な経済学者たちの群像を金融思想とのかかわりにおいて現代に至るまで跡づける。

I will lecture a historical overview of the various ideas of money and finance, the importance of which is, of

course, no doubt in any economy. Despite the refinement of monetary devices and systems, the history of monetary thought shows that similar ideas based on the same frameworks have reappeared over time, and evils such as economic bubbles and financial crises have repeatedly occurred. To overview the history of monetary thought will allow students to follow to the present day the relationship between the leading economists, who created economics, and monetary thought. And they will also understand the important aspect of the history of economic thought.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：重商主義とオランダの金融革命
- 2 回：真正手形学説：ジョン・ローの金融思想
- 3 回：貨幣数量説：デイヴィッド・ヒュームの金融思想
- 4 回：古典派金融思想の形成：アダム・スミスの通貨と銀行の理論
- 5 回：イギリスの金融システムの発展
- 6 回：地金論争とデイヴィッド・リカードウの貨幣理論
- 7 回：リカードウの金融政策論と中央銀行論
- 8 回：1825 年恐慌と通貨論争
- 9 回：1844 年イングランド銀行法と「バジョットの原理」
- 10 回：ヴィクセルと自然利子率
- 11 回：20 世紀初頭アメリカの金融思想：J. ラフリン，I. フィッシャー，ハーヴァード学派
- 12 回：ジョン・メイナード・ケインズの金融理論とその古典派金融理論批判
- 13 回：ケインズ，シカゴ学派，M. フリードマン
- 14 回：まとめ：古典派金融思想の再評価に向けて

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に配布する資料を熟読しておくこと。また指示された参考文献の関連箇所の読解を通じて理解を深めておきましょう。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%  
 平常点割合 :20% リアクションペーパーまたは小テスト:20%

### テキスト / Textbooks

教科書は特に指定しない。事前に教材を Canvas LMS にアップするので、参考文献を図書館から借りるなどして予習・復習を行なうこと。

### 参考文献 / Readings

大友敏明・池田幸弘・佐藤有史（編） 『経済思想にみる貨幣と金融』 三嶺書房 2002 年 4882941457  
 デビット・レイドラー 『貨幣数量説の黄金時代』 同文館 2001 年 4495435817  
 Arie Arnon Monetary Theory and Policy from Hume and Smith to Wicksell: Money, Credit, and the Economy  
 Cambridge University Press 2011 年 9781107642737

Yuji Sato and Susumu Takenaga (eds) Ricardo on Money and Finance: A Bicentenary Reappraisal Routledge  
2013年 9780415814676

平山健二郎 『貨幣と金融政策』 東洋経済新報社 2015年 9784492654705

アダム・スミス 『国富論』 1, 2, 3 中公文庫 1978年 4122005337

リカードウ 『経済学および課税の原理』 岩波文庫 1987年 4003410920

その他、必要な参考文献は、一次文献（原典）を含め、授業中に指示します。私の講義の基本的主張を知るには、上記 Ricardo on Money and Finance の中の私の章を参考にしてください。

### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

授業で使用される教材は、すべて Canvas LMS 上にアップされる。したがって、教材のダウンロードに必要な機器、ネット環境が使えるように準備しておくこと。

### **その他 / Others**

パワーポイントを使用する講義形式となるが、適宜「板書」もおこなう。



# 景気変動論 1

## Business Cycles 1

二宮 健史郎 (NINOMIYA KENSHIRO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX111
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX3110
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

近代経済学には、大きく分けて古典派経済学とケインズ経済学という2つの学派がある。景気変動、経済成長についても、2つの学派の考え方は異なっている。本講義では、マクロ経済学の基本経済モデルである古典派モデル、ケインズ派モデル（IS-LM モデル）の理論構造を中心に講義する。景気変動、経済成長における議論を理解するためにも、二つのモデルの相違点を十分に理解することが必要不可欠であり、そのモデルを理解することが本講義の目標である。

Modern economics is divided into the two major schools of classical economics and Keynesian economics. How these two schools view economic fluctuations and economic growth also differ. This lecture will mainly discuss the theoretical structure of the classical model and the Keynesian model (IS-LM model), which are the basic economic models of macroeconomics. Sufficiently understanding the differences between these two models is indispensable for understanding the debate regarding economic fluctuations and economic growth, so the objective of this lecture is to understand these two models.

### 授業の内容 / Course Contents

マクロ経済学の基本モデルである古典派モデル、IS-LM モデル、その2つを時間的視野で統合を試みたマンキ

ューのモデルを中心に学習する。また、サブプライム危機により注目を浴びたミンスキーの金融不安定性仮説など発展的な内容にも言及する。

This lecture will discuss the fundamental models of macroeconomics, such as the classical model and the IS-LM model, and the Mankiw model that attempts to integrate these two models using a time horizon. Further, this lecture will discuss developing topics, such as Minsky's financial instability hypothesis, which gained attention after the subprime mortgage crisis.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス(景気の変動と私たちの暮らし)
- 2 回：我が国における景気の変動
- 3 回：ブームと恐慌 (ビデオ視聴)
- 4 回：現代の経済とマクロ経済学の考え方
- 5 回：貨幣数量説(新古典派)モデル
- 6 回：貨幣数量説モデルにおける貨幣の役割
- 7 回：ケインズ派モデル (1) (乗数理論と IS・LM モデル)
- 8 回：ケインズ派モデル (2) (IS 曲線の導出)
- 9 回：ケインズ派モデル (3) (LM 曲線の導出)
- 10 回：均衡所得の導出と財政政策、金融政策の効果
- 11 回：マンキュー・モデル (1) (新古典派とケインズ派の統合：マンキューの試み/総需要曲線の導出)
- 12 回：マンキュー・モデル (2) (総供給曲線と総需要管理政策の効果/ニュー・コンセンサス・マクロ経済学)
- 13 回：負債効果.(負債効果/金融不安定性仮説)
- 14 回：新古典派経済学とケインズ経済学：再論 (まとめ)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

復習に重点を置くことを勧める。講義を聴くだけでなく、講義中に出てくる数式の意味や、グラフの形状等がどうしてそのように描けるのかを (講義中にも) 自ら考えて理解することが重要である。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 小レポート、リアクションペーパーなど:20%

授業の目標にもあるように、貨幣数量説モデルやケインズ派モデル等の理論構造が十分に理解できていることが重要である。

### テキスト/ Textbooks

二宮健史郎・得田雅章 『金融構造の変化と不安定性の経済学』 日本評論社 2024 ○

二宮健史郎 『金融不安定性のマクロ動学』 大月書店 2018 -

テキストについては、初回ガイダンスで説明をする。説明を聞いてから購入しても良い。

### 参考文献 / Readings

浅田統一郎 『マクロ経済学基礎講義』 中央経済社 2016

藤原・家森編著 『金融論入門』 中央経済社 2012

マンキュー 『マクロ経済学1・2』 東洋経済新報社 2017

中谷武他 『資本主義がわかる経済学』 大月書店 2019

二宮健史郎 『金融恐慌のマクロ経済学』 中央経済社 2006

小林幹・吉田博之 『経済数学15講』 新世社 2020

### **履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

数式の使用は不可避である。講義でも簡単な解説は行うが、経済数学入門を履修済みか、高校数学の復習を十分にしておくことが非常に望ましい。

### **その他/ Others**

・マクロ経済学、ミクロ経済学の基礎を習得していることを前提として講義する。講義スライドは配布しない。各自ノートをとること。初回ガイダンスで説明するので必ず出席すること。

# 景気変動論 2

## Business Cycles 2

二宮 健史郎 (NINOMIYA KENSHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX112  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX3110  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

近年、日本のバブル経済やサブプライム問題に端を発した金融危機等、金融的要因によると思われる経済の不安定性や循環が頻発している。本講義では、そのような金融危機や関連する諸議論を理解するために有用な景気循環論、経済成長論を中心に講義する。本講義では、様々な考え方を説明するが、その中には異端の考え方も含まれている。本講義では、そのような考え方も含めた多様な考え方を学習し、現実の景気変動や経済成長を考察するための基礎を習得することを主たる目標とする。

In recent years, the frequent economic instability and cycles are thought to be caused by financial factors, such as the financial crises, etc., triggered by the Japanese bubble economy and the subprime loan problem. This lecture focuses on useful business cycle theory and economic growth theory, which are useful to understand such financial crises and the related debates. The lecture will explain various concepts including heterodox concepts. The main objective of this lecture is for students to study various concepts including these to acquire the foundation necessary to consider actual economic fluctuations and economic growth.

### 授業の内容 / Course Contents

新古典派の考え方に基づく実物的景気循環論、新古典派成長モデル、ケインズ派の考え方に基づく内生的景気

循環論、ハロッドの不安定性原理等、景気変動、経済成長に関する多様な考え方を説明する。

This lecture will discuss a variety of concepts relating to economic fluctuation and economic growth, such as the real business cycle theory based on neoclassical thought, neoclassical growth model, endogenous business cycle theory based on Keynesian thought, and the Harrod model.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：貨幣数量説(新古典派)モデル
- 3回：実物的景気循環論(1)
- 4回：実物的景気循環論(2)
- 5回：ケインズ派モデル (IS-LM モデル) (1)  
(IS 曲線、LM 曲線の導出)
- 6回：ケインズ派モデル (IS-LM モデル) (2)  
(所得と利子率の動き方)
- 7回：ケインズ派モデル (IS-LM モデル) (3)  
(均衡点への収束)
- 8回：内生的景気循環論(1)  
(カルドア・モデル/ミンスキー・サイクル)
- 9回：内生的景気循環論(2)  
(カルドア型循環モデル/数値シミュレーション)
- 10回：新古典派成長モデル(1)
- 11回：新古典派成長モデル(2)
- 12回：ハロッドの不安定性原理
- 13回：異時点間の最適消費
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

復習に重点を置くことを勧める。講義を聴くだけでなく、講義中に出てくる数式の意味や、グラフの形状等がどうしてそのように描けるのかを(講義中にも)自ら考えて理解することが重要である。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 小レポート、リアクションペーパーなど:20%

新古典派、ケインズ派の景気循環論、経済成長論の理論構造が十分に理解できていることが重要である。

### テキスト/Textbooks

二宮健史郎・得田雅章 『金融構想の変化と不安定性の経済学』 日本評論社 2024 ○

二宮健史郎 『金融不安定性のマクロ動学』 大月書店 2018 -

テキストについては、初回の履修ガイダンスで説明をする。説明を聞いてから購入しても良い。

**参考文献 / Readings**

- 足立英之他 『初級・マクロ経済学』 有斐閣 1998  
三野和雄 『マクロ経済学』 培風館 2013  
二宮健史郎 『金融恐慌のマクロ経済学』 中央経済社 2006  
小林幹・吉田博之 『経済数学 15 講』 新世社 2020

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

景気変動論 1 を履修済みあることが望ましい。数式の使用は不可避である。講義でも簡単な解説は行うが、経済数学入門を履修済みか、高校数学の復習を十分にしておくことが非常に望ましい。

**その他/ Others**

講義スライドは配布しない。各自ノートをとること。

# 計量経済学 1

Econometrics 1

安藤 道人 (ANDO MICHIHITO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX113
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX2310
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	2024 年度以降入学者／データ分析入門 1・2
2023 年度以前入学者／情報処理入門 1・2	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

計量経済学の基礎を学び、実証分析を行う際に必要となる知識を身に着ける。計量経済学 1 では伝統的な計量経済学の基礎を学ぶ。

Learn the basics of econometrics and acquire the knowledge necessary for conducting empirical analysis. The basics of traditional econometrics are studied in Econometrics 1.

## 授業の内容 / Course Contents

学部レベルの計量経済学の基礎を学ぶ。確率・統計の復習から入り、単回帰分析や多重回帰分析などの基礎事項を学んだあとに、非線形回帰モデルや線形確率・ロジット・プロビットモデルの分析を学ぶ。計量経済学 2 で取り上げる、より現代的な分析フレームや分析手法を意識しつつ、伝統的な計量経済学の考え方の基本を身に着けることに重点を置く。授業の理解に必要な数学レベルは、テキストである田中隆一(2015)「計量経済学の第一歩—実証分析のススメ」の数学レベルであるが、適宜、必要に応じて解説する。

The basics of undergraduate-level econometrics are studied. The course begins with a review of probability and statistics and then moves to the study of basic items, such as simple linear regression analysis and multiple regression analysis, before studying non-linear regression models, linear probability, and logit/probit models. Econometrics 1 focuses on acquiring the basics of traditional econometrics while Econometrics 2 considers more modern analytical frameworks and analytical techniques. The mathematics level required to understand the course is the mathematics level of "First Steps in Econometrics: An Encouragement of Empirical Analysis," by Ryuichi Tanaka (2015), which is the textbook, and additional explanation will be given as necessary.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：確率・統計の復習
- 3回：単回帰分析の基礎：回帰係数
- 4回：単回帰分析の基礎：決定係数
- 5回：単回帰分析の基礎：推定と仮説検定 1
- 6回：単回帰分析の基礎：推定と仮説検定 2
- 7回：不均一分散と均一分散
- 8回：説明変数が二値変数のときの回帰分析
- 9回：多重回帰分析
- 10回：非線形回帰分析：多項式
- 11回：非線形回帰分析：対数変換
- 12回：目的変数が二値変数の場合の回帰分析：線形確率モデル
- 13回：目的変数が二値変数の場合の回帰分析：ロジット・プロビット
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、授業の復習を行い、授業の内容を理解したうえで次の授業にのぞむようにしてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

### テキスト / Textbooks

田中隆一 『計量経済学の第一歩—実証分析のススメ』 有斐閣 2015 9784641150287 ○

### 参考文献 / Readings

ストック&ワトソン 『入門計量経済学』 共立出版 2016 9784320111462

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

学部入門レベルの統計学についての基礎的な知識



**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

とくになし

**その他/ Others**

講義は、[https://sites.google.com/site/michihito7ando/lectures/econome\\_lec](https://sites.google.com/site/michihito7ando/lectures/econome_lec) に掲載する講義ノートに沿って行います。教科書や参考書については初回授業時に説明します。

# 計量経済学 2

Econometrics 2

安藤 道人 (ANDO MICHIHITO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX114  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2310  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定： 2024 年度以降入学者／データ分析入門 1・2  
2023 年度以前入学者／情報処理入門 1・2  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

計量経済学の基礎を学び、実証分析を行う際に必要となる知識を身につける。計量経済学 2 ではマイクロ計量経済学における統計的因果推論の基礎を学ぶ。

Learn the basics of econometrics and acquire the knowledge necessary for conducting empirical analysis. In Econometrics 2, students learn the fundamentals of statistical causal inference used in microeconometrics.

## 授業の内容 / Course Contents

マイクロ計量経済学における統計的因果推論の基礎理論を学ぶ。計量経済学、とりわけ現代的なマイクロ計量経済学では、単に回帰分析を行った結果を「因果的効果」と解釈するのではなく、「どのような場合に回帰分析や他の統計分析の分析結果を因果的効果と解釈することができるのか」を詳細に検討することがスタンダードとなっている。

したがって、本講義では、計量経済学1で学んだ計量経済学の基礎をベースに、このような「統計的因果推論」の考え方に基づいた分析手法や分析デザインを学ぶ。また実際の論文で用いられている分析例を紹介しながら、具体的な分析の考え方や分析手順についても学ぶ。

授業の理解に必要な数学レベルは、テキストである田中隆一(2015)「計量経済学の第一歩—実証分析のススメ」に準じたものとし、適宜、必要に応じて解説する。

Students learn the basic theory of statistical causal inference and policy evaluation analysis used in microeconometrics. In econometrics, especially modern microeconometrics, results using regression analysis are not automatically interpreted as "causal effects," and the standard is to consider in detail "in which cases can the analytical results of regression analysis and other statistical analysis be interpreted as causal effects?"

Therefore, in this lecture, students learn analytical techniques and analysis design based on the concepts of this type of "statistical causal inference" based on the econometric basics studied in Econometrics 1. In addition, specific analytical concepts and analysis procedures will be studied while examples of analysis used in actual scholarly papers are introduced.

The mathematics level required to understand the course is the mathematics level of "First Steps in Econometrics: An Encouragement of Empirical Analysis," by Ryuichi Tanaka (2015), which is the textbook, and additional explanation will be given as necessary.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：ルービンの因果モデルと潜在的結果
- 3回：割当メカニズム/ ルービンの因果モデルの利点
- 4回：実験と疑似実験
- 5回：Directed Acyclic Graphs (DAG)
- 6回：交絡要因の制御：クロス集計
- 7回：交絡要因の制御：マッチングと傾向スコア
- 8回：パネルデータ分析（その1）
- 9回：パネルデータ分析（その2）
- 10回：差の差(DID)法 1
- 11回：差の差(DID)法 2
- 12回：操作変数法 1
- 13回：操作変数法 2
- 14回：回帰不連続デザイン

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、授業の復習を行い、授業の内容を理解したうえで次の授業にのぞむようにしてください。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

### テキスト/ Textbooks

田中隆一 『計量経済学の第一歩—実証分析のススメ』 有斐閣 2015 9784641150287 ○

講義は、[https://sites.google.com/site/michihito7ando/lectures/econome\\_lec](https://sites.google.com/site/michihito7ando/lectures/econome_lec) に掲載する講義ノートに沿って行います。教科書や参考書については初回授業時に説明します。

### 参考文献 / Readings

伊藤公一朗 『データ分析の力—因果関係に迫る思考法』 光文社 2017 9784334039868

中室牧子・津川友介 『「原因と結果」の経済学—データから真実を見抜く思考法』 ダイヤモンド社 2017  
9784478039472

安井翔太 『効果検証入門—正しい比較のための因果推論／計量経済学の基礎』 技術評論社 2020  
9784297111175

### 履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

学部入門レベルの統計学と計量経済学1の知識

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし

### その他/ Others

計量経済学1の知識を前提とするため、計量経済学1を履修済みであることを奨励する。

# 数理経済学

Mathematical Economics

経済分析への数学の適用

長原 徹 (NAGAHARA TORU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX120

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 完全対面で実施する。ミックス型対応は実施しないので要注意。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX3110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義は、経済学で使用される数学的手法を徹底的に習得することを目的とする。具体的には、制約つき最大化、最小化問題の解き方や、行列を使った産業連関分析などを紹介していくつもりである。微分や行列の計算まで中学・高校までの数学を復習しつつ、経済学のなかでそうした数学的手法がどのように活用されるかなどを紹介していく予定である。

こうした数学的手法の習得ももちろん大事だが、より重要なことはこうした手法が経済分析のなかでどのように適用されるかを理解することである。そこで、授業ではできる限り現実の経済への適用例を紹介し

The purpose of this lecture is to give through training in the mathematical methods used in economics.

Specifically, constrained maximization, how to solve minimization problems, and industry related analysis using matrices will be introduced. Junior high school and high school mathematics, such as differential and matrix calculation, will be reviewed and how those mathematics techniques are used in economics will be introduced.

Of course, practicing these mathematical techniques is important, but more important is understanding how these techniques are applied to analyze economics. As far as possible, in this class I also want to introduce

examples of applications in the real economy.

### 授業の内容 / Course Contents

経済学で 사용되는 数学的手法の紹介と、問題演習による理解の深化。そして、経済分析への適用例の紹介を行っていく。

The students' understanding will be deepened by introducing the mathematical techniques used in economics and by practicing problems. Examples of application to economic analysis will also be introduced.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：数理経済学とはどのような学問か、経済分析に数学を用いることの意義は何か
- 2 回：ミクロ経済学における数学的手法の適用例
- 3 回：マクロ経済学における数学的手法の適用例
- 4 回：いろいろな関数と微分の計算（1）：関数の種類
- 5 回：いろいろな関数と微分の計算（2）：微分概念と計算
- 6 回：いろいろな関数と微分の計算（2）：微分の応用
- 7 回：積分の計算とその応用
- 8 回：行列の計算と産業連関分析への応用
- 9 回：産業連関分析の事例紹介
- 10 回：多変数関数の微分
- 11 回：多変数関数の極値問題とラグランジュ未定乗数法
- 12 回：関数方程式（1）：1階の差分方程式
- 13 回：関数方程式（2）：微分方程式と位相図
- 14 回：講義の総まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で取り組んだ問題演習や小テストを復習することが望まれる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 小テスト（3回）:30%

### テキスト / Textbooks

授業資料を毎回配布する。

### 参考文献 / Readings

三土修平 『初歩からの経済数学【第2版】』 日本評論社 1996 4535550441

# 応用社会経済学 1

Applied Political Economy 1

今野 晴貴 (KONNO HARUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX121  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX3110  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

現代社会に存在するさまざまな社会問題の構図を理解し、社会経済学の視座から考察する力を養うことが目標です。

社会問題について、自分自身で考え・見解を構築する力をつけたい方の受講を歓迎いたします。

The goal of this course is to understand the conditions of various social problems in modern society and develop the ability to analyze them from the perspective of political economy.

The course welcomes students who wish to develop their ability to construct their views on various social issues.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、社会経済学に基づく資本主義社会の分析視角について概説します。その上で、各社会問題について、テーマごとに問題の構図を解説するとともに、社会経済学の知見から理論的に分析します。また、適宜、法学、社会学等の諸分野の知見を学際的に参照します。

This lecture will provide an overview of analytical perspectives on capitalist society based on political economy.

The composition of each social problem will then be explained for each theme and analyzed theoretically from the viewpoint of political economy. When necessary, references will be made to the findings of various disciplines

such as jurisprudence and sociology.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：社会経済学の分析枠組み
- 3回：現代の労働問題（1）日本的雇用システム／「ブラック企業」問題
- 4回：現代の労働問題（2）労働災害／過労死
- 5回：現代の労働問題（3）非正規雇用問題／「ブラックバイト」
- 6回：現代の労働問題（3）性差別／女性労働
- 7回：現代の労働問題（4）移民労働
- 8回：現代の労働問題（5）AI・IoT技術と労働の変化
- 9回：資本主義と社会問題（1）貧困と社会福祉・犯罪組織／闇バイト
- 10回：資本主義と社会問題（2）感染症パンデミック
- 11回：資本主義と社会問題（3）公害・気候変動
- 12回：資本主義と社会問題（4）教育／家族／地域
- 13回：資本主義と社会問題（5）障害者差別・優生思想
- 14回：資本主義と社会問題（6）原発・軍産複合体

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関しては、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40%

最終レポート割合 :40%

最終レポートの内容としては、本講義に関連する指定の図書を読み自分なりの考察を提示することを求めます。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

佐々木隆治 『私たちはなぜ働くのか』 旬報社 2012 9784845112777



# 応用社会経済学 2

Applied Political Economy 2

今野 晴貴 (KONNO HARUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX122  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX3110  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義では資本主義社会の変化の要因と具体的な過程を理解し、今日の資本主義社会の諸問題について考察する力を養うことを目標とします。

The goal of this course is to understand the factors and specific processes of change in capitalist society and to develop the ability to consider various issues in capitalist society today.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では、資本主義社会の生成と発展を説明する社会経済学の諸理論を踏まえ、資本主義社会の歴史的な展開について解説します。グローバル化、移民労働、金融化、レント／デジタル経済化、といった現代的な経済問題を資本主義の展開というダイナミズムから見通していきます。

また、世界に広がるストライキや社会運動が、資本主義社会との関係において何をめぐって争っているのかについても解説します。

The course analyzes the historical development of the capitalist society based on various theories of political economy that explain the creation and development of capitalist society. Contemporary economic issues such as globalization, migrant labor, financialization, and rent/digital economy will be examined from the dynamism of

the development of capitalism. The course will also discuss what strikes and social movements worldwide are fighting for in relation to the capitalist society.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：資本主義社会の「発展」に関する理論
- 3回：資本主義社会の成立
- 4回：植民地支配と近代世界システム
- 5回：独占資本主義と戦争
- 6回：フォーディズム
- 7回：労使関係・社会政策と「多様な資本主義」
- 8回：日本型資本主義／企業主義社会統合
- 9回：ポストフォーディズム
- 10回：金融資本主義化
- 11回：国際開発とグローバリゼーション
- 12回：新自由主義
- 13回：レント資本主義
- 14回：ウォーク資本主義と現代の社会運動

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関しては、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40%

最終レポート割合 :40%

最終レポートの内容としては、本講義に関連する指定の図書を読み自分なりの考察を提示することを求めます。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

今野晴貴 『賃労働の経済学 フォーディズムからデジタル封建制へ』 青土社 2021 4791773942

# 経済統計学 1

Economic Statistics 1

公的統計に見る統計と経済規模

櫻本 健 (SAKURAMOTO TAKESHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX123  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX3310  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

公的統計全体のフレームを鳥瞰して、主に生産や GDP といった統計データを扱えるようになること。

To be able to handle statistical data, mainly production and GDP, with a bird's eye view of the overall frame of official statistics.

## 授業の内容 / Course Contents

ビッグデータの時代を迎えて、統計作成の方法が大きく変化してきている。この授業では公的統計全体を大まかにイメージできるよう独自のテキストで講義を行う。公的統計制度は、概ね全体としての外側の枠組みと、国民経済計算体系を中心とした内側のフレームの 2 種類に分かれる。授業は前後半で分かれる。授業の前半では公的統計全体の枠組みを説明する。この範囲は統計調査士資格と内容が一部重複する。授業後半では経済統計で主に用いられる分析手法から、季節調整法といったいくつかの分野での演習を行う。

As we welcome the age of big data, the methods for creating statistics are changing greatly. The lecture in this class uses its own text to give students a rough image of public statistics overall. The public statistics system can be divided into an external framework that is roughly comprehensive and an internal framework focused on the

system for national accounts. The class is divided into first and second halves. During the first half of the course the overall framework of public statistics is explained. The scope of the lecture partially corresponds with the contents necessary for the qualification of Survey Statistician. The second half of the course is a seminar covering the analytical techniques and seasonal adjustment methods mainly used for economic statistics.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス、統計検定、本学の統計教育の紹介
- 2 回：公的統計制度と統計の種類
- 3 回：国勢調査の歴史と近代統計の成立
- 4 回：統計法、統計作成機構、統計の分類、二次的利用と罰則
- 5 回：公的統計の範囲、統計機構、統計調査の実務
- 6 回：日本の主な統計と概要
- 7 回：生産・サービスの定義
- 8 回：経済センサス・大規模統計調査、活動単位
- 9 回：生産統計の分析、産業分類(推計分類、集計分類)
- 10 回：e-Stat、国際機関データといった公的統計データの使い方
- 11 回：公的統計の二次的利用制度を想定した疑似マイクロデータ分析
- 12 回：移動平均法、季節調整法
- 13 回：季節調整法の続き、e-Stat に基づく GIS 分析 jSTAT-MAP1
- 14 回：e-Stat に基づく GIS 分析 jSTAT-MAP2

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で配布する『日本の公的統計・統計調査』を予習と復習に活用する。さらに授業で課された多くの課題に対処することを求める。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% すべて授業内に指示した提出物:40%

### テキスト / Textbooks

立教大学社会情報教育研究センター『日本の公的統計・統計調査』を使用する。上記立教のテキストは学内無料で提供しているため、配布予定である。必要な資料・データは、授業時に配布する。

### 参考文献 / Readings

社会情報教育研究センターのコンテンツも利用する。

### その他 / Others

授業に当たって統計学1・2を事前に履修しておくことが望ましい。授業は統計検定・統計調査士分野を網羅するように行う。授業を受けながら、統計調査士及び統計検定3級の資格受験をお勧めする。設備や環境に左右されることから、授業内容に多少の変更があり得る。

# 経済統計学 2

Economic Statistics 2

体系的な加工統計と経済効果の分析

櫻本 健 (SAKURAMOTO TAKESHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX124  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX3310  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：   
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

主要な経済分野の体系に沿った、解釈に無理のない統計分析を学ぶことができる。経済分析において基礎的な分析力に加えて応用力を身に付ける。

Students can learn statistical analysis for coming to reasonable conclusions in accordance with the systems of the major economic fields. In addition to gaining fundamental analytical ability, they will acquire the ability to apply it to economic analysis.

## 授業の内容 / Course Contents

公的統計の内側に国民経済計算を中心とした体系が位置付けられており、同体系全体を見ていくことができれば、マクロ統計全体の設計を鳥瞰することができる。国民経済計算の設計とその周辺の統計整備を通じて、マクロ経済指標の発展を学ぶ。授業後半は生産性指標、グローバリゼーションに関する統計指標、経済効果を求める統計と手法といった内容をまとめて取り上げる。

The system that focuses on National Accounts is positioned as being inside of Official Statistics, and if an overall view of this system is possible, it will be possible to design comprehensive macro statistics with a bird's eye view.

Learn through national economic calculation design and the peripheral statistical preparation how macroeconomic indicators developed.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：国民経済計算体系の成立～ケインズからストーンへ
- 2 回：GDP の成り立ち、GDP 推計法
- 3 回：GDP と三面測度の構成経済循環、フローとストック
- 4 回：SNA で構成される勘定、マクロの主要指標の調べ方
- 5 回：ソロー残差に基づく成長の要因分解
- 6 回：価格に基づく指数理論と実質化
- 7 回：物価と実質化の応用、OECD データによる GDP 国際比較（為替レート及び PPP）
- 8 回：金融統計、経済予測の展開
- 9 回：GDP に代わる豊かさの指標(生産性統計、人間開発指標、幸福度)
- 10 回：e-Stat、RESAS による地域経済の比較
- 11 回：国際収支統計(BOP)、付加価値貿易指標(TiVA)
- 12 回：供給使用・投入産出(産業連関)体系
- 13 回：経済波及効果分析、CO2 排出量の推計
- 14 回：授業のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時は概念の説明と PC による演習を行う。授業での内容を理解して概念を実際に計算して説明できることが求められる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内提出物（授業内レポート、授業内演習課題含む）:40%

### テキスト / Textbooks

李潔 『入門 GDP 統計と経済波及効果分析』 大学教育出版 2023 4864295360 -

テキストを買わなくても受講可能にしている。授業の主な部分はテキストに基づくので、詳しく知りたい人は購入いただきたい。テキスト以外必要な資料・データは、授業時に配布する。

### 参考文献 / Readings

作間逸雄 『SNA が分かる経済統計学』 有斐閣 2002 464112194

ダイアン・コイル 『GDP——〈小さくて大きな数字〉の歴史』 みすず書房 2015 4622079119

宮川努 『生産性とは何か—日本経済の活力を問いなおす』 ちくま新書 2018 9784480071897

社会情報教育研究センターのコンテンツも一部で利用する。

### その他 / Others

本授業は統計検定の統計調査士の試験範囲と一部重なるため、授業を受けつつ、ついでに資格取得を目指すことをお勧めする。設備や環境に左右されることから、授業内容に多少の変更があり得る。この数年授業を受講

して、大学院、データサイエンス系企業の研究員といった専門性が高い仕事に就く受講者が増えてきているため、それに対応して高度な知識を平易に学ぶ機会としたい。

# ヨーロッパ経済史 1

## European Economic History 1

どのようにしてヨーロッパ経済は成長したのか

菊池 雄太 (KIKUCHI YUTA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX125

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX3710

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 旧科目名）欧州経済史

### 授業の目標 / Course Objectives

かつてヨーロッパがどのようにして経済成長を実現し、工業化に至ったのかを理解する。それにより、ヨーロッパ特有の発展の仕方、ヨーロッパ的経済の特徴は何かを知る。

After taking this course, you will be able to understand how Europe once realized the modern economic growth that resulted in the industrialization, and thereby you will comprehend the development model as well as the economic system characteristic in Europe.

### 授業の内容 / Course Contents

ヨーロッパは世界ではじめて近代的な、つまり現代に直接つながるような経済成長をした地域とされています。したがって、ヨーロッパの経済史を学ぶことは、現代経済の仕組み、経済成長、人びとの経済生活や豊かさなどについて深く理解することにつながります。

本講義では、近代的経済成長がなぜヨーロッパで始まったのかを、人びとや企業、国家といった経済主体の果たした役割に注目して考察します。そこから、ヨーロッパ経済の特徴が明らかになります。

時代は古代から近代までと長期的にとり、ヨーロッパ内のさまざまな地域にフォーカスすることで、幅広い知



識と視野を身に着けます。

各回授業は最初の20分がライブストリームによる導入・質問等への回答、残りの時間が授業動画の視聴と課題にあてられます。授業動画は50分から60分ほどです。課題の提出は翌日ですが、授業動画が長くなった場合は延長します。

\* 場合によっては授業動画視聴がライブ授業に切り替えられる可能性もあります。

Europe is the first region in the world to undergo modern economic growth—in other words economic growth that directly links to today. Therefore, studying European economic history leads to a deep understanding of the contemporary economic framework, economic growth, and people's economic lives and abundance.

In this lecture students consider why modern economic growth started in Europe and focuses on the rules played by such economic agents as people, businesses, and national governments. That will reveal the characteristics of the European economy.

A long time span from ancient times to today will be looked at while focuses on various regions within Europe to acquire a broad knowledge and perspective.

Each lecture consists of 20 minutes livestream (introduction, answer to questions etc.) and 50-70 minutes lecture video (the rest time you can use for assignment).

\* Depending on the situation, the whole lecture can be delivered live.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション

2回：近代経済の起源

イノベーションの揺籃地イタリア・地中海

3回：封建社会の経済発展

領主支配下での成長のインセンティブ

4回：北方商業圏における制度と経済成果

ハンザの事業組織と商人ネットワーク

5回：中世後期の経済ショック

危機による構造転換

6回：ヨーロッパの対外進出

経済活動圏拡大の動機と方法

7回：大航海時代の経済成長

なぜポルトガルとスペインは失敗したのか

8回：最初の近代経済

なぜ小国オランダは躍進できたのか

9回：“低開発化”地域の形成

ポーランドとスウェーデンの相違

10回：経済大国の覇権争い

なぜイギリスは勝者となったのか

11回：産業革命へ

なぜイギリスだったのか(1)

12回：産業革命へ

なぜイギリスだったのか(2)

13回：産業革命の意義

イギリスの工業化はどのような成果をもたらしたか

14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で次の回の予習となる文章を配布しますので、それに目を通してください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 毎回の授業時間中に行う考察課題の内容:30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

各授業の内容に関連する参考文献を、授業配布プリントに記載します。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

日本語が母国語でない場合は、大学授業レベルの日本語能力が求められます。それ以外は、特別な能力は求められません。ヨーロッパの歴史に関する予備知識がなくても、授業にしっかり取り組めば理解できる内容になっています。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ノート PC やタブレット端末等、オンライン授業視聴（およびオンライン配信動画視聴）ができる機器と、ネットワーク環境が必要です。

## ヨーロッパ経済史 2

European Economic History 2

ヨーロッパ型経済の形成：経済成長と生活の質の観点から

菊池 雄太 (KIKUCHI YUTA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX126

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX3710

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 旧科目名）現代ヨーロッパ経済史

### 授業の目標 / Course Objectives

19 世紀から現在にかけてのヨーロッパ経済を、「経済成長」と「生活の質」という観点から学び、今日の「ヨーロッパ型経済」がどのような歴史的背景から成り立っているのかを理解する。

In this course you learn the economic history of Europe from the 19th century to the present with particular regard to "economic growth" as well as "quality of life". You will be able to understand the historical background of the economy of "European Model " today.

### 授業の内容 / Course Contents

今日のヨーロッパ諸国は、GDP の観点からはアメリカ合衆国や中国と比べて大国とは言えません。しかしそれでもなお、ヨーロッパ経済は学ぶべきところの多いモデルとされることがあります。なぜなら、ヨーロッパは経済を成長させる一方で、そこで暮らす人びとの生活の質を向上させることができていると考えられているからです。そのような「ヨーロッパ型経済」はどのように成立していったのか。また一方で、それは果たして理想的な経済と称賛できるものなのか。19 世紀以降の歴史からそれを紐解いていきます。

各回授業は最初の 20 分がライブストリームによる導入・質問等への回答、残りの時間が授業動画の視聴と課題

にあてられます。授業動画は50分から60分ほどです。課題の提出は翌日ですが、授業動画が長くなった場合は延長します。

\* 場合によっては授業動画視聴がライブ授業に切り替えられる可能性もあります。

Today, compared with the USA and China, European countries are not a big economic power in terms of GDP. However, the European economy is often regarded as a model from which we can learn a lot. Many believe that Europa is successful in making the economy grow and the quality of people's life better at the same time. How was the model of European economy established? Should it be actually regarded as an ideal economy? We consider these questions by leaning the economic history of modern Europe since the 19th century.

Each lecture consists of 20 minutes livestream (introduction, answer to questions etc.) and 50-70 minutes lecture video (the rest time you can use for assignment).

\* Depending on the situation, the whole lecture can be delivered live.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：ヨーロッパ型経済社会の基礎（1）
- 3回：ヨーロッパ型経済社会の基礎（2）
- 4回：技術革新が高度化するには
- 5回：産業革命期における”生活の質”
- 6回：第2次産業革命期における”生活の質”
- 7回：”豊かな社会”のための取奪
- 8回：世界大戦とヨーロッパの経済社会
- 9回：戦後のヨーロッパ経済社会（1）
- 10回：戦後のヨーロッパ経済社会（2）
- 11回：ケーススタディ：イギリス（1）  
教育と経済
- 12回：ケーススタディ：イギリス（2）  
福祉国家体制の長所と短所
- 13回：ケーススタディ：ドイツ（1）  
研究開発と科学技術大国化
- 14回：ケーススタディ：ドイツ（2）  
ものづくり大国の技術教育

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で次の回の予習となる 文章を配布しますので、それに目を通してください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 毎回の授業時間中に行う考察課題の内容:30%

考察課題の剽窃・盗用は評価対象外。悪質な場合は単位が認められない。

### テキスト/ Textbooks

とくに指定しない。

### 参考文献 / Readings

原輝史・工藤章（編） 『現代ヨーロッパ経済史』 有斐閣 1996

デレック・H・オールドクロフト 『20世紀のヨーロッパ経済』 晃洋書房 2002

田中素香 『現代ヨーロッパ経済』 有斐閣 2018

参考文献は、授業を理解するバックグラウンドとなる基礎知識を提供するものです。各授業の内容に関連する参考文献は、授業配布プリントに記載します。

### 履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

日本語が母国語でない場合は、大学授業レベルの日本語能力が求められます。それ以外は、特別な能力は求められません。ヨーロッパの歴史に関する予備知識がなくても、授業にしっかり取り組めば理解できる内容になっています。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ノート PC やタブレット端末等、オンライン授業視聴（およびオンライン配信動画視聴）ができる機器と、ネットワーク環境が必要です。

# 日本経済史 1

Japanese Economic History 1

山本 裕 (YAMAMOTO YU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX127  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2710  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

近現代日本経済史の基礎知識を習得する。

知識を習得する上で、経済学・歴史学の方法論を用いていく。

主に対象とする時期は、19 世紀中葉から、20 世紀末までとする。

特に、

- 様々な経済現象が人々の暮らしを大きく規定した。
- 近現代日本の社会経済が東アジアの諸地域と密接に関係してきた。

以上 2 点に、特に留意して理解を深めていく。

I learn basic knowledge of the Japan economic history in the close present age.

I use methodology of economics, the history in learning knowledge.

At the time to intend, I do it mainly from middle to the end of 20th century in the 19th century.

Particularly,

- Various economic phenomena greatly prescribed the living of people.
- Social economy of Japan was related to areas and closeness of the East Asia in the close present age.

I note above two points in particular and deepen understanding.

### 授業の内容 / Course Contents

近現代日本経済史の概説を講義する。

以下の2つの点に留意して講義を進めていく。

1. 経済成長のマクロ的考察にとどまらず、人々の暮らしと経済との相互関係及びその推移を重視する。
2. 日本と東アジアとの経済的関係の歴史的推移を重視する。

I lecture by a general statement of the Japan economic history in the close present age.

I note two following points and push forward a lecture.

1. I focus on mutual relations with a living and the economy of people and the change without remaining in macro consideration of the economic growth.

2. I focus on Japan and the historic change of economical relations with the East Asia.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：日本経済史を学ぶ意味・経済史の学習方法
- 2回：近世から近代へ：幕末開港と明治維新－経済から見た幕末・維新时期（1）－
- 3回：近世から近代へ：幕末開港と明治維新－経済から見た幕末・維新时期（2）－
- 4回：「生きづらい」明治社会」再考－ 通俗道德の影響と立身出世という価値観（1）
- 5回：「生きづらい」明治社会」再考－ 通俗道德の影響と立身出世という価値観（2）
- 6回：「産業革命」と伝統的要素－生産技術と市場制度、近代産業と在来産業（1）－
- 7回：「産業革命」と伝統的要素－生産技術と市場制度、近代産業と在来産業（2）－
- 8回：「産業革命」と伝統的要素－生産技術と市場制度、近代産業と在来産業（3）－
- 9回：日清・日露戦争と対外経済「進出」・植民地経営－その社会的影響（1）－
- 10回：日清・日露戦争と対外経済「進出」・植民地経営－その社会的影響（2）－
- 11回：両大戦間期日本の社会と経済(1)：大戦好況・バブルの発生・バブル崩壊後の長期不況が与えた様々な影響
- 12回：両大戦間期日本の社会と経済(2)：産業と企業を中心に
- 13回：両大戦間期日本の社会と経済(3)：人々の生活を中心に
- 14回：両大戦間期日本の社会と経済(4)：「植民圏」の社会と経済－台湾・朝鮮・「満洲」－

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習については、各回の講義を受講する前に、講義範囲について参考書の指定範囲を読解して、分からない用語等をメモし、調べておく。また、論旨で分からないところが何処なのか、事前に各自が把握しておく。

復習については、各回の講義終了後に、講義内容を自筆ノートでまとめ直すしておく。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 中間講義レポート:30%

### テキスト / Textbooks

宮本又郎編 『改訂新版 日本経済史』 放送大学教育振興会 2012年 9784595312639 -

**参考文献 / Readings**

松沢裕作 『生きづらい明治社会』 岩波ジュニア新書 2018年 9784005008834

**その他/ Others**

本科目は教科書を指定するが、教科書の内容以外についても講義を行う。その旨、了承した上で履修されたい。

講義で扱った内容について、自ら問いを立てるような積極的な受講態度を望みたい。



# 日本経済史 2

Japanese Economic History 2

山本 裕 (YAMAMOTO YU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX128  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2710  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

近現代日本経済史の基礎知識を習得する。

知識を習得する上で、経済学・歴史学の方法論を用いていく。

主に対象とする時期は、19 世紀中葉から、20 世紀末までとする。

特に、

1. 様々な経済現象が人々の暮らしを大きく規定した。
2. 近現代日本の社会経済が東アジアの諸地域と密接に関係してきた。

以上 2 点に、特に留意して理解を深めていく。

I learn basic knowledge of the Japan economic history in the close present age.

I use methodology of economics, the history in learning knowledge.

At the time to intend, I do it mainly from middle to the end of 20th century in the 19th century.

Particularly,

1. Various economic phenomena greatly prescribed the living of people.
2. Social economy of Japan was related to areas and closeness of the East Asia in the close present age.

I note above two points in particular and deepen understanding.

### 授業の内容 / Course Contents

近現代日本経済史の概説を講義する。

以下の2つの点に留意して講義を進めていく。

1. 経済成長のマクロ的考察にとどまらず、人々の暮らしと経済との相互関係及びその推移を重視する。
2. 日本と東アジアとの経済的関係の歴史的推移を重視する。

I lecture by a general statement of the Japan economic history in the close present age.

I note two following points and push forward a lecture.

1. I focus on mutual relations with a living and the economy of people and the change without remaining in macro consideration of the economic growth.

2. I focus on Japan and the historic change of economical relations with the East Asia.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：日本経済史を学ぶ意味・経済史の学習方法
- 2回：戦前日本の技術発展
- 3回：戦時統制経済と戦後改革（1）
- 4回：戦時統制経済と戦後改革（2）
- 5回：戦時統制経済と戦後改革（3）
- 6回：戦時統制経済と戦後改革（4）
- 7回：高度成長の時代（1）
- 8回：高度成長の時代（2）
- 9回：高度成長の時代（3）
- 10回：高度成長の時代（4）
- 11回：技術革新と労働の変化
- 12回：世界経済の統合と日本経済
- 13回：日本企業の成熟と金融制度改革
- 14回：小括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習については、各回の講義を受講する前に、講義範囲について参考書の指定範囲を読解して、分からない用語等をメモし、調べておく。また、論旨で分からないところが何処なのかも、事前に各自が把握しておく。

復習については、各回の講義終了後に、講義内容を自筆ノートでまとめ直しておく。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 中間講義レポート:30%

### テキスト / Textbooks

宮本又郎編 『改訂新版 日本経済史』 放送大学教育振興会 2012年 9784595312639 -

**参考文献 / Readings****その他/ Others**

本科目は教科書を指定するが、教科書の内容以外についても講義を行う。その旨、了承した上で履修されたい。

講義で扱った内容について、自ら問いを立てるような積極的な受講態度を望みたい。

# アメリカ経済史 1

American Economic History1

アメリカ国内経済の発展

水野 里香 (MIZUNO RIKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX129

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX3710

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 旧科目名）アメリカ経済史

## 授業の目標 / Course Objectives

現代のアメリカ経済の基盤が形成された過程について、経済史の視点から理解する。

授業で取り上げた個別の事項について説明できるようになることに加え、その発生要因と結果および影響について理解することを通じて、現代の経済社会にたいする考察を深める。

Students gain an understanding from a historical perspective of the process that formed the foundation of the contemporary American economy.

In addition to students becoming able to explain the individual matters raised during the lecture, by understanding the factors behind that formation and their results and impact they will gain the ability to deeply consider contemporary economic society.

## 授業の内容 / Course Contents

アメリカ合衆国が植民地時代を経たのちに建国され、ヨーロッパをしのぐ国内市場を成立させた 19 世紀末までの間に焦点をあて、時系列に沿いながら、その間に起きた経済的事象を取り上げて、アメリカ経済の発展過程について解説する。

This course focuses on the United States of America from the colonial period through the founding of the country until the late 19th century when it established a domestic market that surpassed that of Europe while following a chronology to look at the economic phenomena that occurred during that time to explain the development process of the American Economy.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：アメリカ発見と植民地時代
- 3回：独立革命
- 4回：新国家の成立
- 5回：産業革命期の経済（1）
- 6回：産業革命期の経済（2）
- 7回：南北戦争
- 8回：巨大企業の登場
- 9回：鉄道産業の興隆
- 10回：独占と反トラスト法
- 11回：金融と産業
- 12回：革新主義運動の展開
- 13回：革新主義期の対外政策
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：各回授業の終わりに次週に取り上げる内容の簡単な説明をするので、次週のテーマや対象となる年代に関して、参考文献や高校までの世界史のテキスト等によって確認（予習）しておくことが望ましい。

復習：授業内で学んだ事柄を、自身の言葉で説明できるようにする。同時に、理解が不十分な箇所については、下記に掲げた参考図書等を用いて確認する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 授業内で複数回行う小問:20%

### テキスト / Textbooks

とくに使用しません。

### 参考文献 / Readings

岡田泰男 『アメリカ経済史』 慶應義塾大学出版会 2000

藤瀬浩司 『新訂欧米経済史』 放送大学出版会 2004

谷口明丈・須藤功 編 『現代アメリカ経済史』 有斐閣 2017

坂出健・秋元英一・加藤一誠 編 『入門 アメリカ経済 Q&A100』 中央経済社 2019

その他の文献については、適宜授業内で必要に応じて紹介します。

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

高校までの歴史の知識があることが望ましいです。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

授業に関する連絡や、授業資料の配布は、Canvas LMS を利用します。

**その他/ Others**

講義の進捗状況により、授業計画に変更や修正が生じる可能性があります。

# アメリカ経済史2

American Economic History2

海外市場の開拓

水野 里香 (MIZUNO RIKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX130

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX3710

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 旧科目名）現代アメリカ経済史

## 授業の目標 / Course Objectives

世界経済や国際政治の場で影響力を行使するような現代のアメリカが、いかにして形成されたのかを、経済史の視点から理解する。

授業で取り上げた個別の事項について説明できるようになることに加え、その発生要因と結果および影響について理解することを通じて、現代の経済社会にたいする考察を深める。

Understand from a historical perspective how today's America became a country that exercises influence over the world economy and international politics.

In addition to students becoming able to explain the individual matters raised during the lecture, by understanding the factors behind that formation and their results and impact they will gain the ability to deeply consider contemporary economic society.

## 授業の内容 / Course Contents

第1次世界大戦を経て、国際社会に加わり、そこで次第に中心的な役割を担うようになってゆくアメリカが、経済的にも政治的にも国外への関わりを深めてゆく現代までの期間に焦点をあて、その間にみられた経済

的事象を中心に提起して、アメリカ経済の発展過程について解説する。

This course focuses on America during the period from World War I, the joining of international society, and as it gradually came to play a central role in the world until today where the country has deepened its foreign involvement both economically and politically while looking at mainly the economic phenomena that occurred during that time to explain the development process of the American Economy.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：第1次世界大戦とアメリカ
- 3回：世界大恐慌前夜の経済状況
- 4回：世界大恐慌直後の対応
- 5回：ニューディール政策
- 6回：第2次世界大戦期のアメリカ経済
- 7回：第2次世界大戦後の国際秩序
- 8回：IMF・GATT体制の構築
- 9回：ニューフロンティア
- 10回：産業の衰退
- 11回：新自由主義の到来
- 12回：ニューエコノミー
- 13回：グローバリゼーション
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：各回授業の終わりに次週に取り上げる内容の簡単な説明をするので、次週のテーマや対象となる年代に関して、参考文献や高校までの世界史のテキスト等によって確認（復習）しておくことが望ましい。

復習：授業内で学んだ事柄を、自身の言葉で説明できるようにする。同時に、理解が不十分な箇所については、下記に掲げた参考文献等を用いて確認する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 授業内で複数回行う小問:20%

### テキスト / Textbooks

とくに使用しません。

### 参考文献 / Readings

- 岡田泰男 『アメリカ経済史』 慶應義塾大学出版会 2000  
 藤瀬浩司 『新訂欧米経済史』 放送大学出版会 2004  
 萩原新次郎・中本悟 『現代アメリカ経済』 日本評論社 2005  
 中本悟・宮崎礼二 『現代アメリカ経済分析』 日本評論社 2013



渡辺靖編 『現代アメリカ』 新曜社 2014

谷口明文・須藤功編 『現代アメリカ経済史』 有斐閣 2017

坂出健・秋元英一・加藤一誠 編 『入門 アメリカ経済 Q&A100』 中央経済社 2019

その他の文献については、適宜授業内で必要に応じて紹介します。

### **履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

高校までの歴史の知識があることが望ましいです。

### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

授業に関する連絡や、授業資料の配布は、Canvas LMS を利用します。

### **その他/ Others**

講義の進捗状況により、授業計画に変更や修正が生じる可能性があります。

# アジア経済史 1

Asian Economic History 1

篠根 拓人 (SHINONE TAKUTO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX131  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX3710  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

近代アジア経済の成り立ちを理解するとともに、日本・アジア経済の現代的課題を歴史的視点と関連付けて説明できることを目標とする。

The goal of this lecture is to understand the development of the modern Asian economy and explain contemporary issues in the Japanese and Asian economies by connecting them with a historical perspective.

## 授業の内容 / Course Contents

本授業では、近世から近代に至るアジア経済の変遷を議論する。アジア経済において歴史的に大きな比重を占めた中国経済の動向を捉えたうえで、貿易・流通・市場構造の面からアジア域内経済の基本構造の形成を論じる。特に、西洋の衝撃がアジアの制度に及ぼした影響とアジア経済の自立的成長過程について取り上げ、現代アジア経済の基盤としての近代アジア経済について理解を深める。

In this lecture, we will discuss the transformation of the Asian economy from the early modern period to modern times. We will capture the trends in the Chinese economy, which historically held significant weight in the Asian economy, and examine the formation of the basic structure of the Asian regional economy from the perspectives of trade, distribution, and market structure. Particularly, we will explore the impact of Western influences on

Asian institutions and the process of independent growth in the Asian economy. This aims to deepen our understanding of the modern Asian economy as the foundation of contemporary Asian economic dynamics.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：アジア域内交易と大航海時代
- 3回：近世東アジア経済と国際秩序
- 4回：明清期中国の経済開発と全国市場
- 5回：近世日本の経済成長
- 6回：大英帝国とアジア三角貿易
- 7回：清の開港と太平天国のインパクト
- 8回：洋務運動の展開と冊封体制の崩壊
- 9回：近代中国の市場秩序
- 10回：日本の開港と貿易構造
- 11回：日清・日露戦争と東アジア経済
- 12回：アジア間貿易の展開
- 13回：近代アジアにおける労働力の移動
- 14回：第一次世界大戦とアジア経済

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に講義資料を教学支援 Web アップロードするので、受講の際は各自資料をダウンロードすること。地名や歴史用語について分からないものは各自調べて復習すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%  
 平常点割合 :20% 中間講義レポート:20%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

堀和生, 木越義則 『東アジア経済史』 日本評論社 2020 9784535558045  
 杉山伸也 『グローバル経済史入門』 岩波書店 2014 9784004315124  
 久保亨, 加島潤, 木越義則 『統計でみる中国近現代経済史』 東京大学出版会 2016 9784130421447  
 岸本美緒 『東アジアの「近世」』 山川出版社 1998 9784634341302  
 必要に応じてその他参考文献を講義中に指示します。

### その他 / Others

「アジア」は多様性を内包した地域概念です。アジア・中国を議論するにあたり、多様な関心を持った学生の受講を期待します。

# アジア経済史 2

Asian Economic History 2

篠根 拓人 (SHINONE TAKUTO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX132  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX3710  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

近代アジア経済の成り立ちを理解するとともに、日本・アジア経済の現代的課題を歴史的視点と関連付けて説明できることを目標とする。

The goal of this lecture is to understand the development of the modern Asian economy and explain contemporary issues in the Japanese and Asian economies by connecting them with a historical perspective.

## 授業の内容 / Course Contents

本授業では近現代のアジア経済の変遷を議論する。両大戦間期から第二次世界大戦後にかけてのアジアにおける都市化・工業化の展開および国際貿易関係の変化に注目しつつ、アジア域内経済の構造的変化およびアジア経済と欧米諸国の関係性について論じる。特に、近代以降のアジアにおける経済政策および冷戦冷戦体制下のアジアにおける経済開発を取り上げ、現代アジア経済が形成された過程について理解を深める。

In this lecture, we will discuss the transformations in the modern and contemporary Asian economy. Focusing on the urbanization, industrialization, and changes in international trade relations in Asia from the interwar period to the post-World War II era, we will examine the structural changes in the intra-Asian economy and discuss the

relationship between the Asian economy and Western nations. Particularly, we will address economic policies in modern Asia and economic development in Asia under the Cold War framework, aiming to deepen our understanding of the process through which the contemporary Asian economy has been shaped.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：両大戦間期アジアの食糧貿易
- 3 回：日本帝国圏の経済構造
- 4 回：民国期中国の国内交易と工業化
- 5 回：両大戦間期東アジアの都市化
- 6 回：南京国民政府の経済政策
- 7 回：大恐慌と東アジア経済
- 8 回：戦時経済の展開
- 9 回：冷戦体制と東アジア経済
- 10 回：社会主義中国の成立
- 11 回：計画経済期の中国
- 12 回：改革開放から社会主義市場経済へ
- 13 回：開発独裁諸国と工業化
- 14 回：総括：アジア経済の長期的展開

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に講義資料を教学支援 Web アップロードするので、受講の際は各自資料をダウンロードすること。地名や歴史用語について分からないものは各自調べて復習すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%  
平常点割合 :20% 中間講義レポート:20%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

堀和生, 木越義則 『東アジア経済史』 日本評論社 2020 9784535558045  
 杉山伸也 『グローバル経済史入門』 岩波書店 2014 9784004315124  
 久保亨, 加島潤, 木越義則 『統計でみる中国近現代経済史』 東京大学出版会 2016 9784130421447  
 丸川知雄 『現代中国経済（新版）』 有斐閣 2021 9784641221796  
 必要に応じてその他参考文献を講義中に指示します。

### その他 / Others

「アジア」は多様性を内包した地域概念です。アジア・中国を議論するにあたり、多様な関心を持った学生の受講を期待します。

# 社会思想史

History of Social Thought

平等の社会思想史

板井 広明 (ITAI HIROAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX133

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX3210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

古代から現代に至る社会思想史において浮かび上がった平等の思想について整理できることを目指す。

平等の問題が、自由や安全、福祉の問題にどう関連しているのか理解できることを目指す。

To summarize the ideas of equality from ancient Greece to the present.

To understand how the ideas of equality relates to issues of liberty, security, and welfare.

## 授業の内容 / Course Contents

古代のアリストテレスから現代の論者に至る平等の社会思想史を概観する。

平等という理念がどのように論じられてきたのか、またそれが自由や安全、福祉の問題とどう関連し、各々の時代状況とどう関係しながら論じられてきたのかを検討する。

To overview the ideas of equality from ancient Greece to the present.

Lectures on the ideas of equality in relation to issues such as liberty, security, and welfare.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：はじめに：「平等とはなにか」
- 2回：アリストテレスの平等論
- 3回：ルソーの平等論
- 4回：スミスの平等論
- 5回：カントの平等論
- 6回：ベンサム of 平等論（1）
- 7回：ベンサム of 平等論（2）
- 8回：J.S.ミルの平等論
- 9回：オーウェンの平等論
- 10回：マルクスの平等論
- 11回：ピグーの平等論
- 12回：ケインズの平等論
- 13回：ロールズとセンの平等論
- 14回：ヴェーバー、あるいは近代における平等

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に教科書の該当章を一読してくる（ベンサム、オーウェン、ヴェーバーは教科書で取り扱っていない）が要求される。復習として、講義内容の確認、とりわけ重要な概念について、その論者、概念定義、格闘した現実諸問題を適切に要約し、講義で紹介した文献などに目を通して考えを深めること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%  
 平常点割合 :20% コメントなど:20%

#### テキスト / Textbooks

新村聡・田上孝一 『平等の哲学入門』 社会評論社 2021 4784515887 ○

#### 参考文献 / Readings

# 現代社会思想

Modern Social Thought

平等の哲学と現代社会

板井 広明 (ITAI HIROAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX134

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX3210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

現代社会の問題を平等という観点から捉えることができる。

平等という価値がジェンダーや責任、自由という問題とどう関連しているのかを理解し、福祉国家や税などの諸制度とどう関連させて考えればよいのかを理解することを目指す。

To view the problems of contemporary society from the perspective of equality.

To understand how the ideas of equality relates to issues of gender, responsibility, and liberty, and how it can be related to various systems such as the welfare state and taxation.

## 授業の内容 / Course Contents

現代社会の諸問題として、ジェンダー、健康や障碍などをめぐる問題を取りあげ、平等という観点から講義する。

平等という理念がいかなるものであると現代論じられているか、またそれがジェンダー、責任、税といった諸制度とどう関連しているのかを、現代の諸思想を検討しつつ講義する。

Lecture will focus on various issues in contemporary society from the perspective of equality and examine how



the ideas of equality is related to gender, responsibility, taxation, etc., by referring contemporary philosophers.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：はじめに：現代社会と平等
- 2回：ジェンダーと平等(1)：ジェンダー差別
- 3回：ジェンダーと平等(2)：ジェンダー規範と表象
- 4回：ジェンダーと平等(3)：フェミニズムと交叉性
- 5回：健康と平等
- 6回：動物と平等
- 7回：食と平等（1）：グローバルな食の問題
- 8回：食と平等（2）：肉食の倫理
- 9回：食と平等（3）：食の倫理
- 10回：責任と平等
- 11回：グローバル化と平等
- 12回：賃金と平等
- 13回：福祉国家と平等
- 14回：税と平等

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に教科書の該当章を一読し、重要と思われる用語については各事典や文献にあたっておくこと。また復習として、講義内容をノートに要約してまとめ、授業中に紹介した文献などに目を通して考えを深めること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% コメントなど:20%

### テキスト / Textbooks

新村聡・田上孝一 『平等の哲学入門』 社会評論社 2021 4784515887 ○

### 参考文献 / Readings

# 経済政策論 1

Economic Policy 1

グローバル資本主義の転機と政策対応

Turning point of global capitalism, and its policy responses

櫻井 公人 (SAKURAI KIMIHITO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX137  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2510  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

グローバル資本主義の持続可能性と政策対応が問われている。行き過ぎたグローバリズムへの反動として、米中貿易戦争、グローバル金融危機、反 EU、自国第一主義などが生じてきたことを学ぶ。経済安全保障や AI などデジタル化が課題となる中での産業政策、通商政策などを学ぶ。

To study sustainability of global capitalism, and its policy responses, it is indispensable to consider backlashes to the extreme globalism including such issues as US-China trade war, global financial crisis, anti-EU sentiment, America-first. To study industrial policy and trade policy while economic security and AI issues are at stake.

## 授業の内容 / Course Contents

産業のあり方と豊かさをめぐる A.スミスと重商主義者の論争が経済学を生み出した。通商政策と成長戦略・産業政策の成否が世界システム内での各国の地位を決める。中心国と新興国との政策的な競争を生むからこれが新たな摩擦となり、さらなるグローバル・パワーシフトにつながる。また、自動運転とライドシェア・EV シフトによって自動車産業は変貌し、キャッシュレス化とリアル店舗の削減によって銀行業が変貌する。IOT と第

4次産業革命に対処するための産業政策と通商政策について考えよう。

Controversy by A. Smith with mercantilists borrough about political economy. Trade policy and growth strategy will be the determinants of positioning of countries in the world system. Competition by the center country and the emerging ones will make economic frictions which in turn make other competitions. This will make global power shifts. The automobile industry is being transformed by autonomous driving, ride sharing, and the shift to electric vehicles. And there is the transformation of the banking industry and the emergence of new finance as cashless transactions spread and reduction of real offices. Explanations will be given to new trade policies and industrial policy coping with IoT and the 4th industrial revolution.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：はじめにーグローバル化 vs 経済安全保障

Globalization vs economic security

2回：最初の経済学をつくった政策論争ー『国富論』と「利己心」vs「共感」

Policy debate that made the Economics:Adam Smith vs mercantilists

3回：貿易収支が黒字になるのは景気のよい時、それとも悪い時？

Does trade surplus come up with the boom or with the depression ?

4回：経済学をつくった一番有名な原理ー比較優位と自由貿易政策

Comparative advantage and free trade policy

5回：新興国アメリカをつくった政策ー保護主義と自給に向かう政策の原型

Policy that made emerging USA or prototype protectionism

6回：グローバリズムと通商政策ーWTO・FTA とリベラル国際秩序

WTO・FTA and liberal international order

7回：20世紀資本主義をつくった産業ー自動車産業 100年の盛衰

100 years of automobile industry

8回：環戦後日本経済をつくった政策

ー通産省 vs 本田宗一郎あるいは日本型経済政策の原型

MITI vs Soichiro Honda or prototype industrial policy in Japan

9回：10年後の自動車産業ーCASE革命から「空飛ぶ」自動車まで

From CASE revolution to a flying car or 100 years of automobile industry

10回：デジタル化で銀行は2040年まで生き延びるかー世界で一番大きな貨幣と暗号通貨

Does banking sector survive in 2040 ?ーor the world's biggest coin and crypt currency

11回：「脱炭素」のゆくえー資源・エネルギー・電力産業と「新自由主義的」規制緩和  
'dcarbonization' and deregulation policies or industries in resource, energy and electricity

12回：米中「新冷戦」と中国経済の停滞

US-China 'new cold war' and depressed Chinese economy

13回：経済安全保障あるいは反グローバリズム

economic security or anti-globalism

14回：まとめ

conclusion

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

事前に教科書、参考書の該当箇所、レジюме等を参照すること。

事前にニュースなどの映像教材の視聴を求める場合がある。

レジюме等の教材を、Canvas LMS にUP する。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation**

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 出席態度・リアクション・授業内課題レポート等:35% 中間課題:15%

**テキスト/ Textbooks**

教科書品切れとの情報がありました。経済政策論2 (秋学期) の教科書の一部が使えますので早めの入手と代用をおすすめします。

**参考文献 / Readings**

マンフレッド・B・スティーガー 『1冊でわかる 新版グローバリゼーション』 岩波書店 2010年  
9784000269049

斉藤・古川編 『分水嶺にたつ市場と社会』 文真堂 2020 9784830950766

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

ZOOM に接続できるデバイスと環境を用意すること。

## 経済政策論 2

Economic Policy 2

グローバル金融危機と反グローバリズムへの政策対応

policy responses to the global financial crisis and anti-globalism

櫻井 公人 (SAKURAI KIMIHITO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX138

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2510

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

転機にある経済政策を検討する。そのために、金融主導のグローバリゼーションの展開について学び、金融危機頻発の事情を理解する。そのうえで、グローバル危機に対応してきた各国経済政策の経緯と模索について学ぶ。それは同時に、反グローバリズム台頭の事情を探ることでもある。

To study globalization led by money and finance and causes of frequent occurring of financial crises.

To study policy responses by countries coping with global financial crises, which explain rising of anti-globalism.

### 授業の内容 / Course Contents

金融主導のグローバリゼーションの進展と金融危機の中、政策対応が模索されてきた。反グローバリズムも台頭しつつある。グローバリゼーションの下で体系的な経済政策は成立しうるのか。通貨危機とグローバル金融危機を振り返りつつ、グローバル資本主義の下での政策について検討し、ポストコロナの経済政策像を探る。

Globalization led by money and finance caused global financial crises which countries had to cope with.

Anti-globalism is also rising. Can we have a system of economic policy? Explanations will be given to policy

responses to currency crises and global financial crisis.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：1930 年代大不況－20 世紀の経済政策をつくった「大転換」

Great depression in 1930s and its policy responses

2 回：オフショア金融市場とタックス・ヘイヴン－デリバティブと「お金もうけの鉄則」

Offshore financial markets and tax heavens

3 回：円高・円安，どっちがトク？－日銀政策のディレンマ

Which is more profitable, appreciation or depreciation ?

4 回：株価と国債価格はどうか決まる？－財政政策と金融政策のつながり

How prices of stocks and treasury bills are determined ?

5 回：ヴォルカーショックとその影響－メキシコ債務危機とプラザ合意

Volker shock and its effect－Debt crisis in Mexico and the Plaza Accord

6 回：日本バブルの形成と崩壊－「失われた 30 年」って何？

Formation and surst of Japan bubble and 'the lost 30 years'

7 回：「日本化」と非伝統的金融政策－デフレとアベノミクス

'Japanization' and 'Abenomics'－unconventional monetary policy for deflation

8 回：欧州通貨危機と「お金もうけの鉄則」

European currency crises and Hedge funds

9 回：メキシコと東アジアの通貨危機

Currency crisis in Mexico and Eastern Asia

10 回：サブプライム危機・リーマンショックと FRB

Sub prime crisis and FRB

11 回：欧州ソブリン危機と「ドラギ・マジック」

European sovereign crisis and 'Draghi Magic'

12 回：「デフレ脱却」ナラティブと量的・質的緩和政策

Unprecedented QQE and narrative of 'anti-deflation'

13 回：国際労働力移動と人口・移民政策

International migration and population & migration policy

14 回：まとめ

conclusion

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

教科書，参考書の該当箇所，レジュメを参照すること。

レジュメ等の教材を，Canvas LMS に UP する。

事前に、ニュースなどの映像資料の視聴を求める場合がある。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 出席態度・リアクション・授業内課題レポート等:35% 中間課題:15%

**テキスト/Textbooks**

奥田・代田・櫻井編 『深く学べる国際金融ー持続可能性と未来像を問う』 法律文化社 2020年  
9784589040671 ○

**参考文献 / Readings**

スーザン・ストレンジ 『マッド・マネーーカジノ資本主義の現段階』 岩波書店 2009年 9784006002091  
斉藤・古川編 『分水嶺にたつ市場と社会』 文真堂 2020 9784830950766

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

ZOOM に接続できるデバイスと環境を用意すること。

# 日本経済論 1

Structure of Japanese Economy 1

戦後日本経済の展開と現在

林 采成 (LIM CHAISUNG)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX141

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1710

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

戦後日本経済の展開プロセスを理解し、長いスパンをもって現在に至る日本経済に対するパースペクティブを持たせる。その中で成長メカニズムとその限界が、日本経済にとって内外的な非連続性を伴い、新しい対応が求められていることを理解する。

Understand the post-war Japanese economy development process and have a long-span perspective of the Japanese economy up to the present time. Understand that those growth mechanisms and their limitations come with internal and external discontinuity and require new responses.

## 授業の内容 / Course Contents

戦後日本が敗戦から経済復興のモメンタムを掴み、高度経済成長を成し遂げ、経済大国化を達成したものの、バブル経済とその崩壊によって長期不況が生じるといった日本経済の展開過程を歴史的に認識するとともに、財政問題を抱える日本型福祉の限界、東日本大震災後のエネルギー問題、東アジアの新興工業国の登場に伴う国際分業の再編にも焦点を当てて日本経済に関する構造的把握を試みる。また、13 週目には外部からゲスト講師を招き、新しい論点に関する説明をしてもらう予定である。



Attempt to grasp the structure of the Japanese economy by recognizing the historical development process of the Japanese economy, namely although post-war Japan moved from losing the war to riding the momentum of economic recovery to achieve rapid economic growth and become an economic power, the Bubble Economy and its subsequent collapse initiated a period of long-term recession while also focusing on the limitations of Japanese type welfare, which faces financial problems, the energy problem after the Great East Japan Earthquake, and the reorganization of the international division of labor accompanying the appearance of emerging industrial countries in East Asia. In addition, during the 13th week guest instructors will be invited to explain new issues.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：米占領下の戦後経済改革
- 3 回：戦後経済復興と朝鮮戦争
- 4 回：高度経済成長の起動・展開
- 5 回：日本版大衆消費社会の渡来
- 6 回：オイルショックと高度経済成長の終息
- 7 回：安定経済成長と経済大国化
- 8 回：日米貿易摩擦と日米構造協議
- 9 回：バブル経済から長期不況へ
- 10 回：東アジアの中での日本経済
- 11 回：ポスト 3・11 とエネルギー問題
- 12 回：日本型福祉と NPO の役割
- 13 回：ゲスト講師による講演
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義資料・ノートは、事前にアップロードする。また、参考文献も事前に紹介する。予習して講義に参加することを期待する。講義を受講して質問がある場合やより詳しい学習内容が求められる場合はそれに関連する議論や資料紹介の機会を設ける。普段から日本経済に関する疑問や問題意識を持ち、それを理解しようとする姿勢が望まれる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験	:70%		
平常点割合	:30%	ディスカッション技術など:10%	最終レポート割合：:20%

### テキスト / Textbooks

なし  
講義資料・ノートを配布する。

### 参考文献 / Readings

橋本寿朗 『現代日本経済』 有斐閣 2011 4641124434

- 中村隆英 『日本経済』 東大出版会 1993 4130420429  
武田晴人 『高度成長』 岩波書店 2008 4004310490  
石井里枝 『日本経済史』 ミネルヴァ書房 2017 4623079481

## 日本経済論 2

Structure of Japanese Economy 2

日本経済の現況と課題

林 采成 (LIM CHAISUNG)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX142

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1710

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

日本経済の現況と今現在直面している課題を理解すること。具体的にはマクロ経済の動向と共に、経済成長の主軸である企業投資に重点を置きながら、それに関連する金融市場や労働市場の特徴を読み取り、これらが持つグローバル経済との関連性を理解して説明できることである。

Understanding the current state of the Japanese economy and the issues it has been facing recently. Specifically, discussion will focus on the macroeconomic trends and business investment, which is the driving force of economic growth, and the objective is to be able to read the characteristics of the related financial and labor markets and to understand and explain their relationship to the global economy.

### 授業の内容 / Course Contents

マスコミによってよく膾炙される日本経済の課題を取上げ、経済運営の仕組みと経済主体の行動様式を説明し、日本経済の全体像を理解する。授業中 1 回は実務に関わっている方を招き、直接説明をしてもらう。また、時間を取って受講者が作成したレポートをプレゼンしたり、特定の論点について議論したりする機会を設ける。

Bring up the issues of the Japanese economy that are often reported by the mass media, explain the economic management framework and the behavior of economic entities, and understand the overall picture of the Japanese economy. Once during the class a person actually involved with this will be invited to come and explain it directly. In addition, the students will be given time to present reports they have created and an opportunity will be provided for them to discuss specific issues.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：日本経済は果たしてどこに向かうのか： マクロ経済の動向と日本資本主義の未来
- 3回：超一流企業はなぜ競争力を失ったのか： 超一流企業の危機と生存の生態学
- 4回：政府の産業政策はもはや無意味なのか： 政府と企業間関係の新しい模索
- 5回：金融市場は企業投資にどのような役割を果たしているのか： 金融市場と企業金融
- 6回：果たして規制緩和は有効であるのか： 規制緩和と公企業改革
- 7回：中小企業は依然として日本産業の競争力基盤であるのか： 経済危機の中の部品製造業
- 8回：高齢化時代の労働対策はあるのか： 高齢化社会の労働市場
- 9回：グローバル経済のなかで日本は依然として経済大国であり続けるのか： 貿易と海外投資
- 10回：日本企業は海外進出を通じて何を得たのか： 内需不足と日本企業のグローバル経営
- 11回：経済成長のため、バリエーションを引き下げるべきか： 包括的経済協定の実現可能性とその展望
- 12回：円高は日本経済の毒か： 円高と円安の日本経済
- 13回：日本は今海外に差し上げ過ぎなのか： 国際協力に対する日本人の認識と実像
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義資料・ノートは、事前にアップロードする。また、参考文献も事前に紹介する。予習して講義に参加することを期待する。講義を受講して質問がある場合やより詳しい学習内容が求められる場合はそれに関連する議論や資料紹介の機会を設ける。普段から日本経済に関する疑問や問題意識を持ち、それを理解しようとする姿勢が望まれる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% ディスカッション技術など:10%

最終レポート割合 :20%

### テキスト / Textbooks

なし

講義資料・ノートを配布する

### 参考文献 / Readings

- |      |                   |       |      |            |
|------|-------------------|-------|------|------------|
| 橋本寿朗 | 『現代日本経済』          | 有斐閣   | 2011 | 4641124434 |
| 東大社研 | 『「失われた10年」を超えてI』  | 東大出版会 | 2005 | 4130302043 |
| 東大社研 | 『「失われた10年」を超えてII』 | 東大出版会 | 2006 | 4130302051 |

宮崎勇 『日本経済図説』 岩波書店 2013 400431447

岡崎哲二 『経済史から考える 発展と停滞の論理』 日本経済新聞出版社 2017 4532357578

# 公共経済学 1

Public Economics 1

高松 慶裕 (TAKAMATSU YOSHIHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX143  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2410  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

市場経済の機能と市場の失敗を理解し、有効な政府の経済政策について説明できることを目標とします。

The objective of this course is to understand the concept of market failures and the role of the public sector.

## 授業の内容 / Course Contents

公共経済学は、公共部門の経済活動を分析する学問です。この授業では、市場経済の機能と市場の失敗に焦点を当て、自然独占、外部不経済、情報の非対称性について学びます。

Public Economics is the field of study to analyze the role of the public sector in the economy.

This course covers the following topics: (1) market mechanism efficiency and market failures, (2) effects of taxation and price regulation, (3) natural monopolies and public regulation, (4) externalities and government intervention.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：公共経済学 1 のためのミクロ経済学基礎 (1)：需要と供給

3 回：公共経済学 1 のためのミクロ経済学基礎 (2)：生産・費用・供給曲線

- 4回：公共経済学1のためのミクロ経済学基礎(3)：余剰分析  
 5回：課税の経済効果(1)  
 6回：課税の経済効果(2)  
 7回：価格規制  
 8回：独占企業の行動と独占均衡  
 9回：自然独占と価格規制  
 10回：外部経済と不経済  
 11回：コースの定理  
 12回：ピグー税とピグー補助金  
 13回：情報の非対称性の基礎  
 14回：総括

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義資料(レジュメ)はCanvas LMS上にアップロードするので、事前に印刷またはダウンロードすること。予復習にも活用してください。

#### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:200) / Evaluation

筆記試験 :76%  
 平常点割合 :24% 小レポート:24%

#### テキスト/ Textbooks

指定しない。  
 講義資料(レジュメ)に基づき講義する。

#### 参考文献 / Readings

八田達夫 『ミクロ経済学Ⅰ—市場の失敗と政府の失敗への対策』 東洋経済新報社 2008 9784492812983  
 神取道宏 『ミクロ経済学の力』 日本評論社 2014 9784535557567  
 須賀晃一 『公共経済学講義—理論から政策へ』 有斐閣 2014 9784641164451

#### その他/ Others

授業全体を通じて、ミクロ経済学の理論に基づく説明をします(グラフ、数式等を含む)。

# 公共経済学 2

Public Economics 2

高松 慶裕 (TAKAMATSU YOSHIHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX144  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2410  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

市場経済の機能と市場の失敗を理解し、有効な政府の経済政策について説明できることを目標とします。

The objective of this course is to understand the concept of market failures and the role of the public sector.

## 授業の内容 / Course Contents

公共経済学は、公共部門の経済活動を分析する学問です。この授業では、市場経済の機能と市場の失敗に焦点を当て、パレート効率と厚生経済学の基本定理、課税の経済効果、公共財の性質と最適供給について学びます。

Public Economics is the field of study to analyze the role of the public sector in the economy.

This course covers the following topics: (1) market efficiency and the fundamental theorem of welfare economics, (2) The effects of commodity taxation and labor income taxation, and (3) public goods and mechanism design.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：公共経済学 2 のためのミクロ経済学基礎



- 3回：パレート効率と市場経済  
 4回：厚生経済学の第一基本定理  
 5回：厚生経済学の第二基本定理と社会厚生関数  
 6回：消費課税の経済効果  
 7回：労働所得課税の経済効果  
 8回：効率かつ公平な課税・再分配政策  
 9回：公共財の最適供給  
 10回：公共財の自発的供給とフリーライド問題  
 11回：公共財の公的供給（1）：リンダール・メカニズム  
 12回：公共財の公的供給（2）：クラーク＝グロブス・メカニズム  
 13回：地方公共財と地方分権化定理  
 14回：総括

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義資料（レジュメ）は Canvas LMS 上にアップロードするので、事前に印刷またはダウンロードすること。  
 予復習にも活用してください。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :76%  
 平常点割合 :24% 小レポート:24%

#### テキスト / Textbooks

指定しない。  
 講義資料（レジュメ）に基づき講義する。

#### 参考文献 / Readings

須賀晃一 『公共経済学講義—理論から政策へ』 有斐閣 2014 9784641164451  
 神取道宏 『ミクロ経済学の力』 日本評論社 2014 9784535557567  
 奥野正寛 『ミクロ経済学』 東京大学出版会 2008 9784130421270

#### その他 / Others

授業全体を通じて、ミクロ経済学の理論に基づく説明をします（グラフ、数式等を含む）。

# 財政学 1

Public Finance 1

池上 岳彦 (IKEGAMI TAKEHIKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX145  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2610  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

学生が、政府の経済活動である財政の役割、構造及びそれを支える理論、現代財政の問題点等を理解することができる。

Students will understand the role, the structure and the theory of public finance and contemporary fiscal issues.

## 授業の内容 / Course Contents

本科目では、現代財政の課題と特徴、財政思想、経費、租税、公債等の基本的概念について講義するとともに、現代財政システムの問題点とその要因を、財政社会学的な視点に基づく国際比較もふまえて明らかにする。

The themes of this course are the characteristics of contemporary public finance, fiscal thoughts, public expenditures, taxation, public debts, etc. This course also include international comparison of public finance systems from a viewpoint of fiscal sociology. Student will understand the problems in contemporary public finance.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：財政とは [定義, 社会と財政, 市場と財政]

- 2回：現代財政の課題と特徴(1) [課題, 特徴 1]  
 3回：現代財政の課題と特徴(2) [特徴 2]  
 4回：財政思想(1) [スミス等]  
 5回：財政思想(2) [ケインズとその批判等]  
 6回：財政思想(3) [ドイツ正統派 (ワグナー等)]  
 7回：財政社会学 [財政社会学, 制度の国際比較]  
 8回：経費(1) [経費膨張仮説等]  
 9回：経費(2) [現代国家への圧力と経費支出]  
 10回：租税(1) [役割, 負担配分基準等]  
 11回：租税(2) [理論 1]  
 12回：租税(3) [理論 2) 等]  
 13回：租税(4) [国際比較等]  
 14回：公債 [公債累積の問題点, 国際比較等]

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業をうける前に、テキストの指定箇所および前回までの授業で配付された資料等に基づいて復習すること。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業内小課題:20% リアクションペーパー (質問・意見) :10%

#### テキスト / Textbooks

池上岳彦 (編) 『現代財政を学ぶ』 有斐閣 2015年 9784641184244 ○

なお、授業時に資料を配付する。

#### 参考文献 / Readings

神野直彦 『財政学〔第3版〕』 有斐閣 2021年 9784641165816

高端正幸・佐藤滋 『財政学の扉をひらく』 有斐閣 2020年 9784641150829

吉田震太郎 『現代財政入門〔第2版〕』 同文館出版 2001年 9784495431921

神野直彦・池上岳彦編 『租税の財政社会学』 税務経理協会 2009年 9784419051969

#### その他 / Others

財政学2, 地方財政論1・2, 租税論1・2等も履修することが望ましい。

# 財政学 2

Public Finance 2

池上 岳彦 (IKEGAMI TAKEHIKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX146  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2610  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

学生が、日本における財政制度の特徴、財政収支の状況、直面する課題及び問題点について理解することができる。

Students will understand the characteristics, budget balance and contemporary problems of Japanese public finance.

## 授業の内容 / Course Contents

本科目では、予算制度、経費の状況、租税制度、公債と財政赤字、財政投融资制度、社会保障財政の状況、地方財政制度等、日本財政が直面する諸問題について、国際比較の視点も交えつつ講義する。

The themes of this course are the budget system, public expenditures, taxation, public debts, fiscal investment and loan program, social security, local public finance, etc. This course also includes comparison of Japanese and foreign public finance systems in problems which confront them.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：予算制度 [予算の意義, 予算過程, 会計]

2 回：戦後の経費(1) [経費の分類, 国際的特徴, 戦後経費の推移 1]

- 3回：戦後の経費(2) [戦後経費の推移 2] ]  
 4回：日本の税制(1) [税収構成, 所得税等]  
 5回：日本の税制(2) [法人税, 資産課税等]  
 6回：日本の税制(3) [消費税, 環境税等]  
 7回：日本の税制(4) [税制改革の政策過程]  
 8回：公債と財政赤字 [財政赤字, 公債の累積]  
 9回：財政投融资 [原資, 運用, 財投改革]  
 10回：社会保障と教育の財政(1) [社会保障給付費, 年金]  
 11回：社会保障と教育の財政(2) [医療・介護, 教育等]  
 12回：地方財政(1) [経費, 収入 1] ]  
 13回：地方財政(2) [収入 2] ]  
 14回：グローバル化と財政

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業をうける前に、テキストの該当箇所及び前回までに配付された資料等に基づいて復習すること。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業内小課題:20% リアクションペーパー (質問・意見) :10%

### テキスト / Textbooks

池上岳彦 (編) 『現代財政を学ぶ』 有斐閣 2015年 9784641184244 ○

なお、授業時に資料を配付する。

### 参考文献 / Readings

沼尾波子・池上岳彦・木村佳弘・高端正幸 『地方財政を学ぶ〔新版〕』 有斐閣 2023年 9784641184640

高端正幸・佐藤滋 『財政学の扉をひらく』 有斐閣 2020年 9784641150829

佐藤滋・古市将人 『租税抵抗の財政学』 岩波書店 2014年 9784000287364

井手英策・古市将人・宮崎雅人 『分断社会を終わらせる』 筑摩書房 2016年 9784480016331

また「財政学1」の参考文献は、本科目の参考文献でもある。

### その他 / Others

本科目の履修にあたり、「財政学1」の内容を理解していることを前提とする。また、地方財政論1・2, 租税論1・2等も履修することが望ましい。

# 医療経済論

Health Economics

大津 唯 (OHTSU YUI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX147  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX3510  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本の医療保障制度に関する基礎知識と、医療経済学の基礎理論を習得したうえで、医療に関わる諸問題を理解し、考察する能力を身につける。

The aim of this course is to acquire basic knowledge of Japan's health care security system and basic theories of health economics, as well as the ability to understand and consider various issues related to health care.

## 授業の内容 / Course Contents

日本における医療保険制度と医療提供体制の仕組みと歴史、諸外国と比較したときの特徴を概観し、日本の医療保障における諸課題について検討する。また、応用ミクロ経済学としての医療経済学の基礎理論（需要理論・供給理論・保険理論）について解説し、それらを踏まえて日本の医療政策についての検討を深める。

The lecture will review the structure and history of Japan's health insurance system and health care delivery system, their characteristics compared to those of other countries, and examine various issues related to Japan's health care security. In addition, it will explain the basic theories of health economics as applied microeconomics (demand theory, supply theory, and insurance theory) and further examine Japan's health care policy based on these theories.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：イントロダクション
- 2回：日本の医療保険制度（1）
- 3回：日本の医療保険制度（2）
- 4回：日本の医療保険制度（3）
- 5回：日本の医療保険制度（4）
- 6回：日本の医療提供体制（1）
- 7回：日本の医療提供体制（2）
- 8回：日本の医療提供体制（3）
- 9回：ミクロ経済学の準備
- 10回：ゲスト講演：医薬品業界について
- 11回：医療サービス需要の理論
- 12回：医療保険の経済理論
- 13回：医療サービス供給の理論
- 14回：日本の医療保障における諸課題

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:15%

最終レポート割合 :15%

**テキスト / Textbooks****参考文献 / Readings**

- 島崎謙治 『医療政策を問いなおす：国民皆保険の将来』 筑摩書房 2015 9784480068637
- 橋本英樹・泉田信行 『医療経済学講義 補訂版』 東京大学出版会 2016 9784130421423
- 細谷圭・増原宏明・林行成 『医療経済学 15 講』 新世社 2018 9784883842841
- 後藤励・井深陽子 『健康経済学：市場と規制のあいだで』 有斐閣 2020 9784641165564

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

資料の配布、課題の提出などに「Canvas LMS」を使用する。

# 福祉経済論

Political Economy of Welfare

経済学の視点から日常生活に関わる社会保障・社会福祉政策を見る

于 洋 (YU YANG)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX148

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX3510

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業では変動する経済社会に対応するために、経済と福祉の関わり、社会保険の構造と仕組み、社会福祉の類型と福祉財政を理解し、社会保障ないし社会福祉の制度における諸問題を発見・分析・評価できることを目標とする。

The objective of this class is to understand the relationship between the economy and welfare, the social security structure and system, the types of social welfare, and welfare finance in order to discover, analyze, and evaluate the problems in the social security and social welfare systems.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では社会福祉制度および社会保障制度を経済学の観点から考察する。最近話題になっている格差問題を情報の非対称性から説明し、非対称的な情報の下での政策として失業保険、年金保険、健康保険、介護保険を取り上げ、われわれの日常生活のことと関連させながら授業を進めていきたい。

This class considers the social welfare system and social security system from an economics perspective. The class will proceed by explaining the recently hot topic of economic inequality from information asymmetry and then



addresses unemployment insurance, pension insurance, health insurance, and long-term care insurance as policies under asymmetric information and then relates these to our daily lives.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス(講義の目的・内容・進め方など)

講義内容・進行方法・成績評価などを理解し、講義の全体像をつかむことができる。

2 回：貧困/不平等とその計測

貧困/不平等の計測基準や現状を理解し説明することができるようになる。

3 回：格差問題と所得再分配

格差問題の背景・現状・解決方法を理解し説明することができるようになる。

4 回：情報の非対称性問題

経済社会におけるさまざまな情報の非対称性について、理解し説明することができるようになる。

5 回：非対称情報下の経済政策

非対称情報化の政策を実際の例で理解し説明することができるようになる。

6 回：失業問題と失業保険

失業問題についての基本知識、失業保険に関する理論・仕組みなどを理解し説明することができるようになる。

7 回：老後の所得保障と年金保険 I

老後の所得保障についての理論的な解説を理解し説明することができるようになる。

8 回：老後の所得保障と年金保険 II

年金保険制度の基本的仕組みと諸問題を理解し説明することができるようになる。

9 回：医療の需要と供給

保健医療についての理論的な解説を理解し説明することができるようになる。

10 回：健康保険と高齢化問題

医療保険制度の基本的仕組みと諸問題を理解し説明することができるようになる。

11 回：高齢者の急増と高齢者福祉サービス

少子高齢化の背景と問題・高齢者のサービス保障についての理論と実践を理解し説明することができるようになる。

12 回：介護保険制度のあり方

介護保険制度の基本的な仕組みと諸問題を理解し説明することができるようになる。

13 回：福祉国家の諸類型と社会保障財政

福祉国家の類型や日本の社会保障財政の実態を理解し説明することができるようになる。

14 回：全体のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

本講義を受ける条件として、経済学の基礎的知識を習得していることを前提とする。

普段は、社会保障制度や雇用・労働問題に関わるニュースや新聞記事に留意してほしい。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 授業参加態度と中間レポート:40%

**テキスト / Textbooks**

毎回授業用プリントを配布する。

**参考文献 / Readings**

棕野美智子・田中耕太郎 『はじめての社会保障』（第 21 版） 有斐閣 2024

土田武史編著 『社会保障論』 成文堂 2015

**その他 / Others**

授業では学生とコミュニケーションを取りながら進めていく予定なので、積極的な受講態度が期待される。

# 年金経済論

Pension Economics

年金経済論

原 佳奈子 (HARA KANAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX151

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX3510

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

学生が、公的年金と私的年金についての基本的な内容を理解し、日本の年金制度の特徴や課題を理解することができる。

The objective of this course is that students can understand the basic contents of public and private pensions and understand the characteristics and issues of Japanese pensions system.

## 授業の内容 / Course Contents

まず、年金体系を概観し、公的年金について、例えば役割、年金給付の内容、財源、財政方式、改革と課題などを講義する。次に、私的年金（企業年金と個人年金）について、基本的な内容や特徴、現状や課題について講義する。

First, I will give an overview of the pension system and give lectures on public pension, for example, roles, contents of pension benefits, financial resources, financial methods, reforms and issues. Next, I will give lectures on corporate pensions and individual pensions, such as basic contents, characteristics, current status and issues.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス&はじめに
- 2回：公的年金の概要（公的年金の意義・役割、被保険者等）
- 3回：老齢年金①概要（受給要件、年金額改定の仕組み等）
- 4回：老齢年金②給付（算出方法、受取方法等）
- 5回：障害年金（要件と給付）
- 6回：遺族年金（要件と給付）
- 7回：公的年金の財政（財源と財政方式等）
- 8回：公的年金の財政（財政検証等）とこれまでの改革経緯
- 9回：公的年金の直近の改正事項と残された課題
- 10回：公的年金の今後の課題と改革の方向性
- 11回：企業年金①概要（種類、制度内容等）
- 12回：企業年金②課題（これまでの改正事項、今後の課題等）
- 13回：個人年金①概要（種類、制度内容、改正事項等）
- 14回：個人年金②課題&これまでのまとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業内に行う小テスト:20% 授業内でのリアクションペーパー提出:10%

小テストの実施、リアクションペーパーの提出については、事前に告知する。またフィードバックは全体に対して行う。

#### テキスト / Textbooks

毎回授業資料を配布する。

#### 参考文献 / Readings

必要に応じて授業中に示す。

#### その他 / Others

- ①PowerPoint を使用して授業を行う。
- ②毎回の授業資料の配布（PDFにて配布）は「Canvas LMS」を使用する。
- ③授業計画は小テストの日程等により変更する場合がある。

# 金融工学

## Financial Engineering

今日、経済及び社会活動の中で不可欠の知識である「金融工学」に関して学びます。

渡辺 信一 (WATANABE SHINICHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX152  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX3610  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本講義では、以下を目標とします。

- 「金融工学」の歴史と現在について理解する
- 「金融工学」の成果を使いこなせるようになる
- 「金融工学」が生活に生きるようになる

The goals of this lecture are as follows.

- Understand the history and present of "financial engineering"
- You will be able to master the results of "financial engineering"
- "Financial engineering" will be useful in daily life

### 授業の内容 / Course Contents

金融工学とは、企業価値を評価したり、ポートフォリオのリスクヘッジに不可欠な技術であり、効率的な証券投資のための技術でもあります。用語の響きから、なにか特別難しい話のように聞こえますが、実は皆さんが身につけて活用できるものなのです。

たしかに数式を活用する場面は出てきますし、「金融工学」を理解するには基礎的な数学の知識は必要です。しかし、実際の数式処理は Excel などのソフトウェアを用いて自動的に行われるため、むしろ「どのような数字を入力するか」「そもそも、数式にはどんなメッセージが込められているか」をしっかりと理解し判断することの方が重要となってきます。

本講座を受講して、そのような理解・判断を支える土台となる力を身につけていただければ幸いです。

Financial engineering is an indispensable technology for assessing corporate value and hedging portfolio risk, and is also a technology for efficient securities investment.

From the sound of the terms, it sounds like a particularly difficult story, but in fact it is something that you can learn and use.

Certainly, there are situations where mathematical formulas are used, and basic mathematical knowledge is required to understand "financial engineering."

However, since the actual formula processing is automatically performed using software such as Excel, rather, you should fully understand "what kind of numbers to enter" and "what kind of message is included in the formula in the first place". Judgment becomes more important.

We hope that you will take this course and acquire the foundational power to support such understanding and judgment.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：概要 金融工学とは何か？
- 2 回：投資に関する理論（1）将来価値とは/現在価値とは/年金の値段
- 3 回：投資に関する理論（2）正味現在価値による投資判断/その他の投資判断
- 4 回：証券投資に関する理論（1）リスクとは/平均と標準偏差/共分散と相関係数
- 5 回：証券投資に関する理論（2）ポートフォリオによる分散投資/効率的市場仮説
- 6 回：企業価値評価（1）WACC とは/CAPM と株主資本コスト
- 7 回：企業価値評価（2）会計の基礎/フリーキャッシュフロー/DCF/EVA
- 8 回：企業の最適資本構成と配当政策 MM 理論/配当政策と企業価値/資金調達の方法
- 9 回：資本市場に関する理論（1）債券とは/債券のリスク/金利の期間構造
- 10 回：資本市場に関する理論（2）株式の基礎/類似企業比較法
- 11 回：デリバティブの理論と実践的知識（1）デリバティブの種類/先物取引の特徴
- 12 回：デリバティブの理論と実践的知識（2）スワップ取引とは/オプションとは
- 13 回：ブラック＝ショールズ・モデル（1）ブラック＝ショールズ・モデルとは何か
- 14 回：ブラック＝ショールズ・モデル（2）リアルオプション

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義前は、テキストを読んできてください。

講義後は、講義で学んだ内容の復習を行ってください。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

**テキスト/Textbooks**

石野雄一 『補改訂版 道具としてのファイナンス』 日本実業出版社 2005 9784534059352 ○

**参考文献 / Readings**

木島正明、鈴木輝好、後藤充 『ファイナンス理論入門：金融工学へのプロローグ』 朝倉書店 2012  
4254290160

手嶋宣之 『基本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門』 ダイヤモンド社 2011 4478016305

デービッド・G・ルーエンバーガー著、今野浩、鈴木賢一、枇々木規雄訳 『金融工学入門（第二版）』 日本  
経済新聞出版社 2015 4532134587

渡辺信一 『個人投資家がマーケットで勝てない本当の理由』 ダイヤモンド社 2008 4478003978

渡辺信一 『入門 新しい金融・ファイナンス』 日本評論社 2008 4535555594

渡辺信一 『世界金融危機と金融工学』 日本評論社 2013 4535557307

# ポートフォリオ論

## Portfolio Theory

今日、経済及び社会活動の中で不可欠の知識である「ポートフォリオ理論」に関して学びます。

渡辺 信一 (WATANABE SHINICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX153

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX3610

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義では、以下を目標とします。

- 「ポートフォリオ理論」の歴史と現在について理解する
- 「ポートフォリオ理論」の成果を使いこなせるようになる
- 「ポートフォリオ理論」が生活に活きるようになる

The goals of this lecture are as follows.

- Understand the history and present of "portfolio theory"
- Become able to master the results of "portfolio theory"
- "Portfolio theory" will be useful in daily life

## 授業の内容 / Course Contents

ポートフォリオとは、リスクのある資産やリスクのない資産を組み合わせた集合のことです。ポートフォリオの考え方は、資産運用やリスクヘッジに不可欠な考え方であり、効率的な証券投資のための基礎でもあります。用語の響きから、なにか特別難しい話のように聞こえますが、実は皆さんが身につけて活用できるものな



のです。

たしかに数式を活用する場面は出てきますし、「ポートフォリオ理論」を理解するには基礎的な数学の知識は必要です。しかし、実際の数式処理は Excel などのソフトウェアを用いて自動的に行われるため、むしろ「どのような数字を入力するか」「そもそも、数式にはどんなメッセージが込められているか」をしっかりと理解し判断することの方が重要となってきます。

本講座を受講して、そのような理解・判断を支える土台となる力を身につけていただければ幸いです。

A portfolio is a collection of risky and non-risk assets. The portfolio concept is an essential concept for asset management and risk hedging, and is also the basis for efficient securities investment. From the sound of the terms, it sounds like a particularly difficult story, but in fact it is something that you can wear and use.

Certainly, there are situations where mathematical formulas are used, and basic mathematical knowledge is required to understand "portfolio theory." However, since the actual formula processing is automatically performed using software such as Excel, rather, you should fully understand "what kind of numbers to enter" and "what kind of message is included in the formula in the first place". Judgment becomes more important.

We hope that you will take this course and acquire the foundational power to support such understanding and judgment.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：銘柄分散効果とは？（1）＜現代の錬金術＞
- 2 回：銘柄分散効果とは？（2）＜インデックス・ファンドの理論＞
- 3 回：銘柄分散効果とは？（3）＜個別リスクと共通リスク＞
- 4 回：時間分散効果とは？＜長期投資は有効か？＞
- 5 回：ボラティリティとは何か？
- 6 回：資本市場線とは何か？
- 7 回：CAPM とは何か？（1）＜CAPM の理論＞
- 8 回：CAPM とは何か？（2）＜CAPM とベータ＞
- 9 回：CAPM とは何か？（3）＜CAPM への批判＞
- 10 回：ベータの理論（1）＜ベータと APT＞
- 11 回：ベータの理論（2）＜APT からの批判＞
- 12 回：ベータの理論（3）＜ゼロ・ベータ・ポートフォリオ＞
- 13 回：アノマリーの発見と展開
- 14 回：リスクとは何か？

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義前は、テキストを読んでください。

講義後は、講義で学んだ内容の復習を行ってください。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

**テキスト/Textbooks**

石野雄一 『補改訂版 道具としてのファイナンス』 日本実業出版社 2005 9784534059352 ○

**参考文献 / Readings**

島正明、鈴木輝好、後藤充 『ファイナンス理論入門：金融工学へのプロローグ』 朝倉書店 2012  
4254290160

手嶋亘之 『基本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門』 ダイヤモンド社 2011 4478016305

デービッド・G・ルーエンバーガー著、今野浩、鈴木賢一、枇々木規雄訳 『金融工学入門（第二版）』 日本  
経済新聞出版社 2015 4532134587

渡辺信一 『個人投資家がマーケットで勝てない本当の理由』 ダイヤモンド社 2008 4478003978

渡辺信一 『入門 新しい金融・ファイナンス』 日本評論社 2008 4535555594

渡辺信一 『世界金融危機と金融工学』 日本評論社 2013 4535557307

# 産業経済論 1

Industrial Economics 1

生産システムの現段階

菊池 航 (KIKUCHI WATARU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX160

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2410

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

経済学部の学位授与方針に掲げる「現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる」人材となるため、産業に関する理論・歴史・実態を学びます。

現実の企業や産業システムは、多様であり、複雑です。そして、企業や産業システムは国によって異なり、1つの国でも時期によって異なることが多いものです。産業経済論 1 では、複雑な企業や産業システムの現実を、主に経済学の視点から理解することを目標とします。特に、現在に至る企業の生産活動の歴史的变化や日本の企業システムを学びます。

Students will study the theory, history, and actual conditions of industry in order to become human resources who can "discover, analyze, and solve real-world problems," as stated in the degree awarding policy of the Faculty of Economics.

Actual companies and industrial systems are diverse and complex. In addition, companies and industrial systems differ among countries and they often differ within the same country depending on the time. In Industrial Economics 1 the objective is to understand the reality of complex company and industrial systems from the

perspective of economics. In particular, students will learn about the historical changes in company productive activity to date and the Japanese company system.

### 授業の内容 / Course Contents

なぜ、企業は、ある活動を社内でおこなう一方で、ある活動を市場から調達するのでしょうか。そして、なぜ、産業や企業の在り方は、国によって異なるのでしょうか。本講義では、企業や産業の理論・歴史・実態を学びます。

Why does a company perform some operations internally and procure other operations from the market? And why does the form of industries and companies differ among countries? This lecture will explain the theory, history, and reality of industries

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：【授業内容】 イントロダクション：社会的分業と企業内分業  
【授業方法】 パワーポイントのスライドを用いた解説
- 2 回：【授業内容】 産業経済への視点 (1)：比較経済組織  
【授業方法】 パワーポイントのスライドを用いた解説
- 3 回：【授業内容】 ケースから考える (1)：カルディの統合戦略  
【授業方法】 解説とディスカッション
- 4 回：【授業内容】 産業経済への視点 (2)：リソース・ベスト・ビュー  
【授業方法】 パワーポイントのスライドを用いた解説
- 5 回：【授業内容】 ケースから考える (2)：Netflix のダイナミックケイパビリティ  
【授業方法】 解説とディスカッション
- 6 回：【授業内容】 産業経済への視点 (3)：グローバル・バリューチェーン  
【授業方法】 パワーポイントのスライドを用いた解説
- 7 回：【授業内容】 ケースから考える (3)：SHIEN の成長戦略  
【授業方法】 解説とディスカッション
- 8 回：【授業内容①】 「見えざる手」から「見える手」へ：経営者資本主義の成立、発展  
【授業内容②】 中間組織：サプライヤー・システム、委託生産  
【授業方法】 パワーポイントのスライドを用いた解説
- 9 回：【授業内容①】 モジュール化：アーキテクチャ、コモディティ化  
【授業内容②】 フレキシブルな専門化：クラスター  
【授業方法】 パワーポイントのスライドを用いた解説
- 10 回：【授業内容】 ケースから考える (4)：Tesla の EV 戦略  
【授業方法】 解説とディスカッション
- 11 回：【授業内容】 「見える手」の後退？：EMS (Electronics Manufacturing Service) の台頭  
【授業方法】 パワーポイントのスライドを用いた解説
- 12 回：【授業内容】 ラグジュアリー産業における大企業の台頭  
【授業方法】 パワーポイントのスライドを用いた解説
- 13 回：【授業内容】 ケースから考える (5)：Coach のラグジュアリー戦略  
【授業方法】 解説とディスカッション
- 14 回：【授業内容①】 開発途上国サプライヤーの成長、3D プリンターのインパクト  
【授業内容②】 総括：産業経済の理論、歴史、実態  
【授業方法】 パワーポイントのスライドを用いた解説

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

毎回の講義内容に関するスライドを事前に公開します。それを使って予習や復習をしてください。毎回の講義内容は、それ以前の講義内容とも密接につながる内容になりますので、受講前にこれまでの講義内容を復習してください。

そのほか、授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示します。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation**

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 講義中に指示した提出物 (6%×5回) :30%

**テキスト / Textbooks**

毎回、スライドを配布します。

**参考文献 / Readings**

各回の講義で提示します。

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

「経営学1」・「経営学2」を履修済みであることが望ましいです。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

スライドの配布、成績評価に関する「講義中に指示した提出物」の提出は、Canvas LMS を通じて行ないます。

**その他 / Others**

【「講義中に指示した提出物」に対するフィードバック】

授業開始時に、全体に対して、「講義中に指示した提出物」に対するフィードバックを行ないます。

## 産業経済論 2

Industrial Economics 2

現代日本の産業の競争力

菊池 航 (KIKUCHI WATARU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX161

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2410

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

経済学部の学位授与方針に掲げる「現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる」人材となるため、産業に関する理論・歴史・実態を学びます。

現実の企業や産業システムは、多様であり、複雑です。そして、企業や産業システムは国によって異なり、1つの国でも時期によって異なることが多いものです。産業経済論2では、様々な産業における日本企業の競争力の実態を学びます。

Students will study the theory, history, and actual conditions of industry in order to become human resources who can "discover, analyze, and solve real-world problems," as stated in the degree awarding policy of the Faculty of Economics.

Actual companies and industrial systems are diverse and complex. In addition, companies and industrial systems differ among countries and they often differ within the same country depending on the time. In Industrial Economics 2, the competitiveness of Japanese firms in various industries will be explained.

### 授業の内容 / Course Contents

日本企業が高い競争力を保有している産業とはどのような産業でしょうか？ なぜ、その産業において日本企業は高い競争力を保有しているのでしょうか？あるいは、日本企業が競争力を構築できていない産業とはどのような産業でしょうか？ その産業で高い競争力を保有している企業は、どのように経営されているのでしょうか？ これらの問いを念頭に、日本企業の競争力の実態を説明します。

In what industries are Japanese firms highly competitive? Why are Japanese firms highly competitive in those industries? Or, in which industries do Japanese firms not have a competitive advantage? How are firms that are highly competitive in those industries managed? In Industrial Economics 2, I will explain the reality of the competitiveness of Japanese firms based on these questions.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：【授業内容】 イントロダクション：現代日本の産業構造  
【授業方法】 パワーポイントのスライドを用いた解説
- 2 回：【授業内容①】 産業経済への視点 (1)：グローバル・バリューチェーン  
【授業内容②】 産業経済への視点 (2)：企業成長と国際化  
【授業方法】 パワーポイントのスライドを用いた解説
- 3 回：【授業内容①】 産業経済への視点 (3)：イノベーション  
【授業内容②】 産業経済への視点 (4)：プラットフォームビジネス，グロボティクス，セレブリティ経済  
【授業方法】 パワーポイントのスライドを用いた解説
- 4 回：【授業内容】 ケースから考える (1)：Rihanna のイメージ戦略  
【授業方法】 解説とディスカッション
- 5 回：【授業内容】 東アジア優位産業 (1)：概観，液晶  
【授業方法】 パワーポイントのスライドを用いた解説
- 6 回：【授業内容】 東アジア優位産業 (2)：自動車  
【授業方法】 パワーポイントのスライドを用いた解説
- 7 回：【授業内容】 東アジア優位産業 (3)：ファッション  
【授業方法】 パワーポイントのスライドを用いた解説
- 8 回：【授業内容】 ケースから考える (2)：グラミンユニクロ  
【授業方法】 解説とディスカッション
- 9 回：【授業内容】 美容産業：化粧品  
【授業方法】 パワーポイントのスライドを用いた解説
- 10 回：【授業内容】 ラグジュアリー産業：腕時計，香水  
【授業方法】 パワーポイントのスライドを用いた解説
- 11 回：【授業内容】 ケースから考える (3)：Ralph Lauren の中国戦略  
【授業方法】 解説とディスカッション
- 12 回：【授業内容】 コンテンツ産業：音楽，マンガ，アニメ  
【授業方法】 パワーポイントのスライドを用いた解説
- 13 回：【授業内容】 ケースから考える (4)：ポケモン GO のマーケティング戦略  
【授業方法】 解説とディスカッション
- 14 回：【授業内容】 総括：産業構造の展望  
【授業方法】 パワーポイントのスライドを用いた解説

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の講義内容に関するスライドを事前に公開する予定です。それを使って予習や復習をしてください。また、毎回の講義内容は、それ以前の講義内容とも密接につながる内容になりますので、受講前にこれまでの講義内容を復習してください。

そのほか、授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 講義中に指示した提出物（5%×4回）:20%

### テキスト / Textbooks

毎回、スライドを配布します。

### 参考文献 / Readings

各回の講義で提示します。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

「経営学1」・「経営学2」, 「産業経済論1」を履修済みであることが望ましいです。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

スライドの配布, 成績評価に関する「講義中に指示した提出物」の提出は, Canvas LMS を通じて行ないます。

### その他 / Others

【「講義中に指示した提出物」に対するフィードバック】

授業開始時に, 全体に対して, 「講義中に指示した提出物」に対するフィードバックを行ないます。



# 社会政策論 1

Social Policy & Administration 1

所得保障（現金給付）と関連制度

(Income security (cash benefit) and allied services)

菅沼 隆 (SUGANUMA TAKASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX162

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2510

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

社会政策（社会保障）の基礎知識を習得し、現代において社会政策が果たしている機能、制度が抱えている諸問題を理解し、考察する能力を身につける。

The course gives basic knowledge of social policy ,especially of social security. Then students are able to understand and think the functions of social policy in present times and problem of policies.

## 授業の内容 / Course Contents

社会保障の基礎理論および現金給付制度について解説する。生活保護など低所得者向けの所得保障制度はベーシック・インカムや給付付き税額控除制度など新しいアイデアが出されている。年金制度は国民の生活と日本経済を左右する大きな制度であり、全国民的関心を集めている。これらが理解できるように、社会保障の歴史、制度の仕組み、近年の動向、政策課題など総合的に取り上げる。国際比較をしつつ、日本の社会保障制度の特質を明らかにする。

The course gives basic theory of social security policy and income security (cash benefit). It includes history of

the policy, functions of institutions, recent trend of policies and problem of institutions.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：社会政策論と社会保障。社会保障の役割・目的。日本の課題
- 2回：社会保障の分類：現金給付と現物給付。租税方式と社会保険方式。租税方式の諸制度
- 3回：公的扶助1：日本の生活保護制度概説。社会保険と公的扶助の関係。生活保護の原理と諸原則。
- 4回：公的扶助2：ミーンズテストの実際。保護基準と生活保護の給付。最低生活保障，保護基準。給付の種類。
- 5回：公的扶助3：生活保護の近年の動向と新しい救済制度。ベーシックインカム、給付付き税額控除。
- 6回：社会手当
- 7回：社会保険と雇用：社会保険の基本的仕組み。社会保険の保険集団と雇用。
- 8回：労働保険1：雇用保険制度。雇用政策
- 9回：労働保険2：労災保険制度。
- 10回：年金保険1：年金制度概観。年金保険における事故と種類。
- 11回：年金保険2：国民年金の仕組み，拠出と給付。
- 12回：年金保険3：被用者年金（厚生年金，共済組合）の仕組み，拠出と給付。年金の財政方式：積立方式と賦課方式
- 13回：年金保険4：年金の財政方式の比較。年金改革の将来展望：女性と年金権。年金のガバナンス。
- 14回：所得保障制度の課題と展望

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの当該箇所を読んで，授業に臨むこと。復習の小テストを課す。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 複数回の小テスト:50%

### テキスト / Textbooks

棕野美智子・田中耕太郎 『はじめての社会保障』 有斐閣 ○

### 参考文献 / Readings

ニコラス・バー 『福祉の経済学』 光生館 2007 9784332600831

土田武史 『社会保障論』 成文堂 2015 9784792342548

駒村康平・田中聡一郎 『検証・あたらしいセーフティーネット』 新泉社 2019 9784787719072

菅沼隆編 『戦後社会保障の証言-厚生官僚120時間オーラルヒストリー』 有斐閣 2018 9784641174351

ダニエル・ベラン他 『社会政策の考え方』 有斐閣 2023 9784641174870

岩田正美 『生活保護解体論』 岩波書店 2021 9784000614955

宮本太郎他 『生活困窮者自立支援から地域共生社会へ』 全国社会福祉協議会 2023 9784793514371

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料配布、小テストは Canvas LMS で行う。

## 社会政策論 2

Social Policy & Administration 2

現物給付制度(In-kind benefits)

菅沼 隆 (SUGANUMA TAKASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX163

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2510

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

社会政策（社会保障）の基礎知識を習得し、現代において社会政策が果たしている機能、制度が抱えている諸問題を理解し、考察する能力を身につける。

The course gives basic knowledge of social policy ,especially of social security. Then students are able to understand and think the functions of social policy in present times and problem of policies.

### 授業の内容 / Course Contents

現物給付制度である健康保険と介護保険、その他について解説する。健康保険制度、薬剤価格、医療提供体制は国民生活を支える社会的基盤である。介護保障は 21 世紀の全人類的な課題であり、超高齢社会の日本の政策は全世界的な関心を集めている。これら現物給付制度の歴史、制度の仕組み、近年の動向、政策課題など総合的に取り上げる。国際比較をしつつ、日本の社会保障制度の特質を明らかにする。

This course focus' on in-kind benefits or service, such as health insurance, long term care service or other self-support benefits. It also gives the knowledge of history, functions of institution, recent trend and policy problem. Japan's policies are compared to other countries'.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：現物給付制度の特質。医療保障制度の諸類型。日本の健康保険制度概要。
- 2回：国民皆保険の構造。保険給付と保険料。様々な診療報酬。
- 3回：日本の診療報酬の決定メカニズム
- 4回：診療報酬の包括払い制度。薬価の決まり方概説
- 5回：薬価基準制度。既収載品と新薬。薬価をめぐる問題
- 6回：医薬分業。健康保険財政の現状と課題
- 7回：医療保険制度改革をめぐる動向。国民医療費の動向。保険者の再編統合。医療供給体制の再編。
- 8回：介護保険の概要。介護保険成立史。
- 9回：介護保険の保険料算定方式。保険料負担の問題点。
- 10回：介護保険における要介護認定と給付システム。
- 11回：介護報酬表。介護報酬の決定メカニズム。
- 12回：介護保険制度の現状と将来。
- 13回：居住保障：社会保障の基盤としての住居。社会保障財政
- 14回：社会保障の課題

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

テキストの当該箇所を読んで、授業に臨むこと。復習の小テストを課す。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation**

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 複数回の小テスト:50%

**テキスト / Textbooks**

棕野美智子・田中耕太郎 『はじめての社会保障』 有斐閣 2023 ○

**参考文献 / Readings**

ニコラス・バー 『福祉の経済学』 光生館 2007 9784332600831

土田武史 『社会保障論』 成文堂 2015 9784792342548

健康保険組合連合会 『図表で見る医療保障』 ぎょうせい 最新版

吉原健二, 和田勝 『日本医療保険制度史』 東洋経済新報社 2020 9784492701485

小黒一正・菅原琢磨 『薬価の経済学』 日本経済新聞社 2018 9784532134860

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

資料配布、小テストは Canvas LMS にて行う。

# 租税論 1

Tax Theory and Tax Policy 1

租税理論と租税政策

関口 智 (SEKIGUCHI SATOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX164

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2610

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

租税理論の視点から現実の租税制度・租税政策を理解する。

To understand the actual tax systems and tax policies from the perspective of tax theory.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義は租税政策上の争点を理解するための一つの視点として、租税理論を重視する。

周知のように、現実の租税制度は租税理論とは必ずしも整合的でない側面がある。とはいえ、租税理論は、租税制度を理解し、現代の租税政策上の争点を明確化するための一つの指標となる。

This lecture focuses on tax theory as one perspective for understanding the disputes regarding tax policy.

As is well known, actual tax policy is not necessarily consistent with tax theory. Having said that, tax theory is one measure for understanding tax systems and for clarifying the disputes regarding contemporary tax policy.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：租税論 1 の対象と日本財政・租税政策の現状

2 回：財政・租税構造の国際比較と財政政策

- 3回：財政政策：歳出政策と歳入政策  
 4回：租税原則論の発展と現状  
 5回：経済循環と租税政策  
 6回：租税体系と租税理論（総論）  
 7回：租税理論（各論1）：所得課税  
 8回：租税理論（各論2-1）：所得課税と消費課税  
 9回：租税理論（各論2-2）：所得課税と消費課税  
 10回：租税理論（各論3）：所得課税と消費課税  
 11回：資産課税の理論  
 12回：税率構造と租税負担  
 13回：課税単位と課税境界（1）  
 14回：課税単位と課税境界（2）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

提出は求めないが、毎回、予習・復習を効果的にするために課題を提示する。財政学や地方財政論等をあわせて履修すると、相乗効果がある。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% コメントカードの内容:15% レポート課題:5%

平常点のうち、レポートを実施しない場合は、コメントカード 20%とする。

### テキスト / Textbooks

特定・単一のテキストは用いない。講義の際に適宜指示する。

### 参考文献 / Readings

関口 智 「租税の理論」『現代財政を学ぶ』 有斐閣ブックス 2015年

講義の際に適宜指示する。

### その他 / Others

- ・板書（PowerPoint等）と口頭による講義形式である。
- ・配布する資料は、統計データや図表等である。
- ・リアクションペーパーは、次回授業開始時にフィードバックを行う。

## 租税論 2

Tax Theory and Tax Policy 2

租税制度・租税政策の歴史と国際比較

関口 智 (SEKIGUCHI SATOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX165

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2610

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

日本の租税制度・租税政策を国際比較と歴史の視点から理解する。

To understand the Japanese tax systems and tax policies from the perspective of international comparison and history.

### 授業の内容 / Course Contents

本講義は租税政策上の争点を理解するための一つの視点として、租税制度の歴史と国際比較を重視する。各国の租税制度はその国の歴史や政治的・経済的・社会的な背景を反映している。日本の租税制度の政治的・経済的・社会的背景を意識することでその形成過程を理解し、そこに国際比較を加味することで、現在の租税政策上の争点を明確化する。

This lecture focuses on the history and international comparison of tax systems as one perspective for understanding the disputes regarding tax policy. The tax system of each country reflects the historical, political, economic, and social background of that country. Students gain an understanding of the formation process of the Japanese tax system while recognizing its political, economic, and social background and then it will be compared

with international systems to clarify the disputes regarding current tax policy.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：租税論 2 の対象と租税体系論
- 2 回：租税体系論と国際比較
- 3 回：租税制度・租税理論の歴史（1）
- 4 回：租税制度・租税理論の歴史（2）
- 5 回：所得課税の仕組と論争点（1）
- 6 回：所得課税の仕組と論争点（2）
- 7 回：所得課税の国際比較
- 8 回：消費課税の仕組と論争点
- 9 回：消費課税の国際比較
- 10 回：多様化する事業体と税制（1）
- 11 回：多様化する事業体と税制（2）
- 12 回：資産課税の国際比較
- 13 回：国際租税政策（1）
- 14 回：国際租税政策（2）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

提出は求めないが、毎回、予習・復習を効果的にするために課題を提示する。租税論 1（春学期）の講義内容を理解していることが望ましく、財政学や地方財政論等とあわせて履修すると、相乗効果がある。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% コメントカードの内容:15% レポート課題の提出:5%

平常点のうち、レポートを実施しない場合は、コメントカード 20%とする。

### テキスト / Textbooks

特定・単一のテキストは用いない。講義の際に適宜指示する。

### 参考文献 / Readings

関口 智 『現代アメリカ連邦税制-付加価値税なき国家の租税構造』 東京大学出版会 2015 年  
9784130461146

その他は、講義の際に適宜指示する。

### その他 / Others

- ・板書（PowerPoint 等）と口頭による講義形式である。
- ・配布する資料は、統計データや図表等である。
- ・リアクションペーパーは、次回授業開始時にフィードバックを行う。



# 地方財政論 1

Local Government Finance 1

制度としての地方財政

デウィット, A (DEWIT ANDREW)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX166

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2610

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

地方財政の制度、機能そして課題を理解する。

Understand the local government finance system and functions.

## 授業の内容 / Course Contents

地方財政の意義は、特に日本では現在過大評価することは困難である。本講座では、その理由を説明する。まず、日本の地方自治体の機能と制度に関する基礎知識と現在のデータを学び、次に、日本の地方自治体の財政がどのように流れ、どこにそのお金を使うのかを勉強する。その過程で、地方財政に関する本質的な事実と、その制度的・歴史的な背景を学ぶ。

It is difficult to overestimate the significance of local public finance, especially in Japan and particularly in the present. This course will explain why. We begin with the basic facts and data on the functions and institutions of local government in Japan, and then go on to examine how Japanese local government is finance and where it spends those monies. In the course of our studies, we learn the essential facts concerning local government finance in addition to their institutional and historical contexts.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：地方財政の機能  
 2 回：地方財政の現状と課題  
 3 回：地方財政の動向－歳出・歳入構造と財政指標(1)  
 4 回：地方財政の動向－歳出・歳入構造と財政指標(2)  
 5 回：地方税原則と地方税体系(1)  
 6 回：地方税原則と地方税体系(2)  
 7 回：地方税制度(1)  
 8 回：地方税制度(2)  
 9 回：地方交付税  
 10 回：国庫支出金  
 11 回：地方債  
 12 回：地方公営企業  
 13 回：持続可能な地方税財政のチャレンジ  
 14 回：まとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

**授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class**

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

**成績評価方法・基準(成績評価方法区分：200) / Evaluation**

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 複数回の小テスト:50%

**テキスト/ Textbooks**

森裕之 『市民と議員のための自治体財政 これてわかる基本と勘どころ』 自治体問題研究所 2020  
4880377058 -

林宏昭、橋本恭之 『入門地方財政〈第3版〉』 ビジネス専門書 2014 9784502089602 -

入門地方財政(第3版)

<http://park11.wakwak.com/~hkyoji/weblocal/>

総務省：地方財政制度

<http://www.soumu.go.jp/iken/zaisei.html>

総務省：地方財政の分析

[http://www.soumu.go.jp/iken/jokyo\\_chousa.html](http://www.soumu.go.jp/iken/jokyo_chousa.html)

総務省：令和2年版地方財政白書

[https://www.soumu.go.jp/menu\\_seisaku/hakusyo/index.html](https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/hakusyo/index.html)

**参考文献 / Readings**

本庄資 / 岩元浩一 / 関口博久 『現代地方財政論(六訂版)』 大蔵財務協会 2018 9784754725198

神野直彦/小西砂千夫 『日本の地方財政 第2版』 有斐閣 2020 9784641165755

平岡和久/ 森裕之 『新型コロナ対策と自治体財政 緊急アンケートから考える』 自治体研究社 2020  
9784880377193

総務省：地方財政制度

<http://www.soumu.go.jp/iken/zaisei.html>

総務省：地方財政の分析

[http://www.soumu.go.jp/iken/jokyo\\_chousa.html](http://www.soumu.go.jp/iken/jokyo_chousa.html)

総務省：令和5年版地方財政白書

[https://www.soumu.go.jp/menu\\_seisaku/hakusyo/index.html](https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/hakusyo/index.html)

---

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

特にない

---

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

特にない

## 地方財政論 2

Local Government Finance 2

地方財政と持続可能なまちづくり

デウィット, A (DEWIT ANDREW)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX167  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2610  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

地方財政の制度、機能そして課題を理解する。

Understand the local government finance system and functions.

### 授業の内容 / Course Contents

日本の地方財政は、様々な問題を抱えている。高齢化と過疎化、インフラの老朽化、経済競争力の低下、エネルギーコストや鉱物資源コストの上昇、気候変動や災害リスクの増大など、支出が増える一方で、地方税収が減少する要因もある。そのため、地方財政政策立案者や専門家は、地方財政の持続可能性を強化するための方策を模索してきた。本講座では、その課題、政策対応、関連する財政措置について検討する。

Japanese local finance is challenged by a multiplicity of issues. These challenges include ageing and depopulation, ageing infrastructure, declining economic competitiveness, increasing energy and other material costs, climate change and worsening disaster risks, and other factors that increase expenditures but also undermine local tax revenues. Local finance policymakers and experts have therefore sought to implement measures to bolster local fiscal sustainability. This course examines the challenges, the policy responses, and the related fiscal measures.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：地方自治体の持続可能なまちづくり
- 2回：地方自治体の公共施設：ハコモノ系とインフラ系
- 3回：地方自治体の公共サービス
- 4回：地方自治体とインフラの老朽化
- 5回：地方自治体と気候変動
- 6回：地方自治体とエネルギー
- 7回：レジリエンスまちづくりの支援策
- 8回：スマートなまちづくりの支援策
- 9回：コンパクトまちづくりの支援策
- 10回：コンパクトでスマートなまちづくりと地方財政
- 11回：まちづくりと広域連携
- 12回：官民連携まちづくり：ハコモノ系公共施設
- 13回：官民連携まちづくり：インフラ系公共施設
- 14回：まとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

**授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class**

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

**成績評価方法・基準(成績評価方法区分：200) / Evaluation**

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 複数回の小テスト:50%

**テキスト/ Textbooks**

森裕之 『自治体財政を診断する 『財政状況資料集』の使い方』 自治体研究社 20222020

9784880377506 -

小西 砂千夫 『2040年 生き残る自治体!』 学陽書房 2021 9784313161702 -

日本経済新聞社 地域報道センター 『データで読む地域再生 「強い県・強い市町村」の秘密を探る』 日本経済新聞出版 2022 9784296114900 -

総務省：地方財政制度

<http://www.soumu.go.jp/iken/zaisei.html>

総務省：地方財政の分析

[http://www.soumu.go.jp/iken/jokyo\\_chousa.html](http://www.soumu.go.jp/iken/jokyo_chousa.html)

総務省：令和4年版地方財政白書

[https://www.soumu.go.jp/menu\\_seisaku/hakusyo/index.html](https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/hakusyo/index.html)

**参考文献 / Readings**

本庄 資 / 岩元 浩一 / 関口 博久 『現代地方財政論』 大蔵財務協会 2018年4月3日 9784754725198

神野直彦/小西砂千夫 『日本の地方財政〔第2版〕』 有斐閣 2020 9784641165755

平岡和久/森裕之 『新型コロナ対策と自治体財政 緊急アンケートから考える』 自治体研究社 2020  
9784880377193

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

特にない

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

特にない

# 中小企業論 1

## Small Business Problems and Studies 1

海上 泰生 (UNAKAMI YASUO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX168  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

中小企業には、経済的弱者として支援を受ける側面がある一方で、我が国経済のダイナミズムの源泉としての役割を期待される側面もある。本講義では、中小企業が抱える問題だけでなく、期待される役割にも注目し、複眼的な視点から中小企業の姿を捉える。そして、体系的な考察を通して、その本質について理解を深め、学究的能力を身につけることを目的とする。

While SMEs (Small and Medium-sized Enterprises) are economically vulnerable and receive support, they are also expected to be a source of dynamism for the Japanese economy.

In this lecture, we will focus not only on the problems that SMEs face, but also on their expected roles, and capture the state of SMEs from multiple perspectives.

Through systematic consideration, students deepen their understanding of the essence of the subject and aim to acquire academic ability.

### 授業の内容 / Course Contents

我が国の従業者数 4,700 万人のうち約 70% の人達が中小企業で働いている。地方圏だけに限ると、その割合は 80% を超える。中小企業を就職先として選ぶ人達が圧倒的多数派だが、日常、見聞きするのは大企業の名前

ばかり。学生が中小企業の本物の姿を学ぶ機会は、意外なほど多くない。

本講義では、経済主体としての中小企業のウエートの大きさについて、最初に理解し、そもそも中小企業とはどういう存在か、中小企業が果たす役割とは何か、大企業と比較して中小企業にみられる特徴や課題は何か、などの中小企業をめぐる論点を丁寧にたどっていく。その際、中小企業を表す象徴的な概念、例えば、下請企業、地域中小企業、ベンチャー企業、ニッチトップなどという捉え方にも触れていく。

さらに、多様性が中小企業の大きな特徴であることから、豊富な実例を挙げ、理論を当てはめながら考察していく。

Approximately 70% of the 47 million people employed in Japan work for SMEs. When limited to rural areas alone, the percentage exceeds 80%.

The overwhelming majority of people choose to work at SMEs, but in our daily lives, we only see and hear the names of large companies. Opportunities for students to learn about the true state of SMEs are surprisingly rare. In this lecture, we will first understand the weight of SMEs as economic entities.

Then, we carefully discuss issues surrounding SMEs, such as what kind of existence SMEs are, what role SMEs play, and what are the characteristics and issues seen in SMEs compared to large companies.

At that time, we will also touch on the symbolic concepts that represent SMEs, such as subcontractors, regional SMEs, venture companies, and niche tops.

Furthermore, since diversity is a major characteristic of SMEs, we will consider it while citing a wealth of actual examples and applying theories.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション ～ 中小企業論を学ぶ意義
- 2回：そもそも中小企業とは ～ 中小企業のイメージ、法的定義
- 3回：中小企業が果たす役割（1） ～ 部品供給構造
- 4回：中小企業が果たす役割（2） ～ 産業変革への対応
- 5回：中小企業が果たす役割（3） ～ 創業・イノベーションと廃業
- 6回：中小企業が果たす役割（4） ～ 地域経済
- 7回：中小企業が果たす役割（5） ～ 雇用創出
- 8回：中小企業の課題と対応（1） ～ 景気変動の影響と収益力
- 9回：中小企業の課題と対応（2） ～ 資金調達
- 10回：中小企業の課題と対応（3） ～ 経営課題と経営格言
- 11回：中小企業の課題と対応（4） ～ 市場戦略
- 12回：強い中小企業の特徴（1） ～ 理想的に小さい市場
- 13回：強い中小企業の特徴（2） ～ 柔軟性・リーダーシップ・長期安定性
- 14回：まとめ・今期のレビュー

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日常の出来事を題材に、企業と社会の関わり方について授業内で簡単に発表できる程度の考察をしておく。



**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクション・ペーパー:10% 受講姿勢:20%

**テキスト / Textbooks**

各回、教材を配布する。

必要に応じて参考図書を推薦したり、無料刊行物などを配布することもある。

**参考文献 / Readings**

日本政策金融公庫 『地域の雇用と産業を支える中小企業の実像』 日本政策金融公庫 2015 18835937

許伸江編著 『中小企業の経営』 八千代出版 2024 9784842918624

板垣博・周佐喜和・銭佑錫 編著 『トピックで読み解く国際経営』 文真堂 2023 9784830952418

長山宗広・遠山恭司・山本篤民・許伸江 著 『地域とつながる中小企業論』 有斐閣 2024

9784641200098

高田亮爾編著 『現代中小企業論 / 増補版』 同友館 2011 9784496047589

**その他 / Others**

<https://researchmap.jp/una>

## 中小企業論 2

Small Business Problems and Studies 2

海上 泰生 (UNAKAMI YASUO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX169

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2810

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

「中小企業」と聞いても、大企業とは異なり、その商品・サービス・広告に触れる機会は少なく、どこか縁遠いものと感じるかもしれない。しかし、中小企業を知らずに、我が国経済・産業の本質を理解することはできない。

このコースでは、我が国経済・産業において大きな比重を占める中小企業について学習を進めるなかで、中小企業の本質的な姿を理解するとともに、現代の日本経済と企業をめぐる重要な問題について考察できる力を培うことを目指す。

Even if you hear the term "SMEs," unlike large companies, you may not have many opportunities to come into contact with their products, services, or advertisements, and you may feel that they are somewhat unfamiliar to you. However, without knowing SMEs, it is impossible to understand the essence of Japan's economy and industry.

In this course, while learning about SMEs, which play a major role in the Japanese economy and industry, students will gain an understanding of the essential nature of SMEs, as well as cultivate the ability to think about important issues surrounding the Japanese economy and enterprises.

**授業の内容 / Course Contents**

このコースでは、中小企業論 I で学んだ基本的な理解を踏まえて、より中小企業を深く知るために、各産業や地域産業における寄与、特徴的な事業展開、雇用、金融、政策など様々な切り口から掘り下げていく。マクロデータを利用しながら理論的にアプローチをすることはもちろんだが、学生・生活者・働き手の目線から、事例を多用しつつ、中小企業の姿を身近なものとして理解できるように展開していく。

In this course, based on the basic understanding learned in SME Theory I, in order to gain a deeper understanding of SMEs, various topics such as contributions to each industry and regional industries, characteristic business development, employment, finance, and policies will be taught. Dig down from the cut. Of course, we will take a theoretical approach using macro data, but we will also use many examples from the perspective of students, consumers, and workers to develop a familiar understanding of SMEs.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：中小企業をめぐる日本経済の現状
- 2 回：主要産業における中小企業（1） ～ 製造業(1)：食料品製造業
- 3 回：主要産業における中小企業（2） ～ 製造業(2)：自動車製造業
- 4 回：主要産業における中小企業（3） ～ 農業・林業
- 5 回：主要産業における中小企業（4） ～ 商業
- 6 回：主要産業における中小企業（5） ～ サービス業
- 7 回：中小企業の金融（1） ～ 直接金融と間接金融
- 8 回：中小企業の金融（2） ～ 各種金融機関の機能と変遷
- 9 回：中小企業の金融（3） ～ 情報の非対称性とリレーションシップ・バンキング
- 10 回：中小企業の雇用（1） ～ 高齢者や女性の活躍
- 11 回：中小企業の雇用（2） ～ 働く場としての中小企業の魅力
- 12 回：中小企業の海外進出 ～ 輸出拡大と海外投資
- 13 回：中小企業政策 ～ セーフティネットと創業支援
- 14 回：まとめ・今期のレビュー

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

日常の出来事を題材に、企業と社会の関わり方について授業内で簡単に発表できる程度の考察をしておく。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクション・ペーパー:10% 受講姿勢:20%

**テキスト / Textbooks**

各回、教材を配布する。

必要に応じて参考図書を推薦したり、無料刊行物などを配布することもある。

**参考文献 / Readings**

日本政策金融公庫 『地域の雇用と産業を支える中小企業の実像』 日本政策金融公庫 2015 18835937

許伸江編著 『中小企業の経営』 八千代出版 2024 9784842918624

板垣博・周佐喜和・銭佑錫 編著 『トピックで読み解く国際経営』 文真堂 2023 9784830952418

高田亮爾編著 『現代中小企業論 / 増補版』 同友館 2011 9784496047589

長山宗広・遠山恭司・山本篤民・許伸江 著 『地域とつながる中小企業論』 有斐閣 2024  
9784641200098

**その他/ Others**

<https://researchmap.jp/una>

# 生活経済論

Household Economics

橋本 美由紀 (HASHIMOTO MIYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX171  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2410  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この科目は、社会・経済の変化によって生じる生活の変化に対し、消費生活様式の選択肢を示してくれる生活経営力を修得することを目標とする。

This subject aims for acquiring life management showing the choice of the consumer life style for a change of the life to produce by a change of society, the economy.

## 授業の内容 / Course Contents

生活経済とは何か、家族・世帯・ライフコースの変容、資産形成の変化等について講義する。

Lecturing on something, transformation of a family, a household, and the life course, a change of the asset formation with the life economy.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：生活経済を学ぶとは
- 2 回：資本主義における生産と消費
- 3 回：ジェンダーと労働(1)ー近代産業社会の産物としての 性別役割分業
- 4 回：ジェンダーと労働(2)ーワークライフバランス社会に向けて

- 5回：家族・世帯、ライフコース  
 6回：家計収入・支出の構造に見るジェンダー  
 7回：家計の所得格差・貧困と所得再分配  
 8回：社会保障と最低生活保障  
 9回：資産形成の変化と金融教育の高まり  
 10回：無償労働と生活時間  
 11回：福祉社会における生活の社会科と生活経済  
 12回：持続可能な社会に向けた新たな生活様式  
 13回：ワーク・ライフキャリアと生活経済  
 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパー:20%

### テキスト / Textbooks

配布資料

### 参考文献 / Readings

授業内で適宜指示する。

### その他 / Others

質問は授業後に受け付ける。

# 環境経済学 1

Ecological Economics 1

一ノ瀬 大輔 (ICHINOSE DAISUKE)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX172  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2410  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

環境問題を経済学的な視点から分析することの意義を学ぶとともに、環境に関する様々な政策課題を分析するために必要な基礎的な力を身に付けることを目標とする。また、環境経済学の考え方に触れることで、論理的な思考力を養うことも目指す。

The purpose of this course is to learn the significance of analyzing environmental problems from an economic perspective and to acquire the fundamental ability required to analyze the various policy issues regarding the environment. An additional purpose is to develop the logical thinking ability of students through dealing with the concepts of ecological economics.

## 授業の内容 / Course Contents

環境問題はほとんどの場合、人々の経済活動が原因で発生しており、その解決のためには経済と環境の関係について理解することが必要不可欠となる。本講義では、経済学的手法を用いて環境問題の分析を行う環境経済学を取り上げ、その一般的な理論について学んでいく。また、講義では可能な限り具体的な環境問題や環境に関する政策的課題を取り上げ、環境経済学が現実に応用可能かについても紹介する。

In most cases, environmental problems are caused by the economic activities of people, so an understanding of

the relationship between the economy and the environment is indispensable for solving those problems. This lecture will focus on ecological economics where economics techniques are used to analyze environmental problems and students will learn the corresponding general theory. In addition, as far as possible, the lecture will bring up specific environmental problems and political issues regarding the environment, and how ecological economics can actually be applied to these cases will also be introduced.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：環境問題と経済学的分析の意義
- 2 回：経済学的手法の復習
- 3 回：市場の失敗と外部費用 1
- 4 回：市場の失敗と外部費用 2
- 5 回：交渉による問題の解決 コースの定理
- 6 回：汚染削減行動の分析
- 7 回：環境税・補助金政策の仕組み
- 8 回：排出権取引制度の仕組み
- 9 回：環境政策の選択
- 10 回：資源管理政策 1 再生可能資源
- 11 回：資源管理政策 2 非再生可能資源
- 12 回：環境評価 1 ヘドニック法, CVM
- 13 回：環境評価 2 費用便益分析
- 14 回：環境と貿易

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

ミクロ経済学の入門レベルの内容をベースとした理論を扱うので、ミクロ経済学についての学習を行うことを推奨する。ただし、講義内でもミクロ経済学の内容についての簡単な復習は行う。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

### テキスト / Textbooks

特定のテキストは使用せず必要に応じて資料を配布する。

### 参考文献 / Readings

栗山浩一・馬奈木俊介 『環境経済学をつかむ』 有斐閣

細田衛士・横山彰 『環境経済学』 有斐閣



# 環境経済学 2

Ecological Economics 2

一ノ瀬 大輔 (ICHINOSE DAISUKE)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX173  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2410  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

具体的な環境問題を題材に、その政策的な課題を探るとともに、経済学的手法を用いてその課題を実践的に分析する手法を学ぶことを目的とする。また、政策分析に経済学的手法を用いることの意義についても考えていく。

The purpose of this course is to explore the political issues associated with specific environmental problems, and to learn practical methods for analyzing those issues using economic techniques. In addition, students will also learn the significance of using economics techniques in political analysis.

## 授業の内容 / Course Contents

公害問題、廃棄物問題、地球温暖化問題などの具体的な環境問題を取り上げ、その現状と課題を整理することに加え、それらの問題を経済学的手法を用いて分析する方法について学んでいく。また、講義では経済学の理論を実際の政策に応用する際の課題についても検討する。なお、講義では限られた種類の環境問題を扱うが、本講義で学ぶ経済学的手法は他の環境問題にも応用可能なものである。

In this class, specific environmental problems, such as pollution, waste, and global warming, will be brought up and in addition to considering the current states and problems, students will learn methods for analyzing these

problems using economics techniques. In addition, during the lecture the issues related to applying economic theory to actual government policy will be considered. The lecture will only deal with a limited variety of environmental problems, but the economic concepts learned in this lecture can be applied to the broader environmental issues.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：環境政策の目標と経済学的分析の意義
- 2回：経済学的な考え方の復習
- 3回：公共財としての環境
- 4回：公害に学ぶ環境政策 1 イタイイタイ病
- 5回：公害に学ぶ環境政策 2 熊本水俣病・新潟水俣病
- 6回：公害に学ぶ環境政策 3 四日市ぜんそく
- 7回：公害問題の経済学的分析
- 8回：廃棄物管理政策の現状
- 9回：廃棄物問題の経済学的分析
- 10回：不適正処理問題の経済学的分析
- 11回：地球温暖化問題と地球環境政策
- 12回：地球温暖化問題の経済学的分析
- 13回：環境問題と責任制度
- 14回：環境法の経済学的分析

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ミクロ経済の入門レベルの知識をベースとした理論を扱うので、ミクロ経済学の復習を行うことを推奨する。ただし、講義内でも簡単なミクロ経済学の内容の復習を行う。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

### テキスト / Textbooks

特定のテキストは使用せず必要に応じて資料を配布する。

### 参考文献 / Readings

細田衛士 『環境経済学』 ミネルヴァ書房

# 流通経済論

Marketing and Distribution

海上 泰生 (UNAKAMI YASUO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX175  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2410  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

このコースでは、生産と消費の間に存在する地理・時間・所有・情報面でのギャップを橋渡しする商業の役割と、その仕組みの総体である流通システムに関して、基本的な理論を理解したうえで、国内市場の縮小、情報技術の発達、国際化の進展などを背景に、現代の商業と流通システムがみせる様々な変化について、体系的に考察する力を養うことを目指します。

In this course, students will understand the basic theory of the role of commerce in bridging the gaps in geography, time, property, and information that exist between production and consumption, as well as the distribution system, which is the overall mechanism of commerce.

In addition, we aim to cultivate the ability to systematically consider various changes in the commercial and distribution system against the backdrop of shrinking domestic markets, the development of information technology, and the progress of internationalization.

## 授業の内容 / Course Contents

現代社会では、どこかの店に行けば商品があり、代金を支払えば買えるのが当たり前と思いがちです。しかし、その裏側に多数の経済主体による精緻で効率的な「流通システム」が構築されているからこそ、そうした

恩恵が簡単に受けられるのです。日常、私たちがほとんど意識することなく依存する商業と流通の働きについて、社会に歩み出す前に、改めてその意味を理解する必要があります。

このコースでは、流通の基本的な仕組みを把握したうえで、その担い手である小売業・卸売業の姿や役割に目を向け、その特徴的な業態や様々な変化について掘り下げます。基本的なモデルやデータを利用しながら理論的にアプローチをすることはもちろんですが、学生の目線や就職後の働き手の目線から、実例を多用しつつ、流通を担う経済主体の働きを身近なものとして理解できるように展開していきます。

In today's society, it is a matter of course that if you go to a store, you can find a product, and if you pay for it, you can buy it.

However, we can easily receive such benefits precisely because behind the scenes, a sophisticated and efficient "distribution system" has been built by many economic entities.

Before you step out into society, you need to re-understand the meaning of the workings of commerce and distribution, on which you depend almost unconsciously.

In this course, after understanding the basic structure of distribution, we will focus on the role of retailers and wholesalers, who are the main players, and delve into their characteristic business formats and various changes. We will take a theoretical approach while using basic models and data. Furthermore, while using many actual examples, we will proceed so that you can understand the functions of economic entities that support distribution.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：流通経済論への入口
- 2 回：流通・商業の機能とプレゼンス
- 3 回：商業の働き ～ 生産者・消費者・社会全体の視点から
- 4 回：商業の働き ～ 生産者と消費者の隔たりをつなぐ役割
- 5 回：マクロデータでみる小売業・卸売業の動向
- 6 回：各小売業の指標上の特徴
- 7 回：卸売業の姿と役割
- 8 回：多様な小売業態の誕生（1）～ チェーン・ストアがもたらす革新
- 9 回：多様な小売業態の誕生（2）～ スーパー・マーケット
- 10 回：多様な小売業態の誕生（3）～ コンビニエンス・ストア
- 11 回：商店街の現状と課題
- 12 回：ロジスティクス革命
- 13 回：流通の再編成
- 14 回：まとめ・今期のレビュー

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日常の出来事を題材に、流通経済の実例について授業内で簡単に発表できる程度の考察をしておく。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクション・ペーパー:10% 受講姿勢:20%

### テキスト/Textbooks

---

各回、教材を配布する。

必要に応じて参考図書を推薦したり、無料刊行物などを配布することもある。

### 参考文献 / Readings

---

許伸江編著 『中小企業の経営』 八千代出版 2024 9784842918624

### その他/ Others

---

<https://researchmap.jp/una>

# 流通政策論

Marketing and Distribution Policy

海上 泰生 (UNAKAMI YASUO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX176  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2410  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

適切な手入れをしない森林は、荒れてしまうことがある。産業が発展していく過程でも、市場のメカニズムに委ねているだけでは、様々な課題や支障が生じることがある。流通政策は、流通システムが健全に発展し、有効で効率的な市場を形成するために必要なものとして理解されている。

本講義では、俯瞰的に流通政策を見るとともに、流通システムと流通政策が相互に影響し合い、環境変化に沿って発展していく過程を追っていく。これにより、市場経済と政策のバランスについて体系的に考察する力を養うことを目的とする。

Forests that are not managed properly become desolate. Even as industries develop, if they are left to market mechanisms, various problems and obstacles will arise. Distribution policies are necessary for the healthy development of the distribution system and the creation of an effective and efficient market. In this lecture, we will look at distribution policy from a bird's-eye view, and follow the process of how the distribution system and distribution policy affect each other and develop in line with changes in the environment. The purpose of this course is to cultivate the ability to systematically consider the balance between the market economy and policy.

## 授業の内容 / Course Contents

流通政策は、多様な側面から、ときには自由な経済活動を規制し、ときには特定の行為を禁止し、ときには個々の事業活動を支援するというかたちで実施される。関係者間で利害関係が対立することもある。具体的には、独占禁止法、再販制度、大規模小売店舗法、中小小売商業振興法、中心市街地活性化法などを根拠とする各施策が挙げられる。

本講義では、流通システムと流通政策の相互の関係に着目しつつ、流通政策の意義や変遷、バリエーション、個々の流通の実像に触れ、市場経済と政策の在り方について考察していく。

Distribution policies are implemented from various aspects, sometimes regulating free economic activities, sometimes prohibiting specific acts, and sometimes supporting individual business activities. There may be conflicts of interest between the parties involved. Specific examples include measures based on the Antimonopoly Act, the resale system, the Large-Scale Retail Store Act, the Small and Medium-Sized Retail Commercial Promotion Act, and the City Center Revitalization Act. In this lecture, while focusing on the mutual relationship between distribution systems and distribution policies, we will learn about the significance, changes, and variations of distribution policies, as well as the reality of individual distribution, and consider the ideal state of the market economy and policies.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：流通政策論への入口
- 2 回：流通政策の意義と役割
- 3 回：流通経済と流通政策 ～ 小売業態開発とその理論
- 4 回：流通経済と流通政策 ～ Eコマースの発展と流通チャンネルの変化
- 5 回：流通経済と流通政策 ～ サプライチェーン・マネジメント
- 6 回：流通経済と流通政策 ～ 国際化と外資の進出
- 7 回：流通政策のタイプ分類
- 8 回：独占禁止法（1）～ 私的独占・不当な取引制限・不公正な取引方法
- 9 回：独占禁止法（2）～ 公正取引委員会の組織と権限
- 10 回：大規模小売店舗法の誕生から廃止まで
- 11 回：「まちづくり3法」の制定
- 12 回：大規模小売店舗立地法・中心市街地活性化法
- 13 回：流通政策と都市政策 ～ 都市計画法の改正
- 14 回：まとめ・今期のレビュー

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日常の出来事を題材に、流通政策の実例について授業内で簡単に発表できる程度の考察をしておく。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクション・ペーパー:10% 受講姿勢:20%

### テキスト / Textbooks

各回、教材を配布する。

必要に応じて参考図書を推薦したり、無料刊行物などを配布することもある。

### 参考文献 / Readings

---

許伸江編著 『中小企業の経営』 八千代出版 2024 9784842918624

### その他 / Others

---

<https://researchmap.jp/una>



# 労働経済論 1

Labor Economics 1

橋本 美由紀 (HASHIMOTO MIYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX177  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2410  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この科目は日本の雇用の現状、労働市場の特徴を捉え、その課題を検討することを目標とする。

This subject captures the current situation of the employment of Japan, the characteristic of the labor market and aims for examining the problem.

## 授業の内容 / Course Contents

雇用関係の歴史に始まり、失業、賃金、キャリア形成等について現状と課題を明らかにする。

It begins for the history of the hiring and clarifies the current situation and a problem about unemployment, a wage, the carrier formation

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：雇用関係の歴史
- 3 回：日本の雇用・失業政策と働き方改革
- 4 回：雇用と失業(1)
- 5 回：雇用と失業(2)

- 6回：賃金(1)
- 7回：賃金(2)
- 8回：キャリア形成(1)
- 9回：キャリア形成(2)
- 10回：労働時間(1)
- 11回：労働時間(2)
- 12回：労働組合(1)
- 13回：労働組合(2)
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて別途指示する。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパー:20%

#### テキスト / Textbooks

配布資料

#### 参考文献 / Readings

授業内で適宜指示する

#### その他 / Others

質問は授業後に受け付ける。

# 労働経済論 2

Labor Economics 2

橋本 美由紀 (HASHIMOTO MIYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX178  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2410  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この科目は日本の雇用の現状、労働市場の特徴をジェンダーという視点から捉え、その課題を検討することを目標とする。

This subject captures the current situation of the employment of Japan, the characteristic of the labor market from a viewpoint called the gender and aims for examining the problem.

## 授業の内容 / Course Contents

雇用政策に係る法律制度、法令内容を理解し、その役割・課題を明らかにする。

Understanding a legal system to affect the employment policy, laws and ordinances contents, and clearing the role, problems.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：非正規労働・パートタイム労働
- 2 回：仕事と家庭の両立政策
- 3 回：外国人雇用政策
- 4 回：高齢者雇用政策

- 5回：障害者雇用政策
- 6回：若年者雇用政策
- 7回：雇用政策—女性と男性の雇用
- 8回：ワーク・ライフ・バランス政策とは何か
- 9回：女性活躍とワーク・ライフ・バランス 中小企業の実情
- 10回：中小企業、ベンチャー企業
- 11回：公企業と公益企業
- 12回：NPO 経営
- 13回：「働き方改革」と労働政策
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて別途指示する。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパー:20%

#### テキスト / Textbooks

配布資料

#### 参考文献 / Readings

授業内で適宜指示する。

#### その他 / Others

質問は授業後に受け付ける。

# 社会開発論

Social Development

石井 優子 (ISHII YUKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX179  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX3510  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

経済開発だけでは改善できなかった開発課題を把握するとともに、これらの開発課題に対して、社会開発がどのような分析手法を提示しているのかを理解する。

To grasp the development issues that cannot be improved through economic development alone while also understanding which analytical techniques are presented by social development regarding these development issues.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、発展途上国の経済成長に主眼を置いた既存の開発に対して、途上国の人々の生活および社会を改善するための新たな分析手法として誕生した社会開発について、その理論的潮流を考察した上で、実際の発展途上国が直面している主要な諸課題を取り扱う。その際、より具体的な事例を紹介し、学生の理解を深めたいと考える。

This lecture will discuss the main issues actually facing developing nations while considering the theoretical trends of social development, which arose as a new analytical technique for improving the lives of people and the society in developing nations, in relation to existing economic development, which focuses on the economic

growth of developing nations. This will be done while also introducing specific examples to deepen student understanding.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：社会開発とは
- 3回：「開発」の潮流と社会開発の系譜①
- 4回：「開発」の潮流と社会開発の系譜②
- 5回：開発諸課題と社会開発①：貧困
- 6回：開発諸課題と社会開発②：教育と児童労働 1
- 7回：開発諸課題と社会開発③：教育と児童労働 2
- 8回：開発諸課題と社会開発④：健康と医療
- 9回：開発諸課題と社会開発⑤：ジェンダーとリプロダクティブヘルス
- 10回：参加型開発と外部者の関わり①：住民の参加と組織化
- 11回：参加型開発と外部者の関わり②：市民社会の役割
- 12回：参加型開発と外部者の関わり③：企業の参入
- 13回：参加型開発と外部者の関わり④：マイクロファイナンス
- 14回：まとめ：社会開発の課題と展望

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

特に指定せず、必要に応じて指示する

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%  
 平常点割合 :20% 複数の小テスト・リアクションペーパー:20%  
 小テスト及びリアクションペーパーは CanvasLMS 上で実施する。

### テキスト / Textbooks

毎回配信する資料に沿って講義を進める。

### 参考文献 / Readings

特に指定せず、必要に応じて紹介する。

# 農業経済論

Agricultural Economics

農業の経済的特質を考える

大山 利男 (OYAMA TOSHIO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX182  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2410  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

農業は、経済発展にともない産業的に縮小しているものの、国民への食料供給という重要な役割を果たしている。その経済的な特徴は、土地という生産要素の特殊性、農産物市場の特質、農業経営で見られる独特な経営感覚等に規定されてきた。本授業では、国内外の農業の現状を幅広く把握し経済学的視点から理解することを目標とする。

The object of this course is to acquire basic knowledge of agriculture and food issues from an economic perspective. Mainly focused on 1) land economy, 2) domestic and global food system, 3) farm production practice and its business management.

## 授業の内容 / Course Contents

世界の農業と食料問題について、農産物の需要・供給の現状、農産物市場・国際貿易の特質、農業保護の経済理論を説明する。さらに経済発展との関係、農業経営と担い手問題、農地・資源の保全、環境保全の視点から農業の課題について講義する。また食品産業の発展にともなう食品安全の課題について講義する。

This course discusses agriculture and food issues mainly on the market mechanism of farm product, international

trade theory, farm management and production cost, external economy and diseconomy of farming, development of the food industry and food safety efforts.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：農業経済の課題
- 2 回：世界の農業と食料問題
- 3 回：農産物貿易の経済理論と農業保護（1）
- 4 回：農産物貿易の経済理論と農業保護（2）
- 5 回：食料の需要と供給（1）
- 6 回：食料の需要と供給（2）
- 7 回：経済発展と日本農業
- 8 回：日本農業の担い手
- 9 回：日本農業と農地
- 10 回：農業と資源保全
- 11 回：農業と環境保全
- 12 回：日本農業と農産物流通
- 13 回：フードシステムと食品安全（1）
- 14 回：フードシステムと食品安全（2）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% レポート（2回）:20%

### テキスト / Textbooks

荏開津典生・鈴木宣弘 『農業経済学 第5版』 岩波書店 2020 9784000289221 -

### 参考文献 / Readings

生源寺眞一 『日本農業の真実』 筑摩書房 2011 9784480066084

田代洋一 『農業・食料問題入門』 大月書店 2012 9784272140602

### その他 / Others

食料・農業・農村白書（農林水産省）

<https://www.maff.go.jp/j/wpaper/>



# 農業政策論

Agricultural Policy

農業の非経済的特質もふまえた政策を考える

大山 利男 (OYAMA TOSHIO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX183

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2510

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

農業政策の主たる範囲は、農業経営や農産物市場・貿易に関わる経済政策である。しかし今日では、資源・環境保全を目的とした政策、食品関連産業の発展に対応した食品安全政策等が含まれる。農業政策は、経済面にくわえて非経済面にも配慮することが求められている。本授業では、そのような今日的な農業政策について国際的視野から理解する。

The object of this course is to overview and understand the current agricultural policies to support farm income, market price, international trade agreement, and that, to understand new policies for resource management and environment protection, rural development, and food safety, with local and global perspective.

## 授業の内容 / Course Contents

農業政策の主流である経営安定・支援政策、農産物市場・貿易政策等について説明する。つづいて、環境・資源保全政策、農村振興政策、食品安全・規格基準・表示等に関する政策について説明することにより、近年の欧米先進諸国や日本が進める農政改革について理解を深める。

This course discusses agricultural policies and its reforms, which include farm income support, trade policy, resource management and environmental protection, rural development, food safety and related regulations. Main focus is on the agricultural policy reform in the US, European countries and Japan.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：現代の農政改革の課題
- 2 回：貿易政策と食料安全保障
- 3 回：農産物貿易と国境措置
- 4 回：日本農業と資源保全政策（1）
- 5 回：日本農業と資源保全政策（2）
- 6 回：農業の多面的機能と地域社会
- 7 回：農業と環境保全（1）
- 8 回：農業と環境保全（2）
- 9 回：米国の農業政策（1）
- 10 回：米国の農業政策（2）
- 11 回：EU の農業政策（1）
- 12 回：EU の農業政策（2）
- 13 回：食品安全政策と国際化（1）
- 14 回：食品安全政策と国際化（2）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% レポート（2回）:20%

### テキスト / Textbooks

荏開津典夫・鈴木宣弘 『農業経済学 第5版』 岩波書店 2020 9784000289221 -

### 参考文献 / Readings

生源寺真一 『日本農業の真実』 筑摩書房 2011 9784480066084

田代洋一 『農業・食料問題入門』 大月書店 2012 9784272140602

荏林幹太郎ほか 『世界の農業環境政策』 農林統計協会 2012 9784541037985

### その他 / Others

食料・農業・農村白書（農林水産省）

<https://www.maff.go.jp/j/wpaper/>

# 都市政策論 1

Urban and Regional Policy 1

都市と地域の経済学

香川 涼亮 (KAGAWA RYOSUKE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX184

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2410

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- ・都市や地域の問題に関する既存の分析を理解し、批判的に検討できるようになる。
- ・経済学を応用して都市や地域の問題について論理的に分析できるようになる。

To be able to understand and critically examine existing analyses of urban and regional issues.

Students will be able to apply economics to logically analyze urban and regional issues.

## 授業の内容 / Course Contents

ミクロ経済学、公共経済学の確認を交えつつ、私たちの住む都市・地域の諸問題について分析していく。日本や世界の地域・都市の「でき方」「仕組み」を概観した後、都市内の土地利用がどのようにして決まるのか、詳しく解明する。政策的介入が必要な理由を確認した後、土地問題、住宅問題を経済学、政策の面から考察する。

We will analyze various problems of cities and regions where we live, with confirmation of microeconomics and public economics. We will give an overview of the "how" and "why" of regions and cities in Japan and around the world, and then explain in detail how land use in cities is determined. In the second half, after confirming the

reasons why policy intervention is necessary, we will examine land and housing issues from both economics and policy perspectives.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション 都市経済学とは
- 2回：集積の経済と都市化(1) 人口集中の利益と不利益
- 3回：集積の経済と都市化(2) 集積の経済のモデル
- 4回：住宅市場(1) 住宅価格と家賃
- 5回：住宅市場(2) 住宅・土地市場に関わる政策
- 6回：都市内土地利用の分析(1) 通勤と立地
- 7回：都市内土地利用の分析(2) 単一中心都市モデル
- 8回：都市システムモデルと最適人口規模(1) 都市規模決定の基本モデル
- 9回：都市システムモデルと最適人口規模(2) 都市システムモデル
- 10回：交通サービス(1) 交通サービスの特徴
- 11回：交通サービス(2) 混雑の影響・経路選択
- 12回：地方政府の役割(1) 地方公共財の最適供給
- 13回：地方政府の役割(2) 企業誘致と租税競争
- 14回：まとめと質疑応答

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・テキストを精読し、主要なポイントを理解、説明できるようにする。
- ・授業内で出題・紹介する問題を実際に解く(復習重視)。
- ・授業に関連する事例、ニュースや文献を調べる。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :79%

平常点割合 :21% 提出課題(不定期に出題)7%×3回:21%

### テキスト/Textbooks

佐藤泰裕 『都市・地域経済学への招待状 [新版]』 有斐閣 2023 9784641151192 ○

### 参考文献 / Readings

高橋孝明 『都市経済学』 有斐閣 2012 9784641184060

黒田達朗・田淵隆俊・中村良平 『都市と地域の経済学 [新版]』 有斐閣 2008 9784641183711

山田浩之・徳岡一幸 『地域経済学入門 [第3版]』 有斐閣 2018 9784641165229

林宣嗣 他 『地域政策の経済学』 日本評論社 2018 9784535558687

山崎朗 他 『地域政策 [第2版]』 中央経済社 2022 9784502446719

受講生の関心に応じて文献を紹介する。

### 履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

- ・ミクロ経済学および経済数学の基本を習得しているか、履修中であることが望ましいが、授業内で必要に応

じて解説する。

- ・グラフや図を用いて論理的な思考を積み重ねる姿勢が求められる。

#### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

Zoom と Canvas LMS を使用する。

#### **その他/ Others**

テキストの数式の難しい部分は、必ずしも理解しなくてよいよう配慮する。

## 都市政策論 2

Urban and Regional Policy 2

都市・地域の政策分析の諸方法

香川 涼亮 (KAGAWA RYOSUKE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX185

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2410

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

- ・経済学を応用して都市や地域の問題について論理的に分析できようになる。
- ・様々な分析手法の習得を通して、主体的市民として都市・地域づくりの現場に関われるようになる。

To be able to logically analyze urban and regional issues by applying economics.

To be able to engage in the field of urban and regional planning as a proactive citizen through the mastering of various analytical methods.

### 授業の内容 / Course Contents

経済学の考え方を基に、私たちの住む都市・地域の政策分析の様々な手法を学ぶ。地域経済学の枠組みを学び、地域成長、地域間格差と人口移動、地域間交易などのトピックについて理解を深める。また立地論をテーマに、個々の企業の戦略的行動とその帰結として、都市・地域が形成される原理について考察する。最後に、近年目覚ましい進展がみられる、都市・地域を一体的に分析する空間経済学の枠組みを概観するとともに、統計的手法を用いた都市環境評価の手法について学ぶ。

Based on the ideas of economics, we learn various methods of policy analysis for the cities and regions in which

we live. Learn the framework of regional economics and deepen your understanding of topics such as regional growth, disparities and population movement, and interregional trade. Also, with the theme of location theory, we will consider the principles by which cities and regions are formed as a result of the strategic actions of individual companies. Finally, we will provide an overview of the framework of spatial economics, which analyzes cities and regions in an integrated manner, which has seen remarkable progress in recent years, and learn about urban environmental assessment methods using statistical methods.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション 都市・地域の政策分析とは
- 2回：日本の地域と都市
- 3回：地域の産業構造(1) 県内総生産の決定
- 4回：地域の産業構造(2) 産業連関分析
- 5回：地域間人口移動(1) 分析の枠組み
- 6回：地域間人口移動(2) 農村－都市間人口移動
- 7回：地域間交易(1) 比較優位と産業間交易
- 8回：地域間交易(2) 不完全競争市場と産業内交易
- 9回：企業立地(1) 工業立地の分析
- 10回：企業立地(2) 商業立地の分析
- 11回：空間経済学
- 12回：都市環境評価のための統計学・因果推論の方法
- 13回：都市環境の評価 東京の地価分析
- 14回：まとめと質疑応答

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・テキストを精読し、主要なポイントを理解、説明できるようにする。
- ・授業内で出題・紹介する問題を実際に解く(復習重視)。
- ・授業に関連する事例、ニュースや文献を調べる。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :79%

平常点割合 :21% 提出課題(不定期に出題)7%×3回:21%

### テキスト/Textbooks

佐藤泰裕 『都市・地域経済学への招待状 [新版]』 有斐閣 2023 9784641151192 ○

### 参考文献 / Readings

黒田達朗・田淵隆俊・中村良平 『都市と地域の経済学 [新版]』 有斐閣 2008 9784641183711

山田浩之・徳岡一幸 『地域経済学入門 [第3版]』 有斐閣 2018 9784641165229

林宣嗣 他 『地域政策の経済学』 日本評論社 2018 9784535558687

林宣嗣 他 『地域データ分析入門 すぐに役立つEBPM実践ガイドブック』 日本評論社 2021

9784535559479

山崎朗 他 『地域政策 [第2版]』 中央経済社 2022 9784502446719

受講生の関心に応じて文献を紹介する。

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

- ・経済学の基本を習得しているか、履修中であることが望ましいが、授業内で必要に応じて解説する。
- ・グラフや図を用いて論理的な思考を毎回積み重ねる姿勢が求められる。
- ・「都市政策論1」の履修は必ずしも前提としない（本科目のみでも履修可能）。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

Zoom と Canvas LMS を使用する。

**その他/ Others**

- ・ごく大まかに述べると、立地論・空間経済学はミクロ、地域経済学はマクロ、都市環境評価は統計・計量経済学にそれぞれ対応する。
- ・数式の難しい部分は、必ずしも理解しなくてよいよう配慮する。



# 国際経済論

International Economy

国際経済を見る多様な視角

蓮見 雄 (HASUMI YU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX190

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1410

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

経済活動のグローバル化を多面的に理解する手がかりとして、様々な認識方法を学ぶ。

To learn a variety of recognition methods as a means for gaining a multifaceted understanding of the globalization of economic activities.

## 授業の内容 / Course Contents

今日、世界の各国、各地域の経済は、国境を越える財、サービス、資本、人の移動を通じて相互依存関係を深めている。本講義では、グローバル化する経済活動を理解するために、国際経済論の基礎を学び、日々刻々と変化する世界経済について独力で考えるための手がかりとして、国際経済に関する諸説を概説する。なお、受講者の理解度と講義の進捗状況に応じて、講義の順番を入れ替えることがある。

Today, the economies of countries and regions around the world are deepening their mutually dependent relationships through the movement of goods, services, capital, and people across national borders. In order to understand the globalization of economic activities, in this lecture students will be given an outline of international economics as a means for learning the fundamentals of international economic theory and being

able to independently consider the constantly changing global economy. The order in which subject matter is presented in the lecture may be changed depending on the level of understanding of the students and the way the lecture is progressing.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクションー世界経済の中の日本ーグローバルな相互依存と国際分業の利益・課題
- 2回：国際収支表から見えるもの
- 3回：為替レートと購買力平価説
- 4回：貿易の利益に関する考え方1ー余剰分析
- 5回：貿易の利益に関する考え方2ー一般均衡分析
- 6回：グローバル・バリューチェーンと国際分業の変化
- 7回：多様なアプローチー国際経済学の系譜と多国籍企業論の系譜
- 8回：生産技術の差から比較優位を説明する考え方1
- 9回：生産技術の差から比較優位を説明する考え方2
- 10回：要素賦存の差から比較優位を説明する考え方1
- 11回：要素賦存の差から比較優位を説明する考え方2
- 12回：差別化、規模の経済性から貿易の利益を説明する考え方
- 13回：企業の異質性と独占的競争から貿易の利益を説明する考え方
- 14回：国際資本移動の影響を重視した考え方

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

予習：講義資料は、オンラインで配布するので、各自で目を通してから授業に参加してほしい。

復習：講義資料と授業時に紹介する参考資料で復習すること。

小レポート：授業で詳しく紹介するが、国際機構 (WTO、IMF、世界銀行、OECD、UNCTAD、IEA、ILO、EU、EBRD 等) のホームページから、様々なデータがダウンロードでき、経済的な事実を簡単に確認することができる (たとえば、ある国の GDP の時系列変化、財政状況、貿易構造など)。これを利用して A4 で 1 枚程度 (図 1 枚と簡単な解説) の小レポートを作成 (平常点

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 小レポート (A4 で 1 枚程度) × 5 回 × 6% :30%

授業時に国際機関などの公式データを紹介し、その利用方法を概説するので、図表 1 枚とその説明からなる簡単な小レポート A4 1 枚程度 (図表 1 枚と簡単な解説) のレポートを 5 回提出。これを採点して平常点とする。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

大川良文 『入門 国際経済学』 中央経済社 2019 9784502323416

妹尾裕彦他 『地球経済入門』 法律文化社 2021 9784589041234

小林尚朗他 『貿易入門 [第 2 版] : 世界と日本が見えてくる』 大月書店 2023 4272150472

マシュー・C.クレイン, マイケル・ペティス 『貿易戦争は階級闘争である：格差と対立の隠された構造』  
みずず書房 2021 9784622089995

<https://www.imf.org/en/Data>

<https://comtradeplus.un.org/Visualization/Labs>

<https://www.jetro.go.jp/world/>

<https://www.iea.org/>

<https://www.irena.org/>

<https://unctad.org/>

<https://www.wto.org/>

<https://www.oecd-ilibrary.org/>

<https://atlas.cid.harvard.edu/>

ht

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

予習：講義資料は、オンラインで配布するので、各自で印刷して目を通してから授業に参加すること。

復習：講義資料と授業時に紹介する参考資料で復習すること。

進んだ学習：授業で詳しく紹介するが、国際機構（WTO、IMF、世界銀行、OECD、UNCTAD、IEA、ILO、EU、EBRD等）の資料は無料でダウンロードして読めるものがたくさんあり、また翻訳書もたくさん図書館に入っている。世界各地の経済問題について、自分で調べてみよう。

# 世界経済論

International Economics

世界－国家－地域の関連を複眼的に見る

蓮見 雄 (HASUMI YU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX191

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1410

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

経済活動のグローバル化と不均質な世界経済を理解する力を養う。

To develop the ability to understand the globalization of economic activities and the heterogeneous global economy.

## 授業の内容 / Course Contents

今日、たとえ一国一地域のローカルな問題であっても、世界経済との関係を抜きに理解することは難しい。国家の経済政策や社会政策も、経済活動のグローバル化への適応を迫られ、変容し始めている。本講義では、ヨーロッパに焦点を定めつつ、国境を越えた都市・地域間ネットワーク形成という視点を織り込みながら、世界経済の変化とグローバル経済ガバナンスの可能性について講義する。また、本講義は、世界各地、各種の基礎的なデータへのアクセス方法を確認し、世界経済を支えている WTO、IMF、G7、G20 等の役割、及び国家の経済政策への影響に関する基礎知識を習得することを目指す。なお、受講生の理解度や講義の進捗状況による講義の順序を調整する場合がある。

Today, even if a problem is local to one country or region, it is difficult to understand it without considering its

relationship to the global economy. The economic and social policies of nations are being forced to address the globalization of economic activities and are beginning to be transformed accordingly. This lecture focuses on Europe and incorporates the perspective of forming a network among cities and regions that extends beyond national borders while discussing the changes in the global economy and the possibility of global economic governance. Further, this lecture aims to check the methods for accessing basic data of various types for various regions around the world, and to acquire a basic knowledge of the roles and impact on national economic policy of the WTO, IMF, G7, and G20, etc., which support the global economy. The order in which subject matter is presented in the lecture may be changed depending on the level of understanding of the students and the way the lecture is progressing.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：不均質な世界とグローバル・シフト
- 3 回：1985 年の転換
- 4 回：資本移動とグローバル生産ネットワーク
- 5 回：生産連鎖と世界経済の3つの層
- 6 回：グローバル経済の中の国家の役割の変化－内外一体の政策へ
- 7 回：通商ガバナンスと WTO の役割と課題－マーケットアクセスからルールへ
- 8 回：地域経済統合
- 9 回：欧州連合 (EU) にみるリージョナル経済ガバナンス
- 10 回：グローバル経済下における2つのトリレンマ－国際金融のトリレンマと世界経済の政治的トリレンマ
- 11 回：気候変動・エネルギー問題と世界経済
- 12 回：社会問題のグローバル化、持続可能性 (sustainability)、説明責任 (accountability) : 多国籍企業と市民社会
- 13 回：地政学リスクと経済安全保障
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

予習：講義資料は、オンラインで配布するので、各自で目を通してから授業に参加してほしい。

復習：講義資料と授業時に紹介する参考資料で復習すること。

小レポート：授業で詳しく紹介するが、国際機構 (WTO、IMF、世界銀行、OECD、UNCTAD、IEA、ILO、EU、EBRD 等) のホームページから、様々なデータがダウンロードでき、経済的な事実を簡単に確認することができる (たとえば、ある国の GDP の時系列変化、財政状況など)。これを利用して A 4 で 1 枚程度 (図表 1 枚と簡単な解説) の小レポートを作成 (平常点として成

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 小レポート (A4 で 1 枚程度) × 5 回 × 6%:30%

授業時に解説する国際機関などの公式データを参照して、図表1枚とその説明からなる簡単な小レポート（A4で1枚程度、図表1枚と簡単な解説）のレポートを5回提出。これを採点して平常点とする。

### テキスト/ Textbooks

本講義のエッセンスは、拙稿「通商・金融と社会問題ーグローバル化と国際機構・EU」（庄司克宏編『国際機構 新版』（岩波書店、2021年）として公表しています。

### 参考文献 / Readings

P. Dicken Global Shift, 7th edition SAGE Publications Ltd 2015 1446282090

服部茂幸 『グローバル金融資本主義の危機ー混迷の世界と経済学ー』 晃洋書房 2023 4771037816

伊豫谷 登士翁 『グローバリゼーションー移動から現代を読みとく』 筑摩書房 2021 9784480074485

ニコラス・ミュルデル 『経済兵器ー現代戦の手段としての経済制裁』 日経BP 2023 9784296001064

<https://www.imf.org/en/Data>

<https://comtradeplus.un.org/Visualization/Labs>

<https://www.jetro.go.jp/world/>

<https://www.iea.org/>

<https://www.irena.org/>

<https://unctad.org/>

<https://www.wto.org/>

<https://www.oecd-ilibrary.org/>

<https://atlas.cid.harvard.edu/>

ht

### その他/ Others

世界経済評論 IMPACT <http://www.world-economic-review.jp/impact/>

# 国際経済論

International Economy

国際経済を見る多様な視角

蓮見 雄 (HASUMI YU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX192

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1410

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

経済活動のグローバル化を多面的に理解する手がかりとして、様々な認識方法を学ぶ。

To learn a variety of recognition methods as a means for gaining a multifaceted understanding of the globalization of economic activities.

## 授業の内容 / Course Contents

今日、世界の各国、各地域の経済は、国境を越える財、サービス、資本、人の移動を通じて相互依存関係を深めている。本講義では、グローバル化する経済活動を理解するために、国際経済論の基礎を学び、日々刻々と変化する世界経済について独力で考えるための手がかりとして、国際経済に関する諸説を概説する。なお、受講者の理解度と講義の進捗状況に応じて、講義の順番を入れ替えることがある。

Today, the economies of countries and regions around the world are deepening their mutually dependent relationships through the movement of goods, services, capital, and people across national borders. In order to understand the globalization of economic activities, in this lecture students will be given an outline of international economics as a means for learning the fundamentals of international economic theory and being

able to independently consider the constantly changing global economy. The order in which subject matter is presented in the lecture may be changed depending on the level of understanding of the students and the way the lecture is progressing.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクションー世界経済の中の日本ーグローバルな相互依存と国際分業の利益・課題
- 2 回：国際収支表から見えるもの
- 3 回：為替レートと購買力平価説
- 4 回：貿易の利益に関する考え方 1ー余剰分析
- 5 回：貿易の利益に関する考え方 2ー一般均衡分析
- 6 回：グローバル・バリューチェーンと国際分業の変化
- 7 回：多様なアプローチー国際経済学の系譜と多国籍企業論の系譜
- 8 回：生産技術の差から比較優位を説明する考え方 1
- 9 回：生産技術の差から比較優位を説明する考え方 2
- 10 回：要素賦存の差から比較優位を説明する考え方 1
- 11 回：要素賦存の差から比較優位を説明する考え方 2
- 12 回：差別化、規模の経済性から貿易の利益を説明する考え方
- 13 回：企業の異質性と独占的競争から貿易の利益を説明する考え方
- 14 回：国際資本移動の影響を重視した考え方

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

予習：講義資料は、オンラインで配布するので、各自で目を通してから授業に参加してほしい。

復習：講義資料と授業時に紹介する参考資料で復習すること。

小レポート：授業で詳しく紹介するが、国際機構 (WTO、IMF、世界銀行、OECD、UNCTAD、IEA、ILO、EU、EBRD 等) のホームページから、様々なデータがダウンロードでき、経済的な事実を簡単に確認することができる (たとえば、ある国の GDP の時系列変化、財政状況、貿易構造など)。これを利用して A4 で 1 枚程度 (図 1 枚と簡単な解説) の小レポートを作成 (平常点

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 小レポート (A4 で 1 枚程度) × 5 回 × 6% :30%

授業時に国際機関などの公式データを紹介し、その利用方法を概説するので、図表 1 枚とその説明からなる簡単な小レポート A4 1 枚程度 (図表 1 枚と簡単な解説) のレポートを 5 回提出。これを採点して平常点とする。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

大川良文 『入門 国際経済学』 中央経済社 2019 9784502323416

妹尾裕彦他 『地球経済入門』 法律文化社 2021 9784589041234

小林尚朗他 『貿易入門 [第 2 版] : 世界と日本が見えてくる』 大月書店 2023 4272150472



マシュー・C.クレイン, マイケル・ペティス 『貿易戦争は階級闘争である：格差と対立の隠された構造』  
みずず書房 2021 9784622089995

<https://www.imf.org/en/Data>

<https://comtradeplus.un.org/Visualization/Labs>

<https://www.jetro.go.jp/world/>

<https://www.iea.org/>

<https://www.irena.org/>

<https://unctad.org/>

<https://www.wto.org/>

<https://www.oecd-ilibrary.org/>

<https://atlas.cid.harvard.edu/>

ht

### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

予習：講義資料は、オンラインで配布するので、各自で印刷して目を通してから授業に参加すること。

復習：講義資料と授業時に紹介する参考資料で復習すること。

進んだ学習：授業で詳しく紹介するが、国際機構（WTO、IMF、世界銀行、OECD、UNCTAD、IEA、ILO、EU、EBRD等）の資料は無料でダウンロードして読めるものがたくさんあり、また翻訳書もたくさん図書館に入っている。世界各地の経済問題について、自分で調べてみよう。

# 世界経済論

International Economics

世界－国家－地域の関連を複眼的に見る

蓮見 雄 (HASUMI YU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX193

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1410

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

経済活動のグローバル化と不均質な世界経済を理解する力を養う。

To develop the ability to understand the globalization of economic activities and the heterogeneous global economy.

## 授業の内容 / Course Contents

今日、たとえ一国一地域のローカルな問題であっても、世界経済との関係を抜きに理解することは難しい。国家の経済政策や社会政策も、経済活動のグローバル化への適応を迫られ、変容し始めている。本講義では、ヨーロッパに焦点を定めつつ、国境を越えた都市・地域間ネットワーク形成という視点を織り込みながら、世界経済の変化とグローバル経済ガバナンスの可能性について講義する。また、本講義は、世界各地、各種の基礎的なデータへのアクセス方法を確認し、世界経済を支えている WTO、IMF、G7、G20 等の役割、及び国家の経済政策への影響に関する基礎知識を習得することを目指す。なお、受講生の理解度や講義の進捗状況による講義の順序を調整する場合がある。

Today, even if a problem is local to one country or region, it is difficult to understand it without considering its

relationship to the global economy. The economic and social policies of nations are being forced to address the globalization of economic activities and are beginning to be transformed accordingly. This lecture focuses on Europe and incorporates the perspective of forming a network among cities and regions that extends beyond national borders while discussing the changes in the global economy and the possibility of global economic governance. Further, this lecture aims to check the methods for accessing basic data of various types for various regions around the world, and to acquire a basic knowledge of the roles and impact on national economic policy of the WTO, IMF, G7, and G20, etc., which support the global economy. The order in which subject matter is presented in the lecture may be changed depending on the level of understanding of the students and the way the lecture is progressing.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：不均質な世界とグローバル・シフト
- 3 回：1985 年の転換
- 4 回：資本移動とグローバル生産ネットワーク
- 5 回：生産連鎖と世界経済の3つの層
- 6 回：グローバル経済の中の国家の役割の変化－内外一体の政策へ
- 7 回：通商ガバナンスと WTO の役割と課題－マーケットアクセスからルールへ
- 8 回：地域経済統合
- 9 回：欧州連合 (EU) にみるリージョナル経済ガバナンス
- 10 回：グローバル経済下における2つのトリレンマ－国際金融のトリレンマと世界経済の政治的トリレンマ
- 11 回：気候変動・エネルギー問題と世界経済
- 12 回：社会問題のグローバル化、持続可能性 (sustainability)、説明責任 (accountability) : 多国籍企業と市民社会
- 13 回：地政学リスクと経済安全保障
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

予習：講義資料は、オンラインで配布するので、各自で目を通してから授業に参加してほしい。

復習：講義資料と授業時に紹介する参考資料で復習すること。

小レポート：授業で詳しく紹介するが、国際機構 (WTO、IMF、世界銀行、OECD、UNCTAD、IEA、ILO、EU、EBRD 等) のホームページから、様々なデータがダウンロードでき、経済的な事実を簡単に確認することができる (たとえば、ある国の GDP の時系列変化、財政状況など)。これを利用して A4 で1枚程度 (図表1枚と簡単な解説) の小レポートを作成 (平常点として成

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 小レポート (A4 で1枚程度) ×5回×6%:30%

授業時に解説する国際機関などの公式データを参照して、図表1枚とその説明からなる簡単な小レポート（A4で1枚程度、図表1枚と簡単な解説）のレポートを5回提出。これを採点して平常点とする。

### テキスト/Textbooks

本講義のエッセンスは、拙稿「通商・金融と社会問題ーグローバル化と国際機構・EU」（庄司克宏編『国際機構 新版』（岩波書店、2021年）として公表しています。

### 参考文献 / Readings

P. Dicken Global Shift, 7th edition SAGE Publications Ltd 2015 1446282090

服部茂幸 『グローバル金融資本主義の危機ー混迷の世界と経済学ー』 晃洋書房 2023 4771037816

伊豫谷 登士翁 『グローバリゼーションー移動から現代を読みとく』 筑摩書房 2021 9784480074485

ニコラス・ミュルデル 『経済兵器ー現代戦の手段としての経済制裁』 日経BP 2023 9784296001064

<https://www.imf.org/en/Data>

<https://comtradeplus.un.org/Visualization/Labs>

<https://www.jetro.go.jp/world/>

<https://www.iea.org/>

<https://www.irena.org/>

<https://unctad.org/>

<https://www.wto.org/>

<https://www.oecd-ilibrary.org/>

<https://atlas.cid.harvard.edu/>

ht

### その他/ Others

世界経済評論 IMPACT <http://www.world-economic-review.jp/impact/>

# 開発経済学

Development Economics

経済開発の過去、現在、未来を学ぶ

郭 洋春 (KWAK YANGCHOON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX198

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2510

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

開発途上国が抱える諸問題を解決するために誕生した「開発経済学」の理論的変遷過程を理解する。

開発経済学を学ぶことで、21 世紀にに相応しい経済社会のあり方を理解する。

Understand the theoretical transition process of "development economics" that was born to solve various problems in developing countries.

By studying development economics, you will understand the ideal economic society for the 21st century.

## 授業の内容 / Course Contents

毎回テキストに沿って、第二次世界大戦後誕生した開発経済学の生成・発展・展開過程を説明することを通して、現在の開発途上国、ひいては世界経済の抱えている課題について明らかにする。最終的には、現在の開発経済学を克服する平和経済学の意義を解説する。

By explaining the generation and progress of development economics, which was born after World War II, and the process, along with each text, we will clarify the issues facing the current developing countries and the world economy. Finally, I will explain the significance of peace economics that overcomes the current development

economics.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：ガイダンス
- 2回：開発経済学の今日的課題
- 3回：萌芽期の開発経済学 1
- 4回：萌芽期の開発経済学 2
- 5回：物的成長から人間の成長への開発経済学
- 6回：もう一つの潮流としての開発経済学 1
- 7回：もう一つの潮流としての開発経済学 2
- 8回：OECDレポートとNICs
- 9回：量から質へ転換した経済開発目標
- 10回：持続可能な開発と経済開発
- 11回：開発経済学の再生に向けて 1
- 12回：開発経済学の再生に向けて
- 13回：21世紀の開発経済学
- 14回：まとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

テキストは事前に読んできて、持参すること。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation**

筆記試験 :50%  
 平常点割合 :50% 毎回のミニテスト:30% レポート:20%

**テキスト / Textbooks**

郭洋春 経済開発の過去・現在・未来：開発経済学の果たした役割 文眞堂 2023 ○

**参考文献 / Readings**

郭洋春 『100均資本主義』 文眞堂 2022

# アジア経済論

Structure of Asian Economy

アジアを見れば世界が分かる。

郭 洋春 (KWAK YANGCHOON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX199

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2510

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

アジアで起きている諸問題を学ぶことで、21世紀のアジア、日本とアジアとの関係などを理解する。アジアのダイナミズムの理解を通して、日本経済の抱えている課題を振り返る。最終的には世界経済の中で、アジア経済の占める位置・意義について理解する。

By studying various problems occurring in Asia, we will understand Asia in the 21st century and the relationship between Japan and Asia. Through understanding the dynamism of Asia, we will look back on the challenges facing the Japanese economy. Finally, understand the position and significance of the Asian economy in the world economy.

## 授業の内容 / Course Contents

現下のアジアで起きている諸問題を解説しながら、その発生要因、解決方法等を理解する。また、アジアの一員である日本が、今後アジア諸国とどのように付き合っていくのかを解説することで、アジアの中の日本の果たすべき役割について考える契機とする。授業の後半にはバズセッション（グループディスカッション）を行い、受講生自らが上記問題について考える力を養えるようにする。

While explaining various problems that are currently occurring in Asia, understand the causes and solutions. In addition, by explaining how Japan, which is a member of Asia, will deal with Asian countries in the future, it will be an opportunity to think about the role that Japan should play in Asia. Buzz sessions (group discussions) will be held in the latter half of the class so that students can develop their own ability to think about the above problems.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：世界が注目するアジア
- 3回：アジアはなぜ成長したのか 1
- 4回：アジアはなぜ成長したのか 2
- 5回：サプライチェーンの中心拠点・アジア
- 6回：本物を凌駕する？アジアのコピー商品
- 7回：成長戦略と化したアジアのエンタメ 1
- 8回：成長戦略と化したアジアのエンタメ 2
- 9回：インバウンドこそ日本が生き残る道 1
- 10回：インバウンドこそ日本が生き残る道 2
- 11回：増える人口・減る食糧
- 12回：アジアに広がる領土問題
- 13回：アジアにおける環境問題
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストは事前に読んできて、持参すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%  
 平常点割合 :50% 毎回のミニテスト:30% レポート:20%

### テキスト / Textbooks

第1回授業で提示します。

### 参考文献 / Readings

- 郭洋春 『TPP すぐそこに迫る亡国の罟』 三交社 2013 4879197122  
 郭洋春・角田収 『中国市場と日中台ビジネスアライアンス』 文真堂 2014 4830948418  
 郭洋春 『国家戦略特区の正体』 集英新書 2016  
 郭洋春 『100均資本主義』 プレジデント社 2022



# アメリカ経済論

Structure of American Economy

山縣 宏之 (YAMAGATA HIROYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX200
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX3510
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

アメリカ経済の発展プロセスをふまえた上で、世界に大きな影響を与え続けている現代アメリカ経済の構造とその変化の内実を理解する。

Building on the development process of the American economy, students will understand the contemporary American economic structure, which continues to have a major impact on the world, and what is behind the changes to it.

## 授業の内容 / Course Contents

グローバル化を主導し推進してきたのはアメリカであり、アメリカ経済はグローバル化の中で絶えず新しい姿に変化してきた。この講義では現代アメリカ経済がいかなる構造変化を遂げてきたのか、その内実を明らかにする。

America has been the leader and promotor of globalization and the American economy has ceaselessly changed its shape within that globalization. This lecture shows how the contemporary American economy has undergone structural changes and the background behind those changes.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：開講ガイダンスーアメリカ経済論を学ぶ意義
- 2回：ニューディールから戦時経済へーアメリカ版「大きな政府」の成立
- 3回：戦後アメリカ経済の展開ー持続的成長期のアメリカ経済
- 4回：戦後企業体制ーボックスアメリカーナの構造（1）
- 5回：「大きな政府」とIMF・ガット体制ーボックスアメリカーナの構造（2）
- 6回：戦後アメリカ経済の動揺ーアメリカ型大量生産体制の優位性喪失
- 7回：レーガノミクスー経済再生の試み
- 8回：企業体制と産業の再編ー柔軟な生産体制への移行
- 9回：「ニューエコノミー」の基本構造ーアメリカ経済復活の光と影
- 10回：1990年代アメリカ産業の動態ー金融肥大化とサービス化
- 11回：21世紀アメリカ経済の構造ー住宅ブームの影で
- 12回：アメリカ発金融危機ーリーマンショックへ
- 13回：オバマ・トランプ・バイデン政権期のアメリカ経済
- 14回：総括

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:		:			:		

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

CanvasLMS を通じて情報・教材・メールを発信、リアクションペーパーも CanvasLMS 経由で提出になります。CanvasLMS はバックアップ的に、5回目までは、講義資料を掲載中です。

#### テキスト / Textbooks

独自作成の教材を配布。

#### 参考文献 / Readings

河崎信樹・河音琢郎・藤木剛康（編著） 『現代アメリカ政治経済入門』 ミネルヴァ書房 2021年  
9784623092673

藤木剛康（編著） 『アメリカ政治経済論』 ミネルヴァ書房 2012年 9784623062102

河音琢郎・藤木剛康（編著） 『オバマ政権の経済政策』 ミネルヴァ書房 2016年 9784623077939

#### その他 / Others

受講者のやむを得ざる理由による欠席に対応するため、講義終了後、CanvasLMS に教材等を掲載予定。

# アメリカ経済政策論

American Economic Policy

山縣 宏之 (YAMAGATA HIROYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX201  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX3510  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

アメリカ経済政策の基本構造を学んだ上で、転換プロセスをダイナミックに理解する。

Building on the basic structure of American economic policy, students will understand the dynamism of the transformation process.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では経済政策論の基本体系を踏まえた上で、アメリカ経済論で追跡した経済構造の転換と関連づけながら、アメリカ経済政策のしくみおよびそのダイナミックな転換プロセスに迫る。21世紀のアメリカ経済政策のダイナミズムについて、共和党保守派と民主党リベラル派の激しい党派対立に着目し論じる。

This lecture looks at the basic system of economic policy theory and links this to the economic structural transformation that followed by Structure of American Economy while considering the American economic policy framework and its dynamic transformation process. In considering the dynamism of 21st century American economic policy, the discussion will focus on the fierce political conflict between the Conservative Republican Party and the Liberal Democratic Party.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：開講ガイダンス
- 2回：財政政策の理論と論争－財政支出拡大・減税・財政赤字をめぐる論争
- 3回：戦後アメリカ財政政策の展開－持続的成長期の財政政策
- 4回：現代アメリカ財政政策の検証－1970年代以降の財政政策
- 5回：金融政策の理論と論争－信用創造・金融政策の基本構造・論争
- 6回：戦後アメリカ金融政策の展開－持続的成長期の金融政策
- 7回：現代アメリカ金融政策の検証－1970年代以降の財政政策
- 8回：対外経済政策－アメリカ型通商政策の解明
- 9回：経済政策各論－産業政策
- 10回：経済政策各論－農業政策
- 11回：経済政策各論－環境政策
- 12回：経済政策各論－住宅政策
- 13回：G.W.ブッシュ・オバマ・トランプ・バイデン政権の経済政策
- 14回：総括

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:		:			:		

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

毎回、講義の最後にリアクションペーパーの提出を求めるが、成績評価とは関係ない。

#### テキスト / Textbooks

独自作成の教材を配布。

#### 参考文献 / Readings

河崎信樹・河音琢郎・藤木剛康 (編著) 『現代アメリカ政治経済入門』 ミネルヴァ書房 2021年  
9784623092673

河音琢郎・藤木剛康 『G・W・ブッシュ政権の経済政策』 ミネルヴァ書房 2008 9784623052295

河音琢郎・藤木剛康 『オバマ政権の経済政策』 ミネルヴァ書房 2016 9784623077939

参考文献で詳細情報未定のものは、講義時に正確な情報を周知する。

#### その他 / Others

CanvasLMS 参照。受講者のやむを得ざる理由による欠席に対応するために、講義終了後、教材等を掲載予定。

# 国際貿易論

International Trade

貿易論のモデル世界と現実世界の相違の探求

関 良基 (SEKI YOSHIKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX202

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2510

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

基本的な貿易理論と現実世界の貿易を比較しつつ、貿易理論を批判的に学ぶ。

Critical study on trade theory by comparing neo-classical model with real trade.

## 授業の内容 / Course Contents

リカード・モデルやヘクシャー＝オリーン・モデルなど貿易論の基本的なモデルを学ぶとともに、経済学のモデルと現実世界との乖離を確認する。現実世界が理論通りにはならない理由は何故なのかを探求する。理論と現実とを比較し、失業、貿易摩擦など自由貿易が引き起こしてきた諸問題の原因を理解する。最新の貿易理論として、塩沢由典による多数国多数財の貿易理論の基礎も学ぶ。

Students will study basic trade model such as Ricardian Model and Heckscher-Ohlin Model. However these models often do not explain the complexity of the real world. You will understand why the real world does not work according to economic models. Students will also study problems caused by free trade, such as unemployment, environmental destruction and trade friction. Finally students will study the latest trade theory of Yoshinori Shiozawa.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：イントロダクション
- 2回：リカードの比較生産費説（1）
- 3回：リカードの比較生産費説（2）
- 4回：収穫逓増の貿易モデル－ゲーム再考
- 5回：モデルと現実－イギリスの産業革命と自由貿易
- 6回：ラウル・プレビッシュの一次産品交易条件悪化論
- 7回：歴史の中に見る保護貿易と自由貿易
- 8回：新古典派の余剰分析と関税政策
- 9回：自由貿易と環境問題
- 10回：ヘクシャー・オリーの貿易モデル（1）
- 11回：ヘクシャー・オリーの貿易モデル（2）
- 12回：サミュエルソンの要素価格均等化定理
- 13回：塩沢由典の貿易理論（1）
- 14回：塩沢由典の貿易理論（2）

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

教材は事前に掲示するので予習して下さい。授業の復習もかねて、ときおり課題も出します。しかしながら真に身に付く学習とは、授業で興味をもった内容について、授業で紹介した文献等を読むなどして、自分自身で探求を深めていくことです。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

**テキスト / Textbooks****参考文献 / Readings**

- P・クルーグマン、M・オブズフェルド 『クルーグマンの国際経済学 理論と政策（上）』 ピアソン 2010年
- ダグラス・アーウィン 『自由貿易理論史』 文真堂 1999年
- 塩沢由典 『リカード貿易問題の最終解決』 岩波書店 2014年
- 関 良基 『自由貿易神話解体新書』 花伝社 2012年

# 国際経済政策論

International Economic Policy

グローバル資本主義システムの発生・崩壊と今後の世界

関 良基 (SEKI YOSHIKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX203

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2510

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

資本主義の歴史を学び、現在のグローバル化が行き詰った原因を学ぶ。今後目指すべき持続可能な世界経済システムを探求する。

To understand the reason why current globalization does not work well, thorough learning the history of capitalism. To study the problems of neo-liberal globalization and investigate alternative system for sustainable development goals.

## 授業の内容 / Course Contents

大航海時代に遡って資本主義の歴史を学ぶ。帝国主義・植民地主義が何故発生したのか、第二次大戦先後に成立したブレトンウッズ体制はどのように成立し、何故崩壊したのか。そして現代の新自由主義的なグローバル化は世界をどう変え、何故行き詰ったのか。パリ協定の発効を受けて、今後の世界が進むべき、脱化石燃料化の途を展望する。

You will learn the history of capitalism since the Age of Discovery, imperialism and colonialism, untill the establishment of Bretton Woods System and its collapse. How has the current neo-liberal globalization been

changed the world. Why has it paralyzed? With Paris Agreement took effect, we need to investigate alternative economic system to eliminate the use of fossil fuels while reducing the poverty and hunger.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：大航海時代の第一次グローバル化
- 3回：ウォーラーステインの世界システム論とフランクのリオリエント
- 4回：イギリスの産業革命と第二次グローバル化
- 5回：帝国主義の諸理論 —自由貿易帝国主義論
- 6回：日本はなぜ植民地にならなかったのか？
- 7回：アメリカの保護主義政策
- 8回：大恐慌、第二次大戦と第二次グローバリズムの終焉
- 9回：ブレトンウッズ体制
- 10回：新自由主義は何故始まり、広まったのか？
- 11回：GATTからWTOへ
- 12回：新自由主義とは何か？
- 13回：新自由主義的グローバル化の行き詰まり
- 14回：持続可能な国際経済の再構築

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の資料を事前に掲示しておきます。ときおり授業の復習をかねて課題を出します。本当に人生の糧になる学習は、授業で興味を持った事柄に関連し、授業中に紹介した文献等を各自読み、自分自身でさらに深く探求することです。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

### テキスト/Textbooks

### 参考文献 / Readings

- 関 良基 『日本を開国させた男、松平忠固』 作品社 2020年  
 ハジュン・チャン 『はしごを外せ』 日本評論社 2009年  
 ナオミ・クライン 『ショック・ドクトリン（上・下）』 岩波書店 2011年  
 ダグラス・ノース他 『西欧世界の勃興』 ミネルヴァ書房 1994年  
 アンドレ・G・フランク 『リオリエント』 藤原書店 2000年  
 川勝平太 『日本文明と近代西洋』 NHK ブックス 1991年  
 ダニ・ロドリック 『グローバリゼーション・パラドクス』 白水社 2014年



# 国際政治経済学

International Political Economy

磯谷 玲 (ISOYA AKIRA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX204  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX3110  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業では、現代の国際社会・経済が直面し、また議論されている問題とその相互の関連性について理解を深めることを目標とする。

The objective of this lecture is to search for understanding of the problems being debated about contemporary international society and the economy and their mutual relationship.

## 授業の内容 / Course Contents

グローバル化が進行するもとの、現代社会が直面している問題は多岐にわたると同時に、ますます相互に密接に関連したものとなっている。この授業では、規制緩和の功罪、企業の社会的責任、科学・技術の進歩と社会的影響、社会構造等の側面から、現代国際社会・経済が直面する問題を検討していきたい。

As globalization progresses, the problems facing contemporary society are diversifying while at the same time they are becoming increasingly mutually related. In this lecture students will consider the problems faced by contemporary international society and the economy from the perspective of the pros and cons of deregulation and the social responsibilities of companies.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入
- 2 回：多国籍企業と食糧生産
- 3 回：世界食糧危機
- 4 回：食糧問題とファンド
- 5 回：食糧生産と科学・技術
- 6 回：環境問題と経済（1）
- 7 回：環境問題と経済（2）
- 8 回：環境問題と経済（3）
- 9 回：環境問題と経済（4）
- 10 回：「企業の社会的責任」（1）
- 11 回：「企業の社会的責任」（2）
- 12 回：医療・保険に関わる問題（1）
- 13 回：医療・保険に関わる問題（2）
- 14 回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

広範な問題を扱うことになるため、日常的に現代社会・経済の動向に関心を持つことが重要であり、当該トピックについて新聞・雑誌記事等で知識や理解深めて欲しい（必要に応じ別途指示する）。また授業で取り上げたトピックの中で関心を持った問題について、理論的問題も含め自分なりに学習を続けていくことが重要である。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

#### テキスト / Textbooks

使用しない。

#### 参考文献 / Readings

河音琢郎・豊福裕二・野口義直・平野健（編） 『21世紀のアメリカ資本主義』 大月書店 2023  
9784272150489

奥和義・内藤友紀（編）・藤木剛康（編著） 『国際経済論(MINERVA スタートアップ経済学)』 ミネルヴァ  
書房 2021 4623095762

その他、適宜指示する。

#### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

高校で学習する現代社会、政治・経済についての基礎的な知識

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配布等には CanvasLMS を用いる

# 中国経済論

Structure of Chinese Economy

世界の工場から世界の市場

小原 篤次 (OHARA ATSUJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX207

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX3510

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

中国の改革開放から 40 年以上が経過した。改革は国有企業などの改革で、開放は外資の導入である。中国における経済成長（とりわけ工業化）と制度変化の歴史、実態、および両者間の相互関係を考察し、中国の経済システムについて理解することを通じて、中国の経済成長が世界全体や日本経済に及ぼす影響について認識することができる。

More than 40 years have passed since China opened up its reform system. Reform is the reform of state-owned enterprises, and openness is the introduction of foreign capital. By examining the history, reality, and interrelationships between economic growth (especially industrialization) and institutional change in China and understanding China's economic system, we can recognize the impact of China's economic growth on the world and the Japanese economy as a whole.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、世界第二位の経済大国であり、日本の最大貿易パートナーである中国における経済成長のメカニズムと制度改革について歴史的、制度的、政治経済学の視点に基づいて講義する。具体的には、高度経済成長

から低成長・安定成長に転換しつつある中国の経済システムが直面しているさまざまな問題—技術競争、経済成長、労働、環境、格差など—を取り上げ、その発生メカニズム、実態、変容について講義する。

This lecture is based on historical, institutional, and political economics perspectives on the mechanisms and institutional reforms of economic growth in China, the world's second-largest economic power and Japan's largest trading partner. Specifically, we will take up the various problems facing China's economic system, which is shifting from high economic growth to low growth and stable growth, such as technological competition, economic growth, labor, the environment, and disparities, and give a lecture on the mechanisms, reality, and transformation of these problems.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：経済成長の過去と将来
- 3 回：計画経済と市場経済
- 4 回：労働市場
- 5 回：農村経済
- 6 回：財政と財政政策
- 7 回：金融と金融政策
- 8 回：技術・イノベーション
- 9 回：工業化のキャッチアップ
- 10 回：国有企業
- 11 回：産業政策
- 12 回：外資系企業と対外開放政策
- 13 回：民間企業と産業集積
- 14 回：高所得時代の課題

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

リアクションペーパーは教科書に準拠しており、予習・復習にもつながる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

### テキスト / Textbooks

丸川知雄 『現代中国経済（新版）』 有斐閣 2021 9784641221796 ○

### 参考文献 / Readings

梶谷懐・藤井大輔 『現代中国経済論（第2版）』 ミネルヴァ書房 2018 9784623082247

周其仁（梶谷懐監訳） 『現実世界と対話する経済学：所有権、人的資本、市場化改革から読み解く中国経済』 白桃書房 2023 9784561961420

中本悟・松村博行 『米中経済摩擦の政治経済学：大国間の対立と国際秩序』 晃洋書房 2022

9784771035317

トーマス・オーリック（藤原朝子訳） 『中国経済の謎：なぜバブルは弾けないのか?』 ダイアモンド社  
2022 9784478113417

唐成 『家計・企業の金融行動から見た中国経済：「高貯蓄率」と「過剰債務」のメカニズムの解明』 有斐閣  
2021 9784641165915

孟若燕 『中国経済の生産性分析：1992-2010』 慶應義塾大学出版会 2023 9784766428780

大橋英夫 『チャイナ・ショックの経済学：米中貿易戦争の検証』 勁草書房 2020 9784326504756

#### その他/ Others

秋学期に開講する『中国経済政策論』講義とあわせて受講することを推奨する。

# 中国経済政策論

Chinese Economic Policy

小原 篤次 (OHARA ATSUJI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX208  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX3510  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

中国の高い経済成長と社会変容を支える経済政策を考察し、グローバル化の深化に伴い複雑化する社会経済の諸問題について、中国政府がいかにして対応しているかを把握することを通じて、市場（経済）と国家（政治）の間の関係の多様性、および中国の特徴を正しく理解することができる。

By examining the economic policies that underpin China's high economic growth and social transformation and understanding how the Chinese government is responding to the socioeconomic problems that are becoming more complex with the deepening globalization, it is possible to correctly understand the diversity of relations between the market (economy) and the state (politics) and the characteristics of China.

## 授業の内容 / Course Contents

経済政策論の基礎的知識を概括しつつ、中国の経済社会に関わる諸政策について、その内容、背景、影響、および課題を政治経済学や政策形成論の視点から詳細に講義する。特に、社会保障、エネルギー・環境問題、ならびに社会的公正を巡る政策の実態と課題について、日本などの先進国の事例と比較しながら解説する。

While outlining the basic knowledge of economic policy theory, I will give a detailed lecture on China's socioeconomic policies from the perspectives of political economics and policy formulation. In particular, the

current situation and challenges of policies concerning social security, energy and environmental issues, and social justice are explained in comparison with the case studies of developed countries such as Japan.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：社会主義の模索と市場経済化
- 3回：農業・農村・農民（三農）問題
- 4回：企業体制改革とその行方
- 5回：地域発展戦略と産業・人口の集積
- 6回：財政制度改革と中央-地方関係
- 7回：世界最大の資本大国の金融システム
- 8回：貧困、失業および所得格差
- 9回：人口と社会保障
- 10回：エネルギー・環境問題
- 11回：経済発展と多様化する環境問題
- 12回：対外貿易と直接投資
- 13回：香港・台湾の経済と中国との関係
- 14回：中国と近隣諸国との経済関係

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

リアクションペーパーは教科書に準拠しており、予習・復習にもつながる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

### テキスト / Textbooks

梶谷懐・藤井大輔 『現代中国経済論（第2版）』 ミネルヴァ書房 2018 9784623082247 ○

### 参考文献 / Readings

梶谷懐 『中国経済講義：統計の信頼性から成長のゆくえまで』 中央公論新社 2018 9784121025067

蔡昉（伊藤亜聖、藤井大輔他訳） 『現代中国経済入門：人口ボーナスから改革ボーナスへ』 東京大学出版会 2019 9784130461313

川島真・森聡 『アフターコロナ時代の米中関係と世界秩序』 東京大学出版会 2020 9784130333016

大橋英夫 『米中経済摩擦の政治経済学：大国間の対立と国際秩序』 勁草書房 2020 9784326504756

中本悟・松村博行 『米中経済摩擦の政治経済学：大国間の対立と国際秩序』 晃洋書房 2022

9784771035317

唐成 『家計・企業の金融行動から見た中国経済：「高貯蓄率」と「過剰債務」のメカニズムの解明』 有斐閣 2021 9784641165915

日中経済協会 『中国経済データハンドブック 2023年版』 日中経済協会 2023 9784888803328

**その他/ Others**

春学期に開講する『中国経済論』講義とあわせて受講することを推奨する。



# 簿記 1

## Bookkeeping 1

加藤 大吾 (KATO DAIGO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX211
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1810
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済学科 1 年次 A～E 組、経済学科 2 年次以上

### 授業の目標 / Course Objectives

基本的な複式簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The goal of this course is to understand the mechanism and role of basic double-entry bookkeeping.

### 授業の内容 / Course Contents

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表の有用性、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that makes it possible to provide useful accounting information to parties inside and outside a company by classifying, organizing, and recording complex corporate transactions based on a small number of transaction elements. In this course, students will learn the basic mechanism of double-entry bookkeeping. The lectures on the usefulness of financial statements and recent topics are given. Opportunities will be provided for students to work on problem exercises in class.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：簿記の意義と仕組み(1)
- 2回：簿記の意義と仕組み(2)
- 3回：仕訳と転記
- 4回：仕訳帳と元帳
- 5回：決算の意義と手続き(1)
- 6回：決算の意義と手続き(2)
- 7回：決算の意義と手続き(3)
- 8回：予備日(期中の取引、決算の手続きの復習など)
- 9回：現金と預金
- 10回：繰越商品・仕入・売上(1)
- 11回：繰越商品・仕入・売上(2)
- 12回：売掛金と買掛金(1)
- 13回：売掛金と買掛金(2)
- 14回：振り返り

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への出席ならびに積極的参加、ミニテスト、課題の提出:30%

・筆記試験は、すべての簿記1のクラスに共通の問題を使って実施される。・筆記試験は、テキスト欄に掲載した「渡部裕巨・片山覚・北村敬子『検定簿記ワークブック3級商業簿記』中央経済社（最新版）」の内容に基づいて出題されるが、詳細は別途掲示を行う。・平常点の評価項目等の詳細は担当者によって異なるため、開講時（4月）に担当教員からのアナウンスを確認すること。

#### テキスト / Textbooks

渡部裕巨・片山覚・北村敬子 『検定簿記ワークブック3級商業簿記』 中央経済社 2024 9784502489518

○

- ・当該ワークブックは簿記1（及び簿記2）のすべてのクラスに共通の教材である。
- ・筆記試験は当該ワークブックの内容に基づいて出題されるため、各自購入して取り組むこと。
- ・各回の授業で使用するテキストは担当者によって異なるため、開講時(4月)に各担当者の指示に従って購入すること。

#### 参考文献 / Readings

各担当教員から適宜紹介する。

#### その他 / Others

- ・上記授業計画は一例である。開講時に各担当教員が説明する。

- ・本講義は、会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
- ・簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

## 簿記 2

### Bookkeeping 2

加藤 大吾 (KATO DAIGO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX212
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1810
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	簿記 1
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済学科 1 年次 A～E 組、経済学科 2 年次以上

#### 授業の目標 / Course Objectives

基本的な複式簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The goal of this course is to understand the mechanism and role of basic double-entry bookkeeping.

#### 授業の内容 / Course Contents

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表はどのように有用か、近年のトピック等について、適宜講義を行う。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that makes it possible to provide useful accounting information to parties inside and outside a company by classifying, organizing, and recording complex corporate transactions based on a small number of transaction elements. In this course, students will learn the basic mechanism of double-entry bookkeeping. The lectures on the usefulness of financial statements and recent topics are given. Opportunities will be provided for students to work on problem exercises in class.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：その他の債権と債務
- 2回：受取手形と支払手形
- 3回：有形固定資産(1)
- 4回：有形固定資産(2)
- 5回：貸倒損失と貸倒引当金
- 6回：資本
- 7回：収益と費用(1)
- 8回：収益と費用(2)
- 9回：税金、伝票(1)
- 10回：伝票(2)
- 11回：財務諸表(1)決算と決算手続
- 12回：財務諸表(2)試算表の作成、棚卸表の作成と決算整理事項
- 13回：財務諸表(3)精算表の作成、財務諸表の作成
- 14回：振り返り

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前に以下に示されているテキストの「学習のポイント」等を読み、授業後は問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への出席ならびに積極的参加、ミニテスト、課題の提出:30%

・筆記試験は、すべての簿記2のクラスに共通の問題を使って実施される。・筆記試験は、テキスト欄に掲載した「渡部裕巨・片山覚・北村敬子『検定簿記ワークブック3級商業簿記』中央経済社（最新版）」の内容に基づいて出題されるが、詳細は別途掲示を行う。・平常点の評価項目等の詳細は担当者によって異なるため、開講時（9月）に担当教員からのアナウンスを確認すること。

#### テキスト / Textbooks

渡部裕巨・片山覚・北村敬子 『検定簿記ワークブック3級商業簿記検定版第10版』 中央経済社 2024

○

- ・当該ワークブックは(簿記1及び)簿記2のすべてのクラスに共通の教材である。
- ・筆記試験は当該ワークブックの内容に基づいて出題されるため、各自購入して取り組むこと。
- ・各回の授業で使用するテキストは担当者によって異なるため、開講時(9月)に各担当者の指示に従って購入すること。

#### 参考文献 / Readings

各担当教員から適宜紹介する。

#### その他 / Others

- ・上記授業計画は一例である。開講時に各担当教員が説明する。

- ・本講義は、会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
- ・簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

# 簿記 1

## Bookkeeping 1

鈴木 和哉 (SUZUKI KAZUYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX213
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1810
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済学科 1 年次 F~J 組、経済学科 2 年次以上

### 授業の目標 / Course Objectives

基本的な複式簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The goal of this course is to understand the mechanism and role of basic double-entry bookkeeping.

### 授業の内容 / Course Contents

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表の有用性、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that makes it possible to provide useful accounting information to parties inside and outside a company by classifying, organizing, and recording complex corporate transactions based on a small number of transaction elements. In this course, students will learn the basic mechanism of double-entry bookkeeping. The lectures on the usefulness of financial statements and recent topics are given. Opportunities will be provided for students to work on problem exercises in class.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：簿記の意義と仕組み(1)
- 2回：簿記の意義と仕組み(2)
- 3回：仕訳と転記
- 4回：仕訳帳と元帳
- 5回：決算の意義と手続き(1)
- 6回：決算の意義と手続き(2)
- 7回：決算の意義と手続き(3)
- 8回：予備日(期中の取引、決算の手続きの復習など)
- 9回：現金と預金
- 10回：繰越商品・仕入・売上(1)
- 11回：繰越商品・仕入・売上(2)
- 12回：売掛金と買掛金(1)
- 13回：売掛金と買掛金(2)
- 14回：振り返り

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への出席ならびに積極的参加、ミニテスト、課題の提出:30%

・筆記試験は、すべての簿記1のクラスに共通の問題を使って実施される。・筆記試験は、テキスト欄に掲載した「渡部裕巨・片山覚・北村敬子『検定簿記ワークブック3級商業簿記』中央経済社（最新版）」の内容に基づいて出題されるが、詳細は別途掲示を行う。・平常点の評価項目等の詳細は担当者によって異なるため、開講時（4月）に担当教員からのアナウンスを確認すること。

#### テキスト / Textbooks

渡部裕巨・片山覚・北村敬子 『検定簿記ワークブック3級商業簿記』 中央経済社 2024 9784502489518

○

- ・当該ワークブックは簿記1（及び簿記2）のすべてのクラスに共通の教材である。
- ・筆記試験は当該ワークブックの内容に基づいて出題されるため、各自購入して取り組むこと。
- ・各回の授業で使用するテキストは担当者によって異なるため、開講時(4月)に各担当者の指示に従って購入すること。

#### 参考文献 / Readings

各担当教員から適宜紹介する。

#### その他 / Others

- ・上記授業計画は一例である。開講時に各担当教員が説明する。



- ・本講義は、会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
- ・簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

## 簿記 2

### Bookkeeping 2

鈴木 和哉 (SUZUKI KAZUYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX214
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1810
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	簿記 1
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済学科 1 年次 F～J 組、経済学科 2 年次以上

#### 授業の目標 / Course Objectives

基本的な複式簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The goal of this course is to understand the mechanism and role of basic double-entry bookkeeping.

#### 授業の内容 / Course Contents

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表はどのように有用か、近年のトピック等について、適宜講義を行う。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that makes it possible to provide useful accounting information to parties inside and outside a company by classifying, organizing, and recording complex corporate transactions based on a small number of transaction elements. In this course, students will learn the basic mechanism of double-entry bookkeeping. The lectures on the usefulness of financial statements and recent topics are given. Opportunities will be provided for students to work on problem exercises in class.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：その他の債権と債務
- 2 回：受取手形と支払手形
- 3 回：有形固定資産(1)
- 4 回：有形固定資産(2)
- 5 回：貸倒損失と貸倒引当金
- 6 回：資本
- 7 回：収益と費用(1)
- 8 回：収益と費用(2)
- 9 回：税金、伝票(1)
- 10 回：伝票 (2)
- 11 回：財務諸表(1)決算と決算手続
- 12 回：財務諸表(2)試算表の作成、棚卸表の作成と決算整理事項
- 13 回：財務諸表(3)精算表の作成、財務諸表の作成
- 14 回：振り返り

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前に以下に示されているテキストの「学習のポイント」等を読み、授業後は問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への出席ならびに積極的参加、ミニテスト、課題の提出:30%

・筆記試験は、すべての簿記2のクラスに共通の問題を使って実施される。・筆記試験は、テキスト欄に掲載した「渡部裕巨・片山覚・北村敬子『検定簿記ワークブック3級商業簿記』中央経済社(最新版)」の内容に基づいて出題されるが、詳細は別途掲示を行う。・平常点の評価項目等の詳細は担当者によって異なるため、開講時(9月)に担当教員からのアナウンスを確認すること。

#### テキスト/ Textbooks

渡部裕巨・片山覚・北村敬子 『検定簿記ワークブック3級商業簿記検定版第10版』 中央経済社 2024

○

- ・当該ワークブックは(簿記1及び)簿記2のすべてのクラスに共通の教材である。
- ・筆記試験は当該ワークブックの内容に基づいて出題されるため、各自購入して取り組むこと。
- ・各回の授業で使用するテキストは担当者によって異なるため、開講時(9月)に各担当者の指示に従って購入すること。

#### 参考文献 / Readings

各担当教員から適宜紹介する。

#### その他/ Others

- ・上記授業計画は一例である。開講時に各担当教員が説明する。

- ・本講義は、会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
- ・簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

# 簿記 1

## Bookkeeping 1

加藤 大吾 (KATO DAIGO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX215
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1810
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済学科 1 年次 K~O,Y 組、経済学科 2 年次以上

### 授業の目標 / Course Objectives

基本的な複式簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The goal of this course is to understand the mechanism and role of basic double-entry bookkeeping.

### 授業の内容 / Course Contents

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表の有用性、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that makes it possible to provide useful accounting information to parties inside and outside a company by classifying, organizing, and recording complex corporate transactions based on a small number of transaction elements. In this course, students will learn the basic mechanism of double-entry bookkeeping. The lectures on the usefulness of financial statements and recent topics are given. Opportunities will be provided for students to work on problem exercises in class.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：簿記の意義と仕組み(1)
- 2回：簿記の意義と仕組み(2)
- 3回：仕訳と転記
- 4回：仕訳帳と元帳
- 5回：決算の意義と手続き(1)
- 6回：決算の意義と手続き(2)
- 7回：決算の意義と手続き(3)
- 8回：予備日(期中の取引、決算の手続きの復習など)
- 9回：現金と預金
- 10回：繰越商品・仕入・売上(1)
- 11回：繰越商品・仕入・売上(2)
- 12回：売掛金と買掛金(1)
- 13回：売掛金と買掛金(2)
- 14回：振り返り

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への出席ならびに積極的参加、ミニテスト、課題の提出:30%

・筆記試験は、すべての簿記1のクラスに共通の問題を使って実施される。・筆記試験は、テキスト欄に掲載した「渡部裕巨・片山覚・北村敬子『検定簿記ワークブック3級商業簿記』中央経済社（最新版）」の内容に基づいて出題されるが、詳細は別途掲示を行う。・平常点の評価項目等の詳細は担当者によって異なるため、開講時（4月）に担当教員からのアナウンスを確認すること。

#### テキスト / Textbooks

渡部裕巨・片山覚・北村敬子 『検定簿記ワークブック3級商業簿記』 中央経済社 2024 9784502489518

○

- ・当該ワークブックは簿記1（及び簿記2）のすべてのクラスに共通の教材である。
- ・筆記試験は当該ワークブックの内容に基づいて出題されるため、各自購入して取り組むこと。
- ・各回の授業で使用するテキストは担当者によって異なるため、開講時(4月)に各担当者の指示に従って購入すること。

#### 参考文献 / Readings

各担当教員から適宜紹介する。

#### その他 / Others

- ・上記授業計画は一例である。開講時に各担当教員が説明する。

- ・本講義は、会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
- ・簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

## 簿記 2

### Bookkeeping 2

加藤 大吾 (KATO DAIGO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX216
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1810
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	簿記 1
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済学科 1 年次 K~O,Y 組、経済学科 2 年次以上

#### 授業の目標 / Course Objectives

基本的な複式簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The goal of this course is to understand the mechanism and role of basic double-entry bookkeeping.

#### 授業の内容 / Course Contents

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表はどのように有用か、近年のトピック等について、適宜講義を行う。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that makes it possible to provide useful accounting information to parties inside and outside a company by classifying, organizing, and recording complex corporate transactions based on a small number of transaction elements. In this course, students will learn the basic mechanism of double-entry bookkeeping. The lectures on the usefulness of financial statements and recent topics are given. Opportunities will be provided for students to work on problem exercises in class.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule



- 1 回：その他の債権と債務
- 2 回：受取手形と支払手形
- 3 回：有形固定資産(1)
- 4 回：有形固定資産(2)
- 5 回：貸倒損失と貸倒引当金
- 6 回：資本
- 7 回：収益と費用(1)
- 8 回：収益と費用(2)
- 9 回：税金、伝票(1)
- 10 回：伝票 (2)
- 11 回：財務諸表(1)決算と決算手続
- 12 回：財務諸表(2)試算表の作成、棚卸表の作成と決算整理事項
- 13 回：財務諸表(3)精算表の作成、財務諸表の作成
- 14 回：振り返り

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前に以下に示されているテキストの「学習のポイント」等を読み、授業後は問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への出席ならびに積極的参加、ミニテスト、課題の提出:30%

・筆記試験は、すべての簿記2のクラスに共通の問題を使って実施される。・筆記試験は、テキスト欄に掲載した「渡部裕巨・片山覚・北村敬子『検定簿記ワークブック3級商業簿記』中央経済社（最新版）」の内容に基づいて出題されるが、詳細は別途掲示を行う。・平常点の評価項目等の詳細は担当者によって異なるため、開講時（9月）に担当教員からのアナウンスを確認すること。

### テキスト / Textbooks

渡部裕巨・片山覚・北村敬子 『検定簿記ワークブック3級商業簿記検定版第10版』 中央経済社 2024

○

- ・当該ワークブックは(簿記1及び)簿記2のすべてのクラスに共通の教材である。
- ・筆記試験は当該ワークブックの内容に基づいて出題されるため、各自購入して取り組むこと。
- ・各回の授業で使用するテキストは担当者によって異なるため、開講時(9月)に各担当者の指示に従って購入すること。

### 参考文献 / Readings

各担当教員から適宜紹介する。

### その他 / Others

- ・上記授業計画は一例である。開講時に各担当教員が説明する。

- ・本講義は、会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
- ・簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

# 金融論 1

Money and Banking 1

銀行論・中央銀行論

飯島 寛之 (IIJIMA HIROYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX222

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2610

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

金融論では、金融の仕組みや金融現象の解明を通して、現代経済の構造や動向を理解します。とくに金融論 1 では、経済活動における銀行の役割を理論的に整理します。これを通じて、銀行の役割や銀行を取り巻く環境、銀行の抱える課題について説明できるようになること、また中央銀行の行う金融政策の意義と限界について自分の言葉で説明できるようになることが目標です。

In Money and Banking, students will understand the structure and trends of the modern economy through the study of financial mechanisms and financial phenomena. In particular, the goal of Money and Banking 1 is for students to be able to theoretically organize the role of banks in economic activities, and to be able to explain in their own words what modern banks are like in society and the debate over central bank monetary policy

## 授業の内容 / Course Contents

現代社会のしくみを知り、今日の社会の動向を見極めるうえで、金融の知識は不可欠の教養となっています。年を追うごとに金融商品や取引手法、金融の担い手は多様化・複雑化・高度化していますが、こうしたなかにあっても、伝統的な金融機関である銀行はいまなお金融システムにおける中核的な役割を担っています。銀行

は貸出に際して「預金通貨」というマネーを供給するとともに、決済機構の中心に位置している点で、他の金融機関にはない独自の重要な役割を担っているからです。本講義では、金融を理解するにあたって不可欠な「信用」という概念を取り上げた後、銀行制度に関する仕組みや理論を学び、最後に中央銀行の役割や金融政策について講義します。

Over the years, financial products, methods of transactions, and financial players have become more diversified, complex, and sophisticated. Nevertheless, banks, traditional financial institutions, still play a central role in the financial system. This is because banks play a unique and important role that other financial institutions do not, in that they provide "deposit currency" when lending money and are at the center of the payment and settlement mechanism. In this lecture, students will learn the concept of "credit," which is essential for understanding finance, then learn about the structure and theory of the banking system, and finally learn about the role of central banks and monetary policy.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：貨幣と信用
- 3回：銀行信用の本質と信用創造
- 4回：当座預金と手形決済
- 5回：内国為替
- 6回：外国為替
- 7回：貸出
- 8回：外部負債と短期金融市場
- 9回：銀行のリスク管理
- 10回：銀行規制
- 11回：中央銀行
- 12回：金融政策の課題
- 13回：金融政策の展開
- 14回：金融行政

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レジュメを事前に CanvasLMS に掲載するので、授業前に見て、当日の内容について確認しておくこと。また関連する書籍や雑誌記事などを事前及び授業後に紹介するので、読んで理解の助けにすること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 授業中及び授業後の課題:20%

課題はオンラインにて取り組む。理由を問わず授業に出席していない者に対する課題の再提示・提出は認めない。また、オンラインの都合などを理由とする課題の未提出についても考慮しないので、余裕をもって課題に取り組むこと。

**テキスト/Textbooks**

なし

**参考文献 / Readings**

飯島・五百旗頭・佐藤・菅原 『身近に感じる国際金融』 有斐閣 2017 9784641150447

川波・上川 『現代金融論』 有斐閣 2016 9784641184336

内田浩史 『金融』 有斐閣 2016 9784641164932

家森信善 『金融論』 中央経済社 2021 9784502290510

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

金融機関論や金融政策論と合わせて履修すると理解が深まると思われるが、必須ではない。

## 金融論 2

Money and Banking 2

ファイナンス論・金融システム論

飯島 寛之 (IIJIMA HIROYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX223

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2610

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

金融論では、金融の仕組みや金融現象の解明を通して、現代経済の構造や動向を理解します。この授業のひとつの目標は、金融に関する理論的な基礎である利子率や金融資産の価格、リスクについて理解できるようになることです。また、日本の金融システムの変貌や直面する課題について自分の言葉で説明できるようになることをもうひとつの目標とします。

In Money and Banking, students will understand the structure and trends of the modern economy through the study of financial mechanisms and financial phenomena. One goal of Money and Banking 2 is for students to be able to understand the theoretical foundations of finance: interest rates, prices of financial assets, and risk.

Another goal is to be able to explain in your own words the transformation of Japan's financial system and the challenges it faces.

### 授業の内容 / Course Contents

現代では、金融商品や投資の方法、金融の担い手が多様化・複雑化しています。それは私たちの生活を豊かにもしますが、ときに市場の混乱や金融危機を引き起こして経済活動をかき乱したりしています。この講義で

は、銀行以外の金融機関や投資商品に焦点を当て、利子率や収益率、リスクについての理解を深めます。そのうえで、これまで日本の金融システムが経験してきた危機や課題を取り上げ、金融システムを安定化させようとする試みについて学びます。

Today, financial products, investment methods, and financial players have become increasingly diversified and complex. It makes our lives richer, but it also sometimes causes market turmoil and crisis situations that disrupt economic activity. In this lecture, students will deepen their understanding of non-bank financial institutions and investment products, especially interest rates, rates of return, and risks. Students will then learn about the crises and challenges the Japanese financial system has experienced and attempts to stabilize the financial system.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：預金取り扱い金融機関以外の金融機関
- 3 回：長期金融市場
- 4 回：長期金利と債券の利回り
- 5 回：債券の価格理論
- 6 回：株式の価格理論
- 7 回：ポートフォリオ選択
- 8 回：流動化・証券化
- 9 回：デリバティブ
- 10 回：金融とバブル経済
- 11 回：金融システム不安
- 12 回：国際金融不安
- 13 回：金融機関の破綻
- 14 回：国際金融規制

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レジュメを事前に CanvasLMS に掲載するので、授業前に見て、当日の内容について確認しておくこと。また関連する書籍や雑誌記事などを事前及び授業後に紹介するので、読んで理解の助けにすること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 授業内及び授業後の課題:20%

課題はオンラインにて取り組む。理由を問わず授業に出席していない者に対する課題の再提示・提出は認めない。また、オンラインの都合などを理由とする課題の未提出についても考慮しないので、余裕をもって課題に取り組むこと。

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

飯島・五百旗頭・佐藤・菅原 『身近に感じる国際金融』 有斐閣 2017 9784641150447

川波・上川 『現代金融論』 有斐閣 2016 9784641184336

内田浩史 『金融』 有斐閣 2016 9784641164932

榊原・城下ほか 『入門証券論』 有斐閣 2013 9784641164109

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

金融論1 や証券経済論などをあわせて履修することで理解が深まると思いますが、必須ではありません。



# 証券経済論

Economic Theory of Securities

現代の証券経済システムの基本的な知識を学んでいく

三谷 進 (MITANI SUSUMU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX226

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2610

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義では、現代経済における証券システムの機能と役割を理解するための必要な知識を習得しながら、証券市場を通じた資金仲介メカニズムの拡大が、金融機関や経済構造にどのような影響を与えているのかということについて考える力を養成する。

In this lecture students will gain the knowledge required to understand the roles and functions of the securities system in the contemporary economy to develop the ability to think about the influence the expansion of the financial intermediation mechanism through the securities market has on financial institutions and the economic structure.

## 授業の内容 / Course Contents

現代の経済システムの下では、「金融の証券化」と呼ばれる現象が進展しており、従来の銀行業を通じた資金仲介システムから、証券市場を通じた資金仲介システムへの転換が進んできている。本講義では、このような「市場型経済システム」の構造を明らかにしながら、それが金融システムや経済構造全体にどのような影響を与えてきたのかということについて理論的・実証的な検討を行い、今後の証券システムのあり方について考え

ていく。

The phenomena called “financial securitization” is expanding under the contemporary economic system which is transitioning from the financial intermediation system through the conventional banking system to a financial intermediation system through the securities market. This lecture will reveal the structure of the “market type economic system” and theoretically and empirically consider the effects of this system on the financial system and overall economic structure and to think about how the securities system should be in the future.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：はじめに一講義のガイダンスー
- 2回：「金融の証券化」とは何か
- 3回：証券化のメカニズム
- 4回：証券化商品の累積と金融市場の変化
- 5回：証券市場の拡大と資金仲介システム
- 6回：間接金融と直接金融のあり方
- 7回：市場型間接金融システムと投資信託
- 8回：前半の講義のまとめ
- 9回：ファンド資本主義の展開と証券市場 (1)
- 10回：ファンド資本主義の展開と証券市場 (2)
- 11回：証券市場の監督体制と金融規制のあり方
- 12回：管理通貨制度下における証券市場の構造
- 13回：証券業のグローバル化と資産運用業の展開
- 14回：講義全体のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の際に必要なに応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパー:10% 小テスト:10%

### テキスト / Textbooks

レジュメや資料等を授業の際に配布する。

### 参考文献 / Readings

参考文献については、授業の際に、適宜、指示する。

# 証券市場論

Capital Markets

現代の証券市場の基本的な機能と役割を学んでいく

三谷 進 (MITANI SUSUMU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX227  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2610  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義では、現代の証券市場を理解するための必要な知識を習得し、現在、急速に進行している証券市場の肥大化現象がなぜ発生し、それが今後、どのように展開していくのかということについて考える力を養成していく。

In this lecture students will acquire the knowledge necessary to understand the contemporary securities market and develop the ability to think about why the hypertrophic phenomenon of the currently rapidly growing securities market is occurring and how this will develop in the future.

## 授業の内容 / Course Contents

1980 年代以降、金融のグローバル化、IT 化の進展を受けて、証券市場の機能と役割が大きく変化してきている。この講義では、現代の証券市場の基本的な構造を理解しながら、それが歴史的にどのような変化を遂げ、証券業や銀行業のあり方にどのような影響を与えてきたのかということについて考えていく。特に、管理通貨制度の下で、証券市場で売買される国債や株式等の金融資産の累積現象が進展しており、それが、なぜ、どのようにして生じてきているのかということについて理解を深めていく。

The roles and functions of the securities market have been greatly changing since the 1980's due to the globalization of and increased use of information technology in finance. In this lecture students will gain an understanding of the basic structure of the contemporary securities market while considering the historical changes to the market and what impact this has had on the securities industry and banking industry. In particular, the cumulative phenomenon of financial assets, such as government bonds and stocks, which are traded on financial markets, has expanded under the managed currency system and students will gain a deeper understanding of why and how this came to be.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：はじめに一講義のガイダンスー
- 2 回：有価証券とは何か
- 3 回：株式会社の歴史的な展開
- 4 回：株式会社の特徴と株主の権利
- 5 回：証券の流通と証券取引所の変遷(1)
- 6 回：証券の流通と証券取引所の変遷(2)
- 7 回：証券市場における証券価格の形成(1)
- 8 回：証券市場における証券価格の形成(2)
- 9 回：前半の講義のまとめ
- 10 回：証券市場における証券業の機能と役割
- 11 回：証券会社の経営のあり方
- 12 回：デリバティブの機能と役割
- 13 回：金融資産の累積と証券市場のあり方
- 14 回：講義のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の際に必要なに応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%  
 平常点割合 :20% リアクションペーパー:10% 小テスト:10%

### テキスト / Textbooks

レジュメや資料等を授業の際に配布する。

### 参考文献 / Readings

参考文献については、授業の際に、適宜、指示する。

# 外国為替論

Foreign Exchange

国際通貨制度の歴史と現状

山本 周吾 (YAMAMOTO SHUGO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX228

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2610

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

外国為替とは、遠隔地間の異なる通貨の貸借関係を現金ではなく、為替手形や送金小切手などで決済することです。国際決済にはそのために特別な決済システムが作られているわけではなく、既存の国際政治経済の中心国である米国の国内決済システムが利用されています。

このために、この講義の前半では、外国為替の基礎について学びます。例えば、直物為替と先物為替、銀行間市場と対顧客相場、為替ポジション、為替リスクとエクスポージャー、為替リスクの種類、為替リスクの管理等について学びます。

後半では、米国の国内通貨であるドルがどの

Understand basic concepts of International Finance.

In particular,

1. What is foreign exchange and why is it important?
2. Describe the market for foreign exchange
3. Describe the role of US dollar as an international currency

## 4. Describe the international monetary system from historical perspective

**授業の内容 / Course Contents**

- ①外国為替の特徴、直物為替と先物為替、銀行間市場と対顧客相場、為替ポジション
- ②為替相場を決めるもの、為替相場変動を予想する
- ③対顧客市場の参加者、日本の外国為替管理自由化の歩み、国際的な決済システム
- ④為替リスクとエクスポージャー、為替リスクの種類、為替リスクの管理
- ⑤戦後の固定相場制、固定相場制から変動相場制へ
- ⑥欧州通貨統合
- ⑦通貨とは何か（仮想通貨、中央銀行デジタル通貨）

We will study the basic concept of foreign exchange. For example, we will study the role of interbank market and customer market, international payment system, corporate foreign exchange risk management and Cryptocurrency.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：国際決済と国際通貨，基軸通貨
- 2 回：外国為替市場と外国為替取引
- 3 回：国際収支
- 4 回：国際通貨制度の変遷①：金本位制
- 5 回：国際通貨制度の変遷②：ブレトンウッズ体制
- 6 回：ドル本位制とその不安定性
- 7 回：通貨統合の理論と欧州通貨統合
- 8 回：ユーロ危機
- 9 回：グローバル・インバランスと世界金融危機
- 10 回：アジア・中国の金融システム
- 11 回：世界金融危機以降の国際通貨システム①
- 12 回：世界金融危機以降の国際通貨システム②：
- 13 回：日本経済と国際金融システム
- 14 回：まとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

テキストを事前に読んでくること

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 授業中の小テスト:10% 出席態度:10%

**テキスト / Textbooks**

高浜・高屋	『国際金融論のエッセンス』	文真堂	2022	9784830951268	-
田中	『ユーロ危機とギリシャの反乱』	岩波新書	2016	9784004315865	-

この「外国為替論」ではテキストの第2と3章、第9－12章を中心に勉強する。

※秋学期の「国際金融論」では、同じ教科書を使用するが、第1章、第4－8章を中心に勉強する。

**参考文献 / Readings**

国際通貨研究所 『外国為替の知識 第4版』 日経文庫 2018 9784532113872

# 国際金融論

International Banking

為替相場、国際資本移動と国際マクロ経済学

山本 周吾 (YAMAMOTO SHUGO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX229

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2610

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

金融論とマクロ経済学の視点から国際経済を理解することが目標です。具体的には、①国際収支統計、②為替相場の決定理論、③開放マクロ経済モデル、④国際資本移動のメカニズムについて学びます。上記の①は「マクロ経済学」と「国際貿易論」、②と③は「マクロ経済学」、④は「金融論」と密接に関係しているので、これらの科目も併せて受講することをお勧めします。発展的なトピックスとして、通貨危機と世界金融危機などについても学びます。

The purpose of this course is to understand the financial interactions among nations, including cross-border capital flows and exchange rates.

## 授業の内容 / Course Contents

- ①開放経済下の国民所得会計、国際収支表の仕組み、国際収支の発展段階
- ②経常収支不均衡の意味、貯蓄・投資バランス、弾力性アプローチ、アブソープション・アプローチ
- ③長期の実質為替相場の決定、実質・名目為替相場、購買力平価、マネタリー・モデル、バラッサ＝サミュエルソン効果



- ④カバー無し金利平価、期待形成、外国為替市場のマイクロストラクチャー
- ⑤先物為替相場、カバー付き金利平価
- ⑥マクロ経済学（IS・LM分析）の復習
- ⑦マンデル・フレミングモデル
- ⑧第1世代モデル、自己実現的な通貨危機（ゲーム理論的なアプローチ）、通貨危機と金融危機、2極の解、BBCルール
- ⑨国際金融市場の役割と現状、国際資本移動の機能、異時点間取引

This course will study the dynamics of the global financial system, international monetary systems, balance of payments, exchange rates, foreign direct investment.

In particular

1. Balance of payment
2. Purchasing power parity & covered interest parity
3. International macroeconomics
4. Cross-border capital flows
5. International financial crisis

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：なぜ国際金融を学ぶのか
- 2回：マクロ経済学の復習①：貨幣関数
- 3回：マクロ経済学の復習②：ISLM分析①
- 4回：マクロ経済学の復習③：ISLM分析②
- 5回：開放マクロ経済モデル①：購買力平価とマネタリーモデル
- 6回：開放マクロ経済モデル②：マンデルフレミング・モデル①
- 7回：開放マクロ経済モデル③：マンデルフレミング・モデル②
- 8回：金利平価
- 9回：異時点間の貸借と国際資本移動①
- 10回：異時点間の貸借と国際資本移動②
- 11回：通貨危機①：3つの通貨危機モデル
- 12回：通貨危機②：ゲーム理論的アプローチ
- 13回：応用
- 14回：復習・まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストを事前に読んでくること

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 授業中の小テスト:10% 出席態度:10%

毎回の講義で小テストを実施する

### テキスト / Textbooks

---

高濱光信・高屋定美 『国際金融論のエッセンス』 文真堂 2022 9784830951268 -

この「国際金融論」ではテキストの第1章、第4－8章を中心に勉強する。

※春学期の「外国為替論」では、同じ教科書を使用するが、第2と3章、第9－12章を中心に勉強する。

### 参考文献 / Readings

---

# 金融史

Financial History

日本における金融システムの近現代史

福地 幸文 (FUKUCHI KOUBUN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX230

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX3610

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本の金融システムについて歴史的な視点から理解する。

For students to able to understand the Japanese financial system from a historical perspective.

## 授業の内容 / Course Contents

この講義では、明治期から現代までの金融システムについて学ぶことを通じて、今日の金融システムがどのような歴史的経緯により形成されたのかを理解することを課題とする。

The objective of this lecture is to be able to study the Japanese financial system from the Meiji Era up to the present to understand the historical background behind the formation of today's financial system.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション：授業内容の説明、経済発展における金融の機能

2 回：銀行業 1：明治前期（為替会社、国立銀行、私立銀行、郵便貯金および日本銀行などの設立過程）

3 回：銀行業 2：明治後期～戦間期（銀行条例、都市大銀行・特殊銀行などの形成、金融恐慌と銀行法の制定）

- 4回：銀行業3：戦時期～高成長期（戦時金融統制、戦後改革とその修正、金融機関再建整備、戦後金融システム）
- 5回：銀行業4：ポスト高成長期（金融自由化、バブル経済と銀行経営、非伝統的金融政策と不良債権問題、メガバンクの海外進出、地方銀行の経営統合）
- 6回：証券業1：明治期～戦間期（証券取引所の創設と初期の証券取引、戦間期の証券業）
- 7回：証券業2：戦時期～高度成長期（戦時統制、四大証券体制への端緒、敗戦直後の証券取引、証券不況と経営健全化）
- 8回：証券業3：高度成長期～ポスト高成長（時価発行増資、業際問題と二つのコクサイ化、財テクブーム）
- 9回：証券業4：バブル崩壊後（バブル崩壊と証券不祥事、金融自由化、非伝統的金融政策と証券市場）
- 10回：保険業1：戦前期の生命保険業
- 11回：保険業2：戦後期の生命保険業
- 12回：保険業3：新保険業法制定後の生命保険業 / 明治期の損害保険業
- 13回：保険業4：第一次世界大戦～現代の損害保険業
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

自習教材を提供するので取り組んでいただきたい。

授業終了後に毎回復習をして、次の授業に臨むこと。

授業中に参考文献やインターネット上のURLを紹介するので、関心を持った点について調べてみる。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

#### テキスト / Textbooks

伊藤修・齊藤直編著 『金融業』 日本経営史研究所 2019 9784931192232 ○

#### 参考文献 / Readings

伊藤修 『日本型金融の歴史的構造』 東京大学出版会 1995 9784130460552

翁邦雄 『金利と経済』 ダイヤモンド社 2017 9784478101681

木下信行 『金融行政の現実と理論』 金融財政事情研究会 2011 9784322118780

寺西重郎 『戦前期日本の金融システム』 岩波書店 2011 9784000258258

橋本寿朗 他 『現代日本経済 第4版』 有斐閣 2019 9784641221215

鈴木淑夫 『試練と挑戦の戦後金融経済史』 岩波書店 2016 9784000611374

#### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

経済学1・2を履修済みであることが望ましい。

日本経済史、経営史などの科目と併せて履修することで、理解が深まるであろう。

必須ではないが、金融論の基礎を事前に学んでいると、更に理解が深まるであろう。

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Canvas LMS を使って、授業のレジメと自習教材を事前に掲載する。

#### **その他/ Others**

日本の金融政策が大きく転換しようとしています。

みなさん一人ひとりが日本の金融の将来を展望するには、ご自身でその歴史を主体的にとらえる必要があります。

この授業がその助けになることを望んでいます。

# 金融機関論

Financial Institutions

金融機関のビジネスモデルから金融の機能を理解する

近廣 昌志 (CHIKAHIRO MASASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX232

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX3610

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義の目的は、金融機関のビジネスモデルを理解し、金融の機能を理解する能力の修得である。

In this lecture, I aim to help students understand the financial function by learning of financial institutions' business model.

## 授業の内容 / Course Contents

日本および主要国の金融機関について、それらのビジネスモデルを解説します。

なお、本講義では、歴史的および実務的側面を重視します。また、受講者が自分で考える力を身に着けるよう工夫します。

最初から理論を提示して教えるのではなく、現実と理論との乖離を認識することが学問の出発点です。

I will lecture students on financial institutions' business models in Japan and other major countries.

In this lecture, I will emphasize the historical and practical aspects.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション、預金金融機関セクターの特殊性

- 2回：国立銀行条例で何を達成したかったのか（預金金融機関① 地方銀行）  
 3回：無尽・頼母子講・組合という地域金融機関（預金金融機関② 第二地方銀行・信用金庫等）  
 4回：両替商からメガバンクへ（預金金融機関③ メガバンク）  
 5回：新しい「銀行」（預金金融機関④ ナローバンクとしてのセブン銀行）  
 6回：特殊銀行という時代（預金金融機関⑤ 長期信用銀行・信託銀行）  
 7回：中央銀行がなくても銀行システムは機能する（預金金融機関⑥ 中央銀行，短資会社）  
 8回：ビルブローカー（証券会社① 日本の証券会社）  
 9回：投資銀行のビジネス（証券会社② 欧米の I B [Investment Bank] の仕事）  
 10回：生命保険のビジネス（保険会社① 生命保険会社）  
 11回：損害保険のビジネス（保険会社② 損害保険会社）  
 12回：海上保険と船舶金融，リース会社とファクタリング  
 13回：消費者金融・住宅金融・公的金融機関  
 14回：講義の総まとめ（ビジネスモデルから得られる金融理論，到達度確認）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

第1回を除き，毎回の講義で指示する予習・復習を行ってください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% レポート課題(Report):30%

平常点はレポート課題とする。なお，特別素晴らしい学修がみられる場合には，加点することがある。

### テキスト / Textbooks

教科書は指定しないが紹介される書籍等は講読すること

### 参考文献 / Readings

中島真志 『入門 企業金融論』 東洋経済新報社 2015 9784492654682

上川孝夫・川波洋一（編著）『新版 現代金融論』 有斐閣 2016 9784641184336

本講義に関わる参考書は講義内で沢山紹介しますが，直接関連の無いように見える著作等も紹介しますので，他分野にわたる書籍を読むことをお勧めします。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

簿記の基本原理の理解があることが望ましいが，初心者でも気にせずに履修してください

### その他 / Others

質問等は講義の前後に直接お声掛けください。

# 金融政策論

Financial Policy

貨幣経済の仕組みと貨幣的現象

近廣 昌志 (CHIKAHIRO MASASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX233

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX3610

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義の目的は、金融政策の仕組みと理論を理解するために、金融機関の行動と各経済主体の行動との連関を学ぶことである。

The purpose of this course is learning the linkage between the behavior of financial institutions and the of each economic agent/entity in order to understand the mechanism and theory of monetary policy.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、私は学生に金融政策のメカニズムと貨幣経済の動きを教えます。金融政策に対して多くの人が誤解を持っています。

中央銀行の機能や業務を学ぶことも重要ですが、金融政策を理解することは、市中銀行をはじめとする民間金融機関と企業活動および消費者行動・心理に対する理解が不可欠です。

中央銀行の行動は、金融市場に大きな影響を与えることから、金融機関への就職を考えている学生は積極的に受講してください。

In this course, I will teach students the mechanisms of monetary policy and the dynamics of the monetary



economy. Many people have misunderstanding about monetary policy.

Understanding monetary policy requires an understanding of private-sector financial institutions including commercial banks, corporate activities, and consumer behavior and psychology, beside learning about central banks.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：経済主体の把握（企業活動〔投資の限界効率〕と消費者行動）
  - 2 回：中央銀行がなくても銀行システムは成立する（各国中央銀行の成立経緯と必要性）
  - 3 回：貨幣価値の捉え方(物価指数だけでは認識できない)
  - 4 回：日本銀行のバランスシート（銀行券はばら撒けない）
  - 5 回：日本銀行の収益構造（貨幣発行益は銀行券からは発生しない）
  - 6 回：銀行券と政府紙幣（エメラルドグリーンの世界に足を踏み入れるか）
  - 7 回：2つの貨幣供給理論（銀行貸出は預金設定, 「翁・岩田論争」）
  - 8 回：日本銀行のオペレーション, 中央銀行の機能
  - 9 回：伝統的金融政策（コールレート操作）
  - 10 回：非伝統的金融政策（QE・インフレ目標政策）の目的と評価
  - 11 回：期待と時間軸効果の検証
  - 12 回：主要各国の中央銀行制度・金融政策（日銀との比較）
  - 13 回：CBDC（中央銀行デジタル貨幣）の現状
- 時代錯誤なMMTの主張（「日本銀行は政府の子会社」が引き起こすこと）
- 14 回：講義の総まとめ（市場原理の確保は中央銀行の使命, 到達度確認）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド（パワポ等）の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

第1回を除き、毎回の講義で指示する予習・復習を行ってください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% レポート課題:30%

平常点はレポート課題とする。なお、特別素晴らしい学修がみられる場合には、加点することがある。

### テキスト / Textbooks

教科書は指定しないが紹介される書籍等は講読すること

### 参考文献 / Readings

- 白川方明 『中央銀行』 東洋経済新報社 2018 9784492654859
- 白川方明 『現代の金融政策: 理論と実際』 日本経済新聞出版社 2008 9784532133443
- 田中隆之 『金融政策の大転換』 慶應義塾大学出版会 2023 9784766429305
- 斉藤美彦 『イングランド銀行の金融政策』 きんざい（金融財政事情研究会） 2014 9784322125603
- 河村小百合 『欧州中央銀行の金融政策』 きんざい（金融財政事情研究会） 2015 9784322125948
- 横山昭雄 『真説 経済・金融の仕組み』 日本評論社 2015 9784535558397

本講義に関わる参考書は講義内で沢山紹介しますが、直接関連の無いように見える著作等も紹介しますので、他分野にわたる書籍を読むことをお勧めします。

#### **履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

必須ではありませんが、簿記の基本原則に関する知識を持つことが望ましい。

#### **その他/ Others**

質問等は講義の前後に直接お声掛けください。

# コーポレートファイナンス1

Corporate Finance 1

ファイナンスの理論と実践

石田 惣平 (ISHIDA SOUHEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX234

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2610

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義の目標は、証券投資論に関する基礎的な知識を習得することにあります。具体的には、黒字主体の立場から証券投資に関する意思決定を学びます。

This lecture aims to provide students with a basic knowledge of securities investment theory. Specifically, students learn about securities investment decisions from a surplus entity's standpoint.

## 授業の内容 / Course Contents

ファイナンスとは、黒字主体が赤字主体に対して資金を提供する際の、各主体間の意思決定を扱う学問領域です。とりわけ、黒字主体の立場から証券投資に関する意思決定を扱う分野を証券投資論（インベストメント）と呼び、赤字主体としての企業の立場から資金調達や投資、利益の分配などの意思決定を扱う分野を企業金融論（コーポレート・ファイナンス）と呼びます。本講義では、証券投資論を扱います。各回の講義では、証券投資論に関する重要なトピックを取り上げ、課題に取り組むことによって、証券投資論に関する知識を深めていきます。

Finance is an academic discipline that deals with the decision-making between entities when a surplus entity

provides funds to a deficit entity. The field that deals with securities investment decisions from a surplus entity's standpoint is called security investment theory. The field that deals with financing, investment, and payout from a deficit entity's standpoint is called corporate finance theory. This lecture focus on securities investment theory. Each lecture cover essential topics on securities investment theory, and students deepen their knowledge of securities investment theory by taking quizzes.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：金融の仕組みと証券市場
- 2 回：財務諸表の活用①
- 3 回：財務諸表の活用②
- 4 回：ファイナンスの基礎概念
- 5 回：割引率と現在価値・将来価値①
- 6 回：割引率と現在価値・将来価値②
- 7 回：ファイナンス論の前提条件
- 8 回：証券投資論の概要
- 9 回：株式の理論価格
- 10 回：債券の理論価格①
- 11 回：債券の理論価格②
- 12 回：ポートフォリオ理論
- 13 回：資本資産評価モデル
- 14 回：デリバティブ取引

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- ※1 授業時間外の予習・復習が求められます。
- ※2 課題に取り組むことが求められます。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :80%  
 平常点割合 :20% 課題:20%

### テキスト / Textbooks

テキストは特にありません。必要に応じて資料を配布します。

### 参考文献 / Readings

俊野雅司・白須洋子・時岡規夫 『ファイナンス論・入門』 有斐閣 2020 9784641165700

### その他 / Others

<https://sites.google.com/view/souhei-ishida/home>

# コーポレートファイナンス2

## Corporate Finance 2

ファイナンスの理論と実践

石田 惣平 (ISHIDA SOUHEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX235

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2610

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本講義の目標は、企業金融論に関する基礎的な知識を習得することにあります。具体的には、赤字主体としての企業の立場から資金調達や投資、利益の分配などの意思決定を学びます。

This lecture aims to provide students with a basic knowledge of corporate finance theory. Specifically, students learn about financing, investment, and payout from a deficit entity's standpoint.

### 授業の内容 / Course Contents

ファイナンスとは、黒字主体が赤字主体に対して資金を提供する際の、各主体間の意思決定を扱う学問領域です。とりわけ、黒字主体の立場から証券投資に関する意思決定を扱う分野を証券投資論（インベストメント）と呼び、赤字主体としての企業の立場から資金調達や投資、利益の分配などの意思決定を扱う分野を企業金融論（コーポレート・ファイナンス）と呼びます。本講義では、企業金融論を扱います。各回の講義では、企業金融論に関する重要なトピックを取り上げ、課題に取り組むことによって、企業金融論に関する知識を深めていきます。

Finance is an academic discipline that deals with the decision-making between entities when a surplus entity

provides funds to a deficit entity. The field that deals with securities investment decisions from a surplus entity's standpoint is called security investment theory. The field that deals with financing, investment, and payout from a deficit entity's standpoint is called corporate finance theory. This lecture focus on corporate finance theory. Each lecture cover essential topics on corporate finance theory, and students deepen their knowledge of corporate finance theory by taking quizzes.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ファイナンスの役割と本講義の構成
- 2 回：割引率と現在価値・将来価値
- 3 回：株式の価値評価と資本資産評価モデル
- 4 回：債券の価値評価
- 5 回：企業価値評価①
- 6 回：企業価値評価②
- 7 回：企業の投資政策
- 8 回：企業の資本構成①
- 9 回：企業の資本構成②
- 10 回：ペイアウト政策
- 11 回：現金保有
- 12 回：M&A
- 13 回：コーポレートガバナンス
- 14 回：コーポレートファイナンスの最前線

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- ※1 授業時間外の予習・復習が求められます。
- ※2 課題に取り組むことが求められます。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :80%  
 平常点割合 :20% 課題:20%

### テキスト / Textbooks

テキストは特にありません。必要に応じて資料を配布します。

### 参考文献 / Readings

俊野雅司・白須洋子・時岡規夫 『ファイナンス論・入門』 有斐閣 2020 9784641165700

### その他 / Others

<https://sites.google.com/view/souhei-ishida/home>

# 保険論

Insurance

リスクから読み解く保険の学び(Risk-based approach)

岡田 太 (OKADA FUTOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX236

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX3610

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

リスク、経済、法律、歴史など多面的なアプローチから保険の基礎の理解を通じて、現代社会における多様な保険の問題について関心を持ち、それらを分析し考察する力を身につけることができる。

Through understanding the fundamentals of insurance from a multifaceted approach that includes risk, the economy, law, and history, etc., to acquire interest in the various insurance problems in contemporary society and to acquire the ability to analyze and consider those problems.

## 授業の内容 / Course Contents

授業は3つのパートで構成される。(1)経済学をベースに保険の基礎理論を学ぶ、(2)リスクを保険に仕組むデザインを学ぶ、(3)日本と世界の保険市場を学ぶ。

授業の応用・発展として、多くのトピックスを提供し、必要に応じて少人数で検討するアクティブ・ラーニングを行う。たとえば、「なぜ離婚保険は存在しないのか」(第4回)、「独身の生命保険料は既婚者よりも高くすべきか」(第5回)

最後の授業で課題について発表・討論を行う。

This class consists of three parts. (1) Study the fundamental theory of insurance based on economics, (2) Study designs that incorporate risk into insurance, and (3) Study the insurance markets in Japan and the world. Active learning will be conducted during the application and progress of the class by providing many topics that will be considered in small groups as necessary. For example, “Why doesn’t divorce insurance exist?” (No. 4) and “Should the life insurance premiums for single people be higher than for married people?” (No. 5). The students will create reports for presentations and discussions in the final class.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：リスクとはなにか、保険の存在意義
- 2回：保険の仕組みと機能、経済効果
- 3回：保険の経済学①期待効用理論と行動経済学
- 4回：保険の経済学②逆選択とモラルハザード
- 5回：リスク細分型保険をめぐる問題
- 6回：保険制度のデザイン①保険契約の基礎
- 7回：保険制度のデザイン②すまいのリスクと保険
- 8回：保険制度のデザイン③くるまのリスクと保険
- 9回：保険制度のデザイン④ヒトのリスクと保険
- 10回：保険制度のデザイン⑤社会保険のデザイン  
グループ編成
- 11回：保険をめぐるイノベーション（ビッグデータ、AI、インシュアテック）  
グループミーティング
- 12回：日本の保険市場-150年の軌跡  
グループミーティング
- 13回：世界の保険市場  
グループミーティング
- 14回：課題発表、レポート提出

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・テキストの該当する章を熟読し、キーワードの意味を理解する
- ・章末の練習問題を解く（解答・解説は有斐閣のウェブサイト公開されている）
- ・保険に関するニュースやトピックスを読む

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%  
 平常点割合 :50% グループワークのプレゼン・レポート:30% リアクションペーパー（4%×5回）:20%

### テキスト / Textbooks

下和田功他 『初めて学ぶリスクと保険（第5版）』 有斐閣 2024 ○  
 テキストは2024年4月に刊行予定です。



**参考文献 / Readings**

茶野・平澤・岡田 『キーワードで読み解くリスクマネジメント(仮)』 中央経済社 2024

参考書は2024年4月に刊行予定です。その他については、テキストの各章末に記載されているウェブサイトと参考文献リストを参照してください。

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

ミクロ経済学やファイナンスの知識があると理解が深まります。

**その他/ Others**

- ・パワーポイントを使用した講義形式で、スライド資料の配布は、CanvasLMS または classroom を使用する。
- ・必要に応じてアクティブ・ラーニングを取り入れ、演習を行う。

# 経営分析論 1

Business Analysis 1

田村 八十一 (TAMURA YASOKAZU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX237  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定： 簿記 1・2  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義では、財務諸表やその他の情報などを活用して、企業の実態を分析するための考え方・視点、基礎的な指標の活用方法などを養うことをねらいとする。

The aim of this lecture is to learn how to use basic indicators as well as the concepts and perspectives for analyzing the state of a company using financial statements and other information.

## 授業の内容 / Course Contents

経済、産業、企業を取り巻く状況は、企業の「再構築」の中で近年大きく変化している。このような状況を踏まえながら、現代企業の現実の活動を把握するには、どうすればよいだろうか？ 巨大化した企業の実態と進む方向は、私たちや社会にとって正しいあり方へと向っているのだろうか？ このような視点を踏まえながら講義を行っていく。

The circumstances faced by the economy, industry, and companies has been changing greatly in recent years as companies “restructure.” What should be done to grasp the actual activities of contemporary companies under these circumstances? Are giant companies and the direction they are taking the correct form and direction for us and society? The lecture will be conducted with these perspectives in mind.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：経営分析論について：現代ビッグビジネスと財務諸表分析の射程
- 2 回：現代資本主義と経営分析
- 3 回：現代産業と経営分析
- 4 回：現代企業と経営分析
- 5 回：分析方法のフレームワーク：分析のためのデータ解説
- 6 回：分析方法のフレームワーク：実数分析と比率分析，タイムシリーズ分析とクロスセクション分析，会計政策と会計情報の特質
- 7 回：連結・個別財務諸表分析と非財務情報，個別資本の基礎分析
- 8 回：財務諸表の構造分析
- 9 回：成長性分析
- 10 回：収益性分析
- 11 回：安全性分析
- 12 回：資金分析
- 13 回：総合分析
- 14 回：その他（まとめなど）

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

1. 授業時間外の研究として，事前・事後に該当する箇所のテキスト及び参考文献を読んで授業に出席すること。
2. 2社の企業を選んで各講義で習得した内容を適用してケース分析を行うこと。  
上記の詳細な点及びその他の点については，別途必要に応じて指示する。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

**テキスト / Textbooks**

企業分析研究会 『現代日本の企業分析』 新日本出版社 2018年 ○

**参考文献 / Readings**

大橋英五 『経営分析』 大月書店 2005

- (1) 『日本のビッグ・ビジネス』（全24巻）大月書店。
- (2) 『日本のビッグ・インダストリー』（全8巻）大月書店。
- (3) 丸山恵也編著（2012）『現代日本の多国籍企業』新日本出版社。

**その他 / Others**

プリントや資料などを授業において随時配付するので欠席しないように留意すること。

## 経営分析論 2

Business Analysis 2

田村 八十一 (TAMURA YASOKAZU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX238  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定： 簿記 1・2  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本講義は、企業の実態を分析する応用的な力（例えば、多国籍化・多角化する企業を分析するための考え方や視点、労務の問題や企業の社会的責任（CSR）を踏まえた分析方法など）を養うことをねらいとする。The aim of this lecture is for students to gain the applicable ability to analyze the state of companies (For example, the concepts and perspectives for analyzing multinational and diversified companies, methods for analyzing labor problems and corporate social responsibility (CSR), etc.).

### 授業の内容 / Course Contents

近年のグローバル化は、企業や産業のあり方を変化させている。一般株主や債権者のみならず、従業員や下請企業のステークホルダーも必然的に大きな影響を受ける。グローバル化する企業の実態をどのように分析し、考えていくかという視点を踏まえながら講義を進める。

The globalization of recent years is changing the form of companies and industries. This inevitably impacts such stakeholders as employees and subcontractors in addition to general stockholders and bondholders. The lecture is conducting from the perspective of how to analyze and consider the state of global companies.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：経営分析論のアプローチについて
- 2回：生産性分析
- 3回：損益分岐点分析
- 4回：内部留保分析(1)
- 5回：内部留保分析(2)
- 6回：企業のリストラクチャリングと経営分析
- 7回：企業集団（企業グループ）と連結財務諸表分析
- 8回：企業の多国籍化・多角化・M&A&D とセグメント分析(1)
- 9回：企業の多国籍化・多角化・M&A&D とセグメント分析(2)
- 10回：キャッシュフロー分析（1）
- 11回：キャッシュフロー分析（2）
- 12回：新指標の特質と問題点
- 13回：従業員の状況と労務分析：SDGs・ESG・企業の社会的責任の視点から
- 14回：その他（まとめなど）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

1. 授業時間外の研究として、事前・事後に該当する箇所のテキスト及び参考文献を読んで授業に出席すること。
2. 2社の企業を選んで各講義で習得した内容を適用してケース分析を行うこと。

上記の詳細な点及びその他の点については、別途必要に応じて指示する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

#### テキスト / Textbooks

企業分析研究会 『現代日本の企業分析』 新日本出版社 2018年 ○

#### 参考文献 / Readings

大橋英五 『経営分析』 大月書店 2005年

小栗崇資・夏目啓二 編著 『多国籍企業・グローバル企業と日本経済』 新日本出版社 2019年

(1) 『日本のビッグ・ビジネス』 <全24巻> (大月書店)

(2) 『日本のビッグ・インダストリー』 <全8巻> (大月書店)

(3) 丸山恵也編著 (2012) 『現代日本の多国籍企業』 新日本出版社。

#### その他 / Others

プリントや資料などを授業において随時配付するので欠席しないように留意すること。

# 財務会計論 1

Financial Accounting 1

米谷 健司 (KOMETANI KENJI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX239  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2910  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定： 簿記 1・2  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

企業会計はビジネスに必須のコミュニケーション・ツールであり、しばしばビジネスの言語と表現される。企業会計をビジネスの言語として使いこなすためには、財務諸表がどのようなルールに基づいて作成されているのかを理解するとともに、それがどのような情報を提供しているのかを適切に理解する必要がある。この授業では、財務諸表を作成するために必要な基礎的な知識・技術を習得し、財務諸表によって提供される会計数値の情報内容を適切に理解することを目標とする。

Business accounting is an indispensable communication tool of business and is often expressed as business terminology. To use business accounting as a business language it is necessary to understand the rules that guide the creation of the financial statements and to appropriately understand the information they provide. The objective of this class is for students to acquire the basic knowledge and skills necessary to prepare financial statements and to appropriately understand the contents of the accounting numerical information they provide.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では、財務会計の全体像を把握するために、日本の会計制度を概観したうえで、損益計算書及び貸借対照表の基本様式を中心に解説する。また、財務諸表を作成するうえで必要となる基礎的な会計処理を説明す

るとともに、その背後にある考え方を考察する。なお、会計学1・2で学習した内容も多く含まれるため、重要論点の復習という要素もある。

In this class an overview of the Japanese accounting system will be given and then the explanation will focus on the basic format of the profit and loss statement and balance sheet in order for students to get an overall picture of financial accounting. In addition, the basic accounting process necessary to create financial statements is explained and the concepts behind them are considered. In addition, since much of the content studied in Accounting 1 and 2 is included, there is also an element of review of important issues.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：会計の機能と目的（利害調整機能、情報提供機能）
- 2 回：会計制度の法体系（会社法と金融商品取引法、企業会計原則、GAAP、国際財務報告基準）
- 3 回：ディスクロージャー制度（法定開示、自発的開示、決算短信、業績予想）
- 4 回：損益計算書の基本様式
- 5 回：収益及び費用の認識・測定（1）（発生主義、実現、対応）
- 6 回：収益及び費用の認識・測定（2）（キャッシュ・フロー計算書、包括利益計算書）
- 7 回：貸借対照表の基本様式
- 8 回：流動資産（現金預金、売上債権、有価証券、棚卸資産）
- 9 回：固定資産（1）（有形固定資産、減価償却）
- 10 回：固定資産（2）（減損、無形固定資産、投資その他の資産）
- 11 回：繰延資産（株式交付費、社債発行費等、創立費、開業費、開発費）
- 12 回：負債（仕入債務、借入金、社債、引当金）
- 13 回：純資産（1）（払込資本、剰余金）
- 14 回：純資産（2）（自己株式、株主資本等変動計算書）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業の資料を授業支援システム（Canvas LMS）から事前にダウンロードし、目を通しておくこと。また、授業で説明した内容を正確に理解できるまで復習し、課題等があればそれに取り組むこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 出席および授業参加度（リアクションペーパー等を含む）:10% 小テストや課題等:30%

### テキスト / Textbooks

各回の授業の資料を授業支援システム（Canvas LMS）を通じて配布する（紙媒体での配布は行わない予定）。テキストは指定しないが、参考文献の1と2を入手して利用することを推奨する。

### 参考文献 / Readings

伊藤邦雄 『新・現代会計入門 第5版』 日本経済新聞出版社 2022

桜井久勝 『財務会計講義〈第24版〉』 中央経済社 2023

注) 最新版が出版された場合はそれを使用すること。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

各回の授業の資料を授業支援システム（Canvas LMS）を通じて PDF ファイルで配布する予定であり、授業中にそれを閲覧する端末（パソコンやタブレット等）が必要である（あるいは事前にプリントアウトしておく必要がある）。

そのほか、試験や課題等に取り組むときに電卓が必要である。

**その他/ Others**

各回の授業内容については、授業の進捗等によって変更の可能性がある。



# 財務会計論 2

## Financial Accounting 2

米谷 健司 (KOMETANI KENJI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX240  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2910  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定： 簿記 1・2  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

企業会計はビジネスに必須のコミュニケーション・ツールであり、しばしばビジネスの言語と表現される。企業会計をビジネスの言語として使いこなすためには、財務諸表がどのようなルールに基づいて作成されているのかを理解するとともに、それがどのような情報を提供しているのかを適切に理解する必要がある。この授業では、「財務会計 1」で取り扱わなかった財務会計の基礎的な知識・技術を習得し、財務諸表によって提供される会計数値の情報内容を適切に理解することを目標とする。

Business accounting is an indispensable communication tool of business and is often expressed as business terminology. To use business accounting as a business language it is necessary to understand the rules that guide the creation of the financial statements and to appropriately understand the information they provide. The objective of this class is for students to learn the basic knowledge and technology of financial accounting covered in Financial Accounting 1 and to appropriately understand the contents of the accounting numerical information provided by the financial statements.

### 授業の内容 / Course Contents

この授業では、「財務会計 1」で習得した財務会計の基礎知識を前提として、より発展的な内容を含む会計処理

を取り扱う。具体的には、金融商品会計、リース会計、退職給付会計、税効果会計、企業結合会計、連結会計などを取りあげ、それらの基本的な会計処理を解説する。また、財務指標にもとづく分析手法についても解説し、財務諸表を適切に分析する眼を養う。なお、会計学1・2で学習した内容も多く含まれるため、重要論点の復習という要素もある。

This class will cover accounting processes, including constructive contents, based on the fundamental financial accounting knowledge that was learned in Financial Accounting 1. Specifically, accounting for financial products, leases, retirement benefits, tax effect, business combinations, and consolidation will be covered and the corresponding basic accounting processing explained. The analysis techniques using financial indicators will also be explained to give students an eye for appropriately analyzing financial statements. In addition, since much of the content studied in Accounting 1 and 2 is included, there is also an element of review of important issues.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：金融商品会計（1）
- 2回：金融商品会計（2）
- 3回：リース会計（1）
- 4回：リース会計（2）
- 5回：退職給付会計（1）
- 6回：退職給付会計（2）
- 7回：ストック・オプションの会計
- 8回：資産除去債務
- 9回：企業結合会計（1）
- 10回：企業結合会計（2）
- 11回：税効果会計
- 12回：連結会計（1）
- 13回：連結会計（2）
- 14回：財務諸表分析

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業の資料を授業支援システム（Canvas LMS）から事前にダウンロードし、目を通しておくこと。また、授業で説明した内容を正確に理解できるまで復習し、課題等があればそれに取り組むこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験：60%

平常点割合：40% 出席および授業参加度（リアクションペーパー等を含む）：10% 小テストや課題等：30%

### テキスト / Textbooks

各回の授業の資料を授業支援システム（Canvas LMS）を通じて配布する（紙媒体での配布は行わない予定）。テキストは指定しないが、参考文献の1と2を入手して利用することを推奨する。

### 参考文献 / Readings

伊藤邦雄 『新・現代会計入門 第5版』 日本経済新聞出版社 2022

桜井久勝 『財務会計講義〈第24版〉』 中央経済社 2023

注) 最新版が出版された場合はそれを使用すること。

### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

各回の授業の資料を授業支援システム (Canvas LMS) を通じて PDF ファイルで配布する予定であり、授業中にそれを閲覧する端末 (パソコンやタブレット等) が必要である (あるいは事前にプリントアウトしておく必要がある)。

そのほか、試験や課題等に取り組むときに電卓が必要である。

### **その他 / Others**

各回の授業内容については、授業の進捗等によって変更の可能性がある。

# 管理会計論 1

Management Accounting 1

諸藤 裕美 (MOROFUJI YUMI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX241  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2910  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定： 簿記 1・2  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

適切な戦略や利益計画の策定、また、それらの効果的な達成のために有用な管理会計手法について理解する。企業をとりまく環境の変化、戦略、組織構造などに対応し、どのように新たな会計手法が提唱されてきたのかについても学ぶ。

The objective of this course is to understand management accounting systems that are useful to formulate and execute strategy and profit plans. An additional objective is to understand how new management accounting systems are advocated to fit some contingency factors such as environment, strategy and organization structure.

## 授業の内容 / Course Contents

経営管理者の意思決定や業績管理に役立つ会計手法について、その計算構造の確認とともに、その手法の生成の歴史的背景、果たすべき機能とそれを実現するための要件、手法が有する問題点、人間心理への影響などの論点についても説明を行う。

Management accounting systems are useful for managers to make decision and evaluate their subordinates' performance. In this course, students will understand the calculation structure, the historical background, the function, the requirements for realizing those functions, the problems with their systems, and the impact on

human psychology of their systems.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：短期利益計画のための管理会計(1)CVP分析
- 3回：短期利益計画のための管理会計(2)固定費への留意
- 4回：短期利益計画のための管理会計(3)複数製品を生産・販売する場合
- 5回：予算管理(1)予算の役立ちと編成方法
- 6回：予算管理(2)予算を使ったコントロール
- 7回：予算管理(3)予算の人間行動への影響／中期経営計画のための管理会計(1)
- 8回：中期経営計画のための管理会計(2)バランス・スコアカード：戦略策定・実行のためのマネジメント・システム
- 9回：標準原価管理(伝統的な原価管理技法)(1)生成の背景とプロセス
- 10回：標準原価管理(2)標準原価管理のプロセス(続き)
- 11回：標準原価管理(3)標準原価管理は現在も有効か？
- 12回：原価改善(1)原価を低減するための原価管理技法
- 13回：原価改善(2)原価を低減するための原価管理技法
- 14回：振り返り

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で扱った問題の復習は早めに行うこと。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 毎回の出席・理解度チェックや課題の提出・小テスト:40%

### テキスト/ Textbooks

開講時に指定。

### 参考文献 / Readings

岡本清 『原価計算 六訂版』 国元書房 2000

岡本清・廣本敏郎編著 『検定簿記講義 2級工業簿記』 中央経済社 2019

廣本敏郎・挽文子 『原価計算論 第3版』 中央経済社 2015

その他、各回の授業において指示。

### 履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

他学部生、他大学生においても、簿記3級レベルの知識を有していることが望ましい。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

電卓を持ってくることを勧めます。授業資料は事前に Canvas LMS にアップしますので、授業時にダウンロードあるいはプリントアウトしておくこと。

### その他/ Others

講義する順序を一部変更する場合がある。

# 管理会計論 2

Management Accounting 2

諸藤 裕美 (MOROFUJI YUMI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX242  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項） 対面  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2910  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定： 簿記 1・2  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

適切な戦略や利益計画の策定、また、それらの効果的な達成のために有用な管理会計手法について理解する。企業をとりまく環境の変化、戦略、組織構造などに対応し、どのように新たな会計手法が提唱されてきたのかについても学ぶ。

The objective of this course is to understand management accounting systems that are useful to formulate and execute strategy and profit plans. An additional objective is to understand how new management accounting systems are advocated to fit some contingency factors such as environment, strategy and organization structure.

## 授業の内容 / Course Contents

経営管理者の意思決定や業績管理に役立つ会計手法について、その計算構造の確認とともに、その手法の生成の歴史的背景、果たすべき機能とそれを実現するための要件、手法が有する問題点、人間心理への影響などの論点についても説明を行う。

Management accounting systems are useful for managers to make decision and evaluate their subordinates' performance. In this course, students will understand the calculation structure, the historical background, the function, the requirements for realizing those functions, the problems with their systems, and the impact on

human psychology of their systems.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション・原価企画(1)生産開始前の原価低減・利益管理のプロセス
- 2回：原価企画(2)原価企画を機能させるための仕組み・活動のグローバル化など
- 3回：分権的組織の管理会計(1)権限移譲の必要性和様々な分権的組織、事業部業績評価の2つの目的と評価尺度
- 4回：分権的組織の管理会計(2)本社費・共通費の配賦、振替価格
- 5回：分権的組織の管理会計(3)ミニ・プロフィットセンター
- 6回：業務的意思決定のための会計(1)(差額原価の概念など)
- 7回：業務的意思決定のための会計(2)(典型的な問題の習得)
- 8回：設備投資のための会計(1)(貨幣の時間価値など)
- 9回：設備投資のための会計(2)(各技法の計算方法習得と各技法の長所・短所)
- 10回：設備投資のための会計(3)(各技法の計算方法習得と各技法の長所・短所)
- 11回：ABC/ABM/ABB(1)(生成の背景と技法習得・ABCの有用性の理解)
- 12回：ABC/ABM/ABB(2) (ABM)
- 13回：ABC/ABM/ABB(3) (ABB、TDABC)
- 14回：振り返り

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で扱った問題の復習は早めに行うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 毎回の出席・授業への積極的な参加（リアペ・理解度チェック含む）・数回の学期内課題・小テスト:40%

### テキスト / Textbooks

適宜参考文献を紹介。

### 参考文献 / Readings

岡本清 『原価計算 六訂版』 国元書房 2000

谷武幸 『エッセンシャル管理会計(第3版)』 中央経済社 2013

廣本敏郎・挽文子 『原価計算論 第三版』 中央経済社 2015

諸藤裕美 『自律的組織の管理会計 原価企画の進化』 中央経済社 2013

その他、授業において適宜指定。

### その他 / Others

授業計画の順番を一部変更する可能性がある。



# 環境会計論

Environmental Accounting

松田 真由美 (MATSUDA MAYUMI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX244  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX3910  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定： 簿記 1・2  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

環境会計の成立、現状、今後の展開および企業が実際に行っている環境情報開示の現状や国際的な動向について理解を深めます。

To deepen understanding of the formation, current state, and future development of environmental accounting and international trends as well as the current state of environmental information disclosures actually made by companies.

## 授業の内容 / Course Contents

企業は 1960 年代より環境活動が社会的責任の一貫として認識されて以来、その活動および情報開示を行っており、その内容は時代とともに変化してきているといえます。

そして現在、地球温暖化が、国際的に取り組まざるを得ない喫緊の課題として共有されています。

企業もその解決に向け一端を担い、地球環境へ配慮することが求められるとともに、温暖化によってもたらされる気候変動による財務リスクなどをいかに回避または軽減してゆくのか、その対策にも注目が集まります。

また、ESG 投資の高まりは、投資家に企業の環境への取組を評価して投資を行うことを促し、一方で投資家向け情報開示に向けた試みなされており、その一つに日本における上場企業による気候変動リスクなどの情報開

示を義務化が挙げられます。

ただ、情報の内容については、IFRS 財団をはじめとする多くの国際機関が開示に向けて基準の策定を行っており、さまざまな機関が発する情報を注視してゆく必要があるといえます。

そこで、本講義では企業の環境活動の歴史およびその情報開示など、さまざまな側面から広く企業と環境についてみてゆきます。

Since the 1960s, companies have recognized environmental activities as a part of their social responsibility, and have been carrying out such activities and disclosing information on them, the content of which has changed over time.

Today global warming is shared as an urgent issue that must be tackled internationally. Companies also have a responsibility to resolve this issue, and attention is being paid to how they can avoid or mitigate the financial risks caused by climate change.

The rise in ESG investment has also encouraged investors to evaluate the environmental efforts of companies, and attempts have been made to disclose information to investors to this end. One such initiative is the mandatory disclosure of climate change risk and other information by listed companies in Japan.

However, many international organizations, including the IFRS Foundation, have been developing disclosure methods and information content, and it is necessary to continue to pay attention to the information issued by various organizations.

Therefore, this lecture will look at companies and the environment from various perspectives, including the history of corporate environmental activities and their information disclosure.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：地球環境と企業活動（歴史的背景）
- 3 回：地球温暖化とエネルギー政策
- 4 回：ISO14000・26000 シリーズと情報開示
- 5 回：環境会計の理論的視点
- 6 回：環境会計の実務的視点
- 7 回：財務報告としての環境情報
- 8 回：排出量取引
- 9 回：非財務情報としての環境情報 ①
- 10 回：非財務情報としての環境情報 ②
- 11 回：日本における環境報告、環境会計ガイドライン
- 12 回：環境情報開示の国際的ガイドライン・スタンダードの現状と動向
- 13 回：環境情報開示とその保証
- 14 回：自然資本  
マテリアルフローコスト会計

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ* 等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:

上記いずれも用いない予定 :

### **授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

企業のウェブ上の環境情報（ESG 情報など）などを読み、関心を持つようにしてください。

### **成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:20% 授業参加態度:10%

### **テキスト / Textbooks**

そのつどプリントを配布します。

### **参考文献 / Readings**

随時紹介します。

# 非営利会計論

Accounting for Non-Profit Organizations

鷹野 宏行 (TAKANO HIROYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX245  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX3910  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定： 簿記 1・2  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

非営利法人の数と規模の拡大を前提に、企業会計と非営利会計との根本的相違を理解する。

To understand the fundamental differences between business accounting and nonprofit accounting on the premise that the number and size of not-for-profit organizations are expanding.

## 授業の内容 / Course Contents

組織体における資産と負債の差額は、資本と呼ばれたり、純資産と呼ばれたり、または正味財産と呼ばれることもある。組織体には、その差額の増殖を積極的に行い、かつ、元手の拠出者に配当という形で還元することを目的とする営利企業と、その差額の増殖を心がけるが、元手の拠出者には原則として還元しない非営利組織体とがある。本講義では、後者の非営利組織体における会計について明らかにする。

The difference between assets and liabilities in an organization is called capital, net assets, or net worth.

Organizations can be separated into the following two types: for-profit companies, which actively strive to increase that difference and their purposes are providing a return in the form of dividends to their source contributors, and; nonprofit organizations, that strive to increase that difference but in principle do not provide a return to their source contributors. This lecture will cover the accounting for the latter; the nonprofit

organizations.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：非営利組織体とは
- 2 回：非営利組織体の種類
- 3 回：非営利組織体のアカウントビリティ
- 4 回：非営利組織体会計の特徴
- 5 回：企業会計と非営利会計の相違
- 6 回：公益法人会計基準の特徴(1)
- 7 回：公益法人会計基準の特徴(2)
- 8 回：NPO 法人会計基準の特徴(1)
- 9 回：NPO 法人会計基準の特徴(2)
- 10 回：独立行政法人会計基準の特徴
- 11 回：学校法人会計基準の特徴
- 12 回：社会福祉法人会計基準の特徴
- 13 回：協同組合会計基準の特徴(1)
- 14 回：協同組合会計基準の特徴(2)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

簿記，財務会計論を先行履修していることが望ましい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

### テキスト / Textbooks

毎回，資料を配布する。

### 参考文献 / Readings

# 会計史 1

History of Accounting 1

複式簿記の生成と発展

岡嶋 慶 (OKAJIMA KEI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX246  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2910  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定： 簿記 1・2  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

現代企業会計に至る会計の歴史的発展過程を分析・検討することを通じて、現代の企業会計の本質をより深くより適切に理解し、その将来的道筋を洞察する能力を身につけることができる。

The goals of this lecture are to deeply and properly understand the essence of contemporary business accounting, and to acquire the ability to gain insights on the future path of business accounting, through analysis and consideration of the historical development process of accounting up to contemporary business accounting.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義は、企業活動の計数的表現過程である会計が、その担い手である企業を取り巻く環境に対応しながら発展してきた事実を踏まえて、その企業を取り巻く社会的、経済的、法的及び人的環境の変化と会計の進化との因果関係を理解することを主眼として進められる。会計史 1 では、まず、複式簿記生成に至る準備期として、複式簿記が生成される以前の段階から考察を始める。ついで、複式簿記の生成期として、中世ルネサンス期において生成されたとされる複式簿記が登場する歴史的基盤を、社会、経済、文化、人物といった多面的な要素を取り上げながら、考察する。さらに、その後、複式簿記の普及・改良期として、こうした複式簿記の原型が

様々な地域・社会の企業に受け入れられていく過程と新たな企業環境の変化や社会的要求に順応していく過程を考察する。

Accounting is the function of numerically expressing business activities, and has developed in response to the environment surrounding businesses, which are the providers of accounting function, so this lecture will be conducted focusing on understanding the cause and effect relationship between the evolution of accounting and the changing social, economic, legal, and human environments. The 'History of Accounting 1' begins by considering the stage prior to the formation of double-entry bookkeeping as the preparatory period leading to the establishment of double-entry accounting. Next, the class will consider the formative period of double-entry bookkeeping by looking at the various different elements, such as society, economy, culture, and people that formed the historical foundation for the advent of double-entry accounting during the medieval renaissance period. Finally, the period of diffusion and improvement of double-entry bookkeeping will be considered by looking at the process of how the prototype of double-entry accounting was accepted by businesses in various regions and societies and how it has been adapted to meet changes in the business environment and social requirements.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：会計史を学ぶ意義
- 2 回：会計史の対象と方法
- 3 回：会計の起源：複式簿記前史
- 4 回：複式簿記「起源論」
- 5 回：ヴェネツィア式簿記とパチョーリ(1)：『スママ』以前
- 6 回：ヴェネツィア式簿記とパチョーリ(2)：『スママ』の史的意義
- 7 回：ヴェネツィア式簿記の伝播とその背景
- 8 回：ネーデルラントにおける発展：イムピンとステヴィン
- 9 回：期間損益計算の成立
- 10 回：フランスにおける展開と商事王令
- 11 回：イギリスにおける発展
- 12 回：貸借対照表・損益計算書の形成
- 13 回：日本の伝統簿記
- 14 回：洋式簿記の導入

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

会計史の理解には簿記および会計の基本的知識が必須とされるので、毎回受講前に予めその単元で扱われる基礎的な会計知識を確認しておく必要がある。また、授業は、その歴史的背景の考察を踏まえながら、凝縮された内容で展開されていくので、毎回しっかり復習をして次回の授業に備えるようにしなければ、十分な歴史理解には結びつかない。なお、予習・復習についての指示は、すべて、Canvas LMS を通じて行なう。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% リアクション・ペーパー:20% 小レポート (課題) :20%

### テキスト/ Textbooks

友岡 賛 『会計の歴史〔改訂版〕』 税務経理協会 2018 4419065087 -

各回、事前にプリント (授業レジュメ) を Canvas LMS にて提供する (上記テキストは、購入しなくても構わない)。

### 参考文献 / Readings

中野常男・清水泰洋 (編著) 『近代会計史入門〔第2版〕』 同文館出版 2019 4495200923

千葉準一・中野常男 (責任編集) 『会計と会計学の歴史』 中央経済社 2012 450244991

平林喜博 (編著) 『近代会計成立史』 同文館出版 2005 449518301

リトルトン/片野一郎訳 『会計発達史〔増補版〕』 同文館出版 1978 4495117866

茂木虎雄 『近代会計成立史論』 未来社 1969 4624320352

### 履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

会計に関する基礎知識だけでなく、高校で学習する世界史の知識があることが望ましい。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業レジュメ・資料の配布、リアクション・ペーパーの提出には Canvas LMS を使用するので、授業中も PC 等の機器が手元にあることが望ましい。

### その他/ Others

会計史は会計を歴史から学ぶ科目です。会計をいつもとは違った形で学べるので面白いのではないかと思います。



# 会計史 2

History of Accounting 2

近代会計制度の成立

岡嶋 慶 (OKAJIMA KEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX247

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2910

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 簿記 1・2

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

現代企業会計に至る会計の歴史的発展過程を分析・検討することを通じて、現代の企業会計の本質をより深くより適切に理解し、その将来的道筋を洞察する能力を身につけることができる。

The goals of this lecture are to deeply and properly understand the essence of contemporary business accounting, and to acquire the ability to gain insights on the future path of business accounting, through analysis and consideration of the historical development process of accounting up to contemporary business accounting.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義は、企業活動の計数的表現過程である会計が、その担い手である企業を取り巻く環境に対応しながら発展してきた事実を前提として、その企業を取り巻く社会的、経済的、法的及び人的環境の変化と会計の進化との因果関係を理解することを主眼として進められる。会計史2では、近代会計の生成・発展期として、近代産業社会の成熟に伴う複式簿記確立の実態、そこに確立された「近代会計制度」、近代会計を形成する会計実務と会計理論について、様々な角度から考察する。さらに、現代会計の生成期として、工業化や企業規模の拡大、企業活動の複雑化が会計に及ぼした影響について考察・分析する。

Accounting is the function of numerically expressing business activities, and has developed in response to the environment surrounding businesses, which are the providers of accounting function, so this lecture will be conducted focusing on understanding the cause and effect relationship between the evolution of accounting and the changing social, economic, legal, and human environments. In the 'History of Accounting 2', the formational and developmental periods of modern accounting will be covered by considering from various angles the establishment of double-entry accounting accompanying the maturation of modern industrial society, the modern accounting system established thereby, and the accounting practices and accounting theory shaping modern accounting. Finally, focussing on the formative period of contemporary accounting, the class will consider and analyze the influential factors which industrialization as well as the increase in business size and complication of business activities have had on business accounting.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：近代会計の成立環境(1)：株式会社の生成と発展
- 2 回：近代会計の成立環境(2)：近代会社法の生成
- 3 回：産業革命と複式簿記の確立
- 4 回：固定資産会計の生成(1)：鉄道会社と複会計システム
- 5 回：固定資産会計の生成(2)：減価償却
- 6 回：近代会計制度の成立環境
- 7 回：会計プロフェッションの登場
- 8 回：会計プロフェッショナルによる監査の成立
- 9 回：証券市場の発達と近代会計制度の展開
- 10 回：近代会計学の成立(1)：資本主理論と企業主体理論
- 11 回：近代会計学の成立(2)：取得原価主義会計
- 12 回：工業化と巨大株式会社会計
- 13 回：企業集団の形成と連結財務諸表
- 14 回：工業化と管理会計

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

会計史の理解には簿記および会計の基本的知識が必須とされるので、毎回受講前に予めその単元で扱われる基礎的な会計知識を確認しておく必要がある。また、授業は、その歴史的背景の考察を踏まえながら、凝縮された内容で展開されていくので、毎回しっかり復習をして次回の授業に備えるようにしなければ、十分な歴史理解には結びつかない。なお、予習・復習についての指示は、すべて、Canvas LMS を通じて行なう。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%  
 平常点割合 :40% リアクションペーパー:20% 小レポート:20%

### テキスト / Textbooks

友岡 賛 『会計の歴史〔改訂版〕』 税務経理協会 2018 4419065087 -

各回、事前にプリント（授業レジュメ）を Canvas LMS にて提供する（上記テキストは、購入しなくても構わない）。

### 参考文献 / Readings

中野常男・清水泰洋（編著） 『近代会計史入門〔第2版〕』 同文館出版 2019 4495200923

千葉準一・中野常男（責任編集） 『会計と会計学の歴史』 中央経済社 2012 4502449901

平林喜博（編著） 『近代会計成立史』 同文館出版 2005 449518301

リトルトン／片野一郎訳 『会計発達史〔増補版〕』 同文館出版 1978 4495117866

茂木虎雄 『近代会計成立史論』 未来社 1969 4624320352

### 履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

会計に関する基礎知識だけでなく、高校で学習する世界史の知識があることが望ましい。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業レジュメ・資料の配布、リアクション・ペーパーの提出には Canvas LMS を使用するのので、授業中も PC 等の機器が手元にあることが望ましい。

### その他/ Others

会計史は会計を歴史から学ぶ科目です。会計をいつもとは違った形で学べるので面白いのではないかと思います。

# 会計情報論 1

Electronic Data Processing Systems 1

会計データモデルの基礎を学ぶ

板橋 雄大 (ITABASHI TAKEO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX248

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2910

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 簿記 1・2

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

会計情報システムの設計・開発は、一定のデータベース管理システム（DBMS）を前提として進められるが、その際に鍵となるのが会計データモデルである。本講義では、REA 会計モデルに代表される会計データモデル論がこれまでどのように展開してきたかを概観し、会計データモデルの基礎を理解することを目標としている。

The design and development of accounting information systems proceeds on the premise of a fixed database management system (DBMS) and what is key at this time is the accounting data model. This lecture gives an overview of the development of accounting data model theory as represented by the REA accounting model with the objective of having students understand the fundamentals of accounting data models.

## 授業の内容 / Course Contents

会計データモデル研究は、Sorter の事象アプローチをきっかけとして、主としてデータベース理論の一領域であるデータモデル論の展開とともに進展してきたといえる。具体的には、階層モデル、網モデル、関係モデル、実体関連モデル、オブジェクト指向モデルなどのモデルの提唱されてきたが、これらのデータモデルが会

計領域にどのように応用されてきたかについて学習する。

Accounting data model research has advanced together with the development of data model theory, which is part of database theory that was triggered by the Sorter Events Approach. Specifically, such models as the hierarchical model, network model, relational model, entity relationship model, and object oriented model have been advocated, and students learn how these data models have been applied to the field of accounting.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：本講義の概要と進め方
- 2 回：事象理論の形成
- 3 回：事象理論研究の展開
- 4 回：データモデリングの基本と ANSI/X3/SPARC の 3 層スキーマ
- 5 回：階層モデルおよび網モデルによる会計データモデル論の展開
- 6 回：関係モデルにおけるデータベースの構造
- 7 回：関係モデルにおけるデータベースの一貫性
- 8 回：関係モデルにおけるデータ操作言語
- 9 回：オブジェクト指向モデルによる会計データモデルの展開
- 10 回：REA 会計モデル①－概念モデル研究の展開
- 11 回：REA 会計モデル②－REA 会計モデルの開発
- 12 回：会計事象の体系化とオントロジー
- 13 回：REA 会計モデルのオントロジー分析
- 14 回：本講義のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前にテキストを読んで、あらかじめ分からない点などを把握したうえで授業に臨むこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% ミニテスト:20% ミニレポート（1～2回を予定）:10%

ミニテストで不正をした場合は、平常点は一切カウントしないの注意されたい。講義資料のダウンロード、講義動画の配信、ミニテストの実施、ミニレポートの提出、質問の受付は、すべて CanvasLMS 上でおこなう。

### テキスト / Textbooks

坂上学 『事象アプローチによる会計ディスクロージャーの拡張』 中央経済社 2016 4502182710 ○

### 参考文献 / Readings

増永良文 『リレーショナルデータベース入門〔第3版〕－データモデル・SQL・管理システム・NoSQL』  
サイエンス社 2003 4781913903

## 会計情報論 2

Electronic Data Processing Systems 2

電子開示システムと XBRL の基礎を学ぶ

板橋 雄大 (ITABASHI TAKEO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX249

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2910

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 簿記 1・2

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本講義では、電子開示システムの仕組みと、財務情報を記述する際に用いられる拡張可能な事業報告言語 XBRL の基礎知識を習得することを目標としている。

The objective of this lecture is to acquire basic knowledge of electronic disclosure system frameworks and of the extensible business reporting language (XBRL) that is used when describing financial information.

### 授業の内容 / Course Contents

今日においては、アメリカ SEC による EDGAR や日本の金融庁による EDINET などの電子開示システムを通じて、財務会計情報が自由に入手できるようになり、高度な会計情報の利用が可能となっているが、ここに至るまでの技術的な展開を踏まえながら電子開示システムの歴史を概観し、財務会計情報を記述するために開発されたコンピュータ言語である XBRL の基本について学習する。

Today, financial accounting information can be freely obtained via electronic disclosure systems, such as EDGAR of the US SEC or EDINET of the Japanese Financial Services Agency, making it possible to use advanced accounting information, so in this course students will be given an overview of the history of electronic disclosure

systems, including the technological developments to date, and will also learn the basics of XBRL, which is a computer language developed to write financial accounting information.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：本講義の概要と進め方
- 2 回：電子開示システムの始動と事象アプローチ
- 3 回：EDGAR システムと EDINET システムの概要
- 4 回：事業報告言語 XBRL と 3 つの基礎概念
- 5 回：XBRL タクソノミの基礎
- 6 回：EDINET タクソノミの構造
- 7 回：XBRL インスタンスの基礎
- 8 回：EDINET の XBRL インスタンス
- 9 回：ディメンションの基本
- 10 回：ディメンションによる未集約情報の記述
- 11 回：XBRL GL の基礎と SRCD モジュールの意義
- 12 回：SRCD による事象会計報告システムの実現可能性
- 13 回：会計情報システムの今後の展望
- 14 回：本講義のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前にテキストを読んで、あらかじめ分からない点などを把握したうえで授業に臨むこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% ミニテスト:20% ミニレポート（1～2回実施の予定）:10%

ミニテストで不正をした場合は、平常点は一切カウントしないので注意されたい。講義資料のダウンロード、講義動画の配信、ミニテストの実施、ミニレポートの提出、質問の受付は、すべて CanvasLMS 上でこなう。

### テキスト / Textbooks

坂上学 『事象アプローチによる会計ディスクロージャーの拡張』 中央経済社 2016 4502182710 ○

### 参考文献 / Readings

坂上学 『新版 会計人のための XBRL 入門』 同文館 2011 4495189328

# 会計監査論 1

Auditing 1

前山 政之 (MAEYAMA NOBUYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX250  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2910  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定： 簿記 1・2  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- ・財務諸表監査の基本概念を他にも応用して他者に説明できること。
- ・内部統制のフレームワークを理解して実際の事例に適用できること。
- ・ To be able to explain the basic concepts of financial statement audit to others by applying them to other areas.
- ・ To be able to understand the framework of internal control and to be able to apply it to actual cases.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業は、経済社会のインフラとも言える公認会計士監査について、「法律や基準で決められているから」といった法制度に依拠した説明ではなく、理屈として「なぜそのような職能が存在して実務が行われているか」を説明する。具体的な論点として、監査は企業社会においてなぜ必要とされるのか、監査の類型にはどのようなものがあるのか、監査はどのように実施されるのか、監査と密接な関連がある内部統制の概念的な枠組みにはどのようなものがあるか、などを取り上げる。

This class will explain the CPA audit, which can be said to be an infrastructure of economic society, not by relying on the legal system, such as "because it is determined by law or standards," but by explaining, in theory, "why such a profession exists and is practiced. Specific issues to be discussed include why auditing is necessary in



the business society, the types of audits, how audits are performed, and the conceptual framework of internal control, which is closely related to auditing.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：監査とは何か
- 3回：監査はなぜ必要か
- 4回：不正と財務諸表監査①
- 5回：不正と財務諸表監査②
- 6回：監査人に必要な属性：プロフェッションとしての公認会計士
- 7回：監査人に必要な属性：監査人の独立性①
- 8回：監査人に必要な属性：監査人の独立性②
- 9回：監査人に必要な属性：監査人の独立性③
- 10回：監査人に必要な属性：正当な注意と職業的懐疑心
- 11回：内部統制①
- 12回：内部統制②
- 13回：内部統制③
- 14回：授業のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・講義スライドなど講義資料は事前に CanvasLMS にアップロードするので、あらかじめ読んでおくこと。
- ・授業内容に関連する課題があらかじめ提示されていることがある。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 講義中課題・クイズ:20% レポート・宿題:30%

### テキスト / Textbooks

鳥羽至英ほか 『財務諸表監査 改訂版』 国元書房 2021 9784765805742 ○

上記以外に必要な資料はこちらで用意する。

### 参考文献 / Readings

トレッドウェイ委員会組織委員会 『内部統制の統合的枠組み』 白桃書房 1996 9784561461043

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC もしくはタブレット。

### その他 / Others

金融庁 <http://www.fsa.go.jp/> 日本公認会計士協会 <http://www.hp.jicpa.or.jp/>

# 会計監査論 2

Auditing 2

前山 政之 (MAEYAMA NOBUYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX251  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2910  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定： 簿記 1・2  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- ・ 監査の実施に関わる基本概念を監査の具体的場面に適用して他者に説明できる。
- ・ 監査基準を監査の問題事例に適用して問題点を分析して他者に説明できる。
- ・ 監査報告書とその他の情報を組み合わせて企業を分析して他者に説明できる。
- ・ To be able to apply basic concepts related to audit conduct to specific audit situations and explain them to others.
- ・ To be able to apply audit standards to audit cases, analyze problems, and explain them to others.
- ・ To be able to combine the audit report with other information to analyze an entity and explain it to others.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業の目的は、  
(1) 監査の実施に関わる基本概念を説明することと、  
(2) 監査論(会計監査論 I)で説明した監査の理論的な捉え方が、現実の法制度においてどのように反映されているかを説明することである。したがって、金融商品取引法、公認会計士法、会社法、監査基準といった制度の面から監査を説明する。

The objectives of this class are to ;

- (1) Explain the basic concepts related to the conduct of an audit, and
- (2) Explain how the theoretical perspective of auditing explained in Auditing I is reflected in the actual audit system. Therefore, we will explain auditing from the aspect of systems such as the Financial Instruments and Exchange Act, the Certified Public Accountants Act, the Companies Act, and auditing standards.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス、監査の実施：監査プロセス
- 2 回：監査の実施：監査証拠①
- 3 回：監査の実施：監査証拠②
- 4 回：監査の実施：監査リスク・アプローチ
- 5 回：監査規制と公認会計士監査：公認会計士法
- 6 回：監査規制と公認会計士監査：金融商品取引法
- 7 回：監査規制：監査基準①
- 8 回：監査規制：監査基準②
- 9 回：監査の失敗と監査人の責任
- 10 回：監査基準と監査報告：監査報告書の構造
- 11 回：監査基準と監査報告：監査意見の種類と意見不表明
- 12 回：監査基準と監査報告：継続企業評価と公認会計士監査
- 13 回：金融商品取引法監査制度：内部統制監査制度と四半期レビュー制度
- 14 回：会社法監査制度

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・講義スライドなど講義資料は、事前に CanvasLMS にアップロードするので、各自読んでおくこと。
- ・講義に関連する課題があらかじめ提示されていることもある。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 講義中課題・宿題:30% 監査報告書レポート:20%

### テキスト / Textbooks

鳥羽至英ほか 『財務諸表監査 改訂版』 国元書房 2021 9784765805742 ○

教科書は、会計監査論 1 と同じものなので、会計監査論 1 受講時に購入していれば、あらためて購入する必要はない。それ以外に必要な資料はこちらで用意する。

### 参考文献 / Readings

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC またはタブレット。

### その他 / Others

金融庁 <http://www.fsa.go.jp/> 日本公認会計士協会 <http://www.hp.jicpa.or.jp/>

# 会計政策論

Accounting Policy

会計政策の事例研究、会計政策と法制度及び会計理論との関係

吉沢 壮二郎 (YOSHIZAWA SOJIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX252

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2910

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 簿記 1・2

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この講義の目的は、事例を通して経営者の会計政策について学ぶことです。会計政策について理解することで、財務諸表をより適切に読み取ることができるようになります。

The objective of this course is to learn about the accounting policies by managements through examples.

Deeping understanding of accounting policies helps you to read financial statements accurately.

## 授業の内容 / Course Contents

会計には、事実の客観的な記録・報告だけでなく、経営者による主観的な判断が必然的に含まれています。これは利益の計算や財政状態の表示を適正に行うために必要なことですが、同時に経営者に、特定の目的に応じた会計数値のコントロールの余地を与えてもいます。しかし、外部への財務報告は法律や会計基準による規制を受けており、こうした規制の枠内で行われる数値のコントロールを「会計政策」と呼びます。この講義では、法制度や会計理論、経済環境と関連付けて会計政策を論じ、多くの事例も紹介します。

The accounting needs for subjective judgment by managements, as well as objective recording and reporting of facts. This is necessary for proper calculation of profit or indication of financial position of an enterprise. But at

the same time, this gives rooms for managements to control accounting numbers by specific purposes. Because financial report is regulated by laws and accounting standards, control of accounting numbers is done within limits, and these control of accounting numbers is called "Accounting Policies". In this lecture, we discuss accounting policies, linking to legal regulation, accounting theory and economic environments, and covers many cases.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：会計政策とは何か
- 2 回：減価償却と会計政策
- 3 回：引当金と会計政策
- 4 回：日本の会計制度の枠組み・会計政策の背景
- 5 回：戦後日本の会計制度の形成と会計政策
- 6 回：「会計ビッグバン」と会計政策への影響①：金融商品時価評価
- 7 回：不正会計事件と連結支配力基準
- 8 回：「会計ビッグバン」と会計政策への影響②：退職給付会計
- 9 回：「会計ビッグバン」と会計政策への影響③：税効果会計
- 10 回：「会計ビッグバン」と会計政策への影響④：減損会計と土地再評価法・DCF 法とは何か
- 11 回：キャッシュ・フロー計算書で読み解く会計政策
- 12 回：M & A と「のれん」の会計政策
- 13 回：IFRS への変更と会計政策・IFRS と日本基準の財務諸表の比較
- 14 回：企業価値と会計政策

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

プリントを見直し復習すること、授業で紹介した本や記事を読み理解を深めること、興味をもった事柄はインターネットや図書館で調べてみることを、が必要です。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業ごとのリアクションペーパー:20% 中間レポート:30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

# 原価計算論 1

## Cost Accounting 1

原価の構成要素と原価の集計方法

高野 学 (TAKANO MANABU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX254
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX2910
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	簿記 1・2
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

この授業は、原価の構成要素を知り、受注製品の原価の集計方法を身につけることを目標とします。これらは、経済学部の学位授与方針の 4 「経済・経済政策・会計に関するデータ分析・情報処理を行うことができる」ための有効な道具となります。また、原価の構成要素を学習することにより、身近にみられる企業のビジネス・モデルを分析する力も身につけ、経済学部の学位授与方針の 2 「経済現象を歴史的・理論的に考察することができる」ようになります。

The objective of this class is to learn the components of cost and how to calculate the cost of ordered products. These are effective tools for “being able to conduct data analysis and information processing related to the economy, accounting, and economic policy,” which is the No. 4 requirement for receiving a degree from the College of Economics. In addition, learning the components of cost will enable students to analyze the business models of companies they see around them and “be able to historically and theoretically consider economic phenomena,” which is the No. 2 requirement for receiving a degree from the College of Economics.

### 授業の内容 / Course Contents

この授業では、まず原価計算の意義と目的、原価の要件といった原価計算の基礎的事項についてみていきます。次に原価の構成要素である材料費、労務費、経費について解説を行い、最終的にオーダーメイドの製品（受注製品）の原価集計方法である個別原価計算についてみていきます。また、紳士服量販店、LCCの事例といった身近な企業のビジネス・モデルについても原価計算の視点から考えていきます。各回、レジュメを配布するとともに、練習問題とその解答も配布します。

In this class students learn the significance and purpose of cost calculation and then the fundamental matters of cost calculation, which are cost requirements. Next, an explanation will be given of materials costs, labor costs, and expenses, which are cost components, and in conclusion individual cost calculation, which is a method for calculating the cost of order-made products (ordered products) will be covered. The class will also consider familiar company business models, such as men's clothing mass retailers and LCC from the perspective of cost calculation. Each time a resume will be distributed together with practice problems and their answers.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：原価計算の意義と目的（1）：原価計算が対象とする業種、原価計算の目的
- 2回：原価計算の意義と目的（2）：「原価計算基準」の制定、原価計算制度、特殊原価調査
- 3回：原価の要件と基礎概念：原価の4つの要件、原価の分類
- 4回：材料費の計算方法（1）：材料費の分類、材料の消費数量の計算
- 5回：材料費の計算方法（2）：材料消費単価の計算、予定価格法
- 6回：労務費の計算方法（1）：労務費の分類、労務費の計算
- 7回：労務費の計算方法（2）：予定消費賃率を用いた計算
- 8回：経費の計算方法：経費の分類、経費の計算
- 9回：原価計算の視点から考える（1）：紳士服量販店の事例
- 10回：原価計算の視点から考える（2）：LCCの事例
- 11回：単純個別原価計算：単純個別原価計算の計算手続き、製造間接費の配賦計算
- 12回：部門別個別原価計算（1）：原価部門とは、製造間接費の第1次集計
- 13回：部門別個別原価計算（2）：製造間接費の第2次集計（直接配賦法、相互配賦法）
- 14回：部門別個別原価計算（3）：製造部門費の実際配賦、予定配賦

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レジュメの練習問題を繰り返し解き直してください。また、レジュメ以外にも練習問題を配布しますので、授業で説明した項目はその問題を解き、理解を深めてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :90%

平常点割合 :10% 出席および授業参加度:10%

### テキスト / Textbooks

各回、レジュメを配布します。

### 参考文献 / Readings

西村明・小野博則・大下丈平 『ベーシック原価計算』 中央経済社 2010 9784502227905

清水孝 『原価計算』 税務経理協会 2012 9784419058333

### **履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

簿記・会計の基本的な知識があると望ましいですが、簿記・会計を学習をしていなくても理解できると思います。

### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

練習問題を解く際に電卓が必要となります。

### **その他/ Others**

- ・授業は講義形式で行い、説明の後に練習問題を解き、知識の定着を図ります。
- ・原価計算論2も併せて履修すると、原価計算論を体系的に学習できます。



## 原価計算論 2

Cost Accounting 2

経営管理者のための原価計算

高野 学 (TAKANO MANABU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX255

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2910

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 簿記 1・2

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

この授業は、大量生産を行う企業における原価計算、そして利益管理、経営管理者の意思決定に役立てるための理論・技法を身につけることを目標とします。これらは、経済学部の学位授与方針の4「経済・経済政策・会計に関するデータ分析・情報処理を行うことができる」ための有効な道具となります。また、利益管理に関する理論を学習することにより、身近にみられる企業のビジネス・モデルを分析する力も身につけ、経済学部の学位授与方針の2「経済現象を歴史的・理論的に考察することができる」ようになります。

The objective of this class is for students to learn cost calculation for businesses conducting mass production as well as the theory and techniques that will be useful in profit management and decision accounting. These are effective tools for “being able to conduct data analysis and information processing related to the economy, accounting, and economic policy,” which is the No. 4 requirement for receiving a degree from the College of Economics. In addition, learning the theory for profit management will enable students to analyze the business models of companies they see around them and “be able to historically and theoretically consider economic phenomena,” which is the No. 2 requirement for receiving a degree from the College of Economics.

**授業の内容 / Course Contents**

この授業では、まず大量生産製品の原価を集計する総合原価計算について取り上げます。続いて、利益計画に役立つ直接原価計算・CVP分析、経営管理者が行う意思決定について学習します。また、マクドナルドや航空運賃の事例といった身近にみられる企業のビジネス・モデルについても、原価計算の視点から考えていきます。各回、レジュメを配布するとともに、練習問題とその解答も配布します。

In this class, first process costing for calculating the cost of mass-produced products will be covered. Then, students will learn direct costing and CVP analysis, which are useful for profit planning. The class will also consider familiar company business models, such as McDonald's and air fare, from the perspective of cost calculation. The class will be conducted in lecture style, and after the explanation the students will solve practice problems to help them retain the knowledge.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：総合原価計算（1）：総合原価計算とは、単純総合原価計算の計算手続き
- 2回：総合原価計算（2）：月初仕掛品がある場合の計算方法（先入先出法、平均法）
- 3回：総合原価計算（3）：組別総合原価計算の計算方法
- 4回：総合原価計算（4）：等級別総合原価計算の計算方法
- 5回：総合原価計算（5）：工程別総合原価計算の計算方法
- 6回：直接原価計算（1）：直接原価計算とは、短期利益計画と直接原価計算
- 7回：直接原価計算（2）：直接原価計算による損益計算書の作成、固定費調整
- 8回：原価計算の視点から考える：マクドナルドの事例、航空運賃の事例
- 9回：CVP分析（1）：損益分岐点図表、損益分岐点売上高の求め方
- 10回：CVP分析（2）：安全余裕率、原価の固定分解
- 11回：業務的意思決定と原価計算（1）：意思決定の種類、意思決定のための会計情報
- 12回：業務的意思決定と原価計算（2）：業務的意思決定の計算方法（総額法と差額法）
- 13回：戦略的意思決定と原価計算（1）：回収期間法、投資利益率法
- 14回：戦略的意思決定と原価計算（2）：貨幣の時間的価値、正味現在価値法

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

レジュメの練習問題を繰り返し解き直してください。また、レジュメ以外にも練習問題を配布しますので、授業で説明した項目はその問題を解き、理解を深めてください。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :90%

平常点割合 :10% 出席および授業参加度:10%

**テキスト / Textbooks**

各回、レジュメを配布します。

**参考文献 / Readings**

西村明・小野博則・大下丈平 『ベーシック原価計算』 中央経済社 2010 9784502227905

清水孝 『原価計算』 税務経理協会 2012 9784419058333

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

原価計算論1を履修していることが望ましいです。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

練習問題を解く際に電卓が必要になります。

**その他/ Others**

- ・授業は講義形式で行い、説明の後に練習問題を解き、知識の定着を図ります。
- ・原価計算論1の内容を前提に授業を進めていきます。

# 国際会計論 1

International Accounting 1

考えて学ぶ

角ヶ谷 典幸 (TSUNOGAYA NORIYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX256

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2910

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 簿記 1・2

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

国際会計の基礎的な知識を身につけ、さらに上級に進むための能力を涵養する。

Acquire the basic knowledge of international accounting and nurture the ability to understand the more advanced levels of accounting.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、個々の会計基準の理解だけでなく、その背後にある国際会計の基礎概念を理解してもらえような内容にしたい。

This class provides opportunities to understand not only the content of individual accounting standard but also basic international accounting knowledge behind each accounting standard.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：IFRS とは何か（その 1）

3 回：IFRS とは何か（その 2）

- 4回：概念フレームワーク：財務報告とその目的（その1）  
 5回：概念フレームワーク：財務報告とその目的（その2）  
 6回：概念フレームワーク：財務諸表の構成要素とその認識・測定（その1）  
 7回：概念フレームワーク：財務諸表の構成要素とその認識・測定（その2）  
 8回：IFRSの考え方：企業価値評価（その1）  
 9回：IFRSの考え方：企業価値評価（その2）  
 10回：IFRSの考え方：資産負債アプローチと包括利益（その1）  
 11回：IFRSの考え方：資産負債アプローチと包括利益（その2）  
 12回：英文財務諸表（その1）  
 13回：英文財務諸表（その2）  
 14回：総まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

基本的な簿記・会計の知識を前提として講義をするので、「簿記」「会計学 I II」を履修（認定）済みであることが望ましい。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%  
 平常点割合 :20% 小テスト:10% 講義への貢献（発言等）:10%

#### テキスト / Textbooks

秋葉賢一 『エッセンシャル IFRS』 中央経済社 2022 9784502438912 ○

#### 参考文献 / Readings

## 国際会計論 2

International Accounting 2

仲間とともに考えながら学ぶ

首藤 洋志 (SHUTO HIROSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX257

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2910

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 簿記 1・2

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本授業では、国際財務報告基準（IFRS）のうち、個別会計基準の内容と特徴を理解し、他の会計基準（日本や米国の会計基準）との相違を理解することを目標とする。

Students will understand characteristics and details of the International Financial Reporting Standards (IFRS).

Students will also understand its differences from other standards (e.g. Japan and US).

### 授業の内容 / Course Contents

IFRS のうち、個別会計基準の内容と特徴について、IFRS の考え方や設定の背景（資産負債アプローチ、公正価値会計、包括利益等）、IFRS により作成された財務諸表などを取り上げつつ講義する。

This class will cover the contents and characteristics of individual accounting standards, including the concept and background of IFRS (asset and liability approach, fair value accounting, comprehensive income, etc.), and financial statements prepared under IFRS.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション

- 2回：IFRSによる営業活動の会計（1）（1/2）  
 3回：IFRSによる営業活動の会計（1）（2/2）  
 4回：IFRSによる営業活動の会計（2）（1/2）  
 5回：IFRSによる営業活動の会計（2）（2/2）  
 6回：IFRSによる固定資産の会計（1）（1/2）  
 7回：IFRSによる固定資産の会計（1）（2/2）  
 8回：IFRSによる固定資産の会計（2）  
 9回：IFRSによる金融商品の会計（1）  
 10回：IFRSによる金融商品の会計（2）  
 11回：IFRSによる組織再編の会計  
 12回：IFRSによる持分投資の会計（1/2）  
 13回：IFRSによる持分投資の会計（2/2）  
 14回：授業の総括

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定するテキストの、授業計画該当箇所を事前に精読し、授業を受けるようにすること。  
 また、授業後には授業内容を振り返りながら、テキストに立ち返るなどの方法により復習を行う必要がある。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%  
 平常点割合 :40% ミニレポート（授業終了時に提出するリアクション・ペーパーを兼ねる）:40%

#### テキスト / Textbooks

秋葉賢一 『エッセンシャルIFRS〈第7版〉』 中央経済社 2022 9784502438912 ○

#### 参考文献 / Readings

#### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

- ・日商簿記検定試験2級レベルの簿記力（最低でも、3級レベルは必要）を有することが望ましい。
- ・本科目は、(国際)財務会計の応用レベルに位置付けられるため、国際会計論1を履修後に履修すること。

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業時に上場企業の財務諸表をwebで取得し、分析を行うことがあるため、ノートPCを持参すること。

#### その他 / Others

授業は、PowerPointを使用した講義形式を中心とし、テキストや実存する上場企業の財務諸表を参照する。  
 なお、授業内容の理解を深め、発展を促すために、ディスカッション等のグループワークを行う。

# 税務会計論

Tax Accounting

企業利益と課税所得の計算構造

東条 美和 (TOJO MIWA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX258  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2910  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定： 簿記 1・2  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

企業会計における利益計算と、法人税法上の課税所得計算との相違を学習することにより、課税所得計算の基本構造を理解する。

The objective of this lecture is to learn the difference between profit calculation in corporate accounting and taxable income calculation based on the Corporate Tax Law, and understand the basic structure of taxable income calculation.

## 授業の内容 / Course Contents

税務会計とは法人税法上の課税所得を計算するための会計をいう。

税務会計初学者を対象とし、税務会計の基礎的な考え方や計算構造、税務処理および企業会計との関係を学習する。

なお、講義はテキスト、板書、パワーポイント、配布するレジュメに沿っておこなう。

Tax accounting refers to the calculation of taxable income based on the Corporation Tax Law.

This lecture is aimed at beginners in tax accounting, and learns the basic concept and calculation structure of tax



accounting, tax processing, and the relationship with corporate accounting.

The lecture will proceed according to the textbook, board writing, power point and resume.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション

税務会計の意義

2回：税務会計総論

・税務会計と企業会計

3回：課税所得の計算構造 I

・確定決算主義、企業会計と課税所得計算

4回：課税所得の計算構造 II

・租税原則と「別段の定め」

5回：課税所得の計算構造 III

・益金の範囲

6回：課税所得の計算構造 IV

・損金の範囲、資本等取引

7回：益金の会計 I

・収益の計上基準

8回：損金の会計 I

・売上原価と固定資産の減価償却

9回：損金の会計 II

・役員給与と寄附金の制度と損金算入制限

10回：損金の会計 III

・交際費の制度設計と損金算入制限

11回：課税所得・税額の計算

・課税所得計算と欠損金、法人税額の計算

12回：申告、納付

・申告、納付の手順、不服申立

13回：会計基準の変容と課税所得計算 I

・会計基準の複線化と法人税法

14回：会計基準の変容と課税所得計算 II

・法人税法上の課題

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：テキストおよび配布資料の確認（1時間程度）

復習：テキスト、配布資料および板書の確認（1.5時間程度）

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 講義内リアクションペーパー（複数回）:30% 講義内レポート:20%

**テキスト/Textbooks**

---

坂本雅士編 『現代税務会計論 第7版』 中央経済社 2024 ○

**参考文献 / Readings**

---

# 上級簿記 1

## Advanced Bookkeeping 1

高橋 浩二 (TAKAHASHI KOJI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX262  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX3910  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定： 簿記 1・2  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

中級簿記を学習した学生を対象に、その復習をするとともに次のステップを目指した簿記の内容を学んでいきます。商業簿記 1 級を基本として学んでいきますが、簿記検定を合格することが目的ではなくより高度な簿記の知識等に触れることが主な目的です。

This class is for students who have studied intermediate bookkeeping with the objective of practicing what they have learned and aiming for the next step. Understanding the theory learned in accounting is also required for advanced bookkeeping.

### 授業の内容 / Course Contents

本講義では中級簿記に引き続き、株式会社に関する簿記を学習します。このため会計基準を含めて学習するため、単なる仕訳だけでなく理論的な理解も必要となり中級簿記よりは一段ハードルが高くなります。テキストは日商簿記 1 級のテキストを使用しますが、なるべく基本的な点を中心に学習するよう計画しています。

In this lecture, students learning bookkeeping for corporations continuing from intermediate bookkeeping, and many of the points not brought up in intermediate accounting are covered. The points from the JCCI Bookkeeping Grade 1 examination are covered, so the theory in addition to simple journal entries must be

understood. Students will also learn the processing that is actually performed during real operations. The “Pass the Exam Text: JCCI Bookkeeping Grade 1—Commercial Bookkeeping & Accounting” Series II will be used as the text.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：株式会社の財務諸表
- 2 回：棚卸資産の基礎
- 3 回：税効果会計（1）
- 4 回：税効果会計（2）
- 5 回：金銭債権・貸倒引当金（1） 現在割引価値の考え方
- 6 回：金銭債権・貸倒引当金（2）
- 7 回：有価証券（1）
- 8 回：有価証券（2）
- 9 回：有価証券（3）
- 10 回：外貨換算会計
- 11 回：デリバティブ取引（為替予約を中心に）
- 12 回：デリバティブ取引（為替予約を中心に）
- 13 回：復習
- 14 回：復習

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

前回までに学習した内容を確実にこなせるようにしてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 出席および授業参加度:30%

4分の1以上の欠席は理由を問わず単位修得ができない。30分以上の遅刻は欠席とみなす。

### テキスト / Textbooks

TAC 出版 『合格テキスト日商簿記1級商業簿記・会計学』 TAC 出版 9784300106600 ○  
日商簿記テキストはいくつかに分かれています。『2』と記載のあるものを購入してください。

### 参考文献 / Readings

## 上級簿記 2

### Advanced Bookkeeping 2

高橋 浩二 (TAKAHASHI KOJI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX263  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX3910  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定： 簿記 1・2  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

#### 授業の目標 / Course Objectives

中級簿記を学習した学生を対象に、その復習をするとともに次のステップを目指した簿記の内容を学んでいきます。会計学で学ぶような理論の理解なども上級簿記では必要になってきます。

This class is for students who have studied intermediate bookkeeping with the objective of practicing what they have learned and aiming for the next step. Understanding the theory learned in accounting is also required for advanced bookkeeping.

#### 授業の内容 / Course Contents

本講義では中級簿記に引き続き、株式会社に関する簿記を学習しますが、中級簿記では学習しなかった論点なども多数出てきます。日商簿記 1 級の論点に踏み込んでいきますので、単純な仕訳だけでなく理論的な理解も必要となります。また実務で実際に行われている処理なども含めて学習してきます。テキストは「合格テキスト 日商簿記 1 級 商業簿記・会計学」シリーズの II 及びレジュメを使用します。

In this lecture, students learning bookkeeping for corporations continuing from intermediate bookkeeping, and many of the points not brought up in intermediate accounting are covered. The points from the JCCI Bookkeeping Grade 1 examination are covered, so the theory in addition to simple journal entries must be

understood. Students will also learn the processing that is actually performed during real operations. The “Pass the Exam Text: JCCI Bookkeeping Grade 1—Commercial Bookkeeping & Accounting” Series II will be used as the text.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：有形固定資産（1） 減価償却等
- 2 回：有形固定資産（2） 減価償却等・現在割引価値
- 3 回：有形固定資産（3） 減損会計
- 4 回：リース資産（1）
- 5 回：リース資産（2）
- 6 回：引当金
- 7 回：退職給付債務（1）
- 8 回：退職給付会計（2）
- 9 回：退職給付会計（2）
- 10 回：純資産
- 11 回：純資産
- 12 回：純資産
- 13 回：秋学期復習
- 14 回：秋学期復習

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義で習った内容を次の講義までに十分理解できるようにしてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 出席および授業参加度:30%

4分の1以上の欠席は理由を問わず単位修得ができない。30分以上の遅刻は欠席とみなす。

### テキスト / Textbooks

TAC株式会社 『合格テキスト 日商簿記1級 商業簿記・会計学 (2)』 TAC出版 ○  
合格テキストIIになります。他のシリーズがあるので誤らないようにしてください。

### 参考文献 / Readings

# 経営史 1

## Business History 1

日本における企業経営と経営システムの歴史的展開

島西 智輝 (SHIMANISHI TOMOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX270

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2810

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

日本の大企業の経営や経営組織の歴史を学ぶことを通して、現代の企業が置かれている状況や、企業をめぐる諸問題を歴史的な視点から考察できる。

The purpose of this course is to enable students to consider the present state of modern companies and various management issues from a historical point of view by studying the history of big businesses and business organizations in Japan.

### 授業の内容 / Course Contents

19世紀後半から20世紀後半までの日本の企業経営の歴史を解説する。とくに、現代の大企業が形成された歴史的背景と、その企業経営の特徴について注目する。

We will look at the Japanese business history from the late 19th century to the late 20th century. Especially we will focus on the historical background of the formation of modern companies and the characteristics of the business management.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス  
 2 回：ホールディングスって何？：企業組織の歴史①戦前編  
 3 回：ホールディングスって何？：企業組織の歴史②戦後編  
 4 回：メガバンクはなぜできた？：資金調達の歴史①戦前編  
 5 回：メガバンクはなぜできた？：資金調達の歴史②戦後編  
 6 回：企業で働くということ：労働と雇用の歴史①戦前編  
 7 回：企業で働くということ：労働と雇用の歴史②戦後編  
 8 回：日本の強みはものづくり？：産業と技術の歴史①戦前編  
 9 回：日本の強みはものづくり？：産業と技術の歴史②戦後編  
 10 回：日本の強みはものづくり？：産業と技術の歴史③その他編  
 11 回：企業は海をわたる：企業の国際化の歴史  
 12 回：Small is Beautiful：中小企業の歴史  
 13 回：産業の盛衰と企業：石炭産業における経験  
 14 回：企業家たちの横顔

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

(予習) 配布資料を事前に良く読み、過去の授業との関連性を考える。予習時間の目安は30分程度である。

(復習) 授業内容を振り返り、復習課題に取り組む。復習時間の目安は60分程度である。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

#### テキスト / Textbooks

配布資料を使用するため、テキストは使用しない。

#### 参考文献 / Readings

各回の配布資料で紹介する。

#### その他 / Others

特定のテキストは使用せず、配布資料、パワーポイント、映像・写真資料を使用して講義する。資料配付等については Canvas LMS を使用する。



## 経営史 2

### Business History 2

主要産業の歴史的展開と企業

島西 智輝 (SHIMANISHI TOMOKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX271
授業形態：	オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項）	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX2810
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	<input type="radio"/>
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

日本における主要産業の歴史を学ぶことを通して、日本経済における企業の役割や日本企業の抱える諸問題を歴史的な視点から考察できる。

The purpose of this course is to enable students to consider the roles of business enterprises and various management issues in the Japanese economy from a historical point of view by studying the history of major industries in Japan.

### 授業の内容 / Course Contents

19 世紀末から 20 世紀末までの主要産業の歴史を解説する。とくに、日本企業の特徴と日本の産業発展において企業が果たした役割に注目する。解説の際には、製造業にくわえて、サービス業にも目を向ける。

We will look at the history of major industries in Japan from the late 19th century to the late 20th century. Especially we will focus on the characteristics of the Japanese business management and the roles of business enterprises in the industrial development of Japan. We will cover topics about the service sector as well as the manufacturing sector.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：ガイダンス
- 2回：農業：近代日本経済の基盤
- 3回：製糸業：戦前日本最大の輸出産業
- 4回：紡績業：日本の近代産業のはじまり
- 5回：鉄鋼業：「鉄は国家なり」の実現
- 6回：石炭産業：「黒いダイヤ」を求めて
- 7回：電力業：競争と独占の展開
- 8回：機械工業：「ものづくり」の象徴
- 9回：食品工業：伝統と革新の共存
- 10回：化学工業：工業国の基盤形成
- 11回：電子工業：Made in Japan の栄光と没落
- 12回：鉄道業：貨物か旅客か、官か民か
- 13回：商業：商店街とショッピングモール
- 14回：金融業：経済の血液をめぐる

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

（予習）配布資料を事前に良く読み、過去の授業との関連性を考える。予習時間の目安は30分程度である。  
 （復習）授業内容を振り返り、復習課題に取り組む。復習時間の目安は60分程度である。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :100%  
 平常点割合 :0%

**テキスト / Textbooks**

配付資料を使用するため、テキストは使用しない。

**参考文献 / Readings**

各回の配付資料で紹介する。

**その他 / Others**

特定のテキストは使用せず、配付資料、パワーポイント、映像・写真資料を使用して講義する。資料配付等については Canvas LMS を使用する。

# 現代企業論 1

Japanese Enterprise System 1

イノベーションの経済学

関 智一 (SEKI TOMOKAZU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX272

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2810

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

伝統的な新古典派経済学において企業は長くブラックボックスとして扱われてきた。完全競争市場におけるプレイヤーとして最小費用・最大利益を実現し続ける完璧なマシンとして存在してきたわけである。しかし、今日では市場の失敗と同じく企業の組織内部にも非効率性が存在するとした企業観が、むしろ積極的に経済学の議論へと回帰しつつある。本講義ではこうした企業をめぐる経済学の新たな動きに着目しつつ、こうした議論をイノベーションや企業家精神の議論とも融合することで現代企業を理解するための理論的なフレームワークの提示を試みる。す

In traditional neoclassical economics, companies were handled as a black box for a long time. That is because in a perfectly competitive market the players exist as perfect machines that continue to realize maximum profits at minimum expense. Today however, just as in the case of market failures, the view of companies that there are inefficiencies inside a business organization is again becoming a focal point for economic debate and in a more active way than previously. This lecture will focus on this new movements in economics regarding companies and will present a theoretical platform for understanding contemporary companies by combining this discussion with

a discussion of innovation and entrepreneurial spirit. In other words, the objective of this lecture is to nurture an economics perspective for interpreting contemporary companies.

### 授業の内容 / Course Contents

イノベーションという言葉は現代企業の必須ワードでもある。イノベーションに成功することこそ企業としての成功を意味すると一般には解されているからである。ではイノベーションを何であり、またその成功とほどのように把握されるのかと問われれば、答えに窮するのが現状であろう。本講義では近年の経済学における企業理論について解説し、まずは企業に対する経済学的な分析視角について理解を深める。その上で現代企業におけるイノベーションや企業家精神なるものを経済学のフレームワークを通して理解してもらうことを目指している。それは曖昧なイノベーションの概念を明確かつ客観的な理論体系を通じて理解することにほかならない。

Innovation is an indispensable word for contemporary companies. This is because it is generally believed that to succeed, a company must be successful at innovation. So today people are searching for answers to what is innovation and how can you be successful at it. This lecture explains the recent economics business theories to deepen student understanding the economic analytical perspective for companies. An additional aim is to use an economics framework to understand innovation in contemporary companies and the entrepreneurial spirit. This is only possible by clarifying the vague innovation concepts and the corresponding objective theoretical system.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：問題の所在
- 2 回：研究開発
- 3 回：シュンペーター
- 4 回：全要素生産性
- 5 回：生産関数
- 6 回：新古典派企業
- 7 回：イノベーション
- 8 回：シュンペーター仮説
- 9 回：企業家精神
- 10 回：X-非効率性
- 11 回：企業行動仮説
- 12 回：組織慣性
- 13 回：内部非効率性
- 14 回：結論と課題

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。各自確認して予習すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

**テキスト/Textbooks**

關智一 『イノベーションと内部非効率性』 白桃書房 2017 4561267026 ○

**参考文献 / Readings**

青木昌彦・伊丹敬之 『企業の経済学』 岩波オンデマンドブックス 2016 9784007304910

池本正純 『企業家とはなにか』 八千代出版 2005 4842913414

ボーモル 『自由市場とイノベーション』 勁草書房 2010 4326503421

宮川努 『生産性とは何か』 筑摩書房 2018 4480071897

## 現代企業論 2

Japanese Enterprise System 2

直接投資と日本企業

関 智一 (SEKI TOMOKAZU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX273

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2810

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

日本企業による直接投資の実態とその理論的解釈について、最新の研究成果やデータ分析結果をもとに検討する。また、日本経済と直接投資の関係性についても取り上げ、日本企業による直接投資の進展が日本経済の産業構造に与えるインパクトについても検討を行う。

Building on the latest research output and data analysis results, we consider the state of direct investment in Japanese companies and the corresponding theoretical interpretation. In addition, the relationship between the Japanese economy and direct investment will be addressed and the impact that advancement of direct investment in Japanese companies has on the industrial structure of the Japanese economy will be considered.

### 授業の内容 / Course Contents

直接投資の進展とともに、産業空洞化や雇用喪失がそのコストとして指摘される一方、そのベネフィットについて語られる機会は少ない。本講義では、日本企業による対外直接投資について、多面的な角度からその実態を明らかにしていく。とくに、現在の日本製造業による東アジアへの直接投資の進展について、企業戦略としての東アジアネットワークの形成と、その進展の中で取り残され、また構造調整を求められる日本の国内経済

の現況と課題についても考察する。

Although it has been indicated that the advancement of direct investment has come with costs, such as the hollowing out of industry and job loss, there are few opportunities to talk about its benefits. This lecture will reveal the current state of foreign direct investment in Japanese companies from a variety of perspectives. In particular, in regards to the current advancement of direct investment in East Asia by Japanese manufacturers, this lecture also considers the formation by Japanese companies of East Asian networks as a business strategy, as well as the current issues and situation of the domestic economy in Japan, which has been left behind by this advancement, and the calls for structural adjustment.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：問題の所在
- 2 回：加速する日本企業の海外進出
- 3 回：直接投資とは何か（上）
- 4 回：直接投資とは何か（下）
- 5 回：データで見る直接投資（上）
- 6 回：データで見る直接投資（下）
- 7 回：直接投資の拡大（上）
- 8 回：直接投資の拡大（下）
- 9 回：直接投資と産業空洞化（上）
- 10 回：直接投資と産業空洞化（中）
- 11 回：直接投資と産業空洞化（下）
- 12 回：直接投資のベネフィット
- 13 回：対日直接投資の影響
- 14 回：直接投資と日本経済の課題

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。各自確認して予習すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

### テキスト / Textbooks

清田耕造 『拡大する直接投資と日本企業』 エヌティティ出版 2015 4757123191 ○

### 参考文献 / Readings

ブリニョルフソン 『インタンジブル・アセット』 ダイヤモンド社 2004 4478374651

戸堂康之 『技術伝播と経済成長』 勁草書房 2008 4326546008

深尾京司 『「失われた20年」と日本経済』 日本経済新聞出版社 2012 4532134110

NHK 取材班 『メイド・イン・ジャパン 逆襲のシナリオ』 宝島社 2013 4800207355

元橋一之 『日はまた高く 産業競争力の再生』 日本経済新聞出版社 2014 4532355907



# コーポレートガバナンス論 1

Corporate Governance 1

松田 健 (MATSUDA TAKESHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX274  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義は経済学部のディプロマポリシーに基づき、コーポレートガバナンス論 1/2 を通じて株式会社とは何か、何のために存在するのか、誰のためにあるのか、といった本源的な命題の下、企業統治に関して理論的に説明できるようになるための基底的知識と考え方を涵養することが目的です。とりわけコーポレートガバナンス論 1 では、株式会社の統治についての議論を通じて、株式会社の本質的課題を理解することが重要になります。

This course is based on the diploma policy of the Faculty of Economics, and the purpose of this lecture is to cultivate the basic knowledge of CG theory based on the fundamental propositions such as what a corporation is, what it exists for, and for whom it exists etc, through “Corporate Governance 1(2023SS)” and “Corporate Governance 2(2023AW)”.

Especially Corporate Governance 1, the purpose is to understand the essential issues of a stock corporation, through a discussion of the corporate governance.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、CG 論 1/2 を通じて（受講人数にもよりますが）アクティブラーニングの手法を重視しつつ、講

義期間の前段ではCGを理解する上での基本的理論を学び、企業に関する基礎的な知識、概念ならびに理論等を広く体系的に習得します。とりわけ1では企業の基本的構造、主として制度上の観点からの基本的課題事項の整理に加え、新制度派経済学の理論からのアプローチを通じて、現代企業の特質とその役割とに関して学びます。その理解のもと、後段では具体的なケースをもとに講義を展開しますので、予習は必須となります。

This course emphasizes active learning. In this lecture, you will acquire basic knowledge, concepts, and theories of companies widely and systematically. Especially in “Corporate Governance 1”, you will study about the characteristics of modern enterprises and their role through approaches based on the theory of new institutional economics, as well as the basic structure of enterprises, arrangement of fundamental issues from an institutional perspective.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：企業統治論の射程
- 2回：株式会社とは何か
- 3回：新制度派経済学による企業統治へのアプローチ（1）経済の金融化
- 4回：新制度派経済学による企業統治へのアプローチ（2）取引コストの理論
- 5回：新制度派経済学による企業統治へのアプローチ（3）所有権の理論
- 6回：新制度派経済学による企業統治へのアプローチ（4）エージェンシー理論
- 7回：巨大株式会社と会社機関構造（1）
- 8回：巨大株式会社と会社機関構造（2）
- 9回：株式会社と経営者支配
- 10回：ステークホルダーと企業統治
- 11回：企業不祥事と企業を監視する仕組み（1）企業内部の監視機能
- 12回：企業不祥事と企業を監視する仕組み（2）企業外部からの監視
- 13回：戦後の経済発展と日本的経営
- 14回：日本企業の企業統治の課題とは

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

教科書を指定している理由のひとつは、本講義の射程範囲にある基本的事項にいつでもアクセスできることで、予習/復習を容易にさせるためです。1コマあたりの予習/復習には60分程度はかかると考えています。講義時には事前に資料を配布しますので、この資料と教科書とを読んで講義に臨んで下さい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 講義内小テスト 1:15% 講義内小テスト 2:15%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

風間信隆編著 『よくわかるコーポレート・ガバナンス』 ミネルヴァ書房 2019 9784623083992

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

企業経営とそれを取り巻く経済社会との相互関連に対する理解を深めるためには、新聞を毎日読むことがとてもよい刺激になります。それだけに留まらず、様々な媒体の政治・経済・経営関連記事にも目を通し、現代の経済・経営にとって何が問題となっているのかという点にアンテナを張るように心がけて下さい。また、用語がわからないと講義を聞いても理解不足に陥ります。自分で使い易い経営学辞典あるいは経営学用語集を入手しておいて下さい。

# コーポレートガバナンス論2

Corporate Governance 2

松田 健 (MATSUDA TAKESHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX275  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義は経済学部のディプロマポリシーに基づき、コーポレートガバナンス論 1/2 を通じて株式会社とは何か、何のために存在するのか、誰のためにあるのか、といった本源的な命題の下、企業統治に関して理論的に説明できるようになるための基底的知識と考え方を涵養することが目的です。とりわけコーポレートガバナンス論 2 では、株式会社制度の本源的課題と直結する企業統治の諸問題を取り上げます。株式会社をどのように捉えるのか、という本質的な課題に対して一定の意見を述べられるようになることが本講義の到達目標になります。

This course is based on the diploma policy of the Faculty of Economics, and the purpose is to cultivate the basic knowledge of CG theory based on the fundamental propositions such as what a corporation is, what it exists for, and for whom it exists etc, through “Corporate Governance 1(2023 SS)” and “Corporate Governance 2(2023-24AW)”. In particular, Corporate Governance 2 deals with the corporate governance problems these are directly related to the fundamental issues of the stock corporation. The goal is you became able to express your opinion for the essential issues of how to view a stock corporation.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、(受講者の人数にもよりますが) CG 論 1/2 を通じてアクティブラーニングの手法を重視しつつ、企業に関する基礎的な知識、概念ならびに理論等を広く体系的に習得します。とりわけコーポレートガバナンス論 2 では、企業統治の具体的課題事項の検討を通じて、多面性を持つ存在としての企業が市場とどのように向き合っているのか、という点についても学びます。予習は必須となります。

This course emphasizes active learning. In this lecture, you will acquire basic knowledge, concepts, and theories of companies widely and systematically. Especially in Corporate Governance 2, you will study how companies as multi-faceted entities face the market through the examination of the specific issues of corporate governance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：市場と企業
- 2 回：株式会社誕生期における企業統治問題
- 3 回：機関投資家と株式会社
- 4 回：経営者報酬と企業統治
- 5 回：同族企業と企業統治
- 6 回：M&A と企業戦略
- 7 回：株式会社の資本政策と株式市場
- 8 回：株式会社の資本コストと事業投資
- 9 回：ESG 投資と株式会社の社会的責任
- 10 回：英国・米国における企業統治（1）米国における企業と社会
- 11 回：英国・米国における企業統治（2）英国における企業と社会
- 12 回：欧州における企業統治（1）独国における企業と社会
- 13 回：欧州における企業統治（2）北欧における企業と社会
- 14 回：企業倫理と企業統治

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

教科書を指定している理由のひとつは、本講義の射程範囲にある基本的事項にいつでもアクセスできることで、予習/復習を容易にさせるためです。1 コマあたりの予習/復習には 60 分程度はかかると考えています。講義時には事前に資料を配布しますので、この資料と教科書とを読んで講義に臨んで下さい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 小テスト 1:20% 小テスト 2:20%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

風間信隆編著 『よくわかるコーポレート・ガバナンス』 ミネルヴァ書房 2019 9784623083992

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

企業経営とそれを取り巻く経済社会との相互関連に対する理解を深めるためには、新聞を毎日読むことはとてもよい刺激になります。それだけに留まらず、様々な媒体の政治・経済・経営関連記事にも目を通し、現代の

経済・経営にとって何が問題となっているのかという点にアンテナを張るように心がけて下さい。また、用語がわからないと講義を聞いても理解不足に陥ります。自分で使い易い経営学辞典あるいは経営学用語集を入手しておいて下さい。

# 国際経営論 1

International Business Management 1

中川 充 (NAKAGAWA MITSURU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX276  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義の目標は、グローバルに事業を展開する企業の戦略的・組織的マネジメントについて、一般的な経営学に関する理論と対比させながら理解することです。

The goal of this course is to understand the strategic and organizational management of multinational companies (MNCs) by contrasting it with theories related to general business administration.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、グローバルに事業を展開する企業を対象として、国際化の背景やねらい、そして、基本的な戦略について学習します。

In this course, students will learn about the background, aims, and basic strategies of internationalization for MNCs.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：授業の方針、概要、ならびにその他の重要事項の説明
- 2 回：企業の成長と国際化
- 3 回：国、産業、企業の競争力

- 4回：国際経営の制度と環境
- 5回：国際化の歴史と進展
- 6回：事業活動の配置と調整
- 7回：ケース分析(1)
- 8回：ビジネスの基本戦略
- 9回：国際化戦略
- 10回：市場戦略の基礎
- 11回：国際市場細分化戦略
- 12回：国際市場参入戦略
- 13回：ケース分析(2)
- 14回：講義全体の復習とまとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

詳細については初回の授業で指示します。

各回のテーマに関連する新聞記事やニュースなどについて、日頃から興味関心をもっておく必要があります。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

#### テキスト / Textbooks

テキストについての詳細は、授業中に説明します。

#### 参考文献 / Readings

参考文献/書籍は、適宜、授業中に紹介します。

#### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

授業は、Zoom を用いた同時双方向の形式で行います。PowerPoint/Google スライドを使用した講義形式で行いますが、受講生による発言やケースの分析、受講生間でのディスカッションなども取り入れていく予定です。そのため、授業生には、受け身ではなく積極的に授業へ参加する姿勢が期待されます。

#### その他 / Others

なお、各回の学習内容や進行は、受講生の理解度などにより変更する場合があります。



## 国際経営論 2

International Business Management 2

中川 充 (NAKAGAWA MITSURU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX277  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本講義の目標は、グローバルに事業を展開する企業の戦略的・組織的マネジメントについて、一般的な経営学に関する理論と対比させながら理解することです。

The goal of this course is to understand the strategic and organizational management of multinational companies (MNCs) by contrasting it with theories related to general business administration.

### 授業の内容 / Course Contents

本講義では、グローバルに事業を展開する企業を対象として、戦略と組織のマネジメントについて学習します。

In this course, students will learn about strategic and organizational management for MNCs.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：授業の方針、概要、ならびにその他の重要事項の説明
- 2 回：ポジショニングと競争優位性
- 3 回：経営資源と競争優位性
- 4 回：多国籍企業の競争優位性

- 5 回：先進国市場と新興国市場  
 6 回：グローバルな視点でのイノベーション  
 7 回：ケース分析(1)  
 8 回：組織の構造  
 9 回：多国籍企業の組織構造  
 10 回：組織のマネジメント  
 11 回：多国籍企業の組織マネジメント  
 12 回：国際経営と人材マネジメント  
 13 回：ケース分析(2)  
 14 回：講義全体の復習とまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

詳細については初回の授業で指示します。

各回のテーマに関連する新聞記事やニュースなどについて、日頃から興味関心をもっておく必要があります。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

### テキスト / Textbooks

テキストについての詳細は、授業中に説明します。

### 参考文献 / Readings

参考文献/書籍は、適宜、授業中に紹介します。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

授業は、Zoom を用いた同時双方向の形式で行います。PowerPoint/Google スライドを使用した講義形式で行いますが、受講生の発言やケース分析、受講生間でのディスカッションなども取り入れていく予定です。そのため、授業生には、受け身ではなく積極的に授業へ参加する姿勢が期待されます。

### その他 / Others

国際経営論 1 の履修を前提にした内容になります。

なお、各回の学習内容や進行は、受講生の理解度などにより変更する場合があります。

# マーケティング論 1

Marketing 1

兼村 栄哲 (KANEMURA EITETSU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX278  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

マーケティングにかかわる基礎的な用語・概念・理論などを正確に理解し、さまざまなマーケティング現象について自分なりに論理的に説明することができるようになる。

We will be able to understand the basic terms, concepts, theories, etc. related to marketing accurately, and to explain various marketing phenomena logically in our own way.

## 授業の内容 / Course Contents

「マーケティング論 1」および秋学期に開講する「マーケティング論 2」では、とくに消費財メーカーの視点に立脚し、マーケティングにおける基礎的な用語・概念・理論などを、具体例をまじえつつ、わかりやすく説明していく。

この「マーケティング論 1」では、マーケティングの概要、マーケティング・コンセプト、企業経営におけるマーケティングの役割、マーケティング管理過程、マーケティング・リサーチ、製品政策、の 6 つの領域を取り扱う。

In "Marketing 1" and "Marketing 2", which is held in the fall semester, we will explain the basic terms, concepts, and theories etc. related to marketing from the perspective of consumer goods manufacturers in an

easy-to-understand manner using specific examples.

This class, Marketing 1, will cover the six areas of an overview of marketing, marketing concepts, the role of marketing in business administration, the marketing management process, marketing research, and product policies.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：①オリエンテーション
- ②マーケティングとは（その1）－ニーズと欲求、商品の階層性、マーケティング・マイオピア、産業、ニーズ・欲求と 需要の関係－
- 2回：マーケティングとは（その2）－財とサービスの違い－
- 3回：マーケティング・コンセプト（その1）－消費者志向－
- 4回：マーケティング・コンセプト（その2）－利潤志向、統合性－
- 5回：企業経営におけるマーケティングの役割
- 6回：マーケティング管理過程（その1）－マーケティング管理、市場機会の分析－
- 7回：マーケティング管理過程（その2）－標的市場の設定・ポジショニング、マーケティング目標の設定、マーケティング計画の策定、マーケティング組織の編成、マーケティング計画の実施、マーケティング統制－
- 8回：マーケティング・リサーチ（その1）－データと情報、データの種類、(第)一次データの収集法－
- 9回：マーケティング・リサーチ（その2）－全数調査と標本調査－
- 10回：製品政策（その1）－マーケティング論における「製品」、製品の構造・構成要素－
- 11回：製品政策（その2）－ブランドの起源・役割・構成要素－
- 12回：製品政策（その3）－ブランドの分類、新製品の意義・普及過程、新製品の開発過程－
- 13回：製品政策（その4）－製品ライフ・サイクル－
- 14回：製品政策（その5）－製品ミックス－

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ①とくに専門用語に留意しつつ、事前に配信する教材を予習しておくこと。
- ②各授業の内容について、入念に復習すること。
- ③日頃から、「日本経済新聞」、「日経産業新聞」、「日経 MJ（流通新聞）」などの新聞や「週刊ダイヤモンド」、「週刊東洋経済」、「日経ビジネス」などの雑誌を読んだり、「クローズアップ現代」、「日経スペシャル ガイアの夜明け」、「日経スペシャル カンブリア宮殿」、「ワールドビジネスサテライト（WBS）」を観たりするなどして、マーケティングに関心をもつこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

### テキスト / Textbooks

なし（配信する教材に基づいて、授業を進めていく）。

**参考文献 / Readings**

フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩藏直人（著） 『マーケティング原理』 丸善出版  
2014年 9784621066225

**その他/ Others**

- ①教材などは、「Canvas LMS」を通じて配信する。
- ②課外活動、就職活動などによる単位修得の申し出には、一切応じない。

# マーケティング論 2

Marketing 2

兼村 栄哲 (KANEMURA EITETSU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX279  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2810  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

マーケティングにかかわる基礎的な用語・概念・理論などを正確に理解し、さまざまなマーケティング現象について自分なりに論理的に説明することができるようになる。

We will be able to understand the basic terms, concepts, theories, etc. related to marketing accurately, and to explain various marketing phenomena logically in our own way.

## 授業の内容 / Course Contents

「マーケティング論 2」は、春学期に開講した「マーケティング論 1」に引き続く内容であり、とくに消費財メーカーの視点に立脚し、マーケティングにおける基礎的な用語・概念・理論などを、具体例をまじえつつ、わかりやすく説明していく。

この「マーケティング論 2」では、価格政策、プロモーション政策、経路政策、の 3 つの領域を取り扱う。

"Marketing 2" is a continuation of "Marketing 1", and we will explain the basic terms, concepts, and theories etc. related to marketing from the perspective of consumer goods manufacturers in an easy-to-understand manner using specific examples.

This class, Marketing 2, will cover the three areas of pricing policy, promotion policy, and channel policy.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：①オリエンテーション
- ②価格政策（その1）－価格の意義－
- 2 回：価格政策（その2）－価格の種類－
- 3 回：価格政策（その3）－価格政策の領域－
- 4 回：価格政策（その4）－価格設定の方法① 費用重視型の価格設定－
- 5 回：価格政策（その5）－価格設定の方法② 需要重視型および競争重視型の価格設定－
- 6 回：価格政策（その6）－新製品導入時における価格政策、価格管理の方法－
- 7 回：プロモーション政策（その1）－情報伝達過程、広告活動－
- 8 回：プロモーション政策（その2）－人的販売活動－
- 9 回：プロモーション政策（その3）－販売促進活動－
- 10 回：プロモーション政策（その4）－パブリシティ活動－
- 11 回：経路政策（その1）－商的流通経路と物的流通経路－
- 12 回：経路政策（その2）－主要な流通機関－
- 13 回：経路政策（その3）－商的流通にかかわる活動－
- 14 回：経路政策（その4）－販売経路の設定と管理－

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

- ①とくに専門用語に留意しつつ、事前に配信する教材を予習しておくこと。
- ②各授業の内容について、入念に復習すること。
- ③日頃から、「日本経済新聞」、「日経産業新聞」、「日経 MJ (流通新聞)」などの新聞や「週刊ダイヤモンド」、「週刊東洋経済」、「日経ビジネス」などの雑誌を読んだり、「クローズアップ現代」、「日経スペシャル ガイアの夜明け」、「日経スペシャル カンブリア宮殿」、「ワールドビジネスサテライト (WBS)」を観たりするなどして、マーケティングに関心をもつこと。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation**

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

**テキスト / Textbooks**

なし (配信する教材に基づいて、授業を進めていく)。

**参考文献 / Readings**

フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩藏直人 (著) 『マーケティング原理』 丸善出版  
2014年 9784621066225

**その他 / Others**

- ①教材などは、「Canvas LMS」を通じて配信する。
- ②課外活動、就職活動などによる単位修得の申し出には、一切応じない。

# 統計学 1

Statistics 1

経済における記述統計学

一ノ瀬 大輔 (ICHINOSE DAISUKE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX281
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1310
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済学科 1 年次 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

授業で学んだ指標について、実際のデータを当てはめて自力で計算できるようにする。

For students to become able to use actual data to calculate the indicators learned in class.

## 授業の内容 / Course Contents

平均、分散、要因分解法の基礎、金利計算といった記述統計学を網羅的に学び、実際にそれぞれ授業で学んだ内容を計算できるようにする。

Descriptive statistics, such as average, variance, factor decomposition basics, and interest calculation, will be comprehensively studied and students will become able to do the calculations for the content covered in this class.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：統計データの基礎知識(変数の尺度、時系列・横断面の違い、グラフの種類・読み方、e-Stat・公的統計)
- 2 回：中心の特性値(平均の種類と計算、メジアン、モード)
- 3 回：前期比増減率、平均成長率



- 4回：ばらつきの特性値(平均偏差、分散、標準偏差、偏差値)  
 5回：度数分布(度数分布表、ヒストグラム、四分位範囲)  
 6回：ローレンツ曲線とジニ係数(横断面データの集め方、不平等度の測り方)  
 7回：データ分析とクロス集計(相関関係と因果関係の違い)  
 8回：散布図・共分散  
 9回：相関係数  
 10回：時系列データ(時系列データの集め方、構成比、寄与度、寄与率、平均成長率)  
 11回：指数に関する演習(調和平均、指数算式)  
 12回：変動係数物価と実質化  
 13回：金利計算  
 14回：金利計算の応用

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業内に指示した提出物(課題、レポート):30%

### テキスト / Textbooks

授業に際して担当教員より指示する。

### 参考文献 / Readings

石崎克也・渡辺美智子 『身近な統計』 放送大学教育振興会 2018 9784595318986

稲葉由之 『プレステップ統計学 I』 弘文堂 2019 9784335000843

### その他 / Others

この科目は社会調査士認定 C 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi/SitePages/index.aspx>) を通じて統計検定を受験して資格取得することも可能である。

# 統計学 2

Statistics 2

推測統計学入門

一ノ瀬 大輔 (ICHINOSE DAISUKE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX282
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1310
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済学科 1 年次 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

母集団と標本の関係や、正規分布とカイ二乗分布、t 分布の関係を理解しながら最終的に正規分布などを仮定して仮説検定、回帰分析を行えるようにする。

To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions about the normal distribution, etc., and perform regression analysis.

## 授業の内容 / Course Contents

推測推測統計学の要点を網羅的に学ぶ。母集団と標本の関係や、正規分布と  $\chi$  二乗分布、t 分布の関係を理解しながら正規分布などを仮定して信頼区間の推定や仮説検定を行えるようにする。最終的に回帰分析を行い、分析結果の解釈と仮説検定をできるようにする。

Students comprehensively learn the points of inferential statistics. To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared

distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions and confidence interval for the normal distribution, etc. Finally, students will become able to perform regression analysis, interpret the distribution results, and conduct hypothesis testing.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：確率の概念
- 2 回：確率分布(離散的確率分布、正規分布他)
- 3 回：正規分布と標準化
- 4 回：標準正規分布表と演習
- 5 回：不偏推定量と標本分布
- 6 回：大数の法則と中心極限定理
- 7 回：信頼区間の推定(t 分布、母分散未知小標本の場合を中心に)
- 8 回：カイ 2 乗分布、母分散の区間推定
- 9 回：F 分布
- 10 回：仮説検定の基本
- 11 回：仮説検定の応用(有意水準、検出力)
- 12 回：2 群の平均の差の検定
- 13 回：回帰分析(分析事例、結果の読み方)
- 14 回：回帰分析の注意点

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業内提出物(課題・レポート):30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

栗原伸一 『入門統計学』 オーム社 2021 9784274227387

栗原伸一・丸山敦史 『統計学図鑑』 オーム社 2017 9784274220807

### その他 / Others

この科目は社会調査士認定 D 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi/SitePages/index.aspx>)を通じて統計検定を受験して資格取得することも可能である。

# 統計学 1

Statistics 1

経済における記述統計学

野地 もも (NOJI MOMO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX283
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1310
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済学科 1 年次 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

授業で学んだ指標について、実際のデータを当てはめて自力で計算できるようにする。

For students to become able to use actual data to calculate the indicators learned in class.

## 授業の内容 / Course Contents

平均、分散、要因分解法の基礎、金利計算といった記述統計学を網羅的に学び、実際にそれぞれ授業で学んだ内容を計算できるようにする。

Descriptive statistics, such as average, variance, factor decomposition basics, and interest calculation, will be comprehensively studied and students will become able to do the calculations for the content covered in this class.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：統計データの基礎知識(変数の尺度、時系列・横断面の違い、グラフの種類・読み方、e-Stat・公的統計)
- 2 回：中心の特性値(平均の種類と計算、メジアン、モード)
- 3 回：前期比増減率、平均成長率

- 4回：ばらつきの特性値(平均偏差、分散、標準偏差、偏差値)  
 5回：度数分布(度数分布表、ヒストグラム、四分位範囲)  
 6回：ローレンツ曲線とジニ係数(横断面データの集め方、不平等度の測り方)  
 7回：データ分析とクロス集計(相関関係と因果関係の違い)  
 8回：散布図・共分散  
 9回：相関係数  
 10回：時系列データ(時系列データの集め方、構成比、寄与度、寄与率、平均成長率)  
 11回：指数に関する演習(調和平均、指数算式)  
 12回：変動係数物価と実質化  
 13回：金利計算  
 14回：金利計算の応用

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業内に指示した提出物(課題、レポート):30%

### テキスト / Textbooks

授業に際して担当教員より指示する。

### 参考文献 / Readings

石崎克也・渡辺美智子 『身近な統計』 放送大学教育振興会 2018 9784595318986

稲葉由之 『プレステップ統計学 I』 弘文堂 2019 9784335000843

### その他 / Others

この科目は社会調査士認定 C 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi/SitePages/index.aspx>) を通じて統計検定を受験して資格取得することも可能である。

## 統計学 2

Statistics 2

推測統計学入門

野地 もも (NOJI MOMO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX284
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1310
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済学科 1 年次 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

母集団と標本の関係や、正規分布とカイ二乗分布、t 分布の関係を理解しながら最終的に正規分布などを仮定して仮説検定、回帰分析を行えるようにする。

To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions about the normal distribution, etc., and perform regression analysis.

### 授業の内容 / Course Contents

推測推測統計学の要点を網羅的に学ぶ。母集団と標本の関係や、正規分布と  $\chi$  二乗分布、t 分布の関係を理解しながら正規分布などを仮定して信頼区間の推定や仮説検定を行えるようにする。最終的に回帰分析を行い、分析結果の解釈と仮説検定をできるようにする。

Students comprehensively learn the points of inferential statistics. To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared

distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions and confidence interval for the normal distribution, etc. Finally, students will become able to perform regression analysis, interpret the distribution results, and conduct hypothesis testing.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：確率の概念
- 2 回：確率分布(離散的確率分布、正規分布他)
- 3 回：正規分布と標準化
- 4 回：標準正規分布表と演習
- 5 回：不偏推定量と標本分布
- 6 回：大数の法則と中心極限定理
- 7 回：信頼区間の推定(t 分布、母分散未知小標本の場合を中心に)
- 8 回：カイ 2 乗分布、母分散の区間推定
- 9 回：F 分布
- 10 回：仮説検定の基本
- 11 回：仮説検定の応用(有意水準、検出力)
- 12 回：2 群の平均の差の検定
- 13 回：回帰分析(分析事例、結果の読み方)
- 14 回：回帰分析の注意点

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業内提出物(課題・レポート):30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

栗原伸一 『入門統計学』 オーム社 2021 9784274227387

栗原伸一・丸山敦史 『統計学図鑑』 オーム社 2017 9784274220807

### その他 / Others

この科目は社会調査士認定 D 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi/SitePages/index.aspx>) を通じて統計検定を受験して資格取得することも可能である。

# 統計学 1

Statistics 1

経済における記述統計学

一ノ瀬 大輔 (ICHINOSE DAISUKE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX285
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1310
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済政策学科 1 年次 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

授業で学んだ指標について、実際のデータを当てはめて自力で計算できるようにする。

For students to become able to use actual data to calculate the indicators learned in class.

## 授業の内容 / Course Contents

平均、分散、要因分解法の基礎、金利計算といった記述統計学を網羅的に学び、実際にそれぞれ授業で学んだ内容を計算できるようにする。

Descriptive statistics, such as average, variance, factor decomposition basics, and interest calculation, will be comprehensively studied and students will become able to do the calculations for the content covered in this class.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：統計データの基礎知識(変数の尺度、時系列・横断面の違い、グラフの種類・読み方、e-Stat・公的統計)
- 2 回：中心の特性値(平均の種類と計算、メジアン、モード)
- 3 回：前期比増減率、平均成長率



- 4回：ばらつきの特性値(平均偏差、分散、標準偏差、偏差値)  
 5回：度数分布(度数分布表、ヒストグラム、四分位範囲)  
 6回：ローレンツ曲線とジニ係数(横断面データの集め方、不平等度の測り方)  
 7回：データ分析とクロス集計(相関関係と因果関係の違い)  
 8回：散布図・共分散  
 9回：相関係数  
 10回：時系列データ(時系列データの集め方、構成比、寄与度、寄与率、平均成長率)  
 11回：指数に関する演習(調和平均、指数算式)  
 12回：変動係数物価と実質化  
 13回：金利計算  
 14回：金利計算の応用

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業内に指示した提出物(課題、レポート):30%

### テキスト / Textbooks

授業に際して担当教員より指示する。

### 参考文献 / Readings

石崎克也・渡辺美智子 『身近な統計』 放送大学教育振興会 2018 9784595318986

稲葉由之 『プレステップ統計学 I』 弘文堂 2019 9784335000843

### その他 / Others

この科目は社会調査士認定 C 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi/SitePages/index.aspx>) を通じて統計検定を受験して資格取得することも可能である。

# 統計学 2

Statistics 2

推測統計学入門

一ノ瀬 大輔 (ICHINOSE DAISUKE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX286
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1310
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済政策学科 1 年次 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

母集団と標本の関係や、正規分布とカイ二乗分布、t 分布の関係を理解しながら最終的に正規分布などを仮定して仮説検定、回帰分析を行えるようにする。

To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions about the normal distribution, etc., and perform regression analysis.

## 授業の内容 / Course Contents

推測推測統計学の要点を網羅的に学ぶ。母集団と標本の関係や、正規分布と  $\chi$  二乗分布、t 分布の関係を理解しながら正規分布などを仮定して信頼区間の推定や仮説検定を行えるようにする。最終的に回帰分析を行い、分析結果の解釈と仮説検定をできるようにする。

Students comprehensively learn the points of inferential statistics. To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared

distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions and confidence interval for the normal distribution, etc. Finally, students will become able to perform regression analysis, interpret the distribution results, and conduct hypothesis testing.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：確率の概念
- 2 回：確率分布(離散的確率分布、正規分布他)
- 3 回：正規分布と標準化
- 4 回：標準正規分布表と演習
- 5 回：不偏推定量と標本分布
- 6 回：大数の法則と中心極限定理
- 7 回：信頼区間の推定(t 分布、母分散未知小標本の場合を中心に)
- 8 回：カイ 2 乗分布、母分散の区間推定
- 9 回：F 分布
- 10 回：仮説検定の基本
- 11 回：仮説検定の応用(有意水準、検出力)
- 12 回：2 群の平均の差の検定
- 13 回：回帰分析(分析事例、結果の読み方)
- 14 回：回帰分析の注意点

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業内提出物(課題・レポート):30%

### テキスト/ Textbooks

### 参考文献 / Readings

栗原伸一 『入門統計学』 オーム社 2021 9784274227387

栗原伸一・丸山敦史 『統計学図鑑』 オーム社 2017 9784274220807

### その他/ Others

この科目は社会調査士認定 D 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター(<https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi/SitePages/index.aspx>)を通じて統計検定を受験して資格取得することも可能である。

# 統計学 1

Statistics 1

経済における記述統計学

櫻本 健 (SAKURAMOTO TAKESHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX287
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1310
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	会計ファイナンス学科 1 年次 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

授業で学んだ指標について、実際のデータを当てはめて自力で計算できるようにする。

For students to become able to use actual data to calculate the indicators learned in class.

## 授業の内容 / Course Contents

平均、分散、要因分解法の基礎、金利計算といった記述統計学を網羅的に学び、実際にそれぞれ授業で学んだ内容を計算できるようにする。

Descriptive statistics, such as average, variance, factor decomposition basics, and interest calculation, will be comprehensively studied and students will become able to do the calculations for the content covered in this class.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：統計データの基礎知識(変数の尺度、時系列・横断面の違い、グラフの種類・読み方、e-Stat・公的統計)
- 2 回：中心の特性値(平均の種類と計算、メジアン、モード)
- 3 回：前期比増減率、平均成長率

- 4回：ばらつきの特性値(平均偏差、分散、標準偏差、偏差値)  
 5回：度数分布(度数分布表、ヒストグラム、四分位範囲)  
 6回：ローレンツ曲線とジニ係数(横断面データの集め方、不平等度の測り方)  
 7回：データ分析とクロス集計(相関関係と因果関係の違い)  
 8回：散布図・共分散  
 9回：相関係数  
 10回：時系列データ(時系列データの集め方、構成比、寄与度、寄与率、平均成長率)  
 11回：指数に関する演習(調和平均、指数算式)  
 12回：変動係数物価と実質化  
 13回：金利計算  
 14回：金利計算の応用

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワーポイント等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業内に指示した提出物(課題、レポート):30%

### テキスト / Textbooks

授業に際して担当教員より指示する。

### 参考文献 / Readings

石崎克也・渡辺美智子 『身近な統計』 放送大学教育振興会 2018 9784595318986

稲葉由之 『プレステップ統計学 I』 弘文堂 2019 9784335000843

### その他 / Others

この科目は社会調査士認定 C 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター(<https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi/SitePages/index.aspx>)を通じて統計検定を受験して資格取得することも可能である。

# 統計学 2

Statistics 2

推測統計学入門

櫻本 健 (SAKURAMOTO TAKESHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX288  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX1310  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： 会計ファイナンス学科 1 年次 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

母集団と標本の関係や、正規分布とカイ二乗分布、t 分布の関係を理解しながら最終的に正規分布などを仮定して仮説検定、回帰分析を行えるようにする。

To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions about the normal distribution, etc., and perform regression analysis.

## 授業の内容 / Course Contents

推測推測統計学の要点を網羅的に学ぶ。母集団と標本の関係や、正規分布と  $\chi$  二乗分布、t 分布の関係を理解しながら正規分布などを仮定して信頼区間の推定や仮説検定を行えるようにする。最終的に回帰分析を行い、分析結果の解釈と仮説検定をできるようにする。

Students comprehensively learn the points of inferential statistics. To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared

distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions and confidence interval for the normal distribution, etc. Finally, students will become able to perform regression analysis, interpret the distribution results, and conduct hypothesis testing.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：確率の概念
- 2 回：確率分布(離散的確率分布、正規分布他)
- 3 回：正規分布と標準化
- 4 回：標準正規分布表と演習
- 5 回：不偏推定量と標本分布
- 6 回：大数の法則と中心極限定理
- 7 回：信頼区間の推定(t 分布、母分散未知小標本の場合を中心に)
- 8 回：カイ 2 乗分布、母分散の区間推定
- 9 回：F 分布
- 10 回：仮説検定の基本
- 11 回：仮説検定の応用(有意水準、検出力)
- 12 回：2 群の平均の差の検定
- 13 回：回帰分析(分析事例、結果の読み方)
- 14 回：回帰分析の注意点

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業内提出物(課題・レポート):30%

### テキスト/ Textbooks

### 参考文献 / Readings

栗原伸一 『入門統計学』 オーム社 2021 9784274227387

栗原伸一・丸山敦史 『統計学図鑑』 オーム社 2017 9784274220807

### その他/ Others

この科目は社会調査士認定 D 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター(<https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi/SitePages/index.aspx>)を通じて統計検定を受験して資格取得することも可能である。

# 統計学 1

Statistics 1

経済における記述統計学

一ノ瀬 大輔 (ICHINOSE DAISUKE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX291
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1310
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済学科 2～4 年 A～G, Y 組

## 授業の目標 / Course Objectives

授業で学んだ指標について、実際のデータを当てはめて自力で計算できるようにする。

For students to become able to use actual data to calculate the indicators learned in class.

## 授業の内容 / Course Contents

平均、分散、要因分解法の基礎、金利計算といった記述統計学を網羅的に学び、実際にそれぞれ授業で学んだ内容を計算できるようにする。

Descriptive statistics, such as average, variance, factor decomposition basics, and interest calculation, will be comprehensively studied and students will become able to do the calculations for the content covered in this class.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：統計データの基礎知識(変数の尺度、時系列・横断面の違い、グラフの種類・読み方、e-Stat・公的統計)
- 2 回：中心の特性値(平均の種類と計算、メジアン、モード)
- 3 回：前期比増減率、平均成長率



- 4回：ばらつきの特性値(平均偏差、分散、標準偏差、偏差値)  
 5回：度数分布(度数分布表、ヒストグラム、四分位範囲)  
 6回：ローレンツ曲線とジニ係数(横断面データの集め方、不平等度の測り方)  
 7回：データ分析とクロス集計(相関関係と因果関係の違い)  
 8回：散布図・共分散  
 9回：相関係数  
 10回：時系列データ(時系列データの集め方、構成比、寄与度、寄与率、平均成長率)  
 11回：指数に関する演習(調和平均、指数算式)  
 12回：変動係数物価と実質化  
 13回：金利計算  
 14回：金利計算の応用

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワーポイント等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業内に指示した提出物(課題、レポート):30%

### テキスト / Textbooks

授業に際して担当教員より指示する。

### 参考文献 / Readings

石崎克也・渡辺美智子 『身近な統計』 放送大学教育振興会 2018 9784595318986

稲葉由之 『プレステップ統計学 I』 弘文堂 2019 9784335000843

### その他 / Others

この科目は社会調査士認定 C 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi/SitePages/index.aspx>)を通じて統計検定を受験して資格取得することも可能である。

# 統計学 2

Statistics 2

推測統計学入門

一ノ瀬 大輔 (ICHINOSE DAISUKE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX292
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1310
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済学科 2～4 年 A～G, Y 組

## 授業の目標 / Course Objectives

母集団と標本の関係や、正規分布とカイ二乗分布、t 分布の関係を理解しながら最終的に正規分布などを仮定して仮説検定、回帰分析を行えるようにする。

To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions about the normal distribution, etc., and perform regression analysis.

## 授業の内容 / Course Contents

推測推測統計学の要点を網羅的に学ぶ。母集団と標本の関係や、正規分布と  $\chi$  二乗分布、t 分布の関係を理解しながら正規分布などを仮定して信頼区間の推定や仮説検定を行えるようにする。最終的に回帰分析を行い、分析結果の解釈と仮説検定をできるようにする。

Students comprehensively learn the points of inferential statistics. To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared

distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions and confidence interval for the normal distribution, etc. Finally, students will become able to perform regression analysis, interpret the distribution results, and conduct hypothesis testing.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：確率の概念
- 2 回：確率分布(離散的確率分布、正規分布他)
- 3 回：正規分布と標準化
- 4 回：標準正規分布表と演習
- 5 回：不偏推定量と標本分布
- 6 回：大数の法則と中心極限定理
- 7 回：信頼区間の推定(t 分布、母分散未知小標本の場合を中心に)
- 8 回：カイ 2 乗分布、母分散の区間推定
- 9 回：F 分布
- 10 回：仮説検定の基本
- 11 回：仮説検定の応用(有意水準、検出力)
- 12 回：2 群の平均の差の検定
- 13 回：回帰分析(分析事例、結果の読み方)
- 14 回：回帰分析の注意点

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業内提出物(課題・レポート):30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

栗原伸一 『入門統計学』 オーム社 2021 9784274227387

栗原伸一・丸山敦史 『統計学図鑑』 オーム社 2017 9784274220807

### その他 / Others

この科目は社会調査士認定 D 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi/SitePages/index.aspx>) を通じて統計検定を受験して資格取得することも可能である。

# 統計学 1

Statistics 1

経済における記述統計学

野地 もも (NOJI MOMO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX293  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX1310  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： 経済学科 2～4 年 H～P 組

## 授業の目標 / Course Objectives

授業で学んだ指標について、実際のデータを当てはめて自力で計算できるようにする。

For students to become able to use actual data to calculate the indicators learned in class.

## 授業の内容 / Course Contents

平均、分散、要因分解法の基礎、金利計算といった記述統計学を網羅的に学び、実際にそれぞれ授業で学んだ内容を計算できるようにする。

Descriptive statistics, such as average, variance, factor decomposition basics, and interest calculation, will be comprehensively studied and students will become able to do the calculations for the content covered in this class.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：統計データの基礎知識(変数の尺度、時系列・横断面の違い、グラフの種類・読み方、e-Stat・公的統計)
- 2 回：中心の特性値(平均の種類と計算、メジアン、モード)
- 3 回：前期比増減率、平均成長率

- 4回：ばらつきの特性値(平均偏差、分散、標準偏差、偏差値)  
 5回：度数分布(度数分布表、ヒストグラム、四分位範囲)  
 6回：ローレンツ曲線とジニ係数(横断面データの集め方、不平等度の測り方)  
 7回：データ分析とクロス集計(相関関係と因果関係の違い)  
 8回：散布図・共分散  
 9回：相関係数  
 10回：時系列データ(時系列データの集め方、構成比、寄与度、寄与率、平均成長率)  
 11回：指数に関する演習(調和平均、指数算式)  
 12回：変動係数物価と実質化  
 13回：金利計算  
 14回：金利計算の応用

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業内に指示した提出物(課題、レポート):30%

### テキスト / Textbooks

授業に際して担当教員より指示する。

### 参考文献 / Readings

石崎克也・渡辺美智子 『身近な統計』 放送大学教育振興会 2018 9784595318986

稲葉由之 『プレステップ統計学 I』 弘文堂 2019 9784335000843

### その他 / Others

この科目は社会調査士認定 C 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi/SitePages/index.aspx>) を通じて統計検定を受験して資格取得することも可能である。

# 統計学 2

Statistics 2

推測統計学入門

野地 もも (NOJI MOMO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX294
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1310
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済学科 2～4 年 H～P 組

## 授業の目標 / Course Objectives

母集団と標本の関係や、正規分布とカイ二乗分布、t 分布の関係を理解しながら最終的に正規分布などを仮定して仮説検定、回帰分析を行えるようにする。

To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions about the normal distribution, etc., and perform regression analysis.

## 授業の内容 / Course Contents

推測推測統計学の要点を網羅的に学ぶ。母集団と標本の関係や、正規分布と  $\chi$  二乗分布、t 分布の関係を理解しながら正規分布などを仮定して信頼区間の推定や仮説検定を行えるようにする。最終的に回帰分析を行い、分析結果の解釈と仮説検定をできるようにする。

Students comprehensively learn the points of inferential statistics. To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared

distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions and confidence interval for the normal distribution, etc. Finally, students will become able to perform regression analysis, interpret the distribution results, and conduct hypothesis testing.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：確率の概念
- 2 回：確率分布(離散的確率分布、正規分布他)
- 3 回：正規分布と標準化
- 4 回：標準正規分布表と演習
- 5 回：不偏推定量と標本分布
- 6 回：大数の法則と中心極限定理
- 7 回：信頼区間の推定(t 分布、母分散未知小標本の場合を中心に)
- 8 回：カイ 2 乗分布、母分散の区間推定
- 9 回：F 分布
- 10 回：仮説検定の基本
- 11 回：仮説検定の応用(有意水準、検出力)
- 12 回：2 群の平均の差の検定
- 13 回：回帰分析(分析事例、結果の読み方)
- 14 回：回帰分析の注意点

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業内提出物(課題・レポート):30%

### テキスト/ Textbooks

### 参考文献 / Readings

栗原伸一 『入門統計学』 オーム社 2021 9784274227387

栗原伸一・丸山敦史 『統計学図鑑』 オーム社 2017 9784274220807

### その他/ Others

この科目は社会調査士認定 D 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター(<https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi/SitePages/index.aspx>)を通じて統計検定を受験して資格取得することも可能である。

# 統計学 1

Statistics 1

経済における記述統計学

一ノ瀬 大輔 (ICHINOSE DAISUKE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX295
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1310
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済政策学科 2～4 年

## 授業の目標 / Course Objectives

授業で学んだ指標について、実際のデータを当てはめて自力で計算できるようにする。

For students to become able to use actual data to calculate the indicators learned in class.

## 授業の内容 / Course Contents

平均、分散、要因分解法の基礎、金利計算といった記述統計学を網羅的に学び、実際にそれぞれ授業で学んだ内容を計算できるようにする。

Descriptive statistics, such as average, variance, factor decomposition basics, and interest calculation, will be comprehensively studied and students will become able to do the calculations for the content covered in this class.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：統計データの基礎知識(変数の尺度、時系列・横断面の違い、グラフの種類・読み方、e-Stat・公的統計)
- 2 回：中心の特性値(平均の種類と計算、メジアン、モード)
- 3 回：前期比増減率、平均成長率



- 4回：ばらつきの特性値(平均偏差、分散、標準偏差、偏差値)  
 5回：度数分布(度数分布表、ヒストグラム、四分位範囲)  
 6回：ローレンツ曲線とジニ係数(横断面データの集め方、不平等度の測り方)  
 7回：データ分析とクロス集計(相関関係と因果関係の違い)  
 8回：散布図・共分散  
 9回：相関係数  
 10回：時系列データ(時系列データの集め方、構成比、寄与度、寄与率、平均成長率)  
 11回：指数に関する演習(調和平均、指数算式)  
 12回：変動係数物価と実質化  
 13回：金利計算  
 14回：金利計算の応用

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業内に指示した提出物(課題、レポート):30%

### テキスト / Textbooks

授業に際して担当教員より指示する。

### 参考文献 / Readings

石崎克也・渡辺美智子 『身近な統計』 放送大学教育振興会 2018 9784595318986

稲葉由之 『プレステップ統計学 I』 弘文堂 2019 9784335000843

### その他 / Others

この科目は社会調査士認定 C 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi/SitePages/index.aspx>) を通じて統計検定を受験して資格取得することも可能である。

# 統計学 2

Statistics 2

推測統計学入門

一ノ瀬 大輔 (ICHINOSE DAISUKE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX296
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1310
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済政策学科 2～4 年

## 授業の目標 / Course Objectives

母集団と標本の関係や、正規分布とカイ二乗分布、t 分布の関係を理解しながら最終的に正規分布などを仮定して仮説検定、回帰分析を行えるようにする。

To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions about the normal distribution, etc., and perform regression analysis.

## 授業の内容 / Course Contents

推測推測統計学の要点を網羅的に学ぶ。母集団と標本の関係や、正規分布と  $\chi$  二乗分布、t 分布の関係を理解しながら正規分布などを仮定して信頼区間の推定や仮説検定を行えるようにする。最終的に回帰分析を行い、分析結果の解釈と仮説検定をできるようにする。

Students comprehensively learn the points of inferential statistics. To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared

distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions and confidence interval for the normal distribution, etc. Finally, students will become able to perform regression analysis, interpret the distribution results, and conduct hypothesis testing.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：確率の概念
- 2 回：確率分布(離散的確率分布、正規分布他)
- 3 回：正規分布と標準化
- 4 回：標準正規分布表と演習
- 5 回：不偏推定量と標本分布
- 6 回：大数の法則と中心極限定理
- 7 回：信頼区間の推定(t 分布、母分散未知小標本の場合を中心に)
- 8 回：カイ 2 乗分布、母分散の区間推定
- 9 回：F 分布
- 10 回：仮説検定の基本
- 11 回：仮説検定の応用(有意水準、検出力)
- 12 回：2 群の平均の差の検定
- 13 回：回帰分析(分析事例、結果の読み方)
- 14 回：回帰分析の注意点

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業内提出物(課題・レポート):30%

### テキスト/ Textbooks

### 参考文献 / Readings

栗原伸一 『入門統計学』 オーム社 2021 9784274227387

栗原伸一・丸山敦史 『統計学図鑑』 オーム社 2017 9784274220807

### その他/ Others

この科目は社会調査士認定 D 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター(<https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi/SitePages/index.aspx>)を通じて統計検定を受験して資格取得することも可能である。

# 統計学 1

Statistics 1

経済における記述統計学

櫻本 健 (SAKURAMOTO TAKESHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX297
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1310
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	会計ファイナンス学科 2～4 年

## 授業の目標 / Course Objectives

授業で学んだ指標について、実際のデータを当てはめて自力で計算できるようにする。

For students to become able to use actual data to calculate the indicators learned in class.

## 授業の内容 / Course Contents

平均、分散、要因分解法の基礎、金利計算といった記述統計学を網羅的に学び、実際にそれぞれ授業で学んだ内容を計算できるようにする。

Descriptive statistics, such as average, variance, factor decomposition basics, and interest calculation, will be comprehensively studied and students will become able to do the calculations for the content covered in this class.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：統計データの基礎知識(変数の尺度、時系列・横断面の違い、グラフの種類・読み方、e-Stat・公的統計)
- 2 回：中心の特性値(平均の種類と計算、メジアン、モード)
- 3 回：前期比増減率、平均成長率

- 4回：ばらつきの特性値(平均偏差、分散、標準偏差、偏差値)  
 5回：度数分布(度数分布表、ヒストグラム、四分位範囲)  
 6回：ローレンツ曲線とジニ係数(横断面データの集め方、不平等度の測り方)  
 7回：データ分析とクロス集計(相関関係と因果関係の違い)  
 8回：散布図・共分散  
 9回：相関係数  
 10回：時系列データ(時系列データの集め方、構成比、寄与度、寄与率、平均成長率)  
 11回：指数に関する演習(調和平均、指数算式)  
 12回：変動係数物価と実質化  
 13回：金利計算  
 14回：金利計算の応用

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業内に指示した提出物(課題、レポート):30%

### テキスト / Textbooks

授業に際して担当教員より指示する。

### 参考文献 / Readings

石崎克也・渡辺美智子 『身近な統計』 放送大学教育振興会 2018 9784595318986

稲葉由之 『プレステップ統計学 I』 弘文堂 2019 9784335000843

### その他 / Others

この科目は社会調査士認定 C 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi/SitePages/index.aspx>) を通じて統計検定を受験して資格取得することも可能である。

# 統計学 2

Statistics 2

推測統計学入門

櫻本 健 (SAKURAMOTO TAKESHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX298
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1310
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	会計ファイナンス学科 2～4 年

## 授業の目標 / Course Objectives

母集団と標本の関係や、正規分布とカイ二乗分布、t 分布の関係を理解しながら最終的に正規分布などを仮定して仮説検定、回帰分析を行えるようにする。

To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions about the normal distribution, etc., and perform regression analysis.

## 授業の内容 / Course Contents

推測推測統計学の要点を網羅的に学ぶ。母集団と標本の関係や、正規分布と  $\chi$  二乗分布、t 分布の関係を理解しながら正規分布などを仮定して信頼区間の推定や仮説検定を行えるようにする。最終的に回帰分析を行い、分析結果の解釈と仮説検定をできるようにする。

Students comprehensively learn the points of inferential statistics. To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared

distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions and confidence interval for the normal distribution, etc. Finally, students will become able to perform regression analysis, interpret the distribution results, and conduct hypothesis testing.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：確率の概念
- 2 回：確率分布(離散的確率分布、正規分布他)
- 3 回：正規分布と標準化
- 4 回：標準正規分布表と演習
- 5 回：不偏推定量と標本分布
- 6 回：大数の法則と中心極限定理
- 7 回：信頼区間の推定(t 分布、母分散未知小標本の場合を中心に)
- 8 回：カイ 2 乗分布、母分散の区間推定
- 9 回：F 分布
- 10 回：仮説検定の基本
- 11 回：仮説検定の応用(有意水準、検出力)
- 12 回：2 群の平均の差の検定
- 13 回：回帰分析(分析事例、結果の読み方)
- 14 回：回帰分析の注意点

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業内提出物(課題・レポート):30%

### テキスト/ Textbooks

### 参考文献 / Readings

栗原伸一 『入門統計学』 オーム社 2021 9784274227387

栗原伸一・丸山敦史 『統計学図鑑』 オーム社 2017 9784274220807

### その他/ Others

この科目は社会調査士認定 D 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター(<https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi/SitePages/index.aspx>)を通じて統計検定を受験して資格取得することも可能である。

# 憲法 1

Constitutional Law 1

基本的人権

大石 和彦 (OOISHI KAZUHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX301

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本国憲法第3章所定の基本的人権に関する諸規定の規範的意味内容を理解すること。

To understand the normative meaning of the provisions regarding fundamental human rights specified in Chapter III of the Constitution of Japan.

## 授業の内容 / Course Contents

日本国憲法第3章所定の人権条項につき、その歴史的背景、起草者意図、判例等を参照したり、諸外国との比較にも目配りしつつ、概論的講義を行う。

In this course a general lecture will be given regarding the human rights clauses in Chapter III of the Constitution of Japan while referring to their historical background, intentions of the drafters, judicial precedents, and other materials as well as comparisons with foreign countries.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：人権総論 1

2 回：人権総論 2



- 3回：包括的基本権
- 4回：平等権
- 5回：精神的自由権 1
- 6回：精神的自由権 2
- 7回：精神的自由権 3
- 8回：経済的自由権 1
- 9回：経済的自由権 2
- 10回：人身の自由
- 11回：国務請求権
- 12回：社会権
- 13回：参政権
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

折に触れ、下掲テキスト及び参考文献の対応箇所を読むと、さらに学習効果が高まるであろう。予習しなくても理解できるよう授業を行うので、予習よりは復習に注力いただきたいが、まずは何といたっても授業に集中いただき、ノートをとっていただくことが肝要である。憲法は、それぞれの国の社会を動かす基本ソフトであるから、その国の社会に生起する出来事それ自体が最重要の考察対象となる。したがって、本科目で勉強したことと関連付けながら新聞記事やニュースを見たり、授業と並行して関連文献を読んだりすると、学習効果が一層高まるであろう。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

#### テキスト / Textbooks

初宿正典他編著 『目で見える憲法〔第6版〕』 有斐閣 2024 9784641228658 ○

#### 参考文献 / Readings

芦部信喜・高橋和之補 『憲法 (第8版)』 岩波書店 2023 9784000616072

渋谷秀樹・赤坂正浩 『憲法1 人権 (第8版)』 (有斐閣アルマ) 有斐閣 2022 9784641221871

立教大学図書館には憲法関係の蔵書も豊富にあるので、そうした書籍にも触れていただくと、より学習効果が高まるであろう。それらを利用できる資格と時間がある今、それらを利用しないというのは、実にもったいないことである。そのうち当代我が国における代表的な憲法テキストで、国家試験受験者に最も読まれてきたものが上掲1、より読みやすいが内容的に水準が高いものとしては2がある。

なお、法律書は最新版を用いることが肝要である。上掲はいずれもシラバス執筆時点での最新版をあげたが、今後最新版が出た場合は授業にて注意喚起する。

## 憲法 2

Constitutional Law 2

統治のしくみ

大石 和彦 (OOISHI KAZUHIKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX302  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX1010  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

日本国憲法のうち、いわゆる「三権」を中心とする部分につき理解する。

To understand the parts of the Japanese Constitution covering the so-called “Three Powers.”

### 授業の内容 / Course Contents

日本国憲法のうち、いわゆる「三権」を中心とする部分につき、その歴史的背景、起草者意図、判例等を参照したり、諸外国との比較にも目配りしつつ、概論的講義を行う。

In this course a general lecture will be given the parts of the Japanese Constitution covering the so-called “Three Powers” while referring to their historical background, intentions of the drafters, judicial precedents, and other materials as well as comparisons with foreign countries.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：憲法とは何か？

2 回：国会 1

3 回：国会 2

- 4回：国会3
- 5回：国会4
- 6回：国会5
- 7回：内閣1
- 8回：内閣2
- 9回：内閣3
- 10回：裁判所1
- 11回：裁判所2
- 12回：裁判所3
- 13回：地方自治
- 14回：平和主義

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

折に触れ、下掲テキスト及び参考文献の対応箇所を読むと、さらに学習効果が高まるであろう。予習しなくても理解できるよう授業を行うので、予習よりは復習に注力いただきたいが、まずは何といたっても授業に集中いただき、ノートをとっていただくことが肝要である。憲法は、それぞれの国の社会を動かす基本ソフトであるから、その国の社会に生起する出来事それ自体が最重要の考察対象となる。したがって、本科目で勉強したことと関連付けながら新聞記事やニュースを見たり、授業と並行して関連文献を読んだりすると、学習効果が一層高まるであろう。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :100%  
 平常点割合 :0%

### テキスト / Textbooks

初宿正典・他 編著 『目で見える憲法（第5版）』 有斐閣 2018 9784641227354 ○

### 参考文献 / Readings

芦部信喜・高橋和之補訂 『憲法（第8版）』 岩波書店 2023 9784000616072

渋谷秀樹・赤坂正浩 『憲法2 統治（第8版）』（有斐閣アルマ） 有斐閣 2022 9784641221888

立教大学図書館には憲法関係の蔵書が豊富にあるので、そうした書籍にも触れていただくと、より学習効果が高まるであろう。それらを利用できる資格と時間がある今、それらを利用しないというのは、実にもったいないことである。そのうち当代我が国における代表的な憲法テキストで、国家試験受験者に最も読まれてきたものが上掲1、より読みやすいが内容的に水準が高いものとしては2がある。

なお、法律書は最新版を用いることが肝要である。上掲はいずれもシラバス執筆時点での最新版をあげたが、今後最新版が出た場合は授業席上注意喚起する。

# 民法 1

Civil Law 1

南部 あゆみ (NANBU AYUMI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX303  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX1010  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

学生が、民法の基本を理解することで、トラブルについて法的な考え方をできるようになることが目標です。  
Students will learn the fundamentals of Civil Law and think using regal mind.

## 授業の内容 / Course Contents

法的思考を養うには、法律の知識と思考トレーニングの両方が必要です。そのため、授業の前半で民法の制度を解説し、後半に具体的な事例を用いて知識がどのように使われているのかを解説します。

In order to learn regal mind, both legal knowledge and ideation training are required. This course explain the system of Civil Law, and how knowledge is used in some cases.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス／民法とは
- 2 回：契約の基礎
- 3 回：債務不履行
- 4 回：契約の事例をよむ
- 5 回：契約の有効性 1 / 当事者の能力

- 6回：契約の有効性2／意思表示
- 7回：契約の有効性3／契約内容
- 8回：不法行為の基礎
- 9回：特殊な不法行為
- 10回：不法行為の事例をよむ
- 11回：物権の基礎
- 12回：物権変動と対抗要件
- 13回：家族法
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で習った内容が、身の回りの出来事に関係していることがあります。新聞などをよく読み、社会の動きに多く触れてください。また、法律科目は専門用語を用います。授業内で分からなかった用語については、必ず確認してください。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :100%  
 平常点割合 :0%

#### テキスト / Textbooks

毎回レジュメを配布します。

#### 参考文献 / Readings

適宜紹介します。

# 民法 2

Civil Law 2

南部 あゆみ (NANBU AYUMI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX304  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX1010  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

学生が、身近なトラブルについて、民法を用いて考えられるようになることが目標です。

Students will turn their minds to familiar troubles using knowledge of Civil Law.

## 授業の内容 / Course Contents

我々の周囲では、様々なトラブルが起こります。そうしたトラブルについて、感覚や経験ではなく、法的な視点で解決方法を考えることを目指します。授業では、法律の知識を解説した後に具体的な問題を紹介し、思考過程をたどります。

Various troubles arise around us. This course consider different types of solutions about their troubles, using knowledge of Law, neither feeling nor experience. After acquiring legal knowledge, we acquire the process of thinking to find answers for practice problems.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス／民法の概要
- 2 回：契約の基礎
- 3 回：物権の基礎

- 4回：不法行為の基礎  
 5回：消費者問題と民法  
 6回：インターネットと民法1／基礎  
 7回：インターネットと民法2／契約  
 8回：インターネットと民法3／不法行為  
 9回：メディアに関するトラブル  
 10回：スポーツに関するトラブル  
 11回：医療に関するトラブル  
 12回：不動産に関するトラブル  
 13回：労働に関するトラブル  
 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で習った内容が、身の回りの出来事に関係していることがあります。新聞などをよく読み、社会の動きに多く触れてください。また、法律科目は専門用語を用います。授業内で分からなかった用語については、必ず確認してください。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :100%  
 平常点割合 :0%

#### テキスト / Textbooks

毎回レジュメを配布します。

#### 参考文献 / Readings

適宜紹介します。

# 企業法 1

Corporation Law 1

木下 崇 (KINOSHITA TAKASHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX305  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2010  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

株式会社のコーポレート・ガバナンス等に関わる法の構造について、社会における会社法の機能を理解し、法的なものの考え方ができる。

After taking this course, you will be able to :

- Understand the functions and the legal structure of the Laws of corporate governance.
- Explain your thoughts on legal issues about corporations.

## 授業の内容 / Course Contents

会社をとりまく法制度のうち、株式会社のコーポレート・ガバナンス等に関わる法の構造について基礎的な概念・知識や制度について概観する。

This course introduces and overview, the basic concept, knowledge and system about the Laws of corporate governance.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：会社法総論・事業活動と企業組織

2 回：株式と株主



- 3回：株式会社の機関と権限分配
- 4回：株主総会の議事・運営
- 5回：瑕疵ある株主総会決議に関する法的救済方法
- 6回：株式会社の業務執行機関
- 7回：会社と取締役・執行役との関係
- 8回：株式会社の監査
- 9回：株式会社の役員等の会社に対する責任① 任務懈怠と役員等の責任
- 10回：株式会社の役員等の会社に対する責任② 責任の追及
- 11回：役員等の任務懈怠による第三者の損害への賠償責任
- 12回：役員等の責任の免除と軽減
- 13回：株主の監督是正権・情報収集権
- 14回：分配可能額の計算・剰余金の処分と自己株式の取得

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- [予習] 事前に配付する資料をもとに教科書の該当ページをよく読む。
- [復習] 授業で扱った事例、設例に対して、自らの考えをまとめる。
- 予習・復習合わせて各回あたり約4時間の学習時間を想定している。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

- 筆記試験 :60%
- 平常点割合 :40% 授業時間内に実施するレポート課題:40%
- レポート課題は、授業内容の理解を確認するため不定期に出題する。Canvas LMS を利用する予定である。

#### テキスト / Textbooks

三浦治 『基本テキスト 会社法〔第3版〕』 中央経済社 2022 9784502442315 ○

#### 参考文献 / Readings

- 岩原紳作ほか編 『会社法判例百選〔第4版〕』 有斐閣 2021 9784641115545
- 永井和之ほか 『基本テキスト 企業法総論・商法総則』 中央経済社 2022 9784502418419

#### その他 / Others

- Powe Point を利用した講義形式の授業を実施する。
- 授業内容に理解を確認するため、レポート課題を出題する（授業時間内に解答するものとする）。
- レポート課題については、各回の採点終了後、要点の指摘等のフィードバックを行う。
- 資料の配付、課題の提出などに、Canvas LMS を利用する予定である。
- Google Classroom を利用することもある。

# 企業法 2

## Corporation Law 2

木下 崇 (KINOSHITA TAKASHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX306  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2010  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

株式会社の資金調達および企業再編に関する法制度について、基礎的な知識をもとに、法的なものの考え方ができる。

After taking this course, you will be able to :

- Understand the functions and the legal structure of the Laws of corporate finance and corporate restructuring.
- Explain your thoughts on legal issues about corporations.

### 授業の内容 / Course Contents

会社をとりまく法制度のうち、株式会社の資金調達および企業再編に関する法制度について基礎的な概念・知識や制度に関する解説を行う。

This course introduces and overview, the basic concept, knowledge and system about the Laws of corporate finance and corporate restructuring.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：株式会社の設立手続
- 2 回：変態設立事項と設立に固有の理論

- 3回：株式会社の設立に関与する者の責任と設立無効の訴え  
 4回：払込の仮装と会社法上の規制  
 5回：株式会社における資金調達  
 6回：新株予約権  
 7回：募集株式の発行等・募集新株予約権発行に対する株主の差止請求  
 8回：募集株式等の発行の瑕疵と無効・不存在確認の訴え  
 9回：瑕疵ある株式・新株予約権発行と既存株主の事後的救済手段  
 10回：社債の発行と管理  
 11回：企業組織再編総論  
 12回：企業組織再編の手続  
 13回：企業組織再編における反対株主と債権者の保護  
 14回：企業組織再編の差止と企業再編組織無効の訴え

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

#### 授業時間外の学習

[予習] 事前に配付する資料をもとに教科書の該当ページをよく読む。

[復習] 授業で扱った事例、設例に対して解答を用意し、何らかの結論を得る。

予習・復習合わせて各回あたり約4時間の学習時間を想定している。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 授業時間内に実施するレポート課題:40%

レポート課題は、授業内容の理解を確認するため不定期に出題する。Canvas LMS を利用する予定である。

### テキスト / Textbooks

三浦治 『基本テキスト 会社法〔第3版〕』 中央経済社 2022 9784502442315 ○

### 参考文献 / Readings

岩原紳作ほか編 『会社法判例百選〔第4版〕』 有斐閣 2021 9784641115545

永井和之ほか 『基本テキスト 企業法総論・商法総則』 中央経済社 2022 9784502418419

### その他 / Others

Powe Point を利用した講義形式の授業を実施する。

授業内容に理解を確認するため、レポート課題を出題する (授業時間内に解答するものとする)。

レポート課題については、各回の採点終了後、要点の指摘等のフィードバックを行う。

資料の配付、課題の提出などに、Canvas LMS を利用する予定である。

Google Classroom を利用することもある。

# 労働法

Labor Law

神吉 知郁子,富永 晃一 (KANKI CHIKAKO,TOMINAGA KOICHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX307  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX3010  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

わが国の労働法の体系を理解し、基礎的な知識を習得するとともに、日本の雇用社会の現在と将来について考えるきっかけを与えることである。

The objectives of this course are to understand the structure of Labor Law and learn the basic knowledge as well as to give a chance to think of your own opinion about the current and the future of the employment society in Japan.

## 授業の内容 / Course Contents

労働法とは「労働」を規律する法の総称である。その分類にはいくつかの方法があるが、契約関係に着目すると、ひとりひとりの労働者と使用者との関係を規律する「個別的労働関係法」と、労働者の集団（労働組合）と使用者との関係を規律する「集団的労使関係法」との2つに大別される。本講義では、まず労働法の体系や法源に関する概要を説明した上で労働の現場で直面するであろう問題を切り口に個別的労働関係法を解説する。その後、集団的労使関係法を扱う。必要に応じて、契約関係の外側にある労働市場の入口・出口に関する規制や紛争解決の実効性確保のための仕組みについても取り上げる。

Labor Law is the generic name for the laws which regulate "labor." There are several ways to classify labor laws,

but they can be largely divided into two groups. Focusing on contractual relationships, there are the "Acts Pertaining to Individual Labor Relations", which regulate the relationship between individual laborers and the employer, and the "Acts Pertaining to Collective Labor Relations", which regulate the relationship between a group of laborers (labor union) and the employer. The lectures will first explain the structure of Labor Law and the legal source of the grand design before going on to describe the Acts Pertaining to Individual Labor Relations on problems which are likely to be directly confronted in the workplace. After that, we will explain the Acts Pertaining to Collective Labor Relations. While combining these two pillars, this course will cover the regulations concerning the entrances and exits of the labor market which exist outside of contractual relationships and the mechanisms for ensuring the effectiveness of dispute resolutions.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：前半イントロダクション・労働法総論
- 2 回：労働法の法源
- 3 回：労働法における当事者（労基法）
- 4 回：労働法における当事者（労組法）
- 5 回：労働関係の成立（募集、内定）
- 6 回：労働関係の成立（採用、試用）
- 7 回：人事（昇進・昇格、降格）
- 8 回：人事（配転、出向、転籍、休職）
- 9 回：雇用関係の終了（解雇）
- 10 回：雇用関係の終了（辞職、合意解約等）
- 11 回：労働契約上の権利義務
- 12 回：労働憲章・雇用平等
- 13 回：非正規労働者の問題（有期）
- 14 回：非正規労働者の問題（パート・派遣等）
- 15 回：後半イントロダクション・賃金（賃金請求権、賃金に対する法規制①）
- 16 回：賃金（賃金に対する法規制②、賞与、退職金等）
- 17 回：労働時間（労働時間、休憩、休日に関する原則）
- 18 回：労働時間（原則以外の仕組み①時間外労働、割増賃金）
- 19 回：労働時間（原則以外の仕組み②特例・例外、みなし労働時間制、変形労働時間制等）
- 20 回：休暇（年休）
- 21 回：休暇・休業（産休・育休・介休等）
- 22 回：労働者の安全・健康の確保
- 23 回：労働条件の変更（就業規則の変更、合意変更）
- 24 回：労働条件の変更（労働協約、労働協約の変更）・企業組織の変動
- 25 回：労働組合・団体交渉
- 26 回：団体行動
- 27 回：不当労働行為①
- 28 回：不当労働行為②・労働紛争処理システム

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書  スライド（パワーポイント等）の使用  上記以外の視聴覚教材の使用

個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定	:			

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

- ・理解度等に応じて授業の進行を調整する。担当者（第1回～14回：神吉，第15回～28回：富永）の各回の指示に注意すること。
- ・六法等，法令集を持参すること（『労働関係法規集』（労働政策研究・研修機構）も有益である）。
- ・民法の基礎的知識があることが望ましい。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

**テキスト / Textbooks**

水町勇一郎 『労働法（第9版）』 有斐閣 2020 9784641243521 ○

森戸英幸 『プレップ労働法（第7版）』 弘文堂 2022 -

講義中に指示する。

**参考文献 / Readings**

村中孝史・荒木尚志編 『労働法判例百選（第10版）』 有斐閣 2022

講義中に指示する。

# 政治学

Political Science

現代日本の政治や外交の生き生きとした姿を学ぼう

薬師寺 克行 (YAKUSHIJI KATSUYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX308  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX2010  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業は戦後の日本政治、日本外交のうち、特に激動の激しかった 1989 年以降から今日までを詳しく学ぶことを目標とします。この四半世紀余り、日本政治は「自民党単独政権」→「非自民連立政権」→「自公連立政権」→「民主党政権」→「自公連立政権」と目まぐるしく移り変わりました。この間の動きを「生きた教材」として、克明に分析し構造的に理解することを目的とします。

The objective of this course is to learn in detail about postwar Japanese politics and Japanese foreign policy, particularly the turbulent period since 1989. Over a little more than a quarter of a century, Japanese politics has rapidly transitioned from the “one-party government of the Liberal Democratic Party” to the “non-LDP coalition government”, “LDP government”, “Democratic Party government”, and the “LDP government.” Recent trends will be used as "living course materials" to carefully analyze and structurally understand these changes.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業は講義形式です。日本政治・外交の動きを政権ごとに、あるいはテーマごとに紹介していきます。中心は 90 年代以降ですが、戦後から 80 年代までの自民党単独政権時代についても紹介します。

1993年に自民党単独政権が終わり連立政権時代に入って以降、政権は短期間でめまぐるしく交代する時代が続きました。この間、政治の中心に登場し、消えていった政党や政治家は数えきれません。各政党や政治家たちが何を目指し、どのような権力闘争を行ったのか。表に出ていない人間模様も含め、できるだけ生き生きと紹介したいと思います。また冷戦崩壊など国際社会の変動を反映し日本政治も日本社会も激変しました。社会保障政策をはじめとする内政、さらには外交、安全保障政策を含め主要政策の変貌に加え、政策決定システムも構造的に分析します。

この授業では毎回、冒頭の数分間、直近の大きな時事問題について学生に質問したり解説をしますので、日々のニュースに触れるようしてください。

また毎年、秋に政治家の方をゲストに招きし、お話をさせていただいています。2014年は福田康夫元首相、2015年は民主党の細野豪志政調会長、2016年は自民党の石破茂元幹事長、2017年は公明党の太田昭宏元代表、2018年は野田聖子・元総務大臣、2019年度は齋藤健元農水大臣、2023年度は国民民主党の玉木雄一郎代表に来ていただきました。

The classes will consist of a lecture format. Trends in Japanese politics and foreign policy will be introduced according to each administration or topic. The focus will be on the 1990s and subsequent years, but the one-party government of the Liberal Democratic Party from the postwar until the 1980s will also be introduced.

After the one-party government of the Liberal Democratic Party ended in 1993 and the country entered the coalition government era, Japan has continued to experience an era of short-lived governments that rapidly alternate. During this time period, a countless number of political parties and politicians appeared and disappeared from the political center. What were the goals of each of the political parties and politicians and what kinds of power struggles did they engage in? The classes will introduce Japanese politics in a lively manner as possible, including the behind-the-scenes human relationships. Moreover, the discussions will reflect changes in international society such as the end of the Cold War and the sudden changes in Japanese politics and society. In addition to the changes in major policies starting with social security policy in internal affairs and then foreign diplomacy and national security policy, we will also structurally analyze the policy decision-making system.

During the first few minutes of each class, students will be asked about recent major topics, so be sure to pay attention to the daily news.

In addition, politicians are invited as guests to speak every year during the fall. Past guests include Former Prime Minister of Japan Yasuo Fukuda in 2014, Chairman of the Policy Affairs Research Council Goshi Hosono from the Democratic Party of Japan in 2015, Former Secretary - General of the Liberal Democratic Party Shigeru Ishiba in 2016, Former Representative of the Komeito Party Akihiro Ota in 2017, Former Minister of Internal Affairs and Communications Seiko Noda in 2018, Former Minister of Agriculture Ken Saito in 2019 and Representative of National Democratic Party Yuuichiro Tamaki.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション「揺らぐ民主主義システムと政治の姿」
- 2回：日本の再軍備を嫌った吉田内閣と「55年体制」のスタート
- 3回：学生がこぞってデモに参加した安保闘争—岸内閣と日米安保改定
- 4回：利益誘導政治を確立した田中角栄首相と派閥全盛時代
- 5回：リクルート事件—自民党は腐敗によって自滅していった
- 6回：冷戦終焉、バブル経済崩壊、天皇崩御—歴史を変える出来事が集中した1989年
- 7回：不発に終わった政治改革の試み（海部、宮沢政権）
- 8回：新しい政治の動き—自民党分裂と新党ブーム（日本新党、新生党、新党さきがけ）



- 9回：非自民連立政権の誕生と迷走－細川連立政権誕生  
 10回：自壊した非自民連立政権（細川、羽田政権）  
 11回：実現した政治改革と小選挙区制導入の意味  
 12回：小沢一郎という政治家  
 13回：権力維持にこだわる自民党のしたたかさ（村山政権）  
 14回：古い体質を脱皮できなかった自民党（橋本、小淵、森政権）  
 15回：自民党政権を延命させた小泉首相と新自由主義的構造改革  
 16回：高い内閣支持率を維持した小泉首相の政治手法  
 17回：新進党の崩壊と民主党の躍進  
 18回：民主党のマニフェスト作成と統治システム改革への挑戦  
 19回：ポスト小泉時代の自民党政権の失敗と挫折（安倍、福田、麻生政権）  
 20回：躍進する民主党と政権交代の実現  
 21回：普天間飛行場問題でつまづき自滅した鳩山政権  
 22回：民主党のマニフェストと現実政治とのギャップ  
 23回：民主党政権の挫折と自民党政権の復活（菅、野田政権）  
 24回：変貌する日本の外交・安全保障政策 1  
 25回：変貌する日本の外交・安全保障政策 2  
 26回：長期政権となった安倍政権の功罪  
 27回：コロナに翻弄された菅政権と、不祥事に見舞われた岸田政権  
 28回：総括－四半世紀で激変した日本政治

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講生は指定した教科書をあらかじめ読んで、概要を頭に入れたうえで出席してください。また、日常的に新聞やテレビニュースに接して直近の政治の動きを踏まえたうえで出席することを求めます。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:30%

リアクションペーパーなどの提出を複数回、求めます。

### テキスト / Textbooks

葉師寺克行 『現代日本政治史』 有斐閣 2014 9784641149090 ○

### 参考文献 / Readings

葉師寺克行 『公明党』 中公新書 2016

葉師寺克行 『村山富市回顧録』 岩波現代文庫 2018

五百旗頭真編 『戦後日本外交史』 有斐閣アルマ 2014

# 経済法 1

Economic Law 1

早川 雄一郎 (HAYAKAWA YUICHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX311  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX3010  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

独占禁止法の仕組みを理解するとともに、独占禁止法の学習を通じて、法的思考力と経済に関する理解を涵養することを目標とする。

The objective of this course is to understand the structure of the Antimonopoly Act while cultivating the legal ability to think critically and an understanding of economics through studying the Antimonopoly Act.

## 授業の内容 / Course Contents

独占禁止法の規制のうち、市場支配力の形成・維持・強化が問題となる類型を中心に解説する。  
独占禁止法の目的、基礎概念について説明したのち、企業結合規制、不当な取引制限の規制、私的独占の規制、事業者団体の規制の順に、解説する。

The classes will explain the Antimonopoly Act regulations with a focus on patterns of market power creation, maintenance, and strengthening which become problematic.

After explaining the purpose and basic concept of the Antimonopoly Act, we will cover cartel regulations, regulations concerning restrictions on unfair transactions, private monopoly regulations, and trade association

regulations in that order.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：序論（1）独占禁止法の全体像（1）  
 2回：序論（2）独占禁止法の全体像（2）  
 3回：序論（3）独占禁止法の目的・基礎概念  
 企業結合規制（1）企業結合規制の概要  
 4回：企業結合規制（2）一般集中の規制、結合関係の認定、一定の取引分野の画定①  
 5回：企業結合規制（3）一定の取引分野の画定②、競争の実質的制限①意義  
 6回：企業結合規制（4）競争の実質的制限②水平型企業結合  
 7回：企業結合規制（5）競争の実質的制限③垂直型・混合型企業結合、問題解消措置  
 8回：企業結合規制（6）事前届出制度、デジタルプラットフォームと企業結合  
 不当な取引制限の規制（1）規制の概要  
 9回：不当な取引制限の規制（2）行為要件  
 10回：不当な取引制限の規制（3）反競争効果要件  
 11回：不当な取引制限の規制（4）エンフォースメント  
 私的独占規制（1）規制の概要、排除型私的独占①  
 12回：私的独占規制（2）排除型私的独占②、支配型私的独占、反競争効果要件  
 13回：事業者団体の規制  
 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で取り上げる箇所に対応する教科書や参考書の該当箇所を読んで予習・復習すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

### テキスト / Textbooks

土田和博・栗田誠・東條吉純・武田邦宣 『条文から学ぶ独占禁止法（第3版）』 有斐閣 2024  
 9784641243743 ○

### 参考文献 / Readings

川瀨昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子 『ベーシック経済法（第5版）』 有斐閣 2020  
 9784641221412

金井貴嗣ほか編 『経済法判例・審決百選（第2版）』 有斐閣 2017 9784641115347

井田良ほか 『法を学ぶ人のための文章作法（第2版）』 有斐閣 2019 9784641126121

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

独占禁止法を学習する際には、憲法や民法や刑法など基本的な実定法科目の学修を通じて獲得される法的思考

力を有することが有益である。したがって、1年次配当の実定法科目のいくつかを履修済みであるか、又は並行して学習することが望ましい。

#### **その他/ Others**

講義レジュメを Canvas LMS 上で配布するので、事前に各自でダウンロードして持参すること。レジュメの紙のコピーは配布しない。

# 経済法 2

Economic Law 2

長尾 愛女 (NAGAO EME)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX312  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX3010  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

独占禁止法と景品表示法の仕組みを理解するとともに、独占禁止法と景品表示法の学習を通じて、法的思考力と経済に関する理解を涵養することを目標とする。

The objective of this course is to understand the structure of the Antimonopoly Act and the Act Against Unjustifiable Premiums and Misleading Representations while cultivating the legal ability to think critically and an understanding of economics through studying these two acts.

## 授業の内容 / Course Contents

独占禁止法の規制のうち、不公正な取引方法の規制を中心に解説する。

不公正な取引方法の総論として「公正競争阻害性」概念について解説したのち、各論的な行為類型である再販売価格の拘束、不当廉売、優越的地位の濫用といった様々な行為類型を取り上げる。関連する規制として景品表示法の規制も取り上げる予定である。

なお、独占禁止法と景品表示法を学習する際には、民法など他の実定法科目の知識を有することが有益となるので、少なくとも 1 年次配当の実定法科目のいくつかを履修済みであるか、又は並行して学習することが望ましい。

This course will explain the Antimonopoly Act regulations with a focus on unfair trade practices.

As a general introduction to unfair trade practices, the classes will explain the concept of "inhibition of fair competition" before covering various theoretical behavior patterns such as resale price restrictions, dumping, and the abuse of a dominant bargaining position. The course is also scheduled to cover regulations in the Act Against Unjustifiable Premiums and Misleading Representations as a related set of regulations.

It is desirable to study other legal fields such as civil law in pararell, since the Antimonopoly Act is based on knowledge of them.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：不公正な取引方法の規制の全体像
- 2 回：不公正な取引方法総論：公正競争阻害性
- 3 回：不公正な取引方法各論：再販売価格の拘束
- 4 回：不公正な取引方法各論：拘束条件付取引
- 5 回：不公正な取引方法各論：排他条件付取引
- 6 回：不公正な取引方法各論：不当廉売
- 7 回：不公正な取引方法各論：取引拒絶規制
- 8 回：不公正な取引方法各論：差別対価等
- 9 回：不公正な取引方法各論：取引強制（抱き合わせ販売）、不当な顧客誘引
- 10 回：景品表示法の規制（1）不当表示規制
- 11 回：景品表示法の規制（2）景品規制、景品表示法のエンフォースメント
- 12 回：不公正な取引方法各論：優越的地位の濫用
- 13 回：不公正な取引方法各論：優越的地位の濫用の事例
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で取り上げる箇所に対応する教科書や参考書の該当箇所を読んで予習・復習すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

### テキスト / Textbooks

土田和博・栗田誠・東條吉純・武田邦宣 『条文から学ぶ独占禁止法（第2版）』 有斐閣 2019

9784641243149 ○

消費者庁「事例でわかる景品表示法」

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/fair\\_labeling/pdf/fair\\_labeling\\_160801\\_0001.pdf](https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/fair_labeling/pdf/fair_labeling_160801_0001.pdf)

### 参考文献 / Readings

川瀨昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子 『ベーシック経済法（第5版）』 有斐閣 2020

9784641221412

金井貴嗣ほか編 『経済法判例・審決百選（第2版）』 有斐閣 2017 9784641115347

岸井大太郎・大槻文俊・中川晶比兒・川島富士雄・稗貫俊文 『経済法: 独占禁止法と競争政策（第9版補訂）』 有斐閣 2022 9784641221840

井田良ほか 『法を学ぶ人のための文章作法（第2版）』 有斐閣 2019 9784641126121

テキスト及び参考文献のうち、手続き規定等の改正を反映していない箇所は、より出版年が新しい文献を参照すること。

経済法判例・審決百選（第3版）有斐閣 が出版されたら参照すること。

#### **その他/ Others**

講義レジュメを授業支援システム上で配布するので、事前に各自でダウンロードして持参すること。レジュメの紙のコピーは配布しない。

# 租税法 1

Concepts in Taxation1

租税法総論

坂本 雅士 (SAKAMOTO MASASHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX313  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2910  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義では、わが国の財政状況及び税務行政の沿革を概観したうえで、租税に関する法的なしくみを理解することを目的とする。

The objective of this lecture is to provide an overview of Japan's financial situation and history of its tax administration for students to understand the legal framework of taxation.

## 授業の内容 / Course Contents

租税実体法を理解するためには、租税法の総論に関する知識は必要不可欠である。租税とは何か、その基本原則・解釈原理とは何か、課税処分に対して異議がある場合にはどうするのか、租税回避とはどのような行為を指すのかといったことについて概説する。なお、講義はテキスト、レジュメに沿っておこなう。

Knowledge of the general theory of tax law is indispensable for understanding taxation substantive law. An overview is given of what taxation is, and what are its basic principles and interpretation principles, and what should be done when there is a dispute regarding taxation. The lecture will proceed according to the textbook, lecture notes, and course outlines distributed in each class.



**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：ガイダンス、税制の基礎知識  
 2回：租税法の体系と範囲  
 3回：租税の意義、性格、目的、根拠、分類  
 4回：租税法の法源  
 5回：租税法の効力（適用範囲）  
 6回：納税義務の成立（課税要件）  
 7回：租税法の基本原則  
 8回：租税法令の解釈  
 9回：租税法と私法  
 10回：租税回避行為と租税法（1） - 脱税や節税との違い、租税回避行為の歴史 -  
 11回：租税回避行為と租税法（2） - 納税者になろうとしない者への対応 -  
 12回：租税回避行為と租税法（3） - 総合的対応の必要性 -  
 13回：国際課税の新たな潮流 ～PILLAR 1～  
 14回：国際課税の新たな潮流 ～PILLAR 2～

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

授業時に指示する。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 複数回のリアクションペーパー:20% 授業内レポート:10%

**テキスト / Textbooks**

坂本雅士編 『現代税務会計論 第7版』 中央経済社 2024 ○

**参考文献 / Readings**

## 租税法 2

Concepts in Taxation2

所得課税の基本問題

坂本 雅士 (SAKAMOTO MASASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX314

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2910

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本講義では、法人税法、所得税法を中心に租税に関する基本的なしくみを理解することを目的とする。講義では、税制改正論議など最近の動向も取り上げる。

The objective of this lecture is to understand the basic structure of taxation, and in particular the Corporation Tax Act and the Income Tax Act. This lecture will also look at recent trends, such as the tax system revision debate.

### 授業の内容 / Course Contents

租税法体系のうち、法人税法、所得税法、相続税法、消費税法を取り上げる。また、これらに関連する租税特別措置法、並びに法令の解釈・適用に関する実務上の取扱いにも触れる。講義はテキスト、講義ノート、毎回配布するレジュメに沿っておこなう。

Of the overall taxation system, this lecture will look at the Corporation Tax Act, the Income Tax Act, the Inheritance Tax Act, and the Consumption Tax Act. In addition, the lecture will also touch on the related Act on Special Measures concerning Taxation and actual operations regarding the interpretation and application of tax

laws and regulations. The lecture will proceed according to the textbook, lecture notes, and the course outlines distributed in each class.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、組織に対する課税方式 - 導管課税と実体課税 -
- 2回：法人税の課税根拠（1） - なぜ法人税が必要なのだろうか -
- 3回：法人税の課税根拠（2）
- 4回：法人税の納税義務者、税率、種類等
- 5回：Advanced Study - 多様化する組織形態と所得課税 -
- 6回：企業会計と課税所得計算との関係
- 7回：確定決算主義（公正処理基準、損金経理要件等）
- 8回：Advanced Study - 会計基準の複線化と法人税法の対応 -
- 9回：所得税（1）
- 10回：所得税（2） - 税務事例 -
- 11回：相続税（1）
- 12回：相続税（2） - 税務事例 -
- 13回：消費税（1）
- 14回：消費税（2） - 税務事例 -

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業内レポート:10% 複数回のリアクションペーパー:20%

### テキスト / Textbooks

坂本雅士編 『現代税務会計論 第7版』 中央経済社 2024 ○

### 参考文献 / Readings

## 課題解決演習 B

### Seminar on Task Solutions B

日本企業の現状と課題を理解し、課題解決の提案をする

柏木理佳 (KASIWAGI RIKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX317

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

協力企業の講義を含めて、日本企業がおかれている現状と課題を理解する。

新聞やニュースを読み、不祥事や業績が悪化している企業などの課題、原因と背景を理解する。もし自分がその企業の経営陣だったら、どのように現状打破し、解決するかを考える習慣を身につける。直面する課題を理論的体系に基づいて解決する能力をつけること。また、企画提案のプレゼン能力を養うことも目標とする。

The goal is also to develop presentation skills for project proposals.

Understand the current situation and facing problems of Japanese companies.

Read newspaper, and understanding the reason and background of scandals or decrease revenue of company's performance. Try to think about it if you were president or Executive Director of these companies, how to solve the problems.

To develop the ability to solve the problem based on a theoretical system.

### 授業の内容 / Course Contents

PEST 分析、VRIO 分析、SWOT 分析などにより企業の課題を確認し、経営戦略における理論的体系に基づい

た解決案をディスカッション、発表する。

例えば、人口減少による市場のターゲティングの明確化、セグメンテーション、ペルソナなどの販売戦略、技術者不足、人材不足の解決案など成功事例とともに学ぶ。

また、ICT、AI,VR など最先端技術を使った将来の日本企業の方向性を想像し、その普及にいたる条件、問題点を確認、解決方法を提案する。

Find out company's problems through PEST analysis, VRIO analysis, SWOT analysis, etc.. And discuss and present proposed solutions based on theoretical systems in management strategy. For example, the students will learn about clarification of market targeting segmentation, sales strategies, personas due to population decline by case study.

Imagine the direction of Japanese companies using ICT and AI, VR ,AR, other technologies.

Find the condition for popularization and problems and proposed the solutions.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス

AI, DX, ICTなど最先端技術の向上による日本企業の方向性を確認する。コロナ後の企業の対策：リブランディング、CSR イメージ戦略の構築、コスト削減戦略、人口減少による市場のターゲティングの明確化、セグメンテーション、ペルソナなどの販売戦略、技術者不足、人材不足の解決案など成功事例とともに学ぶ。

2回：課題解決方法の事例研究

経営戦略における理論的体系に基づいた課題確認方法

課題確認する PEST 分析、VRIO 分析、SWOT 分析、TOWS 分析、新規事業化の提案のブルーオーシャン戦略、5 FORCESなどを学ぶ。

3回：協力企業：株式会社フジテレビジョン（清水俊宏氏）の講義

株式会社フジテレビジョンの事例研究（SWOT 分析）、ポーラと冷凍食品の商品開発等の新規事業の事例のご紹介。フジテレビジョンから課題を提供してもらい、12 回目の授業までにまとめ、発表する）

4回：協力企業：伊藤忠テクノソリューションズ株式会社（CTC）の講義

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社（CTC）の事例研究から現状を把握する。CTCから課題を提供してもらう。

5回：協力企業：伊藤忠テクノソリューションズ株式会社（CTC）と共に

CTCから提供された課題について、理論的体系に基づいた解決案をグループディスカッションする。

6回：協力企業：伊藤忠テクノソリューションズ株式会社（CTC）と共に

発表用にパワポ1枚作成（タイトル、小タイトル、結論、図表、データ数字など含める）にまとめ、発表する。

7回：6回目でまとめた内容を発表する。発表後、協力企業：伊藤忠テクノソリューションズ株式会社（CTC）のフィードバックをもらう。

8回：A協力企業による講義

経営戦略や現状と課題を知り、課題を明確化する。問題解決1枚シートにアイデアを書き込む。

9回：A協力企業による講義

経営戦略や現状と課題を知り、課題を明確化する。問題解決1枚シートにアイデアを書き込む。

10回：理論の整理とまとめ（リブランディング、CSR イメージ戦略の構築、コスト削減戦略、人口減少による市場のターゲティングの明確化、セグメンテーション、ペルソナ、PEST 分析、VRIO 分析、SWOT 分析、

TOWS 分析、新規事業化の提案のブルーオーシャン戦略、5 FORCES など)

11 回：理論のまとめと発表前のパワポ資料の作成方法とフィードバックを受けた資料の修正、発表プレゼン方法などを学ぶ。

12 回：3 回目の授業で提示された課題の発表とフィードバックを協力企業：株式会社フジテレビジョン（清水俊宏氏）にもらう。

13 回：7 回目のディスカッション（フィードバック）内容を修正追加し、発表。協力企業：伊藤忠テクノソリューションズ株式会社（CTC）のフィードバックをもらう。

14 回：まとめ、全体の総評

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

新聞などでの企業の不祥事、経営戦略などを読むこと

時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

宿題：課題解決用作成（パワポ）提出

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席及び授業参加:30% 発表（回数・説得力・プレゼン力含む）:20% 宿題（パワポ）:10% 最終テスト割合：:40%

最終テストには、理論を中心にする。

アクティブラーニングとしてグループディスカッションでは、司会、時間管理、書記などを決めて担当する。

他のグループとの質疑応答を含めグループ内での積極的な意見交換を評価する。

### テキスト / Textbooks

柏木理佳 『国際企業の経営行動』 文真堂 2000 9784830950803 ○

### 参考文献 / Readings

高田貴久 『ロジカルプレゼンテーション』 英治出版 2004 9784901234436

松浦剛志/ 中村一浩 『新人コンサルタントが入社時に叩き込まれる「問題解決」基礎講座』 日本実業出版社 2016 4534053894

吉澤準持 『外資系コンサルから学ぶロジカルシンキングと問題解決の実践講座』 ソーテック社 2023 4800721113

大嶋祥誉 『マッキンゼーで叩き込まれた 超速フレームワーク』 三笠書房 2020 4837927971

馬田隆明 『解像度を上げる』 英治出版 2022 4862763189

中川邦夫 『問題解決の全体観 上巻 ハード思考編』 コンテンツ・ファクトリー 2008 4904256026

経営戦略研究会 『この1冊ですべてわかる 経営戦略の基本』 日本実業出版社 2008 4534044674

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

グループでのディスカッション、発表、プレゼン能力

新聞、ニュースなどからの情報収集能力

理論的発想、展開する能力

未来の日本の課題をイメージする想像力

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

宿題で作成したパワポを発表時に使う場合もある

**その他/ Others**

協力企業の都合または講義の進捗状況により、授業計画に変更や修正が生じる可能性がありますのでご了承ください。グループディスカッション時は原則、全出席を義務（遅刻 2 回で欠席 1 回分と見なす）

当該科目の履修に際しては、つづけて「インターンシップ」の履修が望ましい

# インターンシップ

## Business Internship

企業で働く経験から自身のキャリア形成と目標の設定

柏木理佳 (KASIWAGI RIKA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX319
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX3020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

企業での職場体験を通して、キャリア形成、自分の適職を知り、就職活動における自分に適性のある企業の選択ができるようになることを目標とする。

インターンシップとして企業で働く前に、社会人として心がけること、ビジネスマナーなど最低限のルールを学ぶ。また、事前に企業の HP の会社概要や IR からの情報収集の方法を知る。

The goal is to learn how to establish the career development and find your suitable job, by working experience at a company.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期は、インターンシップに参加する前提で、ビジネスマナー、ビジネススキルなどを学ぶ。インターンシップは夏季休暇中の 2 週間に実施される。

秋学期は体験報告を行う。全員でそれぞれの企業での体験を発表し、情報を共有化することで他企業においても広く知見を得ることができる。



Students learn business manners and business skills before join the internship.

The internship will take place two weeks on summer vacation.

In the fall semester, the students will report their working experiences as internship.

As every student will present their working experiences at a company, sharing the information of other companies means widespread knowledge can be gained.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

### 1回：インターンシップの目的と意義

多くの職業を知り、自分の適職を知る。

人気企業ランキングや人材不足の現状を知る。

グループディスカッション内での自己紹介、他己紹介など。

### 2回：インターンシップの貴重な体験と就職活動への結びつき

自分の適職分析による天職を見つける方法を知る。

適職を選ぶことの重要性を知る。

### 3回：企業選択のための適職分析

小中高の憧れの仕事分析、30項目に1日の仕事を分類分析、理想のライフスタイル分析など

### 4回：キャリアセンターからインターンシップについての説明

インターンシップの実態、注意することなどの説明をうける

### 5回：プロフィールの書き方として長所をエピソードとつなげて説得力を増す方法を知る。

長所を3つ、3パターンのプロフィールを作成する。(終わらなければ宿題)

### 6回：プロフィールの書き方として長所をエピソードとつなげて説得力を増す方法を知る。

長所を3つ、3パターンのプロフィールを作成する。(終わらなければ宿題)

### 7回：ビジネスマナー 電話応対方法、メモ取り方、ほうれんそう、結論から述べる報告の仕方、日報の書き方などを学ぶ。

### 8回：ビジネスマナー グループワークにて実践的なお辞儀、挨拶、身だしなみ、名刺受け渡しなどの基本的なルールを知る。(できればスーツ着用)

### 9回：インターンシップ企業の紹介

業界、業種、企業の概要、需要と供給、企業が欲しい人材を知る。

### 10回：企業を知る

HPから企業の情報収集をする方法を知る。

会社概要、IRから業績、企業文化などを知る。

新卒、既卒などの採用方法などの確認方法を知る。

### 11回：就業先企業マッチング

### 12回：企業の求めている人材になる

企業の需要を分析、求められている人物像になる。

### 13回：業界からみる企業研究、ライバル社との比較、SWOT分析

企業の弱みを調べ自分が企業で活躍できることは何かを考える

### 14回：インターンシップでの目標設定

まとめ

### 15回：インターンシップ体験報告

グループディスカッションにてレポートにまとめる

- 16回：インターンシップ体験報告  
グループディスカッションにてレポートにまとめる
- 17回：インターンシップ体験報告会  
グループ内での発表
- 18回：インターンシップ体験報告会  
全員発表と質疑応答
- 19回：インターンシップ体験報告会  
全員発表と質疑応答
- 20回：インターンシップ体験のグループディスカッション  
反省点を議論、改善策を考える
- 21回：業界別グループワーク：企業、業界分析、業績予想をライバル社と比較
- 22回：業界別グループディスカッション：企業、業界で求めている人材を考える
- 23回：業界別グループディスカッション：AIで今後、需要のある業界、そうでない業界、AIで需要のある人材はどう変化するか
- 24回：企業の需要と結び付けて作成したプロフィールを再作成
- 25回：企業の需要と結び付けて作成したプロフィールを再確認
- 26回：レポート作成：インターンシップ体験報告を元に、企業の需要と、今後、なりたいう人物像を考える。
- 27回：レポート作成：インターンシップ体験報告を元に、企業の需要と、今後、なりたいう人物像を考える。
- 28回：総括：適職分析の補足、レポート提出など

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要な場合は、その都度、授業内にて連絡する

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席及び授業参加：40% 発表（回数・説得力・プレゼン力含む）：30% 宿題（プロフィール3つ）：30%

#### テキスト / Textbooks

内定塾（監修）『2027年度版 インターンシップをひとつひとつわかりやすく』 Gakken 2024  
9784058021880 ○

必要な場合は、授業内で都度、説明する。

#### 参考文献 / Readings

- 藤本健司 『絶対内定 2025-2027 インターンシップ』 ダイヤモンド社 2023 9784478117552
- 柏木理佳 『30分間で天職が見つかる本』 PHP 研究所 2008 9784569631578
- 柳本新二 『2016年度版 最新！ S P I 3 完全版』 高橋書店 2023 9784471431198
- トテ ジェニファー麻綾 『学生がキャリアアップするためのインターンシップ活用術』 総合法令出版 2023  
9784862809247

就活塾 キャリアアカデミー 『就職活動 1冊目の教科書 2025』 KADOKAWA 2023 4046061596

渡部幸 『改訂版 採用側の本音を知れば就職面接は9割成功する』 KADOKAWA 2023 4046063505

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

自己表現力、伝える力、自己分析力、企業の情報収集力

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

レポート作成時にはPCが必要。身だしなみなどビジネスマナー時にはスーツ着用

**その他/ Others**

講義の進捗状況により、授業計画に変更や修正が生じる可能性がありますのでご了承ください。

当該科目の履修に際しては「課題解決演習」を履修しておくことが望ましい。

**注意事項**

本科目は、インターンシップ、就業体験、その他の学外活動等による実践的な学びを中心に構成する授業である。

# Short-term Study Abroad Program in Economics (CAN)

Short-term Study Abroad Program in Economics (CAN)

英語による北米・カナダ研究

大山 利男 (OYAMA TOSHIO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX320

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 6

科目ナンバリング： ECX9053

使用言語： その他

授業形式： その他

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

海外の経済と文化を理解するとともに、国際的な場で活躍するために必要な下記のスキルを身につける。

- 経済・経営について英語で議論する能力
- 北米・環太平洋地域の経済・経営に関する知識
- 多文化社会に関する知識および適応する能力，行動力

To acquire the following skills necessary for understanding overseas economies and cultures and performing in international arenas.

- The ability to discuss the economy and management in English.
- Knowledge of the economies and management in North America and the Pacific Rim.
- Knowledge of multicultural societies and the ability to adapt to them and take action within them.

## 授業の内容 / Course Contents

日本（本学）において北米地域の経済・経営・文化等に関する事前研修を行った後、カナダ・アルバータ大学にて英会話研修，ビジネスプレゼンテーション演習および経済・経営に関する講義を英語で受講する。また現

地での企業見学，学生との交流等を行う。

After conducting preparatory study of North American economies, management, and cultures, etc., while in Japan (this university), students will study English conversation at the University of Alberta in Canada, practice giving business presentations for the Alberta School of Business, and attend economics and business management related classes in English. Students will also take tours of local companies and engage in cultural exchanges with local students.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：基礎知識の習得（1）
- 3 回：基礎知識の習得（2）
- 4 回：基礎知識の習得（3）
- 5 回：英語能力判定テスト
- 6 回：プレゼンテーションの基本スキル
- 7 回：ビジネス・プロジェクトに関するイントロダクション
- 8 回：ビジネスにおける文化的相違：カナダと日本の比較
- 9 回：効果的な交渉術
- 10 回：経済および会社組織のガバナンスシステム：カナダと日本の比較
- 11 回：マーケティングおよび小売業マネジメント
- 12 回：ヒューマン・リソース・マネジメント
- 13 回：資源ビジネスとエネルギー政策
- 14 回：ビジネスプロジェクトのプレゼンテーション／まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Canvas LMS にて随時指示するので，確認のうえ準備学習すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 事前研修の参加状況:10% 海外研修時の成績:50% ビジネスプロジェクト（プレゼンテーション）:20% 最終レポート割合：:20%

### テキスト / Textbooks

日本カナダ学会編 『現代カナダを知るための60章』 明石書店 2021 9784750351674 ○

### 参考文献 / Readings

授業の際に指示する。

## 企画講座 5

Endowed Lecture 5

新しい時代の知を探求する

小澤 康裕／矢下 茂雄 (OZAWA MICHIIHIRO/ YASHITA SHIGEO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX321

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX3010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

不確かな未来で舵をきることのできるイノベーターの育成を目的とし、イノベーションが起こる原理や知識の習得のため、短期的ではなく、世の中の大きな流れを読み、自らの頭で思考するためのインプットとアウトプットの訓練をしながら「不確実な未来を想像する力」を身につけることを目的とする。

そのため、自ら問題を発見し、思考することができるための思考力（ここでは、ロジカル・シンキングとクリエイティブ・シンキングとする）及び、アウトプット（ここでは、ディベート、プレゼンテーション、ワークシートとする）を実行するための、イン

With the aim of fostering innovators who can give guidance in an uncertain future, the aim is for students to read the major trends in the world, rather than thinking short-term, and acquire the "ability to imagine an uncertain future" while training inputs and outputs for thinking with their own mind in order to learn the principles and knowledge that cause innovation.

Therefore, we will conduct training on thinking skills for students to be able to discover and think about problems themselves (i.e. logical thinking and creative thinking), and implement inputs and training within the

course to deliver outputs (i.e. debates, presentations, worksheets).

## 授業の内容 / Course Contents

本科目では、以下の切り口から思考を深堀する

### ①ミクロからマクロへ

<「視点」を尖らせる>

事実を前にした際に、変革の歴史や時代背景、経緯などを理解し、鋭い視点での事実の解釈「どの部分を見るか」を養う

### ②日本から世界

<「視野」を広げる>

日本のみではなく、世界規模での視界を持ち、世界全体で起こっている変化を読む力を養う。

### ③Consumer から Manufacturer へ

<「視座」を高くする>

いちコンシューマー、いち大学生ではなく、価値を提供する側、判断するなどの立場を考えながら、思考・判断の視座を高くする力を養う

上記を達成するために、6つのステップを実践する

1. 思考する重要性を認識する
2. 思考するための武器（フレーム）を認識する
3. 思考するための武器（フレーム）を使って実践してみる
4. 未知を思考する訓練をする
5. 未知と現実社会を結びつける
6. 思考サイクルの定着

In this course, students will deepen their thinking from the following perspectives

#### 1) From micro to macro

<Sharpen our "point of view">

Students will understand the history of changes, the background of the times, and the processes, etc. when facing facts, and develop the ability to interpret facts from a sharp point of view considering "what parts to look at."

#### 2) From Japan to the world

Develop the ability to see on a global scale, not just in Japan, and to read the changes taking place across the world.

#### 3) From the past to the future

<Elevate your "perspective">

Students will develop the ability to elevate their perspective of thinking and judgment while thinking about the position of the provider of value and of judgment, not as a consumer or university student.

Students will practice six steps to achieve the above.

1. Recognize the importance of thinking
2. Recognize tools (frameworks) for thinking
3. Practice using the tools (frameworks) for thinking
4. Train to think about the unknown
5. Connect the unknown and the real world
6. Establish thought cycles

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Introduction：イノベーションの世界史
- 2回：「思考」とは何か①～論理的に考える～
- 3回：「思考」とは何か②～論理を飛躍して考える～
- 4回：価値創造と問題解決
- 5回：未来を想像する
- 6回：実社会を知る（Guest Speaker 予定）
- 7回：「企業」とは何か
- 8回：「仕事」とは何か
- 9回：テクノロジーによって変わる世界～シンギュラリティ～
- 10回：テクノロジーによって変わる世界～Disruptor～
- 11回：「優秀な人材」とは何か①
- 12回：「優秀な人材」とは何か②（Guest Speaker 予定）
- 13回：「キャリア」を考える
- 14回：振り返り：「不確かな未来で舵を切る方法」

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で必要に応じて指示する。各回において事前課題を説明する。授業時には提出された課題に基づいてグループ分けや討論の機会を設ける。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および複数回のリアクションペーパーの提出:50% 授業への貢献度:30% ワークシート:20%

原則として全回出席すること。出席は、リアクションペーパーの提出完了までを示す。出席数が全14回のうち10回未満の者はD評価とする。

#### テキスト / Textbooks

授業内で必要に応じて指示する。

#### 参考文献 / Readings

波頭 亮 『思考・論理・分析：「正しく考え、正しく分かること」の理論と実践』 産能大出版部

ジャレド・ダイヤモンド 『銃・病原菌・鉄』 草思社

ジェイムズ・ロジャー・フレミング 『気象を操作したいと願った人間の歴史』 紀伊國屋書店

マット・リドレー 『繁栄-明日を切り拓くための人類10万年史』 早川書房

松田 卓也 『2045年問題 コンピュータが人類を超える日』 廣済堂出版

リンダ・グラットン 『ワーク・シフト』 プレジデント社

エリック・シュミット、ジャレド・コーエン 『第五の権力 Googleには見えている未来』 ダイヤモンド社

ジム・コリンズ著 『ビジョナリー・カンパニー』（日経BP社）



ゲイリー・ハメル著『経営は何をすべきか』（ダイヤモンド社）  
原 丈人著『増補 21世紀の国富論』（平凡社）  
ルイス・ピーノルト著『コンサルティングの悪魔』（徳間書店）  
大西 康之著『会社が消えた日 三洋電機 10万人のそれから』（日経 BP 社）  
後藤 直義、森川 潤著『アップル帝国の正体』（文藝春秋）  
アルビン・トフラー、ハイジ・トフラー著『富の未来』（講談社）  
アルビン・トフラー著『第三の波』（中央公論新社）  
レイ・カーツワイル著『シンギュラリティ』

#### 履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

世の中の大きな流れを理解し、自分の頭で考えるために、インプットとアウトプットを繰り返す能力

#### その他/ Others

本授業は、実社会の中で理想を描き、自ら問題を発見し解決できるイノベーターの育成を目的としている。そのため、受講者には自主的な学びと思考を期待する。

授業はインタラクティブで、受講者同士が互いに意見をディスカッションする形式を取り入れる。また、思考を深めるための多様な文献の講読を求める。

ぜひ、意欲の高い方に受講いただきたい。

※各回の授業内容は受講者の状況や進捗により、また、事情により変更する場合がある。

## 企画講座 4

Endowed Lecture 4

現代社会と会計

内野 一樹／井上 清香／北井 不二男／松田 真由美／佐藤 亨／相良 貴裕／鈴木 和哉 (UCHINO KAZUKI/INOUE SAYAKA/KITAI FUJIO/MATSUDA MAYUMI/SATO TORU/SAGARA TAKAHIRO/SUZUKI KAZUYA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX322  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX3010  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

会計が、企業を取り巻くステークホルダー（利害関係者）の間で行われ、人と人との関係が背後に横たわっているという意味ですぐれて社会的な行為であることを理解する。

To understand that accounting is an excellent social activity that is conducted between the stakeholders of a company and that forms the background for the relationship between people.

### 授業の内容 / Course Contents

現代社会の諸相にアカウンタビリティ（会計報告責任）を切り口にしてアプローチする。そこでは、就活、非正規雇用、SDGs 等の山積する社会的な問題を題材として、会計は誰のために行うのか、会計に何ができるのか（できないのか）を、受講者と一緒に検討する。「社会に開かれた会計学」を各論的に展開したい。

Accounting is an approach for providing accountability (accounting reporting responsibility) in various aspects of contemporary society. Here, the lecturer will consider together with the students who accounting is done for and

what accounting can do (or cannot do) using such social problems as job searching, non-regular employment, and SDGs as subjects. What is “Accounting that is open to society” will be theoretically developed during the class.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：就活と会計情報(4月15日：内野)
- 2 回：貸借対照表と安全性 (4月22日：井上)
- 3 回：損益計算書と収益性 (4月29日：井上)
- 4 回：財務諸表とステークホルダー (5月6日：北井)
- 5 回：ESG情報の開示 (5月13日：松田)
- 6 回：非財務情報の拡大とガイドライン (5月20日：松田)
- 7 回：政府の会計：国と地方の新しい会計 (5月27日：佐藤)
- 8 回：政策の評価と会計：政策評価と事務事業評価 (6月3日：佐藤)
- 9 回：中小企業における会計実態 (6月10日：相良)
- 10 回：地域金融機関と企業会計 (6月17日：相良)
- 11 回：金融証券取引法とディスクロージャーの拡充 (6月24日：鈴木)
- 12 回：有価証券報告書の改革 (7月1日：鈴木)
- 13 回：統合報告書の制度化 (7月8日：鈴木)
- 14 回：総括 (7月15日：内野)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

一話完結型 (Omnibus)で授業を進めるので、テキスト・配布資料の該当部分を予め一読しておいてほしい。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% コメントカード兼出席票の内容:100%

### テキスト / Textbooks

開講時 (4月の初回) に指示する。

### 参考文献 / Readings

熊谷重勝・内野一樹 『社会化の会計：すべての働く人のために』 創成社 2011 9784794414281

小栗崇資・陣内良昭 『会計学のオルタナティブ』 中央経済社 2022 9784502415210

小栗崇資 『社会・企業の変革とSDGs』 学習の友社 2023 9784761707422

授業の中で随時紹介する。

# 経済地理学 1

Economic Geography 1

立地論 農業立地 工業立地 商業立地 オフィス立地

藤本 典嗣 (FUJIMOTO NORITSUGU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX327

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2410

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

1. 経済地理学の概要を理解し、立地論に基づき地域・都市の成立・形成・成長のメカニズムを説明できるようになること。

2. 経済地理学に関わる専門用語を、日本語・英語でも理解できる水準となること。

1. To gain a conceptual understanding of economic geography and be able to explain the establishment, formation, and growth mechanisms of regions and cities based on location theory.

2. To reach the level where the technical terms used for economic geography can be understood in both Japanese and English.

## 授業の内容 / Course Contents

なぜ、特定地域に、農業者、商業者、工場、オフィスなどの主体（事業所）が立地して、地域・都市が成長していくのか、立地論の理解により、立地要因を明らかにしていきます。タイムリーな話題として、東日本大震災など災害が、立地に与える影響についても、補足的に説明します。

The location factors will be revealed by understanding location theory, which addresses why farmers, merchants,

factories, offices, and other facilities locate in certain areas and how regions and cities grow. As a timely topic, a supplemental explanation of the impact on location of disasters, such as the Great East Japan Earthquake.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：経済地理学の概要
- 2 回：経済地理学における立地論
- 3 回：農業立地論－チューネン
- 4 回：工業立地論－ヴェーバー
- 5 回：中心地理論－クリスタラー
- 6 回：オフィス立地論－プレッド
- 7 回：集積の理論
- 8 回：空間経済学
- 9 回：現代工業の立地調整
- 10 回：グローバリゼーションと多国籍企業の立地
- 11 回：商業立地の変容と中心市街地衰退
- 12 回：少子高齢化社会と福祉サービス立地
- 13 回：東日本大震災と企業立地
- 14 回：国土計画の変遷

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

指定されたテキストは、事前に講読しておくことが望ましい。普段から、自分が住んでいる地域に、どのような、工場・デパート・ショッピングセンター・オフィスが立地しているのか、なぜ、その地域なのかを、興味をもつことが望ましい。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:20% 毎回の課題:20%

### テキスト / Textbooks

藤本典嗣・朴美善著 『東アジア・北米における地域経済』 中央経済社 2021 9784502382215 ○

### 参考文献 / Readings

藤本典嗣 『都市地理学』 中央経済社 2017 9784502227417

授業でその都度、紹介する。

### その他 / Others

事業所立地の具体的データは、以下の経済センサスを各自で調べるとよい。

<http://www.stat.go.jp/data/e-census/index.htm>

また、高校の地理の授業で用いた地図帳 (帝国書院など) を、普段から見る習慣を身につけておくとよい。

## 経済地理学 2

Economic Geography 2

都市システム論 中枢管理機能

藤本 典嗣 (FUJIMOTO NORITSUGU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX328

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2410

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

経済地理学では、都市の成長をどのように捉えているのか、また、都市の成長・衰退は、何によって起こるのかを理解でき、説明できる水準になること。

To be able to understand and explain how economic geography is used to view the growth of cities and what causes cities to grow and decline.

### 授業の内容 / Course Contents

経済地理学 1 において学んだ立地論をもとに、一定の「人口・産業が一定区域内に高密度で集在」し、「周辺地域から人・モノ・カネ・情報が向かって集まる中心性を持つ地点」として都市を捉えていきます。その上で、なぜ、特定地域に人口・産業が集まり、都市が形成されていくのか、そのメカニズムについて、経済地理学の分析手法、なかでも、都市システム論を用いながら明らかにしていきます。

Based on the location theory learned in Economic Geography 1, this course will look at cities as “a place where a set number of people and industries are densely concentrated within a set area” and as a “point with centralizing function that draws in people, goods, money, and information from surrounding areas.” Further, economic

geography analysis techniques, in particular city system theory, will be used to examine why populations and industries gather in specific regions, how cities form, and their mechanisms.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：経済地理学における都市研究
- 2 回：都市化について
- 3 回：都市研究のアプローチ
- 4 回：構造分析からみる都市立地
- 5 回：都市経済の特徴
- 6 回：中枢管理機能の立地
- 7 回：行政システムとオフィス立地 1－国土レベル
- 8 回：行政システムとオフィス立地 2－地方ブロックレベル
- 9 回：行政システムとオフィス立地 3－県土レベル
- 10 回：素材型産業における工場・オフィスの立地
- 11 回：建設業における工場・オフィスの立地
- 12 回：交通と地域
- 13 回：空間政策-国土計画・ランドデザイン
- 14 回：地域政策・地域計画

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

指定されたテキストは、授業前に講読しておくことが望ましい。また、各章の章末に課題があるので、授業前に考えておくことが望ましい。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内テスト:25% 最終レポート割合 :25%

出席も重視するので、授業には出席すること。

### テキスト / Textbooks

藤本典嗣 『都市地理学』 中央経済社 2017 9784502227417 ○

### 参考文献 / Readings

授業でその都度、紹介する。

# 地方自治論

Local Government

地方自治の制度と現在

稲垣 浩 (INAGAKI HIROSHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX329  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX3010  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業の目標は三つある。まず、日本の地方自治制度を題材にして、地方自治の基本的な制度構造とその背景となる歴史や概念について習得すること。次に、これらの習得した知見をもとに、現状の地方自治の諸課題について分析し、将来的な地方自治の姿について考えることができるようになること。さらに、それを他者に対して説得的に語るができるようになることである。

The goals of this class are the following three. First, students should learn about the basic structure of local government and the history and concepts behind it, using Japan's local government system as a subject. Next, students will be able to analyze the current issues of local autonomy and think about the future of local autonomy based on the knowledge they have acquired. Ultimately, the goal is for students to be able to explain them persuasively to others.

## 授業の内容 / Course Contents

日本における地方自治の基礎的な制度は、明治時代以来今日まで安定的に推移してきたが、その制度の下で展開される政策や政治的な状況は様々に変化してきた。特に、1990年代以降、市町村合併や税財政改革な



ど不況に伴う行政の合理化がすすめられる一方で、多様な主体が公共サービスを担うガバナンスなど新たな統治形態の模索も、諸外国と同様に始まっている。また、東京や大阪などに見られるように新たな地方政治の動きが見られる反面、地方創生政策のように中央政府による新たな地方政策も展開されている。この授業では、各回のテーマごとに、こうした地方自治の現状とその背景や変化について、政治学・行政学の視点から検討を進める。授業では、各テーマに関する基礎的な用語や知識について説明をするが、基本的にはそのトピックの全体構造や争点になっている論点について検討することに重きを置く。

The basic system of local autonomy in Japan has remained stable since the Meiji period. On the other hand, the policies and political situation developed under the system have changed in various ways. In particular, since the 1990s, while administrative rationalization due to recession has been promoted, such as municipal mergers and tax and fiscal reform, the search for a new system to provide public services by various entities called "Governance" has begun, as in other countries. In addition, while new local political movements such as those of local political parties in Tokyo and Osaka are seen, new local policies by the central government such as "Chihou Sousei" (the local revitalization policy) are also developed. In this class, the current situation of local autonomy, its background and changes will be examined from the viewpoints of politics and administration for each theme. In the class, basic terminology and knowledge on each topic are explained, but the focus is basically on the overall structure of the topic and the points at issue.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：【ガイダンス・現代日本の地方自治】 現代の地方自治に関する基礎的な事項と、現在の争点・論点等について概説する。また、講義全体のテーマについて説明する。
- 2回：【住民と自治】 自治の主役である「住民」の姿は様々に変化してきた。その歴史的な変容に触れながら、現在の課題について検討する。
- 3回：【議会と執行機関】 自治体の政策は住民の意思を反映しているのか？逆に「住民の意思」は常に反映されなければならないのか？議会、首長、委員会といった、自治体の議決と執行の仕組みと課題について検討する。
- 4回：【地方公務員制度と自治体職員】 「縁の下力持ち」として目立たない存在、場合によっては住民からの非難を一身に浴びつつも、就職先として根強い人気を誇る地方公務員。その制度と現状について検討する。
- 5回：【地方財政制度と自治体財政】 かつて「3割自治」と呼ばれるほど「脆弱」とされた日本の自治体財政。いったい「誰が」「何を」負担するのか？使っているのか？基本的な地方財政の制度とその課題について実際の事例を踏まえながら検討する。
- 6回：【政策と計画】 地域における問題への対処は一律ではない。自治体という組織において、そうした問題への対応がどのように形成され、総合化されるのか。政策や計画の制度と現状について検討する。
- 7回：【組織編成と意思決定】 個人は組織となることで様々な変貌を遂げる。自治体が対応すべき諸課題が「組織」として、どのように議論され、決定されているのか、その制度と現状について検討する。
- 8回：【日本における地方自治の歴史(1)】 地域における権力構造や勃興する地方政党など、地方政治を取り巻く現状を視野に入れつつ、明治から現在に至るまでの地方自治をめぐる事象とその変遷について検討する。
- 9回：【日本における地方自治の歴史(2)】 地域における権力構造や勃興する地方政党など、地方政治を取り巻く現状を視野に入れつつ、明治から現在に至るまでの地方自治をめぐる事象とその変遷について検討する。
- 10回：【政府間関係の理論と自治制度改革】 融合型とされる中央政府との関係、震災等を契機にますます重要となる自治体間関係、これらの政府間関係をどのようにマネジメントしていくのか。政治・行政の両面から歴史的な背景と現状について検討する。
- 11回：【政策と自治①】 給付行政と生活保護 長引く不況や社会構造の変化の中で、生活保護行政が自治体

行政において重要な問題となってきた。生活保護は、国民の生きる権利を支えるものである一方、自治体の財政や職員の労働環境などによっても左右されてしまうことが少なくない。こうした生活保護行政の基本的な仕組みと課題について検討する。

12回：【政策と自治②】子育て支援と教育行政 かつては「家庭」を中心に考えられていた子育て。しかし、核家族化・都市化・男女共同参画、母子・父子の孤立化等、子育てをめぐる環境は大きく変わりつつある。さらに少子高齢化の流れの中で、教育行政も変化しつつある。こうした変動期の子育てと教育行政の現状について検討する。

13回：【自治と地域】東京都政の歴史と現状 立教が存在する東京の自治とその歴史について概観したうえで、日本の地方自治について考えて行く。特に、東京の自治については一般的に知られていないことが多い一方、近年では大阪都構想にみられるように、大都市の行政体制は大きな問題となっている。こうした「東京」の過去と現在について考えたい。

14回：全体のまとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定するテキストの各回の授業に関係している部分や、配布するレジュメや資料等を通じて、各回のトピックスについて予習・復習を行い、わからない点を明確にしておいてください。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :75%

平常点割合 :25% コメントペーパー:25%

#### テキスト / Textbooks

磯崎初仁・金井利之・伊藤正次 『ホーンブック地方自治[新版]』 北樹出版 2020 9784779306327 ○

テキストは授業中に用いるわけではありませんが、レジュメや授業のなかでテキストの該当箇所を指示するので、各自予習や復習などで活用してください。

#### 参考文献 / Readings

辻陽 『日本の地方議会』 中央公論新社 2019 412102558

曾我謙悟 『日本の地方政府』 中央公論新社 2019 4121025377

柴田直子・松井望編 『地方自治論入門』 ミネルヴァ書房 2012 4623064603

佐々木信夫 『都知事』 中央公論新社 2011 4121020901

金井利之 『自治制度』 東京大学出版会 2007 4130342339

原田久 『行政学』 法律文化社 2016 4589037904

砂原庸介・手塚洋輔 『公共政策』 放送大学教育振興会 2022 9784595141768

1と2は、自治体に関する最新の研究動向を踏まえた新書であり、地方自治に関心のある学生は受講前に読んでみてほしい。3は、標準的な地方自治の教科書。テキストと共に読むと理解が深まります。4は、一般向けではあるが東京都政について概括的に述べたもの。5は、研究書であるので難しいが、本講義でも随所で言及する国と地方の関係を深く勉強したい学生は、ぜひトライしてみてください。6は、具体的な事例や問いを

中心に行政や政策について考えようとするもの。地方自治のみならず、中央政府まで視野を広げて考えるために有用です。そのほか

### **履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

地方自治や地方行政への関心、授業以外でも地方自治に関する情報を収集しようとする意欲や能力、積極的に授業に参加しようとする意志が第一に求められます。授業ではできるだけ平易にお話ししますが、コメントペーパーやテストでは、基本的に講義で得た知識をもとにして、地方自治に関する様々な議論にできるかどうかを測定する予定です。テスト前の一夜漬けや、考察の無いコメントペーパーで切り抜きたい学生にはあまり向かない授業かもしれません。

### **その他/ Others**

自治体や、関連する省庁（総務省、内閣府など）などのホームページや広報誌など。できれば、出身地や居住地など、任意の自治体の一つ決め、その自治体が授業で取り上げた制度や課題などに対してどのような対応をしているかホームページなどを通じて調べてみると、より理解が深まります。

また、各回の授業内容については、順番が入れ替わったり、内容を変更する場合がありますが、その場合は予め受講学生に連絡します。

# データ分析入門 1

Introduction to Data Analysis 1

経済系のための情報活用 1

安士 昌一郎 (YASUSHI SHOICHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX331

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1040

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1 年次は自動登録。登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

2～4 年次は抽選登録（BX355「データ分析入門 1」）

## 授業の目標 / Course Objectives

授業の目標は、パソコンを利用した実習により、文書作成とデータ処理の方法を学ぶことである。

The objective of the class is to practice using a personal computer to learn how to create documents and process data.

## 授業の内容 / Course Contents

テキストに沿いながら、実習を進めていく。多くの経済データに触れ、その有効活用を目指す。文書作成ソフト WORD を使った文書の作成、表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成、PowerPoint の操作について学ぶ。授業後半にデータベースからデータをダウンロードして Excel で図表に仕上げる演習を行う。

The practice will proceed following the textbook. The aim is to experience a wide range of economic data and be able to use it effectively. Students will learn to use Word as the word processing software to create documents, spreadsheet software to process data and create graphs, and how to operate PowerPoint.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：Word の基本を学ぶ
- 3 回：Excel の基本を学ぶ
- 4 回：図書館講習会
- 5 回：PowerPoint の基本を学ぶ
- 6 回：説明文書を作成する－Word の応用と活用
- 7 回：プレゼンテーション－PowerPoint の応用と活用
- 8 回：企業の財務比率を比較する
- 9 回：家計消費の特徴を知る
- 10 回：国内総生産（OECD 諸国）の分布を見る
- 11 回：賃金・貯蓄データを読む
- 12 回：金利計算の仕組みを理解する
- 13 回：価格変動を測定する
- 14 回：春学期のまとめ、レポート提出・予備日

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストは事前に読んでくることを前提に授業を進める。授業開始後、Canvas 上のセルフラーニングコンテンツ「Infoss 情報倫理」テストに合格することが必要となる。また単位取得には、授業時に課されたレポート・課題の提出が必要となる。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200）/ Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内提出物（課題・レポートを含む）:50%

#### テキスト/ Textbooks

櫻本健編著、倉田知秋・小澤康裕・藤野 裕・安藤道人・菊地 進 『経済系のための情報活用 1 Office2019 対応』 実教出版 2019 9784407348262 ○

櫻本健編著、藤野裕・小澤康裕・一ノ瀬大輔・安藤道人・田浦元・倉田知秋著 『経済系のための情報活用 2 Office2019 対応』 実教出版 2020 9784407348279 ○

テキスト購入の際には必ず指定の本を用意するようにしてください。過去に出版された似た書籍と間違えないようにしてください。内容が異なります。

#### 参考文献 / Readings

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

情報通信機器を特段指定はしないが、本学は Office ライセンスを提供するなど、SPIRIT の ICT 機器、ソフトウェアなどの情報は学生にとって重要となるため、よく読んでおいていただきたい。

#### その他/ Others

政府統計の総合窓口(e-Stat)、OECD.Stat、日本銀行 HP「時系列統計検索サイト」

# データ分析入門 1

Introduction to Data Analysis 1

経済系のための情報活用 1

本田 恒平 (HONDA KOHEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX332

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1040

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1 年次は自動登録。登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

2～4 年次は抽選登録（BX355「データ分析入門 1」）

## 授業の目標 / Course Objectives

授業の目標は、パソコンを利用した実習により、文書作成とデータ処理の方法を学ぶことである。

The objective of the class is to practice using a personal computer to learn how to create documents and process data.

## 授業の内容 / Course Contents

テキストに沿いながら、実習を進めていく。多くの経済データに触れ、その有効活用を目指す。文書作成ソフト WORD を使った文書の作成、表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成、PowerPoint の操作について学ぶ。授業後半にデータベースからデータをダウンロードして Excel で図表に仕上げる演習を行う。

The practice will proceed following the textbook. The aim is to experience a wide range of economic data and be able to use it effectively. Students will learn to use Word as the word processing software to create documents, spreadsheet software to process data and create graphs, and how to operate PowerPoint.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：Word の基本を学ぶ
- 3 回：Excel の基本を学ぶ
- 4 回：図書館講習会
- 5 回：PowerPoint の基本を学ぶ
- 6 回：説明文書を作成する－Word の応用と活用
- 7 回：プレゼンテーション－PowerPoint の応用と活用
- 8 回：企業の財務比率を比較する
- 9 回：家計消費の特徴を知る
- 10 回：国内総生産（OECD 諸国）の分布を見る
- 11 回：賃金・貯蓄データを読む
- 12 回：金利計算の仕組みを理解する
- 13 回：価格変動を測定する
- 14 回：春学期のまとめ、レポート提出・予備日

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストは事前に読んでくることを前提に授業を進める。授業開始後、Canvas 上のセルフラーニングコンテンツ「Infoss 情報倫理」テストに合格することが必要となる。また単位取得には、授業時に課されたレポート・課題の提出が必要となる。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内提出物（課題・レポートを含む）:50%

#### テキスト / Textbooks

櫻本健編著、倉田知秋・小澤康裕・藤野 裕・安藤道人・菊地 進 『経済系のための情報活用 1 Office2019 対応』 実教出版 2019 9784407348262 ○

櫻本健編著、藤野裕・小澤康裕・一ノ瀬大輔・安藤道人・田浦元・倉田知秋著 『経済系のための情報活用 2 Office2019 対応』 実教出版 2020 9784407348279 ○

テキスト購入の際には必ず指定の本を用意するようにしてください。過去に出版された似た書籍と間違えないようにしてください。内容が異なります。

#### 参考文献 / Readings

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

情報通信機器を特段指定はしないが、本学は Office ライセンスを提供するなど、SPIRIT の ICT 機器、ソフトウェアなどの情報は学生にとって重要となるため、よく読んでおいていただきたい。

#### その他 / Others

政府統計の総合窓口(e-Stat)、OECD.Stat、日本銀行 HP「時系列統計検索サイト」

# データ分析入門 1

Introduction to Data Analysis 1

経済系のための情報活用 1

田中 醇 (TANAKA ATSUSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX333

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1040

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1 年次は自動登録。登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

2～4 年次は抽選登録（BX355「データ分析入門 1」）

## 授業の目標 / Course Objectives

授業の目標は、パソコンを利用した実習により、文書作成とデータ処理の方法を学ぶことである。

The objective of the class is to practice using a personal computer to learn how to create documents and process data.

## 授業の内容 / Course Contents

テキストに沿いながら、実習を進めていく。多くの経済データに触れ、その有効活用を目指す。文書作成ソフト WORD を使った文書の作成、表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成、PowerPoint の操作について学ぶ。授業後半にデータベースからデータをダウンロードして Excel で図表に仕上げる演習を行う。

The practice will proceed following the textbook. The aim is to experience a wide range of economic data and be able to use it effectively. Students will learn to use Word as the word processing software to create documents, spreadsheet software to process data and create graphs, and how to operate PowerPoint.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule



- 1 回：ガイダンス
- 2 回：Word の基本を学ぶ
- 3 回：Excel の基本を学ぶ
- 4 回：図書館講習会
- 5 回：PowerPoint の基本を学ぶ
- 6 回：説明文書を作成する－Word の応用と活用
- 7 回：プレゼンテーション－PowerPoint の応用と活用
- 8 回：企業の財務比率を比較する
- 9 回：家計消費の特徴を知る
- 10 回：国内総生産（OECD 諸国）の分布を見る
- 11 回：賃金・貯蓄データを読む
- 12 回：金利計算の仕組みを理解する
- 13 回：価格変動を測定する
- 14 回：春学期のまとめ、レポート提出・予備日

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストは事前に読んでくることを前提に授業を進める。授業開始後、Canvas 上のセルフラーニングコンテンツ「Infoss 情報倫理」テストに合格することが必要となる。また単位取得には、授業時に課されたレポート・課題の提出が必要となる。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内提出物（課題・レポートを含む）:50%

#### テキスト / Textbooks

櫻本健編著、倉田知秋・小澤康裕・藤野 裕・安藤道人・菊地 進 『経済系のための情報活用 1 Office2019 対応』 実教出版 2019 9784407348262 ○

櫻本健編著、藤野裕・小澤康裕・一ノ瀬大輔・安藤道人・田浦元・倉田知秋著 『経済系のための情報活用 2 Office2019 対応』 実教出版 2020 9784407348279 ○

テキスト購入の際には必ず指定の本を用意するようにしてください。過去に出版された似た書籍と間違えないようにしてください。内容が異なります。

#### 参考文献 / Readings

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

情報通信機器を特段指定はしないが、本学は Office ライセンスを提供するなど、SPIRIT の ICT 機器、ソフトウェアなどの情報は学生にとって重要となるため、よく読んでおいていただきたい。

#### その他 / Others

政府統計の総合窓口(e-Stat)、OECD.Stat、日本銀行 HP「時系列統計検索サイト」

# データ分析入門 1

Introduction to Data Analysis 1

経済系のための情報活用 1

朴 峻喜 (PARK JOONHEE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX334

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1040

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1 年次は自動登録。登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

2～4 年次は抽選登録（BX355「データ分析入門 1」）

## 授業の目標 / Course Objectives

授業の目標は、パソコンを利用した実習により、文書作成とデータ処理の方法を学ぶことである。

The objective of the class is to practice using a personal computer to learn how to create documents and process data.

## 授業の内容 / Course Contents

テキストに沿いながら、実習を進めていく。多くの経済データに触れ、その有効活用を目指す。文書作成ソフト WORD を使った文書の作成、表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成、PowerPoint の操作について学ぶ。授業後半にデータベースからデータをダウンロードして Excel で図表に仕上げる演習を行う。

The practice will proceed following the textbook. The aim is to experience a wide range of economic data and be able to use it effectively. Students will learn to use Word as the word processing software to create documents, spreadsheet software to process data and create graphs, and how to operate PowerPoint.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：Word の基本を学ぶ
- 3 回：Excel の基本を学ぶ
- 4 回：図書館講習会
- 5 回：PowerPoint の基本を学ぶ
- 6 回：説明文書を作成する－Word の応用と活用
- 7 回：プレゼンテーション－PowerPoint の応用と活用
- 8 回：企業の財務比率を比較する
- 9 回：家計消費の特徴を知る
- 10 回：国内総生産（OECD 諸国）の分布を見る
- 11 回：賃金・貯蓄データを読む
- 12 回：金利計算の仕組みを理解する
- 13 回：価格変動を測定する
- 14 回：春学期のまとめ、レポート提出・予備日

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストは事前に読んでくることを前提に授業を進める。授業開始後、Canvas 上のセルフラーニングコンテンツ「Infoss 情報倫理」テストに合格することが必要となる。また単位取得には、授業時に課されたレポート・課題の提出が必要となる。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内提出物（課題・レポートを含む）:50%

#### テキスト / Textbooks

櫻本健編著、倉田知秋・小澤康裕・藤野 裕・安藤道人・菊地 進 『経済系のための情報活用 1 Office2019 対応』 実教出版 2019 9784407348262 ○

櫻本健編著、藤野裕・小澤康裕・一ノ瀬大輔・安藤道人・田浦元・倉田知秋著 『経済系のための情報活用 2 Office2019 対応』 実教出版 2020 9784407348279 ○

テキスト購入の際には必ず指定の本を用意するようにしてください。過去に出版された似た書籍と間違えないようにしてください。内容が異なります。

#### 参考文献 / Readings

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

情報通信機器を特段指定はしないが、本学は Office ライセンスを提供するなど、SPIRIT の ICT 機器、ソフトウェアなどの情報は学生にとって重要となるため、よく読んでおいていただきたい。

#### その他 / Others

政府統計の総合窓口(e-Stat)、OECD.Stat、日本銀行 HP「時系列統計検索サイト」

# データ分析入門 1

Introduction to Data Analysis 1

経済系のための情報活用 1

李 赫然 (LI HERAN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX335

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1040

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1 年次は自動登録。登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

2～4 年次は抽選登録（BX355「データ分析入門 1」）

## 授業の目標 / Course Objectives

授業の目標は、パソコンを利用した実習により、文書作成とデータ処理の方法を学ぶことである。

The objective of the class is to practice using a personal computer to learn how to create documents and process data.

## 授業の内容 / Course Contents

テキストに沿いながら、実習を進めていく。多くの経済データに触れ、その有効活用を目指す。文書作成ソフト WORD を使った文書の作成、表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成、PowerPoint の操作について学ぶ。授業後半にデータベースからデータをダウンロードして Excel で図表に仕上げる演習を行う。

The practice will proceed following the textbook. The aim is to experience a wide range of economic data and be able to use it effectively. Students will learn to use Word as the word processing software to create documents, spreadsheet software to process data and create graphs, and how to operate PowerPoint.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：Word の基本を学ぶ
- 3 回：Excel の基本を学ぶ
- 4 回：図書館講習会
- 5 回：PowerPoint の基本を学ぶ
- 6 回：説明文書を作成する－Word の応用と活用
- 7 回：プレゼンテーション－PowerPoint の応用と活用
- 8 回：企業の財務比率を比較する
- 9 回：家計消費の特徴を知る
- 10 回：国内総生産（OECD 諸国）の分布を見る
- 11 回：賃金・貯蓄データを読む
- 12 回：金利計算の仕組みを理解する
- 13 回：価格変動を測定する
- 14 回：春学期のまとめ、レポート提出・予備日

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストは事前に読んでくることを前提に授業を進める。授業開始後、Canvas 上のセルフラーニングコンテンツ「Infoss 情報倫理」テストに合格することが必要となる。また単位取得には、授業時に課されたレポート・課題の提出が必要となる。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内提出物（課題・レポートを含む）:50%

#### テキスト / Textbooks

櫻本健編著、倉田知秋・小澤康裕・藤野 裕・安藤道人・菊地 進 『経済系のための情報活用 1 Office2019 対応』 実教出版 2019 9784407348262 ○

櫻本健編著、藤野裕・小澤康裕・一ノ瀬大輔・安藤道人・田浦元・倉田知秋著 『経済系のための情報活用 2 Office2019 対応』 実教出版 2020 9784407348279 ○

テキスト購入の際には必ず指定の本を用意するようにしてください。過去に出版された似た書籍と間違えないようにしてください。内容が異なります。

#### 参考文献 / Readings

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

情報通信機器を特段指定はしないが、本学は Office ライセンスを提供するなど、SPIRIT の ICT 機器、ソフトウェアなどの情報は学生にとって重要となるため、よく読んでおいていただきたい。

#### その他 / Others

政府統計の総合窓口(e-Stat)、OECD.Stat、日本銀行 HP「時系列統計検索サイト」

# データ分析入門 1

Introduction to Data Analysis 1

経済系のための情報活用 1

李 赫然 (LI HERAN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX336

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1040

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1 年次は自動登録。登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

2～4 年次は抽選登録（BX355「データ分析入門 1」）

## 授業の目標 / Course Objectives

授業の目標は、パソコンを利用した実習により、文書作成とデータ処理の方法を学ぶことである。

The objective of the class is to practice using a personal computer to learn how to create documents and process data.

## 授業の内容 / Course Contents

テキストに沿いながら、実習を進めていく。多くの経済データに触れ、その有効活用を目指す。文書作成ソフト WORD を使った文書の作成、表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成、PowerPoint の操作について学ぶ。授業後半にデータベースからデータをダウンロードして Excel で図表に仕上げる演習を行う。

The practice will proceed following the textbook. The aim is to experience a wide range of economic data and be able to use it effectively. Students will learn to use Word as the word processing software to create documents, spreadsheet software to process data and create graphs, and how to operate PowerPoint.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：Word の基本を学ぶ
- 3回：Excel の基本を学ぶ
- 4回：図書館講習会
- 5回：PowerPoint の基本を学ぶ
- 6回：説明文書を作成する－Word の応用と活用
- 7回：プレゼンテーション－PowerPoint の応用と活用
- 8回：企業の財務比率を比較する
- 9回：家計消費の特徴を知る
- 10回：国内総生産（OECD 諸国）の分布を見る
- 11回：賃金・貯蓄データを読む
- 12回：金利計算の仕組みを理解する
- 13回：価格変動を測定する
- 14回：春学期のまとめ、レポート提出・予備日

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストは事前に読んでくることを前提に授業を進める。授業開始後、Canvas 上のセルフラーニングコンテンツ「Infoss 情報倫理」テストに合格することが必要となる。また単位取得には、授業時に課されたレポート・課題の提出が必要となる。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内提出物（課題・レポートを含む）:50%

#### テキスト / Textbooks

櫻本健編著、倉田知秋・小澤康裕・藤野 裕・安藤道人・菊地 進 『経済系のための情報活用 1 Office2019 対応』 実教出版 2019 9784407348262 ○

櫻本健編著、藤野裕・小澤康裕・一ノ瀬大輔・安藤道人・田浦元・倉田知秋著 『経済系のための情報活用 2 Office2019 対応』 実教出版 2020 9784407348279 ○

テキスト購入の際には必ず指定の本を用意するようにしてください。過去に出版された似た書籍と間違えないようにしてください。内容が異なります。

#### 参考文献 / Readings

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

情報通信機器を特段指定はしないが、本学は Office ライセンスを提供するなど、SPIRIT の ICT 機器、ソフトウェアなどの情報は学生にとって重要となるため、よく読んでおいていただきたい。

#### その他 / Others

政府統計の総合窓口(e-Stat)、OECD.Stat、日本銀行 HP「時系列統計検索サイト」

# データ分析入門 1

Introduction to Data Analysis 1

経済系のための情報活用 1

菊池 美幸 (KIKUCHI MIYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX337

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1040

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1 年次は自動登録。登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

2～4 年次は抽選登録（BX355「データ分析入門 1」）

## 授業の目標 / Course Objectives

授業の目標は、パソコンを利用した実習により、文書作成とデータ処理の方法を学ぶことである。

The objective of the class is to practice using a personal computer to learn how to create documents and process data.

## 授業の内容 / Course Contents

テキストに沿いながら、実習を進めていく。多くの経済データに触れ、その有効活用を目指す。文書作成ソフト WORD を使った文書の作成、表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成、PowerPoint の操作について学ぶ。授業後半にデータベースからデータをダウンロードして Excel で図表に仕上げる演習を行う。

The practice will proceed following the textbook. The aim is to experience a wide range of economic data and be able to use it effectively. Students will learn to use Word as the word processing software to create documents, spreadsheet software to process data and create graphs, and how to operate PowerPoint.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule



- 1回：ガイダンス
- 2回：Word の基本を学ぶ
- 3回：Excel の基本を学ぶ
- 4回：図書館講習会
- 5回：PowerPoint の基本を学ぶ
- 6回：説明文書を作成する－Word の応用と活用
- 7回：プレゼンテーション－PowerPoint の応用と活用
- 8回：企業の財務比率を比較する
- 9回：家計消費の特徴を知る
- 10回：国内総生産（OECD 諸国）の分布を見る
- 11回：賃金・貯蓄データを読む
- 12回：金利計算の仕組みを理解する
- 13回：価格変動を測定する
- 14回：春学期のまとめ、レポート提出・予備日

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストは事前に読んでくることを前提に授業を進める。授業開始後、Canvas 上のセルフラーニングコンテンツ「Infoss 情報倫理」テストに合格することが必要となる。また単位取得には、授業時に課されたレポート・課題の提出が必要となる。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内提出物（課題・レポートを含む）:50%

#### テキスト / Textbooks

櫻本健編著、倉田知秋・小澤康裕・藤野 裕・安藤道人・菊地 進 『経済系のための情報活用1 Office2019 対応』 実教出版 2019 9784407348262 ○

櫻本健編著、藤野裕・小澤康裕・一ノ瀬大輔・安藤道人・田浦元・倉田知秋著 『経済系のための情報活用2 Office2019 対応』 実教出版 2020 9784407348279 ○

テキスト購入の際には必ず指定の本を用意するようにしてください。過去に出版された似た書籍と間違えないようにしてください。内容が異なります。

#### 参考文献 / Readings

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

情報通信機器を特段指定はしないが、本学は Office ライセンスを提供するなど、SPIRIT の ICT 機器、ソフトウェアなどの情報は学生にとって重要となるため、よく読んでおいていただきたい。

#### その他 / Others

政府統計の総合窓口(e-Stat)、OECD.Stat、日本銀行 HP「時系列統計検索サイト」

# データ分析入門 1

Introduction to Data Analysis 1

経済系のための情報活用 1

朴 峻喜 (PARK JOONHEE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX338

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1040

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1 年次は自動登録。登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

2～4 年次は抽選登録（BX355「データ分析入門 1」）

## 授業の目標 / Course Objectives

授業の目標は、パソコンを利用した実習により、文書作成とデータ処理の方法を学ぶことである。

The objective of the class is to practice using a personal computer to learn how to create documents and process data.

## 授業の内容 / Course Contents

テキストに沿いながら、実習を進めていく。多くの経済データに触れ、その有効活用を目指す。文書作成ソフト WORD を使った文書の作成、表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成、PowerPoint の操作について学ぶ。授業後半にデータベースからデータをダウンロードして Excel で図表に仕上げる演習を行う。

The practice will proceed following the textbook. The aim is to experience a wide range of economic data and be able to use it effectively. Students will learn to use Word as the word processing software to create documents, spreadsheet software to process data and create graphs, and how to operate PowerPoint.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：Word の基本を学ぶ
- 3 回：Excel の基本を学ぶ
- 4 回：図書館講習会
- 5 回：PowerPoint の基本を学ぶ
- 6 回：説明文書を作成する－Word の応用と活用
- 7 回：プレゼンテーション－PowerPoint の応用と活用
- 8 回：企業の財務比率を比較する
- 9 回：家計消費の特徴を知る
- 10 回：国内総生産（OECD 諸国）の分布を見る
- 11 回：賃金・貯蓄データを読む
- 12 回：金利計算の仕組みを理解する
- 13 回：価格変動を測定する
- 14 回：春学期のまとめ、レポート提出・予備日

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストは事前に読んでくることを前提に授業を進める。授業開始後、Canvas 上のセルフラーニングコンテンツ「Infoss 情報倫理」テストに合格することが必要となる。また単位取得には、授業時に課されたレポート・課題の提出が必要となる。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内提出物（課題・レポートを含む）:50%

#### テキスト / Textbooks

櫻本健編著、倉田知秋・小澤康裕・藤野 裕・安藤道人・菊地 進 『経済系のための情報活用 1 Office2019 対応』 実教出版 2019 9784407348262 ○

櫻本健編著、藤野裕・小澤康裕・一ノ瀬大輔・安藤道人・田浦元・倉田知秋著 『経済系のための情報活用 2 Office2019 対応』 実教出版 2020 9784407348279 ○

テキスト購入の際には必ず指定の本を用意するようにしてください。過去に出版された似た書籍と間違えないようにしてください。内容が異なります。

#### 参考文献 / Readings

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

情報通信機器を特段指定はしないが、本学は Office ライセンスを提供するなど、SPIRIT の ICT 機器、ソフトウェアなどの情報は学生にとって重要となるため、よく読んでおいていただきたい。

#### その他 / Others

政府統計の総合窓口(e-Stat)、OECD.Stat、日本銀行 HP「時系列統計検索サイト」

# データ分析入門 1

Introduction to Data Analysis 1

経済系のための情報活用 1

関根 未来 (SEKINE MIKU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX339

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1040

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1 年次は自動登録。登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

2～4 年次は抽選登録（BX355「データ分析入門 1」）

## 授業の目標 / Course Objectives

授業の目標は、パソコンを利用した実習により、文書作成とデータ処理の方法を学ぶことである。

The objective of the class is to practice using a personal computer to learn how to create documents and process data.

## 授業の内容 / Course Contents

テキストに沿いながら、実習を進めていく。多くの経済データに触れ、その有効活用を目指す。文書作成ソフト WORD を使った文書の作成、表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成、PowerPoint の操作について学ぶ。授業後半にデータベースからデータをダウンロードして Excel で図表に仕上げる演習を行う。

The practice will proceed following the textbook. The aim is to experience a wide range of economic data and be able to use it effectively. Students will learn to use Word as the word processing software to create documents, spreadsheet software to process data and create graphs, and how to operate PowerPoint.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：Word の基本を学ぶ
- 3回：Excel の基本を学ぶ
- 4回：図書館講習会
- 5回：PowerPoint の基本を学ぶ
- 6回：説明文書を作成する－Word の応用と活用
- 7回：プレゼンテーション－PowerPoint の応用と活用
- 8回：企業の財務比率を比較する
- 9回：家計消費の特徴を知る
- 10回：国内総生産（OECD 諸国）の分布を見る
- 11回：賃金・貯蓄データを読む
- 12回：金利計算の仕組みを理解する
- 13回：価格変動を測定する
- 14回：春学期のまとめ、レポート提出・予備日

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストは事前に読んでくることを前提に授業を進める。授業開始後、Canvas 上のセルフラーニングコンテンツ「Infoss 情報倫理」テストに合格することが必要となる。また単位取得には、授業時に課されたレポート・課題の提出が必要となる。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内提出物（課題・レポートを含む）:50%

#### テキスト / Textbooks

櫻本健編著、倉田知秋・小澤康裕・藤野 裕・安藤道人・菊地 進 『経済系のための情報活用1 Office2019 対応』 実教出版 2019 9784407348262 ○

櫻本健編著、藤野裕・小澤康裕・一ノ瀬大輔・安藤道人・田浦元・倉田知秋著 『経済系のための情報活用2 Office2019 対応』 実教出版 2020 9784407348279 ○

テキスト購入の際には必ず指定の本を用意するようにしてください。過去に出版された似た書籍と間違えないようにしてください。内容が異なります。

#### 参考文献 / Readings

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

情報通信機器を特段指定はしないが、本学は Office ライセンスを提供するなど、SPIRIT の ICT 機器、ソフトウェアなどの情報は学生にとって重要となるため、よく読んでおいていただきたい。

#### その他 / Others

政府統計の総合窓口(e-Stat)、OECD.Stat、日本銀行 HP「時系列統計検索サイト」

# データ分析入門 1

Introduction to Data Analysis 1

経済系のための情報活用 1

本田 恒平 (HONDA KOHEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX340

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1040

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1 年次は自動登録。登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

2～4 年次は抽選登録（BX355「データ分析入門 1」）

## 授業の目標 / Course Objectives

授業の目標は、パソコンを利用した実習により、文書作成とデータ処理の方法を学ぶことである。

The objective of the class is to practice using a personal computer to learn how to create documents and process data.

## 授業の内容 / Course Contents

テキストに沿いながら、実習を進めていく。多くの経済データに触れ、その有効活用を目指す。文書作成ソフト WORD を使った文書の作成、表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成、PowerPoint の操作について学ぶ。授業後半にデータベースからデータをダウンロードして Excel で図表に仕上げる演習を行う。

The practice will proceed following the textbook. The aim is to experience a wide range of economic data and be able to use it effectively. Students will learn to use Word as the word processing software to create documents, spreadsheet software to process data and create graphs, and how to operate PowerPoint.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：Word の基本を学ぶ
- 3 回：Excel の基本を学ぶ
- 4 回：図書館講習会
- 5 回：PowerPoint の基本を学ぶ
- 6 回：説明文書を作成する－Word の応用と活用
- 7 回：プレゼンテーション－PowerPoint の応用と活用
- 8 回：企業の財務比率を比較する
- 9 回：家計消費の特徴を知る
- 10 回：国内総生産（OECD 諸国）の分布を見る
- 11 回：賃金・貯蓄データを読む
- 12 回：金利計算の仕組みを理解する
- 13 回：価格変動を測定する
- 14 回：春学期のまとめ、レポート提出・予備日

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストは事前に読んでくることを前提に授業を進める。授業開始後、Canvas 上のセルフラーニングコンテンツ「Infoss 情報倫理」テストに合格することが必要となる。また単位取得には、授業時に課されたレポート・課題の提出が必要となる。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内提出物（課題・レポートを含む）:50%

#### テキスト / Textbooks

櫻本健編著、倉田知秋・小澤康裕・藤野 裕・安藤道人・菊地 進 『経済系のための情報活用 1 Office2019 対応』 実教出版 2019 9784407348262 ○

櫻本健編著、藤野裕・小澤康裕・一ノ瀬大輔・安藤道人・田浦元・倉田知秋著 『経済系のための情報活用 2 Office2019 対応』 実教出版 2020 9784407348279 ○

テキスト購入の際には必ず指定の本を用意するようにしてください。過去に出版された似た書籍と間違えないようにしてください。内容が異なります。

#### 参考文献 / Readings

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

情報通信機器を特段指定はしないが、本学は Office ライセンスを提供するなど、SPIRIT の ICT 機器、ソフトウェアなどの情報は学生にとって重要となるため、よく読んでおいていただきたい。

#### その他 / Others

政府統計の総合窓口(e-Stat)、OECD.Stat、日本銀行 HP「時系列統計検索サイト」

# データ分析入門 1

Introduction to Data Analysis 1

経済系のための情報活用 1

安士 昌一郎 (YASUSHI SHOICHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX341

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1040

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1 年次は自動登録。登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

2～4 年次は抽選登録（BX355「データ分析入門 1」）

## 授業の目標 / Course Objectives

授業の目標は、パソコンを利用した実習により、文書作成とデータ処理の方法を学ぶことである。

The objective of the class is to practice using a personal computer to learn how to create documents and process data.

## 授業の内容 / Course Contents

テキストに沿いながら、実習を進めていく。多くの経済データに触れ、その有効活用を目指す。文書作成ソフト WORD を使った文書の作成、表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成、PowerPoint の操作について学ぶ。授業後半にデータベースからデータをダウンロードして Excel で図表に仕上げる演習を行う。

The practice will proceed following the textbook. The aim is to experience a wide range of economic data and be able to use it effectively. Students will learn to use Word as the word processing software to create documents, spreadsheet software to process data and create graphs, and how to operate PowerPoint.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule



- 1回：ガイダンス
- 2回：Word の基本を学ぶ
- 3回：Excel の基本を学ぶ
- 4回：図書館講習会
- 5回：PowerPoint の基本を学ぶ
- 6回：説明文書を作成する－Word の応用と活用
- 7回：プレゼンテーション－PowerPoint の応用と活用
- 8回：企業の財務比率を比較する
- 9回：家計消費の特徴を知る
- 10回：国内総生産（OECD 諸国）の分布を見る
- 11回：賃金・貯蓄データを読む
- 12回：金利計算の仕組みを理解する
- 13回：価格変動を測定する
- 14回：春学期のまとめ、レポート提出・予備日

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストは事前に読んでくることを前提に授業を進める。授業開始後、Canvas 上のセルフラーニングコンテンツ「Infoss 情報倫理」テストに合格することが必要となる。また単位取得には、授業時に課されたレポート・課題の提出が必要となる。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内提出物（課題・レポートを含む）:50%

#### テキスト / Textbooks

櫻本健編著、倉田知秋・小澤康裕・藤野 裕・安藤道人・菊地 進 『経済系のための情報活用1 Office2019 対応』 実教出版 2019 9784407348262 ○

櫻本健編著、藤野裕・小澤康裕・一ノ瀬大輔・安藤道人・田浦元・倉田知秋著 『経済系のための情報活用2 Office2019 対応』 実教出版 2020 9784407348279 ○

テキスト購入の際には必ず指定の本を用意するようにしてください。過去に出版された似た書籍と間違えないようにしてください。内容が異なります。

#### 参考文献 / Readings

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

情報通信機器を特段指定はしないが、本学は Office ライセンスを提供するなど、SPIRIT の ICT 機器、ソフトウェアなどの情報は学生にとって重要となるため、よく読んでおいていただきたい。

#### その他 / Others

政府統計の総合窓口(e-Stat)、OECD.Stat、日本銀行 HP「時系列統計検索サイト」

# データ分析入門2

Introduction to Data Analysis 2

経済系のための情報活用2

安士 昌一郎 (YASUSHI SHOICHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX342

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1040

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： データ分析入門1

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1年次は自動登録。登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

2～4年次は抽選登録（BX356「データ分析入門2」）

## 授業の目標 / Course Objectives

授業の目標は、パソコンを利用した実習により、経済・財務・会計データを分析する方法を学ぶことである。

The objective of the class is to practice using a personal computer to learn the methods for analyzing economic, financial, and accounting data.

## 授業の内容 / Course Contents

テキストに沿いながら、実習を進めていく。多くの経済データに触れ、その有効活用する方法を学ぶ。各分野で活用されている種々の分析方法を、原データを使って理解することを内容とする。この学習を通じて、統計的な数量分析の力を身に着ける。

The practice will proceed following the textbook. The aim is to experience a wide range of economic data and learn how to use it effectively. In this course students will use raw data to understand the various analytical methods used in various fields. Through this study students will acquire the ability to perform statistical quantitative analysis.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：外国為替レート変化の影響をとらえる
- 2 回：地域の経済指標を比較する、個票データを集計する
- 3 回：経済成長の要因を分解する
- 4 回：経済と環境指標の関係を測定する
- 5 回：不平等度を測定する
- 6 回：消費の変動を要因分解する
- 7 回：企業動向調査の結果を分析する、損益分岐点を算出する
- 8 回：債券価値の変動を捉える
- 9 回：人口データを分析する
- 10 回：GIS の使い方を学ぶ
- 11 回：季節性のあるデータを分析する
- 12 回：財政・社会保障を体系的に学ぶ
- 13 回：波及効果を測定する
- 14 回：講義まとめ、レポート提出・予備日

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

データ分析入門1の内容を復習しておくことが大事である。テキストは事前に読んでくることを前提に授業を進める。単位修得には授業時に課されたレポート・課題の提出が必要となる。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内提出物(課題・レポート含む):50%

**テキスト / Textbooks**

櫻本健編著、倉田知秋・小澤康裕・藤野 裕・安藤道人・菊地 進著 『経済系のための情報活用 1

Office2019 対応』 実教出版 2019 9784407348262 ○

櫻本健編著、藤野裕・小澤康裕・一ノ瀬大輔・安藤道人・田浦元・倉田知秋著 『経済系のための情報活用 2

Office2019 対応』 実教出版 2020 9784407348279 ○

テキスト購入の際には必ず指定の本を用意するようにしてください。

**参考文献 / Readings****その他 / Others**

1 年次入学者で、春学期科目のデータ分析入門1を単位修得した者は自動登録される。政府統計の総合窓口(e-Stat)、OECD.Stat、日本銀行 HP「時系列統計データ検索サイト」といった HP もテキストと併せて利用する。10 回目の講義では e-Stat のログインが必要となる。

# データ分析入門2

Introduction to Data Analysis 2

経済系のための情報活用2

本田 恒平 (HONDA KOHEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX343

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1040

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： データ分析入門1

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1年次は自動登録。登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

2～4年次は抽選登録（BX356「データ分析入門2」）

## 授業の目標 / Course Objectives

授業の目標は、パソコンを利用した実習により、経済・財務・会計データを分析する方法を学ぶことである。

The objective of the class is to practice using a personal computer to learn the methods for analyzing economic, financial, and accounting data.

## 授業の内容 / Course Contents

テキストに沿いながら、実習を進めていく。多くの経済データに触れ、その有効活用する方法を学ぶ。各分野で活用されている種々の分析方法を、原データを使って理解することを内容とする。この学習を通じて、統計的な数量分析の力を身に着ける。

The practice will proceed following the textbook. The aim is to experience a wide range of economic data and learn how to use it effectively. In this course students will use raw data to understand the various analytical methods used in various fields. Through this study students will acquire the ability to perform statistical quantitative analysis.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：外国為替レート変化の影響をとらえる
- 2 回：地域の経済指標を比較する、個票データを集計する
- 3 回：経済成長の要因を分解する
- 4 回：経済と環境指標の関係を測定する
- 5 回：不平等度を測定する
- 6 回：消費の変動を要因分解する
- 7 回：企業動向調査の結果を分析する、損益分岐点を算出する
- 8 回：債券価値の変動を捉える
- 9 回：人口データを分析する
- 10 回：GIS の使い方を学ぶ
- 11 回：季節性のあるデータを分析する
- 12 回：財政・社会保障を体系的に学ぶ
- 13 回：波及効果を測定する
- 14 回：講義まとめ、レポート提出・予備日

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

データ分析入門1の内容を復習しておくことが大事である。テキストは事前に読んでくることを前提に授業を進める。単位修得には授業時に課されたレポート・課題の提出が必要となる。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内提出物(課題・レポート含む):50%

**テキスト / Textbooks**

櫻本健編著、倉田知秋・小澤康裕・藤野 裕・安藤道人・菊地 進著 『経済系のための情報活用 1

Office2019 対応』 実教出版 2019 9784407348262 ○

櫻本健編著、藤野裕・小澤康裕・一ノ瀬大輔・安藤道人・田浦元・倉田知秋著 『経済系のための情報活用 2

Office2019 対応』 実教出版 2020 9784407348279 ○

テキスト購入の際には必ず指定の本を用意するようにしてください。

**参考文献 / Readings****その他 / Others**

1 年次入学者で、春学期科目のデータ分析入門1を単位修得した者は自動登録される。政府統計の総合窓口(e-Stat)、OECD.Stat、日本銀行 HP「時系列統計データ検索サイト」といった HP もテキストと併せて利用する。10 回目の講義では e-Stat のログインが必要となる。

# データ分析入門2

Introduction to Data Analysis 2

経済系のための情報活用2

田中 醇 (TANAKA ATSUSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX344

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1040

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： データ分析入門1

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1年次は自動登録。登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

2～4年次は抽選登録（BX356「データ分析入門2」）

## 授業の目標 / Course Objectives

授業の目標は、パソコンを利用した実習により、経済・財務・会計データを分析する方法を学ぶことである。

The objective of the class is to practice using a personal computer to learn the methods for analyzing economic, financial, and accounting data.

## 授業の内容 / Course Contents

テキストに沿いながら、実習を進めていく。多くの経済データに触れ、その有効活用する方法を学ぶ。各分野で活用されている種々の分析方法を、原データを使って理解することを内容とする。この学習を通じて、統計的な数量分析の力を身に着ける。

The practice will proceed following the textbook. The aim is to experience a wide range of economic data and learn how to use it effectively. In this course students will use raw data to understand the various analytical methods used in various fields. Through this study students will acquire the ability to perform statistical quantitative analysis.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：外国為替レート変化の影響をとらえる
- 2 回：地域の経済指標を比較する、個票データを集計する
- 3 回：経済成長の要因を分解する
- 4 回：経済と環境指標の関係を測定する
- 5 回：不平等度を測定する
- 6 回：消費の変動を要因分解する
- 7 回：企業動向調査の結果を分析する、損益分岐点を算出する
- 8 回：債券価値の変動を捉える
- 9 回：人口データを分析する
- 10 回：GIS の使い方を学ぶ
- 11 回：季節性のあるデータを分析する
- 12 回：財政・社会保障を体系的に学ぶ
- 13 回：波及効果を測定する
- 14 回：講義まとめ、レポート提出・予備日

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

データ分析入門1の内容を復習しておくことが大事である。テキストは事前に読んでくることを前提に授業を進める。単位修得には授業時に課されたレポート・課題の提出が必要となる。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内提出物(課題・レポート含む):50%

**テキスト / Textbooks**

櫻本健編著、倉田知秋・小澤康裕・藤野 裕・安藤道人・菊地 進著 『経済系のための情報活用1

Office2019 対応』 実教出版 2019 9784407348262 ○

櫻本健編著、藤野裕・小澤康裕・一ノ瀬大輔・安藤道人・田浦元・倉田知秋著 『経済系のための情報活用2

Office2019 対応』 実教出版 2020 9784407348279 ○

テキスト購入の際には必ず指定の本を用意するようにしてください。

**参考文献 / Readings****その他 / Others**

1 年次入学者で、春学期科目のデータ分析入門1を単位修得した者は自動登録される。政府統計の総合窓口(e-Stat)、OECD.Stat、日本銀行 HP「時系列統計データ検索サイト」といった HP もテキストと併せて利用する。10 回目の講義では e-Stat のログインが必要となる。

# データ分析入門2

Introduction to Data Analysis 2

経済系のための情報活用2

朴 峻喜 (PARK JOONHEE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX345

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1040

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： データ分析入門1

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1年次は自動登録。登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

2～4年次は抽選登録（BX356「データ分析入門2」）

## 授業の目標 / Course Objectives

授業の目標は、パソコンを利用した実習により、経済・財務・会計データを分析する方法を学ぶことである。

The objective of the class is to practice using a personal computer to learn the methods for analyzing economic, financial, and accounting data.

## 授業の内容 / Course Contents

テキストに沿いながら、実習を進めていく。多くの経済データに触れ、その有効活用の方法を学ぶ。各分野で活用されている種々の分析方法を、原データを使って理解することを内容とする。この学習を通じて、統計的な数量分析の力を身に着ける。

The practice will proceed following the textbook. The aim is to experience a wide range of economic data and learn how to use it effectively. In this course students will use raw data to understand the various analytical methods used in various fields. Through this study students will acquire the ability to perform statistical quantitative analysis.



**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：外国為替レート変化の影響をとらえる
- 2 回：地域の経済指標を比較する、個票データを集計する
- 3 回：経済成長の要因を分解する
- 4 回：経済と環境指標の関係を測定する
- 5 回：不平等度を測定する
- 6 回：消費の変動を要因分解する
- 7 回：企業動向調査の結果を分析する、損益分岐点を算出する
- 8 回：債券価値の変動を捉える
- 9 回：人口データを分析する
- 10 回：GIS の使い方を学ぶ
- 11 回：季節性のあるデータを分析する
- 12 回：財政・社会保障を体系的に学ぶ
- 13 回：波及効果を測定する
- 14 回：講義まとめ、レポート提出・予備日

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

データ分析入門1の内容を復習しておくことが大事である。テキストは事前に読んでくることを前提に授業を進める。単位修得には授業時に課されたレポート・課題の提出が必要となる。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内提出物(課題・レポート含む):50%

**テキスト / Textbooks**

櫻本健編著、倉田知秋・小澤康裕・藤野 裕・安藤道人・菊地 進著 『経済系のための情報活用1

Office2019 対応』 実教出版 2019 9784407348262 ○

櫻本健編著、藤野裕・小澤康裕・一ノ瀬大輔・安藤道人・田浦元・倉田知秋著 『経済系のための情報活用2

Office2019 対応』 実教出版 2020 9784407348279 ○

テキスト購入の際には必ず指定の本を用意するようにしてください。

**参考文献 / Readings****その他 / Others**

1 年次入学者で、春学期科目のデータ分析入門1を単位修得した者は自動登録される。政府統計の総合窓口(e-Stat)、OECD.Stat、日本銀行 HP「時系列統計データ検索サイト」といった HP もテキストと併せて利用する。10 回目の講義では e-Stat のログインが必要となる。

# データ分析入門2

Introduction to Data Analysis 2

経済系のための情報活用2

李 赫然 (LI HERAN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX346

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1040

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： データ分析入門1

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1年次は自動登録。登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

2～4年次は抽選登録（BX356「データ分析入門2」）

## 授業の目標 / Course Objectives

授業の目標は、パソコンを利用した実習により、経済・財務・会計データを分析する方法を学ぶことである。

The objective of the class is to practice using a personal computer to learn the methods for analyzing economic, financial, and accounting data.

## 授業の内容 / Course Contents

テキストに沿いながら、実習を進めていく。多くの経済データに触れ、その有効活用する方法を学ぶ。各分野で活用されている種々の分析方法を、原データを使って理解することを内容とする。この学習を通じて、統計的な数量分析の力を身に着ける。

The practice will proceed following the textbook. The aim is to experience a wide range of economic data and learn how to use it effectively. In this course students will use raw data to understand the various analytical methods used in various fields. Through this study students will acquire the ability to perform statistical quantitative analysis.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：外国為替レート変化の影響をとらえる
- 2 回：地域の経済指標を比較する、個票データを集計する
- 3 回：経済成長の要因を分解する
- 4 回：経済と環境指標の関係を測定する
- 5 回：不平等度を測定する
- 6 回：消費の変動を要因分解する
- 7 回：企業動向調査の結果を分析する、損益分岐点を算出する
- 8 回：債券価値の変動を捉える
- 9 回：人口データを分析する
- 10 回：GIS の使い方を学ぶ
- 11 回：季節性のあるデータを分析する
- 12 回：財政・社会保障を体系的に学ぶ
- 13 回：波及効果を測定する
- 14 回：講義まとめ、レポート提出・予備日

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

データ分析入門1の内容を復習しておくことが大事である。テキストは事前に読んでくることを前提に授業を進める。単位修得には授業時に課されたレポート・課題の提出が必要となる。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内提出物(課題・レポート含む):50%

**テキスト / Textbooks**

櫻本健編著、倉田知秋・小澤康裕・藤野 裕・安藤道人・菊地 進著 『経済系のための情報活用1

Office2019 対応』 実教出版 2019 9784407348262 ○

櫻本健編著、藤野裕・小澤康裕・一ノ瀬大輔・安藤道人・田浦元・倉田知秋著 『経済系のための情報活用2

Office2019 対応』 実教出版 2020 9784407348279 ○

テキスト購入の際には必ず指定の本を用意するようにしてください。

**参考文献 / Readings****その他 / Others**

1 年次入学者で、春学期科目のデータ分析入門1を単位修得した者は自動登録される。政府統計の総合窓口(e-Stat)、OECD.Stat、日本銀行 HP「時系列統計データ検索サイト」といった HP もテキストと併せて利用する。10 回目の講義では e-Stat のログインが必要となる。

# データ分析入門2

Introduction to Data Analysis 2

経済系のための情報活用2

李 赫然 (LI HERAN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX347

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1040

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： データ分析入門1

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1年次は自動登録。登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

2～4年次は抽選登録（BX356「データ分析入門2」）

## 授業の目標 / Course Objectives

授業の目標は、パソコンを利用した実習により、経済・財務・会計データを分析する方法を学ぶことである。

The objective of the class is to practice using a personal computer to learn the methods for analyzing economic, financial, and accounting data.

## 授業の内容 / Course Contents

テキストに沿いながら、実習を進めていく。多くの経済データに触れ、その有効活用する方法を学ぶ。各分野で活用されている種々の分析方法を、原データを使って理解することを内容とする。この学習を通じて、統計的な数量分析の力を身に着ける。

The practice will proceed following the textbook. The aim is to experience a wide range of economic data and learn how to use it effectively. In this course students will use raw data to understand the various analytical methods used in various fields. Through this study students will acquire the ability to perform statistical quantitative analysis.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：外国為替レート変化の影響をとらえる
- 2 回：地域の経済指標を比較する、個票データを集計する
- 3 回：経済成長の要因を分解する
- 4 回：経済と環境指標の関係を測定する
- 5 回：不平等度を測定する
- 6 回：消費の変動を要因分解する
- 7 回：企業動向調査の結果を分析する、損益分岐点を算出する
- 8 回：債券価値の変動を捉える
- 9 回：人口データを分析する
- 10 回：GIS の使い方を学ぶ
- 11 回：季節性のあるデータを分析する
- 12 回：財政・社会保障を体系的に学ぶ
- 13 回：波及効果を測定する
- 14 回：講義まとめ、レポート提出・予備日

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

データ分析入門1の内容を復習しておくことが大事である。テキストは事前に読んでくることを前提に授業を進める。単位修得には授業時に課されたレポート・課題の提出が必要となる。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内提出物(課題・レポート含む):50%

**テキスト / Textbooks**

櫻本健編著、倉田知秋・小澤康裕・藤野 裕・安藤道人・菊地 進著 『経済系のための情報活用 1

Office2019 対応』 実教出版 2019 9784407348262 ○

櫻本健編著、藤野裕・小澤康裕・一ノ瀬大輔・安藤道人・田浦元・倉田知秋著 『経済系のための情報活用 2

Office2019 対応』 実教出版 2020 9784407348279 ○

テキスト購入の際には必ず指定の本を用意するようにしてください。

**参考文献 / Readings****その他 / Others**

1 年次入学者で、春学期科目のデータ分析入門1を単位修得した者は自動登録される。政府統計の総合窓口(e-Stat)、OECD.Stat、日本銀行 HP「時系列統計データ検索サイト」といった HP もテキストと併せて利用する。10 回目の講義では e-Stat のログインが必要となる。

# データ分析入門2

Introduction to Data Analysis 2

経済系のための情報活用2

菊池 美幸 (KIKUCHI MIYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX348

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1040

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： データ分析入門1

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1年次は自動登録。登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

2～4年次は抽選登録（BX356「データ分析入門2」）

## 授業の目標 / Course Objectives

授業の目標は、パソコンを利用した実習により、経済・財務・会計データを分析する方法を学ぶことである。

The objective of the class is to practice using a personal computer to learn the methods for analyzing economic, financial, and accounting data.

## 授業の内容 / Course Contents

テキストに沿いながら、実習を進めていく。多くの経済データに触れ、その有効活用する方法を学ぶ。各分野で活用されている種々の分析方法を、原データを使って理解することを内容とする。この学習を通じて、統計的な数量分析の力を身に着ける。

The practice will proceed following the textbook. The aim is to experience a wide range of economic data and learn how to use it effectively. In this course students will use raw data to understand the various analytical methods used in various fields. Through this study students will acquire the ability to perform statistical quantitative analysis.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：外国為替レート変化の影響をとらえる
- 2 回：地域の経済指標を比較する、個票データを集計する
- 3 回：経済成長の要因を分解する
- 4 回：経済と環境指標の関係を測定する
- 5 回：不平等度を測定する
- 6 回：消費の変動を要因分解する
- 7 回：企業動向調査の結果を分析する、損益分岐点を算出する
- 8 回：債券価値の変動を捉える
- 9 回：人口データを分析する
- 10 回：GIS の使い方を学ぶ
- 11 回：季節性のあるデータを分析する
- 12 回：財政・社会保障を体系的に学ぶ
- 13 回：波及効果を測定する
- 14 回：講義まとめ、レポート提出・予備日

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

データ分析入門1の内容を復習しておくことが大事である。テキストは事前に読んでくることを前提に授業を進める。単位修得には授業時に課されたレポート・課題の提出が必要となる。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内提出物(課題・レポート含む):50%

**テキスト / Textbooks**

櫻本健編著、倉田知秋・小澤康裕・藤野 裕・安藤道人・菊地 進著 『経済系のための情報活用 1

Office2019 対応』 実教出版 2019 9784407348262 ○

櫻本健編著、藤野裕・小澤康裕・一ノ瀬大輔・安藤道人・田浦元・倉田知秋著 『経済系のための情報活用 2

Office2019 対応』 実教出版 2020 9784407348279 ○

テキスト購入の際には必ず指定の本を用意するようにしてください。

**参考文献 / Readings****その他 / Others**

1 年次入学者で、春学期科目のデータ分析入門1を単位修得した者は自動登録される。政府統計の総合窓口(e-Stat)、OECD.Stat、日本銀行 HP「時系列統計データ検索サイト」といった HP もテキストと併せて利用する。10 回目の講義では e-Stat のログインが必要となる。

# データ分析入門2

Introduction to Data Analysis 2

経済系のための情報活用2

朴 峻喜 (PARK JOONHEE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX349

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1040

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： データ分析入門1

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1年次は自動登録。登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

2～4年次は抽選登録（BX356「データ分析入門2」）

## 授業の目標 / Course Objectives

授業の目標は、パソコンを利用した実習により、経済・財務・会計データを分析する方法を学ぶことである。

The objective of the class is to practice using a personal computer to learn the methods for analyzing economic, financial, and accounting data.

## 授業の内容 / Course Contents

テキストに沿いながら、実習を進めていく。多くの経済データに触れ、その有効活用する方法を学ぶ。各分野で活用されている種々の分析方法を、原データを使って理解することを内容とする。この学習を通じて、統計的な数量分析の力を身に着ける。

The practice will proceed following the textbook. The aim is to experience a wide range of economic data and learn how to use it effectively. In this course students will use raw data to understand the various analytical methods used in various fields. Through this study students will acquire the ability to perform statistical quantitative analysis.



**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：外国為替レート変化の影響をとらえる
- 2 回：地域の経済指標を比較する、個票データを集計する
- 3 回：経済成長の要因を分解する
- 4 回：経済と環境指標の関係を測定する
- 5 回：不平等度を測定する
- 6 回：消費の変動を要因分解する
- 7 回：企業動向調査の結果を分析する、損益分岐点を算出する
- 8 回：債券価値の変動を捉える
- 9 回：人口データを分析する
- 10 回：GIS の使い方を学ぶ
- 11 回：季節性のあるデータを分析する
- 12 回：財政・社会保障を体系的に学ぶ
- 13 回：波及効果を測定する
- 14 回：講義まとめ、レポート提出・予備日

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

データ分析入門1の内容を復習しておくことが大事である。テキストは事前に読んでくることを前提に授業を進める。単位修得には授業時に課されたレポート・課題の提出が必要となる。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内提出物(課題・レポート含む):50%

**テキスト / Textbooks**

櫻本健編著、倉田知秋・小澤康裕・藤野 裕・安藤道人・菊地 進著 『経済系のための情報活用 1

Office2019 対応』 実教出版 2019 9784407348262 ○

櫻本健編著、藤野裕・小澤康裕・一ノ瀬大輔・安藤道人・田浦元・倉田知秋著 『経済系のための情報活用 2

Office2019 対応』 実教出版 2020 9784407348279 ○

テキスト購入の際には必ず指定の本を用意するようにしてください。

**参考文献 / Readings****その他 / Others**

1 年次入学者で、春学期科目のデータ分析入門1を単位修得した者は自動登録される。政府統計の総合窓口(e-Stat)、OECD.Stat、日本銀行 HP「時系列統計データ検索サイト」といった HP もテキストと併せて利用する。10 回目の講義では e-Stat のログインが必要となる。

# データ分析入門2

Introduction to Data Analysis 2

経済系のための情報活用2

関根 未来 (SEKINE MIKU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX350

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1040

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： データ分析入門1

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1年次は自動登録。登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

2～4年次は抽選登録（BX356「データ分析入門2」）

## 授業の目標 / Course Objectives

授業の目標は、パソコンを利用した実習により、経済・財務・会計データを分析する方法を学ぶことである。

The objective of the class is to practice using a personal computer to learn the methods for analyzing economic, financial, and accounting data.

## 授業の内容 / Course Contents

テキストに沿いながら、実習を進めていく。多くの経済データに触れ、その有効活用の方法を学ぶ。各分野で活用されている種々の分析方法を、原データを使って理解することを内容とする。この学習を通じて、統計的な数量分析の力を身に着ける。

The practice will proceed following the textbook. The aim is to experience a wide range of economic data and learn how to use it effectively. In this course students will use raw data to understand the various analytical methods used in various fields. Through this study students will acquire the ability to perform statistical quantitative analysis.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：外国為替レート変化の影響をとらえる
- 2 回：地域の経済指標を比較する、個票データを集計する
- 3 回：経済成長の要因を分解する
- 4 回：経済と環境指標の関係を測定する
- 5 回：不平等度を測定する
- 6 回：消費の変動を要因分解する
- 7 回：企業動向調査の結果を分析する、損益分岐点を算出する
- 8 回：債券価値の変動を捉える
- 9 回：人口データを分析する
- 10 回：GIS の使い方を学ぶ
- 11 回：季節性のあるデータを分析する
- 12 回：財政・社会保障を体系的に学ぶ
- 13 回：波及効果を測定する
- 14 回：講義まとめ、レポート提出・予備日

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

データ分析入門1の内容を復習しておくことが大事である。テキストは事前に読んでくることを前提に授業を進める。単位修得には授業時に課されたレポート・課題の提出が必要となる。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内提出物(課題・レポート含む):50%

**テキスト / Textbooks**

櫻本健編著、倉田知秋・小澤康裕・藤野 裕・安藤道人・菊地 進著 『経済系のための情報活用 1

Office2019 対応』 実教出版 2019 9784407348262 ○

櫻本健編著、藤野裕・小澤康裕・一ノ瀬大輔・安藤道人・田浦元・倉田知秋著 『経済系のための情報活用 2

Office2019 対応』 実教出版 2020 9784407348279 ○

テキスト購入の際には必ず指定の本を用意するようにしてください。

**参考文献 / Readings****その他 / Others**

1 年次入学者で、春学期科目のデータ分析入門1を単位修得した者は自動登録される。政府統計の総合窓口(e-Stat)、OECD.Stat、日本銀行 HP「時系列統計データ検索サイト」といった HP もテキストと併せて利用する。10 回目の講義では e-Stat のログインが必要となる。

# データ分析入門2

Introduction to Data Analysis 2

経済系のための情報活用2

本田 恒平 (HONDA KOHEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX351

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1040

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： データ分析入門1

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1年次は自動登録。登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

2～4年次は抽選登録（BX356「データ分析入門2」）

## 授業の目標 / Course Objectives

授業の目標は、パソコンを利用した実習により、経済・財務・会計データを分析する方法を学ぶことである。

The objective of the class is to practice using a personal computer to learn the methods for analyzing economic, financial, and accounting data.

## 授業の内容 / Course Contents

テキストに沿いながら、実習を進めていく。多くの経済データに触れ、その有効活用の方法を学ぶ。各分野で活用されている種々の分析方法を、原データを使って理解することを内容とする。この学習を通じて、統計的な数量分析の力を身に着ける。

The practice will proceed following the textbook. The aim is to experience a wide range of economic data and learn how to use it effectively. In this course students will use raw data to understand the various analytical methods used in various fields. Through this study students will acquire the ability to perform statistical quantitative analysis.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：外国為替レート変化の影響をとらえる
- 2 回：地域の経済指標を比較する、個票データを集計する
- 3 回：経済成長の要因を分解する
- 4 回：経済と環境指標の関係を測定する
- 5 回：不平等度を測定する
- 6 回：消費の変動を要因分解する
- 7 回：企業動向調査の結果を分析する、損益分岐点を算出する
- 8 回：債券価値の変動を捉える
- 9 回：人口データを分析する
- 10 回：GIS の使い方を学ぶ
- 11 回：季節性のあるデータを分析する
- 12 回：財政・社会保障を体系的に学ぶ
- 13 回：波及効果を測定する
- 14 回：講義まとめ、レポート提出・予備日

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

データ分析入門1の内容を復習しておくことが大事である。テキストは事前に読んでくることを前提に授業を進める。単位修得には授業時に課されたレポート・課題の提出が必要となる。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内提出物(課題・レポート含む):50%

**テキスト / Textbooks**

櫻本健編著、倉田知秋・小澤康裕・藤野 裕・安藤道人・菊地 進著 『経済系のための情報活用1

Office2019 対応』 実教出版 2019 9784407348262 ○

櫻本健編著、藤野裕・小澤康裕・一ノ瀬大輔・安藤道人・田浦元・倉田知秋著 『経済系のための情報活用2

Office2019 対応』 実教出版 2020 9784407348279 ○

テキスト購入の際には必ず指定の本を用意するようにしてください。

**参考文献 / Readings****その他 / Others**

1 年次入学者で、春学期科目のデータ分析入門1を単位修得した者は自動登録される。政府統計の総合窓口(e-Stat)、OECD.Stat、日本銀行 HP「時系列統計データ検索サイト」といった HP もテキストと併せて利用する。10 回目の講義では e-Stat のログインが必要となる。

# データ分析入門2

Introduction to Data Analysis 2

経済系のための情報活用2

安士 昌一郎 (YASUSHI SHOICHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX352

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1040

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： データ分析入門1

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1年次は自動登録。登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

2～4年次は抽選登録（BX356「データ分析入門2」）

## 授業の目標 / Course Objectives

授業の目標は、パソコンを利用した実習により、経済・財務・会計データを分析する方法を学ぶことである。

The objective of the class is to practice using a personal computer to learn the methods for analyzing economic, financial, and accounting data.

## 授業の内容 / Course Contents

テキストに沿いながら、実習を進めていく。多くの経済データに触れ、その有効活用の方法を学ぶ。各分野で活用されている種々の分析方法を、原データを使って理解することを内容とする。この学習を通じて、統計的な数量分析の力を身に着ける。

The practice will proceed following the textbook. The aim is to experience a wide range of economic data and learn how to use it effectively. In this course students will use raw data to understand the various analytical methods used in various fields. Through this study students will acquire the ability to perform statistical quantitative analysis.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：外国為替レート変化の影響をとらえる
- 2 回：地域の経済指標を比較する、個票データを集計する
- 3 回：経済成長の要因を分解する
- 4 回：経済と環境指標の関係を測定する
- 5 回：不平等度を測定する
- 6 回：消費の変動を要因分解する
- 7 回：企業動向調査の結果を分析する、損益分岐点を算出する
- 8 回：債券価値の変動を捉える
- 9 回：人口データを分析する
- 10 回：GIS の使い方を学ぶ
- 11 回：季節性のあるデータを分析する
- 12 回：財政・社会保障を体系的に学ぶ
- 13 回：波及効果を測定する
- 14 回：講義まとめ、レポート提出・予備日

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

データ分析入門1の内容を復習しておくことが大事である。テキストは事前に読んでくることを前提に授業を進める。単位修得には授業時に課されたレポート・課題の提出が必要となる。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内提出物(課題・レポート含む):50%

**テキスト / Textbooks**

櫻本健編著、倉田知秋・小澤康裕・藤野 裕・安藤道人・菊地 進著 『経済系のための情報活用 1

Office2019 対応』 実教出版 2019 9784407348262 ○

櫻本健編著、藤野裕・小澤康裕・一ノ瀬大輔・安藤道人・田浦元・倉田知秋著 『経済系のための情報活用 2

Office2019 対応』 実教出版 2020 9784407348279 ○

テキスト購入の際には必ず指定の本を用意するようにしてください。

**参考文献 / Readings****その他 / Others**

1 年次入学者で、春学期科目のデータ分析入門1を単位修得した者は自動登録される。政府統計の総合窓口(e-Stat)、OECD.Stat、日本銀行 HP「時系列統計データ検索サイト」といった HP もテキストと併せて利用する。10 回目の講義では e-Stat のログインが必要となる。

# 情報処理入門 1

An Introduction to Information Processing(1)

経済系のための情報活用 1

菊地 賢 (KIKUCHI SATORU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX353

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1040

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2023 年度以前入学 2 年次以上科目

## 授業の目標 / Course Objectives

授業の目標は、パソコンを利用した実習により、文書作成とデータ処理の方法を学ぶことである。

The objective of the class is to practice using a personal computer to learn how to create documents and process data.

## 授業の内容 / Course Contents

テキストに沿いながら、実習を進めていく。多くの経済データに触れ、その有効活用を目指す。文書作成ソフト WORD を使った文書の作成、表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成、PowerPoint の操作について学ぶ。授業後半にデータベースからデータをダウンロードして Excel で図表に仕上げる演習を行う。

The practice will proceed following the textbook. The aim is to experience a wide range of economic data and be able to use it effectively. Students will learn to use Word as the word processing software to create documents, spreadsheet software to process data and create graphs, and how to operate PowerPoint.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス



- 2回：Wordの基本を学ぶ  
 3回：Excelの基本を学ぶ  
 4回：図書館講習会  
 5回：PowerPointの基本を学ぶ  
 6回：説明文書を作成する－Wordの応用と活用  
 7回：プレゼンテーション－PowerPointの応用と活用  
 8回：企業の財務比率を比較する  
 9回：家計消費の特徴を知る  
 10回：国内総生産（OECD諸国）の分布を見る  
 11回：賃金・貯蓄データを読む  
 12回：金利計算の仕組みを理解する  
 13回：価格変動を測定する  
 14回：春学期のまとめ、レポート提出・予備日

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストは事前に読んでくることを前提に授業を進める。授業開始後、Canvas上のセルフラーニングコンテンツ「Infoss 情報倫理」テストに合格することが必要となる。また単位取得には、授業時に課されたレポート・課題の提出が必要となる。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内提出物（課題・レポートを含む）:50%

#### テキスト / Textbooks

櫻本健編著、倉田知秋・小澤康裕・藤野 裕・安藤道人・菊地 進 『経済系のための情報活用1 Office2019 対応』 実教出版 2019 9784407348262 ○

櫻本健編著、藤野裕・小澤康裕・一ノ瀬大輔・安藤道人・田浦元・倉田知秋著 『経済系のための情報活用2 Office2019 対応』 実教出版 2020 9784407348279 ○

テキスト購入の際には必ず指定の本を用意するようにしてください。過去に出版された似た書籍と間違えないようにしてください。内容が異なります。

#### 参考文献 / Readings

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

情報通信機器を特段指定はしないが、本学はOfficeライセンスを提供するなど、SPIRITのICT機器、ソフトウェアなどの情報は学生にとって重要となるため、よく読んでおいていただきたい。

#### その他 / Others

政府統計の総合窓口(e-Stat)、OECD.Stat、日本銀行HP「時系列統計検索サイト」

## 情報処理入門 2

An Introduction to Information Processing(2)

経済系のための情報活用 2

菊地 賢 (KIKUCHI SATORU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX354

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1040

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 情報処理入門 1

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2023 年度以前入学 2 年次以上科目

### 授業の目標 / Course Objectives

授業の目標は、パソコンを利用した実習により、経済・財務・会計データを分析する方法を学ぶことである。

The objective of the class is to practice using a personal computer to learn the methods for analyzing economic, financial, and accounting data.

### 授業の内容 / Course Contents

テキストに沿いながら、実習を進めていく。多くの経済データに触れ、その有効活用の方法を学ぶ。各分野で活用されている種々の分析方法を、原データを使って理解することを内容とする。この学習を通じて、統計的な数量分析の力を身に着ける。

The practice will proceed following the textbook. The aim is to experience a wide range of economic data and learn how to use it effectively. In this course students will use raw data to understand the various analytical methods used in various fields. Through this study students will acquire the ability to perform statistical quantitative analysis.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：外国為替レート変化の影響をとらえる
- 2 回：地域の経済指標を比較する、個票データを集計する
- 3 回：経済成長の要因を分解する
- 4 回：経済と環境指標の関係を測定する
- 5 回：不平等度を測定する
- 6 回：消費の変動を要因分解する
- 7 回：企業動向調査の結果を分析する、損益分岐点を算出する
- 8 回：債券価値の変動を捉える
- 9 回：人口データを分析する
- 10 回：GIS の使い方を学ぶ
- 11 回：季節性のあるデータを分析する
- 12 回：財政・社会保障を体系的に学ぶ
- 13 回：波及効果を測定する
- 14 回：講義まとめ、レポート提出・予備日

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

データ分析入門1の内容を復習しておくことが大事である。テキストは事前に読んでくることを前提に授業を進める。単位修得には授業時に課されたレポート・課題の提出が必要となる。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内提出物(課題・レポート含む):50%

#### テキスト / Textbooks

櫻本健編著、倉田知秋・小澤康裕・藤野 裕・安藤道人・菊地 進著 『経済系のための情報活用1 Office2019 対応』 実教出版 2019 9784407348262 ○

櫻本健編著、藤野裕・小澤康裕・一ノ瀬大輔・安藤道人・田浦元・倉田知秋著 『経済系のための情報活用2 Office2019 対応』 実教出版 2020 9784407348279 ○

テキスト購入の際には必ず指定の本を用意するようにしてください。

#### 参考文献 / Readings

#### その他 / Others

1 年次入学者で、春学期科目のデータ分析入門1を単位修得した者は自動登録される。政府統計の総合窓口(e-Stat)、OECD.Stat、日本銀行 HP「時系列統計データ検索サイト」といった HP もテキストと併せて利用する。10 回目の講義では e-Stat のログインが必要となる。

# データ分析演習 A (経済)

Seminar on Data Analysis A

経済統計と情報処理の基礎

蟹澤 啓輔 (KANISAWA KEISUKE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX362

授業形態： 対面 (全回対面)

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECO2340

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 2024 年度以降入学者 / データ分析入門 1・2

2023 年度以前入学者 / 情報処理入門 1・2

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 旧科目名) 経済情報処理 A

## 授業の目標 / Course Objectives

経済統計の基礎知識の理解と基礎的な情報処理を伴う分析ができるようになること。

The objective of this course is to understand the basic knowledge of economic statistics and be able to conduct an analysis in accordance with fundamental data processing.

## 授業の内容 / Course Contents

基本的な経済統計について説明するとともに、エクセルや統計ソフトなどを用いて経済統計を使った情報処理に関する演習を行う。経済統計データの収集から、データの加工とエクセルや統計ソフトへのデータの取り込み及び分析、分析結果を評価する一連のプロセスについて演習を行う。統計ソフトは「R」を使用する予定で、基礎的なコマンド操作や R コマンドによる利用方法についても解説する。

In this course basic economic statistics will be explained and Excel and statistical software will be used to learn how to conduct data processing using economic statistics. In this course students practice the process of gathering economic statistical data, processing the data, entering it into Excel and statistical software for analysis,

and evaluating the analysis results. The statistical software will use "R", and will explain how to use basic command operations and use the R Commander.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：日本の主な経済統計（基礎）
- 2回：インターネットにおける情報収集
- 3回：分析ツール（エクセル）の基本的な操作演習
- 4回：図やグラフを用いた分析
- 5回：統計分析の基礎的演習①（基本統計量①）
- 6回：統計分析の基礎的演習②（基本統計量②）
- 7回：統計分析の基礎的演習②（仮説検定）
- 8回：計量分析の基礎①
- 9回：計量分析の基礎②
- 10回：分析ツール（アプリケーション）の基本的な操作演習①
- 11回：分析ツール（アプリケーション）の基本的な操作演習②
- 12回：回帰分析、重回帰分析
- 13回：時系列データとクロスセクションデータ、パネルデータ
- 14回：期末課題演習（レポート）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：講義で取り扱う予定の経済統計についてインターネットや参考分析を基に予習する。

復習：講義で取り扱った経済統計に関連するニュースをインターネットで閲覧する。また、講義で取り扱ったデータを用いて講義とは別の分析を行ってみる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 複数回の演習課題:50%

### テキスト / Textbooks

なし（レジュメを配布する）

### 参考文献 / Readings

長島直樹・石田実・李振 『Rで統計を学ぼう！文系のためのデータ分析入門』 中央経済社 2017  
9784502244117

白砂堤津耶 『例題で学ぶ初歩からの統計学 第2版』 日本評論社 2015 9784535557901

白砂堤津耶 『例題で学ぶ初歩からの計量経済学 第2版』 日本評論社 2007 9784535554979

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

情報処理入門・データ分析入門及び統計学で履修するレベルのパソコンスキル及び統計基礎知識

### その他 / Others

レジュメは大学の授業支援システムを通じて配布する。

# データ分析演習 A（経済）

Seminar on Data Analysis A

教養としての統計学

Statistics as liberal arts

野地 もも (NOJI MOMO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX363

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 対面（全回対面）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECO2340

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 2024 年度以降入学者／データ分析入門 1・2

2023 年度以前入学者／情報処理入門 1・2

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 旧科目名）経済情報処理 A

## 授業の目標 / Course Objectives

履修済みの統計学の知識の実践として、経済に関するミクロあるいはマクロの現実のデータを、表計算ソフトなどを用いて分析し、結果を読み取ることができる能力を養うことを目標とする。

This course aims to develop the ability to analyze real-world economic data, either micro or macro, using spreadsheet software and other tools and to read the results as a practical application of the statistical knowledge gained in the course.

## 授業の内容 / Course Contents

現実のデータに対する、統計学の知識の活用方法を講義する。例えば官公庁が公表する経済統計情報や企業の財務情報、株価といった大量なデータから表計算ソフトを用いて必要な情報を読み解く方法や、複雑な計算の実行、社会で実際に統計学が使用されている場面の紹介と演習など、理論の定着とともに実践を意識する。毎回の講義では表計算ソフトを使用し、数回に一度、受講者が作成したファイルの提出を求める。確率統計学の

基礎は改めて解説するため、統計学に苦手意識のある学生の受講も歓迎する。計量経済学の領域までは扱わないため、応用的な方法を知りたい場合は別途質問すること。

Lecture on how to apply statistical knowledge to actual data. For example, students learn how to decipher necessary information from large amounts of data such as economic statistics published by government agencies, financial information of companies, and stock prices, how to perform complex calculations, and how statistics is used in society. Spreadsheet software will be used in each lecture, and students will be asked to submit a file they have created every few lectures. The fundamentals of probability statistics will be explained again, so students who are not good at statistics can also attend. The course does not cover the area of econometrics, so students who wish to know about applied methods should ask questions separately.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：講義の進め方、表計算方法の基本的な操作の確認
- 2 回：大量なデータの扱い方、注意点
- 3 回：記述統計量など、データを読み取るために必要な数値の算出
- 4 回：2変数の関係性を読み解く、図表の描出
- 5 回：確率統計学の基礎①母集団と標本、確率論
- 6 回：確率変数と確率分布
- 7 回：標本と標本分布
- 8 回：点推定と区間推定①
- 9 回：点推定と区間推定②
- 10 回：仮設検定①
- 11 回：仮設検定②
- 12 回：回帰分析①
- 13 回：回帰分析②
- 14 回：総論および演習

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義中に示す関連書籍に可能な限り目を通すこと、また、講義後に表計算ソフトの操作や自身の理解度について再度確認し不十分な場合は質問すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%  
平常点割合 :40% 講義中に出題する演習問題（5回）:40%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

東京大学教養学部統計学教室 『統計学入門』 東京大学出版会 1991 9784130420655  
アミール・D.アクセル、シャヤベル・ソウンデルパイディアン著／鈴木一功監訳 『ビジネス統計学「上」』  
ダイヤモンド社 2007 9784478470923

藪 友良 『入門 実践する統計学』 東洋経済新報社 2012 9784492470855

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

必修の統計学の単位を取得している、あるいは取得見込みである程度の、基礎的な統計学の知識。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

教室備え付けの PC 端末ではなく、個人所有のものを使用したい場合は各自で用意すること。



# データ分析演習 B（経済）

Seminar on Data Analysis B

経済統計と情報処理の応用

蟹澤 啓輔（KANISAWA KEISUKE）

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX365

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECO2340

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 2024 年度以降入学者／データ分析入門 1・2

2023 年度以前入学者／情報処理入門 1・2

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 旧科目名）経済情報処理 B

## 授業の目標 / Course Objectives

経済統計の基礎知識の理解と応用的な情報処理を伴う分析ができるようになること。

The objective of this course is to understand the basic knowledge of economic statistics and be able to conduct an analysis in accordance with applied data processing.

## 授業の内容 / Course Contents

政府が公表している基本的な経済統計について説明するとともに、エクセルや統計ソフトなどを用いて経済統計を使った分析演習を行う。政府の HP からデータのダウンロードすることから、データの加工とエクセルや統計ソフトへのデータの取り込み及び分析、分析結果の評価する一連のプロセスについて演習を行う。統計ソフトは「R」を使用する予定で、基礎的なコマンド操作や R コマンダーによる利用方法についても解説する。

In this course the basics of economic statistics published by the government will be explained and Excel and statistical software will be used to practice analysis using economic statistics. In this course students will practice the process of downloading data from government websites, processing the data, entering it into Excel and

statistical software for analysis, and evaluating the analysis results. The statistical software will use "R", and will explain how to use basic command operations and use the R Commander.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：日本の主な経済統計（応用）
- 2 回：統計学の基礎
- 3 回：計量分析の基礎
- 4 回：分析ツール（アプリケーション）の操作演習
- 5 回：国民経済計算（GDP）統計について
- 6 回：財政統計について
- 7 回：金融統計について
- 8 回：所得統計について
- 9 回：消費統計について
- 10 回：企業統計について
- 11 回：貿易統計について
- 12 回：物価や為替統計について
- 13 回：総合演習
- 14 回：期末課題演習

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：講義で取り扱う予定の経済統計についてインターネットや参考分析を基に予習する。

復習：講義で取り扱った経済統計に関連するニュースをインターネットで閲覧する。また、講義で取り扱ったデータを用いて講義とは別の分析を行ってみる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 複数回の演習課題:50%

### テキスト / Textbooks

なし(レジュメを配布する)

### 参考文献 / Readings

長島直樹・石田実・李振 『Rで統計を学ぼう！文系のためのデータ分析入門』 中央経済社 2017  
9784502244117

白砂堤津耶 『例題で学ぶ初歩からの計量経済学 第2版』 日本評論社 2007 9784535554979

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

情報処理入門・データ分析入門及び統計学で履修するレベルのパソコンスキル及び統計基礎知識

### その他 / Others

レジュメは大学の授業支援システムを通じて配布する。

担当教員のデータ分析演習A（経済）を履修済みであることを推奨する。

# データ分析演習 B（経済）

Seminar on Data Analysis B

R で学ぶ財務分析

Financial analysis with R

野地 もも (NOJI MOMO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX366
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECO2340
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	2024 年度以降入学者／データ分析入門 1・2
2023 年度以前入学者／情報処理入門 1・2	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	旧科目名）経済情報処理 B

## 授業の目標 / Course Objectives

企業が公表する財務情報を取得し、基礎的な分析を独力で行う能力を身に着けること。

The course aims to allow students to obtain financial information published by companies and perform fundamental analysis on their own.

## 授業の内容 / Course Contents

主として貸借対照表および損益計算書にて開示された財務情報を用いて、就職活動のための企業研究や卒業論文の作成、大学院などでの今後の研究に役立つ企業分析の方法を学ぶ。情報の取得には EDINET や TDnet からの方法のほかに大学契約のデータベースを活用する方法を紹介し、数値の算出には無料の統計解析ツールである RStudio を用いる。簿記など会計に関する知識は必ずしも必要ではないが、初めてこの分野に触れる学生は講義中に別途指示するテキストを読むなど、用語や考え方の定着に努めてもらいたい。RStudio の使用経験は特に必要としない。

In this class, using the financial information disclosed mainly in the balance sheet and profit and loss statement, you can learn how to analyze corporate performance, which is helpful for job hunting or writing graduation thesis and future research. It introduces how to use a university contract databases, or EDINET and TDnet to get financial information and RStudio, a free statistical analysis tool, to calculate values. Knowledge of accounting, such as bookkeeping, is not always necessary, but if you are new to this field, you should try to learn their terms and methods, such as reading texts that are separately instructed during lectures. Prior experience with RStudio is not required.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：講義の進め方と R および RStudio の解説
- 2 回：RStudio の基本的な操作（プロジェクトの作成、基本的な構成、四則演算と代入）
- 3 回：企業が開示する財務情報、データをベクトルとして入力する
- 4 回：データフレームの作成と出力、外部データの取り込み
- 5 回：財務分析を行うための基礎知識、パッケージの活用
- 6 回：安全性分析①：貸借対照表から財務指標を作成する、データの整形
- 7 回：安全性分析②：貸借対照表から財務指標を作成する、エラーや異常値の処理
- 8 回：安全性分析③：貸借対照表から財務指標を作成する、基本統計量の作成
- 9 回：収益性分析①：損益計算書から財務指標を作成する、tidyverse の活用
- 10 回：収益性分析②：損益計算書から財務指標を作成する、データ形式の変換と結合
- 11 回：収益性分析③：損益計算書から財務指標を作成する、前期との比較
- 12 回：図表の作成①：散布図の作成と編集
- 13 回：図表の作成②：棒グラフや折れ線グラフを描出する
- 14 回：資本収益率の作成：貸借対照表と損益計算書を使って財務指標を作成する、業種平均値の作成と比較

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義中に示す関連書籍に可能な限り目を通すこと、また、講義後に RStudio の操作や自身の理解度について再度確認し不十分な場合は質問すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内複数回の提出物:40%

### テキスト / Textbooks

レジュメを使用するため、購入を必須とするテキストは指定しない。

### 参考文献 / Readings

笠原晃恭・村宮克彦 『ライブラリ データ分析への招待 5 実証会計・ファイナンス R による財務・株式データの分析』 新世社 2022 9784883843497

真鍋明裕 『「R」で楽しく学ぶ会計学・経営分析』 創成社 2015 9784794414878

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特になし。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

PC 端末は教室のものを使用するが、個人所有のものを用いても良い。

# データ分析演習 A (政策)

Seminar on Data Analysis A

Python 入門、Python による統計解析の基礎、統計データ分析

小西 純 (KONISHI JUN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX371

授業形態： 対面 (全回対面)

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EPS2340

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 2024 年度以降入学者 / データ分析入門 1・2

2023 年度以前入学者 / 情報処理入門 1・2

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 旧科目名) 政策情報処理 A

## 授業の目標 / Course Objectives

「Python 入門」「Python による統計解析の基礎」「統計データ分析」について、演習を通して学習することが授業の目標です。

The goal of the class is to learn "Introduction to Python," "Basics of Statistical Analysis with Python," and "Statistical Data Analysis" through exercises.

## 授業の内容 / Course Contents

Python の演習では「Jupyter Notebook」を利用します。

### ①Python の入門・基礎

プログラミングの基本的な考え方、変数、イテレータ、for 文、if 文、関数など、Python の基礎的な知識および構文について簡単な演習を通して学びます。

### ②Python による統計解析の基礎

基本統計量、ヒストグラムの作成、母集団と標本の考え方、確率変数、確率関数、確率分布について、

NumPy、Pandas、Matplotlibなどのモジュールを利用した演習を通して学びます。

### ③統計データ分析

公的統計データのポータルサイトである e-Stat の基本的な利用方法およびデータ分析演習について学びます。

Jupyter Notebook" is used for Python exercises.

#### ①Introduction to Python and basics

Students will learn basic knowledge of Python such as basic programming concepts, variables, iterators, for statements, if statements, functions, etc., and its syntax through simple exercises.

#### ②Basics of Statistical Analysis with Python

Students will learn basic statistics, histograms, population and sample, random variables, probability functions, and probability distributions through exercises using modules such as NumPy, Pandas, and Matplotlib.

#### ③Statistical Data Analysis

Students will learn basic usage of e-Stat, a portal site for public statistical data, and data analysis exercises.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：①Python の基礎 01 (プログラミング、変数、計算)

②-

③e-stat の概要

2 回：①Python の基礎 02 (文字型、リスト)

②-

③公的統計の概要

3 回：①Python の基礎 02 (リスト、データ型)

②-

③e-stat からのデータダウンロード (ファイル形式)

4 回：①Python の基礎 03、Pandas の基礎

②-

③e-stat からのデータダウンロード (ダウンロード形式)

5 回：①Python の基礎 04、NumPy の基礎

②-

③国勢調査の集計体系

6 回：①-

②代表値の指標

③市区町村別データの平均

7 回：①-

②ばらつきの指標

③市区町村別データのばらつき

8 回：①-

②度数分布表、ヒストグラム

③市区町村別データのヒストグラム

9 回：①-

②推測統計の基本

③-

10 回：①Python の基礎 05 (関数)

②推測統計の基本

③-

11 回：①-

②離散型確率変数

③市区町村別データの標準化とその分布

12 回：①-

②離散型確率分布 (ベルヌイ分布、二項分布)

③市区町村別データの抽出結果の分布

13 回：①-

②離散型確率分布 (ポアソン分布)

③市区町村別データの抽出結果の平均の分布

14 回：第 1 回～第 13 回まとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

Python 演習の復習、統計学知識の整理

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation**

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:15% 授業内に指示した複数回の提出物:25%

**テキスト / Textbooks****参考文献 / Readings**

谷合 廣紀/辻 真吾 『Python で理解する統計解析の基礎』 技術評論社 2018 4297100495

瀬戸美月 『単語帳アプリ付)徹底攻略 基本情報技術者の午後対策 Python 編 第 2 版』 インプレス 2021

4295011398



# データ分析演習 B (政策)

Seminar on Data Analysis B

Python 入門、Python による統計解析の基礎、統計データ分析

小西 純 (KONISHI JUN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX372

授業形態： 対面 (全回対面)

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EPS2340

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 2024 年度以降入学者 / データ分析入門 1・2

2023 年度以前入学者 / 情報処理入門 1・2

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 旧科目名) 政策情報処理 B

## 授業の目標 / Course Objectives

「Python 入門」「Python による統計解析の基礎」「統計データ利用」について、演習を通して学習することが授業の目標です。

The goal of the class is to learn "Introduction to Python," "Basics of Statistical Analysis with Python," and "Statistical Data Analysis" through exercises.

## 授業の内容 / Course Contents

Python の演習では「Jupyter Notebook」を利用します。

### ① Python の基礎

プログラミングの基礎について春学期に学習したことを簡単に復習します。

### ② Python による統計解析の基礎

相関係数、連続型確率変数、連続型確率分布、大数の法則、統計的推定、統計的検定、回帰分析について、NumPy、Pandas、Matplotlib などのモジュールを利用した演習を通して学びます。

## ③ 統計データ分析

国勢調査データを利用した分析について演習を通して学びます。

Jupyter Notebook" is used for Python exercises.

## (1) Python Basics

Students will briefly review what they have learned about the basics of programming in the spring semester.

## (2) Basics of statistical analysis in Python

Students will learn about correlation coefficients, continuous random variables, continuous probability distributions, the law of large numbers, statistical estimation, statistical tests, and regression analysis through exercises using modules such as NumPy, Pandas, and Matplotlib.

## (3) Statistical Data Analysis

Students will learn about analysis using census data through exercises.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：①Python の基礎の復習 (変数、リスト等)

②-

③国勢調査データ演習

2 回：①Python の基礎の復習 (for 文、if 文、関数、pandas, numpy)

②-

③国勢調査データ演習

3 回：①-

②相関係数

③市区町村別データの相関係数

4 回：①-

②連続型確率変数 (python による実装を通じて理解)

③-

5 回：①-

②正規分布、指数分布 (python による確率分布の可視化、分布の説明、値の取得)

③国勢調査データの分布

6 回：①-

②カイ二乗分布、t 分布、F 分布 (python による確率分布の可視化、分布の説明、値の取得)

③-

7 回：①-

②独立性、和の分布、標本平均の分布 (正規分布、ポアソン分布等について可視化)

③-

8 回：①-

②大数の法則、中心極限定理 (コンピュータシミュレーション)

③国勢調査データによるコンピュータシミュレーション

9 回：①-

②統計的推定 (点推定、不偏性、一致性、区間推定)

③-

10 回：①-

②統計的推定（区間推定、母平均、母分散の区間推定のシミュレーション）

③国勢調査データによる推定

11 回：①-

②統計的検定（検定の基本的な考え方、scipy.stats による p 値等の計算）

③-

12 回：①-

②単回帰分析（回帰分析の仮定、係数の点推定、区間推定、t 検定）

③-

13 回：①-

②重回帰分析（ダミー変数、決定係数、自由度調整済み決定係数、F 検定）

③国勢調査データによる回帰分析

14 回：第 1 回～第 13 回まとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

Python 演習の復習、統計学知識の整理

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:15% 授業内に指示した複数回の提出物:25%

**テキスト / Textbooks****参考文献 / Readings**

谷合 廣紀 / 辻 真吾 『Python で理解する統計解析の基礎』 技術評論社 2018 4297100495

東京大学教養学部統計学教室 『統計学入門（基礎統計学 I）』 東京大学出版会 1991 9784130420655

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

python の基礎、jupyternotebook の基礎的な利用方法について知っていることが望ましい

**その他 / Others**

中盤までやや抽象的な内容ですが、python によるコンピューターシミュレーションが理解を助けます。

推定の考え方をデータや確率分布のハンドリングによって学び、回帰係数の推定について理解を進めます。

# データ分析演習 A (会計)

Seminar on Data Analysis A

教養としての統計学

Statistics as liberal arts

野地 もも (NOJI MOMO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX391
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EAF2340
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	2024 年度以降入学者／データ分析入門 1・2
2023 年度以前入学者／	情報処理入門 1・2
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	旧科目名）財務情報処理 A

## 授業の目標 / Course Objectives

統計学の基礎を理解し、表計算ソフトなどを用いて実際に情報処理を行う技術を身に着けると共に、様々な媒体から公表される統計情報を読み解く能力を養うこと。

The objective of the lecture is to understand the fundamentals of statistics, acquire the skills to process information using spreadsheet software, etc., and develop the ability to read and understand statistical information published in various media.

## 授業の内容 / Course Contents

現代社会では、学術分野はもとより実務においても、日々生み出される大量の情報の処理について頭を悩ませる場面が多い。官公庁が公表する経済統計情報や各メディアの世論調査、企業の財務情報や株価情報、POS による市場調査など、特に経済分野では数値情報を整理し分析する能力、あるいは読み解く能力が不可欠である。統計学はそのような能力を養うための基礎となる。本講義では、聴講するだけでなく実際に自分自身の

手で計算を行うことにより、統計学を活用する能力を養うものとする。使用する経済情報は株価情報や財務情報など企業に関するものを主とし、毎回の講義で表計算ソフトを用いて演習を行う。事前知識は特に必要としない。また、計量経済学の領域までは扱わないため応用的な方法を知りたい場合は別途質問すること。

In today's world, there are many situations in which we have to worry about processing the large amount of information produced every day, not only in academic fields but also in business. Economic statistics released by government agencies, public opinion polls conducted by the media, corporate finance or stock price figures, market surveys by POS, etc., especially in the economic field, the ability to organize, analyze, and decipher numerical information is essential. Statistics is the basis for developing such skills. In this lecture, students will learn to use statistics while calculating independently. The information treated will mainly be related to companies, and exercises will be conducted using spreadsheet software in each lecture. No prior knowledge is required.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：講義の進め方、表計算方法の基本的な操作の確認
- 2 回：データを数値化する①：度数分布表とヒストグラム
- 3 回：データを数値化する②：データの「中心」、パーセンタイルの計算
- 4 回：データを数値化する③：データの「散らばり」、母集団と標本、自由度
- 5 回：2変数の関係性を読み解く：相関係数、散布図
- 6 回：確率論の基礎①：確率の考え方と基本的な計算
- 7 回：確率論の基礎②：確率変数
- 8 回：確率論の基礎③：確率分布
- 9 回：確率論の基礎④：標本と標本分布
- 10 回：点推定と区間推定①
- 11 回：点推定と区間推定②
- 12 回：仮説検定①
- 13 回：仮説検定②
- 14 回：総論および演習

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義中に示す関連書籍に可能な限り目を通すこと、また、講義後に表計算ソフトの操作や自身の理解度について再度確認し不十分な場合は質問すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 講義中に出題する演習問題（5回）:40%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

アミール・D.アクセル、シャヤベル・ソウンデルパイディアン著／鈴木一功監訳 『ビジネス統計学「上」』

ダイヤモンド社 2007 9784478470923

東京大学教養学部統計学教室 『統計学入門』 東京大学出版会 1991 9784130420655

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

PC 端末は教室のものを使用するが、個人所有のものを用いても良い。

# データ分析演習 B（会計）

Seminar on Data Analysis B

R で学ぶ財務分析

Financial analysis with R

野地 もも (NOJI MOMO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX392

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAF2340

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 2024 年度以降入学者／データ分析入門 1・2

2023 年度以前入学者／情報処理入門 1・2

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 旧科目名）財務情報処理 B

## 授業の目標 / Course Objectives

有報などから取得した企業の開示値を独力で適切に処理し、基本的な財務指標を算出する技能を養う。また、算出した数値から企業の状態を読み取るための知識を得る。

The goal is to develop the skills to independently and appropriately process corporate disclosure values obtained from financial reports and other sources, to calculate fundamental financial indicators, and to gain knowledge to read the state of a company from the calculated values.

## 授業の内容 / Course Contents

企業の状態を知るためには、売上高営業利益率や ROE、ROIC、TSR、EV など、様々な財務指標を把握する必要がある。本講義では、それらのなかでも特によく用いられているいくつかの財務指標を、企業が開示した財務数値から自分自身の力で計算するための力を養う。財務指標に関する知識だけではなく、数百あるいは数千のデータを一括で処理し分析可能な状態にする、基礎的なデータのハンドリング能力を身に付けることができ

る。数値の算出には無料の統計解析ツールである RStudio を用いる。RStudio の使用経験は特に必要としない。

To understand the quality of a company, it is necessary to manage various financial indicators such as operating margin on sales, ROE, ROIC, TSR, and EV. In this class, students will develop their ability to calculate some of the most frequently used financial indicators on their own from disclosed figures. In addition to knowledge of financial indicators, you will acquire basic data handling skills to process and analyze hundreds or thousands of data in batches. RStudio, a free statistical analysis tool, will be used in the class. No prior experience with RStudio is required.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：講義の進め方と R および RStudio の解説
- 2 回：RStudio の基本的な操作（プロジェクトの作成、基本的な構成、四則演算と代入）
- 3 回：企業が開示する財務情報、データをベクトルとして入力する
- 4 回：データフレームの作成と出力、外部データの取り込み
- 5 回：財務分析を行うための基礎知識、パッケージの活用
- 6 回：安全性分析①：貸借対照表から財務指標を作成する、データの整形
- 7 回：安全性分析②：貸借対照表から財務指標を作成する、エラーや異常値の処理
- 8 回：安全性分析③：貸借対照表から財務指標を作成する、基本統計量の作成
- 9 回：収益性分析①：損益計算書から財務指標を作成する、tidyverse の活用
- 10 回：収益性分析②：損益計算書から財務指標を作成する、データ形式の変換と結合
- 11 回：収益性分析③：損益計算書から財務指標を作成する、前期との比較
- 12 回：図表の作成①：散布図の作成と編集
- 13 回：図表の作成②：棒グラフや折れ線グラフを描出する
- 14 回：資本収益率の作成：貸借対照表と損益計算書を使って財務指標を作成する、業種平均値の作成と比較

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義中に示す関連書籍に可能な限り目を通すこと、また、講義後に RStudio の操作や自身の理解度について再度確認し不十分な場合は質問すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内複数回の提出物:40%

### テキスト / Textbooks

レジュメを使用するため、購入を必須とするテキストは指定しない。

### 参考文献 / Readings

笠原晃恭・村宮克彦 『ライブラリ データ分析への招待 5 実証会計・ファイナンス R による財務・株式データの分析』 新世社 2022 9784883843497



真鍋明裕 『「R」で楽しく学ぶ会計学・経営分析』 創成社 2015 9784794414878

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

特になし。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

PC 端末は教室のものを使用するが、個人所有のものを用いても良い。

# 課題解決演習 A

Seminar on Task Solutions A

産業の多様性や関係性を理解する課題解決型学習（Project-Based Learning）：基礎

菊池 航（KIKUCHI WATARU）

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX394  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX1020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 抽選登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義の目標は、協力企業による講義やグループディスカッションを通じて、産業の多様性や関係性について学び、経済構造について理解を深めることです。同時に、論理的に考える能力を養うこと、発言する力を高めること、議論を円滑に進めるスキルを修得することを目標としています。

The objective of this course is to use lectures by people from cooperating companies and discussions for students to learn about the diversity and relationships of industries understand the overall structure of the economy. Students will improve their ability to think about things logically and speak up, including giving their own opinions based on the background of the problem and also acquire the skill (facilitation) for holding smooth discussions.

## 授業の内容 / Course Contents

課題解決演習 A は、キャリア教育科目の基礎編（1年生・2年生を想定）に該当し、原則として産業ごとに各3回の授業で構成されます。協力企業から提示された課題に関し、自ら考え、議論し、チームとして成果を上げることが重要であり、主体的かつ積極的な参加が求められます。

This subject is the foundation for the career education subject (mainly for first and second year students) and in principle the class will be held 3 time for each industry. It is important for students to think on their own about, discuss, and produce team results regarding the presented issues and proactive and engaged participation and contribution are required of all students.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業のガイダンス，チームビルディング
- 2回：協力企業 A による講義，課題の提示
- 3回：グループワーク：与えられた課題に対する解決策を考える
- 4回：協力企業 A に対するプレゼンテーション
- 5回：協力企業 B による講義，課題の提示
- 6回：グループワーク：与えられた課題に対する解決策を考える
- 7回：協力企業 B に対するプレゼンテーション
- 8回：協力企業 C による講義，課題の提示
- 9回：グループワーク：与えられた課題に対する解決策を考える
- 10回：協力企業 C に対するプレゼンテーション
- 11回：協力企業 D による講義，課題の提示
- 12回：グループワーク：与えられた課題に対する解決策を考える
- 13回：協力企業 D に対するプレゼンテーション
- 14回：振り返り，総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

協力企業から提示された課題について，事前準備（情報収集・整理，議論）と事後学習（不足情報収集・整理，議論，資料修正など）を行うことが必要です。授業時間外での主体的な学習が不可欠です。

3年生・4年生の受講者には，参考文献にあげたファシリテーションに関する書籍やビジネス・フレームワークに関する書籍を事前に読むことを希望します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加・貢献度・リアクションコメント:60% チームによる発表内容:40%  
原則，全回出席。

### テキスト / Textbooks

必要に応じて授業中に紹介します。

### 参考文献 / Readings

堀公俊 『ファシリテーション入門〈第2版〉』 ファシリテーション入門〈第2版〉 2018 4532113989

堀公俊 『ビジネス・フレームワーク』 日本経済新聞出版 2013 4532119278

その他，必要に応じて授業中に紹介します。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

「経営学1」・「経営学2」などをあわせて履修することが望ましい。

### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

スライドの配布などは、Canvas LMS を通じて行ないます。

### **その他/ Others**

- ・ 協力企業（2023年度実績）：広告代理店，食品，出版，保険
- ・ 協力企業の都合により，授業の順番・内容が変更する場合があります
- ・ 課題解決演習 A の履修後に，課題解決演習 B・C，インターンシップを履修することが望ましい

## 企画講座 3

Endowed Lecture 3

租税と税理士制度 <立教税理士会寄附講座>

(Taxation and Tax Accounting <The Course Contributed by St. Paul's Certified Public Tax Accountant Association>)

池上 岳彦 (IKEGAMI TAKEHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX395

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX3010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

公共政策の財源を調達しつつ、所得・富の再分配を行い、経済の安定化等に資する租税制度及びその運営を支える税理士制度について学び、経済社会における租税の重要性を理解する。

Students will understand the roles of taxation (allocation of resources, redistribution of income and wealth and economic stabilization) and the importance of certified public tax accountant system.

### 授業の内容 / Course Contents

租税制度の基本的事項に触れつつ、税務及び税理士制度の役割、特徴、手続、今後の課題等について、制度及び実務の両面から講義する。なお、講義は「立教税理士会」所属の税理士によるオムニバス方式とする。

Members of St. Paul's Certified Public Tax Accountant Association make lectures on bases of taxation, tax practise, and the roles, characteristics, procedures and contemporary issues of Japanese certified public tax accountant system

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：税理士ってどんな仕事？～その果たす役割と将来性～
- 2回：大学生に身近な所得税
- 3回：～再現ドラマから考える～「所得税事件簿！」
- 4回：法人設立を視野に、給与所得を考える
- 5回：法人税の基礎 会計と税務のズレとは？
- 6回：法人税の計算～個別論点を中心に（1）～
- 7回：企業会計と法人税
- 8回：法人税の計算～個別論点を中心に（2）～
- 9回：消費税法（基礎編）
- 10回：消費税法（応用編・実践編）
- 11回：相続税・贈与税の基礎
- 12回：相続・贈与の簡単な事例を見てみよう！
- 13回：不動産を中心とした財産評価の基礎
- 14回：未来の世界と税法～メタバース、NFT、暗号資産等～

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度:30% 課題:40% レポート:30%

受講態度、授業内課題及びレポートにより総合的に評価する。

**テキスト / Textbooks****参考文献 / Readings****その他 / Others**

財政学1・2、租税論1・2、租税法1・2等の関連科目も履修することが望ましい。

# 中級簿記 1

## Intermediate Bookkeeping 1

小野 正芳 (ONO MASAYOSHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX396  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2910  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定： 簿記 1・2  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

株式会社が行うべき一連の基本的会計処理をできるようになることを目標とします。

目安として、社会的に中級レベルと認識されている、日商簿記 2 級以上の知識を使いこなせるようになることを目標とします。

The objective of this course is to be able to perform the basic accounting processing that should be conducted by a corporation.

That includes as a guideline being able to use knowledge at least at the level of JCCI Bookkeeping Grade 2.

### 授業の内容 / Course Contents

中級簿記 1 では、株式会社が行う取引の中でも、商品（役務）売買、代金決済、固定資産（リース含む）、引当金の計上といった一般的な取引について学習し、それらの取引を題材に利益計算・財産計算を行います。

In Intermediate Bookkeeping 1, of the transactions performed by a corporation, students will learn how to record such general transactions as product sales (render of service), payment settlement, fixed assets (lease), and allowances, and how to treat profit and property calculations using these transactions as the subject matter.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス  
 Chap1：会計の目的と簿記の役割  
 2回：Chap2：現金預金の処理  
 Chap3：金銭債権・債務の処理(1)－手形の裏書・割引  
 3回：Chap3：金銭債権・債務の処理(2)－その他の手形取引  
 4回：Chap5：商品売買の処理(1)－三分法・分記法・売上原価対立法、払出単価の計算－  
 5回：Chap10：商品売買の処理(2)－新収益認識基準－  
 6回：Chap5：商品売買の処理(3)－商品の期末評価－  
 7回：商品売買に関する総合問題  
 中間テスト  
 8回：Chap6：有形固定資産の処理(1)－取得・圧縮記帳－  
 9回：Chap6：有形固定資産の処理(2)－減価償却・売却－  
 10回：Chap6：有形固定資産の処理(3)－買換え・除却・廃棄－  
 Chap6：有形固定資産の処理(4)－未決算・改良・修繕－  
 11回：Chap7：無形固定資産の処理  
 Chap8：リース会計  
 12回：Chap9：引当金 (1) 引当金の仕組み  
 13回：Chap9：引当金 (2) 各種引当金の処理  
 14回：全体の振り返りと総合問題演習

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

問題集を利用して、授業で学習した処理を確実にこなせるように復習してください。

また、その処理がなされる理由（会計学の理論・経済的背景）も説明できるように復習して下さい。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 中間テスト:30% レポート:20%

#### テキスト / Textbooks

蛭川幹夫編著 『日商簿記ゼミ 2級商業簿記教本』（初版第3刷） 実教出版 2023 9784407344509 ○

蛭川幹夫編著 『日商簿記ゼミ 2級商業簿記問題演習』（初版第2刷） 実教出版 2023 9784407344516 ○

#### 参考文献 / Readings



## 中級簿記 2

Intermediate Bookkeeping 2

小野 正芳 (ONO MASAYOSHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX397  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2910  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定： 簿記 1・2  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

株式会社が行うべき一連の基本的会計処理をできるようになることを目標とします。

目安として、社会的に中級レベルであると認知されている、日商簿記 2 級以上の知識を使いこなせるようになることを目標とします。

The objective of this course is to be able to perform the basic accounting processing that should be conducted by a corporation.

That includes as a guideline being able to use knowledge at least at the level of JCCI Bookkeeping Grade 2.

### 授業の内容 / Course Contents

中級簿記 2 では、中級簿記 1 の内容を前提として、株式会社が行う処理の中でも、資金調達に関する処理、純資産に関する処理といった少し高度な取引について学習し、それらの処理を題材に利益計算・財産計算を行うとともに、本支店会計や簡単な連結会計といった応用的な内容を扱います。

In Intermediate Bookkeeping 2, building on what was learned in Intermediate Bookkeeping 1, of the processing performed by corporations, students will learn more advanced transactions, such as how to treat marketable securities, foreign currency translation, tax effect, funding and net assets, as well as profit and property

calculations this processing as the subject matter in addition to how to handle such applications as branch accounting and simple consolidated accounting.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- Chap4：有価証券の処理(1)－有価証券の分類
- 2回：Chap4：有価証券の処理(2)－売買目的有価証券－
- 3回：Chap4：有価証券の処理(3)－満期保有目的債券・子会社株式－
- 4回：Chap4：有価証券の処理(4)－その他の有価証券－
- Chap13：外貨換算会計
- 5回：Chap11：純資産の処理－純資産の項目と株式の発行による資金調達－
- 6回：Chap12：税金と税効果会計(1)－消費税の処理と税効果会計の意義－
- 7回：Chap12：税金と税効果会計(2)－税効果会計の処理－
- 8回：株式会社の会計に関する総合問題
- 中間テスト
- 9回：Chap14：決算と財務諸表
- 10回：Chap15：本支店会計－本支店間の取引と本支店合併財務諸表の作成－
- 11回：Chap16・17：連結会計(1) 連結の意義と基本的な考え方・支配獲得時の資本連結
- 12回：Chap18：連結会計(2) 連結1年目・2年目の処理
- 13回：Chap19：連結会計(3) 内部取引高と債権債務の相殺・未実現利益の消去
- 14回：Chap20：連結会計(4) 連結精算表の作成

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

問題集を使って前回までに学習した処理を確実に出来るよう復習してください。

かつ、その処理がなされる理由(会計学の理論・経済的背景)も説明できるように復習して下さい。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 複数回の授業内テスト(中間テストを含む) :30% レポート:20%

### テキスト/Textbooks

蛭川幹夫編著 『日商簿記ゼミ 2級商業簿記教本』(初版第3刷) 実教出版 2023 9784407344509 ○

蛭川幹夫編著 『日商簿記ゼミ 2級商業簿記問題演習』(初版第2刷) 実教出版 2023 9784407344516 ○

### 参考文献 / Readings

# 中級簿記 1

## Intermediate Bookkeeping 1

小野 正芳 (ONO MASAYOSHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX398  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2910  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定： 簿記 1・2  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

株式会社が行うべき一連の基本的会計処理をできるようになることを目標とします。

目安として、社会的に中級レベルと認識されている、日商簿記 2 級以上の知識を使いこなせるようになることを目標とします。

The objective of this course is to be able to perform the basic accounting processing that should be conducted by a corporation.

That includes as a guideline being able to use knowledge at least at the level of JCCI Bookkeeping Grade 2.

### 授業の内容 / Course Contents

中級簿記 1 では、株式会社が行う取引の中でも、商品（役務）売買、代金決済、固定資産（リース含む）、引当金の計上といった一般的な取引について学習し、それらの取引を題材に利益計算・財産計算を行います。

In Intermediate Bookkeeping 1, of the transactions performed by a corporation, students will learn how to record such general transactions as product sales (render of service), payment settlement, fixed assets (lease), and allowances, and how to treat profit and property calculations using these transactions as the subject matter.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス  
 Chap1：会計の目的と簿記の役割
- 2回：Chap2：現金預金の処理  
 Chap3：金銭債権・債務の処理(1)－手形の裏書・割引
- 3回：Chap3：金銭債権・債務の処理(2)－その他の手形取引
- 4回：Chap5：商品売買の処理(1)－三分法・分記法・売上原価対立法、払出単価の計算－
- 5回：Chap10：商品売買の処理(2)－新収益認識基準－
- 6回：Chap5：商品売買の処理(3)－商品の期末評価－
- 7回：商品売買に関する総合問題  
 中間テスト
- 8回：Chap6：有形固定資産の処理(1)－取得・圧縮記帳－
- 9回：Chap6：有形固定資産の処理(2)－減価償却・売却－
- 10回：Chap6：有形固定資産の処理(3)－買換え・除却・廃棄－  
 Chap6：有形固定資産の処理(4)－未決算・改良・修繕－
- 11回：Chap7：無形固定資産の処理  
 Chap8：リース会計
- 12回：Chap9：引当金 (1) 引当金の仕組み
- 13回：Chap9：引当金 (2) 各種引当金の処理
- 14回：全体の振り返りと総合問題演習

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

問題集を利用して、授業で学習した処理を確実にこなせるように復習してください。

また、その処理がなされる理由（会計学の理論・経済的背景）も説明できるように復習して下さい。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 中間テスト:30% レポート:20%

#### テキスト / Textbooks

蛭川幹夫編著 『日商簿記ゼミ 2級商業簿記教本』（初版第3刷） 実教出版 2023 9784407344509 ○

蛭川幹夫編著 『日商簿記ゼミ 2級商業簿記問題演習』（初版第2刷） 実教出版 2023 9784407344516 ○

#### 参考文献 / Readings

## 中級簿記 2

Intermediate Bookkeeping 2

小野 正芳 (ONO MASAYOSHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX399  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2910  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定： 簿記 1・2  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

株式会社が行うべき一連の基本的会計処理をできるようになることを目標とします。

目安として、社会的に中級レベルであると認知されている、日商簿記 2 級以上の知識を使いこなせるようになることを目標とします。

The objective of this course is to be able to perform the basic accounting processing that should be conducted by a corporation.

That includes as a guideline being able to use knowledge at least at the level of JCCI Bookkeeping Grade 2.

### 授業の内容 / Course Contents

中級簿記 2 では、中級簿記 1 の内容を前提として、株式会社が行う処理の中でも、資金調達に関する処理、純資産に関する処理といった少し高度な取引について学習し、それらの処理を題材に利益計算・財産計算を行うとともに、本支店会計や簡単な連結会計といった応用的な内容を扱います。

In Intermediate Bookkeeping 2, building on what was learned in Intermediate Bookkeeping 1, of the processing performed by corporations, students will learn more advanced transactions, such as how to treat marketable securities, foreign currency translation, tax effect, funding and net assets, as well as profit and property

calculations this processing as the subject matter in addition to how to handle such applications as branch accounting and simple consolidated accounting.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- Chap4：有価証券の処理(1)－有価証券の分類
- 2回：Chap4：有価証券の処理(2)－売買目的有価証券－
- 3回：Chap4：有価証券の処理(3)－満期保有目的債券・子会社株式－
- 4回：Chap4：有価証券の処理(4)－その他の有価証券－
- Chap13：外貨換算会計
- 5回：Chap11：純資産の処理－純資産の項目と株式の発行による資金調達－
- 6回：Chap12：税金と税効果会計(1)－消費税の処理と税効果会計の意義－
- 7回：Chap12：税金と税効果会計(2)－税効果会計の処理－
- 8回：株式会社の会計に関する総合問題
- 中間テスト
- 9回：Chap14：決算と財務諸表
- 10回：Chap15：本支店会計－本支店間の取引と本支店合併財務諸表の作成－
- 11回：Chap16・17：連結会計(1) 連結の意義と基本的な考え方・支配獲得時の資本連結
- 12回：Chap18：連結会計(2) 連結1年目・2年目の処理
- 13回：Chap19：連結会計(3) 内部取引高と債権債務の相殺・未実現利益の消去
- 14回：Chap20：連結会計(4) 連結精算表の作成

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

問題集を使って前回までに学習した処理を確実に出来るよう復習してください。

かつ、その処理がなされる理由(会計学の理論・経済的背景)も説明できるように復習して下さい。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 複数回の授業内テスト(中間テストを含む) :30% レポート:20%

### テキスト/Textbooks

蛭川幹夫編著 『日商簿記ゼミ 2級商業簿記教本』(初版第3刷) 実教出版 2023 9784407344509 ○

蛭川幹夫編著 『日商簿記ゼミ 2級商業簿記問題演習』(初版第2刷) 実教出版 2023 9784407344516 ○

### 参考文献 / Readings

# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

李 赫然 (LI HERAN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX400

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。



# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

石井 優子 (ISHII YUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX401

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。

# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

山口 隆太郎 (YAMAGUCHI RYUTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX402

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。

# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

浜名 弘明 (HAMANA HIROAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX403

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。

# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

篠根 拓人 (SHINONE TAKUTO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX404

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。



# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

菊池 美幸 (KIKUCHI MIYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX405

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。

# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

島西 智輝 (SHIMANISHI TOMOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX406

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。

# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

本田 恒平 (HONDA KOHEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX407

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。

# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

関根 未来 (SEKINE MIKU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX408

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。



# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

山口 隆太郎 (YAMAGUCHI RYUTARO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX409
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド（パワー等）の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	: ○	グループ発表	: ○	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。

# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

新川 徳彦 (ARAKAWA NORIHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX410

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。

# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

篠根 拓人 (SHINONE TAKUTO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX411

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。

# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

神尾 篤史 (KAMIO ATSUSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX412

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。



# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

石井 優子 (ISHII YUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX413

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。

# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

浜名 弘明 (HAMANA HIROAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX414

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。

# Japanese Economic History1

Japanese Economic History1

西崎 純代 (NISHIZAKI SUMIYO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX433
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX2711
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済学部生用。他学部生は抽選登録にて申し込むこと

## 授業の目標 / Course Objectives

英語で日本経済史を学びます。歴史関連知識の習得、批判的分析力の獲得、プレゼンテーションと討論関連のスキルの習得を目標とします。

[Knowledge] Students will acquire knowledge of major economic events in Japanese history, including its distinctive characteristics and features shared with other economies and its influence on contemporary Japan.

[Critical thinking skills] Students will develop critical thinking skills by using historical cases.

[Presentation and discussion skills] Students will enhance their presentation skills and the ability to engage in constructive debates.

## 授業の内容 / Course Contents

授業はすべて英語で行います。授業内容は講義、ディスカッション、グループワーク、小課題です。プロジェクトは、歴史的なテーマをケースとして、批判的分析力を養うことを目的とし、エッセイまたはプレゼンテーションを提出します。

Content includes lectures, discussions, in-class group activities, and short assignments. Students will work on a project (an essay or presentation) on the topic of their choice. "Japanese Economic History 1" covers the Edo and

the Meiji periods, and “Japanese Economic History 2” covers the Taisho and Showa periods up to the 1950s. The order of weekly topics may be changed to maximize the learning outcome.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Introduction: Overview of Japanese economic history from the 16th to 21st centuries
- 2回：The Edo period: Overview and the institution
- 3回：Academic skills session (about the project. An essay, or a presentation)
- 4回：The Edo period: The Osaka rice market
- 5回：The Edo period: The transformation of industries
- 6回：The Edo period: The finance of the Tokugawa Shogunate
- 7回：The Edo period: Living standards and people's lives
- 8回：The Edo period: The economy before the Meiji Restoration
- 9回：The Meiji period: The Meiji Restoration, an overview
- 10回：The Meiji period: Financial foundations and social changes
- 11回：The Meiji period: Technology, labor, infrastructure, and social changes
- 12回：The Meiji period: Trade, foreign relations, and wars
- 13回：The summary of the Pre-WWI period
- 14回：Conclusion

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to go through the assigned readings before each class meeting.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Project:30% Other assignments:32% 最終テスト割合：38%

The contents of mini assignments will be decided after the class size is finalized. To receive credits, students must attend more than 2/3 class meetings. A rubric for a presentation and essay will be available. Academic Honesty: Students must submit orig

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

- Akira Hayami; Osamu Saito; Ronald P. Toby The Economic History of Japan, 1600-1990: Volume 1: Emergence of Economic Society in Japan, 1600-1859 Oxford University Press 2004 9780198289050
- Takafusa Nakamura; Konosuke Odaka; Noah S. Brannen The Economic History of Japan, 1600-1990: Volume 3: A Dual Structure Oxford University Press 2003 9780198289074
- Penelope Francks Japanese Economic Development: Theory and Practice, 3rd edition Routledge 2015 9780415739344
- Andrew Gordon A Modern History of Japan: From Tokugawa Times to the Present, 4th Edition Oxford University Press 2019 9780190920555

**その他/ Others**

MIT Visualizing Cultures. (2002). <https://visualizingcultures.mit.edu/home/index.html>

# Japanese Economic History2

Japanese Economic History2

西崎 純代 (NISHIZAKI SUMIYO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX434
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX2711
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済学部生用。他学部生は抽選登録にて申し込むこと

## 授業の目標 / Course Objectives

英語で日本経済史を学びます。歴史関連知識の習得、批判的分析力の獲得、プレゼンテーションと討論関連のスキルの習得を目標とします。

[Knowledge] Students will acquire knowledge of major economic events in Japanese history, including its distinctive characteristics and features shared with other economies and its influence on contemporary Japan.

[Critical thinking skills] Students will develop critical thinking skills by using historical cases.

[Presentation and discussion skills] Students will enhance their presentation skills and the ability to engage in constructive debates.

## 授業の内容 / Course Contents

授業はすべて英語で行います。授業内容は講義、ディスカッション、グループワーク、小課題です。プロジェクトは、歴史的なテーマをケースとして、批判的分析力を養うことを目的とし、エッセイまたはプレゼンテーションを提出します。

Content includes lectures, discussions, in-class group activities, and short assignments. Students will work on a project (an essay or presentation) on the topic of their choice. "Japanese Economic History 1" covers the Edo and



the Meiji periods, and “Japanese Economic History 2” covers the Taisho and Showa periods up to the 1950s. The order of weekly topics may be changed to maximize the learning outcome.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction & the overview of Japanese economic history
- 2 回：Japan in WWI and the inter-war period
- 3 回：Academic skills session (about the project. An essay, or a presentation)
- 4 回：Economy and society
- 5 回：Economic effects of the Spanish flu pandemic and the Great Kanto Earthquake
- 6 回：Depression crisis and responses in the 1920s and 1930s
- 7 回：Japanese empire and colonial management 1
- 8 回：Japanese empire and colonial management 2
- 9 回：Japan in wartime 1
- 10 回：Japan in wartime 2
- 11 回：Postwar reconstruction 1
- 12 回：Postwar reconstruction 2
- 13 回：Path to the postwar growth
- 14 回：Conclusion: Growth versus success

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to go through the assigned readings before each class meeting.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Project:30% Other assignments:32% 最終テスト割合：38%

The contents of mini assignments will be decided after the class size is finalized. To receive credits, students must attend more than 2/3 class meetings. A rubric for a presentation and essay will be available. Academic Honesty: Students must submit orig

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

- Akira Hayami; Osamu Saito; Ronald P. Toby The Economic History of Japan, 1600-1990: Volume 1: Emergence of Economic Society in Japan, 1600-1859 Oxford University Press 2004 9780198289050
- Takafusa Nakamura; Konosuke Odaka; Noah S. Brannen The Economic History of Japan, 1600-1990: Volume 3: A Dual Structure Oxford University Press 2003 9780198289074
- Penelope Francks Japanese Economic Development: Theory and Practice, 3rd edition Routledge 2015 9780415739344
- Andrew Gordon A Modern History of Japan: From Tokugawa Times to the Present, 4th Edition Oxford University Press 2019 9780190920555

John Dower Embracing defeat: Japan in the wake of World War II W.W. Norton & Co. 2000  
9780393320275

MIT Visualizing Cultures. (2002). <https://visualizingcultures.mit.edu/home/index.html>

# Japanese Management 1

Japanese Management 1

西崎 純代 (NISHIZAKI SUMIYO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX435  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2811  
使用言語： 英語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

経営学関連知識の習得、批判的分析力の獲得、プレゼンテーションと討論関連スキルの習得を目標とします。

[Knowledge] Students will acquire knowledge of Japanese management, including its strengths, weaknesses, opportunities, and distinctive characteristics and features shared with the management styles observed in other countries or regions.

[Critical thinking skills] Students will develop critical thinking skills by examining business cases.

[Presentation and discussion skills] Students will enhance their presentation skills and the ability to engage in constructive debates.

## 授業の内容 / Course Contents

授業内容は講義、ディスカッション、グループワーク、小課題です。企業の事例研究を主教材とします。プロジェクトは批判的分析力を養うことを目的とし、エッセーまたはプレゼンテーションを提出します。授業は英語で行います。

This course examines management activities, including those observed in Japanese companies. We use selected case studies, including those published in Harvard Business Review. This course consists of lectures and class

discussions. The order of topics may be adjusted to maximize learning outcomes. “Japanese Management 1” covers management decisions observed mainly in the Japanese market. “Japanese Management 2” deals with international business operations and crisis management.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction: What is management?  
 2 回：Japanese entrepreneurship  
 Case study: SoftBank  
 3 回：Academic skills session (about the project. An essay, or a presentation)  
 4 回：Business environment: Ease of doing business in Japan  
 5 回：Japanese manufacturing and its changes:  
 Case study: The Toyota Production System  
 6 回：Competition and innovation  
 Case study: Sony Corporation  
 7 回：Leadership dynamics and corporate governance  
 Case study: Nissan’s Carlos Ghosn  
 8 回：Working in Japan: the labor market conditions  
 9 回：Surviving privatization  
 Case study: JR Tokai (The Central Japan Railway Company)  
 10 回：The smartphone market in Japan and the world  
 Case study: NTT DoCoMo vs Apple  
 11 回：The Japanization of American chain stores  
 Case study: 7-Eleven and Starbucks Coffee Japan  
 12 回：Business-to-business activities  
 Case study: Komatsu Ltd.  
 13 回：Current topics  
 14 回：Conclusion

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to go through the assigned readings before each class meeting.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Project:30% Other assignments:32% 最終テスト割合：38%

The contents of short assignments will be decided after the class size is finalized. To receive credits, students must attend more than 2/3 class meetings. A rubric for a presentation and essay will be available. Academic

Honesty: Students must submit ori

### テキスト / Textbooks

**参考文献 / Readings**

Takatoshi Ito and Takeo Hoshi The Japanese Economy, Second Edition The MIT Press 2020  
9780262538244

Readings will be uploaded on CANVAS or Course Google Drive.

**その他/ Others**

Selected Harvard Business Review case studies are available on the school's database. Please check Business Source Complete, EBSCO on the Library Website.

# Japanese Management 2

Japanese Management2

西崎 純代 (NISHIZAKI SUMIYO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX436  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2811  
使用言語： 英語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

経営学関連知識の習得、批判的分析力の獲得、プレゼンテーションと討論関連スキルの習得を目標とします。

[Knowledge] Students will acquire knowledge of Japanese management, including its strengths, weaknesses, opportunities, and distinctive characteristics and features shared with the management styles observed in other countries or regions.

[Critical thinking skills] Students will develop critical thinking skills by examining business cases.

[Presentation and discussion skills] Students will enhance their presentation skills and the ability to engage in constructive debates.

## 授業の内容 / Course Contents

授業内容は講義、ディスカッション、グループワーク、小課題です。企業の事例研究を主教材とします。プロジェクトは批判的分析力を養うことを目的とし、エッセーまたはプレゼンテーションを提出します。授業は英語で行います。

This course examines management activities, including those observed in Japanese companies. We use selected case studies, including those published in Harvard Business Review. This course consists of lectures and class

discussions. The order of topics may be adjusted to maximize learning outcomes. “Japanese Management 1” covers management decisions observed mainly in the Japanese market. “Japanese Management 2” deals with international business operations and crisis management.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction: Japan's SWOT. What are Japan's competitiveness and challenges?  
 2 回：International marketing/the Blue Ocean strategy  
 Case study: Nintendo Co., Ltd.  
 3 回：Academic skills session (about the project. An essay, or a presentation)  
 4 回：New business models in Asia:  
 TSMC and Japanese semiconductor companies  
 5 回：Supply chain management  
 Case study: Uniqlo and Ryohin Keikaku (Muji)  
 6 回：Corporate communication  
 Case study: Englishnization of Rakuten  
 7 回：How has Apple disrupted the Japanese manufacturing and communication markets?  
 Case study: Apple vs Sony and NTT  
 8 回：The Japanese automobile industry and challenges from EVs  
 Case study: Nissan, Toyota, and Tesla  
 9 回：Selling Japanese food  
 Case study: Kikkoman, Ippudo, etc.  
 10 回：Current topics  
 11 回：Crisis management  
 Case study: Toyota’s recall crisis  
 12 回：Current topics  
 13 回：What are the characteristics of Japanese management?  
 14 回：Conclusion

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to go through the assigned readings before each class meeting.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Project:30% Other assignments:32% 最終テスト割合：38%

The contents of short assignments will be decided after the class size is finalized. To receive credits, students must attend more than 2/3 class meetings. A rubric for a presentation and essay will be available. Academic

Honesty: Students must submit ori

### テキスト / Textbooks

**参考文献 / Readings**

Takatoshi Ito and Takeo Hoshi The Japanese Economy, Second Edition The MIT Press 2020  
9780262538244

Readings will be uploaded on CANVAS or Course Google Drive.

**その他/ Others**

Selected Harvard Business Review case studies are available on the school's database. Please check Business Source Complete, EBSCO on the Library Website.



# E c o n o m i c s

Economics

Introduction to Micro- and Macro-economics

ウォン, リオン (WONG LEON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX437

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2111

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

The course is gentle introduction to economics, by surveying two key branches of economics, i.e. micro- and macro-economics.

## 授業の内容 / Course Contents

The course is an overview of two key branches of economics, i.e. micro- and macro-economics. The course will blend basic concepts from textbooks, supplemented with recent news articles to illustrate these concepts. As illustration, we will apply these concepts to the real world in a conceptual and non-technical way.

For microeconomics, we study the basic workings of a market, how demand and supply of a product determine price, using the tools of demand and supply curves, to understand price elasticity and product substitution. We generalise from single product analysis to study market structure: perfect competition, monopolies, and oligopolies. We consider how government policy can distort markets when price ceilings or floors are imposed, and result in externalities or unintended consequences. We apply this demand-supply analysis to the oil market and recent events resulting from western sanctions on Russian oil and gas, and the role of oligopolies such as

OPEC+.

For macroeconomics, we study the basic problems of the domestic economy, i.e. the fundamental problem of maintaining growth, full employment and managing inflation. We learn about policy tools such as fiscal and monetary policy and the prescriptions by famous economists such as Keynes and Friedman on how to avoid recessions. We also observe how many governments have misapplied these policies to result in the current situation of stagnant growth with inflation and high government debt. We review the economic history of booms, busts and asset bubbles of the last few decades, and ponder the likelihood of a financial crisis in the near future. After the class, students will have a basic understanding of micro- and macro-economic concepts and how they are applied in the real world in a non-technical way

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：Microeconomics & demand and supply
- 3 回：Market structure: monopolies & oligopolies
- 4 回：Market structure: oligopsonies & price interventions
- 5 回：Externalities & market failure
- 6 回：Price elasticity and substitution
- 7 回：Macroeconomics and economic growth
- 8 回：Fiscal policy
- 9 回：Budget deficits and the debt trap
- 10 回：Inflation
- 11 回：Monetary policy
- 12 回：Unconventional monetary policy
- 13 回：Booms, busts and financial crises
- 14 回：Summary and conclusions

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

This course will be conducted using the flipped classroom method. A certain amount of reading will be required before class to prepare students to for the workshop activity during the class.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100%   Mini tests:20%   Class presentations:10%   Assignment:30%   最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

The study material for this course are freely available from the internet. This includes textbooks available under the Creative Commons license.

**参考文献 / Readings**

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

It would be helpful if students bring along an internet accessible device (tablet, laptop) for use in the workshop.

**その他/ Others**

This course will be conducted using the flipped classroom method. A certain amount of reading will be required before class to prepare students to for the workshop activity during the class. The class will begin with a short lecture to give an overview of

# Statistics

Statistics

Introduction to statistics

ウォン, リオン (WONG LEON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX438

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2311

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

This course provides an opportunity for students to learn elementary statistics, by playing with the data and to make statistical inferences by visualising the data.

## 授業の内容 / Course Contents

The course will start with the introduction to R and its tools. We will explore the data to better understand the data before we summarise and describe the data. We will then try to understand the relationships among the data with correlation and regression analysis, followed by confirming our understanding of these relationships with hypotheses testing. We conclude with a gentle detour into machine learning by predicting Titanic passenger survivals.

We will rely on R and its packages tools to automate the generation of the results of the statistical analysis, embedding it with charts, tables and written inferences and conclusions into a report in pdf.

After the class, students should have the confidence to independently conduct their own data analysis to draw statistical inferences. Furthermore, students will also have obtained skills in using R and its packages and

RStudio. These skills will be helpful to students, whether they continue to pursue a research or business career, as many business-related jobs now require data analysis and statistical inference skills.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：Installing R (and its packages) and Rstudio
- 3 回：Exploratory data analysis (1)
- 4 回：Exploratory data analysis (2)
- 5 回：Descriptive statistics (1)
- 6 回：Descriptive statistics (2)
- 7 回：Correlation
- 8 回：Regression analysis (1)
- 9 回：Regression analysis (2)
- 10 回：Hypothesis testing (1)
- 11 回：Hypothesis testing (2)
- 12 回：Machine learning: Titanic survival (1)
- 13 回：Machine learning: Titanic survival (2)
- 14 回：Summary & conclusions

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

This course will be conducted using the flipped classroom method. A certain amount of study will be required before class to prepare students to for the workshop activity during the class.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Mini tests:20% Class presentations:10% Assignment 1:20% Assignment 2:20%

最終レポート割合：30%

### テキスト / Textbooks

The study material for this course are freely available from the internet. This includes textbooks available under the Creative Commons license.

### 参考文献 / Readings

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful if students bring along an internet accessible device (tablet, laptop) for use in the workshop.

### その他 / Others

This course will be conducted using the flipped classroom method. A certain amount of study will be required before class to prepare students to for the workshop activity during the class. The class will begin with a short lecture to give an overview of t

# Accounting 1

Accounting(Introductory)1

Accounting for Investors

ウォン, リオン (WONG LEON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX440

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2911

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 経済学部生用。他学部生は抽選登録にて申し込むこと

## 授業の目標 / Course Objectives

This course will introduce students to the use of accounting from the perspective of an investor. Students will learn how to find and use accounting information by reading financial statements of actual companies.

## 授業の内容 / Course Contents

Students will learn how to search for company information and documents, interpret company earnings announcements & financial results, and conduct cashflow, solvency and liquidity analysis. Students will also conduct a comparative analysis of the company against other companies in its industry and to apply different methodologies to value the company. Students will also learn about the limitations of accounting information and the importance of non-accounting information in analysing a company. Students will apply their knowledge by role-playing an investment analyst and writing a investment report on a company of their choice.

At a minimum, we will illustrate these concepts by deconstructing the financial statements of Tesla and Softbank. After the class, students should have the tools to independently analyse the financial statements of a company.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：Introduction  
 2 回：Financial accounting & environment  
 3 回：Accounting information & earnings announcements  
 4 回：Income statement & profitability  
 5 回：Cashflow statement: operating & free cashflow  
 6 回：Other comprehensive income & unrealised gains/losses  
 7 回：Balance sheet & solvency  
 8 回：Balance sheet & liquidity  
 9 回：Liquidity and bank runs  
 10 回：Non-financial information  
 11 回：Peer Comparison  
 12 回：Valuation  
 13 回：Investment analyst research reports  
 14 回：Investment thesis & recommendations

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

It is recommended that students read the prescribed weekly materials before class, in order to be ready for group discussion during class.

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% Class presentations:10% Assignment 1:20% Assignment 2:30% 最終レポート  
割合：:40%

**テキスト / Textbooks**

There are no textbooks for this course.

The study material will be freely available internet resources or articles and company announcements and financial statements from their investor relations webpages or official regulatory sources. The purpose of usi

**参考文献 / Readings****学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

It would be helpful if students bring along an internet accessible device (tablet, laptop) for use in the workshop.

**その他 / Others**

Each class will be divided into 2 parts. The first part will be a lecture. The second part will be group discussions, with 4 or 5 students per group. A member of each group may be required to present the group's findings.

# Accounting 2

Accounting(Introductory)2

Accounting for managers

ウォン, リオン (WONG LEON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX441

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2911

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 経済学部生用。他学部生は抽選登録にて申し込むこと

## 授業の目標 / Course Objectives

This course will introduce students to the use of accounting from the perspective of a manager or business owner.

## 授業の内容 / Course Contents

This course will cover the 3 basic stages faced by a business owner in the use of accounting information: setting up a business, implementing an accounting information system, and using the information generated from that accounting information system to make business decisions in costing, pricing, breakeven points, make-or-buy, and the benefits of decentralisation.

After the class, students should have a basic understanding of how to use accounting information as a business owner or manager.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction



- 2回：Setting up your business  
 3回：Business Plans: write the report & presentation  
 4回：Financing your start-up  
 5回：Accounting information systems 1: Build, Buy or Rent?  
 6回：AIS: Data & security  
 7回：AIS: internal controls  
 8回：Management accounting & costs  
 9回：Product costing types  
 10回：Cost analysis  
 11回：Costs for Decision-making  
 12回：Relevant revenues and costs  
 13回：Decentralisation  
 14回：Summary & conclusions

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

It is recommended that students read the prescribed weekly materials before class, in order to be ready for group discussion during class.

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class presentations:10% Assignment 1:25% Assignment 2:25% 最終テスト割合 :40%

#### テキスト / Textbooks

The study material for this course are freely available from the internet. This includes textbooks available under the Creative Commons license.

#### 参考文献 / Readings

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful if students bring along an internet accessible device (tablet, laptop) for use in the workshop.

#### その他 / Others

Each class will be divided into 2 parts. The first part will be a lecture presentation. The second part will be group discussions, with 4 or 5 students per group. A member of each group may be required to present the group's findings.

# Finance 1

Finance(Introductory)1

Stockmarkets for investors

ウォン, リオン (WONG LEON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX442

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2611

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 経済学部生用。他学部生は抽選登録にて申し込むこと

## 授業の目標 / Course Objectives

This course is a practical introduction to stockmarkets for investors. The stockmarkets of Singapore and Australia are introduced. Singapore in particular is a good starting point because it is the leading financial center in the Asia-Pacific, and ranked third globally in 2023 behind only New York and London, according to the Global Financial Center Index (<https://www.visualcapitalist.com/top-global-financial-centers-in-2023/>).

## 授業の内容 / Course Contents

The first part of the course covers the trading and settlement of stocks, and trading offences such as insider trading and market manipulation.

The second part covers company action, such as initial public offerings, secondary offerings, earnings announcements and takeovers.

The third part covers investor disclosure protection and corporate governance.

The class is organized as a lecture in the first half, with a workshop in the second half, where students conduct group research and present the equivalent characteristics of their home stock market.

After the class, students should have a broad understanding of stockmarkets, not only of Australia and Singapore, but also that of the home countries of the enrolled students, which in Spring 2023, were the US, Japan, China, France, Spain, Mexico and Brazil.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：Stockmarkets & participants
- 3 回：Trading & settlement
- 4 回：Trading market features
- 5 回：Securities market trading related offenses
- 6 回：Corporate filings
- 7 回：Interpreting company announcements & financial results
- 8 回：Initial Public Offerings
- 9 回：How to read an IPO prospectus
- 10 回：Secondary offerings: placements, rights issues
- 11 回：Takeovers
- 12 回：Disclosure investor protection
- 13 回：Corporate governance
- 14 回：Summary & conclusions

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

It is recommended that students read the prescribed weekly materials before class, to be ready for group discussion during class.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100%    Class presentations:10%    Assignment 1:25%    Assignment 2:25%    最終レポート  
割合：:40%

### テキスト / Textbooks

There are no textbooks for this course.

The study material for this course will be freely available internet resources or articles. They will be web resources from stock exchanges and regulatory authorities, news articles or opinion pieces from online sou

### 参考文献 / Readings

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful if students bring along an internet accessible device (tablet, laptop) for use in the workshop.

### その他 / Others

Each class will be divided into 2 parts. The first part will be a lecture presentation. The second part will be group

discussions, with 4 or 5 students per group. A member of each group may be required to present the group's findings.

# Finance 2

Finance(Introductory)2

Markets: theory & reality

ウォン, リオン (WONG LEON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX443

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2611

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 経済学部生用。他学部生は抽選登録にて申し込むこと

## 授業の目標 / Course Objectives

This course is a practical introduction to a few signature theories in corporate finance, (i.e. efficient markets hypothesis, option pricing model, portfolio theory, and asset pricing). A brief introduction to prospect theory and behavioural finance, generally, is also presented as an contrast to conventional finance theories.

## 授業の内容 / Course Contents

This course explores the application of these theories in the real world. As part of this exploration, we consider the role of governments in distorting the workings of financial markets, the impact of derivatives, and the unintended consequences of passive investing, hedge funds, and the increased role of quantitative trading. We concluded with some advice on job opportunities are for those interested in a career in finance.

After the class, students should have a basic understanding of corporate finance theory and how they work (or not work) in the real world.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：Market efficiency
- 3 回：Informational efficiency
- 4 回：Central banks have distorted markets
- 5 回：Active government intervention
- 6 回：Derivatives: option pricing model
- 7 回：Derivatives: tail wags dog
- 8 回：Portfolio Theory
- 9 回：Passive investing & Exchange Traded Funds
- 10 回：Asset pricing
- 11 回：Fundamentals or factors
- 12 回：Hedge funds & hedged portfolios
- 13 回：Risk free rate & other issues
- 14 回：Summary & conclusions

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ*等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

It is recommended that students read the prescribed weekly materials before class, in order to be ready for group discussion during class.

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100%    Class presentations:10%    Assignment 1:25%    Assignment 2:25%    最終レポート  
割合 :40%

#### テキスト / Textbooks

There are no textbooks for this course.

The study materials for this course are freely available internet resources or articles. They will be mainly journal articles, news articles or opinion pieces from online sources such as newspapers, blogs or other s

#### 参考文献 / Readings

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful if students bring along an internet accessible device (tablet, laptop) for use in the workshop.

#### その他 / Others

Each class will be divided into 2 parts. The first part will be a lecture presentation. The second part will be group discussions, with 4 or 5 students per group. A member of each group may be required to present the group's findings.

# Japanese Economic History1

Japanese Economic History1

西崎 純代 (NISHIZAKI SUMIYO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX452
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX2711
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	他学部生用。経済学部生は科目コード登録にて申し込むこと

## 授業の目標 / Course Objectives

英語で日本経済史を学びます。歴史関連知識の習得、批判的分析力の獲得、プレゼンテーションと討論関連のスキルの習得を目標とします。

[Knowledge] Students will acquire knowledge of major economic events in Japanese history, including its distinctive characteristics and features shared with other economies and its influence on contemporary Japan.

[Critical thinking skills] Students will develop critical thinking skills by using historical cases.

[Presentation and discussion skills] Students will enhance their presentation skills and the ability to engage in constructive debates.

## 授業の内容 / Course Contents

授業はすべて英語で行います。授業内容は講義、ディスカッション、グループワーク、小課題です。プロジェクトは、歴史的なテーマをケースとして、批判的分析力を養うことを目的とし、エッセイまたはプレゼンテーションを提出します。

Content includes lectures, discussions, in-class group activities, and short assignments. Students will work on a project (an essay or presentation) on the topic of their choice. "Japanese Economic History 1" covers the Edo and

the Meiji periods, and “Japanese Economic History 2” covers the Taisho and Showa periods up to the 1950s. The order of weekly topics may be changed to maximize the learning outcome.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction: Overview of Japanese economic history from the 16th to 21st centuries
- 2 回：The Edo period: Overview and the institution
- 3 回：Academic skills session (about the project. An essay, or a presentation)
- 4 回：The Edo period: The Osaka rice market
- 5 回：The Edo period: The transformation of industries
- 6 回：The Edo period: The finance of the Tokugawa Shogunate
- 7 回：The Edo period: Living standards and people's lives
- 8 回：The Edo period: The economy before the Meiji Restoration
- 9 回：The Meiji period: The Meiji Restoration, an overview
- 10 回：The Meiji period: Financial foundations and social changes
- 11 回：The Meiji period: Technology, labor, infrastructure, and social changes
- 12 回：The Meiji period: Trade, foreign relations, and wars
- 13 回：The summary of the Pre-WWI period
- 14 回：Conclusion

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to go through the assigned readings before each class meeting.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Project:30% Other assignments:32% 最終テスト割合：38%

The contents of mini assignments will be decided after the class size is finalized. To receive credits, students must attend more than 2/3 class meetings. A rubric for a presentation and essay will be available. Academic Honesty: Students must submit orig

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

- Akira Hayami; Osamu Saito; Ronald P. Toby The Economic History of Japan, 1600-1990: Volume 1: Emergence of Economic Society in Japan, 1600-1859 Oxford University Press 2004 9780198289050
- Takafusa Nakamura; Konosuke Odaka; Noah S. Brannen The Economic History of Japan, 1600-1990: Volume 3: A Dual Structure Oxford University Press 2003 9780198289074
- Penelope Francks Japanese Economic Development: Theory and Practice, 3rd edition Routledge 2015 9780415739344
- Andrew Gordon A Modern History of Japan: From Tokugawa Times to the Present, 4th Edition Oxford University Press 2019 9780190920555



**その他/ Others**

MIT Visualizing Cultures. (2002). <https://visualizingcultures.mit.edu/home/index.html>

# Japanese Economic History2

Japanese Economic History2

西崎 純代 (NISHIZAKI SUMIYO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX453  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2711  
使用言語： 英語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 抽選登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： 他学部生用。経済学部生は科目コード登録にて申し込むこと

## 授業の目標 / Course Objectives

英語で日本経済史を学びます。歴史関連知識の習得、批判的分析力の獲得、プレゼンテーションと討論関連のスキルの習得を目標とします。

[Knowledge] Students will acquire knowledge of major economic events in Japanese history, including its distinctive characteristics and features shared with other economies and its influence on contemporary Japan.

[Critical thinking skills] Students will develop critical thinking skills by using historical cases.

[Presentation and discussion skills] Students will enhance their presentation skills and the ability to engage in constructive debates.

## 授業の内容 / Course Contents

授業はすべて英語で行います。授業内容は講義、ディスカッション、グループワーク、小課題です。プロジェクトは、歴史的なテーマをケースとして、批判的分析力を養うことを目的とし、エッセイまたはプレゼンテーションを提出します。

Content includes lectures, discussions, in-class group activities, and short assignments. Students will work on a project (an essay or presentation) on the topic of their choice. "Japanese Economic History 1" covers the Edo and

the Meiji periods, and “Japanese Economic History 2” covers the Taisho and Showa periods up to the 1950s. The order of weekly topics may be changed to maximize the learning outcome.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction & the overview of Japanese economic history
- 2 回：Japan in WWI and the inter-war period
- 3 回：Academic skills session (about the project. An essay, or a presentation)
- 4 回：Economy and society
- 5 回：Economic effects of the Spanish flu pandemic and the Great Kanto Earthquake
- 6 回：Depression crisis and responses in the 1920s and 1930s
- 7 回：Japanese empire and colonial management 1
- 8 回：Japanese empire and colonial management 2
- 9 回：Japan in wartime 1
- 10 回：Japan in wartime 2
- 11 回：Postwar reconstruction 1
- 12 回：Postwar reconstruction 2
- 13 回：Path to the postwar growth
- 14 回：Conclusion: Growth versus success

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to go through the assigned readings before each class meeting.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Project:30% Other assignments:32% 最終テスト割合：38%

The contents of mini assignments will be decided after the class size is finalized. To receive credits, students must attend more than 2/3 class meetings. A rubric for a presentation and essay will be available. Academic Honesty: Students must submit orig

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

- Akira Hayami; Osamu Saito; Ronald P. Toby The Economic History of Japan, 1600-1990: Volume 1: Emergence of Economic Society in Japan, 1600-1859 Oxford University Press 2004 9780198289050
- Takafusa Nakamura; Konosuke Odaka; Noah S. Brannen The Economic History of Japan, 1600-1990: Volume 3: A Dual Structure Oxford University Press 2003 9780198289074
- Penelope Francks Japanese Economic Development: Theory and Practice, 3rd edition Routledge 2015 9780415739344
- Andrew Gordon A Modern History of Japan: From Tokugawa Times to the Present, 4th Edition Oxford University Press 2019 9780190920555

John Dower Embracing defeat: Japan in the wake of World War II W.W. Norton & Co. 2000  
9780393320275

MIT Visualizing Cultures. (2002). <https://visualizingcultures.mit.edu/home/index.html>

# A c c o u n t i n g 1

Accounting(Introductory)1

Accounting for Investors

ウォン, リオン (WONG LEON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX454

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2911

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 他学部生用。経済学部生は科目コード登録にて申し込むこと

## 授業の目標 / Course Objectives

This course will introduce students to the use of accounting from the perspective of an investor. Students will learn how to find and use accounting information by reading financial statements of actual companies.

## 授業の内容 / Course Contents

Students will learn how to search for company information and documents, interpret company earnings announcements & financial results, and conduct cashflow, solvency and liquidity analysis. Students will also conduct a comparative analysis of the company against other companies in its industry and to apply different methodologies to value the company. Students will also learn about the limitations of accounting information and the importance of non-accounting information in analysing a company. Students will apply their knowledge by role-playing an investment analyst and writing a investment report on a company of their choice.

At a minimum, we will illustrate these concepts by deconstructing the financial statements of Tesla and Softbank. After the class, students should have the tools to independently analyse the financial statements of a company.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：Introduction  
 2 回：Financial accounting & environment  
 3 回：Accounting information & earnings announcements  
 4 回：Income statement & profitability  
 5 回：Cashflow statement: operating & free cashflow  
 6 回：Other comprehensive income & unrealised gains/losses  
 7 回：Balance sheet & solvency  
 8 回：Balance sheet & liquidity  
 9 回：Liquidity and bank runs  
 10 回：Non-financial information  
 11 回：Peer Comparison  
 12 回：Valuation  
 13 回：Investment analyst research reports  
 14 回：Investment thesis & recommendations

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

It is recommended that students read the prescribed weekly materials before class, in order to be ready for group discussion during class.

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% Class presentations:10% Assignment 1:20% Assignment 2:30% 最終レポート  
割合：:40%

**テキスト / Textbooks**

There are no textbooks for this course.

The study material will be freely available internet resources or articles and company announcements and financial statements from their investor relations webpages or official regulatory sources. The purpose of use

**参考文献 / Readings****学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

It would be helpful if students bring along an internet accessible device (tablet, laptop) for use in the workshop.

**その他 / Others**

Each class will be divided into 2 parts. The first part will be a lecture. The second part will be group discussions, with 4 or 5 students per group. A member of each group may be required to present the group's findings.

# Accounting 2

Accounting(Introductory)2

Accounting for managers

ウォン, リオン (WONG LEON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX455

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2911

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 他学部生用。経済学部生は科目コード登録にて申し込むこと

## 授業の目標 / Course Objectives

This course will introduce students to the use of accounting from the perspective of a manager or business owner.

## 授業の内容 / Course Contents

This course will cover the 3 basic stages faced by a business owner in the use of accounting information: setting up a business, implementing an accounting information system, and using the information generated from that accounting information system to make business decisions in costing, pricing, breakeven points, make-or-buy, and the benefits of decentralisation.

After the class, students should have a basic understanding of how to use accounting information as a business owner or manager.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction

- 2回：Setting up your business  
 3回：Business Plans: write the report & presentation  
 4回：Financing your start-up  
 5回：Accounting information systems 1: Build, Buy or Rent?  
 6回：AIS: Data & security  
 7回：AIS: internal controls  
 8回：Management accounting & costs  
 9回：Product costing types  
 10回：Cost analysis  
 11回：Costs for Decision-making  
 12回：Relevant revenues and costs  
 13回：Decentralisation  
 14回：Summary & conclusions

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

It is recommended that students read the prescribed weekly materials before class, in order to be ready for group discussion during class.

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class presentations:10% Assignment 1:25% Assignment 2:25% 最終テスト割合 :40%

#### テキスト / Textbooks

The study material for this course are freely available from the internet. This includes textbooks available under the Creative Commons license.

#### 参考文献 / Readings

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful if students bring along an internet accessible device (tablet, laptop) for use in the workshop.

#### その他 / Others

Each class will be divided into 2 parts. The first part will be a lecture presentation. The second part will be group discussions, with 4 or 5 students per group. A member of each group may be required to present the group's findings.



# Finance 1

Finance(Introductory)1

Stockmarkets for investors

ウォン, リオン (WONG LEON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX456

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2611

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 他学部生用。経済学部生は科目コード登録にて申し込むこと

## 授業の目標 / Course Objectives

This course is a practical introduction to stockmarkets for investors. The stockmarkets of Singapore and Australia are introduced. Singapore in particular is a good starting point because it is the leading financial center in the Asia-Pacific, and ranked third globally in 2023 behind only New York and London, according to the Global Financial Center Index (<https://www.visualcapitalist.com/top-global-financial-centers-in-2023/>).

## 授業の内容 / Course Contents

The first part of the course covers the trading and settlement of stocks, and trading offences such as insider trading and market manipulation.

The second part covers company action, such as initial public offerings, secondary offerings, earnings announcements and takeovers.

The third part covers investor disclosure protection and corporate governance.

The class is organized as a lecture in the first half, with a workshop in the second half, where students conduct group research and present the equivalent characteristics of their home stock market.

After the class, students should have a broad understanding of stockmarkets, not only of Australia and Singapore, but also that of the home countries of the enrolled students, which in Spring 2023, were the US, Japan, China, France, Spain, Mexico and Brazil.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：Stockmarkets & participants
- 3 回：Trading & settlement
- 4 回：Trading market features
- 5 回：Securities market trading related offenses
- 6 回：Corporate filings
- 7 回：Interpreting company announcements & financial results
- 8 回：Initial Public Offerings
- 9 回：How to read an IPO prospectus
- 10 回：Secondary offerings: placements, rights issues
- 11 回：Takeovers
- 12 回：Disclosure investor protection
- 13 回：Corporate governance
- 14 回：Summary & conclusions

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

It is recommended that students read the prescribed weekly materials before class, to be ready for group discussion during class.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100%    Class presentations:10%    Assignment 1:25%    Assignment 2:25%    最終レポート  
割合：:40%

### テキスト / Textbooks

There are no textbooks for this course.

The study material for this course will be freely available internet resources or articles. They will be web resources from stock exchanges and regulatory authorities, news articles or opinion pieces from online sou

### 参考文献 / Readings

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful if students bring along an internet accessible device (tablet, laptop) for use in the workshop.

### その他 / Others

Each class will be divided into 2 parts. The first part will be a lecture presentation. The second part will be group

discussions, with 4 or 5 students per group. A member of each group may be required to present the group's findings.

# Finance 2

Finance(Introductory)2

Markets: theory & reality

ウォン, リオン (WONG LEON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX457

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2611

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 他学部生用。経済学部生は科目コード登録にて申し込むこと

## 授業の目標 / Course Objectives

This course is a practical introduction to a few signature theories in corporate finance, (i.e. efficient markets hypothesis, option pricing model, portfolio theory, and asset pricing). A brief introduction to prospect theory and behavioural finance, generally, is also presented as an contrast to conventional finance theories.

## 授業の内容 / Course Contents

This course explores the application of these theories in the real world. As part of this exploration, we consider the role of governments in distorting the workings of financial markets, the impact of derivatives, and the unintended consequences of passive investing, hedge funds, and the increased role of quantitative trading. We concluded with some advice on job opportunities are for those interested in a career in finance.

After the class, students should have a basic understanding of corporate finance theory and how they work (or not work) in the real world.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：Market efficiency
- 3 回：Informational efficiency
- 4 回：Central banks have distorted markets
- 5 回：Active government intervention
- 6 回：Derivatives: option pricing model
- 7 回：Derivatives: tail wags dog
- 8 回：Portfolio Theory
- 9 回：Passive investing & Exchange Traded Funds
- 10 回：Asset pricing
- 11 回：Fundamentals or factors
- 12 回：Hedge funds & hedged portfolios
- 13 回：Risk free rate & other issues
- 14 回：Summary & conclusions

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ*等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

It is recommended that students read the prescribed weekly materials before class, in order to be ready for group discussion during class.

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100%    Class presentations:10%    Assignment 1:25%    Assignment 2:25%    最終レポート  
割合 :40%

#### テキスト / Textbooks

There are no textbooks for this course.

The study materials for this course are freely available internet resources or articles. They will be mainly journal articles, news articles or opinion pieces from online sources such as newspapers, blogs or other s

#### 参考文献 / Readings

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful if students bring along an internet accessible device (tablet, laptop) for use in the workshop.

#### その他 / Others

Each class will be divided into 2 parts. The first part will be a lecture presentation. The second part will be group discussions, with 4 or 5 students per group. A member of each group may be required to present the group's findings.

# Japanese Management 1

Japanese Management 1

西崎 純代 (NISHIZAKI SUMIYO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX458  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2811  
使用言語： 英語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 抽選登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

経営学関連知識の習得、批判的分析力の獲得、プレゼンテーションと討論関連スキルの習得を目標とします。

[Knowledge] Students will acquire knowledge of Japanese management, including its strengths, weaknesses, opportunities, and distinctive characteristics and features shared with the management styles observed in other countries or regions.

[Critical thinking skills] Students will develop critical thinking skills by examining business cases.

[Presentation and discussion skills] Students will enhance their presentation skills and the ability to engage in constructive debates.

## 授業の内容 / Course Contents

授業内容は講義、ディスカッション、グループワーク、小課題です。企業の事例研究を主教材とします。プロジェクトは批判的分析力を養うことを目的とし、エッセーまたはプレゼンテーションを提出します。授業は英語で行います。

This course examines management activities, including those observed in Japanese companies. We use selected case studies, including those published in Harvard Business Review. This course consists of lectures and class

discussions. The order of topics may be adjusted to maximize learning outcomes. “Japanese Management 1” covers management decisions observed mainly in the Japanese market. “Japanese Management 2” deals with international business operations and crisis management.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction: What is management?  
 2 回：Japanese entrepreneurship  
 Case study: SoftBank  
 3 回：Academic skills session (about the project. An essay, or a presentation)  
 4 回：Business environment: Ease of doing business in Japan  
 5 回：Japanese manufacturing and its changes:  
 Case study: The Toyota Production System  
 6 回：Competition and innovation  
 Case study: Sony Corporation  
 7 回：Leadership dynamics and corporate governance  
 Case study: Nissan’s Carlos Ghosn  
 8 回：Working in Japan: the labor market conditions  
 9 回：Surviving privatization  
 Case study: JR Tokai (The Central Japan Railway Company)  
 10 回：The smartphone market in Japan and the world  
 Case study: NTT DoCoMo vs Apple  
 11 回：The Japanization of American chain stores  
 Case study: 7-Eleven and Starbucks Coffee Japan  
 12 回：Business-to-business activities  
 Case study: Komatsu Ltd.  
 13 回：Current topics  
 14 回：Conclusion

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to go through the assigned readings before each class meeting.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Project:30% Other assignments:32% 最終テスト割合：38%

The contents of short assignments will be decided after the class size is finalized. To receive credits, students must attend more than 2/3 class meetings. A rubric for a presentation and essay will be available. Academic Honesty: Students must submit ori

### テキスト / Textbooks

**参考文献 / Readings**

Takatoshi Ito and Takeo Hoshi The Japanese Economy, Second Edition The MIT Press 2020  
9780262538244

Readings will be uploaded on CANVAS or Course Google Drive.

**その他/ Others**

Selected Harvard Business Review case studies are available on the school's database. Please check Business Source Complete, EBSCO on the Library Website.



# Japanese Management 2

Japanese Management2

西崎 純代 (NISHIZAKI SUMIYO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX459  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2811  
使用言語： 英語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 抽選登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

経営学関連知識の習得、批判的分析力の獲得、プレゼンテーションと討論関連スキルの習得を目標とします。

[Knowledge] Students will acquire knowledge of Japanese management, including its strengths, weaknesses, opportunities, and distinctive characteristics and features shared with the management styles observed in other countries or regions.

[Critical thinking skills] Students will develop critical thinking skills by examining business cases.

[Presentation and discussion skills] Students will enhance their presentation skills and the ability to engage in constructive debates.

## 授業の内容 / Course Contents

授業内容は講義、ディスカッション、グループワーク、小課題です。企業の事例研究を主教材とします。プロジェクトは批判的分析力を養うことを目的とし、エッセーまたはプレゼンテーションを提出します。授業は英語で行います。

This course examines management activities, including those observed in Japanese companies. We use selected case studies, including those published in Harvard Business Review. This course consists of lectures and class

discussions. The order of topics may be adjusted to maximize learning outcomes. “Japanese Management 1” covers management decisions observed mainly in the Japanese market. “Japanese Management 2” deals with international business operations and crisis management.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction: Japan's SWOT. What are Japan's competitiveness and challenges?  
 2 回：International marketing/the Blue Ocean strategy  
 Case study: Nintendo Co., Ltd.  
 3 回：Academic skills session (about the project. An essay, or a presentation)  
 4 回：New business models in Asia:  
 TSMC and Japanese semiconductor companies  
 5 回：Supply chain management  
 Case study: Uniqlo and Ryohin Keikaku (Muji)  
 6 回：Corporate communication  
 Case study: Englishnization of Rakuten  
 7 回：How has Apple disrupted the Japanese manufacturing and communication markets?  
 Case study: Apple vs Sony and NTT  
 8 回：The Japanese automobile industry and challenges from EVs  
 Case study: Nissan, Toyota, and Tesla  
 9 回：Selling Japanese food  
 Case study: Kikkoman, Ippudo, etc.  
 10 回：Current topics  
 11 回：Crisis management  
 Case study: Toyota’s recall crisis  
 12 回：Current topics  
 13 回：What are the characteristics of Japanese management?  
 14 回：Conclusion

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to go through the assigned readings before each class meeting.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Project:30% Other assignments:32% 最終テスト割合：38%

The contents of short assignments will be decided after the class size is finalized. To receive credits, students must attend more than 2/3 class meetings. A rubric for a presentation and essay will be available. Academic

Honesty: Students must submit ori

### テキスト / Textbooks

**参考文献 / Readings**

Takatoshi Ito and Takeo Hoshi The Japanese Economy, Second Edition The MIT Press 2020  
9780262538244

Readings will be uploaded on CANVAS or Course Google Drive.

**その他/ Others**

Selected Harvard Business Review case studies are available on the school's database. Please check Business Source Complete, EBSCO on the Library Website.

# 社会経済学 1

Political Economy 1

資本主義の基礎理論

川崎 志帆 (KAWASAKI SHIHO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX460
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX2110
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済学科 NEXUS 生 2 年次以上

## 授業の目標 / Course Objectives

学生が資本主義を分析するための理論的な基礎を学習することで学位授与方針の学修成果に掲げる「経済現象を歴史的・理論的に考察する」能力を身につけることができる。

Students will learn the theoretical fundamentals for analyzing capitalism to acquire the ability to historically and theoretically examine the economic phenomena necessary to achieve the learning required for the degree.

## 授業の内容 / Course Contents

この講義は、資本主義の成り立ちやその構造をわかりやすく説明します。経済学にはいろいろな考え方があります。この講義はマルクス経済学の立場から資本主義とは何かについて接近します。春学期では、商品あるいは貨幣とは何かといったことから解き明かし、次に労働力はなぜ商品となるのか、資本とは何か、剰余価値はどうして生まれるかなど資本主義という社会を理解するうえで必要な基礎的な用語を順序立てて講義します。こうした学びをつうじて、現代社会がかかえる諸問題、たとえば長時間労働、不安定就労、賃金の決定、技術革新が労働者に及ぼす影響といった諸問題を考えることができます。現実には複雑です。その現実を分析する道具（理論）を身につけ、その道具を使って現実を考えることが重要なのです。この講義はそのための考える手

立てを与えます。

This lecture explains in an easy-to-understand manner the origins of capitalism and its structure. There are various concepts regarding economics. Students consider what capitalism is from the perspective of Marxian economics in this lecture. During the spring semester what a commodity and currency are is explained, and then the basic terminology necessary for understanding why labor is a commodity, what is capital, what creates surplus value, and the society called capitalism are discussed in order. Learning this allows students to consider the problems faced by modern society, such as the effect on labor of long working hours, unstable employment, the setting of pay, and technological innovation. Reality is complex. It is important to acquire the tools (theory) to analyze that reality and then use those tools to consider the reality. This lecture gives students a way to do that.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：商品論 1
- 3回：商品論 2
- 4回：商品論 3
- 5回：貨幣論 1
- 6回：貨幣論 2
- 7回：貨幣論 3
- 8回：剰余価値論 1
- 9回：剰余価値論 2
- 10回：剰余価値論 3
- 11回：賃金論
- 12回：資本蓄積論 1
- 13回：資本蓄積論 2
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に指示される参考書等で不明の用語を調べ確認してください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 課題、小テスト、リアクションペーパー:20%

### テキスト / Textbooks

- 佐々木隆治 『カール・マルクス』 ちくま新書 2016 ○
- 大谷禎之介 『図解 社会経済学』 桜井書店 2001 ○

### 参考文献 / Readings

- 斎藤幸平 『ゼロからの『資本論』』 NHK出版 2023 9784140886908
- 佐々木隆治 『世界の思想シリーズ マルクス 資本論』 角川選書 2018 9784047036284

## 社会経済学 2

Political Economy 2

資本主義の基礎理論

川崎 志帆 (KAWASAKI SHIHO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX461
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX2110
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済学科 NEXUS 生 2 年次以上

### 授業の目標 / Course Objectives

学生が資本主義を分析するための理論的な基礎を学習することで学位授与方針の学修成果に掲げる「経済現象を歴史的・理論的に考察する」能力を身につけることができる。

Students will learn the theoretical fundamentals for analyzing capitalism to acquire the ability to historically and theoretically examine the economic phenomena necessary to achieve the learning required for the degree.

### 授業の内容 / Course Contents

この講義は、資本主義の成り立ちやその構造をわかりやすく説明します。経済学にはいろいろな考え方があります。この講義は、マルクス経済学の立場から資本主義とは何かについて接近します。秋学期では、資本主義を社会全体の視点から分析し、資本の再生産とは何か、利潤率の動向、銀行・信用制度の形成、そして中央銀行の金融政策などより現実に近い資本主義の仕組みや再生産と信用制度との関係を講義します。資本主義は巨大な生産力の発展をもたらしましたが、他方では周期的に恐慌をひきおこしてきました。こうした資本主義の様相を現代の経済問題と絡めながら考察していきます。現実には複雑です。その現実を分析する道具（理論）を身につけ、その道具を使って現実を考えることが重要なのです。この講義はそのための考える手立てを与えます。

す。

This lecture explains in an easy-to-understand manner the origins of capitalism and its structure. There are various concepts regarding economics. In this lecture students consider what capitalism is from the perspective of Marxian economics. During the fall semester, in this lecture capitalism is analyzed from an overall social perspective so that the subject of what is capitalistic reproduction, the profit rate trends, formation of the banking and credit system, and the central bank financial policies, etc., can be discussed looking at the relationships among a near realistic capitalism framework, reproduction, and the credit system. Capitalism has brought the development of a huge production capacity, but it has also caused periodic economic panics. These aspects of capitalism are considered in conjunction with modern economic problems. Reality is complex. It is important to acquire the tools (theory) to analyze that reality and then use those tools to consider the reality. This lecture gives students a way to do that.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：資本循環
- 3 回：資本回転
- 4 回：社会的総資本の再生産 1
- 5 回：社会的総資本の再生産 2
- 6 回：社会的総資本の再生産 3
- 7 回：利潤 1
- 8 回：利潤 2
- 9 回：商業資本
- 10 回：利子生み資本 1
- 11 回：利子生み資本 2
- 12 回：地代 1
- 13 回：地代 2
- 14 回：収入源泉と階級

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に指示される参考書等で不明の用語を調べ確認してください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 複数回の確認テストなど:20%

### テキスト / Textbooks

- 佐々木隆治 『世界の思想シリーズ マルクス 資本論第3巻』 角川選書 2024年 ○
- 大谷禎之介 『社会経済学』 桜井書店 2001年 ○

### 参考文献 / Readings

# 初級ミクロ経済学 1

## Introductory Microeconomics 1

ミクロ経済学の基本的な考え方とその基礎を学ぶ

高橋 衛 (TAKAHASHI MAMORU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX462
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX2110
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済学科 NEXUS 生 2 年次以上

### 授業の目標 / Course Objectives

ミクロ経済学の基本的な考え方を理解すること、そのミクロ経済学の基本的な考え方を使って、経済の具体的な問題にアプローチし、分析できるようになること

The objective of this course is to understand the basic concepts of microeconomics and use those basic concepts to be able to approach and analyze specific economic problems.

### 授業の内容 / Course Contents

ミクロ経済学の入門的な内容を講義する。ミクロ経済学とは、個々の消費者や生産者がどのような経済的な意思決定を行っているのか、その結果として市場において商品の価格や取引量がどのように決まっているのかなどを分析する学問である。この授業では、市場における需要と供給の作用がどのように商品の価格や取引数量を決定しているのかや、その時に消費者や生産者の厚生がどうなるのか、また政府の様々な規制や税などは経済にどのような影響を与えているのか、などの問題を考える。

The lecture covers the introductory contents for microeconomics. Microeconomics is the field of study that examines how individual consumers and producers make their economic decisions and how the product price and



transaction volumes are decided in the resulting market. In this class students consider such problems as how the supply and demand actions in the market determine the product price and transaction volume, how that affects the formation of consumers and producers, and what impact the various regulations and taxes, etc., of the government have on the economy.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：市場における需要と供給の作用
- 3回：弾力性とその応用
- 4回：需要、供給、および政府の政策
- 5回：消費者、生産者と市場の効率性
- 6回：課税の費用
- 7回：国際貿易 1
- 8回：国際貿易 2
- 9回：外部性
- 10回：公共財と共有資源
- 11回：税制の設計
- 12回：生産の費用
- 13回：競争市場における企業
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

講義はパワーポイントを用いて行う。パワーポイントは授業前あるいは授業後に Canvas LMS にアップする。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :80%  
 平常点割合 :20% リアクションペーパー・小テスト:20%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

グレゴリー・マンキュー 『マンキュー経済学ミクロ編』 東洋経済新報社 2013  
 神取道宏 『ミクロ経済学の力』 日本評論社 2014

# 初級ミクロ経済学 2

## Introductory Microeconomics 2

ミクロ経済学の基本的な考え方とその内容を学ぶ

高橋 衛 (TAKAHASHI MAMORU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX463
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX2110
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済学科 NEXUS 生 2 年次以上

### 授業の目標 / Course Objectives

ミクロ経済学の基本的な考え方を理解すること、そのミクロ経済学の基本的な考え方を使って、経済の具体的な問題にアプローチし、分析できるようになること

The objective of this course is to understand the basic concepts of microeconomics and use those basic concepts to be able to approach and analyze specific economic problems.

### 授業の内容 / Course Contents

ミクロ経済学の入門的な内容を講義する。ミクロ経済学とは、個々の消費者や生産者がどのような経済的な意思決定を行っているのか、その結果として市場において商品の価格や取引量がどのように決まっているのか、などを分析する学問である。この授業では、独占や寡占の際に商品の価格や取引数量がどのように決定されているのかや、生産要素市場で価格や取引数量がどのように決定されるのか、などの問題を考える。その後少し進んだ話題、消費者の最適な意思決定や不確実性と情報の経済学などの問題を考える。

The lecture covers the introductory contents for microeconomics. Microeconomics is the field of study that examines how individual consumers and producers make their economic decisions and how the product price and

transaction volumes are decided in the resulting market. In this class students consider such problems as how monopoly and oligopoly determine the product price and transaction volume and how prices and transaction volumes are determined in

the production factors market. After that, slightly more advanced topics will be considered, such as consumer optimum decision making, uncertainty, and the economics of information.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション

2 回：独占

3 回：独占的競争

4 回：寡占

5 回：生産要素市場

6 回：勤労所得と差別

7 回：所得不平等と貧困

8 回：消費者選択の理論 1

9 回：消費者選択の理論 2

10 回：ゲーム理論入門

11 回：不確実性と情報の経済学 1

12 回：不確実性と情報の経済学 2

13 回：社会的選択の理論入門

14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

講義はパワーポイントを用いて行う。パワーポイントは授業前あるいは授業後に CanvasLMS にアップする。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパー・小テスト[クイズ]:20%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

グレゴリー・マンキュー 『マンキュー経済学ミクロ編』 東洋経済新報社 2013

神取道宏 『ミクロ経済学の力』 日本評論社 2014

# 初級マクロ経済学 1

Introductory Macroeconomics 1

池田 毅 (IKEDA TAKESHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX464
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX2110
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済学科 NEXUS 生 2 年次以上

## 授業の目標 / Course Objectives

現代社会を取り巻くさまざまな経済問題とかがかわらせながら、マクロ経済学の基礎を学ぶ。経済をマクロの視点で見ることの意義を理解し、ケインズ的なマクロ経済学の理論に基づいて、所得や雇用がどのように決まるのかを理解できるようになることを目標とする。

This course aims to understand the significance of looking at the modern economy from a macroeconomic perspective and how income and employment are determined based on Keynesian macroeconomic theory.

## 授業の内容 / Course Contents

初級マクロ経済学 1 では、ケインズ的なマクロ経済学理論の基礎を学ぶ。マクロ経済指標の意味と内容を理解するとともに、GDP などがどのように決まるのか、失業はなぜ生じるのか、金融・財政政策の理論的基礎はどのようなものなのかなどといった問題を体系的に扱う。

Introductory Macroeconomics 1 provides a basic introduction to Keynesian macroeconomic theory. In addition to understanding the meaning and content of macroeconomic indicators, the course systematically addresses issues such as how GDP and other factors are determined, why unemployment occurs, and the theoretical basis for monetary and fiscal policy.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：ガイダンスとイントロダクション
- 2回：経済学の歴史とマクロ経済学
- 3回：GDP を理解する 1
- 4回：GDP を理解する 2
- 5回：消費や投資などの決まり方 1
- 6回：消費や投資などの決まり方 2
- 7回：消費や投資などの決まり方 3
- 8回：所得水準の決まり方 1
- 9回：所得水準の決まり方 2
- 10回：利子率の決まり方 1
- 11回：利子率の決まり方 2
- 12回：利子率の決まり方 3
- 13回：IS-LM 分析 1
- 14回：IS-LM 分析 2

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

マクロ経済学は理論を扱うため、理論的思考の積み重ねが重要である。毎回の講義の内容を十分な時間をかけて復習し理解していなければ、次回以降の講義が理解できなくなる。予習は、テキストの該当箇所を何度も読んでおくこと。授業内で示す参考文献・資料等も積極的に活用すること。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 授業内のリアクション課題:20%

**テキスト / Textbooks**

中谷巖 『マクロ経済学入門 第2版（日経文庫）』 日本経済新聞社 2007 9784532110307 ○

**参考文献 / Readings****学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

授業内のリアクション課題は LMS を通じて出題の予定なので、LMS にアクセスできる情報機器（PC やスマートフォン等）の持参が望ましい。

# 初級マクロ経済学 2

Introductory Macroeconomics 2

池田 毅 (IKEDA TAKESHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX465
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX2110
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経済学科 NEXUS 生 2 年次以上

## 授業の目標 / Course Objectives

現代社会を取り巻くさまざまな経済問題とのかかわらせながら、現代マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学 1 を基礎に、現代的なマクロ経済学の展開と論争を追い、現代のさまざまな課題にたいしてマクロ経済学がどのように応えていこうとしているのかを理解することが目標である。

Based on Introductory Macroeconomics 1, this course aims to understand the developments in macroeconomics and how macroeconomics tries to respond to various modern macroeconomic problems.

## 授業の内容 / Course Contents

マクロ経済学 1 の理解の上に乗って、マクロ経済学 2 では、為替、貿易、資金の国際移動などといったオープンマクロ経済学、インフレ・デフレと失業、景気変動など現代的課題への対処、マクロ経済学の最近の展開等を扱う。また、いわゆるソローの成長モデルと技術進歩についても解説する。

Building on the understanding of the course Introductory Macroeconomics 1, Introductory Macroeconomics 2 will cover open macroeconomics, such as currency exchange rates, trade, and the international flow of funds. Students also learn about modern macroeconomic problems such as inflation/deflation, unemployment, and economic fluctuations. In addition, this course explains Solow's growth model and technological progress

analysis.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：ガイダンスとイントロダクション
- 2回：IS-LM 分析 1
- 3回：IS-LM 分析 2
- 4回：オープンエコノミーのマクロ経済学 1
- 5回：オープンエコノミーのマクロ経済学 2
- 6回：所得と物価水準の決まり方 1
- 7回：所得と物価水準の決まり方 2
- 8回：インフレとデフレ 1
- 9回：インフレとデフレ 2
- 10回：より進んだ消費と投資の理論 1
- 11回：より進んだ消費と投資の理論 2
- 12回：景気変動と経済成長
- 13回：ソローの成長モデルと技術進歩 1
- 14回：ソローの成長モデルと技術進歩 2

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

マクロ経済学は理論を扱うため、理論的思考の積み重ねが重要である。毎回の講義の内容を十分な時間をかけて復習し理解していなければ、次回以降の講義が理解できなくなる。予習は、テキストの該当箇所を何度も読んでおくこと。また授業内で示される参考文献や資料も積極的に活用すること。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 授業内のリアクション課題:20%

**テキスト / Textbooks**

中谷巖 『マクロ経済学入門 第2版（日経文庫）』 日本経済新聞社 2007 9784532110307 ○

**参考文献 / Readings****履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

初級マクロ経済学 1 の基本的内容を理解していることが望ましい。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

授業内のリアクション課題は LMS を通じて出題の予定なので、LMS にアクセスできる情報機器（PC やスマートフォン）の持参が望ましい。

## ゼミナール（単年度）

One-year Term Seminars

税理士と考える租税法実務

鈴木 佑介（SUZUKI YUSUKE）

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX481  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX3020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

- ・ゼミ参加者に健全な納税意識を育成する。
  - ・暮らしの中の税を理解し税の社会的役割を考える
  - ・企業経営を取り巻く税問題を理解する。その一環として財務諸表を読み解く力を養成する。
  - ・税を理解することは当然のこととし、社会で通用する実践的なコミュニケーション能力を磨く。
- ・ Train seminar participants to have a healthy awareness of tax payment.
  - ・ Understand taxes in daily life and think about the social role of taxes
  - ・ Understand tax issues surrounding corporate management. As part of this, we develop the ability to read and understand financial statements.
  - ・ Understanding taxes is a matter of course, and brush up practical communication skills that are accepted in society.

### 授業の内容 / Course Contents

本ゼミの第一の目的は、会社や個人に関わる税金の構造を理解することで、社会に出た後の実務効率を向上さ



せること、税金アレルギーをなくすことにあります。

税と聞いただけでアレルギー反応がでてしまう人は世の中では少なくありません。NISA や IDECO など学生でも知っていれば得する知識でも、「税金」が関わるだけで敬遠してしまっているのではないかと、税理士という業界に身を置き世の中を見渡すと良くわかります。ただビジネスの世界では、経営者や、経理担当者、また商品開発担当から営業まで、税金の知識は絶対的に必要です。税金は企業経営にとって大きなコストとなる為、ビジネス上必要不可欠な知識です。また企業に対する税（法人税）を理解するには、財務諸表の理解が必須であるため、併せてその学習も進めます。

その一方で、今後社会に出ていくゼミ生に向け、自分で考え自発的に行動する能力、自分の意見を他人に伝える能力の重要性も、本ゼミの中で伝えたいと思っています。より実践的なコミュニケーションスキルとして①行動力②回答力③説得力④質問力を向上させる場を作っていきます。

The primary purpose of this seminar is to understand the structure of taxes related to companies and individuals, to improve work efficiency after entering society, and to eliminate tax allergies.

There are many people in the world who have allergic reactions just by hearing the word tax. If you are a tax accountant and look around the world, you will understand that even students, such as NISA and IDECO, are shunned just because they are related to tax. However, in the business world, tax knowledge is absolutely necessary for managers, accountants, product development staff, and sales staff. Taxes are a huge cost for business management, so business knowledge is essential. In addition, in order to understand the tax on companies (corporate tax), it is essential to understand financial statements, so we will also study that.

In this seminar, I would like to convey the importance of the ability to think and act voluntarily, and the ability to convey one's opinions to others, for seminar students who will go out into society in the future. We will create a place to improve 1) ability to act, 2) ability to answer, 3) ability to persuade, and 4) ability to ask questions as more practical communication skills.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：自己紹介／オリエンテーション
- 2 回：租税全般基本文献の輪読（プレゼン・解説・質疑）
- 3 回：租税全般基本文献の輪読（プレゼン・解説・質疑）
- 4 回：租税全般基本文献の輪読（プレゼン・解説・質疑）
- 5 回：租税全般基本文献の輪読（プレゼン・解説・質疑）
- 6 回：租税全般基本文献の輪読（プレゼン・解説・質疑）
- 7 回：租税全般基本文献の輪読（プレゼン・解説・質疑）
- 8 回：税理士の紹介①
- 9 回：所得税法基本文献の輪読（プレゼン・解説・質疑）
- 10 回：所得税法基本文献の輪読（プレゼン・解説・質疑）
- 11 回：所得税法基本文献の輪読（プレゼン・解説・質疑）
- 12 回：所得税法基本文献の輪読（プレゼン・解説・質疑）
- 13 回：所得税法基本文献の輪読（プレゼン・解説・質疑）
- 14 回：所得税法基本文献の輪読（プレゼン・解説・質疑）
- 15 回：会計と税
- 16 回：財務諸表分析（プレゼン・解説・質疑）

- 17回：財務諸表分析（プレゼン・解説・質疑）  
 18回：財務諸表分析（プレゼン・解説・質疑）  
 19回：法人税法基本文献の輪読（プレゼン・解説・質疑）  
 20回：法人税法基本文献の輪読（プレゼン・解説・質疑）  
 21回：法人税法基本文献の輪読（プレゼン・解説・質疑）  
 22回：法人税法基本文献の輪読（プレゼン・解説・質疑）  
 23回：法人税法基本文献の輪読（プレゼン・解説・質疑）  
 24回：法人税法基本文献の輪読（プレゼン・解説・質疑）  
 25回：税理士の紹介②  
 26回：消費税法基本文献の輪読（プレゼン・解説・質疑）  
 27回：消費税法基本文献の輪読（プレゼン・解説・質疑）  
 28回：消費税法基本文献の輪読（プレゼン・解説・質疑）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、復習と予習をしておくこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点割合：100% 授業参加度およびプレゼンテーション:70% 最終レポート割合：:30%

### テキスト / Textbooks

検討中

### 参考文献 / Readings

検討中

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール（単年度）

One-year Term Seminars

デンマークから学ぶ人づくり・まちづくり

加藤 壮一郎 (KATO SOICHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX482

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 4

科目ナンバリング： ECX3020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連：

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

デンマークは安定的な経済成長を維持し、充実した社会福祉制度、幸福度の高い国としても世界的に注目されています。本ゼミナールでは、人づくり、まちづくりといった観点からデンマーク社会を理解し、日本社会との比較から、複雑なグローバル社会における経済・社会の動態を分析・考察できる見識を獲得することを目標とします。アクティブラーニングを重視し、参加者の理解と主体性を高めます。

Denmark has maintained economic growth and is also attracting worldwide attention as a country with generous social welfare system and a high level of happiness. The goal of this seminar is to understand Danish society from the perspective of human capital development and community development, and to gain insight to analyze and discuss economic and social dynamics in a complex global society through comparison with Japanese society. This seminar emphasizes active learning to enhance participants' understanding and initiative.

### 授業の内容 / Course Contents

デンマークでは、社会的平等の高さ、政府・社会への信頼の高さ、ワークライフ・バランスの維持など生活の質にかかわる社会経済的指標の多くが、国際比較において高い水準を示しています。こうした社会の実現にはどのような要素が必要でしょうか？

当ゼミナールでは、第一に、デンマークの歴史や文化、現代の経済・社会の状況から、デンマーク社会を知ることが起点とします。第二に、デンマークでの仕事の実態やライフコースにかかわる社会保障について理解することで、市民の生活を支える社会システムを理解します。第三に、デンマークの地域社会の実態から市民の生活を支える社会基盤を理解します。最後に、こうしたデンマーク社会の現況と日本の現況とを比較分析することで、日本社会に生きる我々が、デンマーク社会から何を学べるかについて一緒に考えます。

In Denmark, many socioeconomic indicators of quality of life, such as high social equality, high level of trust in government and society, and maintenance of work-life balance, are high in international comparisons. What elements are necessary to realize such a society?

This seminar will start with an understanding of Danish society in terms of its history, culture, and contemporary economic and social conditions. Second, we will understand the social system that supports the lives of citizens by understanding the reality of work in Denmark and social security as it relates to the life course. Third, we will understand the social infrastructure that supports the lives of citizens through the reality of local communities in Denmark. Finally, by comparing and analyzing the current situation of Danish society with that of Japan, we will think together about what we in Japanese society can learn from Danish society.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス：参加者の興味関心についての確認
- 2 回：序論：いまなぜデンマークが世界を魅了しているか ～ 国際比較から考察する
- 3 回：リテラシー：レポートの執筆要領、報告に際してのプレゼンテーション方法等
- 4 回：デンマークの概要①：国土・社会・文化
- 5 回：デンマークの概要②：デンマークの近現代史の概要
- 6 回：デンマークの人づくり①：労働～柔軟な雇用システムと手厚い失業保障
- 7 回：デンマークの人づくり②：教育～充実した生涯教育制度
- 8 回：デンマークの人づくり③：社会福祉～充実した保育、高齢者・障害者福祉等
- 9 回：デンマークの人づくり④：ジェンダー～ジェンダーフリーにむけた取り組み
- 10 回：デンマークの人づくり⑤：移民・難民～労働移民から現代の難民対応まで
- 11 回：レポート報告とディスカッション①：デンマークと日本の制度・取組との比較（個々の研究発表）
- 12 回：レポート報告とディスカッション②：デンマークと日本の制度・取組との比較（個々の研究発表）
- 13 回：レポート報告とディスカッション③：デンマークと日本の制度・取組との比較（個々の研究発表）
- 14 回：レポート報告とディスカッション④：デンマークと日本の制度・取組との比較（個々の研究発表）
- 15 回：中間総括：レポート報告のまとめ～デンマーク、日本の人づくり
- 16 回：まちづくり体験①：SDGs カードゲームを通してのまちづくりシミュレーション
- 17 回：まちづくり体験②：SDGs の概説とカードゲーム体験のふりかえり
- 18 回：デンマークのまちづくり①：地方自治～民主主義の基礎
- 19 回：デンマークのまちづくり②：住宅・都市計画～住みやすい都市をめざして
- 20 回：デンマークのまちづくり③：環境・エネルギー～持続可能な都市をめざして
- 21 回：総論①：福祉国家論から考察するデンマーク、日本（労働・社会保障のかたち）
- 22 回：総論②：福祉国家論から考察するデンマーク、日本（未来への展望）
- 23 回：これまでの学習を通してのグループディスカッション
- 24 回：最終レポート報告とディスカッション①：デンマークと日本の制度・取組との比較（個々の研究発表）
- 25 回：最終レポート報告とディスカッション②：デンマークと日本の制度・取組との比較（個々の研究発表）
- 26 回：最終レポート報告とディスカッション③：デンマークと日本の制度・取組との比較（個々の研究発表）

27回：最終レポート報告とディスカッション④：デンマークと日本の制度・取組との比較（個々の研究発表）

28回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定されたテキストを事前に購読をする。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点割合 :100% 中間報告:20% 中間レポート:20% 最終報告:20% ディスカッションへの参加:10%  
最終レポート割合 :30%

### テキスト / Textbooks

佐野利夫 女神フライアが愛した国:偉大な小国デンマークが示す未来 東海大学出版部 2017  
9784486021629 ○

### 参考文献 / Readings

齋藤弥生 石黒暢編著 新世界の社会福祉3巻 北欧 旬報社 2019 9784845115976  
中島 健祐 デンマークのスマートシティ:データを活用した人間中心の都市づくり 学芸出版社 2019  
9784761527280  
坂口緑他 デンマーク式生涯学習社会の仕組み ミツイパブリッシング 2022 9784907364274

### その他 / Others

PowerPoint や映像資料なども活用した講義のほかに、アクティブラーニングとして、レポート報告とディスカッションの時間を設けます。人づくり、まちづくりからそれぞれ関心のあるテーマについてレポート（中間・最終）を作成し、報告（プレゼンテーション）を実施します。報告内容については、グループに分かれてディスカッションを実施して参加者全員で共有します。なお、中間総括、総括では、これらのレポート報告とディスカッションのフィードバックを実施します。

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール（単年度）

One-year Term Seminars

グローバル経済史研究

内川 隆文（UCHIKAWA TAKAFUMI）

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX483
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX3020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

本ゼミナールでは一国に留まらないグローバルな視点から近現代の歴史を分析することで、経済発展に内在するダイナミズムを学習します。また、こうした観点に基づくことで現代社会における多種多様な経済現象の分析・考察に応用する能力を獲得することを目指します。

なお、本ゼミナールの教授言語は日本語とします。

Welcome to this course! We will study the dynamism inherent in economic development by analyzing modern and contemporary world economic history from a global perspective that is not limited to a single country. Based on this perspective, students will acquire knowledge to apply to the analysis and the discussion of wide economic phenomena in modern society.

Additionally, the medium of instruction in this course is Japanese.

### 授業の内容 / Course Contents

グローバル化とはヒト・モノ・カネ・情報が行き交う様々なネットワークが国境を越えて形成される現象です。グローバル化は 15 世紀から 16 世紀にかけての大航海時代、ヨーロッパとアジア、アフリカ、アメリカ大陸が帆船などの海上ネットワークにより繋がることで幕を開けました。19 世紀になると帆船から汽船へと船舶

技術が発達し、それに加えて鉄道や電信という新たなネットワークがグローバル化の促進に大きな役割を果たしました。

本授業ではグローバル化をモノの移動、すなわち物流という観点から考察します。冷戦終結後の国際的な取引の活発化は、物流システムの重要性を必然的に高めました。本授業では、コンテナをはじめとした物流を支えるさまざまな技術やサービスがグローバル化の過程でいかに発展し、私たちの生活にどのような影響を及ぼしたかを考察します。

Globalization is a phenomenon in which various networks of people, goods, money, and information are formed across national borders. Globalization began during the Age of Discovery from the 15th to 16th centuries, when Europe, Asia, Africa, and the Americas were connected by a maritime network of sailing ships. In addition, new networks such as railroads and telegraphs played a major role in promoting globalization.

In this class, we will examine globalization from the perspective of the movement of goods, or logistics. The increase in international trade since the end of the Cold War has inevitably increased the importance of the logistics system. In this class, we will examine how various technologies and services that support logistics, including containers, have developed in the process of globalization and how they have affected our lives.

#### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：レジュメ・プレゼンテーションのガイダンス1
- 3回：輪読・ディスカッション1
- 4回：輪読・ディスカッション2
- 5回：輪読・ディスカッション3
- 6回：輪読・ディスカッション4
- 7回：輪読・ディスカッション5
- 8回：輪読・ディスカッション6
- 9回：輪読・ディスカッション7
- 10回：輪読・ディスカッション8
- 11回：輪読・ディスカッション9
- 12回：輪読・ディスカッション10
- 13回：輪読・ディスカッション11
- 14回：前期のまとめ・後期に向けて
- 15回：オリエンテーション
- 16回：レジュメ・プレゼンテーションのガイダンス2
- 17回：グループ報告1
- 18回：グループ報告2
- 19回：グループ報告3
- 20回：グループ報告4
- 21回：グループ報告5
- 22回：グループ報告6
- 23回：グループ報告7
- 24回：グループ報告8
- 25回：グループ報告9

- 26回：グループ報告 10  
 27回：グループ報告 11  
 28回：本ゼミの総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

この授業では学生に対し、授業に主体的に参加することを強く求めます。授業に臨む学生には事前にテキストや資料を熟読するのはもちろんのこと、ディスカッションを盛り上げる質問やコメントを考えて頂きます。また、本ゼミでは経済史に関する知識を学ぶだけでなく、レポートやレジюме、スライドの作成法についても適宜指導します。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点割合 :100% 中間レポート:20% プレゼンテーション:20% 授業参加度:30% 最終レポート割合 : :30%

### テキスト / Textbooks

最初の授業において履修者の問題意識や関心を検討したうえで、決定する。

### 参考文献 / Readings

- 金井 雄一, 中西 聡, 福澤直樹編 『世界経済の歴史』第2版 名古屋大学出版会 2020年 9784815809973  
 杉山 伸也 『グローバル経済史入門』 岩波書店 2014年 9784004315124  
 玉木 俊明 『手数料と物流の経済全史』 東洋経済新報社 2022年 9784492681503  
 マルク・レヴィンソン, 村井 章子訳 『コンテナ物語』増補補訂版 日経BP 2019年 9784822289935  
 マルク・レヴィンソン, 田辺希久子訳 『物流の世界史』 ダイヤモンド社 2022年 9784478107089

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。



## ゼミナール（単年度）

One-year Term Seminars

ジャーナリストの仕事と役割

飯田 裕美子 (IIDA YUMIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX484

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 4

科目ナンバリング： ECX3020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連：

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

ジャーナリストとの対話やジャーナリズムを扱った映画を通し、報道の役割と歴史的な変遷、現在の課題を理解し、単に批判するだけでなく、どんな報道が必要かを自分で考えられる力をつける。

Through dialog with journalists and movies that deal with journalism, I help students to understand the role and historical change of the press, the current challenges, and to develop the ability to think independently about journalism, rather than just criticizing.

### 授業の内容 / Course Contents

「報道」とか「マスメディア」と聞くと、他人の不幸を書き立てる迷惑な存在、とか、権力側に都合の良いことしか書かない存在、とっていないのでしょうか？ジャーナリズムは本来、人びとの「知る権利」のために奉仕するという、民主主義に欠かせない役割をもっています。新旧の映画を通して、社会をささえる報道のしくみを学ぶとともに、現役記者らと「今起きていること」についての対話も交えて、現在の課題やよりよいあり方を議論します。

When you hear the terms "press" or "mass media," do you think of them as troublesome entities that exploit other people's misfortunes or only write things that are convenient for those in power? Journalism originally has the

essential role in democracy of serving people's "right to know". Through new and old movies, students study how the journalism support democratic societies, and also through communication with reporters and editors, they discuss current issues and what should be.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：ガイダンスと自己紹介（40年間の働き方や女性参画状況の変化も含めて）
- 2回：映画1「ローマの休日」をジョー・ブラッドリー記者の立場から見る
- 3回：レクチャー：1本の記事ができるまで（模擬取材）
- 4回：映画2「シー・セッド」もしも自分が記者だったら
- 5回：レクチャー：記者の1日（現役記者との対話）
- 6回：映画3「スポットライト」のリアリティ
- 7回：レクチャー：新聞社の仕組みと経営
- 8回：映画4「NHKドラマ版 クライマーズ・ハイ」（1）と事件取材
- 9回：同（2）
- 10回：レクチャー：放送局というビジネス
- 11回：映画5「シンゴジラ」で報道はどう描かれているか
- 12回：レクチャー：SNSとネットメディア
- 13回：映画6「タクシー運転手 約束は海を越えて」権力が報道を縛る時
- 14回：レクチャー：外国特派員の仕事
- 15回：学外活動（見学）
- 16回：映画7「神戸新聞の7日間」災害を伝える、災害に備える
- 17回：レクチャー：東日本大震災と報道
- 18回：映画8（以下、映画は参加者の関心領域を踏まえ決めていきます）
- 19回：レクチャー：「具体的に書く」とは（文章実習）
- 20回：映画9（同）
- 21回：レクチャー：経済記者と企業広報
- 22回：映画10（同）
- 23回：レクチャー：プラットフォームとニュースメディア
- 24回：映画11（同）
- 25回：レクチャー：スポーツ報道
- 26回：映画12（同）
- 27回：レクチャー：ジェンダーはどう書かれてきたか
- 28回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

映画は、授業内で特に必要なところを視聴しますが、さらに関心があれば自宅等で全体を視聴してください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点割合 :100% 各回ごとに提出するリアクションペーパー:100%

最終レポートの提出はありません。

**テキスト / Textbooks**

別府三奈子他 映画で学ぶジャーナリズム 勁草書房 2023 9784326603633 ○

**参考文献 / Readings**

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール（単年度）

One-year Term Seminars

マクロ経済学と経済政策への応用を基礎から学ぶ

塚田 裕昭 (TSUKADA HIROAKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX485  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX3020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

GDP、物価上昇率、失業率といったマクロ経済変数がどのようなメカニズムで変動し、それらのコントロールを目指す経済政策がどのような効果を期待して実施されるかについて理解することを目標とします。経済現象をファクト（経済指標、経済ニュース）とロジック（マクロ経済学）の両面からとらえ、目前でおきていることを把握するために必要な知識の習得を目指します。その上で、現状や見通しについて自ら語り、議論できるようになりましょう。

The goal of this course is to understand the mechanisms by which macroeconomic variables such as GDP, inflation, and unemployment rates fluctuate, and the effects of economic policies aimed at controlling these variables. The course aims to provide students with the knowledge necessary to understand economic phenomena from both a factual (economic indicators and economic news) and logical (macroeconomics) perspective, and to grasp what is happening in front of their eyes. Then, be able to talk about and discuss the current situation and outlook on your own.

### 授業の内容 / Course Contents

内閣府、財務省、経済産業省、日本銀行といった官庁ホームページに掲載されているデータや資料を入手加工

し、経済の動きに対する自分なりの解釈、主張をまとめます。その上で、他の参加者と各々の見方の是非について議論しましょう。

ひとりよがりの解釈、主張とならないように、教科書を通してマクロ経済学の基本的な考え方も学びます。マクロ経済学には多様な考え方があり、同じデータを見ていても複数の見方があることを学びます。自身の考えと異なる主張がなされた場合も、その考えの背景にはどのようなロジックがあり、なぜ考え方の相違が生じるのかが理解できるようにします。複数の考え方が共存する中で、どのような判断でひとつの意見が選ばれ、政策決定がなされるのかについても考えてみましょう。

Participants will obtain and process data and materials posted on the websites of government agencies such as the Cabinet Office, Ministry of Finance, Ministry of Economy, Trade and Industry, and Bank of Japan, and summarize their own interpretations and arguments regarding economic trends. Then, discuss the pros and cons of each viewpoint with other participants.

In order to avoid self-serving interpretations and arguments, you will also learn the basic concepts of macroeconomics through the textbook. You will learn that there are various ways of thinking about macroeconomics and that there are multiple ways of looking at the same data. When an argument differs from one's own viewpoint, students will be able to understand the logic behind that viewpoint and why there is a difference in viewpoints. We will also consider how one opinion is chosen and policy decisions are made when multiple ideas coexist.

#### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション 講義の目標、全体像についてお話しします。
- 2 回：経済統計の見方 1 (家計の動向を把握する：消費、雇用、賃金、消費者マインド調査など)
- 3 回：経済統計の見方 2 (企業の動向を把握する：生産、輸出入、設備投資、景況感、倒産など)
- 4 回：経済統計の見方 3 (経済の全体像を把握する：景気動向指数、景気基準日付、GDP 統計など)
- 5 回：経済統計の見方 4 (価格の変動を把握する：物価、地価、為替、金利、株価など)
- 6 回：経済統計の見方 5 (地域経済の見方)
- 7 回：経済統計の見方 6 (世界経済の見方)
- 8 回：景気動向のつかみ方 (政府月例経済報告、日銀展望レポートを読む)
- 9 回：経済予測の作り方 (シンクタンクの経済見通しを読む)
- 10 回：入門マクロ経済学 1 マクロ経済学とは
- 11 回：入門マクロ経済学 2 GDP を理解する
- 12 回：入門マクロ経済学 3 マクロ経済学における「短期」と「長期」
- 13 回：入門マクロ経済学 4 GDP はどのように決まるか
- 14 回：入門マクロ経済学 5 貨幣の需給と利子率
- 15 回：入門マクロ経済学 6 IS-LM 分析と財政金融政策
- 16 回：入門マクロ経済学 7 国際マクロ経済学
- 17 回：入門マクロ経済学 8 短期モデルと長期モデルの比較
- 18 回：入門マクロ経済学 9 物価水準はどのように決まるか
- 19 回：入門マクロ経済学 10 インフレとデフレ
- 20 回：入門マクロ経済学 11 経済成長の理論
- 21 回：入門マクロ経済学 12 消費と貯蓄
- 22 回：入門マクロ経済学 13 投資決定の理論

- 23 回：入門マクロ経済学 14 ケインジアン・マネタリスト以降のマクロ経済学  
 24 回：入門マクロ経済学 15 マクロ経済政策の有効性について  
 25 回：入門マクロ経済学 16 「現代貨幣理論」(MMT) とパンデミック  
 26 回：改めて経済政策について議論する (財政政策)  
 27 回：改めて経済政策について議論する (金融政策)  
 28 回：守備範囲を広げる経済学 (教育の経済学、データサイエンスなど)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関しては、必要に応じて別途指示します。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点割合 :100% ゼミでの発表:30% 議論への参加:30% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

中谷巖、下井直毅、塚田裕昭 『入門マクロ経済学 第6版』 日本評論社 2021 9784535557956 ○

### 参考文献 / Readings

- 中谷巖 『マクロ経済学入門 第2版』 日本経済新聞出版社 2007 9784532110307  
 前田裕之 『経済学の壁 教科書の「前提」を問う』 白水社 2022 9784560094471  
 新家義貴 『予測の達人が教える 経済指標の読み方』 日本経済新聞出版社 2017 9784532357030  
 伊藤元重 『はじめての経済学 上』 日本経済新聞出版社 2004 9784532110147  
 伊藤元重 『はじめての経済学 下』 日本経済新聞出版社 2004 9784532110154

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール（単年度）

One-year Term Seminars

国際分業と事業構造の変化

中川 充 (NAKAGAWA MITSURU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX486  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX3020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本演習の目標は、経済学や経営学の理論フレームを用いて、国際分業やそれに伴う事業構造の変化などといった企業の戦略的行動に関する現象について、比較優位や直接投資などといった理論的なフレームを用いて、自分のことばで解説が出来るようになることです。

The goal of this seminar is for students to understand phenomena related to corporate strategic behavior such as the international division of labor and the restructuring in business using theoretical frames of economics and business administration, for example comparative advantage and foreign direct investment, and to be able to explain them in their own words.

### 授業の内容 / Course Contents

本演習では、輪読やケーススタディ、グループワークなどを通じて、受講生が自ら調べ、考え、そしてそれを伝えるための力を養います。使用する文献や対象とする企業は、受講生と相談のうえ決定する予定です。経済学や経営学など、必要となる基礎的な知識は演習のなかで補う機会を設けますが、グループでの活動が中心となるため、他のメンバーと協調する姿勢は必須のものと考えます。

The students will develop the ability to research, analysis, and presentation through readings, case studies and

the other group work. The literature to be used and the companies to be covered will be determined in consultation with the students. The literature to be used and the companies to be covered will be determined in consultation with the students. While students will have opportunities to supplement their basic knowledge of economics, business administration, etc., in the seminar, we believe that an attitude of cooperation with other members is essential, as group activities are the main focus of the program.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：春学期イントロダクション
- 2回：輪読・ディスカッション（グループ研究に必要な基礎知識を習得）
- 3回：輪読・ディスカッション（同上）
- 4回：輪読・ディスカッション（同上）
- 5回：輪読・ディスカッション（同上）
- 6回：輪読・ディスカッション（同上）
- 7回：輪読・ディスカッション（同上）
- 8回：ケーススタディ（グループ研究に必要なフレーム思考・分析手法を習得）
- 9回：ケーススタディ（同上）
- 10回：ケーススタディ（同上）
- 11回：ケーススタディ（同上）
- 12回：ケーススタディ（同上）
- 13回：ケーススタディ（同上）
- 14回：春学期の振り返りとまとめ
- 15回：秋学期イントロダクション
- 16回：グループ研究のデザイン（グループ研究を進める準備）
- 17回：グループ研究（グループ研究の実践）
- 18回：グループ研究（同上）
- 19回：グループ研究（同上）
- 20回：グループ研究（同上）
- 21回：グループ研究の中間発表（中間発表とフィードバック）
- 22回：グループ研究（グループ研究の実践）
- 23回：グループ研究（同上）
- 24回：グループ研究（同上）
- 25回：グループ研究（同上）
- 26回：グループ研究の成果発表（最終的な成果の発表）
- 27回：グループ研究の成果発表（同上）
- 28回：秋学期の振り返りとまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class



輪読やケーススタディでは、指定の書籍や資料をしっかりと熟読して演習に臨む必要があります。また、グループ研究では、必要に応じて文献や資料の探索、データの収集・整理、発表資料の作成など、時間外の作業が伴うことがある点をよく理解して参加してください。

#### **成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点割合 :100% 議論と報告:50% 授業への貢献:50%

#### **テキスト / Textbooks**

輪読などに用いる書籍は、受講生と相談のうえ決定します。

詳しくは、初回の授業時に説明する予定です。

#### **参考文献 / Readings**

中川充 『資源蓄積のジレンマ』 中央経済社 2021 4502407917

#### **注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール（単年度）

One-year Term Seminars

株式会社の構造と機能

高橋 衛（TAKAHASHI MAMORU）

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX487  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX3020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本演習の目標は、経済学（ミクロ経済学の初歩）、経営学の基本理論で最近の企業経営の動きの検証・評価ができるようになることです。同時に、最近の企業経営の動きとしてのグローバル化、M&A の理解を深めること、株式会社の構造と機能の理解を深めることです。

The goal of this exercise is to enable students to verify and evaluate recent trends in corporate management using the basic theories of economics (basic microeconomics) and business administration. At the same time, we would like to deepen our understanding of globalization and M&A as recent trends in corporate management, and to deepen our understanding of the structure and functions of modern corporations.

### 授業の内容 / Course Contents

本演習では、輪読、ケーススタディおよびグループ研究を通じて、受講生が自ら調べ、考え、そしてそれを伝えるための力を養います。最近の企業経営の動きとしてのグローバル化・M&A の基礎的な研究、株式会社の構造と機能の基礎的な研究をすすめます。前提となる基本的な知識は、経済学、経営学、会計学、統計学などの専門領域の初歩的な知識です。要求される姿勢は、グループ活動をすすめていくための、他のメンバーと協調していく姿勢です。輪読などに用いる書籍は、受講生の希望を聴きながら確定します。時間の余裕があれば、

次の文献のいくつかの箇所（ミクロ経済学に関連する箇所。コストリーダーシップ戦略、製品差別化戦略、多国籍企業、戦略的提携、合併・買収の箇所）の検討をも含めていきたい。

Barney, Jay B. and Hesterly, William S. 著、岡田正大訳（2021）『[新版]企業戦略論（上・中・下）』ダイヤモンド社。

In this exercise, through reading rounds, case studies, and group research, students develop the ability to investigate, think, and communicate on their own. In this exercise, students will conduct basic research on recent corporate management trends (globalization, M&A), and basic research on the structure and function of modern corporations. The basic prerequisite knowledge is elementary knowledge in specialized fields such as economics, business administration, accounting, and statistics. The required attitude is the attitude of cooperating with other members to promote group activities. The books to be used for reading in circles, etc. will be decided while listening to the wishes of the students. If time permits, we would like to include a review of some of the following references. (sections related to microeconomics; sections on cost leadership strategies, product differentiation strategies, multinational corporations, strategic alliances, and mergers and acquisitions). Barney, Jay B. and Hesterly, William S., Translated by Masahiro Okada (2021) "[New Edition] Strategic Management and Competitive Advantage (1, 2, 3)" Diamond Inc.

#### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：春学期イントロダクション
- 2 回：輪読・ディスカッション（グループ研究に必要な基礎知識を習得）
- 3 回：輪読・ディスカッション（同上）
- 4 回：輪読・ディスカッション（同上）
- 5 回：輪読・ディスカッション（同上）
- 6 回：輪読・ディスカッション（同上）
- 7 回：輪読・ディスカッション（同上）
- 8 回：ケーススタディ（グループ研究に必要なフレーム思考・分析手法を習得）
- 9 回：ケーススタディ（同上）
- 10 回：ケーススタディ（同上）
- 11 回：ケーススタディ（同上）
- 12 回：ケーススタディ（同上）
- 13 回：ケーススタディ（同上）
- 14 回：春学期の振り返りとまとめ
- 15 回：秋学期イントロダクション
- 16 回：グループ研究のデザイン（グループ研究を進める準備）
- 17 回：グループ研究（グループ研究の実践）
- 18 回：グループ研究（同上）
- 19 回：グループ研究（同上）
- 20 回：グループ研究（同上）
- 21 回：グループ研究の中間発表（中間発表とフィードバック）
- 22 回：グループ研究（グループ研究の実践）
- 23 回：グループ研究（同上）

- 24回：グループ研究（同上）  
 25回：グループ研究（同上）  
 26回：グループ研究の成果発表（最終的な成果の発表）  
 27回：グループ研究の成果発表（同上）  
 28回：秋学期の振り返りとまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読の授業やケーススタディの授業では、指定の書籍や資料をしっかりと熟読してから授業に参加してください。グループ研究の授業では、必要に応じて文献や資料の探索、データの収集・整理、発表資料の作成など、時間外の作業が伴うことがある点をよく理解して授業に参加してください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点割合 :100% 議論と報告:50% 授業への貢献:50%

### テキスト / Textbooks

輪読などに用いる書籍は、受講生の希望を聴きながら確定します。詳細は、初回の授業時に説明します。

### 参考文献 / Readings

高橋衛 準地代からみた企業論—多国籍企業論とコングロマリット論の再検討— 多賀出版 2022年  
 9784811580616

### その他 / Others

年1~2回程度の企業見学等の実施を検討しています。詳細は受講生の希望を聴きながら確定します。

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

田中 醇 (TANAKA ATSUSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX501

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。

# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

菊池 美幸 (KIKUCHI MIYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX502

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。



# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

菊地 賢 (KIKUCHI SATORU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX503

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。

# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

朴 峻喜 (PARK JOONHEE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX504

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。

# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

佐々木 優 (SASAKI SUGURU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX505

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。

# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

宮寺 卓 (MIYADERA TAKASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX506

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。



# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

関根 未来 (SEKINE MIKU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX507

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド（パワーポイント等）の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	: ○	グループ発表	: ○	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。

# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

鈴木 和哉 (SUZUKI KAZUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX508

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。

# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

荒 恵子 (ARA KEIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX509

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。

# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

安土 昌一郎 (YASUSHI SHOICHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX510

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。



# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

鈴木 和哉 (SUZUKI KAZUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX511

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。

# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

田中 醇 (TANAKA ATSUSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX512

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。

# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

菊地 賢 (KIKUCHI SATORU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX513

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。

# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

内川 隆文 (UCHIKAWA TAKAFUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX514

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。



# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

宮寺 卓 (MIYADERA TAKASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX515

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。

# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

佐々木 優 (SASAKI SUGURU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX516

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。

# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

和田 華子 (WADA HANAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX517

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。

# 基礎ゼミナール 1

Pro-Seminar1

アカデミックスキルを修得する

荒 恵子 (ARA KEIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX518

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

## 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

## 授業の内容 / Course Contents

文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、自己紹介など

- 2回：教員による輪読書のレジюме・プレゼンテーション見本の提示  
 3回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（1）  
 4回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（2）  
 5回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（3）  
 6回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（4）  
 7回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（5）  
 8回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（6）  
 9回：文献輪読・ディスカッション・ディベート（7）  
 10回："Master of Writing"を学ぶ  
 11回：レポート第1次草稿報告（1）  
 12回：レポート第1次草稿報告（2）  
 13回：レポート第1次草稿報告（3）  
 14回：レポート第1次草稿報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読のレジюме作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート、輪読の準備、発表内容およびディスカッションへの参加度:60% レポート第1次報告:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する（教員より配布予定）。



## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

李 赫然 (LI HERAN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX520

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。

## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

石井 優子 (ISHII YUKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX521
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。

## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

山口 隆太郎 (YAMAGUCHI RYUTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX522

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。

## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

浜名 弘明 (HAMANA HIROAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX523

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。  
準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。



## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

篠根 拓人 (SHINONE TAKUTO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX524
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。

## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

菊池 美幸 (KIKUCHI MIYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX525

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。

## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

島西 智輝 (SHIMANISHI TOMOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX526

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。

## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

本田 恒平 (HONDA KOHEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX527

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。



## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

関根 未来 (SEKINE MIKU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX528

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。

## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

山口 隆太郎 (YAMAGUCHI RYUTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX529

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。

## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

新川 徳彦 (ARAKAWA NORIHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX530

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。

## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

篠根 拓人 (SHINONE TAKUTO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX531

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。



## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

神尾 篤史 (KAMIO ATSUSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX532

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。

## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

石井 優子 (ISHII YUKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX533
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。

## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

浜名 弘明 (HAMANA HIROAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX534

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。

## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

田中 醇 (TANAKA ATSUSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX535

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。



## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

菊池 美幸 (KIKUCHI MIYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX536

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。

## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

菊地 賢 (KIKUCHI SATORU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX537

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。

## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

朴 峻喜 (PARK JOONHEE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX538

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。

## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

佐々木 優 (SASAKI SUGURU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX539
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。



## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

宮寺 卓 (MIYADERA TAKASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX540

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。

## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

関根 未来 (SEKINE MIKU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX541

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。

## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

鈴木 和哉 (SUZUKI KAZUYA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX542  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX1020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。

## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

荒 恵子 (ARA KEIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX543

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。



## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

安土 昌一郎 (YASUSHI SHOICHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX545

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。

## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

鈴木 和哉 (SUZUKI KAZUYA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX546  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX1020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。

## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

田中 醇 (TANAKA ATSUSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX547

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。

## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

菊地 賢 (KIKUCHI SATORU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX548

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。



## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

内川 隆文 (UCHIKAWA TAKAFUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX549

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。

## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

宮寺 卓 (MIYADERA TAKASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX550

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。

## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

佐々木 優 (SASAKI SUGURU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX551

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。

## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

和田 華子 (WADA HANAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX552

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX1020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。



## 基礎ゼミナール2

Pro-Seminar2

アカデミックスキルを修得・発展させる

荒 恵子 (ARA KEIKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX553
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX1020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。

### 授業の目標 / Course Objectives

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

### 授業の内容 / Course Contents

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する（引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む）、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティブ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：レポート第2次草稿報告（1）
- 2回：レポート第2次草稿報告（2）
- 3回：レポート第2次草稿報告（3）
- 4回：レポート第2次草稿報告（4）
- 5回："Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
- 6回：レポート最終版をプレゼンテーション（1）
- 7回：レポート最終版をプレゼンテーション（2）
- 8回：レポート最終版をプレゼンテーション（3）
- 9回：レポート最終版をプレゼンテーション（4）
- 10回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（1）
- 11回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（2）
- 12回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（3）
- 13回：グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ（4）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティブラーニングのための事前準備を行うこと。準備学習の具体的な指示は履修登録完了後に Canvas LMS 上にて履修者に対して行う。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 最終レポートプレゼンテーション:20% レポート以外の課題への取り組み態度とその成果:40%

#### テキスト / Textbooks

初回授業にて教員より指示する。

#### 参考文献 / Readings

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。

## 課題解決演習C

### Seminar on Task Solutions C

業界・企業を把握し、全員がリーダーシップを発揮してチームで協働し、ディスカッション、プレゼンテーション能力などを身につける課題解決型学習（Project-Based Learning）

柏木理佳（KASIWAGI RIKA）

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX555  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項） 対面、グループワークも多い。  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

協力企業から提示された課題に取り組みながら、実社会で起きている問題について、専門科目（経済学等）の学問領域と結びつけて考えられるようになることを目標としています。また、協力企業（業界）分析から現状を理解し、企業が果たすべき社会的役割を理解し、プレゼンテーション能力やリーダーシップの能力を身につけることも目標とします。

The objective of this course is to address the issues presented by cooperating companies. Students become able to link the problems that occur in real society to economics and other academic fields.

A further objective of the course is that students to understand the social roles of companies and industries by analyzed company.

And student to acquire the ability to presentation and leadership.

### 授業の内容 / Course Contents

日本航空株式会社との連携しながら、社会で解決の必要性がある課題について考えます。提示された課題に対

し、チームごとに調査と議論を何度も行い、プレゼンテーションします。発表後はフィードバックをもらい、より良い発表内容に仕上げます。

1 チーム 4～5 人で課題に取り組むため、チームメンバーが授業外でもコミュニケーションを密にしてコミュニケーションをとることが必要です。

For this subject the class will collaborate with Japan Airlines which leads the airline industry, to consider various issues that need to be solved in society.

The students will be divided into teams to study and discuss the presented issue. Students will improve the content of presentations based on each other's feedback. To working on assignments with 4-5 people per team, communication among team members inside and outside of class is necessary.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：授業のガイダンス

授業の概要の説明、心構え、注意点など

2 回：論理的思考①演繹法、帰納法

3 回：論理的思考②弁証法、ロジックツリー、MECE

4 回：航空業界を取り巻く環境

5 回：日本航空の事例研究：経営戦略

6 回：プレゼンテーションスキル

7 回：【協力企業①】

ビジネス理解①課題提示

8 回：【協力企業②】

ビジネス理解②チーム目標の設定とテーマ分析

9 回：【協力企業③】

プロジェクトワーク（チーム活動）：テーマ（ターゲット）の明確化、相互フィードバック

10 回：【協力企業④】

中間発表、フィードバックとチーム振り返り

11 回：【協力企業⑤】

プロジェクトワーク（チーム活動）：提案内容のブラッシュアップ

12 回：【協力企業⑥】

最終発表、講評

13 回：最終発表の振り返り（個人ワークの共有とチーム振り返り）

14 回：授業総括、他己評価、目標と宣言

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

提示課題解決のために必要なワークシート／発表資料作成など

- ①個人／チームとして必要な事前準備（基本情報・分析情報の収集・整理，議論）と事後学習（不足情報収集・整理，議論，資料修正など）、授業外で毎回 1-2 時間程度必要
- ②チームメンバー全員がそれぞれ役割を担うこと。
- ③授業時間内外でのチームメンバー同士のコミュニケーションを積極的に行うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度および授業への参加・貢献度・リアクションコメントの提出:60% チームによる最終発表の内容:20% 最終レポート割合 :20%

※原則，全回出席を義務付けます。遅刻 2 回で欠席 1 回分と見なす。3 回目の欠席で D 評価。

### テキスト / Textbooks

授業内で必要に応じて指示します。

### 参考文献 / Readings

マリリー G. アダムス 『<新版>すべては「前向き質問」でうまくいく』 ディスカヴァー・トゥエンティワン 2014 4799316230

マイケル・A・ウェスト 『チームワークの心理学 エビデンスに基づいた実践へのヒント』 東京大学出版会 2014 4130402641

成毛眞 『2040 年の未来予測』 日経 BP 2021 4822288900

エドガー・H・シャイン他 『謙虚なリーダーシップ』 英治出版 2020 4862762778

【履修定員】：25 名（他学部からの履修は可能な科目です。ただし、定員を超える場合は，経済学部学生が優先されます。あらかじめご了承ください。）【履修対象者】：2, 3, 4 年生

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

コミュニケーション力、表現力、リーダーシップ力

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

日本航空株式会社（2019 年度より本科目に参画）のコーポレートスローガンは「明日の空へ、日本の翼」。授業開始前に必ず <https://www.jal.com/ja/outline/brand/>にて企業概要・理念，IR 情報について確認（事前学習として必須）

### その他 / Others

- ・授業中に調べ学習やプレゼンテーションの準備を行う人は，WiFi に接続可能なパソコンを持参してください。（スマホで代用するのは禁止します）
- ・チームでのディスカッションベースの為、原則、全出席を義務（遅刻 2 回で欠席 1 回分と見なす。3 回目の欠席で D 評価）
- ・サマーワークショップ（日本航空のスカイミュージアム&格納庫見学）9 月 4 日 6 日に参加される方は、当該授業の履修は不可ですのでご注意ください。
- ・当該科目の履修に際しては、つづけて「インターンシップ」の履修が望ましい。

# 行政学 1

Public Administration 1

小田 勇樹 (ODA YUUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX556  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX3010  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本科目を通じて、行政組織に関する理論、原理、分析視角を習得し、現実社会の諸問題の理解へ応用できるようになることがこの授業の到達目標です。また、公務の特殊性、公務特有の倫理観、公共的価値を学んで頂くことを目標として授業を行います。

The goal of this course is for students to acquire theories, principles, and analytical perspectives on administrative organizations and to be able to apply them to understanding various problems in the real world. In addition, this course is designed to teach students the peculiarities of the public service, the ethics unique to the public service, and public values.

## 授業の内容 / Course Contents

行政学 1 では、国の省庁や地方自治体のような行政組織に関する実証的な理論を学修します。社会科学における理論とは、行政組織と官僚の活動を説明する法則のようなものや、行政組織の活動原理をわかりやすく捉えるための視点のようなものを指します。行政学 1 は政治学的内容が多く、行政組織のマネジメントに関する内容は、行政学 2 で取り上げています。可能ならばセットで履修することをおすすめいたします。

In this course, students will learn empirical theories about administrative organizations such as national

ministries and local governments. Empirical theory in the social sciences refers to the kind of logic that explains the activities of administrative organizations and bureaucrats, and the kind of perspective that makes it easier to understand patterns of behavior in administrative organizations. Public Administration I is more political science oriented, and content related to the management of administrative organizations is covered in Public Administration II. It is recommended to take the courses as a set if possible.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：行政の役割と行政学の誕生
- 3 回：能率の追求 初期行政学の理論
- 4 回：官僚制
- 5 回：国の行政機構の仕組み
- 6 回：立法過程・予算編成
- 7 回：政策形成過程の理論(1)利益集団と多元主義
- 8 回：政策形成過程の理論(2)合理的志決定と限定合理性
- 9 回：政官関係(1)日本の政官関係
- 10 回：政官関係(2)政官関係の理論
- 11 回：地方自治制度
- 12 回：地方分権改革と地方創生
- 13 回：自治体の政策形成・実施
- 14 回：講義の総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示します。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

- 原田久 『行政学〔第2版〕』 法律文化社 2022 4589041952  
 西岡晋・廣川嘉裕 編 『行政学』 文真堂 2021 4830951389  
 真淵勝 『行政学〔新版〕』 有斐閣 2020 4641149356  
 曾我謙吾 『行政学〔新版〕』 有斐閣 2022 4641221901  
 秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉 『公共政策学の基礎〔第3版〕』 有斐閣 2020 4641184496  
 久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝 『政治学 補訂版』 有斐閣 2011 4641053774

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

紙媒体での資料配布は行わず、講義前日までにパワーポイントと PDF 形式のファイルを Canvas LMS で配布

します。PCで閲覧する場合は授業にPCを持参してください。

#### **その他/ Others**

公務員志望者はもちろん、政治や行政に関心のある方の履修を歓迎しております。



## 行政学 2

Public Administration 2

小田 勇樹 (ODA YUUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX557  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX3010  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本科目を通じて、行政組織に関する理論、原理、分析視角を習得し、現実社会の諸問題の理解へ応用できるようになることがこの授業の到達目標です。また、公務の特殊性、公務特有の倫理観、公共的価値を学んで頂くことを目標として授業を行います。

The goal of this course is for students to acquire theories, principles, and analytical perspectives on administrative organizations and to be able to apply them to understanding various problems in the real world. In addition, this course is designed to teach students the peculiarities of the public service, the ethics unique to the public service, and public values.

### 授業の内容 / Course Contents

行政学 2 では、行政改革や公務員の人的資源管理など、マネジメントに関する問題を中心にした内容を学修します。行政学 2 はマネジメントの内容が多く、政治学的内容は、行政学 1 で取り上げています。可能ならばセットで履修することをおすすめいたします。

Public Administration II focuses on management issues such as administrative reform and human resource management in the civil service. Public Administration II has more management content, while political science

content is covered in Public Administration I. It is recommended that students take the courses as a set if possible.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：New Public Management(NPM)
- 3回：官僚制批判の理論と NPM
- 4回：中曽根行革と国鉄民営化
- 5回：橋本行革と独立行政法人制度
- 6回：公共サービスの外部委託
- 7回：非営利組織の役割の拡大
- 8回：政策実施
- 9回：政策評価
- 10回：公務員の労働基本権と給与
- 11回：公務員の人事管理システム
- 12回：公務員制度改革
- 13回：公務員の労働環境と働き方改革
- 14回：講義の総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示します。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

- 原田久 『行政学〔第2版〕』 法律文化社 2022 4589041952  
 西岡晋・廣川嘉裕 編 『行政学』 文眞堂 2021 4830951389  
 真淵勝 『行政学〔新版〕』 有斐閣 2020 4641149356  
 曾我謙吾 『行政学〔新版〕』 有斐閣 2022 4641221901  
 秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉 『公共政策学の基礎〔第3版〕』 有斐閣 2020 4641184496  
 久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝 『政治学 補訂版』 有斐閣 2011 4641053774

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

紙媒体での資料配布は行わず、講義前日までにパワーポイントと PDF 形式のファイルを Canvas LMS で配布します。PC で閲覧する場合は授業に PC を持参してください。

### その他 / Others

公務員志望者はもちろん、政治や行政に関心のある方の履修を歓迎しております。

# 統計調査論 1

Statistical Research 1

池田 岳大 (IKEDA TAKEHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX560  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2340  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 抽選登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を理解し、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項について学習する。調査や統計を批判的に読み解くスキルを養うことを目指す。

Students will understand the basic issues about the significance and types of social research and will learn the basic matters concerning the process from the collection to the analysis of materials and data. The objective is to nurture the skill to critically read and interpret surveys and statistics.

## 授業の内容 / Course Contents

社会調査の目的、調査方法論、調査の種類（量的調査と質的調査など）と実例について学ぶ。加えて、データの収集から分析までの実施過程に関する基礎的な事項についても概説する。

Actual examples will be used for students to learn the purpose of social research, survey methodology, and survey types (quantitative survey, qualitative surveys, etc.). In addition, an overview will be given of the fundamental matters regarding the implementation process from the collection of data to its analysis.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：社会調査の目的・意義

- 2回：社会調査の歴史（1）：欧米の社会調査  
 3回：社会調査の歴史（2）：日本の社会調査、官庁統計の利用  
 4回：標本計画と標本抽出（1）、無作為抽出、無作為割当  
 5回：標本計画と標本抽出（2）、多段抽出・層化  
 6回：問い・仮説の設定  
 7回：問い・仮説の検証、報告書の執筆  
 8回：社会調査の種類  
 9回：量的調査（1）：量的調査のプロセス  
 10回：量的調査（2）：量的データの集計・分析  
 11回：量的調査（3）：統計的分析手法の基礎、解釈  
 12回：質的調査（1）：質的調査の諸方法  
 13回：質的調査（2）：質的データの解釈  
 14回：調査倫理と社会調査の諸問題

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

配布する資料の中のキーワードについて、インターネットや参考書などを用いて調べて論点を整理しておくようにしてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%  
 平常点割合 :40% 複数回の授業内課題:40%

### テキスト / Textbooks

テキストは使用しません。毎回の授業でスライドを配布します。また、復習プリントも別途配布します。

### 参考文献 / Readings

- 松本渉 『社会調査の方法論』 丸善出版 2021 9784621306314  
 大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松 洋（編） 『新・社会調査へのアプローチ:論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 9784623041046  
 毛塚和宏 『社会科学のための統計学入門』 講談社 2022 9784065284506

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

授業では統計的な内容についても扱いますが、初学者でも理解できるように説明を心がけます。

### その他 / Others

この授業は社会調査士科目 A に対応している。詳しくは立教大学社会情報教育研究センターのホームページ (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi/shakai/SitePages/about.aspx>) を参照すること。

本授業は統計学、社会調査、量的調査の初学者にも理解できるように具体例やイメージを多く示しながら授業を進めます。これらの分野に苦手意識がある受講生の履修も歓迎します。

## 統計調査論 2

Statistical Research2

池田 岳大 (IKEDA TAKEHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX561  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2340  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 抽選登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を理解する。

This course aims to learn about collecting data or materials and organizing them into a form that we can analyze through survey research.

### 授業の内容 / Course Contents

社会調査とは、社会における人々の意識や行動を科学的な手続きに基づいて測定・分析するプロセスである。本科目では、社会調査リテラシーを身につけるために、社会調査によるデータの収集・構築や、基礎的な集計などの手順と方法について解説する。具体的には、社会調査の理論的側面として、社会調査の類型、調査企画と設計、仮説構成、調査票の作成、調査対象の設定、無作為抽出における標本規模と誤差を学ぶ。

Survey research is a process of measuring or analyzing people's behaviors and attitudes based on scientific procedures. In this course, to acquire survey research literacy, we learn the techniques and methods such as collecting data and constructing datasets for statistical analyses. Specifically, as the theoretical aspects of survey research, we understand the types of social surveys, survey planning and design, creating hypotheses, making questionnaires, survey target setting, and sample size and error in random sampling.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：社会調査の目的
- 2 回：調査設計（1）：調査企画、調査スケジュール
- 3 回：調査設計（2）：問いの設定、データの探索
- 4 回：調査票の作り方（1）：調査票の構成
- 5 回：調査票の作り方（2）：質問文の作り方
- 6 回：標本抽出の理論（1）：無作為抽出、無作為割当
- 7 回：標本抽出の理論（2）：統計理論、誤差の考え方
- 8 回：調査データの構築（1）：調査票の回収、回収率
- 9 回：調査データの構築（2）：エディティング、データクリーニング
- 10 回：仮説の設定と操作化、変数の尺度
- 11 回：統計分析（1）：度数分布、記述統計
- 12 回：統計分析分析（2）：クロス集計、相関係数
- 13 回：統計分析分析（3）統計的検定、結果のまとめ方
- 14 回：調査倫理と社会調査の課題

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

配布資料のキーワードについてインターネットや参考書で調べ、理解を深めるようにしてください。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 複数回の授業内課題:40%

**テキスト/ Textbooks**

テキストは使用しない。毎回授業資料を配布する。また、復習プリントも配布する。

**参考文献 / Readings**

轟 亮(編集),杉野 勇(編集) 『入門・社会調査法〔第4版〕：2ステップで基礎から学ぶ』 法律文化社  
2021 9784589041418

松本涉 『社会調査の方法論』 丸善出版 2021 9784621306314

安藤明之 『社会調査・アンケート調査とデータ解析〔第3版〕』 日本評論社 2021 9784535587601

毛塚 和宏 『社会科学のための統計学入門』 講談社 2022 9784065284506

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

統計調査論1を履修していないことを前提に授業を進めますので、統計調査論1の未履修者も歓迎します。統計的な内容についても触れることとなりますが、記述統計レベル（平均、分散、標準偏差など）の知識があれば問題なく履修できます。統計が苦手な人を前提として授業を行いますので、安心してください。

**その他/ Others**

この授業は社会調査士科目Bに対応している。詳しくは立教大学社会情報教育研究センターのホームページ (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi/shakai/SitePages/about.aspx>) を参照すること。

# 調査実習

Survey Methods

池田 岳大 (IKEDA TAKEHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX562  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX3340  
使用言語： 日本語  
授業形式： 実習  
履修登録方法： 抽選登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定： 2024 年度以降入学者／データ分析入門 1・2  
2023 年度以前入学者／情報処理入門 1・2  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： 履修定員は BT148「社会調査実習」と合わせて 46 名

## 授業の目標 / Course Objectives

社会調査の理論を概観するとともに、仮説の構築や質問紙の設計など、社会調査の技法を理解する。調査の企画・設計からデータの収集・分析に関する具体的な方法などを身につけ、量的調査をはじめとした科学的な社会調査の理論と方法について理解することで、独力で適切な調査のデザインができるようになることを目標とする。各自の研究活動の基礎となる事実認識のためのデータ収集の技術を身につけ、調査リテラシーを身につけることをねらいとする。

To give an outline of the theory of social research and for students to understand the social research techniques such as the construction of hypotheses and design of questionnaires. The objective of this course is for students to acquire practical methods of data collection and analysis from the planning and design of the survey, and to understand the theory and methods of the scientific social research, including of quantitative surveys, so that students can independently design surveys. The goal is to acquire investigation literacy by acquiring the technique of data collection for fact recognition which is the basis of each research activity.

## 授業の内容 / Course Contents

受講生が授業を通じて得た知識をもとに社会調査の一連の流れを経験する。各自の研究テーマについて、実際に調査の企画・実施をし、集めたデータを元に簡単な分析を行う。基本的には技法に関する解説が中心となるものの、受講人数の多寡に応じて適宜質疑応答やディスカッションなども交える。

In this class students will experience the flow of social research based on the knowledge they have acquired. Each student will actually plan and implement their research theme and conduct a simple analysis based on the collected data. Explanation of the technique is the main part, questions and answers and discussions, etc. are also included depending on the size of the number of participants.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：社会調査とは何か：概説，目的，歴史
- 2 回：社会調査の種類と一般的手順
- 3 回：研究と調査課題：仮説の作り方
- 4 回：受講生による調査プラン発表（中間報告）
- 5 回：標本調査の理論と実際：設計と抽出方法
- 6 回：質問紙調査の方法：質問紙の構成とフロー
- 7 回：質問紙調査の方法：質問のワーディング
- 8 回：質問紙調査の方法：選択肢の設け方
- 9 回：調査の実施方法
- 10 回：データの作成・集計・分析：基礎的集計，統計的な分析の基礎，結果のまとめ方
- 11 回：質的な調査：意義と方法，種類と事例，記述と説明
- 12 回：インタビュー法：類型，実施方法，結果の整理
- 13 回：さまざまなフィールドワーク：類型と事例，記述・説明・解釈
- 14 回：受講生による調査プラン発表
- 15 回：コーディングガイドの作成
- 16 回：エディティング
- 17 回：データ入力
- 18 回：統計ソフトの利用／データハンドリング
- 19 回：統計分析の確認と実践（1） 記述統計
- 20 回：統計分析の確認と実践（2） クロス集計表とカイ二乗分析
- 21 回：統計分析の確認と実践（3） 平均値の差の検定
- 22 回：統計分析の確認と実践（4） 相関分析と多変量解析
- 23 回：統計分析の確認と実践（5） 重回帰分析
- 24 回：報告書の作成（1） 統計データのまとめ方
- 25 回：報告書の作成（2） プレゼン資料の作成
- 26 回：報告書の作成（3） プレゼンテーションの実施1
- 27 回：報告書の作成（4） プレゼンテーションの実施2
- 28 回：報告書の作成（5） 調査報告書の作成

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：



上記いずれも用いない予定 :

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業外で研究テーマ報告のスライド、分析結果報告のスライド、報告書作成を進めていく作業があります。先行研究などを主体的に調べて研究を進めていくことが要求されます。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% プレゼンテーション/ディスカッション:40% 授業内での演習など:20% 最終  
レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

轟 亮(編集),杉野 勇(編集) 『入門・社会調査法〔第4版〕:2ステップで基礎から学ぶ』 法律文化社  
2021 9784589041418

松本渉 『社会調査の方法論』 丸善出版 2021 9784621306314

鈴木淳子 『質問紙デザインの技法[第2版]』 ナカニシヤ出版 2016 9784779510755

林雄亮・石田賢示 『基礎から学ぶ社会調査と計量分析』 北樹出版 2017 9784779305351

安藤明之 『初めてでもできる社会調査・アンケート調査とデータ解析〔第3版〕』 日本評論社 2021  
9784535587601

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

本授業では、与えられた課題をこなすだけでなく、自らが立てた研究テーマについて主体的に取り組み、明らかにする姿勢が重要となります。

また統計的なデータ解析を用いた授業ですのでそれに興味があることが望ましいです（必ずしも前提知識がなくともよいです）。

内容は決して簡単とは言えませんが、受講した場合には必ず大きく飛躍できるので興味関心ある方をお待ちしております。

### その他 / Others

この授業は社会調査士科目 G に対応している。詳しくは立教大学社会情報教育研究センターのホームページ (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi/shakai/SitePages/about.aspx>) を参照すること。

本授業は比較的負荷の大きい授業となっているため、履修希望者はそれを承知した上で受講すること。

# Introductory English for Current Economic Issues 1

## Introductory English for Current Economic Issues 1

身近な経済トピックを扱ったIMF（国際通貨基金）やBoE（イングランド銀行）の短い解説文を通して英語と経済学の考え方を一緒に身につける

下田知行（SHIMODA TOMOYUKI）

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX570
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX2033
使用言語：	その他
授業形式：	その他
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

学生の将来のキャリア形成に役立つ「英語」と「経済学的な考え方」という2つのスキルを同時に身につけることを目指す。初級のこの講義では、IMF（国際通貨基金）やBoE（英国の中央銀行であるイングランド銀行）が一般向けに、一切の数式なしで、平易な英語で経済を解説した短いブログや教材を通して、経済英語に慣れるとともに、経済学の基本的な考え方を身につける演習を予習・復習を含めて実施する。経済学の解説は日本語で行う。学生間のディスカッションや事例サーベイなどアクティブ・ラーニングも併用する。

This course intends to help students acquire two essential skills for future careers: English and basic ideas of economics. This introductory course aims at giving students opportunities to get more familiar with economic articles including short blogs and educational materials for the general public, without mathematical formula, issued by the International Monetary Fund and the Bank of England. The course also includes various exercises including those conducted before and after lectures to better understand the basic ideas of economics. Economic ideas are also explained in Japanese. Active learning methods such as group discussions among students and

conducting research on related topics are also deployed.

## 授業の内容 / Course Contents

講義では1つの教材を2回の講義で扱う。1回目の講義は教材の内容を理解することを狙いとする。その際、経済学の考え方を直感的に理解することに重きを置く。2回目の講義では、1回目の講義を踏まえて、日本経済の現状を調べたり、学生間で議論することで理解の定着を図る。いずれの回も予習として講義の準備となる課題に取り組むことを求める。また、講義後も講義内容を復習する課題や理解を深める演習課題を出す。

In this course, one article is covered by two consecutive lectures. The first lecture is devoted to better grasp of economic ideas in the article. The second lecture aims at deepening understanding of economic ideas gained in the first lecture through various exercises including fact-finding exercises on Japan's economy and group discussions among students. Students are expected to conduct preparatory and review works through Canvas LMS before and after each lecture.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：コースのガイダンス

授業の進め方や評価方法の説明

経済学の考え方を直感的に理解する重要性

2回：Why are football players paid so much? (1)

サッカー選手の年俸はなぜ巨額なのか

The Bank of England Explainer, 19 February 2019

<https://www.bankofengland.co.uk/explainers/why-are-football-players-paid-so-much>

3回：Why are football players paid so much? (2)

理解定着演習

4回：Fossil Fuel Subsidies Surged to Record \$7 Trillion (1)

化石燃料補助金が7兆ドルの大台に

IMF Blog, August 24, 2023

<https://www.imf.org/en/Blogs/Articles/2023/08/24/fossil-fuel-subsidies-surged-to-record-7-trillion>

5回：Fossil Fuel Subsidies Surged to Record \$7 Trillion (2)

理解定着演習

6回：What is CBDC? (1)

中央銀行デジタル通貨とは何?

The Bank of England Explainer, 07 February 2023

<https://www.bankofengland.co.uk/explainers/what-is-a-central-bank-digital-currency>

7回：What is CBDC? (2)

理解定着演習

8回：AI Will Transform the Global Economy. Let's Make Sure It Benefits Humanity. (1)

AIはグローバル経済を変容させる。人類に貢献するものにしよう

IMF Blog, January 14, 2024

<https://www.imf.org/en/Blogs/Articles/2024/01/14/ai-will-transform-the-global-economy-lets-make-sure-it-benefits-human>

9回：AI Will Transform the Global Economy. Let's Make Sure It Benefits Humanity. (2)

理解定着演習

10回：How to Close Gender Gaps and Grow the Global Economy (1)

ジェンダー・ギャップをなくし経済を成長させよう

IMF Blog, September 8, 2022

<https://www.imf.org/en/Blogs/Articles/2022/09/08/how-to-close-gender-gaps-and-grow-the-global-economy>

11 回：How to Close Gender Gaps and Grow the Global Economy（2）

理解定着演習

12 回：Can you stop a bank from going bust?（1）

銀行破綻は防げるのか

The Bank of England Explainer, 24 March 2023

<https://www.bankofengland.co.uk/explainers/can-you-stop-a-bank-from-going-bust>

13 回：Can you stop a bank from going bust?（2）

理解定着演習

14 回：まとめ

春学期で扱ったトピックについて短いエッセイを作成（予習）、発表

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義を有効に活用するうえでは予習は必須であり、事前課題を課し、成績評価にも反映する。また、講義の理解の定着を促すために復習課題も課し、成績評価にも反映する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 予習の課題提出（第2～13回各3点\*12回、第14回6点）：42% 復習の課題提出（第2～13回各3点\*12回）：36% 講義での貢献度：22%

### テキスト / Textbooks

教材は URL で示されている

### 参考文献 / Readings

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎科目を履修済であることが望ましいが必須ではない。講義ではもちろん、予習、復習でも理解を深めるための課題に取り組んでもらい、それが成績評価でも重視されるため、積極的に取り組む姿勢が重要である。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義中も各自がインターネット接続可能なノート PC もしくはタブレットを持参することが必須である。予習・復習の課題も授業支援システム（「Canvas LMS」）経由で提出を求める。

# Introductory English for Current Economic Issues 1

## Introductory English for Current Economic Issues 1

身近な経済トピックを扱ったIMF（国際通貨基金）やBoE（イングランド銀行）の短い解説文を通して英語と経済学の考え方を一緒に身につける

下田知行（SHIMODA TOMOYUKI）

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX571
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX2033
使用言語：	その他
授業形式：	その他
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

学生の将来のキャリア形成に役立つ「英語」と「経済学的な考え方」という2つのスキルを同時に身につけることを目指す。初級のこの講義では、IMF（国際通貨基金）やBoE（英国の中央銀行であるイングランド銀行）が一般向けに、一切の数式なしで、平易な英語で経済を解説した短いブログや教材を通して、経済英語に慣れるとともに、経済学の基本的な考え方を身につける演習を予習・復習を含めて実施する。経済学の解説は日本語で行う。学生間のディスカッションや事例サーベイなどアクティブ・ラーニングも併用する。

This course intends to help students acquire two essential skills for future careers: English and basic ideas of economics. This introductory course aims at giving students opportunities to get more familiar with economic articles including short blogs and educational materials for the general public, without mathematical formula, issued by the International Monetary Fund and the Bank of England. The course also includes various exercises including those conducted before and after lectures to better understand the basic ideas of economics. Economic ideas are also explained in Japanese. Active learning methods such as group discussions among students and

conducting research on related topics are also deployed.

## 授業の内容 / Course Contents

講義では1つの教材を2回の講義で扱う。1回目の講義は教材の内容を理解することを狙いとする。その際、経済学の考え方を直感的に理解することに重きを置く。2回目の講義では、1回目の講義を踏まえて、日本経済の現状を調べたり、学生間で議論することで理解の定着を図る。いずれの回も予習として講義の準備となる課題に取り組むことを求める。また、講義後も講義内容を復習する課題や理解を深める演習課題を出す。

In this course, one article is covered by two consecutive lectures. The first lecture is devoted to better grasp of economic ideas in the article. The second lecture aims at deepening understanding of economic ideas gained in the first lecture through various exercises including fact-finding exercises on Japan's economy and group discussions among students. Students are expected to conduct preparatory and review works through Canvas LMS before and after each lecture.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：コースのガイダンス

授業の進め方や評価方法の説明

経済学の考え方を直感的に理解する重要性

2回：Why are football players paid so much? (1)

サッカー選手の年俸はなぜ巨額なのか

The Bank of England Explainer, 19 February 2019

<https://www.bankofengland.co.uk/explainers/why-are-football-players-paid-so-much>

3回：Why are football players paid so much? (2)

理解定着演習

4回：Fossil Fuel Subsidies Surged to Record \$7 Trillion (1)

化石燃料補助金が7兆ドルの大台に

IMF Blog, August 24, 2023

<https://www.imf.org/en/Blogs/Articles/2023/08/24/fossil-fuel-subsidies-surged-to-record-7-trillion>

5回：Fossil Fuel Subsidies Surged to Record \$7 Trillion (2)

理解定着演習

6回：What is CBDC? (1)

中央銀行デジタル通貨とは何?

The Bank of England Explainer, 07 February 2023

<https://www.bankofengland.co.uk/explainers/what-is-a-central-bank-digital-currency>

7回：What is CBDC? (2)

理解定着演習

8回：AI Will Transform the Global Economy. Let's Make Sure It Benefits Humanity. (1)

AIはグローバル経済を変容させる。人類に貢献するものにしよう

IMF Blog, January 14, 2024

<https://www.imf.org/en/Blogs/Articles/2024/01/14/ai-will-transform-the-global-economy-lets-make-sure-it-benefits-human>

9回：AI Will Transform the Global Economy. Let's Make Sure It Benefits Humanity. (2)

理解定着演習

10回：How to Close Gender Gaps and Grow the Global Economy (1)

ジェンダー・ギャップをなくし経済を成長させよう

IMF Blog, September 8, 2022

<https://www.imf.org/en/Blogs/Articles/2022/09/08/how-to-close-gender-gaps-and-grow-the-global-economy>

11 回：How to Close Gender Gaps and Grow the Global Economy（2）

理解定着演習

12 回：Can you stop a bank from going bust?（1）

銀行破綻は防げるのか

The Bank of England Explainer, 24 March 2023

<https://www.bankofengland.co.uk/explainers/can-you-stop-a-bank-from-going-bust>

13 回：Can you stop a bank from going bust?（2）

理解定着演習

14 回：まとめ

春学期で扱ったトピックについて短いエッセイを作成（予習）、発表

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義を有効に活用するうえでは予習は必須であり、事前課題を課し、成績評価にも反映する。また、講義の理解の定着を促すために復習課題も課し、成績評価にも反映する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 予習の課題提出（第2～13回各3点\*12回、第14回6点）：42% 復習の課題提出（第2～13回各3点\*12回）：36% 講義での貢献度：22%

### テキスト / Textbooks

教材は URL で示されている

### 参考文献 / Readings

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎科目を履修済であることが望ましいが必須ではない。講義ではもちろん、予習、復習でも理解を深めるための課題に取り組んでもらい、それが成績評価でも重視されるため、積極的に取り組む姿勢が重要である。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義中も各自がインターネット接続可能なノート PC もしくはタブレットを持参することが必須である。予習・復習の課題も授業支援システム（「Canvas LMS」）経由で提出を求める。

# Introductory English for Current Economic Issues 2

## Introductory English for Current Economic Issues 2

身近な経済トピックを扱ったIMF（国際通貨基金）やBoE（イングランド銀行）の短い解説文を通して英語と経済学の考え方を一緒に身につける

下田知行（SHIMODA TOMOYUKI）

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX572

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2033

使用言語： その他

授業形式： その他

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

学生の将来のキャリア形成に役立つ「英語」と「経済学的な考え方」という2つのスキルを同時に身につけることを目指す。初級のこの講義では、IMF（国際通貨基金）やBoE（英国の中央銀行であるイングランド銀行）が一般向けに、一切の数式なしで、平易な英語で経済を解説した短いブログや教材を通して、経済英語に慣れるとともに、経済学の基本的な考え方を身につける演習を予習・復習を含めて実施する。経済学の解説は日本語で行う。学生間のディスカッションや事例サーベイなどアクティブ・ラーニングも併用する。

This course intends to help students acquire two essential skills for future careers: English and basic ideas of economics. This introductory course aims at giving students opportunities to get more familiar with economic articles including short blogs and educational materials, without mathematical formula, published by the International Monetary Fund and the Bank of England. The course also includes various exercises to better understand the basic ideas of economics, including preparatory works and review exercises before and after each lecture. Economic ideas are also explained in Japanese. Active learning methods such as group discussions among



students and conducting research on related topics are also deployed.

### 授業の内容 / Course Contents

講義では1つの教材を2回の講義で扱う。1回目の講義は教材の内容を理解することを狙いとする。その際、経済学の考え方を直感的に理解することに重きを置く。2回目の講義では、1回目の講義を踏まえて、日本経済の現状を調べたり、学生間で議論することで理解の定着を図る。いずれの回も予習として講義の準備となる課題に取り組むことを求める。また、講義後も講義内容を復習する課題や理解を深める演習課題を出す。

In this course, one article is covered by two consecutive lectures. The first lecture is devoted to better grasp of economic ideas in the article. The second lecture aims at deepening understanding of economic ideas gained in the first lecture through various exercises including fact-finding exercises on Japan's economy and group discussions among students. Students are expected to conduct preparatory and review works through Canvas LMS before and after each lecture.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：コースのガイダンス

授業の進め方や評価方法の説明

経済学の考え方を直感的に理解する重要性

2回：Welcome to e-Estonia: Where Virtual Residents Outnumber Newborns (1)

e-エストニアによろこそ。バーチャル住民の増加が新生児を上回る

IMF Blog, September 14, 2018

<https://www.imf.org/en/Blogs/Articles/2018/09/14/welcome-to-e-estonia-where-virtual-residents-outnumber-newborns>

3回：Welcome to e-Estonia: Where Virtual Residents Outnumber Newborns (2)

理解定着演習

4回：How fast can the economy grow? (1)

経済はどこまで速く成長できるか？

The Bank of England Explainer, 11 February 2020

<https://www.bankofengland.co.uk/explainers/how-fast-can-the-economy-grow>

5回：How fast can the economy grow? (2)

理解定着演習

6回：What are stablecoins and how do they work? (1)

ステーブルコインとは何？どう使われるの？

The Bank of England Explainer, 6 November 2023

<https://www.bankofengland.co.uk/explainers/what-are-stablecoins-and-how-do-they-work>

7回：What are stablecoins and how do they work? (2)

理解定着演習

8回：Women Workers Wanted in Japan (1)

求む、女性の働き手：日本

IMF Blog, November 21, 2017

<https://www.imf.org/en/Blogs/Articles/2017/11/21/chart-of-the-week-motherhood-and-work-in-japan>

9回：Women Workers Wanted in Japan (2)

理解定着演習

10回：Corporate Tax Rates: How Low Can You Go (1)

法人税率：どこまで下がる

IMF Blog, July 15, 2019

<https://www.imf.org/en/Blogs/Articles/2019/07/15/corporate-tax-rates-how-low-can-you-go>

11 回：Corporate Tax Rates: How Low Can You Go (2)

理解定着演習

12 回：Climate Change is Disrupting Global Trade (1)

気候変動が国際貿易に混乱をもたらす

IMF Blog, November 15, 2023

<https://www.imf.org/en/Blogs/Articles/2023/11/15/climate-change-is-disrupting-global-trade>

13 回：Climate Change is Disrupting Global Trade (2)

理解定着演習

14 回：まとめ

秋学期で扱ったトピックについて短いエッセイを作成(予習)、発表

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド(パワポ等)の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	: ○	グループ発表	: ○	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義を有効に活用するうえでは予習は必須であり、事前課題を課し、成績評価にも反映する。また、講義の理解の定着を促すために復習課題も課し、成績評価にも反映する。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 予習の課題提出(第2~13回各3点\*12回、第14回6点):42% 復習の課題提出(第2~13回各3点\*12回):36% 講義での貢献度:22%

### テキスト/Textbooks

教材は URL で示されている

### 参考文献 / Readings

### 履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎科目を履修済であることが望ましいが必須ではない。講義ではもちろん、予習、復習でも理解を深めるための課題に取り組んでもらい、それが成績評価でも重視されるため、積極的に取り組む姿勢が重要である。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義中も各自がインターネット接続可能なノート PC もしくはタブレットを持参することが必須である。予習・復習の課題も授業支援システム(「Canvas LMS」)経由で提出を求める。

# Introductory English for Current Economic Issues 2

## Introductory English for Current Economic Issues 2

身近な経済トピックを扱ったIMF（国際通貨基金）やBoE（イングランド銀行）の短い解説文を通して英語と経済学の考え方を一緒に身につける

下田知行（SHIMODA TOMOYUKI）

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX573
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX2033
使用言語：	その他
授業形式：	その他
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

学生の将来のキャリア形成に役立つ「英語」と「経済学的な考え方」という2つのスキルを同時に身につけることを目指す。初級のこの講義では、IMF（国際通貨基金）やBoE（英国の中央銀行であるイングランド銀行）が一般向けに、一切の数式なしで、平易な英語で経済を解説した短いブログや教材を通して、経済英語に慣れるとともに、経済学の基本的な考え方を身につける演習を予習・復習を含めて実施する。経済学の解説は日本語で行う。学生間のディスカッションや事例サーベイなどアクティブ・ラーニングも併用する。

This course intends to help students acquire two essential skills for future careers: English and basic ideas of economics. This introductory course aims at giving students opportunities to get more familiar with economic articles including short blogs and educational materials, without mathematical formula, published by the International Monetary Fund and the Bank of England. The course also includes various exercises to better understand the basic ideas of economics, including preparatory works and review exercises before and after each lecture. Economic ideas are also explained in Japanese. Active learning methods such as group discussions among

students and conducting research on related topics are also deployed.

### 授業の内容 / Course Contents

講義では1つの教材を2回の講義で扱う。1回目の講義は教材の内容を理解することを狙いとする。その際、経済学の考え方を直感的に理解することに重きを置く。2回目の講義では、1回目の講義を踏まえて、日本経済の現状を調べたり、学生間で議論することで理解の定着を図る。いずれの回も予習として講義の準備となる課題に取り組むことを求める。また、講義後も講義内容を復習する課題や理解を深める演習課題を出す。

In this course, one article is covered by two consecutive lectures. The first lecture is devoted to better grasp of economic ideas in the article. The second lecture aims at deepening understanding of economic ideas gained in the first lecture through various exercises including fact-finding exercises on Japan's economy and group discussions among students. Students are expected to conduct preparatory and review works through Canvas LMS before and after each lecture.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：コースのガイダンス

授業の進め方や評価方法の説明

経済学の考え方を直感的に理解する重要性

2回：Welcome to e-Estonia: Where Virtual Residents Outnumber Newborns (1)

e-エストニアによろこそ。バーチャル住民の増加が新生児を上回る

IMF Blog, September 14, 2018

<https://www.imf.org/en/Blogs/Articles/2018/09/14/welcome-to-e-estonia-where-virtual-residents-outnumber-newborns>

3回：Welcome to e-Estonia: Where Virtual Residents Outnumber Newborns (2)

理解定着演習

4回：How fast can the economy grow? (1)

経済はどこまで速く成長できるか？

The Bank of England explainer, 11 February 2020

<https://www.bankofengland.co.uk/explainers/how-fast-can-the-economy-grow>

5回：How fast can the economy grow? (2)

理解定着演習

6回：What are stablecoins and how do they work? (1)

ステーブルコインとは何？どう使われるの？

The Bank of England explainer, 6 November 2023

<https://www.bankofengland.co.uk/explainers/what-are-stablecoins-and-how-do-they-work>

7回：What are stablecoins and how do they work? (2)

理解定着演習

8回：Women Workers Wanted in Japan (1)

求む、女性の働き手：日本

IMF Blog, November 21, 2017

<https://www.imf.org/en/Blogs/Articles/2017/11/21/chart-of-the-week-motherhood-and-work-in-japan>

9回：Women Workers Wanted in Japan (2)

理解定着演習

10回：Corporate Tax Rates: How Low Can You Go (1)

法人税率：どこまで下がる

IMF Blog, July 15, 2019

<https://www.imf.org/en/Blogs/Articles/2019/07/15/corporate-tax-rates-how-low-can-you-go>

11 回：Corporate Tax Rates: How Low Can You Go (2)

理解定着演習

12 回：Climate Change is Disrupting Global Trade (1)

気候変動が国際貿易に混乱をもたらす

IMF Blog, November 15, 2023

<https://www.imf.org/en/Blogs/Articles/2023/11/15/climate-change-is-disrupting-global-trade>

13 回：Climate Change is Disrupting Global Trade (2)

理解定着演習

14 回：まとめ

秋学期で扱ったトピックについて短いエッセイを作成(予習)、発表

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド(パワポ等)の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	: ○	グループ発表	: ○	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義を有効に活用するうえでは予習は必須であり、事前課題を課し、成績評価にも反映する。また、講義の理解の定着を促すために復習課題も課し、成績評価にも反映する。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 予習の課題提出(第2~13回各3点\*12回、第14回6点):42% 復習の課題提出(第2~13回各3点\*12回):36% 講義での貢献度:22%

### テキスト/Textbooks

教材は URL で示されている

### 参考文献 / Readings

### 履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎科目を履修済であることが望ましいが必須ではない。講義ではもちろん、予習、復習でも理解を深めるための課題に取り組んでもらい、それが成績評価でも重視されるため、積極的に取り組む姿勢が重要である。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義中も各自がインターネット接続可能なノート PC もしくはタブレットを持参することが必須である。予習・復習の課題も授業支援システム(「Canvas LMS」)経由で提出を求める。

# Intermediate English for Current Economic Issues 1

## Intermediate English for Current Economic Issues 1

イングランド銀行（英国の中央銀行）の一般向け解説書で、英語と最新の経済トピック（気候変動問題やデジタル通貨など）を同時に身につける

下田知行 (SHIMODA TOMOYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX574
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX2033
使用言語：	その他
授業形式：	その他
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

学生の将来のキャリア形成に役立つ「英語」と「経済学的な考え方」という2つのスキルを同時に身につけることを目指す。中級のこの講義では、イングランド銀行のエコノミストが一般向けに、一切の数式なしで、平易な英語で経済を解説し、ベストセラーになった「Can't We Just Print More Money?」（2022）を丁寧に読み進めながら、身近な事例を通して経済学の基本的な考え方や気候変動問題やデジタル通貨など最新の経済トピックの見方を身につける。経済学の解説は日本語で行う。秋学期開講の「2」と通して受講

This course intends to help students acquire two essential skills for future careers: English and basic ideas of economics. This intermediate course covers "Can't We Just Print More Money," a best seller written by the Bank of England economists to enhance the general public's understandings of basic economics ideas without mathematical formula. It also covers current topics such as climate change and digital money. In the lectures, economics ideas are explained in Japanese, while analyses and discussions on the texts are given in English. If you continue to take the fall course, you can read through the whole book, but you can take only take the spring

course as each chapter of the book addresses a separate topic. Active learning methods such as group discussions among students and conducting research on related topics are also deployed.

### 授業の内容 / Course Contents

講義ではテキストの細部の解釈より経済学の考え方を直感的に理解することに重きを置く。予習としてテキストの理解を試す課題に取り組むことを求める。講義では学生が取り組んだ予習課題への回答にコメントしたり、トピックに関して学生間でディスカッションしたりする。関連する経済学の理論や考え方は日本語で解説する。講義後も講義内容を復習する課題や理解を深める演習課題を出す。なお、邦訳「イングランド銀行公式経済がよくわかる 10 章」(すばる舎、2023) も出ており、適宜参照するのは構わない。

The course puts more emphasis on the intuitive grasp of messages and ideas in the book rather than giving detailed interpretations of the texts. Students are expected to conduct preparatory works through LMS. In the lecture, comments are given to the preparatory works and students make presentations after having a group discussion on the topic. The theories and ideas of economics are explained in Japanese. Students are asked to conduct review exercises after each lecture. Students may wish to refer to a Japanese translated version of the book, where appropriate.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：コースのガイダンス

教科書の紹介、授業の進め方や評価方法の説明

経済学の考え方を直感的に理解する重要性

2 回：Introduction, Economics everywhere

序章 経済学はどこにでも

テムズ川の水位が上がり続ける理由

経済学は何に役立つのか

3 回：Chapter 1, Where does my breakfast come from? (1)

第 1 章 食べたい朝ごはんを選べるのはなぜ? (1)

効用最大化、機会費用、所得効果、代替効果、需要の価格弾力性

4 回：Chapter 1, Where does my breakfast come from? (2)

第 1 章 食べたい朝ごはんを選べるのはなぜ? (2)

代替財、補完財、ウェブレン財、ギッフェン財

5 回：Chapter 1, Where does my breakfast come from? (3)

第 1 章 食べたい朝ごはんを選べるのはなぜ? (3)

限界費用、限界収入、企業の社会的責任、市場の「見えざる手」

6 回：Chapter 2, Can economics solve climate change? (1)

第 2 章 経済学は気候変動問題を解決できる? (1)

イングランド銀行社員食堂のポテト取り放題、市場の失敗、コモンスの悲劇、不完全競争、独占・寡占

7 回：Chapter 2, Can economics solve climate change? (2)

第 2 章 経済学は気候変動問題を解決できる? (2)

不完全競争が容認される場合、規模の経済、巨大プラットフォームのネットワーク効果

8 回：Chapter 2, Can economics solve climate change? (3)

第 2 章 経済学は気候変動問題を解決できる? (3)

外部性、ホライズンの悲劇、ピグー税、排出権取引、情報の非対称性

9 回：Chapter 3, How do I get a pay rise? (1)

## 第3章 どうすれば賃金は上がる？（1）

労働市場、循環的失業、構造的失業、摩擦的失業

10回：Chapter 3, How do I get a pay rise?（2）

## 第3章 どうすれば賃金は上がる？（2）

労働者の交渉力、人的資本、ヒステリシス

11回：Chapter 4, Why am I richer than my great-great-granma?（1）

## 第4章 ひいひいおばあちゃんの代より私たちのほうが豊かなのはなぜ？（1）

GDPの三面等価、一人当たりGDP、経済成長に欠かせない四つの要素

12回：Chapter 4, Why am I richer than my great-great-granma?（2）

## 第4章 ひいひいおばあちゃんの代より私たちのほうが豊かなのはなぜ？（2）

経済成長の落とし穴、所得格差、限界効用逓減の法則、環境破壊

13回：Chapter 5, Why are so many of my clothes made in Asia?（1）

## 第5章 私の服の大半がアジア製なのはなぜ？（1）

専門化、分業、比較優位

14回：Chapter 5, Why are so many of my clothes made in Asia?（2）

## 第5章 私の服の大半がアジア製なのはなぜ？（2）

アジアの比較優位、サービス貿易、貿易戦争、自由貿易協定

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

講義を有効に活用するうえでは予習は必須であり、事前課題を課し、成績評価にも反映する。また、講義の理解の定着を促すために復習課題も課し、成績評価にも反映する。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 予習の課題提出（各回3点\*13回）：39% 復習の課題提出（各回3点\*13回）：39%

講義での貢献度：22%

**テキスト / Textbooks**

The Bank of England Can't We Just Print More Money? Penguin Books 2022 9781847943392 ○

**参考文献 / Readings**

イングランド銀行（村井章子訳）『イングランド銀行公式 経済がよくわかる10章』すばる舎 2023  
9784799111529

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎科目を履修済であることが望ましいが必須ではない。講義ではもちろん、予習、復習でも理解を深めるための課題に取り組んでもらい、それが成績評価でも重視されるため、積極的に取り組む姿勢が重要である。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

講義中も各自がインターネット接続可能なノートPCもしくはタブレットを持参することが必須である。予



習・復習の課題も授業支援システム（LMS）経由で提出を求める。

## Intermediate English for Current Economic Issues 2

Intermediate English for Current Economic Issues 2

イングランド銀行（英国の中央銀行）の一般向け解説書で、英語と最新の経済トピック（気候変動問題やデジタル通貨など）を同時に身につける

下田知行 (SHIMODA TOMOYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX575
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ECX2033
使用言語：	その他
授業形式：	その他
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

学生の将来のキャリア形成に役立つ「英語」と「経済学的な考え方」という2つのスキルを同時に身につけることを目指す。中級のこの講義では、イングランド銀行のエコノミストが一般向けに、一切の数式なしで、平易な英語で経済を解説し、ベストセラーになった「Can't We Just Print More Money?」（2022）を丁寧に読み進めながら、身近な事例を通して経済学の基本的な考え方や気候変動問題やデジタル通貨など最新の経済トピックの見方を身につける。経済学の解説は日本語で行う。春学期開講の「1」と通して受講

This course intends to help students acquire two essential skills for future careers: English and basic ideas of economics. This intermediate course covers "Can't We Just Print More Money?," a best seller written by the Bank of England economists to enhance the general public's understandings of basic economics without mathematical formula. It also covers current topics such as climate change and digital money. In the lectures, economics ideas are explained in Japanese, while analyses and discussions on the texts are given in English. If you take both spring and fall courses, you can read through the whole book, but you can take only take the fall course

as each chapter of the book addresses a separate topic. The fall course mainly touches on financial economics issues. Active learning methods such as group discussions among students and conducting research on related topics are also deployed.

### 授業の内容 / Course Contents

講義ではテキストの細部の解釈より経済学の考え方を直感的に理解することに重きを置く。予習としてテキストの理解を試す課題に取り組むことを求める。講義では学生が取り組んだ予習課題への回答にコメントしたり、トピックに関して学生間でディスカッションしたりする。関連する経済学の理論や考え方は日本語で解説する。講義後も講義内容を復習する課題や理解を深める演習課題を出す。なお、邦訳「イングランド銀行公式経済がよくわかる 10 章」(すばる舎、2023) も出ており、適宜参照するのは構わない。

The course puts more emphasis on the intuitive grasp of messages and ideas in the book rather than giving detailed interpretations of the texts. Students are expected to conduct preparatory works through Canvas LMS. In the lecture, comments are given to the preparatory works and students make presentations after having a group discussion on the topic. The theories and ideas of economics are explained in Japanese. Students are asked to conduct review exercises after each lecture. Students may wish to refer to a Japanese translated version of the book, where appropriate.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：コースのガイダンス

教科書の紹介、授業の進め方や評価方法の説明

経済学の考え方を直感的に理解する重要性

2 回：Chapter 6, Why aren't Freddos 10p any more? (1)

第 6 章 どうしてフレッドはもう 10 ペンスでは買えないの? (1)

インフレ、消費者物価指数 (CPI)、品質調整、購買力、ハイパーインフレーション、メニューコスト

3 回：Chapter 6, Why aren't Freddos 10p any more? (2)

第 6 章 どうしてフレッドはもう 10 ペンスでは買えないの? (2)

デフレスパイラル、2%のインフレ目標、コストプッシュインフレ、デマンドプルインフレ、貨幣数量説、インフレ期待

4 回：Chapter 7, What actually is money? (1)

第 7 章 そもそもお金って何? (1)

交換手段、価値貯蔵手段、価値尺度、欲望の二重の一致、兌換紙幣、金本位制

5 回：Chapter 7, What actually is money? (2)

第 7 章 そもそもお金って何? (2)

不換紙幣 (fiat money)、準備預金、預金通貨、信用創造

6 回：Chapter 7, What actually is money? (3)

第 7 章 そもそもお金って何? (3)

ビットコインは通貨なのか、地域通貨、中央銀行デジタル通貨 (CBDC)

7 回：Chapter 8, Why shouldn't I hoard all my money under the mattress? (1)

第 8 章 タンス預金が好ましくない理由は? (1)

現金を手元に置く理由、銀行の役割、情報の非対称性

8 回：Chapter 8, Why shouldn't I hoard all my money under the mattress? (2)

第 8 章 タンス預金が好ましくない理由は? (2)

満期変換、取り付け、預金保険、最後の貸し手

9回：Chapter 8, Why shouldn't I hoard all my money under the mattress? (3)

第8章 タンス預金が好ましくない理由は？ (3)

モラルハザード、自己資本規制、マクロプルーデンス政策、ストレステスト、破綻処理

10回：Chapter 9, Why did no one see the crash coming? (1)

第9章 どうして危機が起きると誰もわからなかったのですか？ (1)

南海泡沫事件、根拠なき熱狂、ブラックスワン

11回：Chapter 9, Why did no one see the crash coming? (2)

第9章 どうして危機が起きると誰もわからなかったのですか？ (2)

経済危機の悪影響、失業、格差の拡大、創造的破壊、R指数、行動経済学

12回：Chapter 10, Can't we just print more money? (1)

第10章 中央銀行がどんどんお金を刷ることはできないの？ (1)

バブル崩壊後の日本、金融政策波及経路、ゼロ金利制約、マイナス金利

13回：Chapter 10, Can't we just print more money? (2)

第10章 中央銀行がどんどんお金を刷ることはできないの？ (2)

量的緩和、ポートフォリオ・リバランス効果、中央銀行の独立性

14回：Chapter 10, Can't we just print more money? (3)

第10章 中央銀行がどんどんお金を刷ることはできないの？ (3)

財政政策、財政乗数、自動安定化装置、国家はどこまで借金ができるか？

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義を有効に活用するうえでは予習は必須であり、事前課題を課し、成績評価にも反映する。また、講義の理解の定着を促すために復習課題も課し、成績評価にも反映する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 予習の課題提出（各回3点\*13回）:39% 復習の課題提出（各回3点\*13回）:39%

講義での貢献度:22%

#### テキスト / Textbooks

The Bank of England Can't We Just Print More Money? Penguin Books 2022 9781847943392 ○

#### 参考文献 / Readings

イングランド銀行（村井章子訳）『イングランド銀行公式 経済がよくわかる 10章』すばる舎 2023  
9784799111529

#### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎科目を履修済であることが望ましいが必須ではない。講義ではもちろん、予習、復習でも理解を深めるための課題に取り組んでもらい、それが成績評価でも重視されるため、積極的に取り組む姿勢が重要である。

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義中も各自がインターネット接続可能なノート PC もしくはタブレットを持参することが必須である。予習・復習の課題も授業支援システム（「Canvas LMS」）経由で提出を求める。

# Economics Applied to Current Issues 1

Economics Applied to Current Issues 1

The economics of renewable energy

ウォン, リオン (WONG LEON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX576

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX3031

使用言語： 英語

授業形式： その他

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

This course presents a discussion about the economics of renewable energy, with examples of initiatives from around the world to achieve Net Zero carbon emissions.

## 授業の内容 / Course Contents

After the class, students should have a broad knowledge of the issues related to renewable energy. These include the sources of renewable energy, the reasons for switching from fossil fuels to renewable energy, the various government initiatives to achieve renewable energy targets and Net Zero carbon emissions. It also presents the challenges and contradictions of adopting renewable energy, with respect to infrastructural and resource constraints, environmental degradation and human rights, and issues of national and energy security.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction

2 回： Sources of energy and CO2

3 回： Renewable energy & climate change

- 4回：Renewable energy sources  
 5回：Peak fossil fuel?  
 6回：Green New Deals: grand plans to net zero  
 7回：Government specific initiatives  
 8回：Electrification  
 9回：Technical & resource constraints  
 10回：Environmental & human rights concerns  
 11回：Action & reaction: a counter-movements  
 12回：Supply, resource vulnerabilities  
 13回：Dependence, energy security & geopolitics  
 14回：Summary & conclusions: are we ready for a renewable energy world?

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

It is recommended that students read the prescribed weekly materials before class, to be ready for group discussion during class.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Class presentations:10% Assignment 1:20% Assignment 2:30% 最終レポート  
割合：:40%

### テキスト / Textbooks

There are no textbooks for this course.

The study material are freely available internet resources or articles. They will be mainly news articles or opinion pieces from online sources such as newspapers, blogs or other social media.

The purpose of using c

### 参考文献 / Readings

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful if students bring along an internet accessible device (tablet, laptop) for use in the workshop.

### その他 / Others

Each class will be divided into 2 parts. The first part will be a lecture presentation. The second part will be group discussions, with 4 or 5 students per group. A member of each group may be required to present the group's findings.

# Economics Applied to Current Issues 2

Economics Applied to Current Issues 2

The economics of globalisation from Bretton Woods to BRICS+

ウォン, リオン (WONG LEON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX577

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX3031

使用言語： 英語

授業形式： その他

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

This course invokes the Theory of Comparative Advantage in international economics, to discuss the factors that led to globalization, and the recent events that may lead to de-globalisation.

## 授業の内容 / Course Contents

After the class, students should have a basic knowledge of the history and current underlying framework of the international trade and monetary order, Bretton Woods I and II, which is dominated by the US and western countries. This system is underpinned by the US dollar in what is called the petrodollar system. Also discussed are the recent events that have set in motion a move away from this uni-polar world, towards a multi-polar world led by BRICS+, and the attempts by many countries to reduce reliance on the US dollar.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction

2 回： Theory & Bretton Woods

3 回： Bretton Woods II



- 4 回：The breakdown of globalisation?  
 5 回：The rise of Bretton Woods III?  
 6 回：Saudi Arabia & the end of the petrodollar?  
 7 回：Implications of de-dollarisation  
 8 回：BRICS+  
 9 回：Alternative financial architectures  
 10 回：BRICS+ & economic integration  
 11 回：BRICS+ & security integration  
 12 回：US & the West also turning away from globalisation  
 13 回：The Geographical Pivot of History: The West v. The Rest?  
 14 回：Summary & conclusions

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

It is recommended that students read the prescribed weekly materials before class, to be ready for group discussion during class.

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100%    Class presentations:10%    Assignment 1:20%    Assignment 2:30%    最終レポート  
 割合：:40%

### テキスト / Textbooks

The study material for this course are freely available from the internet.

This includes textbooks available under the Creative Commons license.

### 参考文献 / Readings

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful if students bring along an internet accessible device (tablet, laptop) for use in the workshop.

### その他 / Others

Each class will be divided into 2 parts. The first part will be a lecture presentation. The second part will be group discussions, with 4 or 5 students per group. A member of each group may be required to present the group's findings.

# データサイエンス概論

Introduction to Data Science

安藤 道人 (ANDO MICHIHITO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX581  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2010  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 抽選登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

統計分析用および機械学習用のプログラム言語である R を用いて、統計学・計量経済学・機械学習の基本的な分析を行えるように演習を行い、データサイエンスの基礎を習得する。

To practice basic analysis of statistics, econometrics, and machine learning using R, a programming language for statistical analysis and machine learning, to learn the fundamentals of data science.

## 授業の内容 / Course Contents

統計学・計量経済学・機械学習の基礎的な知識を学んだ上で、実際に現実のデータセットを用いて、R でコードを書いて分析をする。講義は全体で 3 部に分かれている。第一部（R 入門）では R を使ったデータ分析の基本的な方法を学び、第二部（計量経済学）では R を用いた計量経済学分析の実習を行い、第三部（機械学習）では、R を用いた機械学習の実習を行う。すべての回において、まずその回の実習内容について簡単な解説を行った後で、各自に実際にコードを書き、分析し、分析結果をまとめる作業を行う。理論的な解説はごく基本的・直感的なものにとどめ、実際に自分でコードを書いて分析することを重視する（そのため、理論面については計量経済学の授業を別途履修しておくことを推奨する）。

Students will acquire statistics, econometrics, and machine learning fundamental knowledge and then write code

using R to analyze actual data sets. This lecture will be divided into three parts. In Part 1 (Introduction to R) students will learn the basic methods for analyzing data using R, in Part 2 (Econometrics) they will practice econometric analysis using R, and in Part 3 (Machine Learning) they will practice machine learning using R. For each class, first a simple explanation of the practice contents will be given and then each student will write code, conduct an analysis, and compile the analysis results. The theoretical explanation will be limited to basic and intuitive things to allow students to focus on actually writing their own code and using it to conduct analysis. (Therefore, It is recommended to take a course about econometrics to learn the theory of econometrics)

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：R の基礎
- 2 回：データ整理
- 3 回：データの可視化
- 4 回：回帰分析
- 5 回：計量経済学 1：回帰分析とマッチング
- 6 回：計量経済学 2：操作変数法
- 7 回：計量経済学 3：回帰不連続デザイン
- 8 回：計量経済学 4：固定効果モデル
- 9 回：計量経済学 5：差の差法
- 10 回：機械学習 1：線形回帰・ロジスティック回帰
- 11 回：機械学習 2：リッジ回帰・Lasso
- 12 回：機械学習 3：決定木・ランダムフォレスト
- 13 回：機械学習 4：ニューラルネットワーク・ディープラーニング
- 14 回：総まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間だけではなかなか習得できない内容が多いので、予習・復習をしっかりと行ってください。また、演習内容を踏まえた課題を複数回実施します。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 複数回の課題:100%

### テキスト / Textbooks

授業中に適宜紹介します。

### 参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介します。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

計量経済学の基礎的理解

### その他 / Others

授業の詳細については、ウェブサイト

[https://sites.google.com/site/michihito7ando/lectures/econome\\_ml\\_with\\_R](https://sites.google.com/site/michihito7ando/lectures/econome_ml_with_R) を参照してください。

# データサイエンス概論

Introduction to Data Science

安藤 道人 (ANDO MICHIHITO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX582  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2010  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 抽選登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

統計分析用および機械学習用のプログラム言語である R を用いて、統計学・計量経済学・機械学習の基本的な分析を行えるように演習を行い、データサイエンスの基礎を習得する。

To practice basic analysis of statistics, econometrics, and machine learning using R, a programming language for statistical analysis and machine learning, to learn the fundamentals of data science.

## 授業の内容 / Course Contents

統計学・計量経済学・機械学習の基礎的な知識を学んだ上で、実際に現実のデータセットを用いて、R でコードを書いて分析をする。講義は全体で 3 部に分かれている。第一部（R 入門）では R を使ったデータ分析の基本的な方法を学び、第二部（計量経済学）では R を用いた計量経済学分析の実習を行い、第三部（機械学習）では、R を用いた機械学習の実習を行う。すべての回において、まずその回の実習内容について簡単な解説を行った後で、各自に実際にコードを書き、分析し、分析結果をまとめる作業を行う。理論的な解説はごく基本的・直感的なものにとどめ、実際に自分でコードを書いて分析することを重視する（そのため、理論面については計量経済学の授業を別途履修しておくことを推奨する）。

Students will acquire statistics, econometrics, and machine learning fundamental knowledge and then write code

using R to analyze actual data sets. This lecture will be divided into three parts. In Part 1 (Introduction to R) students will learn the basic methods for analyzing data using R, in Part 2 (Econometrics) they will practice econometric analysis using R, and in Part 3 (Machine Learning) they will practice machine learning using R. For each class, first a simple explanation of the practice contents will be given and then each student will write code, conduct an analysis, and compile the analysis results. The theoretical explanation will be limited to basic and intuitive things to allow students to focus on actually writing their own code and using it to conduct analysis. (Therefore, It is recommended to take a course about econometrics to learn the theory of econometrics)

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：R の基礎
- 2 回：データ整理
- 3 回：データの可視化
- 4 回：回帰分析
- 5 回：計量経済学 1：回帰分析とマッチング
- 6 回：計量経済学 2：操作変数法
- 7 回：計量経済学 3：回帰不連続デザイン
- 8 回：計量経済学 4：固定効果モデル
- 9 回：計量経済学 5：差の差法
- 10 回：機械学習 1：線形回帰・ロジスティック回帰
- 11 回：機械学習 2：リッジ回帰・Lasso
- 12 回：機械学習 3：決定木・ランダムフォレスト
- 13 回：機械学習 4：ニューラルネットワーク・ディープラーニング
- 14 回：総まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間だけではなかなか習得できない内容が多いので、予習・復習をしっかりと行ってください。また、演習内容を踏まえた課題を複数回実施します。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 複数回の課題:100%

### テキスト / Textbooks

授業中に適宜紹介します。

### 参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介します。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

計量経済学の基礎的理解

### その他 / Others

授業の詳細については、ウェブサイト

[https://sites.google.com/site/michihito7ando/lectures/econome\\_ml\\_with\\_R](https://sites.google.com/site/michihito7ando/lectures/econome_ml_with_R) を参照してください。

# 経済ビッグデータ解析入門

Introduction to Big Data Analysis in Economics

大西 立顕 (OHNISHI TAKAAKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX583  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2310  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

データサイエンスの用語や概念を理解すること、Python プログラミングを用いたデータ分析の一般的な手法を修得することを目標とする。

After completing this course, students should be able to:

- explain the concepts and terminology associated with data science
- understand and apply general methods for data analysis using Python programming

## 授業の内容 / Course Contents

Python プログラミングを用いたデータサイエンスの基礎的手法を解説する。経済現象にみられる様々な実データを分析する際に必要となる概念や分析手法を学ぶ。

This course will provide students with the foundations of data science using Python programming. Students will learn the concepts, techniques, and tools needed to analyze various types of real-world data related to economic phenomena.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Python プログラミング（Google Colaboratory の使い方，コメント，print，変数，型，代入）



- 2回：Python プログラミング（算術演算，比較演算，論理演算，リスト）  
 3回：Python プログラミング（if 文による条件分岐，for 文による処理の繰り返し）  
 4回：Python プログラミング（テキストファイルの読み書き，グラフを描く）  
 5回：指数・対数とベキ分布（複利，確率密度関数，累積分布関数，経済物理学，フラクタル，スケールフリー，ベキ乗則）  
 6回：外国為替レートの時系列の分析（1）  
 7回：p 値と検定（大数の法則，正規分布，標本誤差，ランダム化テスト，乱数，モンテカルロ法）  
 8回：外国為替レートの時系列の分析（2）  
 9回：相関係数（散布図，積率相関，順位相関，相関と因果，疑似相関，交絡，定常性，自己相関）  
 10回：外国為替レートの時系列の分析（3）  
 11回：クラスタリングと次元削減（階層的クラスタリング，デンドログラム，k-means，主成分分析）  
 12回：住宅取引データの分析（1）  
 13回：住宅取引データの分析（2）  
 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の授業の理解度に応じて，適宜，授業で説明したプログラムやテキストなどを復習することを薦める。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% レポート:40%

### テキスト / Textbooks

必要に応じて授業で指示する。

### 参考文献 / Readings

大村 平 『多変量解析のはなしー複雑さから本質を探る』 日科技連出版社 2006 4817180277

大村 平 『統計のはなしー 基礎・応用・娯楽』 日科技連出版社 2022 4817180293

佐村 敏治，堀 桂太郎 『例題でわかる Python プログラミング入門』 電気書院 2022 4485301184

三谷 純 『Python ゼロからはじめるプログラミング』 翔泳社 2021 9784798169460

◇IPJS MOOC（情報処理学会公開教材）：<https://sites.google.com/a.ipsj.or.jp/mooc/>

◇数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアム

リテラシーレベルモデルカリキュラム対応教材：<http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/e-learning.html>

応用基礎レベルモデルカリキュラム対応教材：[http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/e-](http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/e-learning_ouyoukiso)

[learning\\_ouyoukiso](http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/e-learning_ouyoukiso)

### その他 / Others

・高校数学(I・A・II・B)の基礎を前提として授業を行う。高校数学の内容は必要に応じて各自で予習・復習してください。

・授業では，ウェブブラウザ上で使用できる Google Colaboratory を用いた Python のプログラミングとデータ

サイエンスの基礎に加えて、現実の経済データを用いた実践的な分析も行う。

- ・ネットワークに接続できるノートパソコンを授業に持参してください。
- ・他学部の学生の受講も歓迎する。

# 機械学習入門

Introduction to Machine Learning

正田 備也 (MASADA TOMONARI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX584  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2310  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この授業では、機械学習に関する基本的な話題の学習を通じて、機械学習の可能性と限界を理解することを目標とする。さらに、機械学習の実装に不可欠である Python プログラミングの基礎の習得も目標とする。

This course provides the elementary topics of machine learning and aims to explain the potential and the limitations of machine learning. Additionally, the course aims to provide an introduction to Python programming required for implementing machine learning applications.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業は機械学習と人工知能に関する以下のような基本的な話題をカバーしている。

- 機械に学習させるということは何を意味するのか？
- Python のプログラムを書くことでどのようにして機械に学習させることができるのか？
- 機械に学習させることでどのような問題が解けるようになるのか？

This course covers basic topics in machine learning and artificial intelligence including:

- 1) What does it mean to make machines learn?
- 2) How can we make machines learn by writing Python codes?

3) What problem can we solve by making machines learn?

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：Python プログラミング（1）
- 3回：Python プログラミング（2）
- 4回：Python プログラミング（3）
- 5回：Python による数値計算（1）
- 6回：Python による数値計算（2）
- 7回：Python による可視化
- 8回：機械学習とは何か
- 9回：線形回帰（1）
- 10回：線形回帰（2）
- 11回：ロジスティック回帰
- 12回：SVM（1）
- 13回：SVM（2）
- 14回：ニューラルネットワーク

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に適宜指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内の複数回の課題:50%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

須藤秋良 『スッキリわかる Python による機械学習入門』 インプレス 2020/11/10 9784295009948

森 巧尚 『Python3 年生 機械学習のしくみ 体験してわかる! 会話でまなべる!』 翔泳社 2021/12/6

9784798166575

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

パソコン上で自分自身で毎週のようにプログラムを書くことに抵抗感・苦手感がないこと。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ブラウザ上で、プログラミングの環境として Google Colabolartory を使いつつ Python のプログラミングを書くため、授業が対面で行われる場合は、ノート PC を持参すること。

### その他 / Others

授業で使う Python プログラムは、以下の github リポジトリとして公開している。

<https://github.com/tomonari-masada/course2024-intro2ml>

機械学習に関する予備知識は必要ない。ただし、授業内容に Python プログラミングが含まれており、課題も

出るため、単位を取得するためには Python でプログラムを書けるようになることが必須である。授業内で使うプログラムの内容は、上の URL で確認できる。

筆記試験では、Python のプログラミングの問題が出題される

# Short-term Study Abroad Program in Economics (USA)

Short-term Study Abroad Program in Economics (USA)

英語による北米研究

山本 周吾 (YAMAMOTO SHUGO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX591
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	6
科目ナンバリング：	ECX9053
使用言語：	その他
授業形式：	その他
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

学生が国際的な場面で活躍するために必要となる以下のスキルを身につけることを目的とする。

- 経済・経営について英語で議論できる語学力を養成
- 異文化コミュニケーションに関する知識とそれを実践する能力の育成

To acquire the following skills for understanding economies and cultures in United States.

- The ability to discuss the economy and business in English
- The ability to understand and adapt to multicultural societies

## 授業の内容 / Course Contents

プログラムは、日本での事前研修、アメリカにおける海外研修、帰国後の最終レポートの提出によって構成される。

- 事前研修（100分×14回程度）：北米地域の経済、経営、文化等に関する事前学習、ほか
- 海外研修：2024年8月11日(日)～9月2日(月) [予定]
  - 英語による経済・経営に関する講義およびプレゼンテーション演習

・地域経済視察、企業見学

なお、海外研修中の使用言語は全て英語となる。

In the spring semester class, as preparatory learning, students will read and listen materials about the economy and company management in the United States. Also, students will study English writing and conversation skills. While studying in the United States, student will join in an experiential learning class at Portland State University. Here, students typically rotate between one day of typical class and then a “Field Study” excursion. The students will give a presentation on their research projects during the final week.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：基礎知識の習得①
- 3 回：基礎知識の習得②
- 4 回：基礎知識の習得③
- 5 回：プレゼンテーションスキルの習得①
- 6 回：プレゼンテーションスキルの習得②
- 7 回：ライティングスキル①
- 8 回：ライティングスキル②
- 9 回：米国の経済・ビジネスについて①
- 10 回：米国の経済・ビジネスについて②
- 11 回：リサーチ・プロジェクト準備学習①
- 12 回：リサーチ・プロジェクト準備学習②
- 13 回：プレゼンテーション：事前準備の成果の発表
- 14 回：米国、ポートランドに関する事前ガイダンス

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

プレゼンテーションの準備等で授業時間外での学習が発生する。また、日常的に英文の読解力や、リスニング能力を鍛える意識を強くもってほしい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 事前研修の出席・参加状況:10% 海外研修における成績:50% ビジネスプロジェクト（プレゼンテーション）:20% 最終レポート（帰国後に提出する）:20%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

### その他 / Others

教科書や参考図書は受講生と相談しながら、適切なレベルのものを指示する。

# Short-term Study Abroad Program in Economics (AUS)

Short-term Study Abroad Program in Economics (AUS)

小澤 康裕／ウォン, リオン (OZAWA MICHIIHIRO/ WONG LEON)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX593
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	6
科目ナンバリング：	ECX9053
使用言語：	その他
授業形式：	その他
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

南半球の異文化の中で、語学研修、企業/事業所訪問、リサーチ・プロジェクト、ホームステイ等を通じて、視野を広げるとともに、行動力を身につけることを目標とする。

The objective is for students to widen their perspective and acquire the ability to take action while studying language, visiting companies, conducting research work, experiencing homestay, etc., in a different culture in the Southern Hemisphere.

## 授業の内容 / Course Contents

秋学期の授業時間中は、映像資料を用いた経済学の反転授業や英語で自己紹介する練習等を行い、英語に触れながらシドニーでの研修の準備を行う。また、リサーチ・プロジェクトの準備作業も進める。2月～3月に行われるシドニーでの3週間の研修中は、午前中はシドニー大学（予定）においてレベル別の語学研修を行い、午後は英語でのプレゼンテーション指導、シドニー立教会の紹介等による企業・事業所訪問やワークショップを実施する予定である。また、最終週にリサーチ・プロジェクトのプレゼンテーションを行う。「英語を使える」ことを目指す。

In the fall semester class, some flipped classrooms using video materials about Economics and practice



introducing yourself in English will be done to prepare students for studying in Sydney. Preparation work for a research project should be accomplished. During the study in Sydney, in the morning students will receive language training for their levels at the University of Sydney, and then in the afternoon, they will visit businesses through introductions by the Sydney Alumni Chapter of Rikkyo Alumni Association and others. In addition, the students will give a presentation on their research projects during the final week. The aim is “to be able to use English.”

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション・自己紹介
- 2回：自分について英語で語る
- 3回：英語表現を考えるグループワーク（1）
- 4回：経済学を英語で学ぶ<反転授業>（1）
- 5回：シドニーについて知る/ゲストスピーカー（1）
- 6回：シドニー大学での研修に関するガイダンス（1）
- 7回：英語表現を考えるグループワーク（2）
- 8回：経済学を英語で学ぶ<反転授業>（2）
- 9回：リサーチ・プロジェクト準備学習
- 10回：シドニー大学での研修のための事前テスト
- 11回：英語表現を考えるグループワーク（3）
- 12回：経済学を英語で学ぶ<反転授業>（3）
- 13回：シドニー大学での全般に関するガイダンス（2）
- 14回：出発直前ガイダンス

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

反転授業のために映像資料（英語による経済学入門）で事前に予習する必要がある。リサーチ・プロジェクトについては、事前準備として「リサーチシート」の提出を求める。また、別途、基礎的な英語力を高めるための補助教材（REO等）についても利用を薦める。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% プレゼンテーションの準備及び最終評価:30% 秋学期中の事前講義への積極的参加と貢献:30% 研修先での語学クラスの評価:30% 企業訪問等への積極的参加と貢献:10%

（本学及びシドニーにおける）全ての授業に出席すること。4回以上の遅刻や欠席はD評価となる可能性がある。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

高橋瞳 『日本入門』 小学館 2014

### その他 / Others

受講登録にあたっては事前の説明会等に参加し、プログラム費用や内容等を確認してください。

なお、シドニー出身の Leon Wong 先生との共同講義のため、事前研修中も英語を多く使用します。

## ゼミナール A

### Seminar A

経済データに基づく実証分析を伴うレポートの作成

櫻本 健 (SAKURAMOTO TAKESHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX601
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX2020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

経済統計を利用した分析手法を学び、優れた論文・レポート作成を行う

To learn the analytical methods used for economic statistics and to write excellent academic papers and reports.

### 授業の内容 / Course Contents

体系的な経済統計の成り立ちと知識を身に付けて専門的な文書の作成を行う。社会調査士資格に必要な授業の後、授業は5つの機会(①実証分析を演習を通じて学ぶ時間、②学外の論文大会への挑戦コンテスト、懸賞論文他)、③資料の作成とプレゼンの実践、④論文作成や分析を試行錯誤する時間(論文・レポート作成)、⑤資格の取得)を組み合わせる。

The students will gain knowledge about and the ability to use systematic economic statistics to write professional papers. This class consists of 5 opportunities (① Time to learn through practice of empirical analysis, ② Challenge to contribute student papers to academic paper contests outside the school, essay contests, etc.), ③ Practice making materials and giving presentations, ④ Time for trial and error for academic paper writing and analysis (write academic papers and book reviews), and ⑤ Acquire certification).

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：授業概要ガイダンス、輪読本の選定
- 2回：アンケートの実施方法1
- 3回：アンケートの実施方法2
- 4回：アンケートの実施方法3
- 5回：アンケートのテーマ設計1
- 6回：アンケートのテーマ設計2
- 7回：Google Formによるアンケート集計・作表、アンケート調査票の設計1
- 8回：アンケート調査票の設計2
- 9回：アンケート調査票の設計3、集計結果の検討
- 10回：専門書輪読、実証分析演習1
- 11回：専門書輪読、実証分析演習2
- 12回：専門書輪読、実証分析演習3
- 13回：専門書輪読、実証分析演習4
- 14回：専門書輪読、実証分析演習5
- 15回：論文テーマ・概要報告、討論1
- 16回：論文テーマ・概要報告、討論2
- 17回：論文テーマ・概要報告、討論3
- 18回：プレゼン・論文報告、集中討論1
- 19回：プレゼン・論文報告、集中討論2
- 20回：プレゼン・論文報告、集中討論3
- 21回：プレゼン・論文報告、集中討論4
- 22回：プレゼン・論文報告、集中討論5
- 23回：プレゼン・論文報告、集中討論6
- 24回：プレゼン・論文報告、集中討論7
- 25回：専門書輪読、実証分析演習6
- 26回：プレゼン・論文報告、集中討論8
- 27回：卒業論文報告会
- 28回：専門書輪読、実証分析演習7

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

配布する資料・テキストは目を通して頭に入れておくこと。輪読準備、プレゼン資料、レポート・論文の作成、キャリアセンターや社会情報教育センターセミナー・ガイダンスへの参加、学外施設の見学等がある。統計検定2級の資格実績がない場合、統計検定への受験を勧めている。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点割合 :100% 報告とレジュメ:30% 学外大会・セミナーへの参加・ゼミへの貢献、その他:30%  
最終レポート割合 :40%

原則として欠席 6 回以上は単位修得できない。出席した上で課題への積極性を求める。

### テキスト/ Textbooks

目的に応じてテキストや文献を使い分けるので、ゼミ時間に相談して決める。

### 参考文献 / Readings

金井 雅之 (編集), 渡邊 大輔 (編集), 小林 盾 (編集) 社会調査の応用—量的調査編:社会調査士 E・G 科目対応 弘文堂 2012 9784335551512

岸 政彦 (著), 石岡 丈昇 (著), 丸山 里美 (著) 質的社会調査の方法 -- 他者の合理性の理解社会学 有斐閣 2016 9784641150379

社会情報教育研究センターコンテンツ(特に『日本の公的統計・統計調査』で、学生であれば同センターで本を利用可能)、統計検定各種テキスト、経済統計・計量経済学各種テキスト

### その他/ Others

統計関連科目、情報処理科目はできるだけ履修すること。この授業は社会調査士資格 G 科目認定講座で、統計検定 2 級、3 級、統計調査士の関連科目である。資格取得を推奨する。この授業のほかいくつかの科目の単位を修得後申請すると、社会調査士資格が得られる。その他、授業統計検定と統計調査士に受かるよう対策を案内する。

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

### Seminar B

経済データに基づく実証分析を伴うレポートの作成

櫻本 健 (SAKURAMOTO TAKESHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX602
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX4020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

経済統計を利用した分析手法を学び、優れた論文・レポート作成を行う

To learn the analytical methods used for economic statistics and to write excellent academic papers and reports.

### 授業の内容 / Course Contents

体系的な経済統計の成り立ちと知識を身に付けて専門的な文書の作成を行う。社会調査士資格に必要な授業の後、授業は5つの機会(①実証分析を演習を通じて学ぶ時間、②学外の論文大会への挑戦コンテスト、懸賞論文他)、③資料の作成とプレゼンの実践、④論文作成や分析を試行錯誤する時間(論文・レポート作成)、⑤資格の取得)を組み合わせる。

The students will gain knowledge about and the ability to use systematic economic statistics to write professional papers. This class consists of 5 opportunities (① Time to learn through practice of empirical analysis, ② Challenge to contribute student papers to academic paper contests outside the school, essay contests, etc.), ③ Practice making materials and giving presentations, ④ Time for trial and error for academic paper writing and analysis (write academic papers and book reviews), and ⑤ Acquire certification).

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：授業概要ガイダンス、輪読本の選定
- 2回：アンケートの実施方法1
- 3回：アンケートの実施方法2
- 4回：アンケートの実施方法3
- 5回：アンケートのテーマ設計1
- 6回：アンケートのテーマ設計2
- 7回：Google Formによるアンケート集計・作表、アンケート調査票の設計1
- 8回：アンケート調査票の設計2
- 9回：アンケート調査票の設計3、集計結果の検討
- 10回：専門書輪読、実証分析演習1
- 11回：専門書輪読、実証分析演習2
- 12回：専門書輪読、実証分析演習3
- 13回：専門書輪読、実証分析演習4
- 14回：専門書輪読、実証分析演習5
- 15回：論文テーマ・概要報告、討論1
- 16回：論文テーマ・概要報告、討論2
- 17回：論文テーマ・概要報告、討論3
- 18回：プレゼン・論文報告、集中討論1
- 19回：プレゼン・論文報告、集中討論2
- 20回：プレゼン・論文報告、集中討論3
- 21回：プレゼン・論文報告、集中討論4
- 22回：プレゼン・論文報告、集中討論5
- 23回：プレゼン・論文報告、集中討論6
- 24回：プレゼン・論文報告、集中討論7
- 25回：専門書輪読、実証分析演習6
- 26回：プレゼン・論文報告、集中討論8
- 27回：卒業論文報告会
- 28回：専門書輪読、実証分析演習7

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

配布する資料・テキストは目を通して頭に入れておくこと。輪読準備、プレゼン資料、レポート・論文の作成、キャリアセンターや社会情報教育センターセミナー・ガイダンスへの参加、学外施設の見学等がある。統計検定2級の資格実績がない場合、統計検定への受験を勧めている。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点割合 :100% 報告とレジュメ:30% 学外大会・セミナーへの参加・ゼミへの貢献、その他:30%  
最終レポート割合 :40%

原則として欠席 6 回以上は単位修得できない。出席した上で課題への積極性を求める。

### テキスト/ Textbooks

目的に応じてテキストや文献を使い分けるので、ゼミ時間に相談して決める。

### 参考文献 / Readings

金井 雅之 (編集), 渡邊 大輔 (編集), 小林 盾 (編集) 社会調査の応用—量的調査編:社会調査士 E・G 科目対応 弘文堂 2012 9784335551512

岸 政彦 (著), 石岡 丈昇 (著), 丸山 里美 (著) 質的社会調査の方法 -- 他者の合理性の理解社会学 有斐閣 2016 9784641150379

社会情報教育研究センターコンテンツ(特に『日本の公的統計・統計調査』で、学生であれば同センターで本を利用可能)、統計検定各種テキスト、経済統計・計量経済学各種テキスト

### その他/ Others

統計関連科目、情報処理科目はできるだけ履修すること。この授業は社会調査士資格 G 科目認定講座で、統計検定 2 級、3 級、統計調査士の関連科目である。資格取得を推奨する。この授業のほかいくつかの科目の単位を修得後申請すると、社会調査士資格が得られる。その他、授業統計検定と統計調査士に受かるよう対策を案内する。

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。



## ゼミナール A

### Seminar A

持続可能な農業・食料システムに関する経済・政策研究

大山 利男 (OYAMA TOSHIO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX604
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX2020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

農業・食料問題について自ら問題意識を持ち、調査研究をとりまとめて発表、議論できる能力を身につけることを目標とする。

The objective of this course is to acquire the ability to research, present, and discuss the questions on agriculture and food issue with socio-economic approach.

### 授業の内容 / Course Contents

農業は、食料安全保障という点で重要な産業であり、社会的、文化的、環境等の点においても重要な役割を果たしているが、課題も少なくない。本年度の共通テーマはひき続き「持続可能な農業・食料システムの 2030 年・2050 年目標」を考えることである。

春学期は、共通テーマに沿って基本文献の輪読により基礎知識の修得と論点整理を行う。またグループ研究の準備として文献サーベイをすすめる。

秋学期は、グループ研究の報告、論文を作成する。またディベートにより、農業・食料問題に関する理解を深め、発表スキル、論理展開、対応力など高いレベルの能力を身につける。

Agriculture is an important industry in terms of food security, and plays an important role in terms of social,

cultural and environmental aspects, but it also faces many challenges. The main theme of this year is to continue to think about 2030 and 2050 goals for sustainable agriculture and food systems.

In the spring semester, students acquire basic knowledge by reading basic literature, and organize collective research project.

In the fall semester, students will write research reports and papers. And, through debates, students acquire high-level skills such as presentation and discussion.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：輪読
- 3回：輪読
- 4回：輪読
- 5回：ゲスト講演
- 6回：グループ研究（事前・予備報告）
- 7回：グループ研究（事前・予備報告）
- 8回：輪読
- 9回：輪読
- 10回：輪読
- 11回：輪読
- 12回：グループ研究（準備報告）
- 13回：グループ研究（準備報告）
- 14回：グループ研究（準備報告）
- 15回：グループ研究（調査報告）
- 16回：グループ研究（調査報告）
- 17回：グループ研究（調査報告）
- 18回：ディベート
- 19回：ディベート
- 20回：ディベート
- 21回：ディベート
- 22回：ゲスト講演
- 23回：個人研究（中間報告）
- 24回：個人研究（中間報告）
- 25回：個人研究（中間報告）
- 26回：個人研究（最終報告）
- 27回：個人研究（最終報告）
- 28回：個人研究（最終報告）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

ゼミでの学習効果を高めるため、参考文献や事前学習、準備内容について随時指示する。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点割合 :100% プレゼンテーション:40% 授業期間内のレポート:30% 最終レポート:30%

**テキスト / Textbooks**

未定

**参考文献 / Readings**

未定

**その他 / Others**

農林水産省『食料・農業・農村白書』

(<http://www.maff.go.jp/j/wpaper/index.html>)

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

### Seminar B

持続可能な農業・食料システムに関する経済・政策研究

大山 利男 (OYAMA TOSHIO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX605
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX4020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

農業・食料問題について自ら問題意識を持ち、調査研究をとりまとめて発表、議論できる能力を身につけることを目標とする。

The objective of this course is to acquire the ability to research, present, and discuss the questions on agriculture and food issue with socio-economic approach.

### 授業の内容 / Course Contents

農業は、食料安全保障という点で重要な産業であり、社会的、文化的、環境等の点においても重要な役割を果たしているが、課題も少なくない。本年度の共通テーマはひき続き「持続可能な農業・食料システムの 2030 年・2050 年目標」を考えることである。

春学期は、共通テーマに沿って基本文献の輪読により基礎知識の修得と論点整理を行う。またグループ研究の準備として文献サーベイをすすめる。

秋学期は、グループ研究の報告、論文を作成する。またディベートにより、農業・食料問題に関する理解を深め、発表スキル、論理展開、対応力など高いレベルの能力を身につける。

Agriculture is an important industry in terms of food security, and plays an important role in terms of social,

cultural and environmental aspects, but it also faces many challenges. The main theme of this year is to continue to think about 2030 and 2050 goals for sustainable agriculture and food systems.

In the spring semester, students acquire basic knowledge by reading basic literature, and organize collective research project.

In the fall semester, students will write research reports and papers. And, through debates, students acquire high-level skills such as presentation and discussion.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：輪読
- 3回：輪読
- 4回：輪読
- 5回：ゲスト講演
- 6回：グループ研究（事前・予備報告）
- 7回：グループ研究（事前・予備報告）
- 8回：輪読
- 9回：輪読
- 10回：輪読
- 11回：輪読
- 12回：グループ研究（準備報告）
- 13回：グループ研究（準備報告）
- 14回：グループ研究（準備報告）
- 15回：グループ研究（調査報告）
- 16回：グループ研究（調査報告）
- 17回：グループ研究（調査報告）
- 18回：ディベート
- 19回：ディベート
- 20回：ディベート
- 21回：ディベート
- 22回：ゲスト講演
- 23回：個人研究（中間報告）
- 24回：個人研究（中間報告）
- 25回：個人研究（中間報告）
- 26回：個人研究（最終報告）
- 27回：個人研究（最終報告）
- 28回：個人研究（最終報告）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

ゼミでの学習効果を高めるため、参考文献や事前学習、準備内容について随時指示する。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点割合 :100% プレゼンテーション:40% 授業期間内のレポート:30% 最終レポート:30%

**テキスト / Textbooks**

未定

**参考文献 / Readings**

未定

**その他 / Others**

農林水産省『食料・農業・農村白書』

(<http://www.maff.go.jp/j/wpaper/index.html>)

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール A

### Seminar A

日本の企業・産業の歴史を探究する

島西 智輝 (SHIMANISHI TOMOKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX607
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX2020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

日本の経営史を学ぶことを通して、問題発見能力、問題解決能力、文章表現能力、口頭発表能力を身につける。

The objective of this course is for students to develop problem recognition skills, problem solving skills, writing skills, and oral presentation skills by learning about the Japanese business history.

### 授業の内容 / Course Contents

日本の経営史は、現代の日本経済・企業を分析するうえでも様々な興味深い事実や視点を提供してくれる。本ゼミナールでは、1年次に習得したスキルを活用して、以下の内容を実施する。

- 日本の経営史に関する基礎的・概説的な文献を輪読、ディスカッションする。
- 上記に関連するテーマでグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションを行う。

The Japanese business history provides many deeply interesting facts and perspectives for analyzing contemporary Japanese economy and business. In this seminar, students apply the skills they learned in their 1st year and do the following.

1. Take turns reading fundamental outlines of the Japanese business history.

2. Do presentations, fieldwork, and group work related to the above given topics.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：春学期オリエンテーション
- 2回：経営史に関する文献講読①
- 3回：経営史に関する文献講読②
- 4回：経営史に関する文献講読③
- 5回：経営史に関する文献講読④
- 6回：経営史に関する文献講読⑤
- 7回：経営史に関する文献講読⑥
- 8回：文献講読の振り返り
- 9回：フィールドワーク準備①
- 10回：フィールドワーク準備②
- 11回：フィールドワーク
- 12回：フィールドワークのプレゼンテーション①
- 13回：フィールドワークのプレゼンテーション②
- 14回：春学期の振り返り
- 15回：秋学期オリエンテーション
- 16回：経営史に関する論文論評①
- 17回：経営史に関する論文論評②
- 18回：経営史に関する論文論評③
- 19回：経営史に関する論文論評④
- 20回：個人研究課題の探索
- 21回：フィールドワーク準備
- 22回：フィールドワーク
- 23回：フィールドワークのプレゼンテーション①
- 24回：フィールドワークのプレゼンテーション②
- 25回：個人研究課題に関する報告①
- 26回：個人研究課題に関する報告②
- 27回：個人研究課題に関する報告③
- 28回：秋学期の振り返り

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各課題について、ゼミ以外の時間に事前・事後学修を行うこと。事前学修は60分以上、事後学修は30分以上を目安とする。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点割合：100% 授業への参加度合い：30% 担当部分の発表内容：40% 議論やフィールドワークでの活動



度合い:30%

### テキスト/ Textbooks

授業中に適宜指示する。

### 参考文献 / Readings

平井健介・島西智輝・岸田真 『ハンドブック日本経済史』 ミネルヴァ書房 2021 4623091945

経営史学会編 『経営史学の歩みを聴く』 文真堂 2014 4830948302

経営史学会編 『日本経営史の基礎知識』 有斐閣 2004 4641183104

### その他/ Others

フィールドワークが困難な社会状況の場合、映画・ドキュメンタリー等を利用したグループワークに変更することがある。

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

### Seminar B

日本の企業・産業の歴史を探究する

島西 智輝 (SHIMANISHI TOMOKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX608
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX4020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

日本の経営史を学ぶことを通して、問題発見能力、問題解決能力、文章表現能力、口頭発表能力を身につける。

The objective of this course is for students to develop problem recognition skills, problem solving skills, writing skills, and oral presentation skills by learning about the Japanese business history.

### 授業の内容 / Course Contents

日本の経営史は、現代の日本経済・企業を分析するうえでも様々な興味深い事実や視点を提供してくれる。本ゼミナールでは、1年次に習得したスキルを活用して、以下の内容を実施する。

- 日本の経営史に関する基礎的・概説的な文献を輪読、ディスカッションする。
- 上記に関連するテーマでグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションを行う。

The Japanese business history provides many deeply interesting facts and perspectives for analyzing contemporary Japanese economy and business. In this seminar, students apply the skills they learned in their 1st year and do the following.

1. Take turns reading fundamental outlines of the Japanese business history.

2. Do presentations, fieldwork, and group work related to the above given topics.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：春学期オリエンテーション
- 2回：経営史に関する文献講読①
- 3回：経営史に関する文献講読②
- 4回：経営史に関する文献講読③
- 5回：経営史に関する文献講読④
- 6回：経営史に関する文献講読⑤
- 7回：経営史に関する文献講読⑥
- 8回：文献講読の振り返り
- 9回：フィールドワーク準備①
- 10回：フィールドワーク準備②
- 11回：フィールドワーク
- 12回：フィールドワークのプレゼンテーション①
- 13回：フィールドワークのプレゼンテーション②
- 14回：春学期の振り返り
- 15回：秋学期オリエンテーション
- 16回：経営史に関する論文論評①
- 17回：経営史に関する論文論評②
- 18回：経営史に関する論文論評③
- 19回：経営史に関する論文論評④
- 20回：個人研究課題の探索
- 21回：フィールドワーク準備
- 22回：フィールドワーク
- 23回：フィールドワークのプレゼンテーション①
- 24回：フィールドワークのプレゼンテーション②
- 25回：個人研究課題に関する報告①
- 26回：個人研究課題に関する報告②
- 27回：個人研究課題に関する報告③
- 28回：秋学期の振り返り

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各課題について、ゼミ以外の時間に事前・事後学修を行うこと。事前学修は60分以上、事後学修は30分以上を目安とする。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点割合：100% 授業への参加度合い：30% 担当部分の発表内容：40% 議論やフィールドワークでの活動

割合:30%

### テキスト/ Textbooks

授業中に適宜指示する。

### 参考文献 / Readings

平井健介・島西智輝・岸田真 『ハンドブック日本経済史』 ミネルヴァ書房 2021 4623091945

経営史学会編 『経営史学の歩みを聴く』 文真堂 2014 4830948302

経営史学会編 『日本経営史の基礎知識』 有斐閣 2004 4641183104

### その他/ Others

フィールドワークが困難な社会状況の場合、映画・ドキュメンタリー等を利用したグループワークに変更することがある。

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール A

Seminar A

中国の産業発展と企業経営

(Industrial Development and Corporate Management in China )

藤本 典嗣 (FUJIMOTO NORITSUGU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX611  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX2020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

中国経済の成長と発展を支える産業と企業のダイナミズムを理解し、その実態を把握する。中国現地企業の訪問調査を企画・実施することを通じて、グローバル経営を行っている日系企業が新卒者に求める即戦力（思考力、企画力、推進力、コミュニケーション力など）を養うことを目標とする。

To understand the dynamism of the industries and companies that support the growth and development of the Chinese economy and to grasp their situations. The objective of this course is to plan and conduct visit interviews of companies to foster the skills needed by new graduates to contribute immediately in Japanese multinationals (thinking ability, planning ability, ability to drive the work forward, communication ability, etc.).

### 授業の内容 / Course Contents

このゼミでは、中国経済のミクロ的な側面、とりわけ産業と企業の発展を理論的、実証的に把握するため、文献資料の学習と企業調査の実践を組み合わせる。具体的に、第一段階では、中国の産業発展と企業成長について分析した文献（テキスト）を精読することを通じて、基本的な知識を習得する。第二段階では、中国現地での企業訪問調査に関する企画（テーマと内容の設定、産業と企業の選定、グループ分け等）を立て、夏休み期

間中に実施する。第三段階では、中国現地での企業訪問調査の成果をまとめた報告書を作成し、プレゼンテーションを行う（グループ別の共同作業）。第四段階（3、4年生）では、現地企業の訪問調査と報告書の作成過程で明らかになった学習・研究課題を念頭に、中国の産業発展と企業経営に関連するテーマを設定し、研究分析し、最終レポートをまとめる。

This seminar combines the study of literature and practice of company studies to understand the Chinese economy from the micro perspective and especially to theoretically and empirically grasp the development of industries and companies. Specifically, during the first stage students will carefully read literature (textbook) analyzing Chinese industry development and company growth to gain basic knowledge. During the second stage students will prepare plans for company visit studies in China (set the theme and contents, select the industries and companies, divide into groups, etc.) and conduct these during the summer vacation period. During the third stage students will write their reports of the results of the company visit studies conducted in China and give related presentations (joint work by groups). During the fourth stage (3rd and 4th year students) the students will set their themes regarding Chinese industry development and company management keeping in mind the study and research issues they identified during the process of conducting the local company visit studies and creating their reports and then conduct the research and analysis and compile their final reports.

#### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：文献輪読①
- 3回：文献輪読②
- 4回：文献輪読③
- 5回：文献輪読④
- 6回：文献輪読⑤
- 7回：文献輪読⑥
- 8回：文献輪読⑦
- 9回：文献輪読⑧
- 10回：中国現地企業調査の課題（産業、テーマ）の選定①
- 11回：中国現地企業調査の課題（産業、テーマ）の選定②
- 12回：中国現地での企業調査計画の作成①
- 13回：中国現地での企業調査計画の作成②
- 14回：中国現地での企業訪問・調査スケジュールの最終確定（春学期の最終回）
- 15回：企業訪問・調査①（夏休み期間中に実施）
- 16回：企業訪問・調査②（夏休み期間中に実施）
- 17回：企業訪問・調査③（夏休み期間中に実施）
- 18回：中国現地での企業調査報告の準備（プレゼンテーション資料の作成）①
- 19回：中国現地での企業調査報告の準備（プレゼンテーション資料の作成）②
- 20回：中国現地での企業調査報告の準備（プレゼンテーション資料の作成）③
- 21回：報告書の発表（プレゼンテーション）
- 22回：報告書の発表（プレゼンテーション）
- 23回：報告書の発表（プレゼンテーション）
- 24回：報告書の発表（プレゼンテーション）
- 25回：中国企業、産業発展に関する調査報告レポートの作成

- 26 回：中国企業、産業発展に関する調査報告レポートの作成  
 27 回：中国企業、産業発展に関する調査報告レポートの作成  
 28 回：総括（秋学期最終回）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日本経済新聞における本授業のテーマに関連する記事を日常的にチェックすることが望ましい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点割合 :100% レジュメ発表/プレゼンテーション:50% 海外調査への取り組み/全体議論への参加度  
 合:50%

### テキスト / Textbooks

鈴木洋太郎 『国際産業立地論への招待』 新評論 2018  
 丸川知雄 『現代中国経済』 有斐閣 2021

### 参考文献 / Readings

巖成男 『中国の経済発展と制度変化』 京都大学学術出版会 2011  
 加藤弘之・梶谷懐 『二重の罟を超えて進む中国型資本主義』 ミネルヴァ書房 2016  
 渡邊真理子編著 『中国の産業はどのように発展してきたか』 勁草書房 2013

### その他 / Others

2 年生は、夏休み期間中に中国に赴き、現地企業の訪問調査を行う。期間は約 1 週間、費用は 15 万円程度を予定している。現地企業調査には、原則すべてのゼミ生の参加を求める。

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

### Seminar B

中国の産業発展と企業経営

(Industrial Development and Corporate Management in China )

藤本 典嗣 (FUJIMOTO NORITSUGU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX612
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX4020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

中国経済の成長と発展を支える産業と企業のダイナミズムを理解し、その実態を把握する。中国現地企業の訪問調査を企画・実施することを通じて、グローバル経営を行っている日系企業が新卒者に求める即戦力（思考力、企画力、推進力、コミュニケーション力など）を養うことを目標とする。

To understand the dynamism of the industries and companies that support the growth and development of the Chinese economy and to grasp their situations. The objective of this course is to plan and conduct visit interviews of companies to foster the skills needed by new graduates to contribute immediately in Japanese multinationals (thinking ability, planning ability, ability to drive the work forward, communication ability, etc.).

### 授業の内容 / Course Contents

このゼミでは、中国経済のミクロ的な側面、とりわけ産業と企業の発展を理論的、実証的に把握するため、文献資料の学習と企業調査の実践を組み合わせる。具体的に、第一段階では、中国の産業発展と企業成長について分析した文献（テキスト）を精読することを通じて、基本的な知識を習得する。第二段階では、中国現地での企業訪問調査に関する企画（テーマと内容の設定、産業と企業の選定、グループ分け等）を立て、夏休み期



間中に実施する。第三段階では、中国現地での企業訪問調査の成果をまとめた報告書を作成し、プレゼンテーションを行う（グループ別の共同作業）。第四段階（3、4年生）では、現地企業の訪問調査と報告書の作成過程で明らかになった学習・研究課題を念頭に、中国の産業発展と企業経営に関連するテーマを設定し、研究分析し、最終レポートをまとめる。

This seminar combines the study of literature and practice of company studies to understand the Chinese economy from the micro perspective and especially to theoretically and empirically grasp the development of industries and companies. Specifically, during the first stage students will carefully read literature (textbook) analyzing Chinese industry development and company growth to gain basic knowledge. During the second stage students will prepare plans for company visit studies in China (set the theme and contents, select the industries and companies, divide into groups, etc.) and conduct these during the summer vacation period. During the third stage students will write their reports of the results of the company visit studies conducted in China and give related presentations (joint work by groups). During the fourth stage (3rd and 4th year students) the students will set their themes regarding Chinese industry development and company management keeping in mind the study and research issues they identified during the process of conducting the local company visit studies and creating their reports and then conduct the research and analysis and compile their final reports.

#### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：文献輪読①
- 3回：文献輪読②
- 4回：文献輪読③
- 5回：文献輪読④
- 6回：文献輪読⑤
- 7回：文献輪読⑥
- 8回：文献輪読⑦
- 9回：文献輪読⑧
- 10回：中国現地企業調査の課題（産業、テーマ）の選定①
- 11回：中国現地企業調査の課題（産業、テーマ）の選定②
- 12回：中国現地での企業調査計画の作成①
- 13回：中国現地での企業調査計画の作成②
- 14回：中国現地での企業訪問・調査スケジュールの最終確定（春学期の最終回）
- 15回：企業訪問・調査①（夏休み期間中に実施）
- 16回：企業訪問・調査②（夏休み期間中に実施）
- 17回：企業訪問・調査③（夏休み期間中に実施）
- 18回：中国現地での企業調査報告の準備（プレゼンテーション資料の作成）①
- 19回：中国現地での企業調査報告の準備（プレゼンテーション資料の作成）②
- 20回：中国現地での企業調査報告の準備（プレゼンテーション資料の作成）③
- 21回：報告書の発表（プレゼンテーション）
- 22回：報告書の発表（プレゼンテーション）
- 23回：報告書の発表（プレゼンテーション）
- 24回：報告書の発表（プレゼンテーション）
- 25回：中国企業、産業発展に関する調査報告レポートの作成

- 26 回：中国企業、産業発展に関する調査報告レポートの作成  
 27 回：中国企業、産業発展に関する調査報告レポートの作成  
 28 回：総括（秋学期最終回）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日本経済新聞における本授業のテーマに関連する記事を日常的にチェックすることが望ましい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点割合 :100% レジュメ発表/プレゼンテーション:50% 海外調査への取り組み/全体議論への参加度  
 合:50%

### テキスト / Textbooks

鈴木洋太郎 『国際産業立地論への招待』 新評論 2018  
 丸川知雄 『現代中国経済』 有斐閣 2021

### 参考文献 / Readings

巖成男 『中国の経済発展と制度変化』 京都大学学術出版会 2011  
 加藤弘之・梶谷懐 『二重の罟を超えて進む中国型資本主義』 ミネルヴァ書房 2016  
 渡邊真理子編著 『中国の産業はどのように発展してきたか』 勁草書房 2013

### その他 / Others

2 年生は、夏休み期間中に中国に赴き、現地企業の訪問調査を行う。期間は約 1 週間、費用は 15 万円程度を予定している。現地企業調査には、原則すべてのゼミ生の参加を求める。

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール A

Seminar A

現代日本の労働問題

首藤 若菜 (SHUTO WAKANA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX614
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX2020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

日本の雇用状況を実証的、構造的に把握し、労働を手掛かりにして現代社会の変容を考察します。

To imperially and structurally assess the state of Japanese employment and consider the changes to contemporary society using labor as a hint.

### 授業の内容 / Course Contents

現代日本の社会変動を理解するうえで、労働問題は避けて通ることのできない重要なテーマです。たとえば少子化は、男女労働者の仕事と生活の両立こそが解決のカギだと言われます。格差や貧困の拡大は、非正規労働者の増加や賃金制度の変化が影響を及ぼしています。このゼミでは、広く労働にかかわる問題を取り上げ、議論し、労働を手掛かりに、現代社会の変容を考察していきます。

ゼミでは、関連する文献を輪読し、討議することに加え、ディベートも頻繁におこないます。それらにより、知識の獲得だけでなく、論理的な思考力、分析能力や伝達能力を鍛えていきます。また人間の営みである「労働」を知るためには、本を読むだけでなく、現場を歩き、当事者や関係者の話を聞くことも大切です。そのため、ゲストスピーカーの招聘や実態調査も実施します。

さらに年2回（春・秋学期）、他大学との合同ゼミに参加し、研究発表をおこないます。研究発表では、学

年を超えたグループを作り、グループごとに実態調査や統計分析などをおこないます。最後にはゼミ全体で一本の論文を作り上げていきます。

このゼミでは、こうした活動すべてをゼミ生主体で進めています。研究テーマの設定、企業への調査依頼と企業訪問、ゲストスピーカーの選定などは、学生自らが担います。ゼミの仲間と協力し合い、苦労を重ねながらも、共同で何かを作り上げていくことは、大きな達成感と自信につながるはずです。意欲的な学生の参加を期待しています。

The labor problem is an unavoidable theme in understanding the societal changes in contemporary Japan. For example, the key to solving the low birthrate problem is said to be having a good work/life balance for both male and female workers. The increase in non-regular workers and changes to the wage system are affecting the expansion of the income disparity and poverty. This seminar broadly addresses and discusses the problems related to labor and uses labor as a hint for considering the changes in contemporary society.

During the seminar students will read and discuss related literature and engage in frequent debates. In this way the students not only acquire knowledge, but strengthen their ability to think logically, conduct analysis, and communicate. In addition, to learn about “labor,” which is a human activity, it is important to not just read books but to also go onsite and talk to the people and other related parties. For this reason, guest speakers will be invited to class and actual conditions will be surveyed.

Further, twice a year (spring and fall semesters) students will participate in joint seminars with other universities and give research presentations. For the research presentations, groups will be formed of students from different class years and each group will conduct actual conditions surveys and statistical analysis. In conclusion, a single paper for the entire seminar will be prepared.

In this seminar, the students will be leading all of these activities. The students themselves will be in charge of setting the research themes, making study and visit requests to companies, selecting guest speakers, etc. Cooperating with seminar companions and working hard together to jointly create something leads to a great sense of achievement and confidence. The lecturer looks forward to ambitious students participating in this seminar.

#### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：春学期イントロダクション
- 2 回：輪読書報告&討論
- 3 回：輪読書報告&討論
- 4 回：ディベート
- 5 回：輪読書報告&討論
- 6 回：輪読書報告&討論
- 7 回：ディベート
- 8 回：輪読書報告&討論
- 9 回：グループ研究の調査分析
- 10 回：グループ研究の調査分析
- 11 回：グループ研究の中間報告&討論
- 12 回：グループ研究の調査分析
- 13 回：グループ研究の最終報告&討論
- 14 回：春学期総括
- 15 回：秋学期イントロダクション
- 16 回：輪読書報告&討論

- 17回：輪読書報告&討論  
 18回：ゲストスピーカーによる講演&討論  
 19回：輪読書報告&討論  
 20回：ディベート  
 21回：ディベート  
 22回：グループ研究の調査分析  
 23回：グループ研究の調査分析  
 24回：ゲストスピーカーによる講演&討論  
 25回：グループ研究の調査分析  
 26回：グループ研究の最終報告&討論  
 27回：卒業論文発表会  
 28回：卒業論文発表会&年度総括

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業のなかで、適宜指示します。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点割合：100% 授業参加度:20% 討論:30% グループ研究およびグループ論文への主体的参加(4年生は卒業論文):50%

#### テキスト / Textbooks

未定。授業時に指示します。

#### 参考文献 / Readings

課題に応じ、適宜紹介します。

#### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

Seminar B

現代日本の労働問題

首藤 若菜 (SHUTO WAKANA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX615
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX4020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

日本の雇用状況を実証的、構造的に把握し、労働を手掛かりにして現代社会の変容を考察します。

To imperially and structurally assess the state of Japanese employment and consider the changes to contemporary society using labor as a hint.

### 授業の内容 / Course Contents

現代日本の社会変動を理解するうえで、労働問題は避けて通ることのできない重要なテーマです。たとえば少子化は、男女労働者の仕事と生活の両立こそが解決のカギだと言われます。格差や貧困の拡大は、非正規労働者の増加や賃金制度の変化が影響を及ぼしています。このゼミでは、広く労働にかかわる問題を取り上げ、議論し、労働を手掛かりに、現代社会の変容を考察していきます。

ゼミでは、関連する文献を輪読し、討議することに加え、ディベートも頻繁におこないます。それらにより、知識の獲得だけでなく、論理的な思考力、分析能力や伝達能力を鍛えていきます。また人間の営みである「労働」を知るためには、本を読むだけでなく、現場を歩き、当事者や関係者の話を聞くことも大切です。そのため、ゲストスピーカーの招聘や実態調査も実施します。

さらに年2回（春・秋学期）、他大学との合同ゼミに参加し、研究発表をおこないます。研究発表では、学

年を超えたグループを作り、グループごとに実態調査や統計分析などをおこないます。最後にはゼミ全体で一本の論文を作り上げていきます。

このゼミでは、こうした活動すべてをゼミ生主体で進めています。研究テーマの設定、企業への調査依頼と企業訪問、ゲストスピーカーの選定などは、学生自らが担います。ゼミの仲間と協力し合い、苦勞を重ねながらも、共同で何かを作り上げていくことは、大きな達成感と自信につながるはずです。意欲的な学生の参加を期待しています。

The labor problem is an unavoidable theme in understanding the societal changes in contemporary Japan. For example, the key to solving the low birthrate problem is said to be having a good work/life balance for both male and female workers. The increase in non-regular workers and changes to the wage system are affecting the expansion of the income disparity and poverty. This seminar broadly addresses and discusses the problems related to labor and uses labor as a hint for considering the changes in contemporary society.

During the seminar students will read and discuss related literature and engage in frequent debates. In this way the students not only acquire knowledge, but strengthen their ability to think logically, conduct analysis, and communicate. In addition, to learn about "labor," which is a human activity, it is important to not just read books but to also go onsite and talk to the people and other related parties. For this reason, guest speakers will be invited to class and actual conditions will be surveyed.

Further, twice a year (spring and fall semesters) students will participate in joint seminars with other universities and give research presentations. For the research presentations, groups will be formed of students from different class years and each group will conduct actual conditions surveys and statistical analysis. In conclusion, a single paper for the entire seminar will be prepared.

In this seminar, the students will be leading all of these activities. The students themselves will be in charge of setting the research themes, making study and visit requests to companies, selecting guest speakers, etc. Cooperating with seminar companions and working hard together to jointly create something leads to a great sense of achievement and confidence. The lecturer looks forward to ambitious students participating in this seminar.

#### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：春学期イントロダクション
- 2回：輪読書報告&討論
- 3回：輪読書報告&討論
- 4回：ディベート
- 5回：輪読書報告&討論
- 6回：輪読書報告&討論
- 7回：ディベート
- 8回：輪読書報告&討論
- 9回：グループ研究の調査分析
- 10回：グループ研究の調査分析
- 11回：グループ研究の中間報告&討論
- 12回：グループ研究の調査分析
- 13回：グループ研究の最終報告&討論
- 14回：春学期総括
- 15回：秋学期イントロダクション
- 16回：輪読書報告&討論

- 17回：輪読書報告&討論  
 18回：ゲストスピーカーによる講演&討論  
 19回：輪読書報告&討論  
 20回：ディベート  
 21回：ディベート  
 22回：グループ研究の調査分析  
 23回：グループ研究の調査分析  
 24回：ゲストスピーカーによる講演&討論  
 25回：グループ研究の調査分析  
 26回：グループ研究の最終報告&討論  
 27回：卒業論文発表会  
 28回：卒業論文発表会&年度総括

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業のなかで、適宜指示します。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点割合 :100% 授業参加度:20% 討論:30% グループ研究およびグループ論文への主体的参加(4年生は卒業論文):50%

#### テキスト / Textbooks

未定。授業時に指示します。

#### 参考文献 / Readings

課題に応じ、適宜紹介します。

#### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。



## ゼミナール A

Seminar A

日本経済・日本経済史

西崎 純代 (NISHIZAKI SUMIYO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX617
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面（全回対面）/Face-to-face (all classes)
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX2020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

日本経済の発展の在り方と現状を考察します。関連分野の知識の蓄積、課題設定力、資料読解力、思考力、批判的・多角的分析力、フィードバックを受けとめ仮説をアップデートする力、発信力（文章・討論・プレゼンテーション）向上を目標とします。

This course examines the historical development and current state of the Japanese economy. The goal is to accumulate related knowledge and improve students' skills, such as reading comprehension, agenda setting, critical thinking, hypothesis setting and updating, and presentation and writing.

### 授業の内容 / Course Contents

日本経済の発展の在り方と現状を考察します。本年度は2年生対象とします。日本経済史・日本経済の参考図書、新聞・ジャーナル記事、日本企業事例研究論文（企業史を含む）を題材とします。春学期には文献輪読、分担者によるプレゼンテーションと討論、小論文執筆を行います。秋学期には、自分の現在の研究テーマ候補を選んでリサーチとプレゼンテーションを行い、上級学年での学びにつなげます。本ゼミでは「批判的思考」、「多角的思考」を重視し、物事を柔軟に捉え、説得力のある結論を導く方法を学びます。文献購読、討論は英

語で行う場合があります。

This course examines the historical development and current state of the Japanese economy. In 2024, the seminar is designed as an introductory course for second-year students. Course materials will include books, newspapers, journal articles, and case studies on Japanese companies (including corporate histories). In the spring semester, students will engage in reading, presentations, discussions, and essays. In the fall semester, students will brainstorm their research topic, conduct analysis, and work on presentations. This seminar values critical thinking skills, and students will broaden their views to draw persuasive conclusions. Language: Mainly Japanese, but readings and discussion involve English.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：春学期イントロダクション
- 2回：日本経済・経済史の基礎文献購読
- 3回：日本経済・経済史の基礎文献購読
- 4回：日本経済・経済史の基礎文献購読・プレゼンテーション
- 5回：日本経済・経済史の基礎文献購読・プレゼンテーション
- 6回：データベースワークショップ
- 7回：日本経済・経済史の基礎文献購読・プレゼンテーション
- 8回：日本経済・経済史の基礎文献購読・プレゼンテーション
- 9回：日本経済・経済史の基礎文献購読・グループワーク
- 10回：日本経済・経済史の基礎文献購読・グループワーク
- 11回：日本経済・経済史の基礎文献購読・グループワーク
- 12回：グループプレゼンテーション
- 13回：グループプレゼンテーション
- 14回：春学期総括
- 15回：秋学期イントロダクション
- 16回：日本経済・経済史の基礎文献購読
- 17回：日本経済・経済史の基礎文献購読・プレゼンテーション
- 18回：日本経済・経済史の基礎文献購読・プレゼンテーション
- 19回：日本経済・経済史の基礎文献購読・ケーススタディ使用による討論・シュミレーション
- 20回：日本経済・経済史の基礎文献購読・ケーススタディ使用による討論・シュミレーション
- 21回：日本経済・経済史の基礎文献購読・ケーススタディ使用による討論・シュミレーション
- 22回：論文作成作業・個別指導 1
- 23回：論文作成作業・個別指導 2
- 24回：論文作成作業・個別指導 3
- 25回：個人研究テーマ中間報告及び討論 1
- 26回：個人研究テーマ中間報告及び討論 2
- 27回：個人研究テーマ中間報告及び討論 3
- 28回：年度総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 :○ 校外実習・フィールドワーク :○  
上記いずれも用いない予定 :

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

毎回、全員が課題図書を予習し、討論に参加できるようにすること。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% プレゼンテーション:40% 小論文・小課題:40% 出席状況・発言点・その他貢献度:20%

**テキスト / Textbooks**

授業時に提示する。

**参考文献 / Readings**

授業時に提示する。

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

基礎英語力または英語への関心。重視・獲得を目指すスキル分野は下記の通りです：【実務スキル】読解、批判的分析、リサーチ、文章執筆・スライド作成、プレゼンテーション、討論・質疑応答、企画立案・遂行、IT 関連、ビジネスマナー。【ソフトスキル関連】自分を動機づけてやりきる力、正確な自己認知、少し高い目標を設定し、あきらめずに努力する力、時間管理力、発想転換力、想像力。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

ハーバード・ビジネスレビュー等の日本企業（企業史含む）のケーススタディを使用します。パソコン持参を指示する場合があります。

**その他 / Others**

- ・企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。
- ・学習成果を考慮し、各週の学習内容を変更することがある。

## ゼミナール B

Seminar B

日本経済・日本経済史

西崎 純代 (NISHIZAKI SUMIYO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX618  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項） 対面（全回対面）/Face-to-face (all classes)  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX4020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

日本経済の発展の在り方と現状を考察します。関連分野の知識の蓄積、課題設定力、資料読解力、思考力、批判的・多角的分析力、フィードバックを受けとめ仮説をアップデートする力、発信力（文章・討論・プレゼンテーション）向上を目標とします。

This course examines the historical development and current state of the Japanese economy. The goal is to accumulate related knowledge and improve students' skills, such as reading comprehension, agenda setting, critical thinking, hypothesis setting and updating, and presentation and writing.

### 授業の内容 / Course Contents

日本経済の発展の在り方と現状を考察します。本年度は2年生対象とします。日本経済史・日本経済の参考図書、新聞・ジャーナル記事、日本企業事例研究論文（企業史を含む）を題材とします。春学期には文献輪読、分担者によるプレゼンテーションと討論、小論文執筆を行います。秋学期には、自分の現在の研究テーマ候補を選んでリサーチとプレゼンテーションを行い、上級学年での学びにつなげます。本ゼミでは「批判的思考」、「多角的思考」を重視し、物事を柔軟に捉え、説得力のある結論を導く方法を学びます。文献購読、討論は英

語で行う場合があります。

This course examines the historical development and current state of the Japanese economy. In 2024, the seminar is designed as an introductory course for second-year students. Course materials will include books, newspapers, journal articles, and case studies on Japanese companies (including corporate histories). In the spring semester, students will engage in reading, presentations, discussions, and essays. In the fall semester, students will brainstorm their research topic, conduct analysis, and work on presentations. This seminar values critical thinking skills, and students will broaden their views to draw persuasive conclusions. Language: Mainly Japanese, but readings and discussion involve English.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：春学期イントロダクション
- 2回：日本経済・経済史の基礎文献購読
- 3回：日本経済・経済史の基礎文献購読
- 4回：日本経済・経済史の基礎文献購読・プレゼンテーション
- 5回：日本経済・経済史の基礎文献購読・プレゼンテーション
- 6回：データベースワークショップ
- 7回：日本経済・経済史の基礎文献購読・プレゼンテーション
- 8回：日本経済・経済史の基礎文献購読・プレゼンテーション
- 9回：日本経済・経済史の基礎文献購読・グループワーク
- 10回：日本経済・経済史の基礎文献購読・グループワーク
- 11回：日本経済・経済史の基礎文献購読・グループワーク
- 12回：グループプレゼンテーション
- 13回：グループプレゼンテーション
- 14回：春学期総括
- 15回：秋学期イントロダクション
- 16回：日本経済・経済史の基礎文献購読
- 17回：日本経済・経済史の基礎文献購読・プレゼンテーション
- 18回：日本経済・経済史の基礎文献購読・プレゼンテーション
- 19回：日本経済・経済史の基礎文献購読・ケーススタディ使用による討論・シュミレーション
- 20回：日本経済・経済史の基礎文献購読・ケーススタディ使用による討論・シュミレーション
- 21回：日本経済・経済史の基礎文献購読・ケーススタディ使用による討論・シュミレーション
- 22回：論文作成作業・個別指導 1
- 23回：論文作成作業・個別指導 2
- 24回：論文作成作業・個別指導 3
- 25回：個人研究テーマ中間報告及び討論 1
- 26回：個人研究テーマ中間報告及び討論 2
- 27回：個人研究テーマ中間報告及び討論 3
- 28回：年度総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 :○ 校外実習・フィールドワーク :○

上記いずれも用いない予定 :

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、全員が課題図書を予習し、討論に参加できるようにすること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% プレゼンテーション:40% 小論文・小課題:40% 出席状況・発言点・その他貢献度:20%

### テキスト / Textbooks

授業時に提示する。

### 参考文献 / Readings

授業時に提示する。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

基礎英語力または英語への関心。重視・獲得を目指すスキル分野は下記の通りです：【実務スキル】読解、批判的分析、リサーチ、文章執筆・スライド作成、プレゼンテーション、討論・質疑応答、企画立案・遂行、IT 関連、ビジネスマナー。【ソフトスキル関連】自分を動機づけてやりきる力、正確な自己認知、少し高い目標を設定し、あきらめずに努力する力、時間管理力、発想転換力、想像力。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ハーバード・ビジネスレビュー等の日本企業（企業史含む）のケーススタディを使用します。パソコン持参を指示する場合があります。

### その他 / Others

- ・企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。
- ・学習成果を考慮し、各週の学習内容を変更することがある。

## ゼミナール A

Seminar A

企業の経済学

関 智一 (SEKI TOMOKAZU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX621  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX2020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

本ゼミナールの目標は、経済学および経営学の企業理論をベースに、現実の企業課題について分析を行い、学生一人ひとりがその解決策について独自の見解を持つこと、である。

The objective of this seminar is to analyze actual company issues based on economics and business management company theory and for each student to form his or her own opinions about solutions to these problems.

### 授業の内容 / Course Contents

なぜ、企業は最適な技術変化から最大利潤を実現し得ないのか。経済学的には、それは内部組織の非効率性に目を向けることであり、経営学的には、それは戦略や組織構造の有効性に目を向けることでもある。ゼミナールの議論では、こうした二つの視点を常に意識することで、現代企業が直面する多様な課題解決に向けた、客観的な分析視角の醸成を目指している。

Why do not companies realize the maximum profit from the optimum technological changes? To answer that question, economics looks at the inefficiencies within the organization, and business management looks at the effectiveness of the strategy and organizational structure. The seminar discussion continuously recognizes these two perspectives with the aim of fostering an objective analytical perspective in preparation for solving the

diverse issues that face contemporary companies.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：春学期イントロダクション  
 2回：輪読書，2年報告&討論1，3年報告&討論1  
 3回：輪読書，2年報告&討論2，3年報告&討論2  
 4回：輪読書，2年報告&討論3，3年報告&討論3  
 5回：輪読書，2年報告&討論4，3年報告&討論4  
 6回：輪読書，2年報告&討論5，3年報告&討論5  
 7回：輪読書，2年報告&討論6，3年報告&討論6  
 8回：輪読書，2年報告&討論7，3年報告&討論7  
 9回：輪読書，2年報告&討論8，3年報告&討論8  
 10回：輪読書，2年報告&討論9，3年報告&討論9  
 11回：輪読書，2年報告&討論10，3年報告&討論10  
 12回：輪読書，2年報告&討論11，3年報告&討論11  
 13回：輪読書，2年報告&討論12，3年報告&討論12  
 14回：卒業論文，4年中間報告&討論  
 15回：秋学期イントロダクション  
 16回：輪読書，2年報告&討論1，3年報告&討論1  
 17回：輪読書，2年報告&討論2，3年報告&討論2  
 18回：輪読書，2年報告&討論3，3年報告&討論3  
 19回：輪読書，2年報告&討論4，3年報告&討論4  
 20回：輪読書，2年報告&討論5，3年報告&討論5  
 21回：輪読書，2年報告&討論6，3年報告&討論6  
 22回：輪読書，2年報告&討論7，3年報告&討論7  
 23回：輪読書，2年報告&討論8，3年報告&討論8  
 24回：輪読書，2年報告&討論9，3年報告&討論9  
 25回：輪読書，2年報告&討論10，3年報告&討論10  
 26回：輪読書，2年報告&討論11，3年報告&討論11  
 27回：輪読書，2年報告&討論12，3年報告&討論12  
 28回：卒業論文，4年最終報告&討論

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点割合：100% 授業参加度:50% 報告と議論:50%

課外活動の内訳は，2年生：学外プレゼン大会，学内討論会，3年生：海外研修(要相談)，学外討論会，4年



生：卒業論文，全学年：夏合宿，春合宿，工場見学，等である。

**テキスト / Textbooks**

伊藤元重 『ビジネス・エコノミクス 第2版』 日本経済新聞出版 2021 4532323800 ○

日本経済研究センター 『使える！経済学！—データ駆動社会で始まった大変革』 日本経済新聞出版 2022  
4296113739 ○

**参考文献 / Readings**

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

Seminar B

企業の経済学

関 智一 (SEKI TOMOKAZU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX622  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX4020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

本ゼミナールの目標は、経済学および経営学の企業理論をベースに、現実の企業課題について分析を行い、学生一人ひとりがその解決策について独自の見解を持つこと、である。

The objective of this seminar is to analyze actual company issues based on economics and business management company theory and for each student to form his or her own opinions about solutions to these problems.

### 授業の内容 / Course Contents

なぜ、企業は最適な技術変化から最大利潤を実現し得ないのか。経済学的には、それは内部組織の非効率性に目を向けることであり、経営学的には、それは戦略や組織構造の有効性に目を向けることでもある。ゼミナールの議論では、こうした二つの視点を常に意識することで、現代企業が直面する多様な課題解決に向けた、客観的な分析視角の醸成を目指している。

Why do not companies realize the maximum profit from the optimum technological changes? To answer that question, economics looks at the inefficiencies within the organization, and business management looks at the effectiveness of the strategy and organizational structure. The seminar discussion continuously recognizes these two perspectives with the aim of fostering an objective analytical perspective in preparation for solving the

diverse issues that face contemporary companies.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：春学期イントロダクション  
 2回：輪読書，2年報告&討論1，3年報告&討論1  
 3回：輪読書，2年報告&討論2，3年報告&討論2  
 4回：輪読書，2年報告&討論3，3年報告&討論3  
 5回：輪読書，2年報告&討論4，3年報告&討論4  
 6回：輪読書，2年報告&討論5，3年報告&討論5  
 7回：輪読書，2年報告&討論6，3年報告&討論6  
 8回：輪読書，2年報告&討論7，3年報告&討論7  
 9回：輪読書，2年報告&討論8，3年報告&討論8  
 10回：輪読書，2年報告&討論9，3年報告&討論9  
 11回：輪読書，2年報告&討論10，3年報告&討論10  
 12回：輪読書，2年報告&討論11，3年報告&討論11  
 13回：輪読書，2年報告&討論12，3年報告&討論12  
 14回：卒業論文，4年中間報告&討論  
 15回：秋学期イントロダクション  
 16回：輪読書，2年報告&討論1，3年報告&討論1  
 17回：輪読書，2年報告&討論2，3年報告&討論2  
 18回：輪読書，2年報告&討論3，3年報告&討論3  
 19回：輪読書，2年報告&討論4，3年報告&討論4  
 20回：輪読書，2年報告&討論5，3年報告&討論5  
 21回：輪読書，2年報告&討論6，3年報告&討論6  
 22回：輪読書，2年報告&討論7，3年報告&討論7  
 23回：輪読書，2年報告&討論8，3年報告&討論8  
 24回：輪読書，2年報告&討論9，3年報告&討論9  
 25回：輪読書，2年報告&討論10，3年報告&討論10  
 26回：輪読書，2年報告&討論11，3年報告&討論11  
 27回：輪読書，2年報告&討論12，3年報告&討論12  
 28回：卒業論文，4年最終報告&討論

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点割合：100% 授業参加度:50% 報告と議論:50%

課外活動の内訳は，2年生：学外プレゼン大会，学内討論会，3年生：海外研修(要相談)，学外討論会，4年

生：卒業論文，全学年：夏合宿，春合宿，工場見学，等である。

**テキスト / Textbooks**

伊藤元重 『ビジネス・エコノミクス 第2版』 日本経済新聞出版 2021 4532323800 ○

日本経済研究センター 『使える！経済学！—データ駆動社会で始まった大変革』 日本経済新聞出版 2022  
4296113739 ○

**参考文献 / Readings**

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール A

### Seminar A

データに基づいて経済・社会・政治について考える力を身につける

安藤 道人 (ANDO MICHIHITO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX624
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX2020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

- (1) 経済・社会・政治など興味のあるテーマについて、経済学・社会科学・データサイエンスの観点から問いを立て、考察し、分析できる力を身に着ける。
  - (2) (1)で考察・分析した事柄を、説得的なレポート・論文としてまとめる力やわかりやすくプレゼンする力を身に着ける。
- (1) To acquire the ability to form questions and think about economic, social and political issues from an economics, social science, and data science perspective.
- (2) To acquire the ability to write convincing reports and papers and to give easy-to-understand presentations about what was thought about and analyzed in (1).

### 授業の内容 / Course Contents

経済学をはじめとする社会科学の基本は、新しい知識を蓄えることではなく、人・経済・社会を観察・考察する「方法」を学ぶことです。従って、様々な素材を通じて、経済学や他の社会科学の「方法」を用いて人や社会や経済を観察・考察するとはどういうことかを学びます。具体的に、何を題材として社会科学の方法を学ぶのかは、ゼミ生と相談して決定します。

その上で、人や社会や経済を「観察・考察する方法」だけでなく、「統計データを用いて分析する方法」についても学びます。具体的には、統計学・計量経済学・データサイエンス関連の学部授業を別途履修することを前提に、エクセルソフトとRという計量分析ソフトを用いたデータ整理および統計・計量分析を行えるように演習を行います。

レポート執筆については、(1) 経済・社会・政治について経済学的・社会科学的な問いや仮説を組み立てて、(2) その問い・仮説について統計データを用いて分析・検証し、(3) 問い・仮説・分析結果を説得的なレポート・論文としてまとめ、わかりやすくプレゼンする力を養うことに重点を置きます。

The foundation of economics and other social sciences is to learn the methodology for observing and considering people, the economy, and society rather than accumulating new knowledge. Therefore, first students will learn what it means to observe and consider people, society, and the economy using the methodology of economics and other social sciences. Specifically, the lecturer will consult with the students to determine what subject matter to use to study social science methodologies, but in principle the subject matter will be social problems and social welfare.

After that, students will learn not only the methodologies for observing and considering people, society, and the economy, but also how to conduct analysis using statistical data. Specifically, it is presumed that participating students have taken separate classes in statistics and econometrics from the college, so in this course they will practice organizing data and conducting statistical and quantitative analysis using Excel and the R programming language.

In writing their reports, it is important for students to foster the ability to (1) formulate economic and social science questions and hypotheses about social problems and social security, (2) analyze and verify those questions and hypotheses using statistical data, and (3) write a convincing report or paper on those questions, hypotheses, and analytical results and to give an easy-to-understand presentation on them.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：レポートの「型」と「作法」について
- 3 回：共通テーマについての相談・議論
- 4 回：各自のレポート・論文執筆/データ分析演習
- 5 回：共通テーマについての演習（輪読・動画鑑賞・報告など）
- 6 回：各自のレポート・論文執筆/データ分析演習
- 7 回：共通テーマについての演習（輪読・動画鑑賞・報告など）
- 8 回：各自のレポート・論文執筆/データ分析演習
- 9 回：共通テーマについての演習（輪読・動画鑑賞・報告など）
- 10 回：各自のレポート・論文執筆/データ分析演習
- 11 回：共通テーマについての演習（輪読・動画鑑賞・報告など）
- 12 回：各自のレポート・論文執筆/データ分析演習
- 13 回：共通テーマについての演習（輪読・動画鑑賞・報告など）
- 14 回：各自のレポート・論文執筆/データ分析演習
- 15 回：共通テーマについての演習（輪読・動画鑑賞・報告など）
- 16 回：各自のレポート・論文執筆/データ分析演習
- 17 回：共通テーマについての演習（輪読・動画鑑賞・報告など）
- 18 回：レポート中間報告

- 19回：各自のレポート・論文執筆/データ分析演習  
 20回：共通テーマについての演習（輪読・動画鑑賞・報告など）  
 21回：各自のレポート・論文執筆/データ分析演習  
 22回：共通テーマについての演習（輪読・動画鑑賞・報告など）  
 23回：各自のレポート・論文執筆/データ分析演習  
 24回：共通テーマについての演習（輪読・動画鑑賞・報告など）  
 25回：各自のレポート・論文執筆/データ分析演習  
 26回：各自のレポート・論文執筆/データ分析演習  
 27回：レポート報告と議論  
 28回：レポート報告と議論

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- 輪読対象となる本や論文や資料をきちんと読み、日々、身の回りの出来事や世の中で起こっていることについて考察することが必要です。
- 輪読においては予習と報告/発言準備、計量分析演習においては復習が必要となります。
- プレゼン資料やレポート資料の作成準備時間が必要となります。年1～2本、ショートレポート（A4で10枚程度以上）を執筆して報告して頂きます。
- 学部レベルの情報処理・統計学・計量経済学・データサイエンス概論の講義を履修済み、あるいは同時に履修することがゼミ参加の前提となります。
- 事務連絡や進捗管

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点割合 :100%   ゼミ参加:60%                      最終レポート割合：:40%

### テキスト / Textbooks

前もってテキストや参考文献の指定はしません。これまでのテキストや参考文献については、教員ウェブサイトのゼミのページ [https://sites.google.com/site/michihito7ando/lectures/ando\\_seminar](https://sites.google.com/site/michihito7ando/lectures/ando_seminar) を参照してください。

### 参考文献 / Readings

前もってテキストや参考文献の指定はしません。これまでのテキストや参考文献については、教員ウェブサイトのゼミのページ [https://sites.google.com/site/michihito7ando/lectures/ando\\_seminar](https://sites.google.com/site/michihito7ando/lectures/ando_seminar) を参照してください。

### その他 / Others

教員ウェブサイト <https://sites.google.com/site/michihito7ando/>

教員ウェブサイトのゼミのページ [https://sites.google.com/site/michihito7ando/lectures/ando\\_seminar](https://sites.google.com/site/michihito7ando/lectures/ando_seminar)

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

### Seminar B

データに基づいて経済・社会・政治について考える力を身につける

安藤 道人 (ANDO MICHIHITO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX625
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX4020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

- (1) 経済・社会・政治など興味のあるテーマについて、経済学・社会科学・データサイエンスの観点から問いを立て、考察し、分析できる力を身に着ける。
  - (2) (1)で考察・分析した事柄を、説得的なレポート・論文としてまとめる力やわかりやすくプレゼンする力を身に着ける。
- (1) To acquire the ability to form questions and think about economic, social and political issues from an economics, social science, and data science perspective.
- (2) To acquire the ability to write convincing reports and papers and to give easy-to-understand presentations about what was thought about and analyzed in (1).

### 授業の内容 / Course Contents

経済学をはじめとする社会科学の基本は、新しい知識を蓄えることではなく、人・経済・社会を観察・考察する「方法」を学ぶことです。従って、様々な素材を通じて、経済学や他の社会科学の「方法」を用いて人や社会や経済を観察・考察するとはどういうことかを学びます。具体的に、何を題材として社会科学の方法を学ぶのかは、ゼミ生と相談して決定します。



その上で、人や社会や経済を「観察・考察する方法」だけでなく、「統計データを用いて分析する方法」についても学びます。具体的には、統計学・計量経済学・データサイエンス関連の学部授業を別途履修することを前提に、エクセルソフトとRという計量分析ソフトを用いたデータ整理および統計・計量分析を行えるように演習を行います。

レポート執筆については、(1) 経済・社会・政治について経済学的・社会科学的な問いや仮説を組み立てて、(2) その問い・仮説について統計データを用いて分析・検証し、(3) 問い・仮説・分析結果を説得的なレポート・論文としてまとめ、わかりやすくプレゼンする力を養うことに重点を置きます。

The foundation of economics and other social sciences is to learn the methodology for observing and considering people, the economy, and society rather than accumulating new knowledge. Therefore, first students will learn what it means to observe and consider people, society, and the economy using the methodology of economics and other social sciences. Specifically, the lecturer will consult with the students to determine what subject matter to use to study social science methodologies, but in principle the subject matter will be social problems and social welfare.

After that, students will learn not only the methodologies for observing and considering people, society, and the economy, but also how to conduct analysis using statistical data. Specifically, it is presumed that participating students have taken separate classes in statistics and econometrics from the college, so in this course they will practice organizing data and conducting statistical and quantitative analysis using Excel and the R programming language.

In writing their reports, it is important for students to foster the ability to (1) formulate economic and social science questions and hypotheses about social problems and social security, (2) analyze and verify those questions and hypotheses using statistical data, and (3) write a convincing report or paper on those questions, hypotheses, and analytical results and to give an easy-to-understand presentation on them.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：レポートの「型」と「作法」について
- 3 回：共通テーマについての相談・議論
- 4 回：各自のレポート・論文執筆/データ分析演習
- 5 回：共通テーマについての演習（輪読・動画鑑賞・報告など）
- 6 回：各自のレポート・論文執筆/データ分析演習
- 7 回：共通テーマについての演習（輪読・動画鑑賞・報告など）
- 8 回：各自のレポート・論文執筆/データ分析演習
- 9 回：共通テーマについての演習（輪読・動画鑑賞・報告など）
- 10 回：各自のレポート・論文執筆/データ分析演習
- 11 回：共通テーマについての演習（輪読・動画鑑賞・報告など）
- 12 回：各自のレポート・論文執筆/データ分析演習
- 13 回：共通テーマについての演習（輪読・動画鑑賞・報告など）
- 14 回：各自のレポート・論文執筆/データ分析演習
- 15 回：共通テーマについての演習（輪読・動画鑑賞・報告など）
- 16 回：各自のレポート・論文執筆/データ分析演習
- 17 回：共通テーマについての演習（輪読・動画鑑賞・報告など）
- 18 回：レポート中間報告

- 19 回：各自のレポート・論文執筆/データ分析演習  
 20 回：共通テーマについての演習（輪読・動画鑑賞・報告など）  
 21 回：各自のレポート・論文執筆/データ分析演習  
 22 回：共通テーマについての演習（輪読・動画鑑賞・報告など）  
 23 回：各自のレポート・論文執筆/データ分析演習  
 24 回：共通テーマについての演習（輪読・動画鑑賞・報告など）  
 25 回：各自のレポート・論文執筆/データ分析演習  
 26 回：各自のレポート・論文執筆/データ分析演習  
 27 回：レポート報告と議論  
 28 回：レポート報告と議論

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- 輪読対象となる本や論文や資料をきちんと読み、日々、身の回りの出来事や世の中で起こっていることについて考察することが必要です。
- 輪読においては予習と報告/発言準備、計量分析演習においては復習が必要となります。
- プレゼン資料やレポート資料の作成準備時間が必要となります。年1～2本、ショートレポート（A4で10枚程度以上）を執筆して報告して頂きます。
- 学部レベルの情報処理・統計学・計量経済学・データサイエンス概論の講義を履修済み、あるいは同時に履修することがゼミ参加の前提となります。
- 事務連絡や進捗管理

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点割合 :100% ゼミ参加:60% 最終レポート割合 :40%

#### テキスト / Textbooks

前もってテキストや参考文献の指定はしません。これまでのテキストや参考文献については、教員ウェブサイトのゼミのページ [https://sites.google.com/site/michihito7ando/lectures/ando\\_seminar](https://sites.google.com/site/michihito7ando/lectures/ando_seminar) を参照してください。

#### 参考文献 / Readings

前もってテキストや参考文献の指定はしません。これまでのテキストや参考文献については、教員ウェブサイトのゼミのページ [https://sites.google.com/site/michihito7ando/lectures/ando\\_seminar](https://sites.google.com/site/michihito7ando/lectures/ando_seminar) を参照してください。

#### その他 / Others

教員ウェブサイト <https://sites.google.com/site/michihito7ando/>

教員ウェブサイトのゼミのページ [https://sites.google.com/site/michihito7ando/lectures/ando\\_seminar](https://sites.google.com/site/michihito7ando/lectures/ando_seminar)

#### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール A

### Seminar A

財務諸表から企業をみる目を養う。

山田 康裕 (YAMADA YASUHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX627  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX2020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

本演習は、財務諸表分析の様々な手法を学び、その知識を駆使していかに現代の会計問題を議論できるかという技術の習得を目指している。

The aim of this seminar is to learn the various methods for analyzing financial statements and then to practice them to utilize that knowledge as far as possible to be able to discuss contemporary accounting problems.

### 授業の内容 / Course Contents

2年生および3年生：まず、財務会計の基本的なテキストを学ぶ。伝統的な会計理論（損益会計、資産・負債・資本会計）か新会計基準のいずれか（または両方）を中心に扱うかは参加者と相談のうえ決定する。次に、財務諸表分析の基本的なテキストを学ぶ。収益性、効率性、安全性、成長性などの伝統的な分析手法について学ぶ。

4年生：卒業論文の執筆をおこなう。財務会計の範囲内で、自由にテーマを決定する。最初に論文の書き方や文献検索の仕方を説明する。後は毎回書き進んだ所までを報告してもらい、それに対して教員がコメントし、それに基づき修正していくということを毎週繰り返す。

2・3年生については、基本的には、テキストの輪読形式でおこない、担当者の報告に対して、皆で疑問点

を訊いたり、ディスカッションをおこなったりする。

4年生については、各自でテーマを設定し、論文の執筆を進める。

2nd and 3rd year students: First a basic textbook on financial accounting will be studied. The lecturer will decide whether to cover traditional accounting theory (profit and loss accounting; assets, liabilities, capital accounting) or the new accounting standards (or both) in consultation with participating students. Next, students will study a basic textbook on analyzing financial statements. Students will learn traditional analytical methods, such as profitability, efficiency, safeness, and growth potential.

4th year students: Students will write their graduation thesis. Students can freely set their theme within the scope of financial accounting. At first the way to write a thesis and how to search the literature will be explained. After that, during each class students will report on the progress they have made to date, the lecturer will comment on that, and then based on those comments the students will revise their work, and this process will be repeated each week.

2nd and 3rd year students will basically read their textbook and everyone will ask questions about and discuss the reports that are given.

4th year students will each set their own theme and write their papers.

#### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション  
財務諸表の見方（財務諸表の役割と仕組み）
- 2回：財務諸表の入手方法
- 3回：貸借対照表の見方
- 4回：損益計算書の見方
- 5回：キャッシュ・フロー計算書の見方
- 6回：会計方針の注記
- 7回：財務諸表分析の基礎（分析の視点と方法）
- 8回：収益性の分析
- 9回：生産性の分析
- 10回：安全性の分析
- 11回：不確実性によるリスクの分析
- 12回：成長性の分析
- 13回：証券投資への応用（投資意思決定有用性）
- 14回：株式価値評価モデル
- 15回：債券の格付けと倒産予測への利用
- 16回：インゼミに向けた準備
- 17回：インゼミに向けた準備
- 18回：インゼミに向けた準備
- 19回：インゼミに向けた準備
- 20回：インゼミに向けた準備
- 21回：インゼミに向けた準備
- 22回：インゼミに向けた準備
- 23回：インゼミに向けた準備
- 24回：インゼミに向けた準備

- 25 回：インゼミに向けた準備  
 26 回：インゼミに向けた準備  
 27 回：インゼミに向けた準備  
 28 回：インゼミに向けた準備

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、テキストの該当箇所を読んでおく。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点割合 :100% 授業参加度:50% プレゼンテーション:10% 討論:40%

課外授業 (合宿など) への参加も必須である。また日商簿記検定 3 級の取得を単位認定の前提とする。

### テキスト / Textbooks

桜井久勝 『財務諸表分析 第 8 版』 中央経済社 2020 9784502342417 ○

### 参考文献 / Readings

乙政正太 財務諸表分析 第 3 版 同文館 2019 9784495193034

### その他 / Others

登録はそれぞれの学年のコマで行ってもらうが、受講は A, B 連続で行うことを前提とする。

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

### Seminar B

財務諸表から企業をみる目を養う。

山田 康裕 (YAMADA YASUHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX628  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX4020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

本演習は、財務諸表分析の様々な手法を学び、その知識を駆使していかに現代の会計問題を議論できるかという技術の習得を目指している。

The aim of this seminar is to learn the various methods for analyzing financial statements and then to practice them to utilize that knowledge as far as possible to be able to discuss contemporary accounting problems.

### 授業の内容 / Course Contents

2年生および3年生：まず、財務会計の基本的なテキストを学ぶ。伝統的な会計理論（損益会計、資産・負債・資本会計）か新会計基準のいずれか（または両方）を中心に扱うかは参加者と相談のうえ決定する。次に、財務諸表分析の基本的なテキストを学ぶ。収益性、効率性、安全性、成長性などの伝統的な分析手法について学ぶ。

4年生：卒業論文の執筆をおこなう。財務会計の範囲内で、自由にテーマを決定する。最初に論文の書き方や文献検索の仕方を説明する。後は毎回書き進んだ所までを報告してもらい、それに対して教員がコメントし、それに基づき修正していくということを毎週繰り返す。

2・3年生については、基本的には、テキストの輪読形式でおこない、担当者の報告に対して、皆で疑問点

を訊いたり、ディスカッションをおこなったりする。

4年生については、各自でテーマを設定し、論文の執筆を進める。

2nd and 3rd year students: First a basic textbook on financial accounting will be studied. The lecturer will decide whether to cover traditional accounting theory (profit and loss accounting; assets, liabilities, capital accounting) or the new accounting standards (or both) in consultation with participating students. Next, students will study a basic textbook on analyzing financial statements. Students will learn traditional analytical methods, such as profitability, efficiency, safeness, and growth potential.

4th year students: Students will write their graduation thesis. Students can freely set their theme within the scope of financial accounting. At first the way to write a thesis and how to search the literature will be explained. After that, during each class students will report on the progress they have made to date, the lecturer will comment on that, and then based on those comments the students will revise their work, and this process will be repeated each week.

2nd and 3rd year students will basically read their textbook and everyone will ask questions about and discuss the reports that are given.

4th year students will each set their own theme and write their papers.

#### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1回：オリエンテーション

財務諸表の見方（財務諸表の役割と仕組み）

2回：財務諸表の入手方法

3回：貸借対照表の見方

4回：損益計算書の見方

5回：キャッシュ・フロー計算書の見方

6回：会計方針の注記

7回：財務諸表分析の基礎（分析の視点と方法）

8回：収益性の分析

9回：生産性の分析

10回：安全性の分析

11回：不確実性によるリスクの分析

12回：成長性の分析

13回：証券投資への応用（投資意思決定有用性）

14回：株式価値評価モデル

15回：債券の格付けと倒産予測への利用

16回：インゼミに向けた準備

17回：インゼミに向けた準備

18回：インゼミに向けた準備

19回：インゼミに向けた準備

20回：インゼミに向けた準備

21回：インゼミに向けた準備

22回：インゼミに向けた準備

23回：インゼミに向けた準備

24回：インゼミに向けた準備

25回：インゼミに向けた準備  
 26回：インゼミに向けた準備  
 27回：インゼミに向けた準備  
 28回：インゼミに向けた準備

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、テキストの該当箇所を読んでおく。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点割合：100% 授業参加度:50% プレゼンテーション:10% 討論:40%

課外授業（合宿など）への参加も必須である。また日商簿記検定3級の取得を単位認定の前提とする。

### テキスト / Textbooks

桜井久勝 『財務諸表分析 第8版』 中央経済社 2020 9784502342417 ○

### 参考文献 / Readings

乙政正太 財務諸表分析 第3版 同文館 2019 9784495193034

### その他 / Others

登録はそれぞれの学年のコマで行ってもらうが、受講はA, B連続で行うことを前提とする。

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。



## ゼミナール A

### Seminar A

行動経済学の基礎とそのさまざまな経済・社会問題への応用を学ぶ

荒川 章義 (ARAKAWA AKIYOSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX631
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX2020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

人間は伝統的な経済学が考えてきたような合理的な存在ではなく、間違いも起こせば感情にも流される非合理的な存在です。人間をこのような非合理的な存在と考える行動経済学という経済学の新しい分野を学び、それを用いるとさまざまな経済問題や社会問題がどのように分析され、どのような政策提言が可能なのかを考えます。

People are not rational entities that traditional economics thinks, but rather irrational entities that make mistakes and get carried away by emotion. Students will learn about the new field of economics called behavioral economics that considers people as irrational entities and then consider how that can be utilized to analyze a variety of economic problems and social problems and what kind of policy proposals they make possible.

### 授業の内容 / Course Contents

行動経済学は、心理学の成果を取り入れた経済学の新しい分野であり、人間がどのように消費や投資をするのかといった伝統的な経済学が扱ってきた問題だけでなく、健康や教育、貧困者や途上国支援の有効な方法など、さまざまな問題に応用することができます。このゼミナールでは、この行動経済学の基礎と応用の勉強を、ディベートやディスカッションをほぼ毎回取り入れながら行っていきます。また3月には新歓合宿、9月には夏合宿、11月に他大学とのジョイントゼミを予定しています。

Behavioral economics is a new field of economics that incorporate the results of psychology and rather than looking at problems addressed by traditional economics, such as how people consume and invest, it can be applied to a variety of problems, such as methods that are effective for supporting health, education, the poverty stricken, and developing countries. In this seminar students will study the basics and applications of behavioral economics and debate and discuss them in nearly every class. In addition, also planned are a welcome training camp in March, summer training camp in September, and a joint seminar with other universities in November.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：行動経済学の基礎 1
- 3 回：行動経済学の基礎 2
- 4 回：行動経済学の基礎 3
- 5 回：行動経済学の基礎 4
- 6 回：行動経済学の基礎 5
- 7 回：行動経済学の基礎 6
- 8 回：行動経済学の基礎 7
- 9 回：行動経済学の基礎 8
- 10 回：行動経済学の基礎 9
- 11 回：行動経済学の応用 1
- 12 回：行動経済学の応用 2
- 13 回：行動経済学の応用 3
- 14 回：行動経済学の応用 4
- 15 回：行動経済学の応用 5
- 16 回：行動経済学の応用 6
- 17 回：行動経済学の応用 7
- 18 回：行動経済学の応用 8
- 19 回：行動経済学の応用 9
- 20 回：グループワーク報告 1
- 21 回：グループワーク報告 2
- 22 回：グループワーク報告 3
- 23 回：グループワーク報告 4
- 24 回：グループワーク報告 5
- 25 回：グループワーク報告 6
- 26 回：グループワーク報告 7
- 27 回：グループワーク報告 8
- 28 回：グループワーク報告 9

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

授業時に指示する

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点割合 :100% 授業参加度とプレゼンテーション:80% 最終レポート割合 :20%

**テキスト / Textbooks**

授業時に指示する

**参考文献 / Readings**

授業時に指示する

**その他 / Others**

ツイッターアカウント @arakawa\_rikkyo

インスタグラムアカウント @arakawaseminar

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

### Seminar B

行動経済学の基礎とそのさまざまな経済・社会問題への応用を学ぶ

荒川 章義 (ARAKAWA AKIYOSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX632
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX4020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

人間は伝統的な経済学が考えてきたような合理的な存在ではなく、間違いも起こせば感情にも流される非合理的な存在です。人間をこのような非合理的な存在と考える行動経済学という経済学の新しい分野を学び、それを用いるとさまざまな経済問題や社会問題がどのように分析され、どのような政策提言が可能なのかを考えます。

People are not rational entities that traditional economics thinks, but rather irrational entities that make mistakes and get carried away by emotion. Students will learn about the new field of economics called behavioral economics that considers people as irrational entities and then consider how that can be utilized to analyze a variety of economic problems and social problems and what kind of policy proposals they make possible.

### 授業の内容 / Course Contents

行動経済学は、心理学の成果を取り入れた経済学の新しい分野であり、人間がどのように消費や投資をするのかといった伝統的な経済学が扱ってきた問題だけでなく、健康や教育、貧困者や途上国支援の有効な方法など、さまざまな問題に応用することができます。このゼミナールでは、この行動経済学の基礎と応用の勉強を、ディベートやディスカッションをほぼ毎回取り入れながら行っていきます。また3月には新歓合宿、9月には夏合宿、11月に他大学とのジョイントゼミを予定しています。

Behavioral economics is a new field of economics that incorporate the results of psychology and rather than looking at problems addressed by traditional economics, such as how people consume and invest, it can be applied to a variety of problems, such as methods that are effective for supporting health, education, the poverty stricken, and developing countries. In this seminar students will study the basics and applications of behavioral economics and debate and discuss them in nearly every class. In addition, also planned are a welcome training camp in March, summer training camp in September, and a joint seminar with other universities in November.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：行動経済学の基礎 1
- 3 回：行動経済学の基礎 2
- 4 回：行動経済学の基礎 3
- 5 回：行動経済学の基礎 4
- 6 回：行動経済学の基礎 5
- 7 回：行動経済学の基礎 6
- 8 回：行動経済学の基礎 7
- 9 回：行動経済学の基礎 8
- 10 回：行動経済学の基礎 9
- 11 回：行動経済学の応用 1
- 12 回：行動経済学の応用 2
- 13 回：行動経済学の応用 3
- 14 回：行動経済学の応用 4
- 15 回：行動経済学の応用 5
- 16 回：行動経済学の応用 6
- 17 回：行動経済学の応用 7
- 18 回：行動経済学の応用 8
- 19 回：行動経済学の応用 9
- 20 回：グループワーク報告 1
- 21 回：グループワーク報告 2
- 22 回：グループワーク報告 3
- 23 回：グループワーク報告 4
- 24 回：グループワーク報告 5
- 25 回：グループワーク報告 6
- 26 回：グループワーク報告 7
- 27 回：グループワーク報告 8
- 28 回：グループワーク報告 9

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

授業時に指示する

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点割合 :100% 授業参加度とプレゼンテーション:80% 最終レポート割合 :20%

**テキスト / Textbooks**

授業時に指示する

**参考文献 / Readings**

授業時に指示する

**その他 / Others**

ツイッターアカウント @arakawa\_rikkyo

インスタグラムアカウント @arakawaseminar

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール A

### Seminar A

家計や金融機関から世界まで、マネーの動きから考える経済

飯島 寛之 (IIJIMA HIROYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX634
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX2020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

金融および国際金融に関する理解の深化を通じて経済事象に対する意識を形成し、理論的に考える力を養う。また、新しい金融の動きを知ることを通じて経済社会を変える金融の可能性について議論する。

To Understand of economic phenomena and develop the ability to logically think about them by deepening understanding of finance and international finance. We will also discuss the potential of finance to change the economy and society by learning about new financial trends.

### 授業の内容 / Course Contents

人々の生活や企業の活動は、マネーの流通なくして成り立たちません。しかもマネーは、経済学における生産要素の中でもっともグローバル化しやすく、良きにつけ悪しきにつけ、その役割を国内・国内の視点から理解しておくことがますます重要になってきています。本ゼミは、金融という視点からさまざまな経済事象を分析・解明することを目的に、歴史、制度、実証分析などをバランスよく理解し、議論を通じて個々人の見識を磨いていきます。また、新しい金融の動きを知ることを通じて社会における問題意識を共有し、経済社会を変える金融の可能性について議論したり、共同論文を作成します。

Our lives and corporate activities cannot be achieved without money. Moreover, money is the most globalized

production factor in economics. Therefore, it is becoming increasingly important to understand its role from a domestic and domestic perspective. This seminar aims to be able to analyze and clarify various economic phenomena from the perspective of finance. We will also share our awareness of issues in society through learning about new financial developments, discuss the potential of finance to change the economy and society, and write joint papers.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：報告・議論①
- 2 回：報告・議論②
- 3 回：報告・議論③
- 4 回：報告・議論④
- 5 回：グループ報告①
- 6 回：グループ報告②
- 7 回：グループ報告③
- 8 回：討論①
- 9 回：討論②
- 10 回：討論③
- 11 回：討論④
- 12 回：グループ報告④
- 13 回：グループ報告⑤
- 14 回：グループ報告⑥
- 15 回：論文中間報告
- 16 回：論文中間報告
- 17 回：論文検討会
- 18 回：公開ゼミナール（予定）
- 19 回：論文検討会
- 20 回：公開ゼミナール（予定）
- 21 回：中間論文報告
- 22 回：中間論文報告
- 23 回：中間論文報告
- 24 回：中間論文報告
- 25 回：卒論報告会
- 26 回：卒論報告会
- 27 回：完成論文報告
- 28 回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class



報告者はもちろん、討論者も事前に指示される内容について納得するまで考え、調べておくこと。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点割合 :100% 報告内容:25% 議論内容:25% 論文作成への貢献:30% 演習への参加度:20%

**テキスト / Textbooks**

**参考文献 / Readings**

飯島・五百旗頭・佐藤・菅原 『身近に感じる国際金融』 有斐閣 2017 9784641150447

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

### Seminar B

家計や金融機関から世界まで、マネーの動きから考える経済

飯島 寛之 (IIJIMA HIROYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX635
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX4020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

金融および国際金融に関する理解の深化を通じて経済事象に対する意識を形成し、理論的に考える力を養う。また、新しい金融の動きを知ることを通じて経済社会を変える金融の可能性について議論する。

To Understand of economic phenomena and develop the ability to logically think about them by deepening understanding of finance and international finance. We will also discuss the potential of finance to change the economy and society by learning about new financial trends.

### 授業の内容 / Course Contents

人々の生活や企業の活動は、マネーの流通なくして成り立たちません。しかもマネーは、経済学における生産要素の中でもっともグローバル化しやすく、良きにつけ悪きにつけ、その役割を国内・国内の視点から理解しておくことがますます重要になってきています。本ゼミは、金融という視点からさまざまな経済事象を分析・解明することを目的に、歴史、制度、実証分析などをバランスよく理解し、議論を通じて個々人の見識を磨いていきます。また、新しい金融の動きを知ることを通じて社会における問題意識を共有し、経済社会を変える金融の可能性について議論したり、共同論文を作成します。

Our lives and corporate activities cannot be achieved without money. Moreover, money is the most globalized

production factor in economics. Therefore, it is becoming increasingly important to understand its role from a domestic and domestic perspective. This seminar aims to be able to analyze and clarify various economic phenomena from the perspective of finance. We will also share our awareness of issues in society through learning about new financial developments, discuss the potential of finance to change the economy and society, and write joint papers.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：報告・議論①
- 2 回：報告・議論②
- 3 回：報告・議論③
- 4 回：報告・議論④
- 5 回：グループ報告①
- 6 回：グループ報告②
- 7 回：グループ報告③
- 8 回：討論①
- 9 回：討論②
- 10 回：討論③
- 11 回：討論④
- 12 回：グループ報告④
- 13 回：グループ報告⑤
- 14 回：グループ報告⑥
- 15 回：論文中間報告
- 16 回：論文中間報告
- 17 回：論文検討会
- 18 回：公開ゼミナール（予定）
- 19 回：論文検討会
- 20 回：公開ゼミナール（予定）
- 21 回：中間論文報告
- 22 回：中間論文報告
- 23 回：中間論文報告
- 24 回：中間論文報告
- 25 回：卒論報告会
- 26 回：卒論報告会
- 27 回：完成論文報告
- 28 回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

報告者はもちろん、討論者も事前に指示される内容について納得するまで考え、調べておくこと。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点割合 :100% 報告内容:25% 議論内容:25% 論文作成への貢献:30% 演習への参加度:20%

**テキスト / Textbooks**

**参考文献 / Readings**

飯島・五百旗頭・佐藤・菅原 『身近に感じる国際金融』 有斐閣 2017 9784641150447

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール A

Seminar A

中小企業と地域経済

遠山 恭司 (TOYAMA KYOJI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX641  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX2020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

中小企業（ベンチャービジネス）と地域経済の問題や可能性について自ら考え、仮説を立て、現場情報と理論を組み合わせて独自の論理で現実経済を考察し、成果を公表できる能力を身につける。

For students to acquire the ability to think for themselves about the problems and possibilities of small and medium size enterprises (venture businesses) and regional economic problems, form hypotheses about them, consider the real economy using their own logic by combining onsite information and theory, and to present those results.

### 授業の内容 / Course Contents

多様性と多数性を特徴とする中小企業を分析するには、ある一定の着眼点、切り口、分析視角で対象を絞り込むことが重要である。たとえば、業界・業種(自動車産業など)、業態(開発型ベンチャー、ファミリービジネスなど)、地域(東京都大田区、福井県鯖江市など)といった枠組み設定が必要となる。一方、これらのすべてに経済・経営理論とその分野の歴史、実態と政策についての既存研究が存在する。ゼミナールでは、これらをバランス良く学び、新規・独自の切り口で知を体系化する手法を習得し、実践する。

チームでテーマを決め、文献サーベイと輪読、ディスカッション、ワークショップ、プレゼンテーションを

行うとともに、必ず現場情報をみずから入手するためのフィールドワーク(企業・官公庁インタビュー)を実施して、成果をまとめあげることがゼミナールの到達点である。

毎年、(財)商工総合研究所主催の「中小企業懸賞論文」に応募する。これを原則とするが、他の論文への応募、各種プロジェクト・コンテストへの参加など、いくつか考えられるので、相談に応じて調整したい。

このほか、ゲストスピーカーの講話や他大学との討論会(慶應義塾大学など)、合宿等を行う。4年生は交代でゼミ指導、および、卒業論文の作成にあたる。卒論指導は原則、個別対応とする。

To analyze small and medium size businesses, which have diverse and numerous characteristics, it is important to narrow down the targeted angles and analytical perspectives. For example, a framework needs to be set, such as the industry (automobile industry, etc.), business type (developmental venture, family business, etc.), and the area (Ota Ward in Tokyo, Sabae City in Fukui Prefecture, etc.). At the same time, for all of these there is existing research regarding the economic and business theory, the history of those fields, and their actual conditions and the government policies regarding them. During the seminar students will study these in good balance and learn and apply methods for systematizing knowledge from new and unique angles.

Students will be divided into teams that will set their theme, survey and read literature, hold discussions and workshops, and give presentations while also conducting fieldwork to obtain the onsite information they need (interviews with people from companies and government agencies), and then compile the results, which is the final objective of this seminar.

Each year, students will enter the Awards for Studies on Small Business that is held by the Shoko Research Institute. This is in principle, but several other options can also be considered, such as entering other paper contests and participating in various projects or contents, so the lecturer will discuss this with the students before any final decisions are made.

In addition to this, talks by guest speakers, debates with other universities (Keio University, etc.), training camps, and other activities are also planned.

4th year students will take turns leading the seminar and will write their graduation thesis. As a rule, guidance for the graduation theses will be given individually to students.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：基礎文献の輪読と討論(1)，論文作成グループワーク(1)
- 3回：基礎文献の輪読と討論(2)，論文作成グループワーク(2)
- 4回：基礎文献の輪読と討論(3)，論文作成グループワーク(3)
- 5回：基礎文献の輪読と討論(4)，論文作成グループワーク(4)
- 6回：基礎文献の輪読と討論(5)，論文作成グループワーク(5)
- 7回：基礎文献の輪読と討論(6)，論文作成グループワーク(6)
- 8回：基礎文献の輪読と討論(7)，論文作成グループワーク(7)
- 9回：論文作成グループワーク(8)，構想発表
- 10回：論文作成グループワーク(9)，リサーチデザインの技法
- 11回：論文作成グループワーク(10)，フィールドワークの技法
- 12回：論文作成グループワーク(11)
- 13回：論文作成グループワーク(12)，中間発表
- 14回：論文作成グループワーク(13)
- 15回：論文作成グループワーク(14)，フィールドワークの成果報告と討論(1)

- 16回：論文作成グループワーク（15）、フィールドワークの成果報告と討論（2）  
 17回：成果の取りまとめ（1）  
 18回：成果の取りまとめ（2）  
 19回：発展的学習（学内討論会、専門論文サーベイ）（1）  
 20回：発展的学習（学内討論会、専門論文サーベイ）（2）  
 21回：発展的学習（学内討論会、専門論文サーベイ）（3）  
 22回：発展的学習（学内討論会、専門論文サーベイ）（4）  
 23回：プレゼンテーションとピアレビュー（1）  
 24回：プレゼンテーションとピアレビュー（2）  
 25回：応用文献の輪読と討論（1）  
 26回：応用文献の輪読と討論（2）  
 27回：応用文献の輪読と討論（3）  
 28回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

（1）植田ほか著は2年の輪読用テキスト、（2）長山宗広編は3年の輪読用テキストとして使用する。その他3冊は、春学期中に読了すること（「アウトプットは、インプットの質と量に依存する」）。別途、ゼミ初回に提示された課題図書は、年度内に半分以上を読了することを目標とする。夏期休業時にフィールドワークを計画し、実行する（「調査なくして発言権なし」）。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点割合 :100% プレゼンテーション:20% 出席・参加意欲および貢献度:30% フィールドワーク:20%  
 最終レポート:30%

### テキスト / Textbooks

植田浩史・桑原武志・本多哲夫・義永忠一・関智宏・田中幹大・林幸治 『新版 中小企業・ベンチャー企業論』 有斐閣 2014 9784641164314 ○  
 長山宗広編 『先進事例で学ぶ地域経済論×中小企業論』 ミネルヴァ書房 2020 9784623087877  
 枝廣淳子 『地元経済を創りなおす』 岩波新書 2018 9784004317043  
 藤本隆宏 『現場から見上げる企業戦略論』 角川新書 2017 9784040821528  
 細谷 祐二 『地域の力を引き出す企業：グローバル・ニッチトップ企業が示す未来』 ちくま新書 2017 9784480069726

### 参考文献 / Readings

刈谷剛彦 『知的複眼思考法』 講談社プラスα文庫 2002 9784062566100  
 堀公俊 『ワークショップ入門』 日経文庫 2008 9784532111922  
 堀公俊 『ファシリテーション入門』 日経文庫 2004 9784532110260  
 大石哲之 『コンサル一年目が学ぶこと』 ディスカヴァー・トゥエンティワン 2014 9784799315323  
 内田和成 『仮説思考』 東洋経済新報社 2006 9784492555552

内田和成 『右脳思考』 東洋経済新報社 2019 9784492557860

安宅和人 『イシューからはじめよ 知的生産の「シンプルな本質」』 英治出版 2010 9784862760852

新入ゼミ生は文献1を、新3年生は文献2・3を、春季休業期間中に「かならず購入のうえ」読了し、春学期のゼミナールに参加すること。

文献4～7は年間を通じて適宜読了のこと。

### **その他/ Others**

ゼミの基本方針（ガイダンス、オープンゼミ、面接等で提示）を理解し、実践することが課されると認識すること。

諸連絡・指導・課題の提示等は、Canvas LMS あるいは slack を活用する。

原則、週のはじめに必ずアクセスし、課題・指示等を閲覧すること。

教員・インタビュー調査先（企業・金融機関等）との連絡は立教Gメールを使用し、ビジネスマナーに基づくこと。

### **注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。



## ゼミナール B

Seminar B

中小企業と地域経済

遠山 恭司 (TOYAMA KYOJI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX642  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX4020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

中小企業（ベンチャービジネス）と地域経済の問題や可能性について自ら考え、仮説を立て、現場情報と理論を組み合わせて独自の論理で現実経済を考察し、成果を公表できる能力を身につける。

For students to acquire the ability to think for themselves about the problems and possibilities of small and medium size enterprises (venture businesses) and regional economic problems, form hypotheses about them, consider the real economy using their own logic by combining onsite information and theory, and to present those results.

### 授業の内容 / Course Contents

多様性と多数性を特徴とする中小企業を分析するには、ある一定の着眼点、切り口、分析視角で対象を絞り込むことが重要である。たとえば、業界・業種(自動車産業など)、業態(開発型ベンチャー、ファミリービジネスなど)、地域(東京都大田区、福井県鯖江市など)といった枠組み設定が必要となる。一方、これらのすべてに経済・経営理論とその分野の歴史、実態と政策についての既存研究が存在する。ゼミナールでは、これらをバランス良く学び、新規・独自の切り口で知を体系化する手法を習得し、実践する。

チームでテーマを決め、文献サーベイと輪読、ディスカッション、ワークショップ、プレゼンテーションを

行うとともに、必ず現場情報をみずから入手するためのフィールドワーク(企業・官公庁インタビュー)を実施して、成果をまとめあげることがゼミナールの到達点である。

毎年、(財)商工総合研究所主催の「中小企業懸賞論文」に応募する。これを原則とするが、他の論文への応募、各種プロジェクト・コンテストへの参加など、いくつか考えられるので、相談に応じて調整したい。

このほか、ゲストスピーカーの講話や他大学との討論会(慶應義塾大学など)、合宿等を行う。4年生は交代でゼミ指導、および、卒業論文の作成にあたる。卒論指導は原則、個別対応とする。

To analyze small and medium size businesses, which have diverse and numerous characteristics, it is important to narrow down the targeted angles and analytical perspectives. For example, a framework needs to be set, such as the industry (automobile industry, etc.), business type (developmental venture, family business, etc.), and the area (Ota Ward in Tokyo, Sabae City in Fukui Prefecture, etc.). At the same time, for all of these there is existing research regarding the economic and business theory, the history of those fields, and their actual conditions and the government policies regarding them. During the seminar students will study these in good balance and learn and apply methods for systematizing knowledge from new and unique angles.

Students will be divided into teams that will set their theme, survey and read literature, hold discussions and workshops, and give presentations while also conducting fieldwork to obtain the onsite information they need (interviews with people from companies and government agencies), and then compile the results, which is the final objective of this seminar.

Each year, students will enter the Awards for Studies on Small Business that is held by the Shoko Research Institute. This is in principle, but several other options can also be considered, such as entering other paper contests and participating in various projects or contents, so the lecturer will discuss this with the students before any final decisions are made.

In addition to this, talks by guest speakers, debates with other universities (Keio University, etc.), training camps, and other activities are also planned.

4th year students will take turns leading the seminar and will write their graduation thesis. As a rule, guidance for the graduation theses will be given individually to students.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：基礎文献の輪読と討論(1)，論文作成グループワーク(1)
- 3回：基礎文献の輪読と討論(2)，論文作成グループワーク(2)
- 4回：基礎文献の輪読と討論(3)，論文作成グループワーク(3)
- 5回：基礎文献の輪読と討論(4)，論文作成グループワーク(4)
- 6回：基礎文献の輪読と討論(5)，論文作成グループワーク(5)
- 7回：基礎文献の輪読と討論(6)，論文作成グループワーク(6)
- 8回：基礎文献の輪読と討論(7)，論文作成グループワーク(7)
- 9回：論文作成グループワーク(8)，構想発表
- 10回：論文作成グループワーク(9)，リサーチデザインの技法
- 11回：論文作成グループワーク(10)，フィールドワークの技法
- 12回：論文作成グループワーク(11)
- 13回：論文作成グループワーク(12)，中間発表
- 14回：論文作成グループワーク(13)
- 15回：論文作成グループワーク(14)，フィールドワークの成果報告と討論(1)

- 16回：論文作成グループワーク（15）、フィールドワークの成果報告と討論（2）  
 17回：成果の取りまとめ（1）  
 18回：成果の取りまとめ（2）  
 19回：発展的学習（学内討論会、専門論文サーベイ）（1）  
 20回：発展的学習（学内討論会、専門論文サーベイ）（2）  
 21回：発展的学習（学内討論会、専門論文サーベイ）（3）  
 22回：発展的学習（学内討論会、専門論文サーベイ）（4）  
 23回：プレゼンテーションとピアレビュー（1）  
 24回：プレゼンテーションとピアレビュー（2）  
 25回：応用文献の輪読と討論（1）  
 26回：応用文献の輪読と討論（2）  
 27回：応用文献の輪読と討論（3）  
 28回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

（1）植田ほか著は2年の輪読用テキスト、（2）長山宗広編は3年の輪読用テキストとして使用する。その他3冊は、春学期中に読了すること（「アウトプットは、インプットの質と量に依存する」）。別途、ゼミ初回に提示された課題図書は、年度内に半分以上を読了することを目標とする。夏期休業時にフィールドワークを計画し、実行する（「調査なくして発言権なし」）。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点割合 :100% プレゼンテーション:20% 出席・参加意欲および貢献度:30% フィールドワーク:20%  
 最終レポート:30%

### テキスト / Textbooks

植田浩史・桑原武志・本多哲夫・義永忠一・関智宏・田中幹大・林幸治 『新版 中小企業・ベンチャー企業論』 有斐閣 2014 9784641164314 ○  
 長山宗広編 『先進事例で学ぶ地域経済論×中小企業論』 ミネルヴァ書房 2020 9784623087877  
 枝廣淳子 『地元経済を創りなおす』 岩波新書 2018 9784004317043  
 藤本隆宏 『現場から見上げる企業戦略論』 角川新書 2017 9784040821528  
 細谷 祐二 『地域の力を引き出す企業：グローバル・ニッチトップ企業が示す未来』 ちくま新書 2017 9784480069726

### 参考文献 / Readings

刈谷剛彦 『知的複眼思考法』 講談社プラスα文庫 2002 9784062566100  
 堀公俊 『ワークショップ入門』 日経文庫 2008 9784532111922  
 堀公俊 『ファシリテーション入門』 日経文庫 2004 9784532110260  
 大石哲之 『コンサル一年目が学ぶこと』 ディスカヴァー・トゥエンティワン 2014 9784799315323  
 内田和成 『仮説思考』 東洋経済新報社 2006 9784492555552

内田和成 『右脳思考』 東洋経済新報社 2019 9784492557860

安宅和人 『イシューからはじめよ 知的生産の「シンプルな本質」』 英治出版 2010 9784862760852

新入ゼミ生は文献1を、新3年生は文献2・3を、春季休業期間中に「かならず購入のうえ」読了し、春学期のゼミナールに参加すること。

文献4～7は年間を通じて適宜読了のこと。

### **その他/ Others**

ゼミの基本方針（ガイダンス、オープンゼミ、面接等で提示）を理解し、実践することが課されると認識すること。

諸連絡・指導・課題の提示等は、Canvas LMS あるいは slack を活用する。

原則、週のはじめに必ずアクセスし、課題・指示等を閲覧すること。

教員・インタビュー調査先（企業・金融機関等）との連絡は立教Gメールを使用し、ビジネスマナーに基づくこと。

### **注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール A

### Seminar A

世界経済と地域統合について考えるー経済統合のツールボックスとしての EU（欧州連合）

蓮見 雄（HASUMI YU）

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX651  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX2020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

EU（欧州連合）は、ユーロ危機、Brexit、移民・難民危機、ポピュリズム、ウクライナ戦争など複合的な危機に直面しているとはいえ、依然として経済活動のグローバル化に適応するための様々な政策を生み出している「経済統合のツールボックス」ともいえる機構であり、アジアにおける経済協力を考える上でも示唆に富む。そこで、本授業では、（1）EU と国家の役割分担に基づいて行われているヨーロッパ経済に関する基礎知識を学び、（2）他大学の学生とともに EU セミナーに参加して、プレゼンテーションや討論の能力を身につけ、（3）

Although the European Union (EU) is facing complex crises, such as the Euro crisis, Brexit, the immigration and refugee crisis, Ukraine war and populism, it has been creating a mechanism called an “economic integration toolbox” for producing various policies to adapt to the globalization of economic activities, and this is also rich in suggestions for considering economic cooperation in Asia. In view of this, the objective of this class is to (1) to learn basic knowledge regarding the European economy based on the division of roles between the EU and its individual nations, (2) acquire the ability to give presentations and engage in debates by participating in EU seminars with the students of other universities, and (3) foster the ability to think about the regional integration

of the world based on the basic knowledge of the EU politics and economic governance frameworks.

## 授業の内容 / Course Contents

大学セミナーハウス（八王子）で行われる第10回 EU セミナーに参加することを前提としてゼミを行う。EU セミナー開催時期は、9月下旬の2泊3日（状況によっては、ZOOM で実施される場合もある）。EU セミナーは、代表的な EU 研究者の指導の下で約 100 人の学生が大学の垣根を越えて共に学ぶ場である。2022 年のセミナーについては以下を参照（<https://iush.jp/seminar/report/EU/10/>）。

ゼミの内容は3つの部分に分かれる。第1に、EU に関する基礎知識を短期間に身につける。第2に、EU セミナー分科会の内容を確認した上で、各自参加する分科会のテーマに関する課題及び追加情報の収集を行う。想定されるテーマは、ユーロ危機、イギリスの EU 離脱、ポピュリズム、エネルギー・環境問題、EU のガバナンス問題、EU の対ロシア経済制裁など。第3に、EU セミナー後、各自の関心に応じて個人あるいはグループで論文を執筆する（テーマの一例：ユーロ危機、銀行同盟、EU・ロシア関係、移民・難民問題、EU とアジアの比較、TPP や TTIP などのメガリージョンと EU の比較、EU 労働政策、日 EU - EPA、EU 労働問題、EU と ASEAN の比較など）。

なお、特に EU とロシアの経済関係、EU と中国の経済関係、ロシアと中国の経済関係、ロシアと日本の経済関係、一帯一路構想、日 EU のエネルギー政策の比較などについて関心のある学生がいれば、別途、指導することがある。

This seminar is conducted on the premise that the students will participate in the 10th EU Seminar to be held at the university's Seminar House (Hachioji). The EU Seminar is held each year for 3 days and 2 nights sometime in September (Depending on the situation, it may be done via ZOOM) . The EU Seminar is attended by approximately 100 students from different universities under the direction of representative EU researchers. The seminar in 2022 can be viewed at this link (<https://iush.jp/seminar/report/EU/10/>).

The seminar contents are divided into three sections. In the first section, students will acquire basic knowledge regarding the EU in a short time. In the second section, students will check the contents of the EU Seminar working group and gather the issues and additional information for working group they are participating in. Possible themes are the Euro crisis, Brexit, populism, energy and environmental problems, EU governance problems, and the EU's economic sanctions on Russia. In the third section, after the EU Seminar, individuals or groups will write a paper on theme of their interest (Example themes: Euro crisis, banking alliances, relationship between the EU and Russia, immigration and refugee problem, comparison between the EU and Asia, comparison of the EU and mega regions like TPP and TTIP, EU labor policies, Agreement between the European Union and Japan for an Economic Partnership, EU labor problems, comparison of EU and ASEAN, etc.)

Separate guidance may be given to students interested in particular in the economic relationship between the EU and Russia, the economic relationship between the EU and China, the economic relationship between Russia and China, the economic relationship between Russia and Japan, the Belt and Road Initiative, or a comparison of Japanese and EU energy policies.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：輪読 1：ヨーロッパ経済を支える機構＝EU のしくみ
- 3 回：輪読 2：関税同盟の効果と限界、欧州動脈硬化症
- 4 回：輪読 3：単一市場下における寡占体間の競争促進と競争法
- 5 回：輪読 4：金融危機と初期のユーロを支える制度の限界（ユーロ 1.0）

- 6回：輪読5：金融危機とユーロを支える制度の進化（ユーロ2.0）  
 7回：輪読6：国境をこえる資本の移動と域内生産ネットワークの形成  
 8回：輪読7：EU財政のしくみ  
 9回：輪読8：リージョナル・インバランスとEUの地域政策のしくみ  
 10回：輪読9：国境を越える人の移動とEUの雇用政策  
 11回：輪読10：グローバル化の中のEU：EUの通商政策  
 12回：各分科会参加者ごとにEUセミナー参加準備1  
 13回：各分科会参加者ごとにEUセミナー参加準備2  
 14回：各分科会参加者ごとにEUセミナー参加のための夏季レポート課題の決定と役割の配分  
 15回：夏期レポートに基づく報告と討論1  
 16回：夏期レポートに基づく報告と討論2  
 17回：夏期レポートに基づく報告と討論3  
 18回：夏期レポートを基礎として、EUセミナー報告準備1  
 19回：夏期レポートを基礎として、EUセミナー報告準備2  
 20回：夏期レポートを基礎として、EUセミナー報告準備3  
 21回：EUセミナー直前対策  
 22回：EUセミナー直前対策  
 23回：EUセミナー反省会と各自・各グループの論文テーマの検討  
 24回：各自・各グループの論文テーマに関する意見交換  
 25回：夏期レポート及びEUセミナー報告を基礎とした最終レポート作成の指導1  
 26回：夏期レポート及びEUセミナー報告を基礎とした最終レポート作成の指導2  
 27回：夏期レポート及びEUセミナー報告を基礎とした最終レポート作成の指導3  
 28回：総括

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- 1) 特に前期において、短時間でEUの基礎を学び、EUセミナーの準備を行うため、予習・復習は不可欠であり、授業時間と同等の授業時間外学習が必要である。
- 2) 夏期課題があり、そのための授業時間外学習が必要である。
- 3) 夏期課題とEUセミナー報告を基礎として、各自最終レポートを作成するので、授業時間外学習が必要である。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点割合：100% 授業参加度：70% 夏期課題：30%

#### テキスト / Textbooks

田中素香・長部重康、久保広正、岩田健治著 『現代ヨーロッパ経済（第6版）』 有斐閣 2022

9784641221918 ○

蓮見雄・高屋定美編著 『欧州グリーンディールと EU 経済の復興』 文真堂 2023 9784830952210 ○  
山本和人・鳥貝一生編著 『世界経済論（第2版）：変容するグローバリゼーション』 ミネルヴァ書房  
2023 9784623095407 ○

No1 については、必ず第6版（もし2024年4月までに第7版が出版される場合は、第7版）。No3 については、必ず第2版を購入すること。今年は、たくさんの文献を読みます。

### 参考文献 / Readings

庄司克宏編著 『国際機構 新版』 岩波書店 2021 9784000289238  
中西優美子 『概説 EU 環境法』 法律文化社 2021 9784589041319  
ブラッドフォード 『ブリュッセル効果 EU の覇権戦略』 白水社 2022 9784560098936  
馬田敬一・浦田秀次郎・木村福成編著 『変質するグローバル化と世界経済秩序の行方』 文真堂 2023  
9784623095407  
郭四志著 『脱炭素産業革命』 ちくま 2023 9784623095407  
松浦一悦著 『EU の経済・通貨同盟—ガバナンス改革と欧州単一通貨制度のゆくえ—』 晃洋書房 2023  
97847711037267  
池本修一・田中宏編著 『脱炭素・脱ロシア時代の EV 戦略—EU・中欧・ロシアの現場から—』 文真堂  
2022 9784830952067  
『ロシア・ユーラシアの社会』  
ISSN 24353191

### その他 / Others

欧州連合駐日代表部 <http://www.euinjapan.jp/>  
EU MAG <http://eumag.jp/>  
日本 EU 学会 <http://www.eusa-japan.org/index.html>  
第9回 EU セミナー <https://iush.jp/seminar/2021/02/420/>

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。



## ゼミナール B

### Seminar B

世界経済と地域統合について考えるー経済統合のツールボックスとしての EU（欧州連合）

蓮見 雄 (HASUMI YU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX652  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX4020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

EU（欧州連合）は、ユーロ危機、Brexit、移民・難民危機、ポピュリズム、ウクライナ戦争など複合的な危機に直面しているとはいえ、依然として経済活動のグローバル化に適応するための様々な政策を生み出している「経済統合のツールボックス」ともいえる機構であり、アジアにおける経済協力を考える上でも示唆に富む。そこで、本授業では、（1）EU と国家の役割分担に基づいて行われているヨーロッパ経済に関する基礎知識を学び、（2）他大学の学生とともに EU セミナーに参加して、プレゼンテーションや討論の能力を身につけ、（3）

Although the European Union (EU) is facing complex crises, such as the Euro crisis, Brexit, the immigration and refugee crisis, Ukraine war and populism, it has been creating a mechanism called an “economic integration toolbox” for producing various policies to adapt to the globalization of economic activities, and this is also rich in suggestions for considering economic cooperation in Asia. In view of this, the objective of this class is to (1) to learn basic knowledge regarding the European economy based on the division of roles between the EU and its individual nations, (2) acquire the ability to give presentations and engage in debates by participating in EU seminars with the students of other universities, and (3) foster the ability to think about the regional integration

of the world based on the basic knowledge of the EU politics and economic governance frameworks.

## 授業の内容 / Course Contents

大学セミナーハウス（八王子）で行われる第10回 EU セミナーに参加することを前提としてゼミを行う。EU セミナー開催時期は、9月下旬の2泊3日（状況によっては、ZOOM で実施される場合もある）。EU セミナーは、代表的な EU 研究者の指導の下で約 100 人の学生が大学の垣根を越えて共に学ぶ場である。2022 年のセミナーについては以下を参照（<https://iush.jp/seminar/report/EU/10/>）。

ゼミの内容は3つの部分に分かれる。第1に、EU に関する基礎知識を短期間に身につける。第2に、EU セミナー分科会の内容を確認した上で、各自参加する分科会のテーマに関する課題及び追加情報の収集を行う。想定されるテーマは、ユーロ危機、イギリスの EU 離脱、ポピュリズム、エネルギー・環境問題、EU のガバナンス問題、EU の対ロシア経済制裁など。第3に、EU セミナー後、各自の関心に応じて個人あるいはグループで論文を執筆する（テーマの一例：ユーロ危機、銀行同盟、EU・ロシア関係、移民・難民問題、EU とアジアの比較、TPP や TTIP などのメガリージョンと EU の比較、EU 労働政策、日 EU - EPA、EU 労働問題、EU と ASEAN の比較など）。

なお、特に EU とロシアの経済関係、EU と中国の経済関係、ロシアと中国の経済関係、ロシアと日本の経済関係、一帯一路構想、日 EU のエネルギー政策の比較などについて関心のある学生がいれば、別途、指導することがある。

This seminar is conducted on the premise that the students will participate in the 10th EU Seminar to be held at the university's Seminar House (Hachioji). The EU Seminar is held each year for 3 days and 2 nights sometime in September (Depending on the situation, it may be done via ZOOM) . The EU Seminar is attended by approximately 100 students from different universities under the direction of representative EU researchers. The seminar in 2022 can be viewed at this link (<https://iush.jp/seminar/report/EU/10/>).

The seminar contents are divided into three sections. In the first section, students will acquire basic knowledge regarding the EU in a short time. In the second section, students will check the contents of the EU Seminar working group and gather the issues and additional information for working group they are participating in. Possible themes are the Euro crisis, Brexit, populism, energy and environmental problems, EU governance problems, and the EU's economic sanctions on Russia. In the third section, after the EU Seminar, individuals or groups will write a paper on theme of their interest (Example themes: Euro crisis, banking alliances, relationship between the EU and Russia, immigration and refugee problem, comparison between the EU and Asia, comparison of the EU and mega regions like TPP and TTIP, EU labor policies, Agreement between the European Union and Japan for an Economic Partnership, EU labor problems, comparison of EU and ASEAN, etc.)

Separate guidance may be given to students interested in particular in the economic relationship between the EU and Russia, the economic relationship between the EU and China, the economic relationship between Russia and China, the economic relationship between Russia and Japan, the Belt and Road Initiative, or a comparison of Japanese and EU energy policies.

## 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：輪読 1：ヨーロッパ経済を支える機構＝EU のしくみ
- 3 回：輪読 2：関税同盟の効果と限界、欧州動脈硬化症
- 4 回：輪読 3：単一市場下における寡占体間の競争促進と競争法
- 5 回：輪読 4：金融危機と初期のユーロを支える制度の限界（ユーロ 1.0）

- 6回：輪読5：金融危機とユーロを支える制度の進化（ユーロ2.0）  
 7回：輪読6：国境をこえる資本の移動と域内生産ネットワークの形成  
 8回：輪読7：EU財政のしくみ  
 9回：輪読8：リージョナル・インバランスとEUの地域政策のしくみ  
 10回：輪読9：国境を越える人の移動とEUの雇用政策  
 11回：輪読10：グローバル化の中のEU：EUの通商政策  
 12回：各分科会参加者ごとにEUセミナー参加準備1  
 13回：各分科会参加者ごとにEUセミナー参加準備2  
 14回：各分科会参加者ごとにEUセミナー参加のための夏季レポート課題の決定と役割の配分  
 15回：夏期レポートに基づく報告と討論1  
 16回：夏期レポートに基づく報告と討論2  
 17回：夏期レポートに基づく報告と討論3  
 18回：夏期レポートを基礎として、EUセミナー報告準備1  
 19回：夏期レポートを基礎として、EUセミナー報告準備2  
 20回：夏期レポートを基礎として、EUセミナー報告準備3  
 21回：EUセミナー直前対策  
 22回：EUセミナー直前対策  
 23回：EUセミナー反省会と各自・各グループの論文テーマの検討  
 24回：各自・各グループの論文テーマに関する意見交換  
 25回：夏期レポート及びEUセミナー報告を基礎とした最終レポート作成の指導1  
 26回：夏期レポート及びEUセミナー報告を基礎とした最終レポート作成の指導2  
 27回：夏期レポート及びEUセミナー報告を基礎とした最終レポート作成の指導3  
 28回：総括

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- 1) 特に前期において、短時間でEUの基礎を学び、EUセミナーの準備を行うため、予習・復習は不可欠であり、授業時間と同等の授業時間外学習が必要である。
- 2) 夏期課題があり、そのための授業時間外学習が必要である。
- 3) 夏期課題とEUセミナー報告を基礎として、各自最終レポートを作成するので、授業時間外学習が必要である。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点割合 :100% 授業参加度:70% 夏期課題:30%

#### テキスト / Textbooks

田中素香・長部重康、久保広正、岩田健治著 『現代ヨーロッパ経済（第6版）』 有斐閣 2022

9784641221918 ○

蓮見雄・高屋定美編著 『欧州グリーンディールと EU 経済の復興』 文真堂 2023 9784830952210 ○  
山本和人・鳥貝一生編著 『世界経済論（第2版）：変容するグローバリゼーション』 ミネルヴァ書房  
2023 9784623095407 ○

No1 については、必ず第6版（もし2024年4月までに第7版が出版される場合は、第7版）。No3 については、必ず第2版を購入すること。今年は、たくさんの文献を読みます。

### 参考文献 / Readings

庄司克宏編著 『国際機構 新版』 岩波書店 2021 9784000289238  
中西優美子 『概説 EU 環境法』 法律文化社 2021 9784589041319  
ブラッドフォード 『ブリュッセル効果 EU の覇権戦略』 白水社 2022 9784560098936  
馬田敬一・浦田秀次郎・木村福成編著 『変質するグローバル化と世界経済秩序の行方』 文真堂 2023  
9784623095407  
郭四志著 『脱炭素産業革命』 ちくま 2023 9784623095407  
松浦一悦著 『EU の経済・通貨同盟—ガバナンス改革と欧州単一通貨制度のゆくえ—』 晃洋書房 2023  
97847711037267  
池本修一・田中宏編著 『脱炭素・脱ロシア時代の EV 戦略—EU・中欧・ロシアの現場から—』 文真堂  
2022 9784830952067  
『ロシア・ユーラシアの社会』  
ISSN 24353191

### その他 / Others

欧州連合駐日代表部 <http://www.euinjapan.jp/>  
EU MAG <http://eumag.jp/>  
日本 EU 学会 <http://www.eusa-japan.org/index.html>  
第9回 EU セミナー <https://iush.jp/seminar/2021/02/420/>

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール A

### Seminar A

環境保全と経済発展の両立を考える

一ノ瀬 大輔 (ICHINOSE DAISUKE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX657
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX2020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

経済学の理論や統計学の手法を使い、環境問題をはじめとする社会問題を論理的かつ客観的に分析し、それに対する解決策を提示することができるようになることを目指します。また、様々な考え方を受け入れる力や、自分の主張や考えをうまく人に伝える力も養っていきます。

The object of this course is for students to use economic theory and statistical methods to logically and objectively analyze the environmental problem and other social problems and be able to propose solutions for them. An additional objective is for students to be able to accept different ways of thinking and to nurture the ability to skillfully communicate their assertions and ideas to other people.

### 授業の内容 / Course Contents

環境を無視して経済成長を目指すことは問題ですが、経済成長を全く無視して環境保全のみを考えることにもまた問題があります。このゼミナールでは、どうしたら環境と経済を両立することができるのかということをも具体的な環境問題の検証や環境経済学の理論の学習を通して考えていきます。また、履修者の要望に応じ、統計学的な手法を用いた社会問題の分析方法についても扱う予定です。

ゼミナールでは受講者によるテキストの輪読、新聞記事発表、グループや個人による論文の作成などを行って

いきます。また、プレゼンテーション能力を高めるための発表やディベートの練習、他大学との論文報告会（インゼミ）も行います。扱うテーマは環境問題が中心ですが、新聞記事発表やディベートでは環境問題以外にも履修者が興味をもった問題を広く扱っていきます。

Aiming for economic growth while ignoring the environment is a problem, but thinking about just protecting the environment and completely ignoring economic growth is also a problem. In this seminar students will verify specific environmental problems and learn the theory of environmental economics to consider how to both preserve the environment and have a strong economy. In addition, in response to requests from students, analytical methods for social problems using statistical techniques will also be covered.

During the seminar, students will read the text, present newspaper articles, and write papers either as a group or individually. Further, to improve their presentation ability, students will practice presentations and debates and hold paper reporting sessions (inter-seminars) with other universities. The addressed themes will focus on environmental issues, but for the newspaper article presentations and debates students can address a wide variety of problems that interest them in addition to environmental problems.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：環境問題の概要 1/発表練習 1
- 3回：環境問題の概要 2/発表練習 2
- 4回：環境問題の概要 3/発表練習 3
- 5回：環境問題の概要 4/発表練習 4
- 6回：学外演習（予定）
- 7回：環境経済学の学習 1/ディベート練習 1
- 8回：環境経済学の学習 2/ディベート練習 2
- 9回：環境経済学の学習 3/ディベート練習 3
- 10回：環境経済学の学習 4/ディベート練習 4
- 11回：環境経済学の学習 5/ディベート練習 5
- 12回：環境経済学の学習 6/ディベート練習 6
- 13回：環境経済学の学習 7/ディベート練習 7
- 14回：環境経済学の学習 8/ディベート練習 8
- 15回：ガイダンス
- 16回：グループ論文作成 1/環境経済学の分析手法 1
- 17回：グループ論文作成 2/環境経済学の分析手法 2
- 18回：グループ論文作成 3/環境経済学の分析手法 3
- 19回：グループ論文作成 4/環境経済学の分析手法 4
- 20回：グループ論文作成 5/環境経済学の分析手法 5
- 21回：他大学との論文報告会（予定）
- 22回：環境経済学の分析手法 6/発表練習 1
- 23回：環境経済学の分析手法 7/発表練習 2
- 24回：環境経済学の分析手法 8/発表練習 3
- 25回：環境経済学の分析手法 9/発表練習 4
- 26回：環境経済学の分析手法 10/発表練習 5
- 27回：環境経済学の分析手法 11/発表練習 6

## 28回：環境経済学の分析手法 12/発表練習 7

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

毎回、復習と予習をしておくこと。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation**

平常点割合 :100% 授業参加度:30% 報告内容:30% 議論への貢献:40%

**テキスト / Textbooks**

授業中に適宜指示する。

**参考文献 / Readings**

日引 聡, 有村 俊秀 『入門 環境経済学—環境問題解決へのアプローチ』 中公新書 2002 4121016483

**その他 / Others**

授業計画に関しては、進度などによって若干変更する場合があります。

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

### Seminar B

環境保全と経済発展の両立を考える

一ノ瀬 大輔 (ICHINOSE DAISUKE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX658
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX4020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

経済学の理論や統計学の手法を使い、環境問題をはじめとする社会問題を論理的かつ客観的に分析し、それに対する解決策を提示することができるようになることを目指します。また、様々な考え方を受け入れる力や、自分の主張や考えをうまく人に伝える力も養っていきます。

The object of this course is for students to use economic theory and statistical methods to logically and objectively analyze the environmental problem and other social problems and be able to propose solutions for them. An additional objective is for students to be able to accept different ways of thinking and to nurture the ability to skillfully communicate their assertions and ideas to other people.

### 授業の内容 / Course Contents

環境を無視して経済成長を目指すことは問題ですが、経済成長を全く無視して環境保全のみを考えることにもまた問題があります。このゼミナールでは、どうしたら環境と経済を両立することができるのかということをも具体的な環境問題の検証や環境経済学の理論の学習を通して考えていきます。また、履修者の要望に応じ、統計学的な手法を用いた社会問題の分析方法についても扱う予定です。

ゼミナールでは受講者によるテキストの輪読、新聞記事発表、グループや個人による論文の作成などを行って



いきます。また、プレゼンテーション能力を高めるための発表やディベートの練習、他大学との論文報告会（インゼミ）も行います。扱うテーマは環境問題が中心ですが、新聞記事発表やディベートでは環境問題以外にも履修者が興味をもった問題を広く扱っていきます。

Aiming for economic growth while ignoring the environment is a problem, but thinking about just protecting the environment and completely ignoring economic growth is also a problem. In this seminar students will verify specific environmental problems and learn the theory of environmental economics to consider how to both preserve the environment and have a strong economy. In addition, in response to requests from students, analytical methods for social problems using statistical techniques will also be covered.

During the seminar, students will read the text, present newspaper articles, and write papers either as a group or individually. Further, to improve their presentation ability, students will practice presentations and debates and hold paper reporting sessions (inter-seminars) with other universities. The addressed themes will focus on environmental issues, but for the newspaper article presentations and debates students can address a wide variety of problems that interest them in addition to environmental problems.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：環境問題の概要 1/発表練習 1
- 3回：環境問題の概要 2/発表練習 2
- 4回：環境問題の概要 3/発表練習 3
- 5回：環境問題の概要 4/発表練習 4
- 6回：学外演習（予定）
- 7回：環境経済学の学習 1/ディベート練習 1
- 8回：環境経済学の学習 2/ディベート練習 2
- 9回：環境経済学の学習 3/ディベート練習 3
- 10回：環境経済学の学習 4/ディベート練習 4
- 11回：環境経済学の学習 5/ディベート練習 5
- 12回：環境経済学の学習 6/ディベート練習 6
- 13回：環境経済学の学習 7/ディベート練習 7
- 14回：環境経済学の学習 8/ディベート練習 8
- 15回：ガイダンス
- 16回：グループ論文作成 1/環境経済学の分析手法 1
- 17回：グループ論文作成 2/環境経済学の分析手法 2
- 18回：グループ論文作成 3/環境経済学の分析手法 3
- 19回：グループ論文作成 4/環境経済学の分析手法 4
- 20回：グループ論文作成 5/環境経済学の分析手法 5
- 21回：他大学との論文報告会（予定）
- 22回：環境経済学の分析手法 6/発表練習 1
- 23回：環境経済学の分析手法 7/発表練習 2
- 24回：環境経済学の分析手法 8/発表練習 3
- 25回：環境経済学の分析手法 9/発表練習 4
- 26回：環境経済学の分析手法 10/発表練習 5
- 27回：環境経済学の分析手法 11/発表練習 6

## 28回：環境経済学の分析手法 12/発表練習 7

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

毎回、復習と予習をしておくこと。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation**

平常点割合 :100% 授業参加度:30% 報告内容:30% 議論への貢献:40%

**テキスト / Textbooks**

授業中に適宜指示する。

**参考文献 / Readings**

日引 聡, 有村 俊秀 『入門 環境経済学—環境問題解決へのアプローチ』 中公新書 2002 4121016483

**その他 / Others**

授業計画に関しては、進度などによって若干変更する場合があります。

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール A

Seminar A

近現代日本の経済史・経営史

岡部 桂史 (OKABE KEISHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX661  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX2020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

経済学部の学位授与方針に掲げる「幅広い視野と柔軟な頭脳をもって変動する経済社会に対応できる、自立的な思考能力をもった人材」となるべく、明治から現代までの日本社会の歩みについて、文献や統計資料、フィールドワークから考察し、歴史的な視点から現代社会を相対化する能力を身につける。

As far as possible to “Be people with independent thinking ability who can respond to the changes in economic society with a broad perspective and flexible mind” as stated in the College of Economics degree granting policy, in this course students will acquire the ability to consider the history of the Japanese society from the Meiji Era to the present from literature, statistical materials, and fieldwork, to be able to relativize contemporary society from a historical perspective.

### 授業の内容 / Course Contents

現在の経済社会を理解するために、歴史的な考察は不可欠です。複雑な現代社会の動向を理解するには、歴史研究によって現代社会を相対化する視点を身につけなければなりません。歴史が「現在と過去の対話」といわれる所以です。

ゼミナールは、グループ報告が中心です。共同研究の成果は、12月の合同ゼミナール（法政大学・東京都立大

学・専修大学・南山大学等)で発表します。また共同研究では、関係する企業を積極的に訪問し、ヒアリング等も実施します。

2024年度は、日本の近現代以降の社会や経済について、さまざまなアプローチを通じて、学び考えてみたいと考えています。「歴史が好き」な学生は大歓迎ですが、特段関心がない人も問題ありません。また、前向きで協調性がある方がゼミナールの進行上は望ましいですが、後ろ向きで協調性が無いと自覚している人もいるでしょう。後者であっても全く気にしません。多様な学生が集まることを期待しています。

Historical considerations are indispensable for understanding the current economic society. Students must acquire a relativized perspective of contemporary society through historical research to understand the movements in today's complex society. What this means is that history is "the dialog between the present and the past."

The seminar will be conducted as a group study. The results of the joint research will be announced at the joint seminar (Hosei University and Tokyo Metropolitan University, Senshu University, Nanzan University, etc.) in December. Seminary students will actively visit companies to conduct interviews.

In FY2024, we would like to study and think about the modern society and economy of Japan through various approaches. Students that "love history" are very welcome, but participation by students without a particular interest in history is also fine. In addition, due to the way the seminar is conducted, positive and cooperative students are desirable, but there are also some students that realize they are negative and uncooperative. The later types are also very welcome. I look forward to participation by a variety of students.

#### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：春学期ゼミナール・ガイダンス
- 2回：基本文献の研究・グループワーク (1)
- 3回：基本文献の研究・グループワーク (2)
- 4回：基本文献の研究・グループワーク (3)
- 5回：基本文献の研究・グループワーク (4)
- 6回：基本文献の研究・グループワーク (5)
- 7回：基本文献の研究・グループワーク (6)
- 8回：基本文献の研究・グループワーク (7)
- 9回：基本文献の研究・グループワーク (8)
- 10回：基本文献の研究・グループワーク (9)
- 11回：基本文献の研究・グループワーク (10)
- 12回：基本文献の研究・グループワーク (11)
- 13回：基本文献の研究・グループワーク (12)
- 14回：春学期のまとめ
- 15回：秋学期ゼミナール・ガイダンス
- 16回：共同研究・プレゼンテーション (1)
- 17回：共同研究・プレゼンテーション (2)
- 18回：共同研究・プレゼンテーション (3)
- 19回：共同研究・プレゼンテーション (4)
- 20回：共同研究・プレゼンテーション (5)
- 21回：共同研究・プレゼンテーション (6)
- 22回：共同研究・プレゼンテーション (7)

- 23 回：共同研究・プレゼンテーション (8)  
 24 回：共同研究・プレゼンテーション (9)  
 25 回：共同研究・プレゼンテーション (10)  
 26 回：共同研究・プレゼンテーション (11)  
 27 回：共同研究・プレゼンテーション (12)  
 28 回：1 年間のまとめ (全体総括)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各回のテキストやテーマについて、事前に専門用語や疑問点を調べる。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点割合 :100% 個別プレゼンテーション:35% グループ学習:35% 最終レポート割合 :30%

### テキスト / Textbooks

ゼミナール・ガイダンスで適宜指示します。

### 参考文献 / Readings

授業中に適宜指示します。

### その他 / Others

#### 【授業形態】

授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待されます。

#### 【課題に対するフィードバック】

最終授業時に、全体に対するフィードバックを行います。

#### 【その他】

ゼミナール採用者に対しては、2024 年 1 月以降に説明会 (対面もしくはオンライン) を実施します。

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

Seminar B

近現代日本の経済史・経営史

岡部 桂史 (OKABE KEISHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX662  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX4020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

経済学部の学位授与方針に掲げる「幅広い視野と柔軟な頭脳をもって変動する経済社会に対応できる、自立的な思考能力をもった人材」となるべく、明治から現代までの日本社会の歩みについて、文献や統計資料、フィールドワークから考察し、歴史的な視点から現代社会を相対化する能力を身につける。

As far as possible to “Be people with independent thinking ability who can respond to the changes in economic society with a broad perspective and flexible mind” as stated in the College of Economics degree granting policy, in this course students will acquire the ability to consider the history of the Japanese society from the Meiji Era to the present from literature, statistical materials, and fieldwork, to be able to relativize contemporary society from a historical perspective.

### 授業の内容 / Course Contents

現在の経済社会を理解するために、歴史的な考察は不可欠です。複雑な現代社会の動向を理解するには、歴史研究によって現代社会を相対化する視点を身につけなければなりません。歴史が「現在と過去の対話」といわれる所以です。

ゼミナールは、グループ報告が中心です。共同研究の成果は、12月の合同ゼミナール（法政大学・東京都立大

学・専修大学・南山大学等)で発表します。また共同研究では、関係する企業を積極的に訪問し、ヒアリング等も実施します。

2024年度は、日本の近現代以降の社会や経済について、さまざまなアプローチを通じて、学び考えてみたいと考えています。「歴史が好き」な学生は大歓迎ですが、特段関心がない人も問題ありません。また、前向きで協調性がある方がゼミナールの進行上は望ましいですが、後ろ向きで協調性が無いと自覚している人もいるでしょう。後者であっても全く気にしません。多様な学生が集まることを期待しています。

Historical considerations are indispensable for understanding the current economic society. Students must acquire a relativized perspective of contemporary society through historical research to understand the movements in today's complex society. What this means is that history is "the dialog between the present and the past."

The seminar will be conducted as a group study. The results of the joint research will be announced at the joint seminar (Hosei University and Tokyo Metropolitan University, Senshu University, Nanzan University, etc.) in December. Seminary students will actively visit companies to conduct interviews.

In FY2024, we would like to study and think about the modern society and economy of Japan through various approaches. Students that "love history" are very welcome, but participation by students without a particular interest in history is also fine. In addition, due to the way the seminar is conducted, positive and cooperative students are desirable, but there are also some students that realize they are negative and uncooperative. The later types are also very welcome. I look forward to participation by a variety of students.

#### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：春学期ゼミナール・ガイダンス
- 2回：基本文献の研究・グループワーク (1)
- 3回：基本文献の研究・グループワーク (2)
- 4回：基本文献の研究・グループワーク (3)
- 5回：基本文献の研究・グループワーク (4)
- 6回：基本文献の研究・グループワーク (5)
- 7回：基本文献の研究・グループワーク (6)
- 8回：基本文献の研究・グループワーク (7)
- 9回：基本文献の研究・グループワーク (8)
- 10回：基本文献の研究・グループワーク (9)
- 11回：基本文献の研究・グループワーク (10)
- 12回：基本文献の研究・グループワーク (11)
- 13回：基本文献の研究・グループワーク (12)
- 14回：春学期のまとめ
- 15回：秋学期ゼミナール・ガイダンス
- 16回：共同研究・プレゼンテーション (1)
- 17回：共同研究・プレゼンテーション (2)
- 18回：共同研究・プレゼンテーション (3)
- 19回：共同研究・プレゼンテーション (4)
- 20回：共同研究・プレゼンテーション (5)
- 21回：共同研究・プレゼンテーション (6)
- 22回：共同研究・プレゼンテーション (7)

- 23 回：共同研究・プレゼンテーション (8)  
 24 回：共同研究・プレゼンテーション (9)  
 25 回：共同研究・プレゼンテーション (10)  
 26 回：共同研究・プレゼンテーション (11)  
 27 回：共同研究・プレゼンテーション (12)  
 28 回：1 年間のまとめ (全体総括)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各回のテキストやテーマについて、事前に専門用語や疑問点を調べる。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点割合 :100% 個別プレゼンテーション:35% グループ学習:35% 最終レポート割合 :30%

### テキスト / Textbooks

ゼミナール・ガイダンスで適宜指示します。

### 参考文献 / Readings

授業中に適宜指示します。

### その他 / Others

#### 【授業形態】

授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待されます。

#### 【課題に対するフィードバック】

最終授業時に、全体に対するフィードバックを行います。

#### 【その他】

ゼミナール採用者に対しては、2024 年 1 月以降に説明会 (対面もしくはオンライン) を実施します。

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。



## ゼミナール A

Seminar A

日本経済分析－国際的観点より

林 采成 (LIM CHAISUNG)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX664  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX2020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

日本経済の現状と史的展開を理解し、実態としての経済作動についてのパースペクティブを持たせる。

To understand the current state of the Japanese economy and its historical development and have a perspective of how the economy actually operates.

### 授業の内容 / Course Contents

戦時経済から戦後再編、高成長期を経て低成長の現在に至るまでの日本経済の発展経路について理解する。とはいえ日本だけに限定せず、日本とアジアとの相互交流をも視野に入れて、個別産業の発展、インフラの形成、企業投資、経済政策の推進などといった多様な部門に関して遠慮なく議論してもらおう。それを通じて学生諸君が実態としての経済作動が我々に及ぼす影響をより大きな視野から認識することを期待する。

このゼミでは以上の問題意識に基づいて日本経済に関する多様なテキストを読み、担当者の報告の上、参加者同士で討論を行う。

Students will gain an understanding of the development path taken by the Japanese economy from the wartime economy through the postwar reconstruction, period of high growth, and up to today's low growth period.

Having said that, the coverage will not be limited to Japan but will also include the mutual exchange between

Japan and Asia as well as diverse areas such as the development of individual industries, infrastructure formation, business investment, and the promotion of economic policies. This is expected that as a result of this students will become able to recognize from a broad perspective how economic operations affect us.

Based on the above problem awareness, students will read a variety of texts related to the Japanese economy and discuss among themselves the reports that are given.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：春学期イントロダクション
- 2 回：輪読書報告及び討論 1
- 3 回：輪読書報告及び討論 2
- 4 回：輪読書報告及び討論 3
- 5 回：輪読書報告及び討論 4
- 6 回：グループ論文作成作業 1
- 7 回：グループ論文作成作業 2
- 8 回：グループ論文作成作業 3
- 9 回：グループ論文作成作業 4
- 10 回：グループ論文中間報告及び討論 1
- 11 回：グループ論文中間報告及び討論 2
- 12 回：グループ論文中間報告及び討論 3
- 13 回：グループ論文最終報告及び討論
- 14 回：春学期総括
- 15 回：秋学期イントロダクション
- 16 回：輪読書報告及び討論 5
- 17 回：輪読書報告及び討論 6
- 18 回：輪読書報告及び討論 7
- 19 回：輪読書報告及び討論 8
- 20 回：個人論文作成作業 1
- 21 回：個人論文作成作業 2
- 22 回：個人論文作成作業 3
- 23 回：個人論文中間報告及び討論 1
- 24 回：個人論文中間報告及び討論 2
- 25 回：個人論文中間報告及び討論 3
- 26 回：個人論文最終報告及び討論 1
- 27 回：個人論文最終報告及び討論 2
- 28 回：年度総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

テキストなどは各自、精読して授業に参加すること。

グループ論文のプレゼンテーションは各グループ別に先行研究及び資料調査の上で行い、ディスカッションを通じて指摘・議論される事項ないしコメントを踏まえてグループ論文の改善を図ること。

#### **成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点割合 :100% 授業参加度:30% 討論:30% 最終レポート割合 :40%

#### **テキスト / Textbooks**

授業時に提示する。

#### **参考文献 / Readings**

授業時に提示する。

#### **注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

### Seminar B

日本経済分析－国際的観点より

林 采成 (LIM CHAISUNG)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX665
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX4020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

日本経済の現状と史的展開を理解し、実態としての経済作動についてのパースペクティブを持たせる。

To understand the current state of the Japanese economy and its historical development and have a perspective of how the economy actually operates.

### 授業の内容 / Course Contents

戦時経済から戦後再編、高成長期を経て低成長の現在に至るまでの日本経済の発展経路について理解する。とはいえ日本だけに限定せず、日本とアジアとの相互交流をも視野に入れて、個別産業の発展、インフラの形成、企業投資、経済政策の推進などといった多様な部門に関して遠慮なく議論してもらおう。それを通じて学生諸君が実態としての経済作動が我々に及ぼす影響をより大きな視野から認識することを期待する。

このゼミでは以上の問題意識に基づいて日本経済に関する多様なテキストを読み、担当者の報告の上、参加者同士で討論を行う。

Students will gain an understanding of the development path taken by the Japanese economy from the wartime economy through the postwar reconstruction, period of high growth, and up to today's low growth period.

Having said that, the coverage will not be limited to Japan but will also include the mutual exchange between

Japan and Asia as well as diverse areas such as the development of individual industries, infrastructure formation, business investment, and the promotion of economic policies. This is expected that as a result of this students will become able to recognize from a broad perspective how economic operations affect us.

Based on the above problem awareness, students will read a variety of texts related to the Japanese economy and discuss among themselves the reports that are given.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：春学期イントロダクション
- 2 回：輪読書報告及び討論 1
- 3 回：輪読書報告及び討論 2
- 4 回：輪読書報告及び討論 3
- 5 回：輪読書報告及び討論 4
- 6 回：グループ論文作成作業 1
- 7 回：グループ論文作成作業 2
- 8 回：グループ論文作成作業 3
- 9 回：グループ論文作成作業 4
- 10 回：グループ論文中間報告及び討論 1
- 11 回：グループ論文中間報告及び討論 2
- 12 回：グループ論文中間報告及び討論 3
- 13 回：グループ論文最終報告及び討論
- 14 回：春学期総括
- 15 回：秋学期イントロダクション
- 16 回：輪読書報告及び討論 5
- 17 回：輪読書報告及び討論 6
- 18 回：輪読書報告及び討論 7
- 19 回：輪読書報告及び討論 8
- 20 回：個人論文作成作業 1
- 21 回：個人論文作成作業 2
- 22 回：個人論文作成作業 3
- 23 回：個人論文中間報告及び討論 1
- 24 回：個人論文中間報告及び討論 2
- 25 回：個人論文中間報告及び討論 3
- 26 回：個人論文最終報告及び討論 1
- 27 回：個人論文最終報告及び討論 2
- 28 回：年度総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

テキストなどは各自、精読して授業に参加すること。

グループ論文のプレゼンテーションは各グループ別に先行研究及び資料調査の上で行い、ディスカッションを通じて指摘・議論される事項ないしコメントを踏まえてグループ論文の改善を図ること。

#### **成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点割合：100% 授業参加度:30% 討論:30% 最終レポート割合：:40%

#### **テキスト / Textbooks**

授業時に提示する。

#### **参考文献 / Readings**

授業時に提示する。

#### **注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール A

### Seminar A

現代財政・社会保障・租税論の国際比較研究

関口 智 (SEKIGUCHI SATOSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX667
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX2020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

各国の財政制度，とりわけ消費税・所得税といった租税制度，年金・医療・介護保険・生活保護といった社会保障制度等について国際比較を行うことで，日本社会の現状を把握することを目標とします。

The objective of this course is to grasp the current state of Japanese society by making an international comparison with the financials systems of each country and in particular the tax systems focusing on consumption tax and income tax as well as the social security systems looking at pensions, medical treatment, long-term care insurance, and welfare among others.

### 授業の内容 / Course Contents

財政は，政府の行政活動を裏付ける，公的な資金調達及び資金支出の活動です。しかし，単なる政府部門の歳入・歳出活動のみを対象にするものではないことに注意が必要です。というのは，政府部門の活動の対象は，企業や家族を対象としているからです。このことは，企業の活動や家族の活動の理解にも，政府部門の活動の理解が不可欠であることを示しています。

これまでゼミでは，財政学の視点から公共領域と民間領域の範囲を意識した議論を行ってきました。例えば，年金（公的年金保険と民間年金保険），医療（公的医療保険と民間医療保険），教育（公教育と私教育）等

に関して、政府部門の歳入・歳出構造や企業形態・家族形態を踏まえた国際比較を行い、日本社会の現状理解を深めてきました。本年度のゼミでも、財政学の視点から議論することを考えています。

ゼミの活動は参加者（ゼミ生）の主体性を尊重しているため、テーマ設定、立案、実行を学生主体で行うこととし、担当者（関口）はそのための資料や視点を提供し、必要な解説を行います。確定したテーマについて、各国の状況も意識しながら積極的に学び、毎回の参加により理解を共有し、自分の意見を積極的に発言し、日本財政の抱える課題や解決策について考えてゆこうとする学生の参加を望みます。

Public finance supports the administrative activities of government and is public funds procurement and funds expenditure activities. However, caution is required because this does not address only revenue and expenditure activities of the government sector. This is because addressing the activities of the government sector also addresses businesses and households. For this reason, understanding the activities of businesses and households is indispensable for understanding the activities of the government sector.

In the seminar so far the scopes of the public sector and private sector have been discussed from the perspective of public finance. For example, understanding of the current state of Japanese society was deepened by making international comparisons of the government sectors revenue and expenditure mechanisms and the forms of businesses and families in regards to pensions (public pension insurance and private pension insurance), medical care (public medical insurance and private medical insurance), and education (public education and private education), etc. The topics of the seminar for the current academic year will be discussed from the perspective of public finance.

In regards to seminar activities, the initiative of the participants (seminar students) will be respected, so the setting, planning, and execution of themes will be led by the students while the person in charge (Sekiguchi) will provide materials and perspectives to support this as well as necessary explanations. Regarding the set themes, it is desirable that the students who participate in the seminar will study proactively keeping the situations in the various countries in mind, share their understanding by participating in each class, actively express their opinions, and think about solutions to the problems faced by Japanese public finance.

#### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：財政学基本文献の輪読（プレゼン・解説・討論）
- 2回：財政学基本文献の輪読（プレゼン・解説・討論）
- 3回：財政学基本文献の輪読（プレゼン・解説・討論）
- 4回：財政学基本文献の輪読（プレゼン・解説・討論）
- 5回：卒業論文1（プレゼン・ゼミ生の質疑・改善指導）
- 6回：財政学基本文献の輪読（プレゼン・解説・討論）
- 7回：財政学基本文献の輪読（プレゼン・解説・討論）
- 8回：財政学基本文献の輪読（プレゼン・解説・討論）
- 9回：卒業論文2（プレゼン・ゼミ生の質疑・改善指導）
- 10回：討論会向け基本文献の輪読（プレゼン・解説・討論）
- 11回：討論会向け基本文献の輪読（プレゼン・解説・討論）
- 12回：討論会向け基本文献の輪読（プレゼン・解説・討論）
- 13回：討論会向け基本文献の輪読（プレゼン・解説・討論）
- 14回：卒業論文3（プレゼン・ゼミ生の質疑・改善指導）
- 15回：討論会向け基本文献の輪読（プレゼン・解説・討論）
- 16回：討論会準備（グループ作業）



- 17回：討論会準備（プレゼン・改善指導）  
 18回：討論会準備（グループ作業・調整）  
 19回：卒業論文4（プレゼン・ゼミ生の質疑・改善指導）  
 20回：討論会準備（プレゼン・改善指導）  
 21回：討論会準備（グループ作業・調整）  
 22回：討論会準備（プレゼン・改善指導）  
 23回：卒業論文5（プレゼン・ゼミ生の質疑・改善指導）  
 24回：討論会準備（プレゼン・改善指導・全体調整作業）  
 25回：討論会準備（プレゼン・改善指導・全体調整作業）  
 26回：討論会準備（プレゼン・改善指導）  
 27回：討論会準備（プレゼン・改善指導）  
 28回：卒業論文6（プレゼン・ゼミ生の質疑・改善指導）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点割合 :100% レジューメ作成:20% プレゼンテーション:20% 討論への参加:40% ゼミ共同論文:20%

### テキスト / Textbooks

ゼミ生全員でテーマ設定し、複数のテキストを担当者（関口）が提示し、ゼミ生が選択・決定します。

### 参考文献 / Readings

関口智 『現代アメリカ連邦税制-付加価値税なき国家の租税構造』 東京大学出版会 2015年  
9784130461146

関口智編 『地方財政・公会計制度の国際比較』 日本経済評論社 2016年 9784818824188

随時紹介します。

### その他 / Others

ゼミ生による HP (<https://sites.google.com/view/sekiguchiseminar/>)

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

### Seminar B

現代財政・社会保障・租税論の国際比較研究

関口 智 (SEKIGUCHI SATOSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX668
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX4020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

各国の財政制度，とりわけ消費税・所得税といった租税制度，年金・医療・介護保険・生活保護といった社会保障制度等について国際比較を行うことで，日本社会の現状を把握することを目標とします。

The objective of this course is to grasp the current state of Japanese society by making an international comparison with the financials systems of each country and in particular the tax systems focusing on consumption tax and income tax as well as the social security systems looking at pensions, medical treatment, long-term care insurance, and welfare among others.

### 授業の内容 / Course Contents

財政は，政府の行政活動を裏付ける，公的な資金調達及び資金支出の活動です。しかし，単なる政府部門の歳入・歳出活動のみを対象にするものではないことに注意が必要です。というのは，政府部門の活動の対象は，企業や家族を対象としているからです。このことは，企業の活動や家族の活動の理解にも，政府部門の活動の理解が不可欠であることを示しています。

これまでゼミでは，財政学の視点から公共領域と民間領域の範囲を意識した議論を行ってきました。例えば，年金（公的年金保険と民間年金保険），医療（公的医療保険と民間医療保険），教育（公教育と私教育）等

に関して、政府部門の歳入・歳出構造や企業形態・家族形態を踏まえた国際比較を行い、日本社会の現状理解を深めてきました。本年度のゼミでも、財政学の視点から議論することを考えています。

ゼミの活動は参加者（ゼミ生）の主体性を尊重しているため、テーマ設定、立案、実行を学生主体で行うこととし、担当者（関口）はそのための資料や視点を提供し、必要な解説を行います。確定したテーマについて、各国の状況も意識しながら積極的に学び、毎回の参加により理解を共有し、自分の意見を積極的に発言し、日本財政の抱える課題や解決策について考えてゆこうとする学生の参加を望みます。

Public finance supports the administrative activities of government and is public funds procurement and funds expenditure activities. However, caution is required because this does not address only revenue and expenditure activities of the government sector. This is because addressing the activities of the government sector also addresses businesses and households. For this reason, understanding the activities of businesses and households is indispensable for understanding the activities of the government sector.

In the seminar so far the scopes of the public sector and private sector have been discussed from the perspective of public finance. For example, understanding of the current state of Japanese society was deepened by making international comparisons of the government sectors revenue and expenditure mechanisms and the forms of businesses and families in regards to pensions (public pension insurance and private pension insurance), medical care (public medical insurance and private medical insurance), and education (public education and private education), etc. The topics of the seminar for the current academic year will be discussed from the perspective of public finance.

In regards to seminar activities, the initiative of the participants (seminar students) will be respected, so the setting, planning, and execution of themes will be led by the students while the person in charge (Sekiguchi) will provide materials and perspectives to support this as well as necessary explanations. Regarding the set themes, it is desirable that the students who participate in the seminar will study proactively keeping the situations in the various countries in mind, share their understanding by participating in each class, actively express their opinions, and think about solutions to the problems faced by Japanese public finance.

#### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：財政学基本文献の輪読（プレゼン・解説・討論）
- 2回：財政学基本文献の輪読（プレゼン・解説・討論）
- 3回：財政学基本文献の輪読（プレゼン・解説・討論）
- 4回：財政学基本文献の輪読（プレゼン・解説・討論）
- 5回：卒業論文1（プレゼン・ゼミ生の質疑・改善指導）
- 6回：財政学基本文献の輪読（プレゼン・解説・討論）
- 7回：財政学基本文献の輪読（プレゼン・解説・討論）
- 8回：財政学基本文献の輪読（プレゼン・解説・討論）
- 9回：卒業論文2（プレゼン・ゼミ生の質疑・改善指導）
- 10回：討論会向け基本文献の輪読（プレゼン・解説・討論）
- 11回：討論会向け基本文献の輪読（プレゼン・解説・討論）
- 12回：討論会向け基本文献の輪読（プレゼン・解説・討論）
- 13回：討論会向け基本文献の輪読（プレゼン・解説・討論）
- 14回：卒業論文3（プレゼン・ゼミ生の質疑・改善指導）
- 15回：討論会向け基本文献の輪読（プレゼン・解説・討論）
- 16回：討論会準備（グループ作業）

- 17回：討論会準備（プレゼン・改善指導）  
 18回：討論会準備（グループ作業・調整）  
 19回：卒業論文4（プレゼン・ゼミ生の質疑・改善指導）  
 20回：討論会準備（プレゼン・改善指導）  
 21回：討論会準備（グループ作業・調整）  
 22回：討論会準備（プレゼン・改善指導）  
 23回：卒業論文5（プレゼン・ゼミ生の質疑・改善指導）  
 24回：討論会準備（プレゼン・改善指導・全体調整作業）  
 25回：討論会準備（プレゼン・改善指導・全体調整作業）  
 26回：討論会準備（プレゼン・改善指導）  
 27回：討論会準備（プレゼン・改善指導）  
 28回：卒業論文6（プレゼン・ゼミ生の質疑・改善指導）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点割合 :100% レジューメ作成:20% プレゼンテーション:20% 討論への参加:40% ゼミ共同論文:20%

### テキスト / Textbooks

ゼミ生全員でテーマ設定し、複数のテキストを担当者（関口）が提示し、ゼミ生が選択・決定します。

### 参考文献 / Readings

関口智 『現代アメリカ連邦税制-付加価値税なき国家の租税構造』 東京大学出版会 2015年  
9784130461146

関口智編 『地方財政・公会計制度の国際比較』 日本経済評論社 2016年 9784818824188

随時紹介します。

### その他 / Others

ゼミ生による HP (<https://sites.google.com/view/sekiguchiseminar/>)

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール A

### Seminar A

企業内部の管理者が用いる会計情報システムである管理会計について、特に会計が組織成員の心理や行動に与える影響に着目して学ぶ。

諸藤 裕美 (MOROFUJI YUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX674
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX2020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

組織の提供する製品やサービスの価格の決定、設備投資を行うためにどのような会計計算を行うのか、管理者や従業員の組織の目的に合った行動を促進するにはどのような業績情報を与えるべきか、といった組織の経営管理者のための会計を学ぶ。

To learn what accounting calculations are used for decision making and performance evaluations. To understand how to design management accounting systems for attaining corporations' objectives and goals..

### 授業の内容 / Course Contents

組織の提供する製品・サービスの価格決定、設備投資などの意思決定のためにどのような会計計算をすべきか、組織の目的のために管理者・従業員を動機づけるためにどのような業績評価をすべきか、といったことをテキストの輪読で学ぶ。グループ研究では、企業分析、管理会計手法について深く学んだ成果を発表する。

Students will read texts to learn about the accounting calculations that should be used to decide how to set the prices for products and services provided by organizations, what accounting calculation should be made to make decisions about capital investment and how to evaluate performance to motivate managers and employees to

accomplish the organization's objectives. At the group research presentation (sometimes held with other universities) students will present the results of what they deeply learned about analyzing the financial statements and strategy of organizations and about management accounting methods.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：管理会計に関するテキストの輪読
- 3回：管理会計に関するテキストの輪読
- 4回：管理会計に関するテキストの輪読
- 5回：管理会計に関するテキストの輪読
- 6回：管理会計に関するテキストの輪読
- 7回：管理会計に関するテキストの輪読
- 8回：管理会計に関するテキストの輪読
- 9回：管理会計に関するテキストの輪読
- 10回：管理会計に関するテキストの輪読、グループ研究のテーマ設定
- 11回：管理会計に関する文献の輪読
- 12回：管理会計に関する文献の輪読
- 13回：管理会計に関する文献の輪読
- 14回：管理会計に関する文献の輪読、グループ研究中間報告
- 15回：管理会計に関する文献の輪読
- 16回：管理会計に関する文献の輪読
- 17回：管理会計に関する文献の輪読
- 18回：管理会計に関する文献の輪読
- 19回：管理会計に関する文献の輪読、グループ研究中間報告
- 20回：管理会計に関する文献の輪読
- 21回：管理会計に関する文献の輪読
- 22回：管理会計に関する文献の輪読
- 23回：管理会計に関する文献の輪読
- 24回：管理会計に関する文献の輪読
- 25回：管理会計に関する文献の輪読、インゼミ中間報告
- 26回：管理会計に関する文献の輪読
- 27回：管理会計に関する文献の輪読
- 28回：管理会計に関する文献の輪読

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

グループ研究報告に向けて、4名程度のチームを編成する。チームによるテーマ決め、各チーム・メンバーで学んだことを1つの報告としてまとめる作業は、授業時間以外に行う。また、輪読テキストの内容について

は、ゼミ内での質疑応答を行うので、報告者以外も予復習をしっかりと行うこと。ゼミやグループ研究の前提知識を身につけるために、管理会計論1・2の受講を必須とする。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点割合 :100% 授業参加度:30% 報告・質疑応答の質、議論への参加:50% 提出課題:20%  
半期のうち、2回を超える欠席は、正当な理由がない限り不可とする。

### テキスト / Textbooks

未定

### 参考文献 / Readings

岡本清・廣本敏郎編 『検定簿記講義 2級工業簿記』 中央経済社 2023  
谷武幸 『エッセンシャル管理会計第4版』 中央経済社 2022  
諸藤裕美 『自律的組織の管理会計 原価企画の進化』 中央経済社 2013  
桜井久勝 『財務諸表分析第8版』 中央経済社 2020

### その他 / Others

管理会計の知識や考え方は、企業経営以外の生活でも役に立ちます(部活動・サークルの運営、人の動機づけなど)。なお、主に土日に開催する年3回程度のインゼミ、ゼミ合宿の出席も必須とします。チームでのインゼミ準備も責任を持って取り組むこと。自身が一人で考えたり実行できることには限りがあるので、是非お互い意見を出し合う楽しさ、良い研究成果に結びつける醍醐味を味わって下さい。4月時点で簿記3級程度の知識は必須とします。

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

### Seminar B

企業内部の管理者が用いる会計情報システムである管理会計について、特に会計が組織成員の心理や行動に与える影響に着目して学ぶ。

諸藤 裕美 (MOROFUJI YUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX675
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX4020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

組織の提供する製品やサービスの価格の決定、設備投資を行うためにどのような会計計算を行うのか、管理者や従業員の組織の目的に合った行動を促進するにはどのような業績情報を与えるべきか、といった組織の経営管理者のための会計を学ぶ。

To learn what accounting calculations are used for decision making and performance evaluations. To understand how to design management accounting systems for attaining corporations' objectives and goals..

### 授業の内容 / Course Contents

組織の提供する製品・サービスの価格決定、設備投資などの意思決定のためにどのような会計計算をすべきか、組織の目的のために管理者・従業員を動機づけるためにどのような業績評価をすべきか、といったことをテキストの輪読で学ぶ。グループ研究では、企業分析、管理会計手法について深く学んだ成果を発表する。

Students will read texts to learn about the accounting calculations that should be used to decide how to set the prices for products and services provided by organizations, what accounting calculation should be made to make decisions about capital investment and how to evaluate performance to motivate managers and employees to



accomplish the organization's objectives. At the group research presentation (sometimes held with other universities) students will present the results of what they deeply learned about analyzing the financial statements and strategy of organizations and about management accounting methods.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：管理会計に関するテキストの輪読
- 3回：管理会計に関するテキストの輪読
- 4回：管理会計に関するテキストの輪読
- 5回：管理会計に関するテキストの輪読
- 6回：管理会計に関するテキストの輪読
- 7回：管理会計に関するテキストの輪読
- 8回：管理会計に関するテキストの輪読
- 9回：管理会計に関するテキストの輪読
- 10回：管理会計に関するテキストの輪読、グループ研究のテーマ設定
- 11回：管理会計に関する文献の輪読
- 12回：管理会計に関する文献の輪読
- 13回：管理会計に関する文献の輪読
- 14回：管理会計に関する文献の輪読、グループ研究中間報告
- 15回：管理会計に関する文献の輪読
- 16回：管理会計に関する文献の輪読
- 17回：管理会計に関する文献の輪読
- 18回：管理会計に関する文献の輪読
- 19回：管理会計に関する文献の輪読、グループ研究中間報告
- 20回：管理会計に関する文献の輪読
- 21回：管理会計に関する文献の輪読
- 22回：管理会計に関する文献の輪読
- 23回：管理会計に関する文献の輪読
- 24回：管理会計に関する文献の輪読
- 25回：管理会計に関する文献の輪読、インゼミ中間報告
- 26回：管理会計に関する文献の輪読
- 27回：管理会計に関する文献の輪読
- 28回：管理会計に関する文献の輪読

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

グループ研究報告に向けて、4名程度のチームを編成する。チームによるテーマ決め、各チーム・メンバーで学んだことを1つの報告としてまとめる作業は、授業時間以外に行う。また、輪読テキストの内容について

は、ゼミ内での質疑応答を行うので、報告者以外も予復習をしっかりと行うこと。ゼミやグループ研究の前提知識を身につけるために、管理会計論1・2の受講を必須とする。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点割合 :100% 授業参加度:30% 報告・質疑応答の質、議論への参加:50% 提出課題:20%  
半期のうち、2回を超える欠席は、正当な理由がない限り不可とする。

### テキスト / Textbooks

未定

### 参考文献 / Readings

岡本清・廣本敏郎編 『検定簿記講義 2級工業簿記』 中央経済社 2023  
谷武幸 『エッセンシャル管理会計第4版』 中央経済社 2022  
諸藤裕美 『自律的組織の管理会計 原価企画の進化』 中央経済社 2013  
桜井久勝 『財務諸表分析第8版』 中央経済社 2020

### その他 / Others

管理会計の知識や考え方は、企業経営以外の生活でも役に立ちます(部活動・サークルの運営、人の動機づけなど)。なお、主に土日に開催する年3回程度のインゼミ、ゼミ合宿の出席も必須とします。チームでのインゼミ準備も責任を持って取り組むこと。自身が一人で考えたり実行できることには限りがあるので、是非お互い意見を出し合う楽しさ、良い研究成果に結びつける醍醐味を味わって下さい。4月時点で簿記3級程度の知識は必須とします。

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール A

### Seminar A

最新アメリカ経済の研究と世界への影響-体制間対立とインフレーションの行方-

山縣 宏之 (YAMAGATA HIROYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX677  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX2020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

民主主義と権威主義など、体制間対立の様相も見せる、米中対立が激しさを増す中、アメリカと世界はどこへ向かうのか。さらにインフレーションが激化している。アメリカ経済の光と影、世界経済への影響、世界の向かう方向を総合的に理解する。

Where will the United States and the world head after the US-China conflict increases in severity after “G zero”? Furthermore, inflation is accelating. Comprehensively understand the light and shadow of the American economy, its impact on the world economy, and the direction in which the world is heading.

### 授業の内容 / Course Contents

他大学とのジョイントゼミ、ビジネスコンテストなどの企業企画、ゼミキャリア教育、春期研修、夏期研修（ゼミで相談して決定）。アメリカ経済、国際経済の学習の他に、アメリカ産業・企業を中心に、比較研究を行うこともあります。研究と実体験を通じて、時代に適合した、主体的に生きるための多面的能力の獲得を目指します。ジョイントゼミのテーマには、経済学以外のアメリカ研究を含むことがあります。

There will be a joint seminar with other universities, company events including business contests, seminar career training, and spring & summer training (decided after consultation with seminar participants). In addition

to learning about the American economy and the international economy, students will also conduct comparative research focusing on American industry and business. The aim of this course is for students to acquire through the research and experiences the multifaceted abilities necessary for living proactively in a way that matches the times. The topics of Joint seminar may include American studies outside of economics.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：開講ガイダンス
- 2 回：世界経済の基礎 1
- 3 回：世界経済の基礎 2
- 4 回：世界経済の基礎 3
- 5 回：世界経済の基礎 4
- 6 回：アメリカ経済の動向 1
- 7 回：アメリカ経済の動向 2
- 8 回：アメリカ経済の動向 3
- 9 回：アメリカ経済の動向 4
- 10 回：ディベート指導 (ジョイントゼミ準備)
- 11 回：ディベート指導 (ジョイントゼミ準備)
- 12 回：ジョイントゼミ
- 13 回：企業訪問等
- 14 回：ゼミキャリア教育
- 15 回：開講ガイダンス
- 16 回：グローバル経済の新段階 1
- 17 回：グローバル経済の新段階 2
- 18 回：グローバル経済の新段階 3
- 19 回：グローバル経済の新段階 4
- 20 回：アメリカ経済の構造変化 1
- 21 回：アメリカ経済の構造変化 2
- 22 回：アメリカ経済の構造変化 3
- 23 回：アメリカ経済の構造変化 4
- 24 回：ディベート指導 (ジョイントゼミ準備)
- 25 回：ディベート指導 (ジョイントゼミ準備)
- 26 回：ジョイントゼミ
- 27 回：企業訪問等
- 28 回：ゼミキャリア教育

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各回にむけて必要な準備作業を、チーム毎に行っておくこと。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点割合 :100% ジョイントゼミ，企業企画におけるプレゼンテーション内容，夏期研修やその他企画への参加などゼミ活動全般:100%

**テキスト / Textbooks**

藤木剛康 『アメリカ政治経済論』 ミネルヴァ書房 2012年 9784623062102

櫻井公人，板木雅彦，中本悟，石田修(編) 『現代世界経済をとらえる Ver.5』 東洋経済新報社 2010年 9784492443668

河音琢郎，藤木剛康 『オバマ政権の経済政策』 ミネルヴァ書房 2016年 9784623077939

毎回真剣勝負でゼミに臨んでください。

**参考文献 / Readings**

毎回教員が指示する。

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

### Seminar B

最新アメリカ経済の研究と世界への影響-体制間対立とインフレーションの行方-

山縣 宏之 (YAMAGATA HIROYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX678
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX4020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

民主主義と権威主義など、体制間対立の様相も見せる、米中対立が激しさを増す中、アメリカと世界はどこへ向かうのか。さらにインフレーションが激化している。アメリカ経済の光と影、世界経済への影響、世界の向かう方向を総合的に理解する。

Where will the United States and the world head after the US-China conflict increases in severity after “G zero”? Furthermore, inflation is accelating. Comprehensively understand the light and shadow of the American economy, its impact on the world economy, and the direction in which the world is heading.

### 授業の内容 / Course Contents

他大学とのジョイントゼミ、ビジネスコンテストなどの企業企画、ゼミキャリア教育、春期研修、夏期研修（ゼミで相談して決定）。アメリカ経済、国際経済の学習の他に、アメリカ産業・企業を中心に、比較研究を行うこともあります。研究と実体験を通じて、時代に適合した、主体的に生きるための多面的能力の獲得を目指します。ジョイントゼミのテーマには、経済学以外のアメリカ研究を含むことがあります。

There will be a joint seminar with other universities, company events including business contests, seminar career training, and spring & summer training (decided after consultation with seminar participants). In addition

to learning about the American economy and the international economy, students will also conduct comparative research focusing on American industry and business. The aim of this course is for students to acquire through the research and experiences the multifaceted abilities necessary for living proactively in a way that matches the times. The topics of Joint seminar may include American studies outside of economics.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：開講ガイダンス
- 2 回：世界経済の基礎 1
- 3 回：世界経済の基礎 2
- 4 回：世界経済の基礎 3
- 5 回：世界経済の基礎 4
- 6 回：アメリカ経済の動向 1
- 7 回：アメリカ経済の動向 2
- 8 回：アメリカ経済の動向 3
- 9 回：アメリカ経済の動向 4
- 10 回：ディベート指導 (ジョイントゼミ準備)
- 11 回：ディベート指導 (ジョイントゼミ準備)
- 12 回：ジョイントゼミ
- 13 回：企業訪問等
- 14 回：ゼミキャリア教育
- 15 回：開講ガイダンス
- 16 回：グローバル経済の新段階 1
- 17 回：グローバル経済の新段階 2
- 18 回：グローバル経済の新段階 3
- 19 回：グローバル経済の新段階 4
- 20 回：アメリカ経済の構造変化 1
- 21 回：アメリカ経済の構造変化 2
- 22 回：アメリカ経済の構造変化 3
- 23 回：アメリカ経済の構造変化 4
- 24 回：ディベート指導 (ジョイントゼミ準備)
- 25 回：ディベート指導 (ジョイントゼミ準備)
- 26 回：ジョイントゼミ
- 27 回：企業訪問等
- 28 回：ゼミキャリア教育

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各回にむけて必要な準備作業を、チーム毎に行っておくこと。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点割合 :100% ジョイントゼミ, 企業企画におけるプレゼンテーション内容, 夏期研修やその他企画への参加などゼミ活動全般:100%

**テキスト / Textbooks**

藤木剛康 『アメリカ政治経済論』 ミネルヴァ書房 2012年 9784623062102

櫻井公人, 板木雅彦, 中本悟, 石田修(編) 『現代世界経済をとらえる Ver.5』 東洋経済新報社 2010年 9784492443668

河音琢郎, 藤木剛康 『オバマ政権の経済政策』 ミネルヴァ書房 2016年 9784623077939

毎回真剣勝負でゼミに臨んでください。

**参考文献 / Readings**

毎回教員が指示する。

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。



## ゼミナール A

Seminar A

現代経済研究

池田 毅 (IKEDA TAKESHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX687  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX2020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

経済学の理論的思考・考え方を訓練し、その現実への応用を学ぶ。

To train students in theoretical thinking and ideas in economics and to learn the application of such thinking and ideas to the real economy.

### 授業の内容 / Course Contents

経済学の理論は学生諸君にとって不人気な分野の一つである。とはいえ、理論とは平たく言えば、ものの見方・考え方の体系化の一つに過ぎない。現実の経済に関する知識を断片的に積み重ねてみても、その情報量は膨大でおよそ学生諸君個人では処理できないようなものであろう。そうした複雑な現実に対して、ある程度の一貫した見通しを与え、体系化された考え方を提供するものが理論の役割の一つである。学生諸君が経済理論を学ぶべき理由は、まさにこうした体系的な思考を身につけることそのものにある。

このゼミでは以上の問題意識を持ちつつ、経済理論やその応用を論じたテキストを輪読し、担当者による報告と全員での討論をおこなう。

なお上記に加えて、ここ数年は証券ゼミナール大会への参加など、ゼミ生同士のグループ活動も大部を占めるようになっている。これらのグループ作業にも積極的に関わる姿勢・意欲のある学生を求めます。

Economic theory is one of the most unpopular areas for students. However, a theory is simply a systematization of ways of thinking. Even if individual students accumulate knowledge about the real economy in fragments, the amount of information is so vast that it is too much for individual students to handle. One of the roles of theory is to provide a coherent outlook and a systematized way of thinking about such a complex reality. The very reason why students should study economic theory is to acquire such systematic thinking.

In this seminar, with the above in mind, we will read texts that discuss the application of economic theory in a round-reading format, with reports by the assigned students and discussion by all participants.

In addition, the seminar students have participated in group activities, such as the Securities seminar contest. We seek students willing to participate in these group activities.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：春学期イントロダクション
- 2 回：輪読書報告&討論 1
- 3 回：輪読書報告&討論 2
- 4 回：輪読書報告&討論 3
- 5 回：輪読書報告&討論 4
- 6 回：グループ論文作成作業 1
- 7 回：グループ論文作成作業 2
- 8 回：グループ論文作成作業 3
- 9 回：グループ論文作成作業 4
- 10 回：グループ論文中間報告&討論 1
- 11 回：グループ論文中間報告&討論 2
- 12 回：グループ論文中間報告&討論 3
- 13 回：グループ論文中間報告&討論 4
- 14 回：春学期総括
- 15 回：秋学期イントロダクション
- 16 回：グループ論文最終稿完成作業 1
- 17 回：グループ論文最終稿完成作業 2
- 18 回：グループ論文最終稿完成作業 3
- 19 回：グループ論文最終稿完成作業 4
- 20 回：グループ・ディスカッション 1
- 21 回：グループ・ディスカッション 2
- 22 回：グループ・ディスカッション 3
- 23 回：グループ・ディスカッション 4
- 24 回：グループ論文最終報告&質疑応答 1
- 25 回：グループ論文最終報告&質疑応答 2
- 26 回：グループ論文最終報告&質疑応答 3
- 27 回：グループ論文最終報告&質疑応答 4
- 28 回：年度総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド (パワポ等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :

個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定	:			

### **授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

前半の輪読書については各自、あらかじめ精読して授業に臨むこと。

グループ論文の作成に入った後は、各自、十分な事前準備・事後改善のもとグループ作業に臨むこと。

なお例年、夏季休業中にゼミ勉強会（ゼミ合宿）を行い、12月には証券ゼミナール大会に参加している。

### **成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点割合 :100% ディスカッション・質疑応答の内容・頻度:20% グループ論文作成のための準備、貢献度:30% グループ論文に対する評価:50%

### **テキスト / Textbooks**

授業時に指示する。これまでの輪読書等については下のゼミ HP を参照のこと。

### **参考文献 / Readings**

授業時に指示する。

### **その他 / Others**

ゼミ Web サイト（コロナ禍で更新が滞っています）

<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ikedazemi/>

### **注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

Seminar B

現代経済研究

池田 毅 (IKEDA TAKESHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX688
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX4020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

経済学の理論的思考・考え方を訓練し、その現実への応用を学ぶ。

To train students in theoretical thinking and ideas in economics and to learn the application of such thinking and ideas to the real economy.

### 授業の内容 / Course Contents

経済学の理論は学生諸君にとって不人気な分野の一つである。とはいえ、理論とは平たく言えば、ものの見方・考え方の体系化の一つに過ぎない。現実の経済に関する知識を断片的に積み重ねてみても、その情報量は膨大でおよそ学生諸君個人では処理できないようなものであろう。そうした複雑な現実に対して、ある程度の一貫した見通しを与え、体系化された考え方を提供するものが理論の役割の一つである。学生諸君が経済理論を学ぶべき理由は、まさにこうした体系的な思考を身につけることそのものにある。

このゼミでは以上の問題意識を持ちつつ、経済理論やその応用を論じたテキストを輪読し、担当者による報告と全員での討論をおこなう。

なお上記に加えて、ここ数年は証券ゼミナール大会への参加など、ゼミ生同士のグループ活動も大部を占めるようになっている。これらのグループ作業にも積極的に関わる姿勢・意欲のある学生を求めます。

Economic theory is one of the most unpopular areas for students. However, a theory is simply a systematization of ways of thinking. Even if individual students accumulate knowledge about the real economy in fragments, the amount of information is so vast that it is too much for individual students to handle. One of the roles of theory is to provide a coherent outlook and a systematized way of thinking about such a complex reality. The very reason why students should study economic theory is to acquire such systematic thinking.

In this seminar, with the above in mind, we will read texts that discuss the application of economic theory in a round-reading format, with reports by the assigned students and discussion by all participants.

In addition, the seminar students have participated in group activities, such as the Securities seminar contest. We seek students willing to participate in these group activities.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：春学期イントロダクション
- 2 回：輪読書報告&討論 1
- 3 回：輪読書報告&討論 2
- 4 回：輪読書報告&討論 3
- 5 回：輪読書報告&討論 4
- 6 回：グループ論文作成作業 1
- 7 回：グループ論文作成作業 2
- 8 回：グループ論文作成作業 3
- 9 回：グループ論文作成作業 4
- 10 回：グループ論文中間報告&討論 1
- 11 回：グループ論文中間報告&討論 2
- 12 回：グループ論文中間報告&討論 3
- 13 回：グループ論文中間報告&討論 4
- 14 回：春学期総括
- 15 回：秋学期イントロダクション
- 16 回：グループ論文最終稿完成作業 1
- 17 回：グループ論文最終稿完成作業 2
- 18 回：グループ論文最終稿完成作業 3
- 19 回：グループ論文最終稿完成作業 4
- 20 回：グループ・ディスカッション 1
- 21 回：グループ・ディスカッション 2
- 22 回：グループ・ディスカッション 3
- 23 回：グループ・ディスカッション 4
- 24 回：グループ論文最終報告&質疑応答 1
- 25 回：グループ論文最終報告&質疑応答 2
- 26 回：グループ論文最終報告&質疑応答 3
- 27 回：グループ論文最終報告&質疑応答 4
- 28 回：年度総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド (パワポ等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :

個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定	:			

### **授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

前半の輪読書については各自、あらかじめ精読して授業に臨むこと。

グループ論文の作成に入った後は、各自、十分な事前準備・事後改善のもとグループ作業に臨むこと。

なお例年、夏季休業中にゼミ勉強会（ゼミ合宿）を行い、12月には証券ゼミナール大会に参加している。

### **成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点割合 :100% ディスカッション・質疑応答の内容・頻度:20% グループ論文作成のための準備、貢献度:30% グループ論文に対する評価:50%

### **テキスト / Textbooks**

授業時に指示する。これまでの輪読書等については下のゼミ HP を参照のこと。

### **参考文献 / Readings**

授業時に指示する。

### **その他 / Others**

ゼミ Web サイト（コロナ禍で更新が滞っています）

<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ikedazemi/>

### **注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール A

### Seminar A

経済学の歴史と経済学の現代的課題 (The History of Economics and Contemporary Issues in Economics)

佐藤 有史 (SATO YUJI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX691
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX2020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

経済学をつくり上げてきた基本的文献に親しみながら、経済学の歴史とともに、経済学が抱える現代的課題について考え、研究するゼミナールです。単に経済学の教科書を学ぶのではなく、自分の頭で経済について考え、自分の力で経済が抱える問題を見出し、解決に向けて考える力を涵養することが、このゼミナールの目標です。

This is a research seminar in which students will become familiar with the basic literature on which economics was built while also looking at the history of economics and thinking about the contemporary issues faced by economics. The objective of this seminar is for students to not only learn about the economy from textbooks, but to think about the economy on their own, to identify problems facing the economy on their own, and to develop the ability to think about solutions for these.

### 授業の内容 / Course Contents

このゼミナールは二部構成からなります。前半では、これまで、経済学をつくり上げてきた様々な基本的文献（アダム・スミス著『国富論』、トマス・ロバート・マルサス著『人口論』、ウォルター・バジヨット著『ロンバード街』、ジョン・ステュアート・ミル著『自由論』、ジョン・メイナード・ケインズ『雇用・利子および貨

幣の一般理論』など)を読みながら、経済学のもその成り立ちと目的を考え、そのうえで、現代が抱えるいろいろな経済問題を読み解くためのさらなる文献や主張を取り上げてきました。2023年度春学期は、前田裕之『経済学の壁』をゼミナールの基本文献としました。さらにゼミナールの後半では、ゼミナールを5つのグループに分けて、各グループによるグループ研究・研究発表が行なわれました。このグループ研究は、秋の他大学との合同ゼミナールでの研究発表へとつながるものです。2024年度も、引き続き、基本文献の輪読を通じての経済学への理解の深化・習得、グループ研究を通じての独自の問題発見・発表能力の開発、以上にゼミナール活動の中心がおかれます。

This seminar will consist of two parts. In the first half, we will read the various basic literature that has shaped economics (Adam Smith's *Wealth of Nations*, Thomas Robert Malthus's *An Essay on Population*, Walter Bagehot's *Lombard Street*, John Steuart Mill's *On Liberty*, John Maynard Keynes's *General Theory of Employment, Interest, and Money*, etc.). In the spring semester of 2023, Hiroyuki Maeda's *The Wall of Economics* was used as the basic literature for the seminar. Furthermore, in the second half of the seminar, the seminar was divided into five groups, and group research and research presentations were conducted by each group. In 2024, the seminar activities will continue to focus on deepening and acquiring a understanding of economics through the reading of basic economic literature and developing the ability to identify and present original problems through student's group research.

#### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：今年度のゼミナールの課題と目標について
- 2回：基本文献の研究と討論
- 3回：基本文献の研究と討論
- 4回：基本文献の研究と討論
- 5回：基本文献の研究と討論
- 6回：基本文献の研究と討論
- 7回：基本文献の研究と討論
- 8回：基本文献の研究と討論
- 9回：基本文献の研究と討論
- 10回：基本文献の研究と討論
- 11回：基本文献の研究と討論
- 12回：基本文献の研究と討論
- 13回：基本文献の研究と討論
- 14回：夏の課題ならびにゼミナール合宿の計画案について
- 15回：秋学期の課題と目標，対抗ゼミナールの計画案について
- 16回：経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論
- 17回：経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論
- 18回：経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論
- 19回：経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論
- 20回：①経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論，②研究報告
- 21回：①経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論，②研究報告
- 22回：①経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論，②研究報告
- 23回：①経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論，②研究報告
- 24回：①経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論，②研究報告



- 25 回：①経済学の現代的課題について、またそれをめぐる討論，②研究報告  
 26 回：①経済学の現代的課題について、またそれをめぐる討論，②研究報告  
 27 回：①経済学の現代的課題について、またそれをめぐる討論，②研究報告  
 28 回：今年度のゼミナール活動の総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- ゼミナールで取り上げる経済学の基本文献については、全員が事前に必ず当該範囲を読了し、そして報告者との討論の材料を各自作成しておくこと。
- 基本文献の中に出てくる著作や、授業内に示される参考文献について、事前的・もしくは事後的に調査し、必要があれば次の討論に生かすこと。
- ディベートにとって適切な主題・派生的問題を考え、ディベートが活発になる工夫を試みること。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点割合 :100% プレゼンテーション:35% 討論参加:35% 指示された作業の履行:30%

### テキスト / Textbooks

最初の授業で購入すべき文献を指示しますので、学内の売店で購入のこと。

### 参考文献 / Readings

授業内で指示します。

### その他 / Others

夏合宿 (国内) を行ないます。また秋学期には関西の大学と対抗ゼミナールを行なう予定であります (これまでの通常年度では、秋学期に、立教大学または京都にて関西学院大学経済学部および同志社大学商学部との合同ゼミナールを行なってきました)。

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

### Seminar B

経済学の歴史と経済学の現代的課題 (The History of Economics and Contemporary Issues in Economics)

佐藤 有史 (SATO YUJI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX692
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX4020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

経済学をつくり上げてきた基本的文献に親しみながら、経済学の歴史とともに、経済学が抱える現代的課題について考え、研究するゼミナールです。単に経済学の教科書を学ぶのではなく、自分の頭で経済について考え、自分の力で経済が抱える問題を見出し、解決に向けて考える力を涵養することが、このゼミナールの目標です。

This is a research seminar in which students will become familiar with the basic literature on which economics was built while also looking at the history of economics and thinking about the contemporary issues faced by economics. The objective of this seminar is for students to not only learn about the economy from textbooks, but to think about the economy on their own, to identify problems facing the economy on their own, and to develop the ability to think about solutions for these.

### 授業の内容 / Course Contents

このゼミナールは二部構成からなります。前半では、これまで、経済学をつくり上げてきた様々な基本的文献（アダム・スミス著『国富論』、トマス・ロバート・マルサス著『人口論』、ウォルター・バジヨット著『ロンバード街』、ジョン・ステュアート・ミル著『自由論』、ジョン・メイナード・ケインズ『雇用・利子および貨

幣の一般理論』など)を読みながら、経済学のそもそもの成り立ちと目的を考え、そのうえで、現代が抱えるいろいろな経済問題を読み解くためのさらなる文献や主張を取り上げてきました。2023年度春学期は、前田裕之『経済学の壁』をゼミナールの基本文献としました。さらにゼミナールの後半では、ゼミナールを5つのグループに分けて、各グループによるグループ研究・研究発表が行なわれました。このグループ研究は、秋の他大学との合同ゼミナールでの研究発表へとつながるものです。2024年度も、引き続き、基本文献の輪読を通じての経済学への理解の深化・習得、グループ研究を通じての独自の問題発見・発表能力の開発、以上にゼミナール活動の中心がおかれます。

This seminar will consist of two parts. In the first half, we will read the various basic literature that has shaped economics (Adam Smith's *Wealth of Nations*, Thomas Robert Malthus's *An Essay on Population*, Walter Bagehot's *Lombard Street*, John Steuart Mill's *On Liberty*, John Maynard Keynes's *General Theory of Employment, Interest, and Money*, etc.). In the spring semester of 2023, Hiroyuki Maeda's *The Wall of Economics* was used as the basic literature for the seminar. Furthermore, in the second half of the seminar, the seminar was divided into five groups, and group research and research presentations were conducted by each group. In 2024, the seminar activities will continue to focus on deepening and acquiring a understanding of economics through the reading of basic economic literature and developing the ability to identify and present original problems through student's group research.

#### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：今年度のゼミナールの課題と目標について
- 2回：基本文献の研究と討論
- 3回：基本文献の研究と討論
- 4回：基本文献の研究と討論
- 5回：基本文献の研究と討論
- 6回：基本文献の研究と討論
- 7回：基本文献の研究と討論
- 8回：基本文献の研究と討論
- 9回：基本文献の研究と討論
- 10回：基本文献の研究と討論
- 11回：基本文献の研究と討論
- 12回：基本文献の研究と討論
- 13回：基本文献の研究と討論
- 14回：夏の課題ならびにゼミナール合宿の計画案について
- 15回：秋学期の課題と目標，対抗ゼミナールの計画案について
- 16回：経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論
- 17回：経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論
- 18回：経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論
- 19回：経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論
- 20回：①経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論，②研究報告
- 21回：①経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論，②研究報告
- 22回：①経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論，②研究報告
- 23回：①経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論，②研究報告
- 24回：①経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論，②研究報告

- 25 回：①経済学の現代的課題について、またそれをめぐる討論，②研究報告  
 26 回：①経済学の現代的課題について、またそれをめぐる討論，②研究報告  
 27 回：①経済学の現代的課題について、またそれをめぐる討論，②研究報告  
 28 回：今年度のゼミナール活動の総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ゼミナールで取り上げる経済学の基本文献については、全員が事前に必ず当該範囲を読了し、そして報告者との討論の材料を各自作成しておくこと。
- 基本文献の中に出てくる著作や、授業内に示される参考文献について、事前的・もしくは事後的に調査し、必要があれば次の討論に生かすこと。
- ディベートにとって適切な主題・派生的問題を考え、ディベートが活発になる工夫を試みること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点割合 :100% プレゼンテーション:35% 討論参加:35% 指示された作業の履行:30%

### テキスト / Textbooks

最初の授業で購入すべき文献を指示しますので、学内の売店で購入のこと。

### 参考文献 / Readings

授業内で指示します。

### その他 / Others

夏合宿（国内）を行ないます。また秋学期には関西の大学と対抗ゼミナールを行なう予定でおります（これまでの通常年度では、秋学期に、立教大学または京都にて関西学院大学経済学部および同志社大学商学部との合同ゼミナールを行なってきました）。

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール A

Seminar A

格差構造の経済分析

森本 壮亮 (MORIMOTO SOUSUKE)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX694  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX2020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

本ゼミナールでは、経済の理論と歴史、統計資料を用いて、日本の経済・社会について各自が自分なりに分析できるようになることを目標とします。そして各自が4年次に卒業論文を執筆できる能力をつけることを目標とします。

The objective of this seminar is for participants to acquire skills to analyze the Japanese economy and society with economic theories, histories and statistics, in their own ways. It is also our object for each student to acquire skills to write graduation thesis in his/her senior year.

### 授業の内容 / Course Contents

本ゼミナールでは、社会経済学（マルクス経済学）の理論を用いて、格差を中心とした経済問題について分析します。

具体的なゼミナールの進行としては、まず4限に、経済理論を用いて日本経済を分析する本をテキストとして輪読していくことで、日本経済の諸問題について考えていきます。そして5限は、いくつかのチームに分かれて、チームごとに設定した諸問題について調査報告を作成し、それを他大学との合同ゼミで発表できるように準備を行っていきます。そして他大学との合同ゼミやゼミ大会に参加する他、各チームの調査報告や卒業論

文をまとめたゼミ論集を毎年作成します。

This seminar examines economic issues (in particular, economic inequality) using Marxist economic theory.

The detail is as follows: in the fourth period, we will read a textbook that analyzes the Japanese economy with economic theories, and think about what is wrong with the Japanese economy and why. In the fifth period, we will build teams to research economic issues and write reports for workshop events with other universities. In addition to hold workshop events with other universities, we make a collection of research papers of the teams and graduation theses.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：自己紹介およびガイダンス
- 2回：テキスト輪読(1)、2年生による研究発表（1年次の基礎ゼミレポートの発表）
- 3回：テキスト輪読(2)、2年生による研究発表（1年次の基礎ゼミレポートの発表）
- 4回：テキスト輪読(3)、2年生による研究発表（1年次の基礎ゼミレポートの発表）
- 5回：テキスト輪読(4)、2年生による研究発表（1年次の基礎ゼミレポートの発表）
- 6回：テキスト輪読(5)、日本の経済問題についての話し合い
- 7回：テキスト輪読(6)、今年度の研究テーマについての話し合い
- 8回：研究テーマの確定とチーム分け
- 9回：テキスト輪読(7)、チームごとの作業
- 10回：テキスト輪読(8)、チームごとの作業
- 11回：テキスト輪読(9)、チームごとの作業
- 12回：テキスト輪読(10)、チームごとの作業
- 13回：各チームによる報告(1)
- 14回：各チームによる報告(2)
- 15回：秋学期のチーム分け
- 16回：日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(1)、チームごとの作業
- 17回：日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(2)、チームごとの作業
- 18回：日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(3)、チームごとの作業
- 19回：日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(4)、チームごとの作業
- 20回：各チームによる秋学期中間報告(1)
- 21回：各チームによる秋学期中間報告(2)
- 22回：日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(5)、チームごとの作業
- 23回：日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(6)、チームごとの作業
- 24回：日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(7)、チームごとの作業
- 25回：日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(8)、チームごとの作業
- 26回：日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(9)、チームごとの作業
- 27回：各チームによる最終報告(1)
- 28回：各チームによる最終報告(2)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:

上記いずれも用いない予定 :

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・ゼミは、各自が勉強したり調べたりした事柄について、発表し、他の人の意見を聞いたり議論したりする場です。したがって、当然ですが、発表する事柄については、授業時間外に調べたり準備する必要があります。
- ・現在のところサブゼミはやっていませんが、他大学との合同ゼミ前には、チーム作業のために授業日以外にも集まって準備しないといけない時があります。
- ・授業日以外の土日や長期休暇中に、他大学との合同ゼミを行う日があります。  
(他大学との合同ゼミや、毎年12月の土日にゼミ大会があります。)

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点割合 :100% 毎回の討議への参加:30% 担当箇所の発表:30% チームでの発表への貢献:30% チームでの発表の成績:10%

### テキスト / Textbooks

橋本健二 〈格差〉と〈階級〉の戦後史 河出新書 2020 9784309631172

### 参考文献 / Readings

吉川洋 『高度成長 日本を変えた6000日』 中公文庫 2012年 9784122056336

基礎経済科学研究所（編） 『時代はまるで資本論 貧困と発達を問う全10講』 昭和堂 2008年  
9784812208533

中村隆英 『日本経済 その成長と構造 第3版』 東京大学出版会 2017年 9784130091329

A.グリーン 『狂奔する資本主義 格差社会から新たな福祉社会へ』 ダイヤモンド社 2007年  
9784478000625

岡田知弘 『地域づくりの経済学入門 地域内再投資力論 自治体研究社 2020年 9784880377117

増田寛也（編著） 『地方消滅』 中公新書 2014年 9784121022820

小熊英二 『日本社会のしくみ 雇用・教育・福祉の歴史社会学』 講談社現代新書 2019年  
9784065154298

### その他 / Others

- ・本ゼミナールでは、経済学1の内容である社会経済学（マルクス経済学）の理論を用いて、日本経済を分析していきます。社会経済学（マルクス経済学）の理論は全世界共通なので、経済学1が森本担当クラスではなかった方も、もちろん歓迎します。
- ・長期留学予定者や、大学院への進学希望者にも対応します。

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

Seminar B

格差構造の経済分析

森本 壮亮 (MORIMOTO SOUSUKE)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX695  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX4020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

本ゼミナールでは、経済の理論と歴史、統計資料を用いて、日本の経済・社会について各自が自分なりに分析できるようになることを目標とします。そして各自が4年次に卒業論文を執筆できる能力をつけることを目標とします。

The objective of this seminar is for participants to acquire skills to analyze the Japanese economy and society with economic theories, histories and statistics, in their own ways. It is also our object for each student to acquire skills to write graduation thesis in his/her senior year.

### 授業の内容 / Course Contents

本ゼミナールでは、社会経済学（マルクス経済学）の理論を用いて、格差を中心とした経済問題について分析します。

具体的なゼミナールの進行としては、まず4限に、経済理論を用いて日本経済を分析する本をテキストとして輪読していくことで、日本経済の諸問題について考えていきます。そして5限は、いくつかのチームに分かれて、チームごとに設定した諸問題について調査報告を作成し、それを他大学との合同ゼミで発表できるように準備を行っていきます。そして他大学との合同ゼミやゼミ大会に参加する他、各チームの調査報告や卒業論



文をまとめたゼミ論集を毎年作成します。

This seminar examines economic issues (in particular, economic inequality) using Marxist economic theory.

The detail is as follows: in the fourth period, we will read a textbook that analyzes the Japanese economy with economic theories, and think about what is wrong with the Japanese economy and why. In the fifth period, we will build teams to research economic issues and write reports for workshop events with other universities. In addition to hold workshop events with other universities, we make a collection of research papers of the teams and graduation theses.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：自己紹介およびガイダンス
- 2回：テキスト輪読(1)、2年生による研究発表（1年次の基礎ゼミレポートの発表）
- 3回：テキスト輪読(2)、2年生による研究発表（1年次の基礎ゼミレポートの発表）
- 4回：テキスト輪読(3)、2年生による研究発表（1年次の基礎ゼミレポートの発表）
- 5回：テキスト輪読(4)、2年生による研究発表（1年次の基礎ゼミレポートの発表）
- 6回：テキスト輪読(5)、日本の経済問題についての話し合い
- 7回：テキスト輪読(6)、今年度の研究テーマについての話し合い
- 8回：研究テーマの確定とチーム分け
- 9回：テキスト輪読(7)、チームごとの作業
- 10回：テキスト輪読(8)、チームごとの作業
- 11回：テキスト輪読(9)、チームごとの作業
- 12回：テキスト輪読(10)、チームごとの作業
- 13回：各チームによる報告(1)
- 14回：各チームによる報告(2)
- 15回：秋学期のチーム分け
- 16回：日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(1)、チームごとの作業
- 17回：日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(2)、チームごとの作業
- 18回：日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(3)、チームごとの作業
- 19回：日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(4)、チームごとの作業
- 20回：各チームによる秋学期中間報告(1)
- 21回：各チームによる秋学期中間報告(2)
- 22回：日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(5)、チームごとの作業
- 23回：日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(6)、チームごとの作業
- 24回：日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(7)、チームごとの作業
- 25回：日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(8)、チームごとの作業
- 26回：日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(9)、チームごとの作業
- 27回：各チームによる最終報告(1)
- 28回：各チームによる最終報告(2)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:

上記いずれも用いない予定 :

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・ゼミは、各自が勉強したり調べたりした事柄について、発表し、他の人の意見を聞いたり議論したりする場です。したがって、当然ですが、発表する事柄については、授業時間外に調べたり準備する必要があります。
- ・現在のところサブゼミはやっていませんが、他大学との合同ゼミ前には、チーム作業のために授業日以外にも集まって準備しないとイケない時があります。
- ・授業日以外の土日や長期休暇中に、他大学との合同ゼミを行う日があります。  
(他大学との合同ゼミや、毎年12月の土日にゼミ大会があります。)

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点割合 :100% 毎回の討議への参加:30% 担当箇所の発表:30% チームでの発表への貢献:30% チームでの発表の成績:10%

### テキスト / Textbooks

橋本健二 〈格差〉と〈階級〉の戦後史 河出新書 2020 9784309631172

### 参考文献 / Readings

吉川洋 『高度成長 日本を変えた6000日』 中公文庫 2012年 9784122056336

基礎経済科学研究所（編） 『時代はまるで資本論 貧困と発達を問う全10講』 昭和堂 2008年  
9784812208533

中村隆英 『日本経済 その成長と構造 第3版』 東京大学出版会 2017年 9784130091329

A.グリーン 『狂奔する資本主義 格差社会から新たな福祉社会へ』 ダイヤモンド社 2007年  
9784478000625

岡田知弘 『地域づくりの経済学入門 地域内再投資力論 自治体研究社 2020年 9784880377117

増田寛也（編著） 『地方消滅』 中公新書 2014年 9784121022820

小熊英二 『日本社会のしくみ 雇用・教育・福祉の歴史社会学』 講談社現代新書 2019年  
9784065154298

### その他 / Others

- ・本ゼミナールでは、経済学1の内容である社会経済学（マルクス経済学）の理論を用いて、日本経済を分析していきます。社会経済学（マルクス経済学）の理論は全世界共通なので、経済学1が森本担当クラスではなかった方も、もちろん歓迎します。
- ・長期留学予定者や、大学院への進学希望者にも対応します。

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール A

Seminar A

マクロ経済と金融・証券

二宮 健史郎 (NINOMIYA KENSHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX697  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX2020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

他大学との対抗ゼミ等を通じて、マクロ経済、金融、証券に関する知識を修得するとともに、論文の執筆、スライドの作成、プレゼンテーション、討論等の基本的な研究技法を身につけることを目標とします。

The objective of this seminar is for student to acquire knowledge regarding the macro economy, finance, and securities through counter seminars with other universities and other activities and to acquire the basic research techniques, such as writing papers, creating slides, giving presentations, and participating in discussions.

### 授業の内容 / Course Contents

マクロ経済の視点から、金融、証券に関することを学習します。他大学との対抗ゼミ等を通じて、我が国や世界が直面している経済、金融問題を考察します。

\*卒業論文(必須)は、金融、証券に関することや、それ以外のテーマの場合には金融、証券に関することを含むことが求められます。

Students will learn about finance and securities from the macroeconomic perspective. They will also consider the economic and financial problems facing Japan and the world through counter seminars with other universities and other activities.

\*The graduation thesis must be on finance and securities or must include finance and securities if another theme is selected.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス（自己紹介等）
- 2回：活動内容の詳細な説明
- 3回：論文の書き方等の研究技法の説明
- 4回：テーマに関する議論1（テーマの決定、個人報告、役割分担の決定など）
- 5回：テーマに関する議論2（個人報告、役割分担の決定など）
- 6回：テーマに関する議論3（グループワーク：3年生、2年生合同）
- 7回：テーマに関する議論4（グループワーク：3年生、2年生合同）
- 8回：論文、スライドの構成の議論1（グループワーク：3年生、2年生合同）
- 9回：論文、スライドの構成の議論2（グループワーク：3年生、2年生合同）
- 10回：論文、スライドの作成1（グループワーク：3年生、2年生各チーム毎）
- 11回：論文、スライドの作成2（グループワーク：3年生、2年生各チーム毎）
- 12回：論文、スライドの作成3（グループワーク：3年生、2年生各チーム毎）
- 13回：スライドの中間報告（プレゼン：3年生、2年生各チーム）
- 14回：論文、スライド暫定版の完成（グループワーク：3年生、2年生各チーム毎）
- 15回：プレゼンと討論1(対抗ゼミ：大分大学) 東京（立教大学において対面か Zoom で開催予定：3年生、2年生）
  
- 16回：プレゼンと討論（対抗ゼミ：同志社大学）京都（同志社大学において対面で開催予定：3年生、2年生）
- 17回：論文、スライドの修正1（グループワーク：3年生、2年生各チーム毎）  
\*オープン・ゼミ
- 18回：論文、スライドの修正2（グループワーク：3年生、2年生各チーム毎）  
\*オープン・ゼミ
- 19回：討論会に向けた議論1
- 20回：討論会に向けた議論2
- 21回：プレゼンと討論3（証券ゼミナール大会：東京（3年生））  
\*2年生も参加、またはオブザーバーとして参加する場合があります。）
- 22回：証券ゼミナール大会反省会  
\*2年生が証券ゼミ大会に参加しない場合には、2年生のプレゼンと討論会を行います。3年生、4年生は、審判をします。
- 23回：個人研究(タームペーパー)の報告1（3年生）  
\*2年生も要出席
- 24回：個人研究（タームペーパー）の報告2（3年生）  
\*2年生も要出席
- 25回：学術論文の書き方の説明
- 26回：個人研究（タームペーパー）の構成の報告1（2年生）  
\*3年生も要出席
- 27回：個人研究（タームペーパー）の構成の報告2（2年生）

\* 3年生も要出席

28回：ゼミ活動の総括と来年度のゼミに向けた議論

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

・他大学（大分大学、同志社大学）との対抗ゼミを行う予定です。大分または京都へ遠征をしますので、必ず参加してください。2024年度は、同志社大学との対抗ゼミは同志社大学、大分大学との対抗ゼミは立教で行う予定です（Zoomでの実施、また実施できない可能性もあります）。対抗ゼミ開催の都合により、日程（授業計画）が変更される可能性があります。

・3年生時には、証券ゼミナール大会に参加します。2年生時には、3年生とのグループワークをしたのち、2年生のみでスライド（論文）の作成を行います。

・東証アローズ等の見学を

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点割合 :100% 出席態度（原則として全回出席）:50% 取り組みの姿勢、貢献:30% 論文・スライドの完成度など:20%

### テキスト / Textbooks

中谷他 資本主義がわかる経済学 大月書店 2019

中谷武・中村保編著 『1からの経済学』 碩学舎 2010 ○

購入を推奨しますが、必須ではありません。

### 参考文献 / Readings

二宮健史郎・得田雅章 金融構造の変化と不安定性の経済学：理論と実証 日本評論社 2024

二宮健史郎 金融不安定性のマクロ動学 大月書店 2018

随時、授業中に紹介します。

### その他 / Others

・ゼミのFacebookでゼミ活動の様子（写真）を見ることができます。

・ゼミナールBも履修し、卒業論文の提出を確約できることが、ゼミナールAの採用条件です。卒業論文は、金融、証券に関するかどうか、それ以外のテーマの場合には一部に金融、証券に関することを含むことが求められます。

・ゼミナールAは5限に、ゼミナールBは4限に参加してもらうことが多々あります。5限（4限）には他の授業を入れないで下さい。

・ゼミナールAは、全回出席が原則です（理由を問わず1年に3回までの欠席は認めます）。証券ゼミ大会、対抗ゼミ、

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

Seminar B

マクロ経済と金融・証券

二宮 健史郎 (NINOMIYA KENSHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX698  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX4020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

他大学との対抗ゼミ等を通じて、マクロ経済、金融、証券に関する知識を修得するとともに、論文の執筆、スライドの作成、プレゼンテーション、討論等の基本的な研究技法を身につけることを目標とします。

The objective of this seminar is for student to acquire knowledge regarding the macro economy, finance, and securities through counter seminars with other universities and other activities and to acquire the basic research techniques, such as writing papers, creating slides, giving presentations, and participating in discussions.

### 授業の内容 / Course Contents

マクロ経済の視点から、金融、証券に関することを学習します。他大学との対抗ゼミ等を通じて、我が国や世界が直面している経済、金融問題を考察します。

\*卒業論文(必須)は、金融、証券に関することや、それ以外のテーマの場合には金融、証券に関することを含むことが求められます。

Students will learn about finance and securities from the macroeconomic perspective. They will also consider the economic and financial problems facing Japan and the world through counter seminars with other universities and other activities.

\*The graduation thesis must be on finance and securities or must include finance and securities if another theme is selected.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス（自己紹介等）
- 2回：活動内容の詳細な説明
- 3回：論文の書き方等の研究技法の説明
- 4回：テーマに関する議論1（テーマの決定、個人報告、役割分担の決定など）
- 5回：テーマに関する議論2（個人報告、役割分担の決定など）
- 6回：テーマに関する議論3（グループワーク：3年生、2年生合同）
- 7回：テーマに関する議論4（グループワーク：3年生、2年生合同）
- 8回：論文、スライドの構成の議論1（グループワーク：3年生、2年生合同）
- 9回：論文、スライドの構成の議論2（グループワーク：3年生、2年生合同）
- 10回：論文、スライドの作成1（グループワーク：3年生、2年生各チーム毎）
- 11回：論文、スライドの作成2（グループワーク：3年生、2年生各チーム毎）
- 12回：論文、スライドの作成3（グループワーク：3年生、2年生各チーム毎）
- 13回：スライドの中間報告（プレゼン：3年生、2年生各チーム）
- 14回：論文、スライド暫定版の完成（グループワーク：3年生、2年生各チーム毎）
- 15回：プレゼンと討論1(対抗ゼミ：大分大学) 東京（立教大学において対面か Zoom で開催予定：3年生、2年生）
  
- 16回：プレゼンと討論（対抗ゼミ：同志社大学）京都（同志社大学において対面で開催予定：3年生、2年生）
- 17回：論文、スライドの修正1（グループワーク：3年生、2年生各チーム毎）
- \*オープン・ゼミ
- 18回：論文、スライドの修正2（グループワーク：3年生、2年生各チーム毎）
- \*オープン・ゼミ
- 19回：討論会に向けた議論1
- 20回：討論会に向けた議論2
- 21回：プレゼンと討論3（証券ゼミナール大会：東京（3年生））
- \*2年生も参加、またはオブザーバーとして参加する場合があります。）
- 22回：証券ゼミナール大会反省会
- \*2年生が証券ゼミ大会に参加しない場合には、2年生のプレゼンと討論会を行います。3年生、4年生は、審判をします。
- 23回：個人研究(タームペーパー)の報告1（3年生）
- \*2年生も要出席
- 24回：個人研究（タームペーパー）の報告2（3年生）
- \*2年生も要出席
- 25回：学術論文の書き方の説明
- 26回：個人研究（タームペーパー）の構成の報告1（2年生）
- \*3年生も要出席
- 27回：個人研究（タームペーパー）の構成の報告2（2年生）

\* 3年生も要出席

28回：ゼミ活動の総括と来年度のゼミに向けた議論

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

・他大学（大分大学、同志社大学）との対抗ゼミを行う予定です。大分または京都へ遠征をしますので、必ず参加してください。2024年度は、同志社大学との対抗ゼミは同志社大学、大分大学との対抗ゼミは立教で行う予定です（Zoomでの実施、また実施できない可能性もあります）。対抗ゼミ開催の都合により、日程（授業計画）が変更される可能性があります。

・3年生時には、証券ゼミナール大会に参加します。2年生時には、3年生とのグループワークをしたのち、2年生のみでスライド（論文）の作成を行います。

・東証アローズ等の見学を

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111）/ Evaluation

平常点割合 :100% 出席態度（原則として全回出席）:50% 取り組みの姿勢、貢献:30% 論文・スライドの完成度など:20%

### テキスト/ Textbooks

中谷他 資本主義がわかる経済学 大月書店 2019

中谷武・中村保編著 『1からの経済学』 碩学舎 2010 ○

購入を推奨しますが、必須ではありません。

### 参考文献 / Readings

二宮健史郎・得田雅章 金融構造の変化と不安定性の経済学：理論と実証 日本評論社 2024

二宮健史郎 金融不安定性のマクロ動学 大月書店 2018

随時、授業中に紹介します。

### その他/ Others

・ゼミのFacebookでゼミ活動の様子（写真）を見ることができます。

・ゼミナールBも履修し、卒業論文の提出を確約できることが、ゼミナールAの採用条件です。卒業論文は、金融、証券に関するかどうか、それ以外のテーマの場合には一部に金融、証券に関することを含むことが求められます。

・ゼミナールAは5限に、ゼミナールBは4限に参加してもらうことが多々あります。5限（4限）には他の授業を入れないで下さい。

・ゼミナールAは、全回出席が原則です（理由を問わず1年に3回までの欠席は認めます）。証券ゼミ大会、対抗ゼミ、

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。



## ゼミナール A

### Seminar A

アジアをめぐる諸問題の理論的・実践的研究－共同研究を通して自らの能力を開花させる－

郭 洋春 (KWAK YANGCHOON)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX707
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX2020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

- アジアをめぐる諸問題（政治、経済、社会、文化など）に対する知識を身につける。
- 身につけた知識を基に、社会貢献できる超実践的課題解決型学習＝共同研究を通して、ゼミ生の想像力、行動力、企画力、批判力、協調性などを身につける。

The objective of this seminar is for students to acquire creative ability, the ability to take action, planning ability, the ability to make critical assessments, and the ability to collaborate through theoretical research on problems faced by Asia (political, economic, social, cultural, etc.) and joint research that can contribute to society.

### 授業の内容 / Course Contents

郭ゼミではアジアの経済開発を学びながら、それと付随した政治、社会、文化、環境、軍事、人権、ジェンダー、企業のグローバル化などが抱えている課題について学びます。秋学期は、身につけた知識を生かすべく「超実践的課題解決型学習＝共同研究」を行います。

「超実践的」という理由は、共同研究のテーマを学生自らが設定し、企業や自治体などにアプローチし、実践するからです。

この間のテーマは以下の通りです。

- ・2018年度：池袋の老舗洋菓子店と協力し、商品開発を通して、「池袋の知名度を高めるお土産」の製作。
- ・2019年度：池袋で運営しているお店と共同で「子供食堂」を大人にも参加してもらえる「未来食堂」を実施。
- ・2020年度：家具メーカから「フレグランス」を提供してもらい、コロナ禍によるオンライン授業でのストレス軽減、集中力アップの実証研究（詳細は、<https://www.sankei.com/economy/news/210323/prl2103230211-n1.html> 参照のこと）。
- ・2021年度：使用済みペットボトルの再利用の効率化のために、捨てる人の意識を変える「ゴミ箱の開発」（研究成果は、としまテレビに生出演して報告）。
- ・2022年度：エシカル商品認知度向上を通して豊島区のSDGsを推進する（研究成果はとしまテレビ出演）。

プロテインを身近なものにすることで若者のたんぱく質不足を補う（企業への商品並びにて調査データ報告）

学生の皆さんは、みずからにどのような能力があるのか知りたくないですか？皆さんには、自らが気がついていない様々な能力を備えています。郭ゼミでは、「能力の発現，顕在化」をモットーに、多くの知識を身につけ、様々な共同研究を実践しています。

その身につけた能力をもって、社会で大いに羽ばたいて下さい。

ゼミに所属してからの3年間（または2年間）は、学問・共同研究に没頭できます。ゼミを単なる単位を取得する科目とみるのか、単位取得以上に自らの潜在能力を開花させる場と考えるのか、それは皆さん次第です。郭ゼミに参加して、自らの能力を高め、一生の友を作ってください。

In the this seminar, students will research the economic development of Asia while also researching the related environmental problems, military problems, human rights problems, company globalization problem, and the impact from Japan's policies toward Asia and the American world (Asia) economy. Joint research will be the specific activity during the fall semester.

Various activities will also be jointly undertaken with a variety of organizations (A "children's experience school" will be jointly conducted with the Tokyo Shinkin Bank at Toshima Monozukuri Messe on the first Saturday in March of each year.) During the 2017 academic year we held the "Craftsperson Olympics" jointly with a Kumamoto company (120 elementary school students participated). In 2018, we collaborated with a long established confectionary store in Ikebukuro, and we succeeded in developing some new products, mainly by changing the packaging of the confectionary and pastry products. The main objective of the collaboration in 2018 was to create some iconic souvenirs of Ikebukuro and rediscover the attraction of Ikebukuro. In 2019, we held a "kids' restaurant" jointly with a local store.

Asia is showing the most dynamic economic performance in the world. There are some good aspects to this (economic growth, etc.) and some bad aspects to this (destruction of the environment, oppression of human rights, military enlargement, etc.). Correctly understanding the multifaceted aspects of Asia leads to correctly understanding Japan and the world.

In the this seminar, participants will engage in a variety of joint research under the motto "New Challenges by Students." In particular, the objective is to contribute in a visible way to the real society through joint research aimed at creating a bridge between Japan and Asia.

An additional objective is for students to acquire creative ability, the ability to take action, the ability to collaborate, planning ability, and the ability to make critical assessments during the seminar. With these abilities please contribute greatly to society.

A characteristic of this seminar is being able to immerse oneself in studies and joint research during the 3 years (or 2 years) of campus life. This seminar has the tools for you to develop your potential. I await your proactive participation. Please also make friends for life.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：文献輪読 1
- 3回：文献輪読 2
- 4回：文献輪読 3
- 5回：文献輪読 4
- 6回：文献輪読 5
- 7回：文献輪読 6
- 8回：文献輪読 7
- 9回：文献輪読 8
- 10回：文献輪読 9
- 11回：文献輪読 1 0
- 12回：文献輪読 1 1
- 13回：文献輪読 1 2
- 14回：春学期纏め
- 15回：共同研究テーマ設定
- 16回：共同研究 1
- 17回：共同研究 2
- 18回：共同研究 3
- 19回：共同研究 4
- 20回：共同研究 5
- 21回：共同研究 6
- 22回：共同研究 7
- 23回：共同研究 8
- 24回：共同研究 9
- 25回：共同研究 1 0
- 26回：共同研究 1 1
- 27回：共同研究成果発表
- 28回：秋学期纏め

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストは予め予習してくること。サブゼミもゼミ活動の一環なので、その時間に他の科目の履修はできません。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点割合 :100% プレゼンテーション:40% ゼミ中の発言:30% レポート(4年生は卒論):30%

**テキスト / Textbooks**

2024年3月中に提示する

**参考文献 / Readings**

郭洋春 『100均資本主義』 プレジデント社 2022年

郭洋春 『国家戦略特区の正体』 集英社 2016年

郭洋春 『TPP すぐそこに迫る亡国の罟』 三交社 2013年

郭洋春編著 『開発リスクの政治経済学』 文真堂 2013年

**その他 / Others**

本ゼミ以外にもサブゼミ（毎週金曜日4・5時限）、年2回のゼミ合宿（5月から6月上旬に春合宿、9月中下旬に夏合宿）、OB・OG会（11月最終土曜日）、4年生による就活セミナー（体験談、秋学期最初のゼミ時）、卒業論文発表会（3月中下旬）なども公式行事としてあります。これらへの参加も必修です。

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

### Seminar B

アジアをめぐる諸問題の理論的・実践的研究－共同研究を通して自らの能力を開花させる－

郭 洋春 (KWAK YANGCHOON)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX708
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX4020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

- アジアをめぐる諸問題（政治、経済、社会、文化など）に対する知識を身につける。
- 身につけた知識を基に、社会貢献できる超実践的課題解決型学習＝共同研究を通して、ゼミ生の想像力、行動力、企画力、批判力、協調性などを身につける。

The objective of this seminar is for students to acquire creative ability, the ability to take action, planning ability, the ability to make critical assessments, and the ability to collaborate through theoretical research on problems faced by Asia (political, economic, social, cultural, etc.) and joint research that can contribute to society.

### 授業の内容 / Course Contents

郭ゼミではアジアの経済開発を学びながら、それと付随した政治、社会、文化、環境、軍事、人権、ジェンダー、企業のグローバル化などが抱えている課題について学びます。秋学期は、身につけた知識を生かすべく「超実践的課題解決型学習＝共同研究」を行います。

「超実践的」という理由は、共同研究のテーマを学生自らが設定し、企業や自治体などにアプローチし、実践するからです。

この間のテーマは以下の通りです。

- ・2018年度：池袋の老舗洋菓子店と協力し、商品開発を通して、「池袋の知名度を高めるお土産」の製作。
- ・2019年度：池袋で運営しているお店と共同で「子供食堂」を大人にも参加してもらえる「未来食堂」を実施。
- ・2020年度：家具メーカから「フレグランス」を提供してもらい、コロナ禍によるオンライン授業でのストレス軽減、集中力アップの実証研究（詳細は、<https://www.sankei.com/economy/news/210323/prl2103230211-n1.html> 参照のこと）。
- ・2021年度：使用済みペットボトルの再利用の効率化のために、捨てる人の意識を変える「ゴミ箱の開発」（研究成果は、としまテレビに生出演して報告）。
- ・2022年度：エシカル商品認知度向上を通して豊島区のSDGsを推進する（研究成果はとしまテレビ出演）。

プロテインを身近なものにすることで若者のたんぱく質不足を補う（企業への商品並びにて調査データ報告）

学生の皆さんは、みずからにどのような能力があるのか知りたくないですか？皆さんには、自らが気がついていない様々な能力を備えています。郭ゼミでは、「能力の発現，顕在化」をモットーに、多くの知識を身につけ、様々な共同研究を実践しています。

その身につけた能力をもって、社会で大いに羽ばたいて下さい。

ゼミに所属してからの3年間（または2年間）は、学問・共同研究に没頭できます。ゼミを単なる単位を取得する科目とみるのか、単位取得以上に自らの潜在能力を開花させる場と考えるのか、それは皆さん次第です。郭ゼミに参加して、自らの能力を高め、一生の友を作ってください。

In the this seminar, students will research the economic development of Asia while also researching the related environmental problems, military problems, human rights problems, company globalization problem, and the impact from Japan's policies toward Asia and the American world (Asia) economy. Joint research will be the specific activity during the fall semester.

Various activities will also be jointly undertaken with a variety of organizations (A "children's experience school" will be jointly conducted with the Tokyo Shinkin Bank at Toshima Monozukuri Messe on the first Saturday in March of each year.) During the 2017 academic year we held the "Craftsperson Olympics" jointly with a Kumamoto company (120 elementary school students participated). In 2018, we collaborated with a long established confectionary store in Ikebukuro, and we succeeded in developing some new products, mainly by changing the packaging of the confectionary and pastry products. The main objective of the collaboration in 2018 was to create some iconic souvenirs of Ikebukuro and rediscover the attraction of Ikebukuro. In 2019, we held a "kids' restaurant" jointly with a local store.

Asia is showing the most dynamic economic performance in the world. There are some good aspects to this (economic growth, etc.) and some bad aspects to this (destruction of the environment, oppression of human rights, military enlargement, etc.). Correctly understanding the multifaceted aspects of Asia leads to correctly understanding Japan and the world.

In the this seminar, participants will engage in a variety of joint research under the motto "New Challenges by Students." In particular, the objective is to contribute in a visible way to the real society through joint research aimed at creating a bridge between Japan and Asia.

An additional objective is for students to acquire creative ability, the ability to take action, the ability to collaborate, planning ability, and the ability to make critical assessments during the seminar. With these abilities please contribute greatly to society.

A characteristic of this seminar is being able to immerse oneself in studies and joint research during the 3 years (or 2 years) of campus life. This seminar has the tools for you to develop your potential. I await your proactive participation. Please also make friends for life.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：文献輪読 1
- 3回：文献輪読 2
- 4回：文献輪読 3
- 5回：文献輪読 4
- 6回：文献輪読 5
- 7回：文献輪読 6
- 8回：文献輪読 7
- 9回：文献輪読 8
- 10回：文献輪読 9
- 11回：文献輪読 1 0
- 12回：文献輪読 1 1
- 13回：文献輪読 1 2
- 14回：春学期纏め
- 15回：共同研究テーマ設定
- 16回：共同研究 1
- 17回：共同研究 2
- 18回：共同研究 3
- 19回：共同研究 4
- 20回：共同研究 5
- 21回：共同研究 6
- 22回：共同研究 7
- 23回：共同研究 8
- 24回：共同研究 9
- 25回：共同研究 1 0
- 26回：共同研究 1 1
- 27回：共同研究成果発表
- 28回：秋学期纏め

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストは予め予習してくる。サブゼミもゼミ活動の一環なので、その時間に他の科目の履修はできません。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点割合 :100% プレゼンテーション:40% ゼミ中の発言:30% レポート(4年生は卒論):30%

**テキスト / Textbooks**

2024年3月中に提示する

**参考文献 / Readings**

郭洋春 『100均資本主義』 プレジデント社 2022年

郭洋春 『国家戦略特区の正体』 集英社 2016年

郭洋春 『TPP すぐそこに迫る亡国の罟』 三交社 2013年

郭洋春編著 『開発リスクの政治経済学』 文真堂 2013年

**その他 / Others**

本ゼミ以外にもサブゼミ（毎週金曜日4・5時限）、年2回のゼミ合宿（5月から6月上旬に春合宿、9月中下旬に夏合宿）、OB・OG会（11月最終土曜日）、4年生による就活セミナー（体験談、秋学期最初のゼミ時）、卒業論文発表会（3月中下旬）なども公式行事としてあります。これらへの参加も必修です。

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。



## ゼミナール A

Seminar A

社会経済学からみる現代の社会問題

佐々木 隆治 (SASAKI RYUJI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX711
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX2020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

社会経済学の理論的基礎を身につけ、現代の社会問題について批判的に思考する力を養う。

The objective of this seminar is for students to acquire a theoretical foundation of political economy and to foster the ability to think critically about contemporary social problems.

### 授業の内容 / Course Contents

ゼミの柱は、社会経済学の理論的著作の輪読と、社会経済学の理論的基礎をふまえたうえでの現代の社会問題の検討になります。

社会経済学（political economy）とは、主流の経済学とは方法論を異にし、経済システムを歴史的かつ総体的に把握することを特徴とする経済学の潮流のことです。代表的なのは、カール・マルクスの『資本論』であり、それを継承して形成されたマルクス経済学です。

ゼミのもう一つの柱である現代の社会問題の検討の方は、格差・貧困問題、労働問題、環境問題などの具体的な社会問題、あるいは新自由主義論などの社会問題の理論的分析について扱います。

The pillar of the seminar is reading theoretical works of political economy to gain a theoretical foundation of political economics and then to use this to consider contemporary social problems.

Political economy is different from the methodology of mainstream economics and is characterized by a historical and holistic understanding of economic systems. Representative of this is Karl Marx's "Das Kapital," and the Marxist economics that formed from this thought.

Another pillar of the seminar is thinking about contemporary social problems and examining specific social problems, such as the income gap, poverty, labor problems, and environmental problems, or theoretical framework for considering social problems like neoliberalism.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：社会問題についての輪読
- 3回：社会問題についての輪読
- 4回：社会問題についての輪読
- 5回：社会問題についての輪読
- 6回：まとめ
- 7回：社会経済学の基礎文献の輪読
- 8回：社会経済学の基礎文献の輪読
- 9回：社会経済学の基礎文献の輪読
- 10回：まとめ
- 11回：輪読と報告
- 12回：輪読と報告
- 13回：輪読と報告
- 14回：まとめ
- 15回：輪読と報告
- 16回：輪読と報告
- 17回：輪読と報告
- 18回：輪読と報告
- 19回：輪読と報告
- 20回：輪読と報告
- 21回：輪読と報告
- 22回：輪読と報告
- 23回：輪読と報告
- 24回：輪読と報告
- 25回：輪読と報告
- 26回：輪読と報告
- 27回：輪読と報告
- 28回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

輪読テキストの予習。発表の準備。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点割合 :100% 授業参加度:40% 報告:30% 発言:30%

**テキスト / Textbooks**

**参考文献 / Readings**

佐々木隆治 『カール・マルクス』 ちくま新書

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

### Seminar B

社会経済学からみる現代の社会問題

佐々木 隆治 (SASAKI RYUJI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX712
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX4020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

社会経済学の理論的基礎を身につけ、現代の社会問題について批判的に思考する力を養う。

The objective of this seminar is for students to acquire a theoretical foundation of political economy and to foster the ability to think critically about contemporary social problems.

### 授業の内容 / Course Contents

ゼミの柱は、社会経済学の理論的著作の輪読と、社会経済学の理論的基礎をふまえたうえでの現代の社会問題の検討になります。

社会経済学（political economy）とは、主流の経済学とは方法論を異にし、経済システムを歴史的かつ総体的に把握することを特徴とする経済学の潮流のことです。代表的なのは、カール・マルクスの『資本論』であり、それを継承して形成されたマルクス経済学です。

ゼミのもう一つの柱である現代の社会問題の検討の方は、格差・貧困問題、労働問題、環境問題などの具体的な社会問題、あるいは新自由主義論などの社会問題の理論的分析について扱います。

The pillar of the seminar is reading theoretical works of political economy to gain a theoretical foundation of political economics and then to use this to consider contemporary social problems.

Political economy is different from the methodology of mainstream economics and is characterized by a historical and holistic understanding of economic systems. Representative of this is Karl Marx's "Das Kapital," and the Marxist economics that formed from this thought.

Another pillar of the seminar is thinking about contemporary social problems and examining specific social problems, such as the income gap, poverty, labor problems, and environmental problems, or theoretical framework for considering social problems like neoliberalism.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：社会問題についての輪読
- 3回：社会問題についての輪読
- 4回：社会問題についての輪読
- 5回：社会問題についての輪読
- 6回：まとめ
- 7回：社会経済学の基礎文献の輪読
- 8回：社会経済学の基礎文献の輪読
- 9回：社会経済学の基礎文献の輪読
- 10回：まとめ
- 11回：輪読と報告
- 12回：輪読と報告
- 13回：輪読と報告
- 14回：まとめ
- 15回：輪読と報告
- 16回：輪読と報告
- 17回：輪読と報告
- 18回：輪読と報告
- 19回：輪読と報告
- 20回：輪読と報告
- 21回：輪読と報告
- 22回：輪読と報告
- 23回：輪読と報告
- 24回：輪読と報告
- 25回：輪読と報告
- 26回：輪読と報告
- 27回：輪読と報告
- 28回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

輪読テキストの予習。発表の準備。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点割合 :100% 授業参加度:40% 報告:30% 発言:30%

**テキスト / Textbooks**

**参考文献 / Readings**

佐々木隆治 『カール・マルクス』 ちくま新書

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール A

Seminar A

財務報告に関する研究

米谷 健司 (KOMETANI KENJI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX714  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX2020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

この授業の目標は、財務報告に関する研究を行うために必要な基礎的な能力を習得することである。具体的には、次のような能力の獲得を目指す。(1) 現在の会計基準や会計制度の背後にある考え方を理解できるようになる。(2) 財務情報等のデータベースを活用して企業の実態を分析できるようになる。(3) 財務報告に関する学術論文や専門書等を参考にして、特定のテーマに関する分析結果を適切な文章表現でまとめることができるようになる。

The objective of this class is to acquire the basic abilities necessary to conduct research on financial reports. The specific objective is for students to acquire the following abilities. (1) Be able to understand the concepts behind the present accounting standards and accounting system. (2) Be able to use databases of financial and other information to analyze the states of companies. (3) Be able to refer to academic papers and specialized publications, etc., regarding financial reports and then be able to compile the results of analysis on a specific theme using suitable wording.

### 授業の内容 / Course Contents

財務報告に関連するテーマにはさまざまなものがあるため、まずは財務諸表分析を主たるテーマとし、企業経

営の実態を財務諸表から定性的・定量的に分析する能力を習得する。財務諸表分析を行うためには、財務諸表の構造を適切に理解する必要があるため、テキストに基づいて会計基準や制度を学習する。具体的には、テキストの内容の中で関心を抱いたトピックをチームごとにさらに深く調査し、授業ではその調査内容を報告・議論する。各授業回の調査では、基本的な財務指標等を財務データベースから抽出・加工することを推奨するため、この学習を通じて財務情報等のデータベースを使いこなせるようにする。その後、テーマ別の研究を行う。例えば、ステewardシップ・コードやコーポレートガバナンス・コードなどを取り上げ、それらに関連する論文や書籍等をもとに議論を行う。なお、日経ストックリーグやプロネクサス懸賞論文などに参加する場合もある。

There are a variety of themes regarding financial reports, so first for the main theme of financial statement analysis, students will acquire the ability to qualitatively and quantitatively analyze the state of company management from the financial statements. Performing financial statement analysis requires proper understanding of the structure of the financial statements, so students will learn the accounting standards and system based on the textbook. In particular, each team will deeply research a topic of interest from the textbook and then during class report and discuss their study results. For the study conducted during each class it is recommended that the students extract and process information from financial databases, such as the basic financial indicators, so that they will learn how to use databases of financial and other information. After that students will conduct research on themes. For example, the stewardship code or corporate governance code can be addressed and discussions held of related papers and books, etc. Students can also participate in the Nikkei Stock League or Pronexus Essay Contest, etc.

#### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：資料収集の方法（文献の探索方法、EOL の利用方法等）
- 3 回：資料収集の方法（NEEDS-Financial QUEST の利用方法等）
- 4 回：テキストの内容に基づく報告・議論
- 5 回：テキストの内容に基づく報告・議論
- 6 回：テキストの内容に基づく報告・議論
- 7 回：テキストの内容に基づく報告・議論
- 8 回：テキストの内容に基づく報告・議論
- 9 回：テキストの内容に基づく報告・議論
- 10 回：テキストの内容に基づく報告・議論
- 11 回：テキストの内容に基づく報告・議論
- 12 回：テキストの内容に基づく報告・議論
- 13 回：テキストの内容に基づく報告・議論
- 14 回：テキストの内容に基づく報告・議論
- 15 回：テキストの内容に基づく報告・議論
- 16 回：テーマ別研究の報告・議論
- 17 回：テーマ別研究の報告・議論
- 18 回：テーマ別研究の報告・議論
- 19 回：テーマ別研究の報告・議論
- 20 回：テーマ別研究の報告・議論
- 21 回：テーマ別研究の報告・議論



- 22 回：テーマ別研究の報告・議論  
 23 回：テーマ別研究の報告・議論  
 24 回：テーマ別研究の報告・議論  
 25 回：テーマ別研究の報告・議論  
 26 回：テーマ別研究の報告・議論  
 27 回：テーマ別研究の報告・議論  
 28 回：テーマ別研究の報告・議論

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- ・授業で取り扱うテキストや文献等を予習・復習する必要がある。
- ・履修者の状況にもよるが、3~4名のチーム単位での調査・報告を予定している。報告担当の授業に向けて事前に共同で調査を行い、調査結果をレジюмеにまとめる必要がある。
- ・必要に応じてエクセルなどのソフトウェアを使えるようにする必要がある。
- ・日商簿記検定2級程度の知識を前提とするため、2年次からゼミと並行して自主的に同資格の取得に向けた学習を行うことを推奨する。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点割合 :100% 授業における報告内容 (レジюме等を含む) :60% 個別テーマ等の研究成果:30% ゼミ活動への取り組み状況:10%

無断欠席が半期で4回以上となる場合は原則として成績評価の対象としない。

### テキスト / Textbooks

実際に使用するテキストは現時点では未定であるため、講義初回に指示する。

### 参考文献 / Readings

伊藤邦雄 『新・現代会計入門 (第5版)』 日本経済新聞出版社 2022 9784532135256

伊藤邦雄 『企業価値経営 (第2版)』 日本経済新聞出版社 2023 9784296117802

バルーク・レブ、フェン・グー 『会計の再生』 中央経済社 2018 9784502240515

### その他 / Others

講義日程とは別に他大学との合同ゼミやゼミ合宿等を実施する場合がある。

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

### Seminar B

#### 財務報告に関する研究

米谷 健司 (KOMETANI KENJI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX715
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX4020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

この授業の目標は、財務報告に関する研究を行うために必要な基礎的な能力を習得することである。具体的には、次のような能力の獲得を目指す。(1) 現在の会計基準や会計制度の背後にある考え方を理解できるようになる。(2) 財務情報等のデータベースを活用して企業の実態を分析できるようになる。(3) 財務報告に関する学術論文や専門書等を参考にして、特定のテーマに関する分析結果を適切な文章表現でまとめることができるようになる。

The objective of this class is to acquire the basic abilities necessary to conduct research on financial reports. The specific objective is for students to acquire the following abilities. (1) Be able to understand the concepts behind the present accounting standards and accounting system. (2) Be able to use databases of financial and other information to analyze the states of companies. (3) Be able to refer to academic papers and specialized publications, etc., regarding financial reports and then be able to compile the results of analysis on a specific theme using suitable wording.

### 授業の内容 / Course Contents

財務報告に関連するテーマにはさまざまなものがあるため、まずは財務諸表分析を主たるテーマとし、企業経

営の実態を財務諸表から定性的・定量的に分析する能力を習得する。財務諸表分析を行うためには、財務諸表の構造を適切に理解する必要があるため、テキストに基づいて会計基準や制度を学習する。具体的には、テキストの内容の中で関心を抱いたトピックをチームごとにさらに深く調査し、授業ではその調査内容を報告・議論する。各授業回の調査では、基本的な財務指標等を財務データベースから抽出・加工することを推奨するため、この学習を通じて財務情報等のデータベースを使いこなせるようにする。その後、テーマ別の研究を行う。例えば、スチュワードシップ・コードやコーポレートガバナンス・コードなどを取り上げ、それらに関連する論文や書籍等をもとに議論を行う。なお、日経ストックリーグやプロネクサス懸賞論文などに参加する場合もある。

There are a variety of themes regarding financial reports, so first for the main theme of financial statement analysis, students will acquire the ability to qualitatively and quantitatively analyze the state of company management from the financial statements. Performing financial statement analysis requires proper understanding of the structure of the financial statements, so students will learn the accounting standards and system based on the textbook. In particular, each team will deeply research a topic of interest from the textbook and then during class report and discuss their study results. For the study conducted during each class it is recommended that the students extract and process information from financial databases, such as the basic financial indicators, so that they will learn how to use databases of financial and other information. After that students will conduct research on themes. For example, the stewardship code or corporate governance code can be addressed and discussions held of related papers and books, etc. Students can also participate in the Nikkei Stock League or Pronexus Essay Contest, etc.

#### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：資料収集の方法（文献の探索方法、EOL の利用方法等）
- 3 回：資料収集の方法（NEEDS-Financial QUEST の利用方法等）
- 4 回：テキストの内容に基づく報告・議論
- 5 回：テキストの内容に基づく報告・議論
- 6 回：テキストの内容に基づく報告・議論
- 7 回：テキストの内容に基づく報告・議論
- 8 回：テキストの内容に基づく報告・議論
- 9 回：テキストの内容に基づく報告・議論
- 10 回：テキストの内容に基づく報告・議論
- 11 回：テキストの内容に基づく報告・議論
- 12 回：テキストの内容に基づく報告・議論
- 13 回：テキストの内容に基づく報告・議論
- 14 回：テキストの内容に基づく報告・議論
- 15 回：テキストの内容に基づく報告・議論
- 16 回：テーマ別研究の報告・議論
- 17 回：テーマ別研究の報告・議論
- 18 回：テーマ別研究の報告・議論
- 19 回：テーマ別研究の報告・議論
- 20 回：テーマ別研究の報告・議論
- 21 回：テーマ別研究の報告・議論

- 22 回：テーマ別研究の報告・議論  
 23 回：テーマ別研究の報告・議論  
 24 回：テーマ別研究の報告・議論  
 25 回：テーマ別研究の報告・議論  
 26 回：テーマ別研究の報告・議論  
 27 回：テーマ別研究の報告・議論  
 28 回：テーマ別研究の報告・議論

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- ・授業で取り扱うテキストや文献等を予習・復習する必要がある。
- ・履修者の状況にもよるが、3~4名のチーム単位での調査・報告を予定している。報告担当の授業に向けて事前に共同で調査を行い、調査結果をレジюмеにまとめる必要がある。
- ・必要に応じてエクセルなどのソフトウェアを使えるようにする必要がある。
- ・日商簿記検定2級程度の知識を前提とするため、2年次からゼミと並行して自主的に同資格の取得に向けた学習を行うことを推奨する。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点割合 :100% 授業における報告内容 (レジюме等を含む) :60% 個別テーマ等の研究成果:30% ゼミ活動への取り組み状況:10%

無断欠席が半期で4回以上となる場合は原則として成績評価の対象としない。

### テキスト / Textbooks

実際に使用するテキストは現時点では未定であるため、講義初回に指示する。

### 参考文献 / Readings

伊藤邦雄 『新・現代会計入門 (第5版)』 日本経済新聞出版社 2022 9784532135256

伊藤邦雄 『企業価値経営 (第2版)』 日本経済新聞出版社 2023 9784296117802

バルーク・レブ、フェン・グー 『会計の再生』 中央経済社 2018 9784502240515

### その他 / Others

講義日程とは別に他大学との合同ゼミやゼミ合宿等を実施する場合がある。

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール A

Seminar A

近代アジア経済史

谷ヶ城 秀吉 (YAGASHIRO HIDEYOSHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX717  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX2020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

近代アジア経済の歴史的展開について学び、因果関係を把握する力を伸ばすとともに、多様性を認識する力を伸ばすことを目標とする。

The objective of this seminar is for students to learn about the historical development of the modern Asian economy and to increase their ability to identify cause and effect relationships while also increasing their ability to recognize diversity.

### 授業の内容 / Course Contents

考察対象地域は日本・韓国・中国・台湾といった東アジアを中心とし、戦前・戦時については「欧米諸国による開港」、「帝国主義と植民地」など、戦後については「冷戦体制と経済援助」、「開発主義と経済成長」などといったテーマについて学ぶ。以上に関連する資料・文献を読んで正確に理解し、ゼミ生が自ら考え、自分の言葉で話し、論理的な文章を書けるようになることを目標とする。

The region to be covered will be East Asia to include Japan, South Korea, China, and Taiwan, and for the prewar and war period the “Forced opening of ports by America and European countries,” “Imperialism and colonies,” etc., and for the post-war period the “Cold War structure and economic assistance,” “Developmentalism and

economic growth,” etc., will be covered. Students will read materials and literature about the above to gain a correct understanding with the objective of being able to think, talk and write logically in their own words.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：春学期ガイダンス
- 2回：アジア経済史の基本文献を読む（1）
- 3回：アジア経済史の基本文献を読む（2）
- 4回：アジア経済史の基本文献を読む（3）
- 5回：アジア経済史の基本文献を読む（4）
- 6回：アジア経済史の基本文献を読む（5）
- 7回：地域別グループ・プレゼンテーション（1）
- 8回：地域別グループ・プレゼンテーション（2）
- 9回：地域別グループ・プレゼンテーション（3）
- 10回：アジア経済史の主要文献を読む（1）
- 11回：アジア経済史の主要文献を読む（2）
- 12回：アジア経済史の主要文献を読む（3）
- 13回：アジア経済史の主要文献を読む（4）
- 14回：春学期の総括的議論
- 15回：秋学期ガイダンス
- 16回：アジア経済史の主要論点（1）
- 17回：アジア経済史の主要論点（2）
- 18回：アジア経済史の主要論点（3）
- 19回：アジア経済史の主要論点（4）
- 20回：アジア経済史の主要論点（5）
- 21回：テーマ別グループ・プレゼンテーション（1）
- 22回：テーマ別グループ・プレゼンテーション（2）
- 23回：テーマ別グループ・プレゼンテーション（3）
- 24回：個人研究報告（1）
- 25回：個人研究報告（2）
- 26回：個人研究報告（3）
- 27回：個人研究報告（4）
- 28回：秋学期の総括的議論

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回テキストやテーマについて、各自・グループで学習したうえで参加し、議論に貢献できるようにすること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点割合 :100% 授業参加度:30% プレゼンテーション:30%

最終レポート割合：:40%

### **テキスト / Textbooks**

---

ゼミナールで適宜指示する。

### **参考文献 / Readings**

---

### **注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

Seminar B

近代アジア経済史

谷ヶ城 秀吉 (YAGASHIRO HIDEYOSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX718
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX4020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

近代アジア経済の歴史的展開について学び、因果関係を把握する力を伸ばすとともに、多様性を認識する力を伸ばすことを目標とする。

The objective of this seminar is for students to learn about the historical development of the modern Asian economy and to increase their ability to identify cause and effect relationships while also increasing their ability to recognize diversity.

### 授業の内容 / Course Contents

考察対象地域は日本・韓国・中国・台湾といった東アジアを中心とし、戦前・戦時については「欧米諸国による開港」、「帝国主義と植民地」など、戦後については「冷戦体制と経済援助」、「開発主義と経済成長」などといったテーマについて学ぶ。以上に関連する資料・文献を読んで正確に理解し、ゼミ生が自ら考え、自分の言葉で話し、論理的な文章を書けるようになることを目標とする。

The region to be covered will be East Asia to include Japan, South Korea, China, and Taiwan, and for the prewar and war period the “Forced opening of ports by America and European countries,” “Imperialism and colonies,” etc., and for the post-war period the “Cold War structure and economic assistance,” “Developmentalism and



economic growth,” etc., will be covered. Students will read materials and literature about the above to gain a correct understanding with the objective of being able to think, talk and write logically in their own words.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：春学期ガイダンス
- 2回：アジア経済史の基本文献を読む（1）
- 3回：アジア経済史の基本文献を読む（2）
- 4回：アジア経済史の基本文献を読む（3）
- 5回：アジア経済史の基本文献を読む（4）
- 6回：アジア経済史の基本文献を読む（5）
- 7回：地域別グループ・プレゼンテーション（1）
- 8回：地域別グループ・プレゼンテーション（2）
- 9回：地域別グループ・プレゼンテーション（3）
- 10回：アジア経済史の主要文献を読む（1）
- 11回：アジア経済史の主要文献を読む（2）
- 12回：アジア経済史の主要文献を読む（3）
- 13回：アジア経済史の主要文献を読む（4）
- 14回：春学期の総括的議論
- 15回：秋学期ガイダンス
- 16回：アジア経済史の主要論点（1）
- 17回：アジア経済史の主要論点（2）
- 18回：アジア経済史の主要論点（3）
- 19回：アジア経済史の主要論点（4）
- 20回：アジア経済史の主要論点（5）
- 21回：テーマ別グループ・プレゼンテーション（1）
- 22回：テーマ別グループ・プレゼンテーション（2）
- 23回：テーマ別グループ・プレゼンテーション（3）
- 24回：個人研究報告（1）
- 25回：個人研究報告（2）
- 26回：個人研究報告（3）
- 27回：個人研究報告（4）
- 28回：秋学期の総括的議論

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回テキストやテーマについて、各自・グループで学習したうえで参加し、議論に貢献できるようにすること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点割合 :100% 授業参加度:30% プレゼンテーション:30%

最終レポート割合：:40%

---

### テキスト/Textbooks

ゼミナールで適宜指示する。

---

### 参考文献 / Readings

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

# ゼミナール A

Seminar A

原価計算論の研究

Study on Cost Accounting

内野 一樹 (UCHINO KAZUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX724
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX2020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

## 授業の目標 / Course Objectives

みんなで原価計算（Cost Accounting）の理論と計算構造を学ぶことを通して、会計についての知識はもとより、集団活動のマナーやコミュニケーション能力を身につける。

To acquire not only knowledge about accounting but also the manners for group activities and communication ability through studying the cost accounting theory and calculation structure together.

## 授業の内容 / Course Contents

価値の多様化に伴って、商品（製品）を売ることが難しくなっています。その一方で、行列のできるお店や予約待ちの商品があることも事実です。この違いはいったいどこから来るのでしょうか。本ゼミでは、商品の価値の源である原価（元価）を研究の対象としています。この原価を収集・処理・伝達する行為が原価計算であり、きわめて人間的な行為であるということが出来ます。

3年間のゼミ活動の柱は、グループ作業と卒業論文の作成です。2・3年次には、グループ作業の中で、商品を企画し販売し、決算書（併せてグループ論文）を作ります。その準備として、工業簿記・原価計算についての基本文献を輪読して、発表を行ないます。4年次には、各自の研究課題を卒業論文に纏めます。また、ゼミの

時間内に教室の外に出て、知識を強固なものにする機会（企業施設・工場の見学等）を設けています。

ゼミ活動の企画・運営にあたっては、ゼミ生の自主性を尊重しています。というのは、ゼミは、教師の与えるものを受動的に学ぶ場ではないからです。ゼミは、みんなで考え、自由闊達に意見を交わすことのできる場であることが望ましいと思います。そのためにも、人間的には和やかな雰囲気をもとに何よりも大切にしています。

Accompanying the diversification in value, it has become difficult to sell goods (products). On the other hand, it is true there are restaurants where people line up to get in and products with a waiting list of buyers. Where does this difference come from? The subject of this seminar is research on cost, which is the source of the value of goods. The act of gathering, processing, and communicating costs is cost accounting and can be said to be a very human activity.

Group work and the writing of the graduation thesis are supported by the seminar activities conducted over three years. The second and third years will center on group work during which products will be planned, sold, and financial statements created (a group paper will also be written). In preparation for this, students will read basic literature on industrial bookkeeping and cost accounting and give reports. During the fourth year students will compile their research results in a graduation thesis. In addition, there will be opportunities during the seminar class time for students to go outside the classroom to strengthen their knowledge (visits to company premises and factories, etc.).

The autonomy of the seminar students will be respected regarding the planning and operation of seminar activities. This is because a seminar is not the place for students to passively learn that is given to them by the instructor. It is desirable that the seminar be the place for everyone to think together and freely and easily exchange their opinions. For this reason as well, having a peaceful atmosphere is the most important for human relations.

#### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：Introduction of the spring semester
- 2 回：PC training for document making
- 3 回：Reading by turns and presentation 1
- 4 回：Reading by turns and presentation 2
- 5 回：Reading by turns and presentation 3
- 6 回：Reading by turns and discussion 1
- 7 回：Reading by turns and discussion 2
- 8 回：Reading by turns and discussion 3
- 9 回：Group activity 1 (Supplier determination)
- 10 回：Group activity 2 (Product planning)
- 11 回：Group activity 3 (Sop preparation)
- 12 回：Preparation 1 of group paper (Sophomore & Junior) and of graduation thesis (Senior)
- 13 回：Preparation 2 of group paper (Sophomore & Junior) and of graduation thesis (Senior)
- 14 回：Summary of the spring semester
- 15 回：Introduction of the fall semester
- 16 回：Progress report 1 of group paper (Sophomore & Junior) and of graduation thesis (Senior)
- 17 回：Progress report 2 of group paper (Sophomore & Junior) and of graduation thesis (Senior)
- 18 回：Group interaction 1

- 19回：Group interaction 2  
 20回：Group interaction 3  
 21回：Progress report 1 of group paper (Sophomore & Junior) and of graduation thesis (Senior)  
 22回：Progress report 2 of group paper (Sophomore & Junior) and of graduation thesis (Senior)  
 23回：Group interaction 1  
 24回：Group interaction 2  
 25回：Group interaction 3  
 26回：Final report 1 of group paper (Sophomore & Junior) and of graduation thesis (Senior)  
 27回：Final report 2 of group paper (Sophomore & Junior) and of graduation thesis (Senior)  
 28回：Summary of the fall semester

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、前回までの演習内容を確認し、復習しておくこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点割合 :100% 授業への積極的な参加(出席およびコメント):40% レジюме作成・プレゼンテーション:30% 最終報告(2・3年生はグループ論文,4年生は卒業論文):30%

### テキスト / Textbooks

未定。(ゼミ選考後に指示します。)

### 参考文献 / Readings

企業分析研究会 『現代日本の企業分析』 新日本出版社 2018年 9784406062398

大西勝明・小坂隆秀・田村八十一編 『現代の産業・企業と地域経済』 晃洋書房 2018年 9784771029750

小栗崇資・陣内良昭編著 『会計のオルタナティブ』 中央経済社 2022年 9784502415210

### その他 / Others

履修登録完了時にメーリングリストを作成し、指示します。

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

Seminar B

原価計算論の研究

Study on Cost Accounting

内野 一樹 (UCHINO KAZUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX725
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX4020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

みんなで原価計算（Cost Accounting）の理論と計算構造を学ぶことを通して、会計についての知識はもとより、集団活動のマナーやコミュニケーション能力を身につける。

To acquire not only knowledge about accounting but also the manners for group activities and communication ability through studying the cost accounting theory and calculation structure together.

### 授業の内容 / Course Contents

価値の多様化に伴って、商品（製品）を売ることが難しくなっています。その一方で、行列のできるお店や予約待ちの商品があることも事実です。この違いはいったいどこから来るのでしょうか。本ゼミでは、商品の価値の源である原価（元価）を研究の対象としています。この原価を収集・処理・伝達する行為が原価計算であり、きわめて人間的な行為であるということが出来ます。

3年間のゼミ活動の柱は、グループ作業と卒業論文の作成です。2・3年次には、グループ作業の中で、商品を企画し販売し、決算書（併せてグループ論文）を作ります。その準備として、工業簿記・原価計算についての基本文献を輪読して、発表を行ないます。4年次には、各自の研究課題を卒業論文に纏めます。また、ゼミの

時間内に教室の外に出て、知識を強固なものにする機会（企業施設・工場の見学等）を設けています。

ゼミ活動の企画・運営にあたっては、ゼミ生の自主性を尊重しています。というのは、ゼミは、教師の与えるものを受動的に学ぶ場ではないからです。ゼミは、みんなで考え、自由闊達に意見を交わすことのできる場であることが望ましいと思います。そのためにも、人間的には和やかな雰囲気をもとに何よりも大切にしています。

Accompanying the diversification in value, it has become difficult to sell goods (products). On the other hand, it is true there are restaurants where people line up to get in and products with a waiting list of buyers. Where does this difference come from? The subject of this seminar is research on cost, which is the source of the value of goods. The act of gathering, processing, and communicating costs is cost accounting and can be said to be a very human activity.

Group work and the writing of the graduation thesis are supported by the seminar activities conducted over three years. The second and third years will center on group work during which products will be planned, sold, and financial statements created (a group paper will also be written). In preparation for this, students will read basic literature on industrial bookkeeping and cost accounting and give reports. During the fourth year students will compile their research results in a graduation thesis. In addition, there will be opportunities during the seminar class time for students to go outside the classroom to strengthen their knowledge (visits to company premises and factories, etc.).

The autonomy of the seminar students will be respected regarding the planning and operation of seminar activities. This is because a seminar is not the place for students to passively learn that is given to them by the instructor. It is desirable that the seminar be the place for everyone to think together and freely and easily exchange their opinions. For this reason as well, having a peaceful atmosphere is the most important for human relations.

#### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：Introduction of the spring semester
- 2 回：PC training for document making
- 3 回：Reading by turns and presentation 1
- 4 回：Reading by turns and presentation 2
- 5 回：Reading by turns and presentation 3
- 6 回：Reading by turns and discussion 1
- 7 回：Reading by turns and discussion 2
- 8 回：Reading by turns and discussion 3
- 9 回：Group activity 1 (Supplier determination)
- 10 回：Group activity 2 (Product planning)
- 11 回：Group activity 3 (Sop preparation)
- 12 回：Preparation 1 of group paper (Sophomore & Junior) and of graduation thesis (Senior)
- 13 回：Preparation 2 of group paper (Sophomore & Junior) and of graduation thesis (Senior)
- 14 回：Summary of the spring semester
- 15 回：Introduction of the fall semester
- 16 回：Progress report 1 of group paper (Sophomore & Junior) and of graduation thesis (Senior)
- 17 回：Progress report 2 of group paper (Sophomore & Junior) and of graduation thesis (Senior)
- 18 回：Group interaction 1

- 19回：Group interaction 2  
 20回：Group interaction 3  
 21回：Progress report 1 of group paper (Sophomore & Junior) and of graduation thesis (Senior)  
 22回：Progress report 2 of group paper (Sophomore & Junior) and of graduation thesis (Senior)  
 23回：Group interaction 1  
 24回：Group interaction 2  
 25回：Group interaction 3  
 26回：Final report 1 of group paper (Sophomore & Junior) and of graduation thesis (Senior)  
 27回：Final report 2 of group paper (Sophomore & Junior) and of graduation thesis (Senior)  
 28回：Summary of the fall semester

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、前回までの演習内容を確認し、復習しておくこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点割合：100% 授業への積極的な参加(出席およびコメント):40% レジюме作成・プレゼンテーション:30% 最終報告(2・3年生はグループ論文,4年生は卒業論文):30%

### テキスト / Textbooks

未定。(ゼミ選考後に指示します。)

### 参考文献 / Readings

企業分析研究会 『現代日本の企業分析』 新日本出版社 2018年 9784406062398

大西勝明・小坂隆秀・田村八十一編 『現代の産業・企業と地域経済』 晃洋書房 2018年 9784771029750

小栗崇資・陣内良昭編著 『会計のオルタナティブ』 中央経済社 2022年 9784502415210

### その他 / Others

履修登録完了時にメーリングリストを作成し、指示します。

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。



## ゼミナール A

Seminar A

現代経済学の基礎と応用

藤原 新 (FUJIWARA ARATA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX731  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX2020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

現代経済学の基礎を理解し、現実の経済を分析する力を得る。また、筋道の通った思考に基づく議論、プレゼンテーションや論文作成を通じて、論理的に考え、また自分の考えを他者に伝える能力を磨く。こうした能力は、学生時代のみならず一生にわたって必要なものである。

To acquire a basic understanding of modern economics and the ability to analyze the real economy. In addition, for students to polish their ability to think logically and to be able to communicate their ideas to others through discussions, presentations, and paper writing based on rational thinking. These abilities are required not just when a student but throughout life.

### 授業の内容 / Course Contents

行動経済学を中心に現代経済学の基礎を学ぶ。

人間の行動の合理性に全面的に依拠し、自由競争によって最適な均衡が得られると主張する正統派の経済学に対して疑問を投げかけ、その限界を超えようとする試みを取り上げる。現代の経済政策の基礎にある経済学の考え方を知り、その妥当性を問い直すというのがテーマである。

具体的なテーマについては、受講生との相談のうえ修正、調整を行うことがある。

輪読，グループワーク，ディスカッション，ゼミ論文の作成が活動の中心である。

ゼミ共通のテーマの研究に加え，幅広い読書を通じて，自らの研究テーマを設定し，研究を進める。

This course is a study of the fundamentals of modern economics, with a focus on behavioral economics.

The course will focus on attempts to question the orthodox school of economics, which relies entirely on the rationality of human behavior and asserts that optimal equilibrium can be achieved through free competition, and to go beyond its limitations. The theme of this course is to learn about the economic ideas underlying modern economic policy and to question their validity.

Specific topics may be modified or adjusted in consultation with students.

The main activities of the seminar consist of reading in rotation, group work, discussion, and the writing of seminar papers.

In addition to research on themes common to the seminar, students will set their own research themes through extensive reading.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：現代経済学の基礎 1
- 3 回：現代経済学の基礎 2
- 4 回：現代経済学の基礎 3
- 5 回：現代経済学の基礎 4
- 6 回：現代経済学の基礎 5
- 7 回：現代経済学の基礎 6
- 8 回：現代経済学の基礎 7
- 9 回：現代経済学の基礎 8
- 10 回：現代経済学の基礎 9
- 11 回：現代経済学の基礎 10
- 12 回：現代経済学の応用 1
- 13 回：現代経済学の応用 2
- 14 回：現代経済学の応用 3
- 15 回：現代経済学の応用 4
- 16 回：現代経済学の応用 5
- 17 回：現代経済学の応用 6
- 18 回：現代経済学の応用 7
- 19 回：現代経済学の応用 8
- 20 回：現代経済学の応用 9
- 21 回：現代経済学の応用 10
- 22 回：現代経済学と現代社会 1
- 23 回：現代経済学と現代社会 2
- 24 回：現代経済学と現代社会 3
- 25 回：現代経済学と現代社会 4
- 26 回：現代経済学と現代社会 5
- 27 回：現代経済学と現代社会 6
- 28 回：総括

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

テキストは事前に何度も熟読し、内容を十分に理解しておくこと。不明点や問題点については、あらかじめCanvas LMS などを用いて十分に議論しておく。

ゼミナール以外に学生主導のサブゼミナールを行う場合がある。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation**

平常点割合 :100% 発表, 発言などのゼミナールでの貢献:90% 提出物:10%

**テキスト / Textbooks**

テキストについては別途指示する。

**参考文献 / Readings**

筒井他 『行動経済学入門』 東洋経済新報社 2017年

栗原・丸山 『統計学図鑑』 オーム社 2017年

これ以外の参考書については適宜指示する。

**その他 / Others**

[https://twitter.com/fujiwara\\_rikkyo](https://twitter.com/fujiwara_rikkyo)

<https://www.facebook.com/%E8%97%A4%E5%8E%9F%E3%82%BC%E3%83%9F%E3%83%8A%E3%83%BC%E3%83%AB-1591419617802303/>

<https://www.instagram.com/rikkyo.fujiwara.seminar/>

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

### Seminar B

現代経済学の基礎と応用

藤原 新 (FUJIWARA ARATA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX732
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX4020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

現代経済学の基礎を理解し、現実の経済を分析する力を得る。また、筋道の通った思考に基づく議論、プレゼンテーションや論文作成を通じて、論理的に考え、また自分の考えを他者に伝える能力を磨く。こうした能力は、学生時代のみならず一生にわたって必要なものである。

To acquire a basic understanding of modern economics and the ability to analyze the real economy. In addition, for students to polish their ability to think logically and to be able to communicate their ideas to others through discussions, presentations, and paper writing based on rational thinking. These abilities are required not just when a student but throughout life.

### 授業の内容 / Course Contents

行動経済学を中心に現代経済学の基礎を学ぶ。

人間の行動の合理性に全面的に依拠し、自由競争によって最適な均衡が得られると主張する正統派の経済学に対して疑問を投げかけ、その限界を超えようとする試みを取り上げる。現代の経済政策の基礎にある経済学の考え方を知り、その妥当性を問い直すというのがテーマである。

具体的なテーマについては、受講生との相談のうえ修正、調整を行うことがある。

輪読、グループワーク、ディスカッション、ゼミ論文の作成が活動の中心である。

ゼミ共通のテーマの研究に加え、幅広い読書を通じて、自らの研究テーマを設定し、研究を進める。

This course is a study of the fundamentals of modern economics, with a focus on behavioral economics.

The course will focus on attempts to question the orthodox school of economics, which relies entirely on the rationality of human behavior and asserts that optimal equilibrium can be achieved through free competition, and to go beyond its limitations. The theme of this course is to learn about the economic ideas underlying modern economic policy and to question their validity.

Specific topics may be modified or adjusted in consultation with students.

The main activities of the seminar consist of reading in rotation, group work, discussion, and the writing of seminar papers.

In addition to research on themes common to the seminar, students will set their own research themes through extensive reading.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：現代経済学の基礎 1
- 3 回：現代経済学の基礎 2
- 4 回：現代経済学の基礎 3
- 5 回：現代経済学の基礎 4
- 6 回：現代経済学の基礎 5
- 7 回：現代経済学の基礎 6
- 8 回：現代経済学の基礎 7
- 9 回：現代経済学の基礎 8
- 10 回：現代経済学の基礎 9
- 11 回：現代経済学の基礎 10
- 12 回：現代経済学の応用 1
- 13 回：現代経済学の応用 2
- 14 回：現代経済学の応用 3
- 15 回：現代経済学の応用 4
- 16 回：現代経済学の応用 5
- 17 回：現代経済学の応用 6
- 18 回：現代経済学の応用 7
- 19 回：現代経済学の応用 8
- 20 回：現代経済学の応用 9
- 21 回：現代経済学の応用 10
- 22 回：現代経済学と現代社会 1
- 23 回：現代経済学と現代社会 2
- 24 回：現代経済学と現代社会 3
- 25 回：現代経済学と現代社会 4
- 26 回：現代経済学と現代社会 5
- 27 回：現代経済学と現代社会 6
- 28 回：総括

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

テキストは事前に何度も熟読し、内容を十分に理解しておくこと。不明点や問題点については、あらかじめCanvas LMS などを用いて十分に議論しておく。

ゼミナール以外に学生主導のサブゼミナールを行う場合がある。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation**

平常点割合 :100% 発表, 発言などのゼミナールでの貢献:90% 提出物:10%

**テキスト / Textbooks**

テキストについては別途指示する。

**参考文献 / Readings**

筒井他 『行動経済学入門』 東洋経済新報社 2017年

栗原・丸山 『統計学図鑑』 オーム社 2017年

これ以外の参考書については適宜指示する。

**その他 / Others**

[https://twitter.com/fujiwara\\_rikkyo](https://twitter.com/fujiwara_rikkyo)

<https://www.facebook.com/%E8%97%A4%E5%8E%9F%E3%82%BC%E3%83%9F%E3%83%8A%E3%83%BC%E3%83%AB-1591419617802303/>

<https://www.instagram.com/rikkyo.fujiwara.seminar/>

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール A

Seminar A

社会保障の未来と国民生活－SDGs時代の福祉国家のあり方

菅沼 隆 (SUGANUMA TAKASHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX734
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX2020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

社会保障制度とこれに付随する雇用制度を経済学・社会政策論の視点から深く学ぶことにより、政策的思考力を身に付ける。ディベートを通じて正確な調査能力・論理的な思考力・明解な対話力・仲間との協調性を身に付ける。社会保障制度を通じて、社会の仕組みを理解し、充実した人生を生きる能力を高めていく。

SDGs が人類の目的となった現在、社会保障も変革が迫られている。これに Covid-19 パンデミックが拍車をかけている。正解のない時代に、仲間との対話を通じて、望ましい社会保障制度と社会のあり方を考える姿勢を身につけたい。

Through studying deeply about the social security system and the related employment system, students are able to get policy-oriented thinking ability. Debate method, often used in this seminar, develops their ability to research precisely, think logically, persuade simply with others, and cooperate friendly with others..

### 授業の内容 / Course Contents

社会保障制度は、個々の国民の生活を政府が保障するものであるため、これを学ぶことは、個人の生活という社会の最小単位から、国民経済・国家財政という社会全体まで広く考察することになる。経済学、政策学の応用科学といってよい。また、近年、社会保障制度がソーシャル・キャピタルを高め、社会のイノベーション

を促進する効果が注目されている。SDGs時代に社会保障も改革が迫られている。

このゼミは多くの回でディベートを行う。社会保障制度は政策論的な論争が行われており、その問題点と論点を理解する方法としてディベートは効果的である。また、ディベートというグループ学習により、楽しみながら調査能力、対話能力・コミュニケーション能力、思考能力を高めることができる。

具体的な制度として、医療保障（健康保険）、所得保障（年金、雇用保険、生活保護など）、介護保障（介護保険、家族援助）、雇用問題・雇用制度改革などの社会政策の論争点を取り上げる。人口構成の高齢化と出生率の低下、経済社会の変化、グローバル競争に対応して日本の社会保障制度は改革を迫られている。社会保障制度と密接な関係にあった雇用慣行（日本的労使関係）も行き詰まりを呈し、雇用制度改革が大きな争点になっている。これらの問題を考察する際に、成熟した福祉国家であるヨーロッパ諸国と高齢化の最先端を進む日本の比較は様々な知見を得ることができる。特に、担当教員が専門とするデンマーク・スウェーデンなど北欧諸国との比較を重視する。また、中国・韓国・台湾などの東アジア諸国も社会保障制度が整備されつつあり、日本と比較可能になっている。社会保障をグローバルな視点で捉え、持続可能で効果的な社会保障制度を展望する。

春と夏に合宿を行う。1年次末の春から合宿に参加する。12月に首都圏の他大学とインターゼミを開催する予定である。卒業論文の作成は義務とする。

Social security system is a system for the government to secure each individuals daily life. By this reason, to study social security means to think deeply from individuals as smallest unit of the society to national economy as largest unit of the nation. So studying social security is applied science of economics and policy studies.

Many debates will be held during this seminar. There are policy theory and political theory disputes regarding the social security and employment problems, and debates are an effective means for understanding those problems and points of dispute. In addition, the group study can improve communication ability.

Topics taken up in this seminar are medical security (health insurance), income security (pension, employment insurance, welfare, etc.), long-term care security (long-term care insurance, family assistance) and employment system. The aging of the population composition, decline in the birth rate, changes in economic society, and global disputes are putting the Japanese social security system under pressure to reform. Employment practices (Japanese labor-management relations), which are closely related to the social security system, have become an issue with many disputes about how to reform the employment system. When considering these problems, much can be learned by comparing European countries, which are mature welfare states, with Japan, which is one of the countries with the greatest aging of the population. In particular, the comparison will be focused on Denmark and Sweden, on which the instructor is a specialist. In addition, East Asian countries, such as China, South Korea, and Taiwan, are building social security systems and these can be compared with Japan. Looking at social security from a global perspective allows us to see sustainable and effective social security systems.

Spring and summer training camps will be held. Students can participate in the spring training camp from the end of their first year. Students are required to write a graduation thesis.

#### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：医療保障基礎 1
- 2回：医療保障基礎 2
- 3回：医療保障基礎 3
- 4回：医療保障基礎 4
- 5回：所得保障基礎 1



- 6回：所得保障基礎2
- 7回：所得保障基礎3
- 8回：所得保障基礎4
- 9回：介護保障基礎1
- 10回：介護保障基礎2
- 11回：介護保障基礎3
- 12回：介護保障基礎4
- 13回：雇用政策基礎1
- 14回：雇用政策基礎2
- 15回：医療保障応用1
- 16回：医療保障応用2
- 17回：医療保障応用3
- 18回：医療保障応用4
- 19回：所得保障応用1
- 20回：所得保障応用2
- 21回：所得保障応用3
- 22回：所得保障応用4
- 23回：介護保障応用1
- 24回：介護保障応用2
- 25回：介護保障応用3
- 26回：介護保障応用4
- 27回：雇用政策応用1
- 28回：雇用政策応用2

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予め提示した課題について、グループで事前に調べ、主張を明確にしておくこと。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点割合 :100% 授業中の発言:100%

#### テキスト / Textbooks

なし

#### 参考文献 / Readings

- 田中耕太郎・椋野美智子著 『はじめての社会保障』（最新版） 有斐閣 2022
- 土田武史編 『社会保障論』 成文堂 2015
- 中島健祐 『デンマークのスマートシティ』 学芸出版社 2019
- マツカート 『ミッション・エコノミー』 ニューズピックス 2021
- 安岡美佳他 北欧のスマートシティ 学芸出版社 2022

**その他/ Others**

ゼミ応募課題は 10 月 1 日以降、次の URL で配布する。

<https://www.dropbox.com/scl/fo/x4vkdt09c8bdoiafwwmt/h?rlkey=bmj0wgew1y2svmfd2oiq2epah&dl=0> あるいは [suganuma@rikkyo.ac.jp](mailto:suganuma@rikkyo.ac.jp) に問い合わせること。また、面接時、基礎ゼミレポート（レジюме、草稿でよい）を持参・提示すること。

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

### Seminar B

社会保障の未来と国民生活－SDGs時代の福祉国家のあり方

菅沼 隆 (SUGANUMA TAKASHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX735
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX4020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

社会保障制度とこれに付随する雇用制度を経済学・社会政策論の視点から深く学ぶことにより、政策的思考力を身に付ける。ディベートを通じて正確な調査能力・論理的な思考力・明解な対話力・仲間との協調性を身に付ける。社会保障制度を通じて、社会の仕組みを理解し、充実した人生を生きる能力を高めていく。

SDGs が人類の目的となった現在、社会保障も変革が迫られている。これに Covid-19 パンデミックが拍車をかけている。正解のない時代に、仲間との対話を通じて、望ましい社会保障制度と社会のあり方を考える姿勢を身につけたい。

Through studying deeply about the social security system and the related employment system, students are able to get policy-oriented thinking ability. Debate method, often used in this seminar, develops their ability to research precisely, think logically, persuade simply with others, and cooperate friendly with others..

### 授業の内容 / Course Contents

社会保障制度は、個々の国民の生活を政府が保障するものであるため、これを学ぶことは、個人の生活という社会の最小単位から、国民経済・国家財政という社会全体まで広く考察することになる。経済学、政策学の応用科学といってよい。また、近年、社会保障制度がソーシャル・キャピタルを高め、社会のイノベーション

を促進する効果が注目されている。SDGs時代に社会保障も改革が迫られている。

このゼミは多くの回でディベートを行う。社会保障制度は政策論的な論争が行われており、その問題点と論点を理解する方法としてディベートは効果的である。また、ディベートというグループ学習により、楽しみながら調査能力、対話能力・コミュニケーション能力、思考能力を高めることができる。

具体的な制度として、医療保障（健康保険）、所得保障（年金、雇用保険、生活保護など）、介護保障（介護保険、家族援助）、雇用問題・雇用制度改革などの社会政策の論争点を取り上げる。人口構成の高齢化と出生率の低下、経済社会の変化、グローバル競争に対応して日本の社会保障制度は改革を迫られている。社会保障制度と密接な関係にあった雇用慣行（日本的労使関係）も行き詰まりを呈し、雇用制度改革が大きな争点になっている。これらの問題を考察する際に、成熟した福祉国家であるヨーロッパ諸国と高齢化の最先端を進む日本の比較は様々な知見を得ることができる。特に、担当教員が専門とするデンマーク・スウェーデンなど北欧諸国との比較を重視する。また、中国・韓国・台湾などの東アジア諸国も社会保障制度が整備されつつあり、日本と比較可能になっている。社会保障をグローバルな視点で捉え、持続可能で効果的な社会保障制度を展望する。

春と夏に合宿を行う。1年次末の春から合宿に参加する。12月に首都圏の他大学とインターゼミを開催する予定である。卒業論文の作成は義務とする。

Social security system is a system for the government to secure each individuals daily life. By this reason, to study social security means to think deeply from individuals as smallest unit of the society to national economy as largest unit of the nation. So studying social security is applied science of economics and policy studies.

Many debates will be held during this seminar. There are policy theory and political theory disputes regarding the social security and employment problems, and debates are an effective means for understanding those problems and points of dispute. In addition, the group study can improve communication ability.

Topics taken up in this seminar are medical security (health insurance), income security (pension, employment insurance, welfare, etc.), long-term care security (long-term care insurance, family assistance) and employment system. The aging of the population composition, decline in the birth rate, changes in economic society, and global disputes are putting the Japanese social security system under pressure to reform. Employment practices (Japanese labor-management relations), which are closely related to the social security system, have become an issue with many disputes about how to reform the employment system. When considering these problems, much can be learned by comparing European countries, which are mature welfare states, with Japan, which is one of the countries with the greatest aging of the population. In particular, the comparison will be focused on Denmark and Sweden, on which the instructor is a specialist. In addition, East Asian countries, such as China, South Korea, and Taiwan, are building social security systems and these can be compared with Japan. Looking at social security from a global perspective allows us to see sustainable and effective social security systems.

Spring and summer training camps will be held. Students can participate in the spring training camp from the end of their first year. Students are required to write a graduation thesis.

#### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：医療保障基礎 1
- 2回：医療保障基礎 2
- 3回：医療保障基礎 3
- 4回：医療保障基礎 4
- 5回：所得保障基礎 1

- 6回：所得保障基礎2
- 7回：所得保障基礎3
- 8回：所得保障基礎4
- 9回：介護保障基礎1
- 10回：介護保障基礎2
- 11回：介護保障基礎3
- 12回：介護保障基礎4
- 13回：雇用政策基礎1
- 14回：雇用政策基礎2
- 15回：医療保障応用1
- 16回：医療保障応用2
- 17回：医療保障応用3
- 18回：医療保障応用4
- 19回：所得保障応用1
- 20回：所得保障応用2
- 21回：所得保障応用3
- 22回：所得保障応用4
- 23回：介護保障応用1
- 24回：介護保障応用2
- 25回：介護保障応用3
- 26回：介護保障応用4
- 27回：雇用政策応用1
- 28回：雇用政策応用2

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予め提示した課題について、グループで事前に調べ、主張を明確にしておくこと。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点割合 :100% 授業中の発言:100%

#### テキスト / Textbooks

なし

#### 参考文献 / Readings

- 田中耕太郎・椋野美智子著 『はじめての社会保障』（最新版） 有斐閣 2022
- 土田武史編 『社会保障論』 成文堂 2015
- 中島健祐 『デンマークのスマートシティ』 学芸出版社 2019
- マツカート 『ミッション・エコノミー』 ニュースピックス 2021
- 安岡美佳他 北欧のスマートシティ 学芸出版社 2022

**その他/ Others**

ゼミ応募課題は10月1日以降、次のURLで配布する。

<https://www.dropbox.com/scl/fo/x4vkdt09c8bdoiafwwmt/h?rlkey=bmj0wgew1y2svmfd2oiq2epah&dl=0> あるいは [suganuma@rikkyo.ac.jp](mailto:suganuma@rikkyo.ac.jp) に問い合わせること。また、面接時、基礎ゼミレポート（レジюме、草稿でよい）を持参・提示すること。

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール A

Seminar A

現代財政の諸問題

池上 岳彦 (IKEGAMI TAKEHIKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX747  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX2020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

現代財政に関する理解を深めるとともに、財政を素材として経済政策の課題を発見・研究して、その成果を発表・議論し、論文を作成する能力を養う。

The objectives of this seminar are deepening understanding of contemporary public finance, discovering and researching issues of economic policy using subject matters in government finance, making presentation and discussion on those results, and developing the ability to write academic papers.

### 授業の内容 / Course Contents

現代経済において財政（政府が租税を課して、その財源を用いて公共サービスを行う制度）が果たす役割は大きい。日本は先進国の中では比較的「小さな政府」を持つが、少子高齢社会における経費増大は不可避である。また、日本では租税負担が軽いうえに、公共投資と所得減税を繰り返した結果、巨額の公債が累積している。これに対して増税を語る場合、「信頼される政府」をつくることが前提となる。

本ゼミナールでは、現代財政・税制に関する基本的文献を講読したうえで、税制、社会保障、公共投資、公債、予算制度、地方分権、財政投融资、公企業、対外政策、外国財政等の分野について、参加者が選択したテーマに関する発表と検討を重ねて、論文をまとめる。

自分で問題を発見して資料収集や調査・分析を行い、積極的に発表・議論することが求められる。

Public finance (the system whereby governments collect taxes and uses them to fund public services) plays a large role in contemporary economy. Among the advanced nations, Japan has a relatively “small government system,” but it cannot avoid the increase in expenditures due to the declining birth rate and the aging of society. In addition, although the tax burden in Japan is low, repeated public investments and income tax reductions have left the country with a massive public debt. The precondition for discussing tax increases to deal with this is building a “trustworthy government system.”

In this seminar, students will first read basic literature on contemporary public finance. They will then make presentation and discussion and write papers on themes they select from such fields as the tax system, social security, public investment, public debt, budget system, government decentralization, the Financial Investment and Loan Program, public enterprises, foreign policy, and foreign government public finance.

Students are required to identify problems, gather materials, conduct studies and analysis, and proactively present and discuss their findings.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：序論
- 2 回：財政史と現代財政に関する議論
- 3 回：財政の政策決定過程に関する議論
- 4 回：経費に関する議論
- 5 回：租税の理論と制度に関する議論（1）
- 6 回：租税の理論と制度に関する議論（2）
- 7 回：公債に関する議論
- 8 回：政府間財政関係に関する議論
- 9 回：日本の地方財政に関する議論
- 10 回：財政投融资と公企業に関する議論
- 11 回：社会保障財政と教育財政に関する議論
- 12 回：経済政策と財政金融に関する議論
- 13 回：グローバル化と財政に関する議論
- 14 回：社会と財政の展望に関する議論
- 15 回：中間レポート報告と議論 1
- 16 回：中間レポート報告と議論 2
- 17 回：研究報告と議論 1
- 18 回：研究報告と議論 2
- 19 回：研究報告と議論 3
- 20 回：研究報告と議論 4
- 21 回：研究報告と議論 5
- 22 回：研究報告と議論 6
- 23 回：研究報告と議論 7
- 24 回：研究報告と議論 8
- 25 回：研究報告と議論 9
- 26 回：研究報告と議論 10
- 27 回：研究報告と議論 11



## 28回：議論の総括

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

前回までの授業内容復習, 各回のテキスト等に関する予習。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分: 002) / Evaluation**

平常点割合 :100% 授業 (合宿を含む) における報告・議論:50% 中間レポート:10% 最終レポート割合 :40%

**テキスト / Textbooks**

池上岳彦編 『現代財政を学ぶ』 有斐閣 2015年 9784641184244 ○

**参考文献 / Readings**

沼尾波子・池上岳彦・木村佳弘・高端正幸 『地方財政を学ぶ〔新版〕』 有斐閣 2023年 9784641184640

神野直彦 『財政学〔第3版〕』 有斐閣 2021年 9784641165816

高端正幸・佐藤滋 『財政学の扉をひらく』 有斐閣 2020年 9784641150829

植田和弘・諸富徹編 『テキストブック現代財政学』 有斐閣 2016年 9784641184329

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

Seminar B

現代財政の諸問題

池上 岳彦 (IKEGAMI TAKEHIKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX748  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX4020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

現代財政に関する理解を深めるとともに、財政を素材として経済政策の課題を発見・研究して、その成果を発表・議論し、論文を作成する能力を養う。

The objectives of this seminar are deepening understanding of contemporary public finance, discovering and researching issues of economic policy using subject matters in government finance, making presentation and discussion on those results, and developing the ability to write academic papers.

### 授業の内容 / Course Contents

現代経済において財政（政府が租税を課して、その財源を用いて公共サービスを行う制度）が果たす役割は大きい。日本は先進国の中では比較的「小さな政府」を持つが、少子高齢社会における経費増大は不可避である。また、日本では租税負担が軽いうえに、公共投資と所得減税を繰り返した結果、巨額の公債が累積している。これに対して増税を語る場合、「信頼される政府」をつくることが前提となる。

本ゼミナールでは、現代財政・税制に関する基本的文献を講読したうえで、税制、社会保障、公共投資、公債、予算制度、地方分権、財政投融资、公企業、対外政策、外国財政等の分野について、参加者が選択したテーマに関する発表と検討を重ねて、論文をまとめる。

自分で問題を発見して資料収集や調査・分析を行い、積極的に発表・議論することが求められる。

Public finance (the system whereby governments collect taxes and uses them to fund public services) plays a large role in contemporary economy. Among the advanced nations, Japan has a relatively “small government system,” but it cannot avoid the increase in expenditures due to the declining birth rate and the aging of society. In addition, although the tax burden in Japan is low, repeated public investments and income tax reductions have left the country with a massive public debt. The precondition for discussing tax increases to deal with this is building a “trustworthy government system.”

In this seminar, students will first read basic literature on contemporary public finance. They will then make presentation and discussion and write papers on themes they select from such fields as the tax system, social security, public investment, public debt, budget system, government decentralization, the Financial Investment and Loan Program, public enterprises, foreign policy, and foreign government public finance.

Students are required to identify problems, gather materials, conduct studies and analysis, and proactively present and discuss their findings.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：序論
- 2 回：財政史と現代財政に関する議論
- 3 回：財政の政策決定過程に関する議論
- 4 回：経費に関する議論
- 5 回：租税の理論と制度に関する議論（1）
- 6 回：租税の理論と制度に関する議論（2）
- 7 回：公債に関する議論
- 8 回：政府間財政関係に関する議論
- 9 回：日本の地方財政に関する議論
- 10 回：財政投融资と公企業に関する議論
- 11 回：社会保障財政と教育財政に関する議論
- 12 回：経済政策と財政金融に関する議論
- 13 回：グローバル化と財政に関する議論
- 14 回：社会と財政の展望に関する議論
- 15 回：中間レポート報告と議論 1
- 16 回：中間レポート報告と議論 2
- 17 回：研究報告と議論 1
- 18 回：研究報告と議論 2
- 19 回：研究報告と議論 3
- 20 回：研究報告と議論 4
- 21 回：研究報告と議論 5
- 22 回：研究報告と議論 6
- 23 回：研究報告と議論 7
- 24 回：研究報告と議論 8
- 25 回：研究報告と議論 9
- 26 回：研究報告と議論 10
- 27 回：研究報告と議論 11

## 28回：議論の総括

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

前回までの授業内容復習, 各回のテキスト等に関する予習。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分:111) / Evaluation**

平常点割合 :100% 授業 (合宿を含む) における報告・議論:50% 中間レポート:10% 最終レポート割合 :40%

**テキスト / Textbooks**

池上岳彦編 『現代財政を学ぶ』 有斐閣 2015年 9784641184244 ○

**参考文献 / Readings**

沼尾波子・池上岳彦・木村佳弘・高端正幸 『地方財政を学ぶ〔新版〕』 有斐閣 2023年 9784641184640

神野直彦 『財政学〔第3版〕』 有斐閣 2021年 9784641165816

高端正幸・佐藤滋 『財政学の扉をひらく』 有斐閣 2020年 9784641150829

植田和弘・諸富徹編 『テキストブック現代財政学』 有斐閣 2016年 9784641184329

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール A

Seminar A

産業・企業の競争力を考える

菊池 航 (KIKUCHI WATARU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX751
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX2020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

ゼミナール A では、輪読やディベート、グループワークなどに従事することによって、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートなどのアカデミックスキルの向上を目指します。

ゼミナール A では、日本の産業が直面している課題や問題点を発見し、解決策を提案することを目標にします。そのため、経済学や経営学を学ぶとともに、フィールドワークなどを実施します。研究成果は、討論会での発表や論文投稿をおこないます。社会に貢献できるテーマを発見し、高く評価される研究成果を得ることを目指します。

To identify the issues and problems facing Japanese industry and take on the challenge to propose solutions. To do this, students will study economics and business management and conduct fieldwork, etc. Intercollegiate presentation and paper submission will be done for the research results. The objective is to discover themes that can contribute to society and then produce research results that will be highly evaluated.

### 授業の内容 / Course Contents

ゼミナール A では、いくつかのチームに分かれ、特定の産業や企業を対象とした分析をおこないます。どの産業を研究するかは、受講者と相談して決定します。関連する情報を収集すること、情報を整理すること、課

題を発見すること、解決策を提案することといった各段階で必要な知識は、担当者が指定する様々な文献を通じて学習します。文献を正確に理解することで、論理的思考力を伸ばします。

ゼミナール A では、グループワークを通じた学習を重視しています。討論会での研究成果の発表、フィールドワークといった活動を通じて、ファシリテーション能力やコミュニケーション能力を育成することができます。

In this seminar, students will be divided into several teams to conduct analysis of specific industries. Which industries will be researched will be discussed with the students. Students will read the various literature specified by the instructor to acquire the knowledge necessary for each of the stages of gathering related information, organizing the information, identifying issues, and proposing solutions. Correctly understanding the literature will foster the ability to think logically.

This seminar will focus on learning through group work. I also want students to acquire communication ability and organization operational know-how through such activities as intercollegiate presentations and fieldwork.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：テキストの輪読（1）：産業／企業を対象とした理論、産業／企業の実態  
テキストの理解を深めるためのグループワーク（1）
- 3 回：テキストの輪読（2）：産業／企業を対象とした理論、産業／企業の実態  
テキストの理解を深めるためのグループワーク（2）
- 4 回：テキストの輪読（3）：産業／企業を対象とした理論、産業／企業の実態  
テキストの理解を深めるためのグループワーク（3）
- 5 回：テキストの内容を踏まえた共同研究のプレゼンテーション（1）
- 6 回：テキストの輪読（4）：産業／企業を対象とした理論、産業／企業の実態  
テキストの理解を深めるためのグループワーク（4）
- 7 回：テキストの輪読（5）：産業／企業を対象とした理論、産業／企業の実態  
テキストの理解を深めるためのグループワーク（5）
- 8 回：テキストの輪読（6）：産業／企業を対象とした理論、産業／企業の実態  
テキストの理解を深めるためのグループワーク（6）
- 9 回：テキストの内容を踏まえた共同研究のプレゼンテーション（2）
- 10 回：テキストの輪読（7）：産業／企業を対象とした理論、産業／企業の実態  
テキストの理解を深めるためのグループワーク（7）
- 11 回：テキストの輪読（8）：産業／企業を対象とした理論、産業／企業の実態  
テキストの理解を深めるためのグループワーク（8）
- 12 回：テキストの輪読（9）：産業／企業を対象とした理論、産業／企業の実態  
テキストの理解を深めるためのグループワーク（9）
- 13 回：テキストの内容を踏まえた共同研究のプレゼンテーション（3）
- 14 回：春学期の総括、特定の産業や企業を対象としたグループ研究の計画発表、振り返り
- 15 回：論文の輪読（1）：定性的研究の方法  
テキストの理解を深めるためのグループワーク（1）
- 16 回：論文の輪読（2）：定性的研究の方法  
テキストの理解を深めるためのグループワーク（2）
- 17 回：論文の輪読（3）：定性的研究の方法

テキストの理解を深めるためのグループワーク（3）  
 18回：ビジネスケースに基づくディスカッション（1）  
 19回：ビジネスケースに基づくディスカッション（2）  
 20回：ビジネスケースに基づくディスカッション（3）  
 21回：ビジネスケースに基づくディスカッション（4）  
 22回：特定の産業や企業を対象としたグループ研究（1）  
 23回：特定の産業や企業を対象としたグループ研究（2）  
 24回：特定の産業や企業を対象としたグループ研究（3）  
 25回：グループ研究の成果発表（1）  
 26回：グループ研究の成果発表（2）  
 27回：グループ研究の成果発表（3）  
 28回：秋学期の総括、振り返り

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

研究成果を発表するため、ヒアリング調査、データの入力や分析、パワーポイントの作成、論文の執筆、プレゼンテーションの練習など、様々な学習が必要となります。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点割合 :100% グループ研究の成果:40% プレゼンテーション:30% ディスカッション:30%

### テキスト / Textbooks

阿部誠 『東大教授が教えるヤバいマーケティング』 KADOKAWA 2019  
 ジャン＝ノエル カプフェレ 『カプフェレ教授のラグジュアリー論』 同友館 2017  
 学術雑誌に掲載された論文の中から、定性的研究の方法に関する論文を読む予定です。

### 参考文献 / Readings

適宜、講義中に紹介します。

### その他 / Others

- ・夏合宿を予定しています
- ・ゼミナール活動のより詳しい情報は、以下のウェブページに掲載しています  
<https://kikuchikou.wixsite.com/kikuchi-wataru/blank>

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

### Seminar B

産業・企業の競争力を考える

菊池 航 (KIKUCHI WATARU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX752
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX4020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

ゼミナール A では、輪読やディベート、グループワークなどに従事することによって、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートなどのアカデミックスキルの向上を目指します。

ゼミナール A では、日本の産業が直面している課題や問題点を発見し、解決策を提案することを目標にします。そのため、経済学や経営学を学ぶとともに、フィールドワークなどを実施します。研究成果は、討論会での発表や論文投稿をおこないます。社会に貢献できるテーマを発見し、高く評価される研究成果を得ることを目指します。

To identify the issues and problems facing Japanese industry and take on the challenge to propose solutions. To do this, students will study economics and business management and conduct fieldwork, etc. Intercollegiate presentation and paper submission will be done for the research results. The objective is to discover themes that can contribute to society and then produce research results that will be highly evaluated.

### 授業の内容 / Course Contents

ゼミナール A では、いくつかのチームに分かれ、特定の産業や企業を対象とした分析をおこないます。どの産業を研究するかは、受講者と相談して決定します。関連する情報を収集すること、情報を整理すること、課



題を発見すること、解決策を提案することといった各段階で必要な知識は、担当者が指定する様々な文献を通じて学習します。文献を正確に理解することで、論理的思考力を伸ばします。

ゼミナール A では、グループワークを通じた学習を重視しています。討論会での研究成果の発表、フィールドワークといった活動を通じて、ファシリテーション能力やコミュニケーション能力を育成することができます。

In this seminar, students will be divided into several teams to conduct analysis of specific industries. Which industries will be researched will be discussed with the students. Students will read the various literature specified by the instructor to acquire the knowledge necessary for each of the stages of gathering related information, organizing the information, identifying issues, and proposing solutions. Correctly understanding the literature will foster the ability to think logically.

This seminar will focus on learning through group work. I also want students to acquire communication ability and organization operational know-how through such activities as intercollegiate presentations and fieldwork.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：テキストの輪読（1）：産業／企業を対象とした理論、産業／企業の実態  
テキストの理解を深めるためのグループワーク（1）
- 3 回：テキストの輪読（2）：産業／企業を対象とした理論、産業／企業の実態  
テキストの理解を深めるためのグループワーク（2）
- 4 回：テキストの輪読（3）：産業／企業を対象とした理論、産業／企業の実態  
テキストの理解を深めるためのグループワーク（3）
- 5 回：テキストの内容を踏まえた共同研究のプレゼンテーション（1）
- 6 回：テキストの輪読（4）：産業／企業を対象とした理論、産業／企業の実態  
テキストの理解を深めるためのグループワーク（4）
- 7 回：テキストの輪読（5）：産業／企業を対象とした理論、産業／企業の実態  
テキストの理解を深めるためのグループワーク（5）
- 8 回：テキストの輪読（6）：産業／企業を対象とした理論、産業／企業の実態  
テキストの理解を深めるためのグループワーク（6）
- 9 回：テキストの内容を踏まえた共同研究のプレゼンテーション（2）
- 10 回：テキストの輪読（7）：産業／企業を対象とした理論、産業／企業の実態  
テキストの理解を深めるためのグループワーク（7）
- 11 回：テキストの輪読（8）：産業／企業を対象とした理論、産業／企業の実態  
テキストの理解を深めるためのグループワーク（8）
- 12 回：テキストの輪読（9）：産業／企業を対象とした理論、産業／企業の実態  
テキストの理解を深めるためのグループワーク（9）
- 13 回：テキストの内容を踏まえた共同研究のプレゼンテーション（3）
- 14 回：春学期の総括、特定の産業や企業を対象としたグループ研究の計画発表、振り返り
- 15 回：論文の輪読（1）：定性的研究の方法  
テキストの理解を深めるためのグループワーク（1）
- 16 回：論文の輪読（2）：定性的研究の方法  
テキストの理解を深めるためのグループワーク（2）
- 17 回：論文の輪読（3）：定性的研究の方法

テキストの理解を深めるためのグループワーク（3）  
 18回：ビジネスケースに基づくディスカッション（1）  
 19回：ビジネスケースに基づくディスカッション（2）  
 20回：ビジネスケースに基づくディスカッション（3）  
 21回：ビジネスケースに基づくディスカッション（4）  
 22回：特定の産業や企業を対象としたグループ研究（1）  
 23回：特定の産業や企業を対象としたグループ研究（2）  
 24回：特定の産業や企業を対象としたグループ研究（3）  
 25回：グループ研究の成果発表（1）  
 26回：グループ研究の成果発表（2）  
 27回：グループ研究の成果発表（3）  
 28回：秋学期の総括、振り返り

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

研究成果を発表するため、ヒアリング調査、データの入力や分析、パワーポイントの作成、論文の執筆、プレゼンテーションの練習など、様々な学習が必要となります。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点割合 :100% グループ研究の成果:40% プレゼンテーション:30% ディスカッション:30%

### テキスト / Textbooks

阿部誠 『東大教授が教えるヤバいマーケティング』 KADOKAWA 2019  
 ジャン＝ノエル カプフェレ 『カプフェレ教授のラグジュアリー論』 同友館 2017  
 学術雑誌に掲載された論文の中から、定性的研究の方法に関する論文を読む予定です。

### 参考文献 / Readings

適宜、講義中に紹介します。

### その他 / Others

- ・夏合宿を予定しています
- ・ゼミナール活動のより詳しい情報は、以下のウェブページに掲載しています  
<https://kikuchikou.wixsite.com/kikuchi-wataru/blank>

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール A

Seminar A

都市・環境と地域経済の実証分析

田島 夏与 (TAJIMA KAYO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX754  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX2020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

都市における経済活動や地域政策について学ぶ。地域分析と政策の立案ができるようになることを目標に、統計データ分析及びフィールド調査を通じて研究及びプレゼンテーション・論文執筆能力を身につける。（社会調査士資格実習科目に指定）

To study the economic activities in cities and regional policy. For students to acquire the ability to conduct research, give presentations, and write papers through statistical data analysis and field studies for the purpose of being able to conduct regional analysis and propose policies. (Specified as a practical training subject for the Certificate of Social Researcher)

### 授業の内容 / Course Contents

都市では人口や産業・文化が集積することでさまざまな魅力が生まれている反面、集中による交通混雑、居住環境の悪化、自然災害リスクの集中、地域間の格差等の問題が生じている。本ゼミナールではゼミ全体での具体的な研究課題を設定し、地域の抱える特徴や問題を明らかにし、都市・地域の持続可能な発展を実現するための方法と課題を検討する。過年度は、下記の活動を中心に行った。

1) 都市経済学・都市政策の基礎や地域統計・計量経済分析、地理情報システム (GIS) を用いた地域経済に関

わる実証研究の技法を学ぶ。

2) 各個人が新聞記事等からトピックを選択し、背景や課題をまとめてゼミで報告し議論する。

3) 2・3年生のグループ毎に主題や地域を分担してデータ分析及びフィールド調査を行い論文の作成とプレゼンテーションを行う。

4) 夏休みに合宿等を行い、地方都市における都市及び交通政策、緑地計画等の取り組みを学ぶ。

Students are required to identify problems, gather materials, conduct studies and analyses, and proactively present and discuss their findings.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション，各種分担の決定，実地調査等
- 2回：トピックス，グループ研究課題の検討
- 3回：トピックス，文献購読（都市経済）1
- 4回：トピックス，文献購読（都市経済）2
- 5回：トピックス，文献購読（都市経済）3
- 6回：トピックス，文献購読（都市経済）4
- 7回：トピックス，グループ研究の検討・分担
- 8回：トピックス，統計・GIS演習1
- 9回：トピックス，統計・GIS演習2
- 10回：トピックス，統計・GIS演習3
- 11回：トピックス，統計・GIS演習4
- 12回：トピックス，グループ研究の進捗共有
- 13回：グループ研究中間報告1
- 14回：グループ研究中間報告2，卒論中間報告1
- 15回：下記実地調査（ゼミ合宿等）とその報告
- 16回：トピックス，卒論中間報告2
- 17回：トピックス，文献購読（分析手法）1
- 18回：トピックス，文献購読（分析手法）2
- 19回：トピックス，文献購読（分析手法）3
- 20回：トピックス，文献購読（分析手法）4
- 21回：グループ研究中間報告3
- 22回：グループ研究中間報告4
- 23回：トピックス，最終論文検討1
- 24回：トピックス，最終論文検討2
- 25回：トピックス，最終論文検討3
- 26回：グループ研究最終報告1，卒論最終報告1
- 27回：グループ研究最終報告2，卒論最終報告2
- 28回：グループ研究最終報告3，卒論最終報告3

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:

上記いずれも用いない予定

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

分担して行う輪読や研究報告，議論に向けては個人またはグループによる周到な準備を要する。

統計情報分析に取り組むため情報処理関連各科目及び統計学・計量経済学を履修済み，あるいは同時に履修することが望ましい。

初級ミクロ経済学、都市政策論1・2を並行して履修することにより、ミクロ経済学の理論を応用して都市・地域の問題を研究する準備を行うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点割合 :100% 授業への出席と議論への貢献:30% プレゼンテーション・報告:40% 論文:30%

### テキスト / Textbooks

受講者と相談して決定。過年度に使用した図書は「参考文献」を参照。

### 参考文献 / Readings

橋本雄一 『二訂版 QGIS の基本と防災活用』 古今書院 2017年 9784772231862

エドワード・グレイザー 『都市は人類最高の発明である』 NTT出版 2012年 9784757142794

中室牧子、津川友介 『「原因と結果」の経済学 データから真実を見抜く思考法』 ダイアモンド社 2017年 9784478039472

伊藤公一朗 『データ分析の力ー因果関係に迫る思考法』 光文社新書 2017年 9784334039868

山本勲 『実証分析のための計量経済学ー正しい手法と結果の読み方』 中央経済社 2015年 9784502168116

饗庭伸 『平成都市計画史』 花伝社 2021年 9784763409553

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

### Seminar B

都市・環境と地域経済の実証分析

田島 夏与 (TAJIMA KAYO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX755
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX4020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

都市における経済活動や地域政策について学ぶ。地域分析と政策の立案ができるようになることを目標に、統計データ分析及びフィールド調査を通じて研究及びプレゼンテーション・論文執筆能力を身につける。（社会調査士資格実習科目に指定）

To study the economic activities in cities and regional policy. For students to acquire the ability to conduct research, give presentations, and write papers through statistical data analysis and field studies for the purpose of being able to conduct regional analysis and propose policies. (Specified as a practical training subject for the Certificate of Social Researcher)

### 授業の内容 / Course Contents

都市では人口や産業・文化が集積することでさまざまな魅力が生まれている反面、集中による交通混雑、居住環境の悪化、自然災害リスクの集中、地域間の格差等の問題が生じている。本ゼミナールではゼミ全体での具体的な研究課題を設定し、地域の抱える特徴や問題を明らかにし、都市・地域の持続可能な発展を実現するための方法と課題を検討する。過年度は、下記の活動を中心に行った。

1) 都市経済学・都市政策の基礎や地域統計・計量経済分析、地理情報システム (GIS) を用いた地域経済に関

わる実証研究の技法を学ぶ。

2) 各個人が新聞記事等からトピックを選択し、背景や課題をまとめてゼミで報告し議論する。

3) 2・3年生のグループ毎に主題や地域を分担してデータ分析及びフィールド調査を行い論文の作成とプレゼンテーションを行う。

4) 夏休みに合宿等を行い、地方都市における都市及び交通政策、緑地計画等の取り組みを学ぶ。

Students are required to identify problems, gather materials, conduct studies and analyses, and proactively present and discuss their findings.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション，各種分担の決定，実地調査等
- 2回：トピックス，グループ研究課題の検討
- 3回：トピックス，文献購読（都市経済）1
- 4回：トピックス，文献購読（都市経済）2
- 5回：トピックス，文献購読（都市経済）3
- 6回：トピックス，文献購読（都市経済）4
- 7回：トピックス，グループ研究の検討・分担
- 8回：トピックス，統計・GIS 演習 1
- 9回：トピックス，統計・GIS 演習 2
- 10回：トピックス，統計・GIS 演習 3
- 11回：トピックス，統計・GIS 演習 4
- 12回：トピックス，グループ研究の進捗共有
- 13回：グループ研究中間報告 1
- 14回：グループ研究中間報告 2，卒論中間報告 1
- 15回：下記実地調査（ゼミ合宿等）とその報告
- 16回：トピックス，卒論中間報告 2
- 17回：トピックス，文献購読（分析手法）1
- 18回：トピックス，文献購読（分析手法）2
- 19回：トピックス，文献購読（分析手法）3
- 20回：トピックス，文献購読（分析手法）4
- 21回：グループ研究中間報告 3
- 22回：グループ研究中間報告 4
- 23回：トピックス，最終論文検討 1
- 24回：トピックス，最終論文検討 2
- 25回：トピックス，最終論文検討 3
- 26回：グループ研究最終報告 1，卒論最終報告 1
- 27回：グループ研究最終報告 2，卒論最終報告 2
- 28回：グループ研究最終報告 3，卒論最終報告 3

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:

上記いずれも用いない予定

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

分担して行う輪読や研究報告，議論に向けては個人またはグループによる周到な準備を要する。

統計情報分析に取り組むため情報処理関連各科目及び統計学・計量経済学を履修済み，あるいは同時に履修することが望ましい。

初級ミクロ経済学、都市政策論1・2を並行して履修することにより、ミクロ経済学の理論を応用して都市・地域の問題を研究する準備を行うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点割合 :100% 授業への出席と議論への貢献:30% プレゼンテーション・報告:40% 論文:30%

### テキスト / Textbooks

受講者と相談して決定。過年度に使用した図書は「参考文献」を参照。

### 参考文献 / Readings

橋本雄一 『二訂版 QGIS の基本と防災活用』 古今書院 2017年 9784772231862

エドワード・グレイザー 『都市は人類最高の発明である』 NTT出版 2012年 9784757142794

中室牧子、津川友介 『「原因と結果」の経済学 データから真実を見抜く思考法』 ダイアモンド社 2017年 9784478039472

伊藤公一朗 『データ分析の力ー因果関係に迫る思考法』 光文社新書 2017年 9784334039868

山本勲 『実証分析のための計量経済学ー正しい手法と結果の読み方』 中央経済社 2015年 9784502168116

饗庭伸 『平成都市計画史』 花伝社 2021年 9784763409553

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。



## ゼミナール A

Seminar A

租税法・税務会計論の研究

坂本 雅士 (SAKAMOTO MASASHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX761  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX2020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

簿記・会計学の知識を修得すると共にわが国の法人税法の理論および計算構造について研究します。

To acquire bookkeeping and accounting knowledge while also researching the theory and calculation structure of Japan's Corporation Tax Act.

### 授業の内容 / Course Contents

二年次には、簿記・会計学に関する基本的な知識を身につけます。具体的な目標として、日商簿記検定二級の取得を目指すと共に、有志により全国大学対抗簿記大会に出場します（2003, 2005, 2006, 2008, 2011, 2013, 2015, 2017, 2018, 2022 年度 全国優勝）。三年次には、共同研究を行います。その成果をオープンゼミにて報告し、懸賞論文への応募により学外にも公表します（2006, 2008, 2011, 2016, 2018, 2020, 2022 年度 納税協会連合会主催「税に関する論文」奨励賞受賞）。四年次には、研究の集大成として、各自で卒業論文を執筆します。

During the second year students will acquire basic knowledge of bookkeeping and accounting. Specific objectives are to pass the Official Business Skill Test in Bookkeeping Grade 2 and participate in the National College Bookkeeping Competition (National Champions in 2003, 2005, 2006, 2008, 2011, 2013, 2015, 2017, 2018).

2022). During the third year students will conduct joint research. Those results will be reported in an open seminar and will also be published outside the scope by entering them in an essay contest (Honorable Mention for “Tax Relate Papers” in 2006, 2008, 2011, 2016 and 2018 for the contest held by the Federation of Tax Payment Associations. For fourth year students, writing a graduation thesis is the culmination of their research.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：企業会計基準改正の経緯
- 2 回：企業会計基準改正の特徴
- 3 回：IFRS 導入に向けた企業会計の対応
- 4 回：法人税法上の対応
- 5 回：収益認識
- 6 回：工事契約
- 7 回：固定資産の減損
- 8 回：無形資産
- 9 回：投資不動産および関係会社に対する投資
- 10 回：長期および短期の従業員給付の会計と税務
- 11 回：引当金
- 12 回：偶発債務および偶発資産
- 13 回：金融商品の会計
- 14 回：外国為替レートの変動の影響
- 15 回：企業結合とのれん
- 16 回：リース税制
- 17 回：会計処理の遡及適用と税務
- 18 回：非上場企業会計
- 19 回：企業会計基準のコンバージェンスに係る法解釈
- 20 回：公正処理基準の判定に係る問題
- 21 回：個別規定の解釈に及ぼす影響
- 22 回：公正処理基準の変容と別段の定め
- 23 回：課税所得の基本原則 1
- 24 回：課税所得の基本原則 2
- 25 回：課税所得の基本原則 3
- 26 回：確定決算主義の意義と機能
- 27 回：損金経理要件
- 28 回：確定決算主義のあり方

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、前回までの講義内容を確認し復習しておくこと。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点割合 :100% 出席およびプレゼンテーション:70% レポート:30%

**テキスト / Textbooks**

坂本雅士編著 『現代税務会計論 第7版』 中央経済社 2024年 ○

**参考文献 / Readings**

その都度指示します。

**その他 / Others**

<https://twitter.com/sakmotoseminar>

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

Seminar B

租税法・税務会計論の研究

坂本 雅士 (SAKAMOTO MASASHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX762  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX4020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

簿記・会計学の知識を修得すると共にわが国の法人税法の理論および計算構造について研究します。

To acquire bookkeeping and accounting knowledge while also researching the theory and calculation structure of Japan's Corporation Tax Act.

### 授業の内容 / Course Contents

二年次には、簿記・会計学に関する基本的な知識を身につけます。具体的な目標として、日商簿記検定二級の取得を目指すと共に、有志により全国大学対抗簿記大会に出場します（2003, 2005, 2006, 2008, 2011, 2013, 2015, 2017, 2018, 2022 年度 全国優勝）。三年次には、共同研究を行います。その成果をオープンゼミにて報告し、懸賞論文への応募により学外にも公表します（2006, 2008, 2011, 2016, 2018, 2020, 2022 年度 納税協会連合会主催「税に関する論文」奨励賞受賞）。四年次には、研究の集大成として、各自で卒業論文を執筆します。

During the second year students will acquire basic knowledge of bookkeeping and accounting. Specific objectives are to pass the Official Business Skill Test in Bookkeeping Grade 2 and participate in the National College Bookkeeping Competition (National Champions in 2003, 2005, 2006, 2008, 2011, 2013, 2015, 2017, 2018).

2022). During the third year students will conduct joint research. Those results will be reported in an open seminar and will also be published outside the scope by entering them in an essay contest (Honorable Mention for “Tax Relate Papers” in 2006, 2008, 2011, 2016 and 2018 for the contest held by the Federation of Tax Payment Associations. For fourth year students, writing a graduation thesis is the culmination of their research.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：企業会計基準改正の経緯
- 2 回：企業会計基準改正の特徴
- 3 回：IFRS 導入に向けた企業会計の対応
- 4 回：法人税法上の対応
- 5 回：収益認識
- 6 回：工事契約
- 7 回：固定資産の減損
- 8 回：無形資産
- 9 回：投資不動産および関係会社に対する投資
- 10 回：長期および短期の従業員給付の会計と税務
- 11 回：引当金
- 12 回：偶発債務および偶発資産
- 13 回：金融商品の会計
- 14 回：外国為替レートの変動の影響
- 15 回：企業結合とのれん
- 16 回：リース税制
- 17 回：会計処理の遡及適用と税務
- 18 回：非上場企業会計
- 19 回：企業会計基準のコンバージェンスに係る法解釈
- 20 回：公正処理基準の判定に係る問題
- 21 回：個別規定の解釈に及ぼす影響
- 22 回：公正処理基準の変容と別段の定め
- 23 回：課税所得の基本原則 1
- 24 回：課税所得の基本原則 2
- 25 回：課税所得の基本原則 3
- 26 回：確定決算主義の意義と機能
- 27 回：損金経理要件
- 28 回：確定決算主義のあり方

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、前回までの講義内容を確認し復習しておくこと。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点割合 :100% 出席およびプレゼンテーション:70% レポート:30%

**テキスト / Textbooks**

坂本雅士編著 『現代税務会計論 第7版』 中央経済社 2024年 ○

**参考文献 / Readings**

その都度指示します。

**その他 / Others**

<https://twitter.com/sakmotoseminar>

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール A

### Seminar A

カーボンニュートラル・スマートシティ：脱炭素型レジリエンスまちづくりの比較政治経済

デウィット, A. (DEWIT,ANDREW)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX767  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX2020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

比較政治経済学の基礎概念を学びながら、地球温暖化や超高齢化といった課題に対して脱炭素で災害に強いまちづくりのあり方を比較する。

To learn the fundamental concepts of comparative political economy while comparing approaches to building decarbonizing, disaster-resilient communities that can cope with global warming, aging, and other challenges.

### 授業の内容 / Course Contents

このゼミにおいて環境・エネルギー政策の比較政治経済学について学習する。地球温暖化等の課題が、世界各地におけるカーボンニュートラル型スマートでレジリエントなまちづくりへのパラダイムシフトを加速している。このパラダイムシフトの特徴のうち、政策レジーム、ステークホルダーや社会資本ネットワークの連携により地方創生という目的も目立っている。国際的観点からみた日本における街のスマート化を学習する。

In this seminar, students will learn about the comparative political economy of environmental and energy challenges. To respond to such issues as global warming, areas throughout the world are accelerating a paradigmatic shift to smart and resilient urban development. Characteristics of this paradigm shift include

regional revitalization through the integration of public policy, stakeholders, and critical infrastructure. Students will study the development of Japanese smart cities from an international perspective.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：カーボンニュートラルとは
- 2回：気候変動に対する『緩和策』と『適応策』
- 3回：「カーボンニュートラル」とステークホルダー
- 4回：「カーボンニュートラル」とデジタル化
- 5回：「カーボンニュートラル」と重要な鉱物資源（銅、リチウムやレアアース）
  
- 6回：スマートシティとクリーンエネルギー
- 7回：電力発電技術の課題
- 8回：石炭火力
- 9回：天然ガス火力
- 10回：太陽光発電
- 11回：風力発電
- 12回：水力発電
- 13回：地熱発電やバイオマス発電等
- 14回：原子力発電
- 15回：電力の供給と消費
- 16回：電気自動車
- 17回：セメントや鋼鉄の脱炭層化
- 18回：飛行機の電動化や代替燃料
- 19回：家庭の省エネ化
- 20回：都市の省エネ化
- 21回：炭素のリサイクル
- 22回：カーボンニュートラルと重要な鉱物資源（クリティカルミネラル）
- 23回：カーボンニュートラルと銅（クリティカルミネラル）
- 24回：カーボンニュートラルとリチウム（クリティカルミネラル）
- 25回：カーボンニュートラルとレアアース（クリティカルミネラル）
- 26回：クリティカルミネラルとリサイクルの課題
- 27回：カーボンニュートラル・スマートシティの未来
- 28回：まとめとレポートの書き方

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎週の講義内容を確認し復習しておくこと。関連の記事や書籍を確認すること。



**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点割合 :100% プレゼンテーション:40% ディスカッション参加:30%  
合 :30%

最終レポート割

**テキスト / Textbooks**

小山 堅（編集） 『図解即戦力 エネルギー業界のしくみとビジネスがこれ1冊でしっかりわかる教科書』  
技術評論社 2023/2/22 9784297133061

本橋 恵一（著） 『図解即戦力 脱炭素のビジネス戦略と技術がこれ1冊でしっかりわかる教科書』 技術評  
論社 2023/4/24 9784297134075

KPMG コンサルティング（監修） 『スマートシティ 3.0』 日経 BP 日本経済新聞出版 2022  
9784296113934

令和5年版国土交通白書 <https://www.mlit.go.jp/statistics/file000004.html>

地域脱炭素 環境省 <https://www.env.go.jp/policy/region/>

レポートの作成及びプレゼンテーションの準備：

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/master.html>

**参考文献 / Readings****注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

### Seminar B

カーボンニュートラル・スマートシティ：脱炭素型レジリエンスまちづくりの比較政治経済

デウィット, A. (DEWIT,ANDREW)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX768  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX4020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

比較政治経済学の基礎概念を学びながら、地球温暖化や超高齢化といった課題に対して脱炭素で災害に強いまちづくりのあり方を比較する。

To learn the fundamental concepts of comparative political economy while comparing approaches to building decarbonizing, disaster-resilient communities that can cope with global warming, aging, and other challenges.

### 授業の内容 / Course Contents

このゼミにおいて環境・エネルギー政策の比較政治経済学について学習する。地球温暖化等の課題が、世界各地におけるカーボンニュートラル型スマートでレジリエントなまちづくりへのパラダイムシフトを加速している。このパラダイムシフトの特徴のうち、政策レジーム、ステークホルダーや社会資本ネットワークの連携により地方創生という目的も目立っている。国際的観点からみた日本における街のスマート化を学習する。

In this seminar, students will learn about the comparative political economy of environmental and energy challenges. To respond to such issues as global warming, areas throughout the world are accelerating a paradigmatic shift to smart and resilient urban development. Characteristics of this paradigm shift include

regional revitalization through the integration of public policy, stakeholders, and critical infrastructure. Students will study the development of Japanese smart cities from an international perspective.

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：カーボンニュートラルとは
- 2回：気候変動に対する『緩和策』と『適応策』
- 3回：「カーボンニュートラル」とステークホルダー
- 4回：「カーボンニュートラル」とデジタル化
- 5回：「カーボンニュートラル」と重要な鉱物資源（銅、リチウムやレアアース）
  
- 6回：スマートシティとクリーンエネルギー
- 7回：電力発電技術の課題
- 8回：石炭火力
- 9回：天然ガス火力
- 10回：太陽光発電
- 11回：風力発電
- 12回：水力発電
- 13回：地熱発電やバイオマス発電等
- 14回：原子力発電
- 15回：電力の供給と消費
- 16回：電気自動車
- 17回：セメントや鋼鉄の脱炭層化
- 18回：飛行機の電動化や代替燃料
- 19回：家庭の省エネ化
- 20回：都市の省エネ化
- 21回：炭素のリサイクル
- 22回：カーボンニュートラルと重要な鉱物資源（クリティカルミネラル）
- 23回：カーボンニュートラルと銅（クリティカルミネラル）
- 24回：カーボンニュートラルとリチウム（クリティカルミネラル）
- 25回：カーボンニュートラルとレアアース（クリティカルミネラル）
- 26回：クリティカルミネラルとリサイクルの課題
- 27回：カーボンニュートラル・スマートシティの未来
- 28回：まとめとレポートの書き方

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎週の講義内容を確認し復習しておくこと。関連の記事や書籍を確認すること。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点割合 :100% プレゼンテーション:40% ディスカッション参加:30% 最終レポート割合 :30%

**テキスト / Textbooks**

小山 堅（編集） 『図解即戦力 エネルギー業界のしくみとビジネスがこれ1冊でしっかりわかる教科書』  
技術評論社 2023/2/22 9784297133061

本橋 恵一（著） 『図解即戦力 脱炭素のビジネス戦略と技術がこれ1冊でしっかりわかる教科書』 技術評論社 2023/4/24 9784297134075

KPMG コンサルティング（監修） 『スマートシティ 3.0』 日経 BP 日本経済新聞出版 2022  
9784296113934

令和5年版国土交通白書 <https://www.mlit.go.jp/statistics/file000004.html>

地域脱炭素 環境省 <https://www.env.go.jp/policy/region/>

レポートの作成及びプレゼンテーションの準備：

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/master.html>

**参考文献 / Readings****注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール A

### Seminar A

グローバル資本主義の変容と社会分断のゆくえ

／不透明な時代における政策対応と多次元的アプローチ

Transformation of global capitalism and social divide

—policy responses and multi dimensional approach in the age of uncertainty.

櫻井 公人 (SAKURAI KIMIHITO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX771

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 4

科目ナンバリング： ECX2020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連：

備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

情報感度を高め、収集した情報を取捨して組み立てなおす編集力、伝達のためのプレゼン能力を身につけること。事前に全体の筋道を想定して準備し、現場では適宜軌道修正しながら対応できること、すなわち実践的な構想力を身につけることが目標である。

To acquire the editing ability, information sensitivity to select gathered information, and the ability of communication and presentation. The objective of the course is for students to acquire practical power of imagination that will allow them to anticipate the overall reasoning in advance and then in practice to make appropriate corrections as needed.

### 授業の内容 / Course Contents

グローバル資本主義の持続可能性について、米中露新冷戦とグローバルサウスの台頭、グローバル金融危機、

中国バブルのゆくえ、資源制約とインフレ局面への転換、反EUとポピュリズム、自国第一主義、テロと難民をはじめ、グローバリゼーションへの反動と反グローバリズムの台頭についての考察が欠かせない。また、自動運転とライドシェア・EVシフトによって変貌する自動車産業。キャッシュレス化とリアル店舗の削減に進む銀行業の変貌と新しい金融。いずれにもかかわって変貌を遂げるIT。製造業・金融・ITが安定してすみ分けていた局面は終わり、それらの融合に対する政策対応が必須となる。21世紀のグローバル資本主義の持続可能性を問う構想力が求められている。

To study sustainability of global capitalism, it is necessary to focus on anti-globalism and the backlash to globalization, including such issues as US-China-Russia new cold war, rise of the global south, the global financial crisis, China Bubble, resource restraint, inflationary phase, anti-EU sentiment, and populism, America-first, terrorism and refugees, and the reaction to them. In addition, the automobile industry is being transformed by autonomous driving, ride sharing, and the shift to electric vehicles. And there is the transformation of the banking industry and the emergence of new finance as cashless transactions spread and reduction of physical branches. Both of these transformations are being achieved through information technology. The stable separation of the manufacturing industry, finance, and IT has come to an end and the fusion of these industries requires policy responses. The imagination to respond to the sustainability of global capitalism is required.

#### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1回：オリエンテーション

introduction

2回：個人研究報告 1

presentation on the basis of individual research 1

3回：輪読 1

reading by turns 1

4回：輪読 2

reading by turns 2

5回：輪読 3

reading by turns 3

6回：輪読 4

reading by turns 4

7回：輪読 5

reading by turns 5

8回：輪読 6

reading by turns 6

9回：夏のジョイントゼミ準備 1

preparation for joint seminar with another seminar in summer 1

10回：夏のジョイントゼミ準備 2

preparation for joint seminar with another seminar in summer 2

11回：夏のジョイントゼミ準備 3

preparation for joint seminar with another seminar in summer 3

12回：夏のジョイントゼミ準備 4

preparation for joint seminar with another seminar in summer 4

13回：夏のジョイントゼミ準備 5

preparation for joint seminar with another seminar in summer 5

14 回：キャリアガイダンス

career guidance

15 回：秋学期オリエンテーション

introduction

16 回：個人研究報告 2

presentaion on the basis of individual research 2

17 回：輪読 1

reading by turns 1

18 回：輪読 2

reading by turns 2

19 回：輪読 3

reading by turns 3

20 回：輪読 4

reading by turns 4

21 回：冬のジョイントゼミ準備 1

preparation for joint seminar with other seminars in winter 1

22 回：冬のジョイントゼミ準備 2

preparation for joint seminar with other seminars in winter 2

23 回：冬のジョイントゼミ準備 3

preparation for joint seminar with other seminars in winter 3

24 回：冬のジョイントゼミ準備 4

preparation for joint seminar with other seminars in winter 4

25 回：冬のジョイントゼミ準備 5

preparation for joint seminar with other seminars in winter 5

26 回：キャリアガイダンス

career guidance

27 回：個人研究報告 3

presentation on the basis of individual research 3

28 回：個人研究報告 4

presentation on the basis of individual research 4

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、前回までの講義内容を確認し復習しておくこと。

輪読、個人研究、共同研究とが並行して進むので、それぞれの準備を怠らず、ジョイント・ゼミや卒論にまでつなげること。能動的な学習が成果を生む。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点割合 :100% 輪読等での発表:30% 個人研究レポートまたは卒業研究:30% ジョイントゼミ等に向けた共同研究報告:30% 授業参加度:10%

**テキスト / Textbooks**

マンフレッド・B・スティーガー 『1冊でわかる 新版グローバリゼーション』 岩波書店 2010

9784000269049 ○

斎藤・古川編 『分水嶺に立つ市場と社会』 文真堂出版 2020 9784830950766 ○

**参考文献 / Readings**

スーザン・ストレンジ 『国家の退場』 岩波書店 2011 9784000285155

奥田・代田・櫻井編 『深く学べる国際金融』 法律文化社 2020 9784589040671

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。



## ゼミナール B

### Seminar B

グローバル資本主義の変容と社会分断のゆくえ

／不透明な時代における政策対応と多次元的アプローチ

Transformation of global capitalism and social divide

—policy responses and multi dimensional approach in the age of uncertainty.

櫻井 公人 (SAKURAI KIMIHITO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX772

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年

単位： 4

科目ナンバリング： ECX4020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連：

備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

情報感度を高め、収集した情報を取捨して組み立てなおす編集力、伝達のためのプレゼン能力を身につけること。事前に全体の筋道を想定して準備し、現場では適宜軌道修正しながら対応できること、すなわち実践的な構想力を身につけることが目標である。

To acquire the editing ability, information sensitivity to select gathered information, and the ability of communication and presentation. The objective of the course is for students to acquire practical power of imagination that will allow them to anticipate the overall reasoning in advance and then in practice to make appropriate corrections as needed.

### 授業の内容 / Course Contents

グローバル資本主義の持続可能性について、米中露新冷戦とグローバルサウスの台頭、グローバル金融危機、

中国バブルのゆくえ、資源制約とインフレ局面への転換、反EUとポピュリズム、自国第一主義、テロと難民をはじめ、グローバリゼーションへの反動と反グローバリズムの台頭についての考察が欠かせない。また、自動運転とライドシェア・EVシフトによって変貌する自動車産業。キャッシュレス化とリアル店舗の削減に進む銀行業の変貌と新しい金融。いずれにもかかわって変貌を遂げるIT。製造業・金融・ITが安定してすみ分けていた局面は終わり、それらの融合に対する政策対応が必須となる。21世紀のグローバル資本主義の持続可能性を問う構想力が求められている。

To study sustainability of global capitalism, it is necessary to focus on anti-globalism and the backlash to globalization, including such issues as US-China-Russia new cold war, rise of the global south, the global financial crisis, China Bubble, resource restraint, inflationary phase, anti-EU sentiment, and populism, America-first, terrorism and refugees, and the reaction to them. In addition, the automobile industry is being transformed by autonomous driving, ride sharing, and the shift to electric vehicles. And there is the transformation of the banking industry and the emergence of new finance as cashless transactions spread and reduction of physical branches. Both of these transformations are being achieved through information technology. The stable separation of the manufacturing industry, finance, and IT has come to an end and the fusion of these industries requires policy responses. The imagination to respond to the sustainability of global capitalism is required.

#### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1回：オリエンテーション

introduction

2回：個人研究報告 1

presentation on the basis of individual research 1

3回：輪読 1

reading by turns 1

4回：輪読 2

reading by turns 2

5回：輪読 3

reading by turns 3

6回：輪読 4

reading by turns 4

7回：輪読 5

reading by turns 5

8回：輪読 6

reading by turns 6

9回：夏のジョイントゼミ準備 1

preparation for joint seminar with another seminar in summer 1

10回：夏のジョイントゼミ準備 2

preparation for joint seminar with another seminar in summer 2

11回：夏のジョイントゼミ準備 3

preparation for joint seminar with another seminar in summer 3

12回：夏のジョイントゼミ準備 4

preparation for joint seminar with another seminar in summer 4

13回：夏のジョイントゼミ準備 5

preparation for joint seminar with another seminar in summer 5

14 回：キャリアガイダンス

career guidance

15 回：秋学期オリエンテーション

introduction

16 回：個人研究報告 2

presentaion on the basis of individual research 2

17 回：輪読 1

reading by turns 1

18 回：輪読 2

reading by turns 2

19 回：輪読 3

reading by turns 3

20 回：輪読 4

reading by turns 4

21 回：冬のジョイントゼミ準備 1

preparation for joint seminar with other seminars in winter 1

22 回：冬のジョイントゼミ準備 2

preparation for joint seminar with other seminars in winter 2

23 回：冬のジョイントゼミ準備 3

preparation for joint seminar with other seminars in winter 3

24 回：冬のジョイントゼミ準備 4

preparation for joint seminar with other seminars in winter 4

25 回：冬のジョイントゼミ準備 5

preparation for joint seminar with other seminars in winter 5

26 回：キャリアガイダンス

career guidance

27 回：個人研究報告 3

presentation on the basis of individual research 3

28 回：個人研究報告 4

presentation on the basis of individual research 4

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、前回までの講義内容を確認し復習しておくこと。

輪読、個人研究、共同研究とが並行して進むので、それぞれの準備を怠らず、ジョイント・ゼミや卒論にまでつなげること。能動的な学習が成果を生む。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation**

平常点割合 :100% 輪読等での発表:30% 個人研究レポートまたは卒業研究:30% ジョイントゼミ等に向けた共同研究報告:30% 授業参加度:10%

**テキスト / Textbooks**

マンフレッド・B・スティーガー 『1冊でわかる 新版グローバリゼーション』 岩波書店 2010

9784000269049 ○

斎藤・古川編 『分水嶺に立つ市場と社会』 文真堂出版 2020 9784830950766 ○

**参考文献 / Readings**

スーザン・ストレンジ 『国家の退場』 岩波書店 2011 9784000285155

奥田・代田・櫻井編 『深く学べる国際金融』 法律文化社 2020 9784589040671

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール A

Seminar A

財務会計、監査、AI

小澤 康裕 (OZAWA MICHIHIRO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX774
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX2020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

会計や監査に関する知識を得ることはもちろん、近年の人工知能（Artificial Intelligence: AI）の進展が会計や監査に与える影響も考慮して、会計や AI が社会や企業において果たす役割等を議論することで、自ら考える力を養うことを目標とします。

The objective of this seminar is, of course, to acquire knowledge regarding accounting and auditing, but considering the impact on accounting and auditing of the recent developments in artificial intelligence (AI), discussing the roles to be played by accounting and AI in society and companies will foster the ability of students to think on their own.

### 授業の内容 / Course Contents

本ゼミナールでは、会計や AI の応用という視点から企業や社会について考える場を提供します。具体的には、2 年生は会計学の初級テキストによって基礎知識を習得し、3 年生は、春学期に AI に関する基礎知識の獲得と Python を使った演習を実施し、REAL(Rikyoo Economics through Active Learning)を使った反転授業も取り入れる予定です。秋学期には、卒業論文の作成に向けて、関心のあるテーマについてプレゼンテーションを行います。4 年生は、各自の研究テーマに関する発表・論文の作成を行い、最終的に卒業論文を執筆するこ

とになります。

この他に書評や英字新聞の記事等の発表、他大学との合同ゼミ・ディベート、懸賞論文への挑戦も行っています。卒業論文のテーマは、「減損会計」、「のれんの会計」、「時価会計」、「内部統制」、「監査人の責任」などでももちろん結構ですが、特に会計学や監査論に直接関係するものでなくとも構いませんし、Pythonによる簡単なアプリ開発でも全く問題ありません。既存の枠組みにとらわれず、個々人の興味や関心に基づいたテーマ設定を重視します。なお、ゼミでは、自ら学習し、意見を述べ、疑問について積極的に発言することを求めます。

This seminar will provide a place for thinking about companies and society from the perspective of accounting and AI applications. Specifically, second year students will practice bookkeeping and gain basic knowledge from beginner textbooks on accounting, and third year students will know about AI and practice using Python during the spring semester and a flipped classroom using REAL (Rikkyo Economics through Active Learning) will be implemented. During the fall semester they will give presentations on themes of interest to them to prepare for writing their graduate thesis. Forth year students write presentations and papers on their research theme and write their graduation thesis.

In addition to this, they will give presentations on book reviews, English newspaper articles, etc., and participate in joint seminars and debates with other universities and enter essay contests. The graduate thesis theme can be on impairment accounting, good-will accounting, current value accounting, internal control, the responsibility of auditors, etc., but it does not have to be directly related to accounting or auditing theory, and there is no problem with something like developing a simple app using Python. It is important to set a theme based on your interests without being restricted by an existing framework. In this seminar, students are required to proactively express their own opinions and questions.

#### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス（以下は主に2年生の場合）
- 2 回：英文記事・簿記演習
- 3 回：英文記事・プレゼンテーション
- 4 回：英文記事・書評・プレゼンテーション
- 5 回：英文記事・書評・簿記演習
- 6 回：英文記事・書評・プレゼンテーション
- 7 回：英文記事・書評・プレゼンテーション
- 8 回：英文記事・書評・簿記演習
- 9 回：英文記事・書評・プレゼンテーション
- 10 回：企業等の見学
- 11 回：英文記事・書評・プレゼンテーション
- 12 回：英文記事・書評・プレゼンテーション
- 13 回：英文記事・書評・プレゼンテーション
- 14 回：英文記事・書評・春学期総括
- 15 回：英文記事・簿記演習
- 16 回：英文記事・書評・プレゼンテーション
- 17 回：英文記事・書評・プレゼンテーション
- 18 回：英文記事・書評・簿記演習
- 19 回：英文記事・書評・プレゼンテーション

- 20回：英文記事・書評・簿記演習  
 21回：英文記事・書評・プレゼンテーション  
 22回：英文記事・書評・プレゼンテーション  
 23回：英文記事・書評・ディベート  
 24回：英文記事・書評・ディベート  
 25回：英文記事・書評・ディベート  
 26回：他大学との合同ゼミ  
 27回：英文記事・書評・プレゼンテーション  
 28回：英文記事・書評・振り返り

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、前回までの内容を復習し、また、質問ができるように予習しておくこと。なお、サブゼミはありませんが、適宜ゼミ合宿を開催します。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点割合 :100% プレゼンテーション:40% 授業期間内の提出物:30% 質疑応答等によるゼミへの貢献:30%

### テキスト / Textbooks

未定

### 参考文献 / Readings

- 山浦久司 『会計監査論』 中央経済社  
 亀岡恵理子他 『財務諸表監査』 (改訂版) 国元書房  
 伊藤邦雄 『新・現代会計入門』 日本経済新聞出版社  
 斎藤静樹 『企業会計入門』 有斐閣  
 松尾 豊 『人工知能は人間を超えるか』 KADOKAWA  
 野口 竜司 『文系AI人材になる一統計・プログラム知識は不要』 東洋経済新報社

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

Seminar B

財務会計、監査、AI

小澤 康裕 (OZAWA MICHIHIRO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX775
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX4020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

会計や監査に関する知識を得ることはもちろん、近年の人工知能（Artificial Intelligence: AI）の進展が会計や監査に与える影響も考慮して、会計や AI が社会や企業において果たす役割等を議論することで、自ら考える力を養うことを目標とします。

The objective of this seminar is, of course, to acquire knowledge regarding accounting and auditing, but considering the impact on accounting and auditing of the recent developments in artificial intelligence (AI), discussing the roles to be played by accounting and AI in society and companies will foster the ability of students to think on their own.

### 授業の内容 / Course Contents

本ゼミナールでは、会計や AI の応用という視点から企業や社会について考える場を提供します。具体的には、2 年生は会計学の初級テキストによって基礎知識を習得し、3 年生は、春学期に AI に関する基礎知識の獲得と Python を使った演習を実施し、REAL(Rikyoo Economics through Active Learning)を使った反転授業も取り入れる予定です。秋学期には、卒業論文の作成に向けて、関心のあるテーマについてプレゼンテーションを行います。4 年生は、各自の研究テーマに関する発表・論文の作成を行い、最終的に卒業論文を執筆するこ



とになります。

この他に書評や英字新聞の記事等の発表，他大学との合同ゼミ・ディベート，懸賞論文への挑戦も行っています。卒業論文のテーマは、「減損会計」，「のれんの会計」，「時価会計」，「内部統制」，「監査人の責任」などでももちろん結構ですが，特に会計学や監査論に直接関係するものでなくとも構いませんし，Python による簡単なアプリ開発でも全く問題ありません。既存の枠組みにとらわれず，個々人の興味や関心に基づいたテーマ設定を重視します。なお，ゼミでは，自ら学習し，意見を述べ，疑問について積極的に発言することを求めます。

This seminar will provide a place for thinking about companies and society from the perspective of accounting and AI applications. Specifically, second year students will practice bookkeeping and gain basic knowledge from beginner textbooks on accounting, and third year students will know about AI and practice using Python during the spring semester and a flipped classroom using REAL (Rikkyo Economics through Active Learning) will be implemented. During the fall semester they will give presentations on themes of interest to them to prepare for writing their graduate thesis. Forth year students write presentations and papers on their research theme and write their graduation thesis.

In addition to this, they will give presentations on book reviews, English newspaper articles, etc., and participate in joint seminars and debates with other universities and enter essay contests. The graduate thesis theme can be on impairment accounting, good-will accounting, current value accounting, internal control, the responsibility of auditors, etc., but it does not have to be directly related to accounting or auditing theory, and there is no problem with something like developing a simple app using Python. It is important to set a theme based on your interests without being restricted by an existing framework. In this seminar, students are required to proactively express their own opinions and questions.

#### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス（以下は主に2年生の場合）
- 2 回：英文記事・簿記演習
- 3 回：英文記事・プレゼンテーション
- 4 回：英文記事・書評・プレゼンテーション
- 5 回：英文記事・書評・簿記演習
- 6 回：英文記事・書評・プレゼンテーション
- 7 回：英文記事・書評・プレゼンテーション
- 8 回：英文記事・書評・簿記演習
- 9 回：英文記事・書評・プレゼンテーション
- 10 回：企業等の見学
- 11 回：英文記事・書評・プレゼンテーション
- 12 回：英文記事・書評・プレゼンテーション
- 13 回：英文記事・書評・プレゼンテーション
- 14 回：英文記事・書評・春学期総括
- 15 回：英文記事・簿記演習
- 16 回：英文記事・書評・プレゼンテーション
- 17 回：英文記事・書評・プレゼンテーション
- 18 回：英文記事・書評・簿記演習
- 19 回：英文記事・書評・プレゼンテーション

- 20 回：英文記事・書評・簿記演習  
 21 回：英文記事・書評・プレゼンテーション  
 22 回：英文記事・書評・プレゼンテーション  
 23 回：英文記事・書評・ディベート  
 24 回：英文記事・書評・ディベート  
 25 回：英文記事・書評・ディベート  
 26 回：他大学との合同ゼミ  
 27 回：英文記事・書評・プレゼンテーション  
 28 回：英文記事・書評・振り返り

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、前回までの内容を復習し、また、質問ができるように予習しておくこと。なお、サブゼミはありませんが、適宜ゼミ合宿を開催します。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点割合 :100% プレゼンテーション:40% 授業期間内の提出物:30% 質疑応答等によるゼミへの貢献:30%

### テキスト / Textbooks

未定

### 参考文献 / Readings

- 山浦久司 『会計監査論』 中央経済社  
 亀岡恵理子他 『財務諸表監査』 (改訂版) 国元書房  
 伊藤邦雄 『新・現代会計入門』 日本経済新聞出版社  
 斎藤静樹 『企業会計入門』 有斐閣  
 松尾 豊 『人工知能は人間を超えるか』 KADOKAWA  
 野口 竜司 『文系 A I 人材になる一統計・プログラム知識は不要』 東洋経済新報社

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール A

Seminar A

国際金融の研究

山本 周吾 (YAMAMOTO SHUGO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX779  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX2020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

国際金融論の実証研究を通じた課題解決型学習をおこなう。具体的には、文献を輪読→議論→課題の設定→実証分析による課題の検証、の一連のプロセスを通じて国際金融について深く学習して、高い思考力を養う。  
Through Project-based learning, student can acquire not only knowledge of international finance, but also enhance a thinking ability. Since applying econometric tools to the field of international finance can promote Project-based learning, this course attach importance to econometrics.

### 授業の内容 / Course Contents

- 第1部：テキストの輪読・議論による基礎知識の習得  
第2部：課題を設定して、それについて実証分析で仮説を検証  
第3部：実証分析の結果をまとめて論文の執筆&学外のゼミナール大会にて研究報告・討論
1. Study basic knowledge of international finance and econometric
  2. Create a hypothesis and empirical analysis the hypothesis
  3. Summarized the results and write an article and make presentation at academic conference

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：テキストの輪読&議論
- 2回：テキストの輪読&議論
- 3回：テキストの輪読&議論
- 4回：テキストの輪読&議論
- 5回：テキストの輪読&議論
- 6回：テキストの輪読&議論
- 7回：テキストの輪読&議論
- 8回：テキストの輪読&議論
- 9回：テキストの輪読&議論
- 10回：テキストの輪読&議論
- 11回：テキストの輪読&議論
- 12回：テキストの輪読&議論
- 13回：研究課題の設定
- 14回：研究課題の設定
- 15回：仮説の検証と実証結果の報告
- 16回：仮説の検証と実証結果の報告
- 17回：仮説の検証と実証結果の報告
- 18回：仮説の検証と実証結果の報告
- 19回：仮説の検証と実証結果の報告
- 20回：分析結果の整理・論文執筆
- 21回：分析結果の整理・論文執筆
- 22回：分析結果の整理・論文執筆
- 23回：分析結果の整理・論文執筆
- 24回：学外のゼミナール大会に向けての準備
- 25回：学外のゼミナール大会に向けての準備
- 26回：学外のゼミナール大会に向けての準備
- 27回：論文の完成
- 28回：今年度の総括

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・ゼミは発表と議論をする場であるので、事前の予習・報告準備が非常に重要である。ゼミの時間以外にも個人やグループで学習する必要がある。
- ・学外の研究大会に参加する予定である（例年では12月）

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告:50% 論文:30% 議論への貢献度:20%

テキスト/ Textbooks

参考文献 / Readings

その他/ Others

金融関連科目、国際経済関連科目、統計関連科目、情報処理科目はできるだけ履修すること。

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

Seminar B

国際金融の研究

山本 周吾 (YAMAMOTO SHUGO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX780
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX4020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

国際金融論の実証研究を通じた課題解決型学習をおこなう。具体的には、文献を輪読→議論→課題の設定→実証分析による課題の検証、の一連のプロセスを通じて国際金融について深く学習して、高い思考力を養う。

Through Project-based learning, student can acquire not only knowledge of international finance, but also enhance a thinking ability. Since applying econometric tools to the field of international finance can promote Project-based learning, this course attach importance to econometrics.

### 授業の内容 / Course Contents

第1部：テキストの輪読・議論による基礎知識の習得

第2部：課題を設定して、それについて実証分析で仮説を検証

第3部：実証分析の結果をまとめて論文の執筆&学外のゼミナール大会にて研究報告・討論

1. Study basic knowledge of international finance and econometric

2. Create a hypothesis and empirical analysis the hypothesis

3. Summarized the results and write an article and make presentation at academic conference

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：テキストの輪読&議論
- 2回：テキストの輪読&議論
- 3回：テキストの輪読&議論
- 4回：テキストの輪読&議論
- 5回：テキストの輪読&議論
- 6回：テキストの輪読&議論
- 7回：テキストの輪読&議論
- 8回：テキストの輪読&議論
- 9回：テキストの輪読&議論
- 10回：テキストの輪読&議論
- 11回：テキストの輪読&議論
- 12回：テキストの輪読&議論
- 13回：研究課題の設定
- 14回：研究課題の設定
- 15回：仮説の検証と実証結果の報告
- 16回：仮説の検証と実証結果の報告
- 17回：仮説の検証と実証結果の報告
- 18回：仮説の検証と実証結果の報告
- 19回：仮説の検証と実証結果の報告
- 20回：分析結果の整理・論文執筆
- 21回：分析結果の整理・論文執筆
- 22回：分析結果の整理・論文執筆
- 23回：分析結果の整理・論文執筆
- 24回：学外のゼミナール大会に向けての準備
- 25回：学外のゼミナール大会に向けての準備
- 26回：学外のゼミナール大会に向けての準備
- 27回：論文の完成
- 28回：今年度の総括

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- ・ゼミは発表と議論をする場であるので、事前の予習・報告準備が非常に重要である。ゼミの時間以外にも個人やグループで学習する必要がある。
- ・学外の研究大会に参加する予定である (例年では 12 月)

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告:50% 論文:30% 議論への貢献度:20%

テキスト/ Textbooks

参考文献 / Readings

その他/ Others

金融関連科目、国際経済関連科目、統計関連科目、情報処理科目はできるだけ履修すること。

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。



## ゼミナール A

### Seminar A

コーポレートファイナンス（企業価値の評価方法とその最大化の策を学ぶ）

石田 惣平 (ISHIDA SOUHEI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX781  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX2020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

#### 石田ゼミの目標

石田ゼミでは、高度な知識とスキルを有した金融プロフェッショナルを育成し、将来、事業会社の財務部・経営企画、コンサルタント、バンカー、ファンドマネジャー、証券アナリスト、公認会計士、研究者として活躍する人材の輩出を目指しています。そのために、コーポレートファイナンスについて学び、得た知識にもとづいて様々なコンテストに参加しています。

#### Objectives of Ishida Seminar

The Ishida Seminar aims to nurture financial professionals with advanced knowledge and skills and to produce human resources who will succeed as employees in the finance department and corporate planning department of business companies, consultants, bankers, fund managers, securities analysts, certified public accountants, and researchers in the future. We study corporate finance and participate in contests based on our acquired knowledge.

### 授業の内容 / Course Contents

コーポレートファイナンス

コーポレートファイナンスとは、企業価値をどのように評価するか、企業価値をどのようにしたら創造することができるのかを考える学問です。そのため、コーポレートファイナンスを学ぶことによって、どういった会社に投資をすれば良いのか、会社が今後成長するためには何をすれば良いのかといった、金融プロフェッショナルに必須の知識を身につけることができます。コーポレートファイナンスは君たちが社会で活躍する上で間違いなく生きていく学問です。

#### 2年次の活動

2年次では、日本経済新聞社が主催する STOCK リーグに挑戦してもらいます。STOCK リーグとは、投資テーマを決め、仮定の 500 万円でポートフォリオ（10 銘柄以上、20 銘柄まで）を構築し、株式運用を行って、レポートを完成させるというものです。レポートには、各チームの投資テーマおよびその決定理由や構成ポートフォリオなどをまとめもらいます。STOCK リーグを通じて、コーポレートファイナンスに関する基本的なスキルを身につけます。

#### 3年次の活動

3年次では、CFA 協会が主催するリサーチチャレンジやブルームバーグが主催する ESG 投資コンテストに挑戦します。リサーチチャレンジとは、分析企業分析に関する調査レポートを作成し、その優劣を競うものです。ESG 投資コンテストとは、仮定の 100 億円で ESG への取り組みを軸にポートフォリオを作成し、レポートを完成させ、その優劣を競うものです。これらを通じて、コーポレートファイナンスに関するより実践的なスキルを身につけます。

#### 4年次の活動

4年次では、卒業プロジェクトか後輩のサポートを行います。卒業プロジェクトでは、コーポレートファイナンスに関するアカデミックな研究を行い、コーポレートファイナンスに関するより高度なスキルを身につけます。なお、学生からの希望があれば、卒業プロジェクトの成果を論文としてまとめて、学外の懸賞論文に応募することも可能です。後輩のサポートでは、2年生が参加する STOCK リーグのサポートや3年生の就職活動をサポートしてもらいます。

#### 参考ホームページ

STOCK リーグ：<https://manabow.com/sl/>

リサーチチャレンジ：<https://www.cfasociety.org/japan/Pages/IRC.aspx>

ESG 投資コンテスト：<https://www.bloomberg.co.jp/company/esg-investment-contest-japan/>

プロネクサス懸賞論文：<https://www.pronexus.co.jp/home/souken/info/index.html>

M&A フォーラム賞：[https://www.maforum.jp/thesis/thesis\\_idx.html](https://www.maforum.jp/thesis/thesis_idx.html)

税に関する論文：<https://www.nouzeikyokai.or.jp/ronbun/>

#### Corporate Finance

Corporate finance is a discipline of evaluating the firm value and creating firm value. Therefore, by studying corporate finance, you will acquire the knowledge essential for financial professionals, such as what kind of company to invest in and what to do to help the company grow in the future. Corporate finance is a discipline that will help you in your career in society.

#### Activities in the Second Year

In the second year, students participate in the STOCK League sponsored by Nikkei Inc. In the STOCK League, students decide on an investment theme, construct a portfolio with a hypothetical 5 million yen, and complete a report. In the report, each team summarizes its investment theme, the reasons for its decision, and its portfolio composition. Through the STOCK League, students acquire basic skills in corporate finance.

#### Activities in the Third Year

In the third year, students compete in the Research Challenge sponsored by the CFA Society and the ESG Investment Contest hosted by Bloomberg. The Research Challenge is a competition for the best research reports on analytical company analysis. The ESG Investment Contest is a competition in which participants create a portfolio based on ESG initiatives using a hypothetical 10 billion yen, complete a report, and compete for the top prize. Through these activities, students acquire more practical skills in corporate finance.

#### Activities in the Fourth Year

In the fourth year, students will either do a graduation project or support junior students. In the graduation project, students conduct academic research on corporate finance and acquire more advanced skills in corporate finance. If students so desire, they may submit the results of their graduation project as a thesis for an external prize. Regarding support for junior students, students are asked to assist second-year students with their seminars and third-year students with their job searches.

#### Reference Website

Nikkei STOCK League : <https://manabow.com/sl/>

Research Challenge : <https://www.cfasociety.org/japan/Pages/IRC.aspx>

ESG Investment Contest : <https://www.bloomberg.co.jp/company/esg-investment-contest-japan/>

Pronexus Prize Essay : <https://www.pronexus.co.jp/home/souken/info/index.html>

M&A Forum Prize : [https://www.maforum.jp/thesis/thesis\\_idx.html](https://www.maforum.jp/thesis/thesis_idx.html)

Taxation Essay : <https://www.nouzeikyokai.or.jp/ronbun/>

#### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1回：2年次：テキスト輪読

3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト

4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート

2回：2年次：テキスト輪読

3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト

4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート

3回：2年次：テキスト輪読

3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト

4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート

4回：2年次：テキスト輪読

3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト

4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート

5回：2年次：テキスト輪読

3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト

4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート

6回：2年次：テキスト輪読

3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト

4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート

7回：2年次：テキスト輪読

3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト

4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート

8回：2年次：テキスト輪読

3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート  
9回：2年次：テキスト輪読  
3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート  
10回：2年次：テキスト輪読  
3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート  
11回：2年次：テキスト輪読  
3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート  
12回：2年次：テキスト輪読  
3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート  
13回：2年次：テキスト輪読  
3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート  
14回：2年次：テキスト輪読  
3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート  
15回：2年次：STOCK リーグ  
3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート  
16回：2年次：STOCK リーグ  
3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート  
17回：2年次：STOCK リーグ  
3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート  
18回：2年次：STOCK リーグ  
3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート  
19回：2年次：STOCK リーグ  
3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート  
20回：2年次：STOCK リーグ  
3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート  
21回：2年次：STOCK リーグ  
3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート

- 22回：2年次：STOCK リーグ  
 3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
 4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート
- 23回：2年次：STOCK リーグ  
 3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
 4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート
- 24回：2年次：STOCK リーグ  
 3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
 4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート
- 25回：2年次：STOCK リーグ  
 3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
 4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート
- 26回：2年次：STOCK リーグ  
 3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
 4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート
- 27回：2年次：STOCK リーグ  
 3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
 4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート
- 28回：2年次：STOCK リーグ  
 3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
 4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外での活動

授業時間外で以下の活動への積極的な参加が求められます。

- (1) 予習・復習
- (2) グループワーク
- (3) 春休み合宿・夏休み合宿
- (4) 他大学との合同ゼミ
- (5) 企業見学・工場見学

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点割合 :100% 報告内容(Report Content):40% 貢献度(Contribution):30% 最終レポート割合 :30%

半期のうち3回を超える欠席、またはグループワーク等の授業時間外での活動への度重なる欠席は、正当な理由がない限り成績評価の対象としません。

#### テキスト / Textbooks

井上光太郎・高橋大志・池田直史 『【ベーシック+】ファイナンス』 中央経済社 2020 9784502331114  
乙政正太 『財務諸表分析(第3版)』 同文館出版 2019 9784495193034  
鈴木一功 『企業価値評価【入門編】』 ダイヤモンド社 2018 9784478028629  
山本拓・竹内明香 『入門計量経済学—Excelによる実証分析へのガイド』 新世社ド社 2013  
9784883841981

## 参考文献 / Readings

### その他 / Others

#### 志望者へのメッセージ

コーポレートファイナンスという学問領域を初めて聞く方も多いかと思いますが、海外の大学（特に北米）では、データサイエンスと並び人気の学問領域の一つです。その理由は、コーポレートファイナンスがビジネスマンとして活躍する上で120%役に立つ学問だからです。ぜひ石田ゼミに入って、コーポレートファイナンスを学び、自身の市場価値を高めてもらえればと思います。なお、石田ゼミではコーポレートファイナンスを学ぶだけでなく、学外のコンテストにチャレンジして、ゼミのメンバーと楽しみながら結果を出すことに注

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

### Seminar B

コーポレートファイナンス（企業価値の評価方法とその最大化の策を学ぶ）

石田 惣平 (ISHIDA SOUHEI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX782  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX4020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

#### 石田ゼミの目標

石田ゼミでは、高度な知識とスキルを有した金融プロフェッショナルを育成し、将来、事業会社の財務部・経営企画、コンサルタント、バンカー、ファンドマネジャー、証券アナリスト、公認会計士、研究者として活躍する人材の輩出を目指しています。そのために、コーポレートファイナンスについて学び、得た知識にもとづいて様々なコンテストに参加しています。

#### Objectives of Ishida Seminar

The Ishida Seminar aims to nurture financial professionals with advanced knowledge and skills and to produce human resources who will succeed as employees in the finance department and corporate planning department of business companies, consultants, bankers, fund managers, securities analysts, certified public accountants, and researchers in the future. We study corporate finance and participate in contests based on our acquired knowledge.

### 授業の内容 / Course Contents

コーポレートファイナンス

コーポレートファイナンスとは、企業価値をどのように評価するか、企業価値をどのようにしたら創造することができるのかを考える学問です。そのため、コーポレートファイナンスを学ぶことによって、どういった会社に投資をすれば良いのか、会社が今後成長するためには何をすれば良いのかといった、金融プロフェッショナルに必須の知識を身につけることができます。コーポレートファイナンスは君たちが社会で活躍する上で間違いなく生きていく学問です。

#### 2年次の活動

2年次では、日本経済新聞社が主催する STOCK リーグに挑戦してもらいます。STOCK リーグとは、投資テーマを決め、仮定の 500 万円でポートフォリオ（10 銘柄以上、20 銘柄まで）を構築し、株式運用を行って、レポートを完成させるというものです。レポートには、各チームの投資テーマおよびその決定理由や構成ポートフォリオなどをまとめもらいます。STOCK リーグを通じて、コーポレートファイナンスに関する基本的なスキルを身につけます。

#### 3年次の活動

3年次では、CFA 協会が主催するリサーチチャレンジやブルームバーグが主催する ESG 投資コンテストに挑戦します。リサーチチャレンジとは、分析企業分析に関する調査レポートを作成し、その優劣を競うものです。ESG 投資コンテストとは、仮定の 100 億円で ESG への取り組みを軸にポートフォリオを作成し、レポートを完成させ、その優劣を競うものです。これらを通じて、コーポレートファイナンスに関するより実践的なスキルを身につけます。

#### 4年次の活動

4年次では、卒業プロジェクトか後輩のサポートを行います。卒業プロジェクトでは、コーポレートファイナンスに関するアカデミックな研究を行い、コーポレートファイナンスに関するより高度なスキルを身につけます。なお、学生からの希望があれば、卒業プロジェクトの成果を論文としてまとめて、学外の懸賞論文に応募することも可能です。後輩のサポートでは、2年生が参加する STOCK リーグのサポートや3年生の就職活動をサポートしてもらいます。

#### 参考ホームページ

STOCK リーグ：<https://manabow.com/sl/>

リサーチチャレンジ：<https://www.cfasociety.org/japan/Pages/IRC.aspx>

ESG 投資コンテスト：<https://www.bloomberg.co.jp/company/esg-investment-contest-japan/>

プロネクサス懸賞論文：<https://www.pronexus.co.jp/home/souken/info/index.html>

M&A フォーラム賞：[https://www.maforum.jp/thesis/thesis\\_idx.html](https://www.maforum.jp/thesis/thesis_idx.html)

税に関する論文：<https://www.nouzeikyokai.or.jp/ronbun/>

#### Corporate Finance

Corporate finance is a discipline of evaluating the firm value and creating firm value. Therefore, by studying corporate finance, you will acquire the knowledge essential for financial professionals, such as what kind of company to invest in and what to do to help the company grow in the future. Corporate finance is a discipline that will help you in your career in society.

#### Activities in the Second Year

In the second year, students participate in the STOCK League sponsored by Nikkei Inc. In the STOCK League, students decide on an investment theme, construct a portfolio with a hypothetical 5 million yen, and complete a report. In the report, each team summarizes its investment theme, the reasons for its decision, and its portfolio composition. Through the STOCK League, students acquire basic skills in corporate finance.

#### Activities in the Third Year



In the third year, students compete in the Research Challenge sponsored by the CFA Society and the ESG Investment Contest hosted by Bloomberg. The Research Challenge is a competition for the best research reports on analytical company analysis. The ESG Investment Contest is a competition in which participants create a portfolio based on ESG initiatives using a hypothetical 10 billion yen, complete a report, and compete for the top prize. Through these activities, students acquire more practical skills in corporate finance.

Activities in the Fourth Year

In the fourth year, students will either do a graduation project or support junior students. In the graduation project, students conduct academic research on corporate finance and acquire more advanced skills in corporate finance. If students so desire, they may submit the results of their graduation project as a thesis for an external prize. Regarding support for junior students, students are asked to assist second-year students with their seminars and third-year students with their job searches.

Reference Website

Nikkei STOCK League : <https://manabow.com/sl/>

Research Challenge : <https://www.cfasociety.org/japan/Pages/IRC.aspx>

ESG Investment Contest : <https://www.bloomberg.co.jp/company/esg-investment-contest-japan/>

Pronexus Prize Essay : <https://www.pronexus.co.jp/home/souken/info/index.html>

M&A Forum Prize : [https://www.maforum.jp/thesis/thesis\\_idx.html](https://www.maforum.jp/thesis/thesis_idx.html)

Taxation Essay : <https://www.nouzeikyokai.or.jp/ronbun/>

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1回：2年次：テキスト輪読

3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト

4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート

2回：2年次：テキスト輪読

3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト

4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート

3回：2年次：テキスト輪読

3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト

4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート

4回：2年次：テキスト輪読

3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト

4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート

5回：2年次：テキスト輪読

3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト

4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート

6回：2年次：テキスト輪読

3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト

4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート

7回：2年次：テキスト輪読

3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト

4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート

8回：2年次：テキスト輪読

3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート  
9回：2年次：テキスト輪読  
3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート  
10回：2年次：テキスト輪読  
3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート  
11回：2年次：テキスト輪読  
3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート  
12回：2年次：テキスト輪読  
3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート  
13回：2年次：テキスト輪読  
3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート  
14回：2年次：テキスト輪読  
3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート  
15回：2年次：STOCK リーグ  
3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート  
16回：2年次：STOCK リーグ  
3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート  
17回：2年次：STOCK リーグ  
3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート  
18回：2年次：STOCK リーグ  
3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート  
19回：2年次：STOCK リーグ  
3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート  
20回：2年次：STOCK リーグ  
3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート  
21回：2年次：STOCK リーグ  
3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート

- 22回：2年次：STOCK リーグ  
 3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
 4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート
- 23回：2年次：STOCK リーグ  
 3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
 4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート
- 24回：2年次：STOCK リーグ  
 3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
 4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート
- 25回：2年次：STOCK リーグ  
 3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
 4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート
- 26回：2年次：STOCK リーグ  
 3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
 4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート
- 27回：2年次：STOCK リーグ  
 3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
 4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート
- 28回：2年次：STOCK リーグ  
 3年次：リサーチチャレンジ or ESG 投資コンテスト  
 4年次：卒業プロジェクト or 後輩のサポート

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外での活動

授業時間外で以下の活動への積極的な参加が求められます。

- (1) 予習・復習
- (2) グループワーク
- (3) 春休み合宿・夏休み合宿
- (4) 他大学との合同ゼミ
- (5) 企業見学・工場見学

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点割合 :100% 報告内容(Report Content):40% 貢献度(Contribution):30% 最終レポート割合 :30%

半期のうち3回を超える欠席、またはグループワーク等の授業時間外での活動への度重なる欠席は、正当な理由がない限り成績評価の対象としません。

#### テキスト / Textbooks

井上光太郎・高橋大志・池田直史 『【ベーシック+】ファイナンス』 中央経済社 2020 9784502331114  
乙政正太 『財務諸表分析(第3版)』 同文館出版 2019 9784495193034  
鈴木一功 『企業価値評価【入門編】』 ダイヤモンド社 2018 9784478028629  
山本拓・竹内明香 『入門計量経済学—Excelによる実証分析へのガイド』 新世社ド社 2013  
9784883841981

## 参考文献 / Readings

### その他 / Others

#### 志望者へのメッセージ

コーポレートファイナンスという学問領域を初めて聞く方も多いかと思いますが、海外の大学（特に北米）では、データサイエンスと並び人気の学問領域の一つです。その理由は、コーポレートファイナンスがビジネスマンとして活躍する上で120%役に立つ学問だからです。ぜひ石田ゼミに入って、コーポレートファイナンスを学び、自身の市場価値を高めてもらえればと思います。なお、石田ゼミではコーポレートファイナンスを学ぶだけでなく、学外のコンテストにチャレンジして、ゼミのメンバーと楽しみながら結果を出すことに注

### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール A

Seminar A

金融・証券に関する諸課題の研究

三谷 進 (MITANI SUSUMU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX783  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 通年  
単位： 4  
科目ナンバリング： ECX2020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否：  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連：  
備考： 継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

金融や証券の基礎的な知識の習得を通じて、現代の金融・証券の問題に関する理解度を高めていきます。  
To increase the level of understanding regarding contemporary finance and securities problems by gaining fundamental knowledge of finance and securities.

### 授業の内容 / Course Contents

現在の私たちの生活や企業の経営のあり方は、金融市場や金融機関の影響を強く受けています。例えば、2007年8月から始まったアメリカの「サブプライムローン」問題は、「証券化」の仕組みを通じて、世界各国の金融機関にリスクを分散させたことで、国際的な金融危機の状況を作り出してきました。この国際的な金融問題は、アメリカやヨーロッパ諸国の金融機関のあり方や金融規制の仕組みに変革をもたらす一方で、日本においても、為替レートや株価の変化をもたらしながら、私たちの生活や企業の経営活動にも大きな影響を与えてきています。

このゼミでは、このような現代の金融・証券に関する問題を様々な角度から分析しながら、それが日本経済や企業経営に与える影響について理解を深めていきます。また、このような現実の問題を観察しながら、それを分析するための様々な金融理論や、分析手法についても習得し、今後の金融機関はどのような経営戦略や投

資行動が望ましいのかということを考えていきます。

ゼミの進め方については、基本的には、テキストを輪読しながら、金融・証券の基本的な知識を習得していきます。また、各自の研究テーマについても考えてもらい、それに関する調査・研究を進めていきます。さらに、全国の学生が集まって12月に開催される「証券ゼミナール大会」に参加し、そこで他大学の学生との交流を深めながら、論文作成、パワーポイントによるプレゼンテーション、ディスカッションの手法を実践的に学んでいきます。

How we live our lives and manage companies today is strongly affected by the financial markets and financial institutions. For example, the American sub-prime loan problem that started in August 2007 created the conditions for an international financial crisis by using the “securitization” framework to distribute risk to the financial institutions in countries around the world. This international finance problem brought reformations to how financial institutions in America and Europe operate and to the financial regulatory framework while in Japan it had a major impact on our lives and business administration activities due to changes in the foreign exchange rate and stock prices.

In this seminar students will analyze such problems of contemporary finance and securities from a variety of angles while deepening their understanding of how they impact the Japanese economy and business administration. In addition, while observing such actual problems, students will learn various financial theories and analytical methods for analyzing such problems and then think about what management strategies and investment behaviors are desirable for financial institutions in the future.

In regards to how the seminar will progress, basically students will read the textbooks to acquire basic knowledge regarding finance and securities. They will also think about their own research themes and conduct studies and research about them. In addition, they will participate in the “Securities Seminar Conference” held in December and attended by students from throughout the country where they can deepen their interaction with students from other universities and learn practical methods for writing papers, giving presentations using PowerPoint, and holding discussions.

#### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：ゼミの進め方についてのガイダンス
- 2回：輪読の報告と討論(1)
- 3回：輪読の報告と討論(2)
- 4回：輪読の報告と討論(3)
- 5回：輪読の報告と討論(4)
- 6回：輪読の報告と討論(5)
- 7回：輪読の報告と討論(6)
- 8回：輪読の報告と討論(7)
- 9回：輪読の報告と討論(8)
- 10回：グループ論文の作成と討論(1)
- 11回：グループ論文の作成と討論(2)
- 12回：グループ論文の作成と討論(3)
- 13回：グループ論文の作成と討論(4)
- 14回：グループ論文の作成と討論(5)
- 15回：グループ論文の作成と討論(6)
- 16回：グループ論文の作成と討論(7)

- 17回：グループ論文の作成と討論(8)  
 18回：パワーポイントによるプレゼンテーション(1)  
 19回：パワーポイントによるプレゼンテーション(2)  
 20回：パワーポイントによるプレゼンテーション(3)  
 21回：パワーポイントによるプレゼンテーション(4)  
 22回：各グループ相互のディベート(1)  
 23回：各グループ相互のディベート(2)  
 24回：各グループ相互のディベート(3)  
 25回：各グループ相互のディベート(4)  
 26回：グループ論文の最終報告および質疑応答(1)  
 27回：グループ論文の最終報告および質疑応答(2)  
 28回：ゼミ活動の総括

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ゼミで輪読するテキストの事前学習と、グループによる論文作成の準備を行う必要があります。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点割合 :100% 報告および討論内容:25% 論文作成の貢献度:25% 授業参加度:50%

#### テキスト / Textbooks

テキストについては、最初のゼミのガイダンスの際に指示します。

#### 参考文献 / Readings

授業の際に、適宜、指示します。

#### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

### Seminar B

金融・証券に関する諸課題の研究

三谷 進 (MITANI SUSUMU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX784
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX4020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

金融や証券の基礎的な知識の習得を通じて、現代の金融・証券の問題に関する理解度を高めていきます。  
To increase the level of understanding regarding contemporary finance and securities problems by gaining fundamental knowledge of finance and securities.

### 授業の内容 / Course Contents

現在の私たちの生活や企業の経営のあり方は、金融市場や金融機関の影響を強く受けています。例えば、2007年8月から始まったアメリカの「サブプライムローン」問題は、「証券化」の仕組みを通じて、世界各国の金融機関にリスクを分散させたことで、国際的な金融危機の状況を作り出してきました。この国際的な金融問題は、アメリカやヨーロッパ諸国の金融機関のあり方や金融規制の仕組みに変革をもたらす一方で、日本においても、為替レートや株価の変化をもたらしながら、私たちの生活や企業の経営活動にも大きな影響を与えてきています。

このゼミでは、このような現代の金融・証券に関する問題を様々な角度から分析しながら、それが日本経済や企業経営に与える影響について理解を深めていきます。また、このような現実の問題を観察しながら、それを分析するための様々な金融理論や、分析手法についても習得し、今後の金融機関はどのような経営戦略や投



資行動が望ましいのかということを考えていきます。

ゼミの進め方については、基本的には、テキストを輪読しながら、金融・証券の基本的な知識を習得していきます。また、各自の研究テーマについても考えてもらい、それに関する調査・研究を進めていきます。さらに、全国の学生が集まって12月に開催される「証券ゼミナール大会」に参加し、そこで他大学の学生との交流を深めながら、論文作成、パワーポイントによるプレゼンテーション、ディスカッションの手法を実践的に学んでいきます。

How we live our lives and manage companies today is strongly affected by the financial markets and financial institutions. For example, the American sub-prime loan problem that started in August 2007 created the conditions for an international financial crisis by using the “securitization” framework to distribute risk to the financial institutions in countries around the world. This international finance problem brought reformations to how financial institutions in America and Europe operate and to the financial regulatory framework while in Japan it had a major impact on our lives and business administration activities due to changes in the foreign exchange rate and stock prices.

In this seminar students will analyze such problems of contemporary finance and securities from a variety of angles while deepening their understanding of how they impact the Japanese economy and business administration. In addition, while observing such actual problems, students will learn various financial theories and analytical methods for analyzing such problems and then think about what management strategies and investment behaviors are desirable for financial institutions in the future.

In regards to how the seminar will progress, basically students will read the textbooks to acquire basic knowledge regarding finance and securities. They will also think about their own research themes and conduct studies and research about them. In addition, they will participate in the “Securities Seminar Conference” held in December and attended by students from throughout the country where they can deepen their interaction with students from other universities and learn practical methods for writing papers, giving presentations using PowerPoint, and holding discussions.

#### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：ゼミの進め方についてのガイダンス
- 2回：輪読の報告と討論(1)
- 3回：輪読の報告と討論(2)
- 4回：輪読の報告と討論(3)
- 5回：輪読の報告と討論(4)
- 6回：輪読の報告と討論(5)
- 7回：輪読の報告と討論(6)
- 8回：輪読の報告と討論(7)
- 9回：輪読の報告と討論(8)
- 10回：グループ論文の作成と討論(1)
- 11回：グループ論文の作成と討論(2)
- 12回：グループ論文の作成と討論(3)
- 13回：グループ論文の作成と討論(4)
- 14回：グループ論文の作成と討論(5)
- 15回：グループ論文の作成と討論(6)
- 16回：グループ論文の作成と討論(7)

- 17回：グループ論文の作成と討論(8)  
 18回：パワーポイントによるプレゼンテーション(1)  
 19回：パワーポイントによるプレゼンテーション(2)  
 20回：パワーポイントによるプレゼンテーション(3)  
 21回：パワーポイントによるプレゼンテーション(4)  
 22回：各グループ相互のディベート(1)  
 23回：各グループ相互のディベート(2)  
 24回：各グループ相互のディベート(3)  
 25回：各グループ相互のディベート(4)  
 26回：グループ論文の最終報告および質疑応答(1)  
 27回：グループ論文の最終報告および質疑応答(2)  
 28回：ゼミ活動の総括

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ゼミで輪読するテキストの事前学習と、グループによる論文作成の準備を行う必要があります。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点割合 :100% 報告および討論内容:25% 論文作成の貢献度:25% 授業参加度:50%

#### テキスト / Textbooks

テキストについては、最初のゼミのガイダンスの際に指示します。

#### 参考文献 / Readings

授業の際に、適宜、指示します。

#### 注意事項

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール A

### Seminar A

比較経済発展史：ヨーロッパと日本を中心に

菊池 雄太 (KIKUCHI YUTA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX785
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX2020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

「比較」と「歴史」の視点から経済発展の仕方を理解し、分析できるようになる。

とくにヨーロッパと日本の経済発展に関する知見を深める。

英語（希望があればその他のヨーロッパ言語）による情報収集能力を身に着ける。

The purpose of this seminar is understanding and analysing the models of economic development of Europe and Japan from the comparative and historical perspective.

### 授業の内容 / Course Contents

ヨーロッパと日本では、経済発展の仕方にどのような特徴があり、似ている部分や異なる部分はどのようなところにあるのか、とくに歴史的なアプローチから研究し、明らかにします。

全体演習に加えて、グループ研究の時間を多くとります。

グループ研究のテーマはさまざまです。2023 年度では、「都市」、「ファッション」、「小売とマーケティング」、「国づくり」、「農業」、「ツーリズム」、「嗜好品（コーヒーなど）」を扱いました。2024 年度で変更はあり得ますが、参加者の希望を重視します。

いずれのテーマでも、歴史的なアプローチをします。ゼミ加入の段階で歴史の予備知識はなくても大丈夫です

が、興味と意欲をもって勉強できることが必須です。

\*とくに次のような時代・社会に興味がある人に、このゼミはお勧めできます：ヨーロッパでは中世～近代（たとえば十字軍、レヴァント貿易、ハンザ同盟、大航海時代、東インド会社、植民地、産業革命など）、日本では中世末～近代（戦国～江戸時代、明治・大正時代）。

\*ただし、現代史（20世紀中頃～現在）に興味がある人にも対応できます。

具体的な内容としては、大まかに以下のようになります。

- 1) 文献や資料の調査・報告・議論をする（英語や歴史的資料も含まれます）。
- 2) グループで特定のテーマを設定して研究をする。
- 3) 1～複数回、実見やフィールドワークを行う。
- 4) 合宿その他で他大学との合同ゼミの機会を設けます。

基本的に、毎回授業の前半は全体演習を行い、ヨーロッパ史に関する基礎知識を身に付け

\*英語（希望があればその他のヨーロッパ言語）を用いて情報収集するトレーニングも行いますが、参加者の語学レベルに配慮します。

We study what are (were) the features, or, differences in the economic development of Europe and Japan from the historical perspective.

We carry out our research in the following way:

1. Reading, analysing, and discussing relevant literature and source materials.
2. Undertaking group researches on certain themes.
3. Conducting fieldwork.
4. Holding joint seminars

### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1回：イントロダクション・自己紹介

2回：研究テーマの設定

3回：ヨーロッパ史基礎演習

グループ研究

4回：ヨーロッパ史基礎演習

グループ研究

5回：ヨーロッパ史基礎演習

グループ研究

6回：ヨーロッパ史基礎演習

グループ研究

7回：ヨーロッパ史基礎演習

中間報告（1）

8回：ヨーロッパ史基礎演習

中間報告（2）

9回：ヨーロッパ史基礎演習

グループ研究

10回：フィールドワーク（予定・実施回変更可能性あり）

11回：フィールドワーク成果報告（予定・実施回変更可能性あり）

12回：ヨーロッパ史基礎演習

グループ研究

- 13回：研究報告（1）  
 14回：研究報告（2）  
 まとめ・夏休みと秋学期に向けて  
 15回：秋学期の目標確認と研究テーマの設定  
 16回：資料（史料）分析の方法を学ぶ  
 17回：資料（史料）分析結果の報告  
 18回：ヨーロッパ史基礎演習  
 グループ研究  
 19回：ヨーロッパ史基礎演習  
 グループ研究  
 20回：ヨーロッパ史基礎演習  
 中間報告（1）  
 21回：ヨーロッパ史基礎演習  
 中間報告（1）  
 22回：フィールドワーク（予定・実施回変更可能性あり）  
 23回：フィールドワーク成果報告（予定・実施回変更可能性あり）  
 24回：ヨーロッパ史基礎演習  
 グループ研究  
 25回：ヨーロッパ史基礎演習  
 グループ研究  
 26回：ヨーロッパ史基礎演習  
 グループ研究  
 27回：合同ゼミ（予定・実施回変更可能性あり）  
 28回：4年生（ゼミナールB）との合同で研究発表  
 まとめと来年度に向けての目標設定

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献や史資料の調査，特定課題，グループ研究など，授業時間外ですべきことはほぼ毎週あります。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点割合 :100% 演習の取り組み度合・報告・議論での発言:80% 提出課題:20%

### テキスト / Textbooks

木村靖二他 もういちど読む山川世界史 PLUS（ヨーロッパ・アメリカ編） 山川出版社 2022  
 9784634640931 ○

テキストは新2年生のみ購入が必要です。新3年生は，すでにもっているものです。

### 参考文献 / Readings

全体で使用する文献，個別に参照すべき文献などは，授業内で指示する。

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

## ゼミナール B

### Seminar B

比較経済発展史：ヨーロッパと日本を中心に

菊池 雄太 (KIKUCHI YUTA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	経済学部
科目コード等：	BX786
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年
単位：	4
科目ナンバリング：	ECX4020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	
備考：	継続履修者は自動登録

### 授業の目標 / Course Objectives

「比較」と「歴史」の視点から経済発展の仕方を理解し、分析できるようになる。

とくにヨーロッパと日本の経済発展に関する知見を深める。

英語（希望があればその他のヨーロッパ言語）による情報収集能力を身に着ける。

The purpose of this seminar is understanding and analysing the models of economic development of Europe and Japan from the comparative and historical perspective.

### 授業の内容 / Course Contents

ヨーロッパと日本では、経済発展の仕方にどのような特徴があり、似ている部分や異なる部分はどこにあるのか、とくに歴史的なアプローチから研究し、明らかにします。

全体演習に加えて、グループ研究の時間を多くとります。

グループ研究のテーマはさまざまです。2023 年度では、「都市」、「ファッション」、「小売とマーケティング」、「国づくり」、「農業」、「ツーリズム」、「嗜好品（コーヒーなど）」を扱いました。2024 年度で変更はあり得ますが、参加者の希望を重視します。

いずれのテーマでも、歴史的なアプローチをします。ゼミ加入の段階で歴史の予備知識はなくても大丈夫です

が、興味と意欲をもって勉強できることが必須です。

\*とくに次のような時代・社会に興味がある人に、このゼミはお勧めできます：ヨーロッパでは中世～近代（たとえば十字軍、レヴァント貿易、ハンザ同盟、大航海時代、東インド会社、植民地、産業革命など）、日本では中世末～近代（戦国～江戸時代、明治・大正時代）。

\*ただし、現代史（20世紀中頃～現在）に興味がある人にも対応できます。

具体的な内容としては、大まかに以下のようになります。

- 1) 文献や資料の調査・報告・議論をする（英語や歴史的資料も含みます）。
- 2) グループで特定のテーマを設定して研究をする。
- 3) 1～複数回、実見やフィールドワークを行う。
- 4) 合宿その他で他大学との合同ゼミの機会を設けます。

基本的に、毎回授業の前半は全体演習を行い、ヨーロッパ史に関する基礎知識を身に付け

\*英語（希望があればその他のヨーロッパ言語）を用いて情報収集するトレーニングも行いますが、参加者の語学レベルに配慮します。

We study what are (were) the features, or, differences in the economic development of Europe and Japan from the historical perspective.

We carry out our research in the following way:

1. Reading, analysing, and discussing relevant literature and source materials.
2. Undertaking group researches on certain themes.
3. Conducting fieldwork.
4. Holding joint seminars

#### 授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1回：イントロダクション・自己紹介

2回：研究テーマの設定

3回：ヨーロッパ史基礎演習

グループ研究

4回：ヨーロッパ史基礎演習

グループ研究

5回：ヨーロッパ史基礎演習

グループ研究

6回：ヨーロッパ史基礎演習

グループ研究

7回：ヨーロッパ史基礎演習

中間報告（1）

8回：ヨーロッパ史基礎演習

中間報告（2）

9回：ヨーロッパ史基礎演習

グループ研究

10回：フィールドワーク（予定・実施回変更可能性あり）

11回：フィールドワーク成果報告（予定・実施回変更可能性あり）

12回：ヨーロッパ史基礎演習

グループ研究



- 13回：研究報告（1）  
 14回：研究報告（2）  
 まとめ・夏休みと秋学期に向けて  
 15回：秋学期の目標確認と研究テーマの設定  
 16回：資料（史料）分析の方法を学ぶ  
 17回：資料（史料）分析結果の報告  
 18回：ヨーロッパ史基礎演習  
 グループ研究  
 19回：ヨーロッパ史基礎演習  
 グループ研究  
 20回：ヨーロッパ史基礎演習  
 中間報告（1）  
 21回：ヨーロッパ史基礎演習  
 中間報告（1）  
 22回：フィールドワーク（予定・実施回変更可能性あり）  
 23回：フィールドワーク成果報告（予定・実施回変更可能性あり）  
 24回：ヨーロッパ史基礎演習  
 グループ研究  
 25回：ヨーロッパ史基礎演習  
 グループ研究  
 26回：ヨーロッパ史基礎演習  
 グループ研究  
 27回：合同ゼミ（予定・実施回変更可能性あり）  
 28回：4年生（ゼミナールB）との合同で研究発表  
 まとめと来年度に向けての目標設定

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献や史資料の調査，特定課題，グループ研究など，授業時間外ですべきことはほぼ毎週あります。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点割合 :100% 演習の取り組み度合・報告・議論での発言:80% 提出課題:20%

### テキスト / Textbooks

木村靖二他 もういちど読む山川世界史 PLUS（ヨーロッパ・アメリカ編） 山川出版社 2022  
 9784634640931 ○

テキストは新2年生のみ購入が必要です。新3年生は，すでにもっているものです。

### 参考文献 / Readings

全体で使用する文献，個別に参照すべき文献などは，授業内で指示する。

**注意事項**

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

# 日本史

Japanese History

和田 華子 (WADA HANAKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX801  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2010  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

幕末期以降の日本の近現代史を国際社会との関係を軸として理解することを通じて、歴史的事象を多角的かつ国際的な視点から考察するスキルと、現代日本が抱える様々な課題の解決手段を歴史的事象から探る方法を習得する。

To acquire the skills for considering historical phenomena from a multifaceted and international perspective based on an understanding of the relationship between international society and Japanese modern history since the Bakumatsu period and to learn the methods for looking to historical phenomena for solutions to the various problems facing contemporary Japan.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、特に幕末期から 1920 年代までの日本の歴史を国際社会の動向の中に位置づけた上で概観するとともに、当該期に日本と国際社会が相互にどのような影響を与えたのかを紹介する。

This lecture gives an overview of Japanese history from the Bakumatsu period to the 1920's amidst the trends in international society and introduces how Japan and international society mutually influenced each other during this period.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：イントロダクションーなぜ歴史を学ぶのかー
- 2回：19世紀のアジアとヨーロッパ・アメリカ
- 3回：交通革命と日本の開国
- 4回：開国後の日本と国際社会
- 5回：条約改正と大日本帝国憲法の発布
- 6回：日清戦争と東アジア社会の変容
- 7回：日本による台湾統治
- 8回：日清戦争後の国際社会と日本
- 9回：世界史のなかの日露戦争
- 10回：日露戦争をめぐる日本外交
- 11回：日露戦争後の国際社会と日本
- 12回：国際連盟と日本ー第一次世界大戦と新たな国際秩序の誕生ー
- 13回：日本の近代化と女性たちー日本初の女子留学生ー
- 14回：総括

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

予習については、各回のテーマに即して、テキストや事前に配布する資料等に目を通しておく。この他の授業時間外の学習については、必要に応じて別途授業中に指示する。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation**

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内で提示する課題:20% リアクションペーパー:20%

原則として3分の2以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。リアクションペーパーや課題については授業中に指示する。

**テキスト / Textbooks**

小風秀雅 『世界史のなかの近代日本』 山川出版社 2023 9784634591318 ○

テキスト以外に、適宜レジュメ及び参考資料（プリント）を配布する。

**参考文献 / Readings**

参考文献については必要に応じて別途紹介する。

# 世界史

World History

阿部 衛 (ABE MAMORU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX802  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2010  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本授業では、古代から現代までの西洋史の基本的な知識を習得すること、歴史学の方法論を理解すること、現代的価値観にとらわれず、相対的に事象を評価する力を養うことを目標とする。

In this class, we aim to acquire basic knowledge of Western history from ancient times to the present, understand the methodology of historical studies, and cultivate the ability to evaluate events relatively without being bound by modern values.

## 授業の内容 / Course Contents

世界史のなかでも、とりわけ西洋史に焦点をあて、古代から現代に至るまでの重要な事象について通史的に講義する。授業では、適宜史料が提示され、その史料からいかなる解釈が引き出され、今日の歴史像の形成にいたったのかを考える。歴史的に重要な出来事を記憶することではなく、その経緯や背景を理解することに重点を置く。

Focusing on Western history, this course provides comprehensive lectures on essential events from ancient times to the present day. In class, historical materials will be presented as appropriate, and students will consider what interpretations have been drawn from them and how they have formed today's historical perspective. Emphasis is

placed on understanding the history and background of historically significant events rather than simply memorizing them.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：古代1：古代ギリシアとオリエント世界
- 3回：古代2：ローマ、王政から共和政
- 4回：古代3：ローマ帝政期
- 5回：中世1：中世ヨーロッパ世界の成立
- 6回：中世2：中世ヨーロッパ世界の成熟
- 7回：中世3：中世ヨーロッパ世界の変貌
- 8回：近世1：主権国家体制の成立
- 9回：近世2：近世的統治体制の終焉
- 10回：近現代1：近代の幕開け
- 11回：近現代2：「国民国家」への歩みと帝国主義
- 12回：近現代3：二つの大戦
- 13回：近現代4：東西冷戦とその後の世界
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で配布されるレジュメを参考に復習することに加え、参考文献を読み、理解を深めること。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% コメントシート:40%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

服部良久、南川高志、山辺規子編 『大学で学ぶ世界史 [古代・中世]』 ミネルヴァ書房 2006  
4623045927

山川哲、上垣豊、山田史郎編 『大学で学ぶ世界史 [近現代]』 ミネルヴァ書房 2011 4623059383

中井義明ほか著 『教養のための西洋史入門』 ミネルヴァ書房 2007 4623049094

# 政治学

Politics

現代政治を読む

新谷 卓 (ARAYA TAKASHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： 経済学部  
科目コード等： BX803  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： ECX2010  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否： ○  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

政治学の基礎となる用語や考え方を学んだ上で、現在、世界で起きている政治の問題や出来事を歴史的な視点から考察します。それらの問題を論理的に整理することによって、状況を認識する力、判断する力を養うことを目標とします。

To learn the terminology and concepts that are fundamental to politics and then to consider the political problems and incidents occurring in the world from a historical perspective. The objective is to recognize and make determinations about the current situation by logically organizing these problems.

## 授業の内容 / Course Contents

三つの段階から構成されています。

- 「民主主義」「自由主義」「権力」「国家」といった政治学の基礎となる概念について学びます。
- 上記の知識を踏まえて、現在、世界で問題となっている「テロリズム」「ポピュリズム」「難民・移民」「右翼政党の台頭」「感染症」「ウクライナ危機」、そしてそれらと密接に関係する「グローバリゼーション」や新しいテクノロジーの関係について考えていきます。

3. 本年度は、最後に今日大きく揺らいでいるとされる「リベラル・デモクラシー」について検討します。不安定で不確実な時代に生きる私たちが歴史的にどのような位置に立っているのか、どのような方向に向かっているのか、という問いを大きな枠組みの中で考えていきます。

This course consists of three stages.

1. Learn the concepts of democracy, liberalism, authority, and state that form the foundation of politics.
2. Based on the above knowledge, students will consider current problems occurring in the world, such as terrorism, populism, refugees and immigrants, the rise of right wing parties, infectious diseases, and Ukraine crisis, and the political relationship to globalization and new technologies that are closely related to them.
3. In the last class of this academic year, we will consider liberal democracy which is regarded as shaking a lot now.

Students will consider these things within the broad framework of where we who live in these unstable and uncertain times are positioned historically and in which direction we are heading.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：新しいテクノロジーと民主主義： イントロダクション、世界で今起きていること、人工知能 (AI) ・ビッグデータと選挙の関係
- 2回：ポスト真実と政治： フェイクニュース、SNS と政治家、エコーチェンバーと社会の分断、デジタル・テクノロジーの功罪
- 3回：民主主義とは何か (I)： 古代のデモクラシー
- 4回：民主主義とは何か (II)： 近代のデモクラシー
- 5回：権力とは何か (I)： 権力の源泉、エリートと権力、権力の正統性、
- 6回：権力とは何か (II)： 日本の権力構造、フーコーの默示的権力
- 7回：政治思想の系譜： 保守主義、自由主義、社会主義
- 8回：国家とは何か： 中世多元的世界、主権国家、国民国家、ナショナリズム、国家の諸理論
- 9回：ファシズムの経験と現代： ファシズム登場の歴史的背景、ユダヤ人問題、ヒトラーはいかにして政権を獲得したのか、大統領緊急令
- 10回：グローバリゼーションと民主主義： グローバルリスク、再国民化、グローバル・ガバナンス
- 11回：グローバリゼーションと欧米： 移民・難民、テロリズム、右翼の台頭、トランプ現象
- 12回：権威主義の台頭とリベラル・デモクラシーの危機(I)： 中国を中心に
- 13回：権威主義の台頭とリベラル・デモクラシーの危機(II)： ロシアを中心に
- 14回：権威主義の台頭とリベラル・デモクラシーの危機(III)： 世界情勢を踏まえて

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業に係る図書、雑誌・新聞などの記事を読む。授業のテーマに即したドキュメンタリー番組等があれば視聴しておく。前もって問題に対するおおよその流れを知り、関心を高めておくことが望ましい。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :60%



平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

### テキスト/Textbooks

特に指定しません。毎回資料を配布します。

### 参考文献 / Readings

宇野重規 『民主主義とは何か』 講談社 2020年 9784065212950

田村哲樹・松元雅和・乙部延剛・山崎望著 『ここから始める政治理論』 有斐閣 2017年 9784641150423

新谷卓・中島浩貴・鈴木健雄編著 『歴史のなかのラディカリズム』 彩流社 2021年 9784779127571

上記以外の参考文献は授業にて毎回提示します。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

パソコン、Canvas LMS を利用

### その他/ Others

- ・ 授業は、パワーポイントを使用した講義形式です。映像資料なども適宜活用します。
- ・ 授業で使う資料は、「Canvas LMS」上で告知します。
- ・ リアクションペーパーについては、毎回フィードバックを行います。

# キャリアコンサルティング論

Carrer Consulting

教育現場及び企業で、個人が能力を発揮できるようサポートするキャリアコンサルタント実践（基礎）

柏木理佳（KASIWAGI RIKA）

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX804

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

キャリアコンサルティングの理論と実践を学び、学校などの教育現場及び企業内でキャリアに関してサポートができるようになることを目標とする。また、自分自身が困難な状況に直面した時、キャリア分析により解決できるようになる。グループワーク、ディスカッションベースで個人のキャリア分析方法を実践的に学ぶ。キャリア指導のための基礎的な知識を習得する。

To learn the theory and practice of career consulting. As the career counselor, the role is to be able to provide support to students and employees with career development advice in schools and companies. When you are faced with a difficult situation in a company, career analysis will help you to solve the problem. Practical learning of how to support an individual's career on group work and discussion. Acquire basic knowledge for career guidance.

## 授業の内容 / Course Contents

自己理解のためのアセスメントツールについて理解し、グループワーク、ロールプレイングを通して、同意、協調姿勢の見せ方、拝聴する姿勢、情報の共有化の方法など信頼を寄り添う実践的な方法を身につける。

教育現場や職場において、キャリア教育の位置づけを理解する。また、キャリア教育の効用を確認し、その重要性や位置づけを学ぶ。

Understanding assessment tools for self-understanding. Acquire practical methods such as the way of consent, how to show cooperation, how to listen, and how to share information through group work and role-playing.

Understand the place of career education in schools and companies.

Confirm the utility of career education and learn its importance and also positioning.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

### 1回：ガイダンス

キャリア形成におけるキャリア教育の必要性などを学ぶ。リカレント教育の重要性と分析方法などを紹介し、個人のキャリアアップのためだけでなく、日本市場における人手不足とミスマッチの解決にもつながることを認識する。

### 2回：日本企業の雇用形態（グループディスカッション）

メンバーシップ型雇用、終身雇用、年功序列、ジョブ型雇用など日本企業の特徴を知る。契約社員、派遣社員、任期付き正社員などの雇用形態などの比較や契約条件などを学ぶ。新卒採用が多い日本企業における高卒、大卒者の就職率、離職率、第二新卒採用、キャリア採用の違いと特徴を諸外国と比較する。

### 3回：企業の保険や法制度

雇用保険（失業保険）のしくみ、社会（健康）保険 VS 国民保険、厚生年金 VS 国民年金の比較する。残業代報酬制度や労働基準法などを学ぶ。

### 4回：ライフスタイル

グループワークでは、理論：エリクソンのライフスタイル時期などを習得後、希望するライフスタイルを具体的にイメージしてディスカッションする。

### 5回：AI化による未来の職業（グループワーク）

AIにより増える職種、減る職種を話し合う。「専門性」「カウンセリング」などの個人の相談業務の重要性をディスカッションする。VR,AR,XRで進化する未来の産業をイメージし、人間カウンセリングにしかできないことを話し合う。

### 6回：学校教育におけるキャリアコンサルティングの現状と課題

欧米の小学生のパーソナルキャリアコンサルティングの現状と日本の課題を確認する。個別相談の重要性、人材不足、受給のミスマッチ、適職分析の方法を知る。

### 企業におけるキャリアコンサルティングの現状と課題

厚労省10万人養成、モチベーションアップ、リストラ候補者向けに実施している実態などを知る。異動、人材配置、適材適所以外の人間関係、パワハラ、セクハラ対応などを学ぶ。

7回：ゲストスピーカー：キャリアコンサルタントの資格取得者の社会での活躍と仕事内容（企業：人事課など）について。

8回：理論：パーソンズの特徴因子論、ホルランドの六角形モデル、クランボルツの「計画的偶発性理論」などグループワークにて、六角形のモデルの自己の位置づけをディスカッションしながら、モデルを理解する。

### 9回：13の価値観

グループワークにて自分の価値観に順位をつける。価値観から職業、企業選択をする方法を学ぶ。

10回：ゲストスピーカー：特定非営利活動法人日本キャリア開発協会（理事長大原良夫様）によるキャリアカウンセラーの取得スケジュール、取得条件、履修内容などについて。

11回：実践ワーク（グループワーク）：小中高時代の理想の職業の理由から将来の仕事を探る

例 お菓子屋、花屋などから「クリエイティブ」、サッカー選手、歌手などから「影響力」などがあり、これらの共通のキーワードが適職探しのヒントになる。

また、小中高の部活動、習い事から分析する適性とコミュニケーション能力を知る。

12回：理想のライフスタイルから適性、適職を知る

一軒家で海の近く VS 都心でマンションに住みたいのか、車の有無、働き方は転勤や出張が多く海外も視野に入れているのか、日本での地方転勤でもいいのかなどをイメージして、書き込むことでライフスタイルから職業が見えてくる。

13回：相談者 VS コンサルタントのケーススタディ（グループディスカッション）

事例1 複数内定をもらっても、まだ受けない学生（自己肯定力、適性）

事例2（A企業のA職種しか受けない女子学生（イメージ、固定観念、こだわり）など

14回：相談者 VS コンサルタントのロールプレイ実践練習（2人ずつ）

（信頼性確保のためメモは見せながら書く、自己肯定力を上げる同意方法、同調方法、回答は相談者本人が答えを出すなど）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

キャリア、採用、人事など関連する新聞記事、ニュースを読んでおくこと。

ワークシート記入など授業内で終わらなかった場合は宿題とする。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席及び授業参加：40% 発表（質問・回答回数・プレゼン力含む）：30% ワークシート作成：10% 小テスト（理論）：10% ロールプレイ（実技）：10%

### テキスト / Textbooks

柏木理佳 『30分間で天職が見つかる本』 PHP 研究所 2003 9784569631578 ○

### 参考文献 / Readings

柏木理佳 『自分にあった仕事が見つかる本』 PHP 研究所 2017 9784569670591

柏木理佳 『あなたにぴったりの天職につける本』 PHP 研究所 2006 9784569647203

日本キャリアデザイン学会 『キャリア研究を学ぶ 25冊を読む』 泉文堂 2009 9784793003684

John L. Holland 『ホルランドの職業選択理論』 雇用問題研究会 2013 4875632649

全米キャリア発達学会 『D・E・スーパーの生涯と理論』 図書文化社 2013 4810036375

中川浩など 『国家資格キャリアコンサルタントの基礎理論』 秀和システム 2020 4798062790

柴田郁夫 『国家資格キャリアコンサルタント 学科試験 要点テキスト』 秀和システム 2023 4798069310

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

コミュニケーション力、同調力、自己分析力、協調性

### その他 / Others

ゲストスピーカーの都合や講義の進捗状況により、授業計画に変更や修正が生じる可能性がありますので了

承ください。

# キャリアデザイン論

## Career Design

キャリアをデザインする力を養い、自分の適職を見つける

柏木理佳 (KASIWAGI RIKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 経済学部

科目コード等： BX805

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ECX2010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

キャリアデザインの理論と実践を学ぶ。将来の自分のキャリアとライフスタイルをイメージし、自分の適性を知る。キャリア形成をするための理論と実践を学ぶ。AI 化が進み、新職業を模索する中、主体的に自分のキャリアをデザインする力を養う。

Learn the theory and practice of career design. Create your career and lifestyle in your future, know your work aptitude. Learn the theory and practice of career development. AI-ization will create new profession, cultivate the ability to proactively design your career.

## 授業の内容 / Course Contents

社会で働く意味を理解し、社会で必要な人材になるために、自分の能力を発揮できる適職につくために職業選択の重要性を理解する。企業分析、情報収集の方法を習得する。

ライフスタイルにあったキャリアをデザインするために、自分の長所、短所、適性など自己分析から適職を探す方法を学ぶ。

Understand the meaning of working in society, to become a competent person in the required capacity. To understand choosing the right job is importance as you look to fulfill your potential. Acquire methods for analyzing companies and gathering information.

To design a career that suits your lifestyle, and to find the right job by self-analysis of your strengths, weaknesses.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス

興味のある職業・業界のアンケート。キャリアをデザインする意義、適性のある職業を選ぶ重要性について学ぶ。

2回：ホランド理論の六角形モデル6つのタイプと自分の適性の分析する。パーソンズ特性因子論などを学ぶ。

また、アルバイトなどから1日の仕事を30に分類し、提出する。

3回：クランボルツの「計画的偶発性理論」シャイン「キャリアアンカー論」Hエリクソンなどのキャリアデザインに関する理論を学ぶ。

ワークシート：興味のある職業を選択、それに合わせた自己紹介文を3つ作成

企業の求められている人物像、需要を考え、それに合わせた自分のエピソードを含めた長所を含めた自己紹介文を作成する。

4回：AI化で変化する中、将来の自分の働き方を表に明記する。

AI化時代で世の中の変化をイメージする。住む場所、仕事、家族など自分のライフプランを作成する。転職～退社理由、結婚、育児、定年後の生活など人生100年時代をプランする。

5回：企業の評価方法と実態を知る。研修が充実している企業、社員満足度が高いランキング、女性活躍が高いランキングと評価方法を知る。

興味のある企業のHPからの分析方法を知る。

・興味のある業界・企業のアンケート実施

6回：日本の労働力不足の現状を知る。新卒採用、中途採用、キャリア採用の現状、離職率、生涯雇用などを知る。女性、高齢者、外国人の労働者の増加、現状と課題などについて学ぶ。

人材不足を解消するためAI化が促進しても残る職業などを考える。

7回：雇用保険、健康保険、労災などを知る。入社前に知っておくべき企業の失業保険、年金制度などを学ぶ。またパワハラ、セクハラなどの問題、労働災害などについて労働契約なども学ぶ。

8回：不祥事企業が増える中、企業のガバナンス、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社などの違いと取締役やトップマネジメントの組織について学ぶ。

9回：ゲストスピーカー：特定非営利活動法人日本キャリア開発協会（理事長大原良夫氏）によるキャリアカウンセラーの分析方法など

10回：企業研究：業界、調査分析方法

企業のIRから業績、売上げ比率、海外依存度、子会社数、ガバナンス評価などの情報収集を知る。

11回：ゲストスピーカー：キャリアをデザインする方法、就職活動（企業の選び方など）、企業内での働き方など

12回：業界研究：銀行、保険、証券会社、小売、通信、製造業などの興味のある分野を決めて分析する。

13回：企業研究：ライバル社と比較した分析（SWOT分析など）を分析し発表する。1人1社全員が違う企業を分析し発表する。多くの企業のことを知る。

14回：企業研究（自分で決めた企業をSWOT分析し発表用にパワーポ4枚以上作成後、発表。発表後は、パワーポを提出する。

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : ○ スライド（パワーポ等）の使用 : ○ 上記以外の視聴覚教材の使用 :  
 個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○  
 実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :  
 上記いずれも用いない予定 :

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日経新聞などから企業の業績情報、採用情報などを読んでおくこと。

宿題：アルバイトなど1日の仕事内容を30項目に分類

宿題：プロフィールを作成

宿題：企業概要の紹介資料作成（PPTで4枚以上）

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :45%

平常点割合 :55% 出席及び授業参加:10% 企業分析の発表（質問・プレゼン力含む）:10% 宿題（3つのプロフィール）:25% 宿題（1日の仕事、企業概要）:10%

積極的な発表などを評価に入れる

### テキスト / Textbooks

坪田まりこ 『就活必修！1週間でできる自己分析2025』 さくら舎 2023 9784865813913 ○

### 参考文献 / Readings

全米キャリア発達学会（著）『D・E・スーパーの生涯と理論』 図書文化社 2013 9784810036374

エドガー・H. シャイン 『キャリア・アンカー』 白桃書房 2003 4561233857

J.D.クランボルツ 『その幸運は偶然ではないんです!』 ダイヤモンド社 2005 4478733244

John L. Holland 『ホルランドの職業選択理論』 雇用問題研究会 2013 4875632649

金山亮 『自分広報力』 イースト・プレス 2023 4781621708

伊藤宏 『大学生のための実践的キャリア&就活講座』 中央経済社 2019 9784502328411

山本直人 『大学生のためのキャリア講義 就活本を読む前に』 インデックス・コミュニケーションズ 2007 9784757304710

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

自己分析、自己表現力、企業の情報収集力

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

プロフィール作成や企業分析などは（WIFI）を利用する。

### その他 / Others

ゲストスピーカーの都合または講義の進捗状況により、授業計画に変更や修正が生じる可能性がありますのでご了承ください。

詳細は立教時間にて確認をして下さい。